

# 大道遺跡群 4

大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 7

第20次 第23次 第32次調査  
弥生時代・古墳時代環濠関連遺構編

2011

大分市教育委員会



卷頭図版 1



第 23 次調査空中写真 (23SD001 全景)



第 23 次 SD001 調査状況 (近景)

卷頭図版 2



第 23 次調査空中写真 ( 西側調査区全景 )

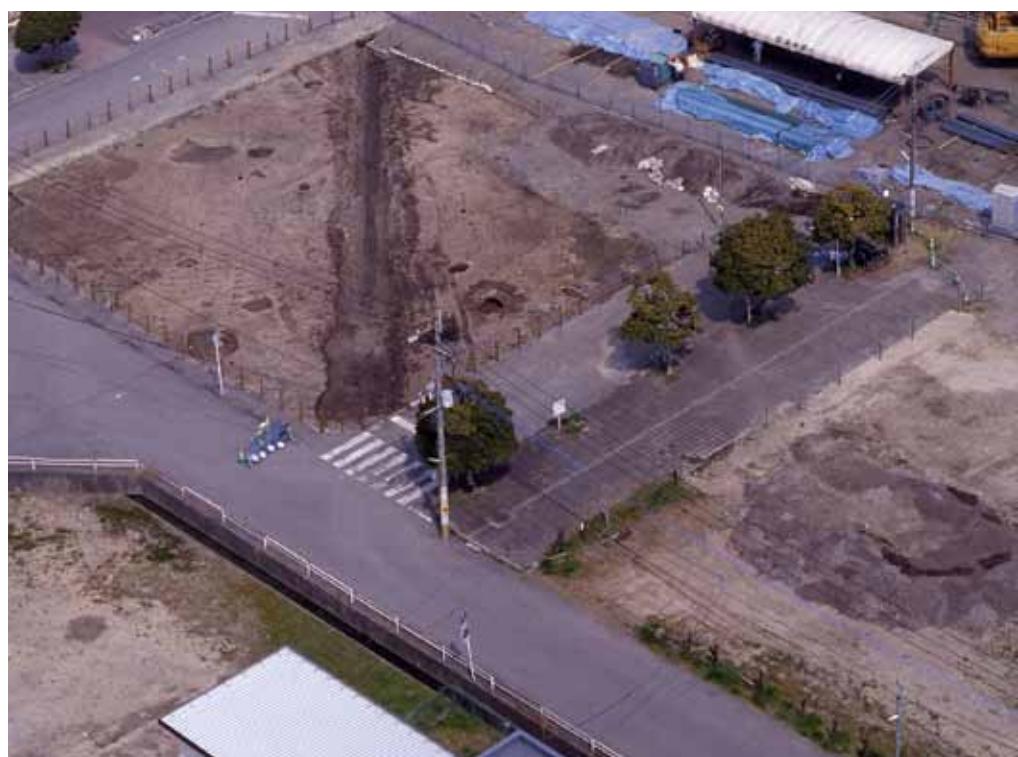


第 23 次調査空中写真 ( 東側調査区全景 )

卷頭図版 3



第 20 次調査空中写真(調査区全景)



第 20 次調査空中写真(南東から)

巻頭図版 4



第 32 次調査空中写真 (32SD001 全景)



第 32 次調査空中写真 (調査区全景)

## 序 文

本書は、大分駅南地区に所在する大道遺跡群の発掘調査報告書であります。現在同地区におきましては、大分駅周辺総合整備事業が進められており、この事業に伴う大道遺跡群の発掘調査は、平成12年度より年次計画にもとづいて実施しているところであります。

ここに収録しました大道遺跡群第20・23・32次調査の調査対象地は、大分駅南口駅前広場を含む一帯にあたり、主に古墳時代初めの大規模集落および平安時代初めの役所に係る遺跡が発見されております。中でも今回報告の中心となります古墳時代初めの集落を囲むと考えられる環濠や井戸跡の検出、そしてこれら遺構から出土する大量の遺物の存在が特筆されます。出土量もさることながら、豊富なバリエーションの土器や、製塩土器、網のおもりとして使用された土錘等のあり方は、大分川河口部に営まれた海とのつながりの深い人々のムラとその生活の様子を物語る貴重な成果となりました。

つきましては、本書が広く市民の皆さんに活用され、文化財保護への理解を深める一助となり、さらには歴史研究や学術振興に寄与できれば幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘から報告書の刊行に至るまでご指導いただきました諸先生方、ご協力いただいた関係各位に対しまして厚く御礼申し上げます。

平成23年3月

大分市教育委員会  
教育長 足立 一馬

## 例　言

1. 本書は大分市教育委員会が大分駅総合整備事業に伴って平成 18・19・21 年度に実施した大道遺跡第 20,23,32 次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、大分市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査は、第 20 次調査を平成 18 年 12 月 9 日～平成 19 年 3 月 28 日、第 23 次調査を平成 19 年 7 月 24 日～平成 19 年 12 月 1 日、第 32 次調査を平成 21 年 10 月 13 日～平成 21 年 12 月 3 日の期間で実施し、資料整理は、調査終了時から平成 22 年度に渡り行われた。報告書の作成は、平成 22 年度に行われた。
4. 平成 19・21 年度の発掘調査に係る掘削・埋戻業務については、大分市の委託を受け、岡三リビック㈱(平成 19 年度 業務責任者 堀苑孝志)、㈱九州文化財総合研究所(平成 21 年度 業務責任者 三ツ又正明)が行った。
5. 調査における遺構の実測及び写真撮影は、第 20 次(荻幸二・高畠豊)、第 23 次(高畠・羽田野達郎・上原翔平)、第 32 次(佐藤道文・山下朋紀)が行った他、写真測量図化及び空中写真撮影については、大分市の委託を受け九州航空㈱(業務責任者 高瀬浩嗣)が行った。
6. 報告書に掲載した遺物の実測・製図・写真撮影は、大分市の委託を受け、国際航業㈱(平成 21 年度①業務責任者 伊藤敬太郎)、埋蔵文化財サポートシステム(平成 21 年度②業務責任者 石川哲哉)、㈱アーキジオ(平成 22 年度業務責任者 森隆)が行った他、井口あけみ・木村藍子・高畠・坪根伸也が行った。
7. 出土遺物及び記録資料は大分市教育委員会文化財課に収蔵・保管している。
8. 本書の企画は、井口・木村・倉増美智代・佐藤良子・稗田智美が行い、執筆は第 I 章を河野史郎、第 II 章を井口・佐藤孝則、第 III 章を井口・河野・木村・倉増・佐藤(良)・稗田、第 IV 章を㈱古環境研究所、第 V 章を井口・木村・倉増・佐藤(良)・稗田の分担で行った。本書の編集は大分市の委託を受け㈱アーキジオ(平成 22 年度業務責任者 森隆)が行った。

## 凡　例

- 1 本調査の座標は、旧日本測地系の平面直角座標第 2 系の座標値を実測・測量の基準として使用した。図中に記載される方位は座標北 (G.N) を指している。
- 2 本書に記載される遺構番号は、以下の要領で理解される。  
「20SD001」20(調査次数) SD(遺構略号) 001(遺構番号)
- 3 本書で用いた遺構略号は原則として、以下の要領で理解される。  
SA: 柵列、SB: 掘立柱建物、SE: 井戸跡、SD: 溝状遺構、SK: 土坑、SX: 性格不明遺構を表している。
- 4 本書で用いた遺構の規模はm、遺物の法量は cm をそれぞれ用いている。
- 5 本書に掲載される遺物の年代観等については、以下の文献を参考にした。

坪根伸也 2006 「第 III 章第 10 節(5) 小結 下郡遺跡群第 120 次調査小結－120SD1100・120SD1200  
出土土器について－」『下郡遺跡群 IV』大分市教育委員会

坪根伸也 2007 「第 IV 章第 2 節下郡遺跡出土の弥生時代終末期から古墳時代初頭の土器について」  
『下郡遺跡群 V』大分市教育委員会

坪根伸也 2010 「第 III 章第 3 節(4) 弥生時代から古墳時代前期の土器による時期区分」  
『下郡遺跡群 VI』大分市教育委員会

# 目次

第Ⅰ章 はじめに ······	1	第3節 大道遺跡群第20次調査 ······	110 ~ 175
第1節 調査に至る経過(河野) ······	1	概要(河野) ······	110
第2節 調査組織(河野) ······	1 ~ 2	20SD001(木村) ······	111
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境 ······	4 ~ 7	20SD001 出土遺物(倉増・木村・佐藤良・稗田) ······	112 ~ 169
第1節 地理的環境(佐藤孝) ······	4 ~ 5	20SE001(木村) ······	170
第2節 歴史的環境(井口) ······	5 ~ 7	20SE001 出土遺物(木村) ······	170 ~ 173
第Ⅲ章 調査の成果 ······	8 ~ 269	20SE018(木村) ······	174
第1節 調査の概要(河野) ······	8	20SE018 出土遺物(木村) ······	174 ~ 175
第2節 大道遺跡群第23次調査 ······	8 ~ 109	第4節 大道遺跡群第32次調査 ······	176 ~ 203
概要(河野) ······	8	概要(河野) ······	176
23SE003(稗田) ······	13	32SD001(倉増) ······	177
23SE003 出土遺物(稗田) ······	13 ~ 14	32SD001 出土遺物(倉増・木村・佐藤良・稗田) ······	177 ~ 193
23SE011(佐藤良) ······	15	32SE020(倉増) ······	193
23SE011 出土遺物(佐藤良) ······	15 ~ 22	32SE025(倉増) ······	193 ~ 194
23SX038(佐藤良) ······	23	32SE030(倉増) ······	194 ~ 195
23SX038 出土遺物(佐藤良) ······	23 ~ 28	32SE020・025 出土遺物(倉増) ······	195 ~ 198
23SD001(佐藤良) ······	29	32SE030 出土遺物(倉増) ······	198 ~ 203
23SD001 出土遺物(倉増・木村・佐藤良・稗田) ······	30 ~ 72	大道遺跡群第20・23・32次出土の土師器高杯の分類について(倉増) ······	204
23SD170(佐藤良) ······	73	大道遺跡群第20・23・32次出土の土師器鉢の分類について(木村) ······	205
23SD170 出土遺物(倉増・木村・佐藤良・稗田) ······	74 ~ 101	大道遺跡群第20・23・32次出土の土師器壺の分類について(佐藤良) ······	206 ~ 207
23SE051(佐藤良) ······	102	大道遺跡群第20・23・32次出土の土師器甕の分類について(稗田) ······	208 ~ 209
23SE052(佐藤良) ······	102	参考文献 ······	210
23SE052 出土遺物 ······	102	第5節 特殊遺物について ······	211 ~ 213
23SE051 出土遺物(佐藤良) ······	103	製塙土器(井口) ······	211 ~ 213
23SE076(稗田) ······	104	猿形土製品(井口) ······	213
23SE076 出土遺物(稗田) ······	104 ~ 105	土製模造鏡(井口) ······	213
23SE085(稗田) ······	105	第IV章 自然科学分析 ······	270 ~ 271
23SE087(稗田) ······	105	大道遺跡群における樹種同定(株式会社古環境研究所) ······	270 ~ 271
23SE087 出土遺物(稗田) ······	106	第V章 まとめ ······	272 ~ 276
23SE099(稗田) ······	107	第1節 総括(井口) ······	272
23SE099 出土遺物(稗田) ······	107 ~ 108	第2節 大道遺跡群第20・23・32次調査溝状遺構について(佐藤良) ······	272
23SE183(稗田) ······	109	第3節 大道遺跡群第20・23・32次井戸状遺構の変遷について(稗田) ······	273 ~ 276
23SE209(稗田) ······	109		
23SE209 出土遺物(稗田) ······	109		

挿図目次

第1図	調査区位置図(1/5,000) ······	3
第2図	調査地周辺地形分類図(『大分市史』上 一部改変) および遺跡分布図(1/60,000) ······	4
第3図	周辺主要遺跡分布図(1/40,000) ······	5
第4図	大道遺跡群第20・23・32次遺構配置図(1/500) ······	9~10
第5図	大道遺跡群第23次調査区全体図(1/400) ······	11~12
第6図	23SE003 遺構実測図(1/40) ······	13
第7図	23SE003 出土遺物実測図(1/4) ······	14
第8図	23SE011 遺構実測図(1/40) ······	15
第9図	23SE011 出土遺物実測図1(1/4) ······	16
第10図	23SE011 出土遺物実測図2(1/4) ······	17
第11図	23SE011 出土遺物実測図3(1/4) ······	18
第12図	23SE011 出土遺物実測図4(1/4) ······	19
第13図	23SE011 出土遺物実測図5(1/4) ······	20
第14図	23SE011 出土遺物実測図6(1/4) ······	21
第15図	23SE011 出土遺物実測図7(1/4) ······	22
第16図	23SX038 遺構実測図(1/40) ······	23
第17図	23SX038 出土遺物実測図1(1/4) ······	24
第18図	23SX038 出土遺物実測図2(1/4) ······	25
第19図	23SX038 出土遺物実測図3(1/4) ······	26
第20図	23SX038 出土遺物実測図4(1/4) ······	27
第21図	23SX038 出土遺物実測図5(1/4) ······	28
第22図	23SD001 遺構実測図(1/200・1/40) ······	29
第23図	23SD001 出土遺物実測図1(1/4) ······	31
第24図	23SD001 出土遺物実測図2(1/4) ······	32
第25図	23SD001 出土遺物実測図3(1/4) ······	33
第26図	23SD001 出土遺物実測図4(1/4) ······	34
第27図	23SD001 出土遺物実測図5(1/4) ······	36
第28図	23SD001 出土遺物実測図6(1/4) ······	37
第29図	23SD001 出土遺物実測図7(1/4) ······	38
第30図	23SD001 出土遺物実測図8(1/4) ······	39
第31図	23SD001 出土遺物実測図9(1/4) ······	40
第32図	23SD001 出土遺物実測図10(1/4) ······	41
第33図	23SD001 出土遺物実測図11(1/4) ······	42
第34図	23SD001 出土遺物実測図12(1/4) ······	43
第35図	23SD001 出土遺物実測図13(1/4) ······	44
第36図	23SD001 出土遺物実測図14(1/4) ······	46
第37図	23SD001 出土遺物実測図15(1/4) ······	47
第38図	23SD001 出土遺物実測図16(1/4) ······	48
第39図	23SD001 出土遺物実測図17(1/4) ······	49
第40図	23SD001 出土遺物実測図18(1/4) ······	51
第41図	23SD001 出土遺物実測図19(1/5) ······	53
第42図	23SD001 出土遺物実測図20(1/5) ······	54
第43図	23SD001 出土遺物実測図21(1/5) ······	56
第44図	23SD001 出土遺物実測図22(1/5) ······	57
第45図	23SD001 出土遺物実測図23(1/5) ······	58
第46図	23SD001 出土遺物実測図24(1/5) ······	59
第47図	23SD001 出土遺物実測図25(1/5) ······	60
第48図	23SD001 出土遺物実測図26(1/5) ······	61
第49図	23SD001 出土遺物実測図27(1/5) ······	62
第50図	23SD001 出土遺物実測図28(1/5) ······	63
第51図	23SD001 出土遺物実測図29(1/5) ······	64
第52図	23SD001 出土遺物実測図30(1/5) ······	65
第53図	23SD001 出土遺物実測図31(1/5) ······	66
第54図	23SD001 出土遺物実測図32(1/5) ······	67
第55図	23SD001 出土遺物実測図33(1/5) ······	68
第56図	23SD001 出土遺物実測図34(1/5) ······	69
第57図	23SD001 出土遺物実測図35(1/5) ······	70
第58図	23SD001 出土遺物実測図36(1/4) ······	71
第59図	23SD001 出土遺物実測図37(1/4) ······	72
第60図	23SD170 遺構実測図(1/300・1/40) ······	73
第61図	23SD170 出土遺物実測図1(1/4) ······	75
第62図	23SD170 出土遺物実測図2(1/4) ······	76
第63図	23SD170 出土遺物実測図3(1/4) ······	77
第64図	23SD170 出土遺物実測図4(1/4) ······	78
第65図	23SD170 出土遺物実測図5(1/4) ······	79
第66図	23SD170 出土遺物実測図6(1/4) ······	80
第67図	23SD170 出土遺物実測図7(1/4) ······	81
第68図	23SD170 出土遺物実測図8(1/4) ······	83
第69図	23SD170 出土遺物実測図9(1/4) ······	84
第70図	23SD170 出土遺物実測図10(1/4) ······	85
第71図	23SD170 出土遺物実測図11(1/4) ······	86
第72図	23SD170 出土遺物実測図12(1/4) ······	87
第73図	23SD170 出土遺物実測図13(1/4) ······	88
第74図	23SD170 出土遺物実測図14(1/4) ······	89
第75図	23SD170 出土遺物実測図15(1/4) ······	90
第76図	23SD170 出土遺物実測図16(1/5) ······	92
第77図	23SD170 出土遺物実測図17(1/5) ······	93
第78図	23SD170 出土遺物実測図18(1/5) ······	94
第79図	23SD170 出土遺物実測図19(1/5) ······	95
第80図	23SD170 出土遺物実測図20(1/5) ······	96
第81図	23SD170 出土遺物実測図21(1/5) ······	97
第82図	23SD170 出土遺物実測図22(1/5) ······	98
第83図	23SD170 出土遺物実測図23(1/5) ······	99
第84図	23SD170 出土遺物実測図24(1/5) ······	100
第85図	23SD170 出土遺物実測図25(1/4) ······	101
第86図	23SE051 遺構実測図(1/40) ······	102
第87図	23SE052 遺構実測図(1/40)・出土遺物実測図(1/4) ······	102
第88図	23SE051 出土遺物実測図(1/4) ······	103
第89図	23SE076 遺構実測図(1/40) ······	104
第90図	23SE076 出土遺物実測図(1/4) ······	104
第91図	23SE085 遺構実測図(1/40) ······	105
第92図	23SE087 遺構実測図(1/40) ······	105
第93図	23SE087 出土遺物実測図(1/4) ······	106
第94図	23SE099 遺構実測図(1/40) ······	107
第95図	23SE099 出土遺物実測図(1/4) ······	108
第96図	23SE183 遺構実測図(1/40) ······	109
第97図	23SE209 遺構実測図(1/40) ······	109
第98図	23SE209 出土遺物実測図(1/4) ······	109
第99図	大道遺跡群第20次調査区全体図(1/300) ······	110

第 100 図	20SD001 遺構実測図 (1/300・1/40) ······	111
第 101 図	20SD001 出土遺物実測図 1(1/4) ······	113
第 102 図	20SD001 出土遺物実測図 2(1/4) ······	114
第 103 図	20SD001 出土遺物実測図 3(1/4) ······	115
第 104 図	20SD001 出土遺物実測図 4(1/4) ······	116
第 105 図	20SD001 出土遺物実測図 5(1/4) ······	117
第 106 図	20SD001 出土遺物実測図 6(1/4) ······	118
第 107 図	20SD001 出土遺物実測図 7(1/4) ······	119
第 108 図	20SD001 出土遺物実測図 8(1/4) ······	120
第 109 図	20SD001 出土遺物実測図 9(1/4) ······	121
第 110 図	20SD001 出土遺物実測図 10(1/4) ······	122
第 111 図	20SD001 出土遺物実測図 11(1/4) ······	123
第 112 図	20SD001 出土遺物実測図 12(1/4) ······	124
第 113 図	20SD001 出土遺物実測図 13(1/4) ······	125
第 114 図	20SD001 出土遺物実測図 14(1/4) ······	126
第 115 図	20SD001 出土遺物実測図 15(1/4) ······	127
第 116 図	20SD001 出土遺物実測図 16(1/4) ······	128
第 117 図	20SD001 出土遺物実測図 17(1/4) ······	129
第 118 図	20SD001 出土遺物実測図 18(1/4) ······	130
第 119 図	20SD001 出土遺物実測図 19(1/4) ······	131
第 120 図	20SD001 出土遺物実測図 20(1/4) ······	132
第 121 図	20SD001 出土遺物実測図 21(1/4) ······	133
第 122 図	20SD001 出土遺物実測図 22(1/4) ······	134
第 123 図	20SD001 出土遺物実測図 23(1/4) ······	135
第 124 図	20SD001 出土遺物実測図 24(1/4) ······	136
第 125 図	20SD001 出土遺物実測図 25(1/4) ······	137
第 126 図	20SD001 出土遺物実測図 26(1/5) ······	140
第 127 図	20SD001 出土遺物実測図 27(1/5) ······	141
第 128 図	20SD001 出土遺物実測図 28(1/5) ······	142
第 129 図	20SD001 出土遺物実測図 29(1/5) ······	143
第 130 図	20SD001 出土遺物実測図 30(1/5) ······	144
第 131 図	20SD001 出土遺物実測図 31(1/5) ······	145
第 132 図	20SD001 出土遺物実測図 32(1/5) ······	146
第 133 図	20SD001 出土遺物実測図 33(1/5) ······	147
第 134 図	20SD001 出土遺物実測図 34(1/5) ······	148
第 135 図	20SD001 出土遺物実測図 35(1/5) ······	149
第 136 図	20SD001 出土遺物実測図 36(1/5) ······	150
第 137 図	20SD001 出土遺物実測図 37(1/5) ······	151
第 138 図	20SD001 出土遺物実測図 38(1/5) ······	152
第 139 図	20SD001 出土遺物実測図 39(1/5) ······	153
第 140 図	20SD001 出土遺物実測図 40(1/5) ······	154
第 141 図	20SD001 出土遺物実測図 41(1/5) ······	155
第 142 図	20SD001 出土遺物実測図 42(1/5) ······	156
第 143 図	20SD001 出土遺物実測図 43(1/5) ······	157
第 144 図	20SD001 出土遺物実測図 44(1/5) ······	158
第 145 図	20SD001 出土遺物実測図 45(1/5) ······	159
第 146 図	20SD001 出土遺物実測図 46(1/5) ······	161
第 147 図	20SD001 出土遺物実測図 47(1/5) ······	162
第 148 図	20SD001 出土遺物実測図 48(1/5) ······	163
第 149 図	20SD001 出土遺物実測図 49(1/5) ······	164
第 150 図	20SD001 出土遺物実測図 50(1/5) ······	165
第 151 図	20SD001 出土遺物実測図 51(1/5) ······	166
第 152 図	20SD001 出土遺物実測図 52(1/5) ······	167
第 153 図	20SD001 出土遺物実測図 53(1/5) ······	168
第 154 図	20SD001 出土遺物実測図 54(1/4) ······	169
第 155 図	20SE001 遺構実測図 (1/40) ······	170
第 156 図	20SE001 出土遺物実測図 1(1/4) ······	171
第 157 図	20SE001 出土遺物実測図 2(1/4) ······	172
第 158 図	20SE001 出土遺物実測図 3(1/4) ······	173
第 159 図	20SE018 遺構実測図 1 (1/40) ······	174
第 160 図	20SE018 出土遺物実測図 (1/4) ······	175
第 161 図	大道遺跡群第 32 次調査区全体図 (1/300) ······	176
第 162 図	32SD001 遺構実測図 (1/200・1/40) ······	177
第 163 図	32SD001 出土遺物実測図 1 (1/4) ······	179
第 164 図	32SD001 出土遺物実測図 2 (1/4) ······	180
第 165 図	32SD001 出土遺物実測図 3 (1/4) ······	181
第 166 図	32SD001 出土遺物実測図 4 (1/4) ······	182
第 167 図	32SD001 出土遺物実測図 5 (1/4) ······	183
第 168 図	32SD001 出土遺物実測図 6 (1/4) ······	184
第 169 図	32SD001 出土遺物実測図 7 (1/4) ······	185
第 170 図	32SD001 出土遺物実測図 8 (1/4) ······	186
第 171 図	32SD001 出土遺物実測図 9 (1/4) ······	187
第 172 図	32SD001 出土遺物実測図 10(1/5) ······	189
第 173 図	32SD001 出土遺物実測図 11(1/5) ······	190
第 174 図	32SD001 出土遺物実測図 12(1/5) ······	191
第 175 図	32SD001 出土遺物実測図 13(1/5) ······	192
第 176 図	32SD001 出土遺物実測図 14(1/4) ······	193
第 177 図	32SE020 遺構実測図 (1/40) ······	193
第 178 図	32SE025 遺構実測図 (1/40) ······	194
第 179 図	32SE030 遺構実測図 (1/40) ······	194
第 180 図	32SE020・025 出土遺物実測図 1 (1/4) ······	195
第 181 図	32SE020・025 出土遺物実測図 2 (1/4) ······	196
第 182 図	32SE020・025 出土遺物実測図 3 (1/4) ······	197
第 183 図	32SE030 出土遺物実測図 1 (1/4) ······	199
第 184 図	32SE030 出土遺物実測図 2 (1/4) ······	200
第 185 図	32SE030 出土遺物実測図 3 (1/4) ······	201
第 186 図	32SE030 出土遺物実測図 4 (1/4) ······	202
第 187 図	大道遺跡群第 20・23・32 次出土土師器 (高环) 分類図 (1/8) ······	204
第 188 図	大道遺跡群第 20・23・32 次出土土師器 (鉢) 分類図 (1/8) ······	205
第 189 図	大道遺跡群第 20・23・32 次出土土師器 (壺) 分類図 (1/8・1/16) ······	207
第 190 図	大道遺跡群第 20・23・32 次出土土師器 (甕) 分類図 (1/16) ······	209
第 191 図	大道遺跡群第 20 次・23 次・32 次出土製塙土器実測図 (1/3) ······	212
第 192 図	大道遺跡群第 4 次・7 次・22 次出土製塙土器実測図 (1/3) ······	212
第 193 図	東田室遺跡出土製塙土器実測図 (1/3) ······	212
第 194 図	23SD001 出土猿形土製品実測図 (1/2) ······	213
第 195 図	32SD001 出土土製模造鏡実測図 (1/2) ······	213
第 196 図	大道遺跡群の木材 ······	271
第 197 図	大道遺跡群第 20・23・32 次井戸状遺構時期変遷模式図 ······	274
第 198 図	大道遺跡群第 20・23・32 次時期別遺構分布図 (1/500) ······	275・276

## 表目次

第1表 調査地点一覧表 ······	1	第30表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 29 ······	242
第2表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 1 ······	214	第31表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 30 ······	243
第3表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 2 ······	215	第32表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 31 ······	244
第4表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 3 ······	216	第33表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 32 ······	245
第5表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 4 ······	217	第34表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 33 ······	246
第6表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 5 ······	218	第35表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 34 ······	247
第7表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 6 ······	219	第36表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 35 ······	248
第8表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 7 ······	220	第37表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 36 ······	249
第9表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 8 ······	221	第38表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 37 ······	250
第10表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 9 ······	222	第39表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 38 ······	251
第11表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 10 ······	223	第40表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 39 ······	252
第12表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 11 ······	224	第41表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 40 ······	253
第13表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 12 ······	225	第42表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 41 ······	254
第14表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 13 ······	226	第43表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 42 ······	255
第15表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 14 ······	227	第44表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 43 ······	256
第16表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 15 ······	228	第45表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 44 ······	257
第17表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 16 ······	229	第46表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 45 ······	258
第18表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 17 ······	230	第47表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 46 ······	259
第19表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 18 ······	231	第48表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 47 ······	260
第20表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 19 ······	232	第49表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 48 ······	261
第21表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 20 ······	233	第50表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 49 ······	262
第22表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 21 ······	234	第51表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 50 ······	263
第23表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 22 ······	235	第52表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 51 ······	264
第24表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 23 ······	236	第53表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 52 ······	265
第25表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 24 ······	237	第54表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 53 ······	266
第26表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 25 ······	238	第55表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 54 ······	267
第27表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 26 ······	239	第56表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 55 ······	268
第28表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 27 ······	240	第57表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 56 ······	269
第29表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 28 ······	241		

## 写真図版目次

卷頭図版 1	卷頭図版 2	卷頭図版 3	卷頭図版 4
第23次調査空中写真(23SD001全景)	第23次調査空中写真(西側調査区全景)	第20次調査空中写真(調査区全景)	第32次調査空中写真(32SD001全景)
第23次SD001調査状況(近景)	第23次調査空中写真(東側調査区全景)	第20次調査空中写真(南東から)	第32次調査空中写真(調査区全景)

## 写真図版

写真図版 1	写真図版 2	写真図版 3
1. 23SE011 土層断面(南から)	1. 23SE003 遺物出土状況2(木器近景)	1. 23SD001 土層断面(北西から)
2. 23SE011 遺物出土状況1(南から)	2. 23SD001 検出状況(北西から)	2. 23SD001 遺物出土状況3(近景)
3. 23SE011 遺物出土状況2(南から)	3. 23SD001 検出作業状況1(北西から)	3. 23SD001 遺物出土状況4(近景)
4. 23SX038 完掘状況(南から)	4. 23SD001 検出作業状況2(南から)	4. 23SD001 遺物出土状況5(近景)
5. 23SX038 遺物出土状況(南東から)	5. 23SD001 遺物出土状況1(北から)	5. 23SD001 遺物出土状況6(猿形土製品)
6. 23SX038 土層断面(南から)	6. 23SD001 遺物出土状況2(南東から)	6. 23SD170 拡張部検出状況(北東から)
7. 23SE003 土層断面(北から)	7. 23SD001 検出作業状況3(北西から)	7. 23SD170 遺物出土状況(東から)
8. 23SE003 遺物出土状況1(北から)	8. 23SD001 完掘状況(南東から)	8. 23SD170 土層断面1(北西から)
写真図版 4	写真図版 5	
1. 23SD170 土層断面2(東から)	5. 23SE051 土層断面(南から)	1. 23SE085 完掘状況(西から)
2. 23SD170 完掘状況(西から)	6. 23SE051 完掘状況(東から)	2. 23SE076 土層断面(南西から)
3. 23SE052 土層断面(南西から)	7. 23SE051 遺物出土状況1(南から)	3. 23SE076 遺物出土状況(南西から)
4. 23SE052 完掘状況(西から)	8. 23SE051 遺物出土状況2(近景)	4. 23SE076 完掘状況(南から)
		5. 23SE087 土層断面(西から)
		6. 23SE087 遺物出土状況(南東から)
		7. 23SE099 遺物出土状況(北から)
		8. 23SE099 土層断面(北東から)

写真図版 6

1. 23SE183 完掘状況(西から)
2. 23SE209 完掘状況(南東から)
3. 23SE209 土層断面(南東から)
4. 20SD001 遺物出土状況1(北から)
5. 20SD001 遺物出土状況2(近景)
6. 20SD001 遺物出土状況3(東から)
7. 20SD001 遺物出土状況4(東から)
8. 20SD001 遺物出土状況5(近景)

写真図版 9

1. 20SE001 遺物出土状況2(近景)
2. 20SE001 完掘状況(南から)
3. 20SE018 土層断面(北から)
4. 20SE018 遺物出土状況1(近景)
5. 20SE018 遺物出土状況2(近景)
6. 20SE018 完掘状況(西から)
7. 32SD001 遺構掘り下げ作業状況(近景)
8. 32SD001 遺構検出状況1(東から)

写真図版 12

第23次調査出土遺物

- 第7図001 第7図002 第7図003  
第7図004 第7図005 第7図006  
第7図007 第7図007 第9図001  
第9図002 第9図009 第9図010  
第10図015 第10図016 第10図017  
第10図018 第11図024 第11図026

写真図版 15

第23次調査出土遺物

- 第24図040 第24図041 第24図042  
第24図043 第24図046 第24図049  
第24図050 第25図054 第25図055  
第25図057 第25図084 第27図100  
第27図101 第27図103 第27図110  
第27図112 第27図114 第27図115

写真図版 18

第23次調査出土遺物

- 第32図187 第32図189 第32図195  
第32図196 第32図197 第32図198  
第32図199 第32図203 第33図204  
第33図206 第34図211 第34図212  
第35図214 第35図215 第35図216  
第35図218 第36図220 第36図221

写真図版 21

第23次調査出土遺物

- 第54図355 第54図357 第54図359  
第54図361 第54図362 第56図371  
第56図372 第56図373 第56図374  
第56図377 第57図387 第57図390  
第57図391 第57図393 第61図001  
第61図005 第61図007 第61図008

写真図版 7

1. 20SD001 遺物出土状況6(近景)
2. 20SD001 遺物出土状況7(南から)
3. 20SD001 遺物出土状況8(近景)
4. 20SD001 遺物出土状況9(南から)
5. 20SD001 遺物出土状況10(近景)
6. 20SD001 遺物出土状況11(近景)
7. 20SD001 遺物出土状況12(南から)
8. 20SD001 遺物出土状況13(近景)

写真図版 10

1. 32SD001 遺構検出状況2(東から)
2. 32SD001 遺構検出状況3(東から)
3. 32SD001 遺物出土状況(近景)
4. 32SD001 土層断面(東から)
5. 32SD001 完掘状況(西から)
6. 32SE020 遺物出土状況1(南から)
7. 32SE020 遺物出土状況2(南から)
8. 32SE020 遺物出土状況3(南から)

写真図版 13

- 第23次調査出土遺物
- 第12図033 第13図043 第13図045  
第13図046 第14図047 第17図001  
第17図002 第18図010 第18図011  
第19図015 第19図016 第19図017  
第19図018 第19図019 第19図020  
第23図005 第23図006 第23図008

写真図版 16

- 第23次調査出土遺物
- 第27図116 第27図118 第27図119  
第27図120 第27図124 第28図127  
第28図128 第28図132 第28図133  
第28図135 第28図138 第28図142  
第29図143 第29図148 第30図151  
第30図152 第30図155 第31図157

写真図版 19

- 第23次調査出土遺物
- 第37図229 第38図231 第38図232  
第38図236 第39図237 第39図239  
第39図240 第39図241 第41図244  
第41図245 第41図246 第41図247  
第42図250 第42図252 第43図256  
第43図258 第46図271 第46図273

写真図版 22

- 第23次調査出土遺物
- 第61図010 第61図011 第61図014  
第61図015 第61図017 第62図020  
第62図023 第62図025 第62図026  
第62図028 第62図030 第63図031  
第63図041 第64図043 第65図050  
第65図060 第65図061 第65図066

写真図版 8

1. 20SD001 遺物出土状況14(近景)
2. 20SD001 土層断面1(南から)
3. 20SD001 土層断面2(南から)
4. 20SD001 土層断面3(南から)
5. 20SD001 土層断面4(南から)
6. 20SD001 完掘状況(東から)
7. 20SE001 土層断面(南から)
8. 20SE001 遺物出土状況1(近景)

写真図版 11

1. 32SE020 完掘状況(西から)
2. 32SE025 土層断面(南から)
3. 32SE025 完掘状況(北から)
4. 32SE030 検出状況(南から)
5. 32SE030 遺物出土状況(近景)
6. 32SE030 調査状況(東から)
7. 32SE030 土層断面(東から)
8. 32SE030 完掘状況(南から)

写真図版 14

- 第23次調査出土遺物
- 第23図010 第23図011 第23図012  
第23図015 第23図016 第23図017  
第23図021 第23図022 第23図023  
第23図024 第23図026 第23図027  
第23図028 第23図032 第23図033  
第24図034 第24図035 第24図039

写真図版 17

- 第23次調査出土遺物
- 第31図159 第31図161 第31図162  
第31図164 第31図165 第31図166  
第31図168 第31図169 第31図171  
第31図174 第31図175 第31図177  
第31図178 第31図179 第31図181  
第31図182 第31図183 第31図184

写真図版 20

- 第23次調査出土遺物
- 第46図279 第47図282 第47図289  
第47図291 第48図296 第48図298  
第48図299 第48図302 第49図305  
第49図310 第50図313 第50図315  
第50図320 第50図321 第51図324  
第51図328 第51図329 第52図333

写真図版 23

- 第23次調査出土遺物
- 第65図068 第65図070 第65図072  
第65図073 第66図081 第67図086  
第67図088 第68図090 第68図097  
第68図099 第68図104 第68図105  
第68図107 第68図108 第68図111  
第69図114 第69図115 第70図119

写真図版 24	写真図版 25	写真図版 26
第23次調査出土遺物	第23次調査出土遺物	第23次調査出土遺物
第71図123 第72図130 第73図133	第80図193 第81図194 第81図198	第88図007 第88図008 第87図001
第73図134 第73図135 第73図136	第81図199 第81図201 第82図204	第87図002 第90図001 第90図002
第74図140 第74図141 第74図143	第82図214 第83図217 第83図220	第90図003 第90図004 第93図001
第74図146 第76図150 第76図151	第83図221 第83図222 第83図223	第93図002 第93図003 第93図004
第76図152 第76図156 第76図153	第84図233 第84図248 第88図003	第93図005 第95図001 第95図002
第77図167 第79図180 第80図192	第88図004 第88図005 第88図006	第95図003 第95図004 第95図006
写真図版 27	写真図版 28	写真図版 29
第23・20次調査出土遺物	第20次調査出土遺物	第20次調査出土遺物
第95図007 第101図001 第101図004	第102図038 第102図039 第102図041	第106図137 第106図138 第106図151
第101図006 第101図007 第101図008	第102図043 第102図044 第103図045	第106図153 第108図168 第108図169
第101図015 第101図016 第101図017	第103図046 第103図047 第103図048	第109図173 第111図190 第111図192
第101図022 第101図024 第101図026	第105図088 第105図111 第105図112	第111図196 第111図197 第111図215
第101図027 第102図030 第102図031	第105図116 第105図120 第105図125	第111図222 第112図223 第112図231
第102図032 第102図034 第102図037	第105図130 第106図131 第106図136	第112図232 第112図239 第112図241
写真図版 30	写真図版 31	写真図版 32
第20次調査出土遺物	第20次調査出土遺物	第20次調査出土遺物
第112図243 第113図249 第114図259	第129図344 第130図346 第130図347	第147図509 第148図510 第150図528
第114図260 第115図268 第115図269	第134図373 第134図375 第134図376	第150図529 第151図549 第151図550
第116図271 第117図276 第117図282	第135図381 第136図394 第137図403	第151図555 第151図559 第153図606
第118図283 第120図289 第120図291	第138図420 第139図434 第139図435	第156図003 第156図004 第156図006
第122図299 第123図303 第124図309	第140図437 第140図440 第142図459	第156図007 第156図009 第156図010
第124図310 第124図311 第128図336	第143図464 第145図486 第146図501	第156図011 第156図012 第156図013
写真図版 33	写真図版 34	写真図版 35
第20・32次調査出土遺物	第32次調査出土遺物	第32次調査出土遺物
第157図017 第157図018 第157図020	第163図013 第163図015 第163図017	第165図039 第165図040 第165図041
第157図021 第157図025 第158図028	第163図018 第163図019 第163図020	第165図042 第165図043 第165図046
第160図001 第160図002 第160図003	第163図022 第163図024 第164図025	第165図047 第165図048 第165図049
第160図004 第163図001 第163図002	第164図028 第164図031 第164図032	第165図053 第166図054 第166図055
第163図003 第163図005 第163図006	第164図033 第164図034 第164図035	第166図056 第167図057 第167図059
第163図007 第163図008 第163図009	第164図036 第164図037 第165図038	第167図060 第168図061 第168図062
写真図版 36	写真図版 37	写真図版 38
第32次調査出土遺物	第32次調査出土遺物	第32次調査出土遺物
第168図063 第168図065 第169図066	第172図085 第172図086 第172図087	第175図112 第175図114 第175図117
第169図068 第169図069 第169図070	第172図088 第172図089 第173図090	第175図118 第176図123 第176図124
第169図071 第169図072 第170図073	第173図094 第173図096 第173図097	第176図125 第180図001 第180図002
第170図074 第170図075 第171図076	第174図102 第174図103 第174図104	第181図003 第181図004 第181図005
第171図077 第171図078 第171図080	第174図105 第174図106 第174図107	第181図006 第181図007 第181図009
第171図081 第172図083 第172図084	第175図108 第175図110 第175図111	第181図010 第182図012 第182図014
写真図版 39	写真図版 40	写真図版 41
第32次調査出土遺物	第32次調査出土遺物	第20・23・32次調査出土遺物
第182図016 第182図017 第182図018	第184図023 第184図024 第184図025	第191図005 第191図006 第191図007
第182図019 第183図001 第183図002	第184図026 第184図027 第185図028	第191図008 第191図009 第191図010
第183図003 第183図004 第183図005	第185図029 第185図033 第185図034	第191図011 第191図012 第191図013
第183図011 第183図013 第183図014	第185図035 第185図036 第185図037	第191図014 第191図015 第191図016
第183図015 第183図016 第183図018	第186図038 第186図040 第186図041	第194図001 第194図002 第195図001
第183図019 第183図020 第183図022	第186図042 第186図043 第191図002	未掲載 (23SD001 - R940)
		未掲載 (23SD001 - R941)
		未掲載 (23SD170 - R939)

## 第Ⅰ章 はじめに

### 第1節 調査に至る経過

大分駅周辺総合整備事業は、「大分駅付近連続立体交差事業」、「大分駅南土地区画整理事業」、及び「庄の原佐野線等関連街路事業」の三つの事業を一体として実施し、総合的なまちづくりを行うものである。この事業によって、鉄道により分断されていた大分駅南北市街地の一体化を図り、駅北・商業業務中核都心と駅南・情報文化新都心との役割分担の中で、ゆとりと潤いのある新都心を創出することを可能とする後世に誇り得る県都「大分の顔づくり」を目指している。事業は、平成8年度より平成26年度までの事業期間で推進している。

本事業に先立つ埋蔵文化財の記録を目的とした発掘調査について、事業地区内における遺跡の有無の確認を目的とした試掘調査を平成8年度に行い、東大道遺跡（平成12年度から大道遺跡群に改称）の存在を確認、引き続き平成9年度から11年度にかけて順次実施した本調査必要箇所の決定を目的に行われた試掘・確認調査の結果、新たに南金池遺跡の存在を確認した。この結果、平成21年度末の段階での本調査地点は、南金池遺跡では第1次～7次、大道遺跡群では第1次～37次の合計44地点となっている。

本書に収録した大道遺跡群の調査は、第20次を平成18年度、第23次を平成19年度、第32次を平成21年度にそれぞれ行い、いずれも大分駅南土地区画整理事業地内における街路ないし街区の整備予定地を対象とした調査となっている。

調査次	所在地	調査担当	調査期間	調査面積
第20次調査	大分市東大道1丁目	荻 幸二・高畠 豊	2007.12.09～2008.03.28	1,389 m <sup>2</sup>
第23次調査	大分市金池南1丁目	高畠 豊・羽田野達郎・上原翔平	2008.07.24～2008.12.01	4,152 m <sup>2</sup>
第32次調査	大分市東大道1丁目	佐藤道文・山下朋紀	2010.10.13～2010.12.03	954 m <sup>2</sup>

第1表 調査地点一覧表

### 第2節 調査組織

#### 調査主体

大分市教育委員会 教育長 秦 政博（～平成19年4月）  
足立一馬（平成19年5月～）

#### 事務局

##### 平成18年度

大分市教育委員会 教育総務部 文化財課

課長	佐藤 功（～平成18年9月）
	玉永光洋（平成18年10月～）
参事	玉永光洋（～平成18年9月）
係長	安東時男
	塔鼻光司
主査	幸 俊昭
専門員	坪根伸也

大分市 都市計画部 駅周辺総合整備課	
部参事兼課長 木崎康雄	
課長補佐兼係長 岩田祐治	
	富永好一
主査 桜井敏男	
	山本雅博
	後藤正一
主任 加藤真由美	

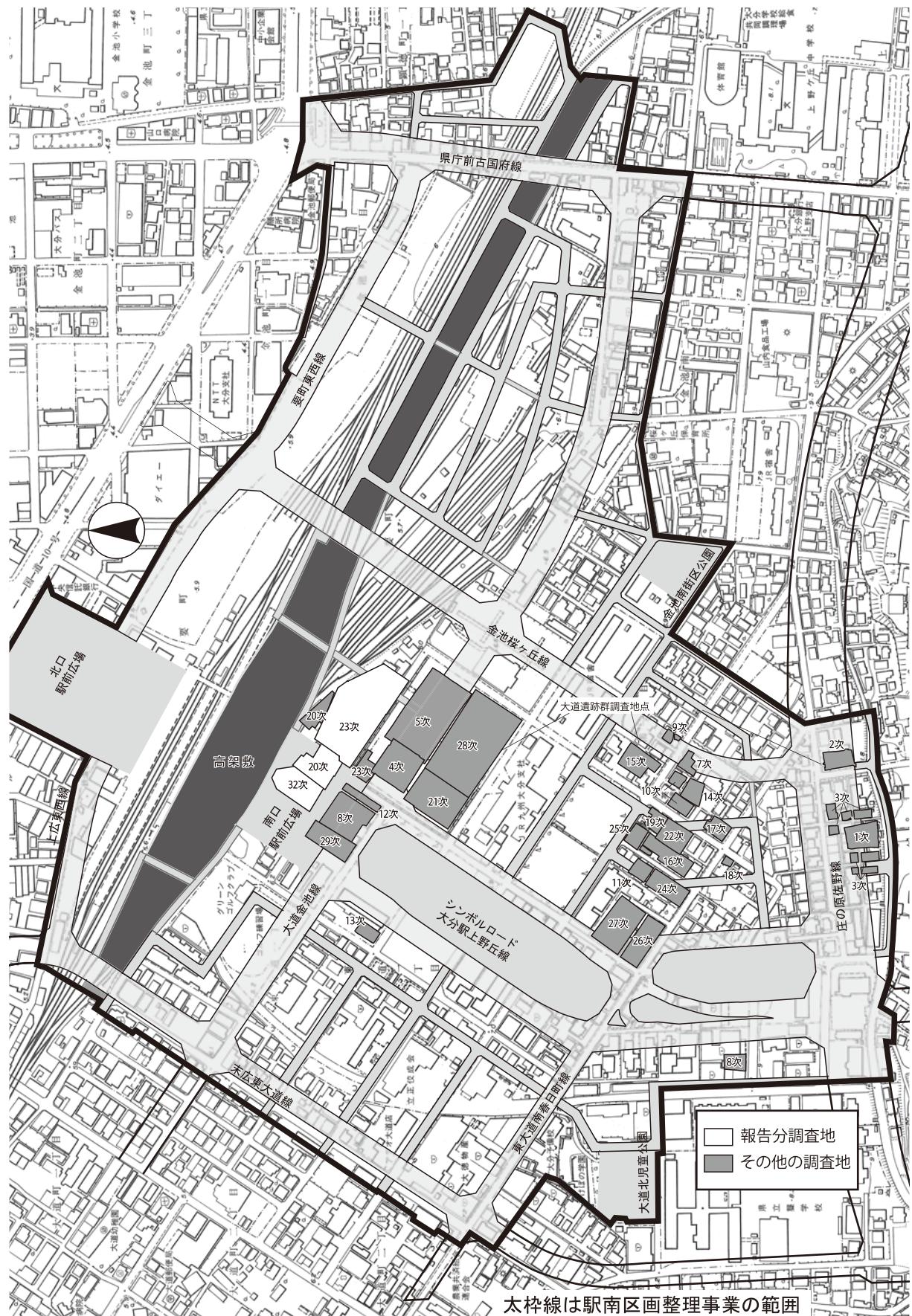
##### 平成19年度

大分市教育委員会 教育総務部 文化財課

課長	玉永光洋
係長	安東時男
	塔鼻光司
主査	幸 俊昭

大分市 都市計画部 駅周辺総合整備課	
部参事兼課長 木崎康雄	
課長補佐兼係長 岩田祐治	
	富永好一
主査 桜井敏男	

専門員	坪根伸也	山本雅博
主任	加藤キヌ	後藤正一
		主任 加藤真由美
平成 21 年度		
大分市教育委員会 教育部 文化財課		大分市 都市計画部 駅周辺総合整備課
次長兼課長	玉永光洋	次長兼課長 中畠 修
参考	岩田祐治	参考 伊達俊秀
課長補佐兼係長	福田誠一	課長補佐兼係長 富永好一
課長補佐	塔鼻光司	主査 高屋修司
係長	坪根伸也	後藤正一
主査	幸 俊昭(～平成 21 年 6 月) 神崎小由美(平成 21 年 7 月～)	加藤真由美
主任	加藤キヌ(～平成 21 年 6 月)	大川内匡史
平成 22 年度		
大分市教育委員会 教育部 文化財課		大分市 都市計画部 駅周辺総合整備課
次長兼課長	玉永光洋	次長兼課長 中畠 修
課長補佐	福田誠一	参考 伊達俊秀
	塔鼻光司	課長補佐兼係長 富永好一
係長	坪根伸也	係長 衛藤興憲
主査	神崎小由美	主査 高屋修司
		主任 鶴上 浩
		主事 大川内匡史
調査員		
平成 18 年度		
大分市教育委員会 教育総務部 文化財課		平成 19 年度
主任	高畠 豊	大分市教育委員会 教育総務部 文化財課
主事	永松正大	主任 高畠 豊
嘱託	井口あけみ 荻 幸二 古田 陽	嘱託 井口あけみ 上原翔平 羽田野達郎
平成 21 年度		
大分市教育委員会 教育部 文化財課		平成 22 年度
専門員	池邊千太郎 高畠 豊	大分市教育委員会 教育部 文化財課
主任	佐藤道文 永松正大	専門員 高畠 豊 河野史郎
嘱託	井口あけみ 木村藍子 倉増美智代 小島 愛 佐藤良子 佐藤孝則 鍋島千恵子 山下朋紀	主任 佐藤道文 嘱託 井口あけみ 木村藍子 倉増美智代 佐藤良子 佐藤孝則 稗田智美



第1図 調査区位置図 (1/5,000)

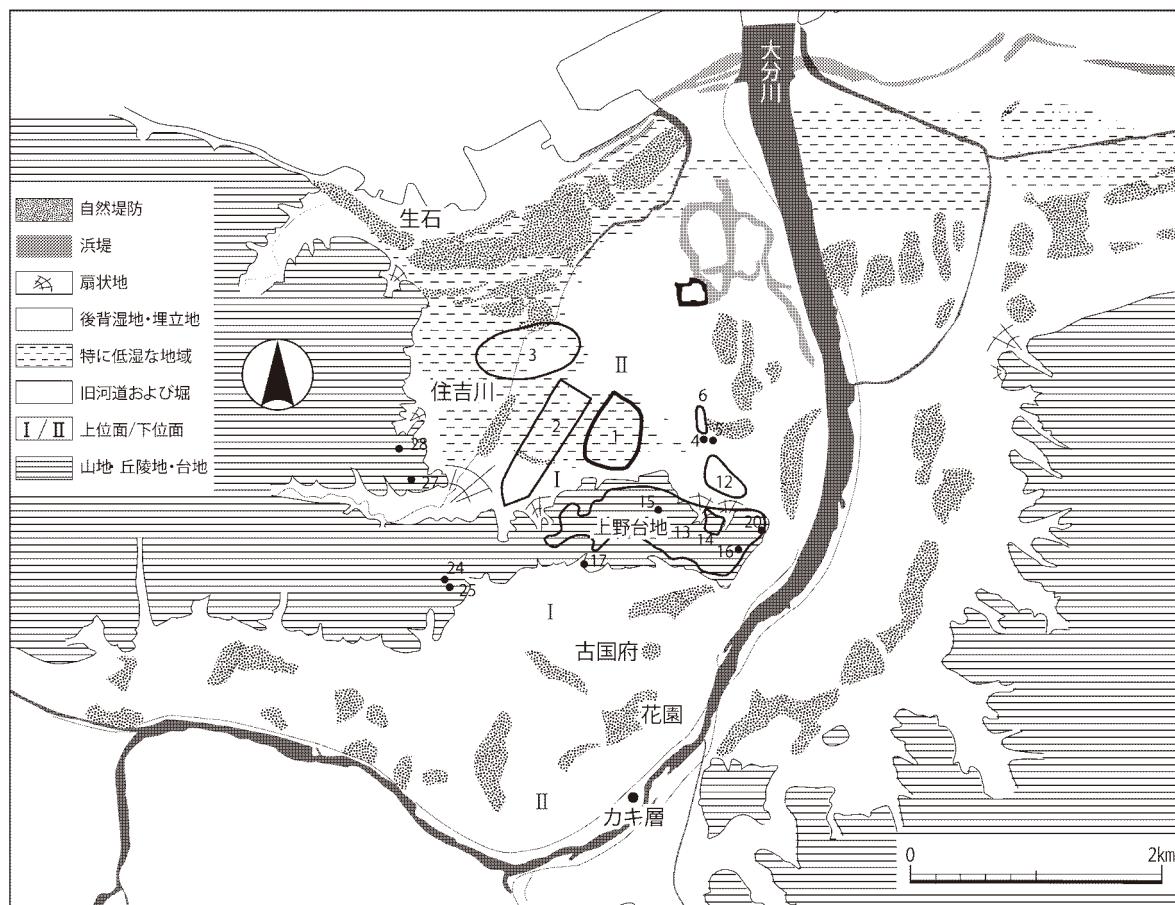
## 第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

大分県大分市は、九州の東端、瀬戸内海の西端に位置する。周辺には高崎山、九六位山、靈山、鎧ヶ岳、樅木山などの山々が連なり、これらの山々を縫うように県下の二大河川である大野川と大分川が南北に貫流しながら別府湾に注いでいる。その下流部には大分平野が形成される。また、気象は瀬戸内海気候に属している。

大分市の中心市街地に位置する大分駅の北口周辺では、各百貨店、商店街、大分県の行政機関が立ち並んでいる。その一方で、南口周辺は、戦後宅地化する以前から湿田が広がる人家が少ない土地であった。駅の南北で様相が異なるのは、日豊本線により市街の南北が完全に分断されたためであり、その解消のため駅の高架化と並行して南口周辺の再開発も行われている。現在、大分駅付近連続立体交差事業と併せ、関連する都市計画道路の整備や土地区画整理事業等の市街地開発事業を大分駅周辺総合整備事業として一体的に行うことにより、この地域は魅力ある新しい大分の顔になりつつある。

今回報告する大道遺跡群は、この大分駅南土地区画整理事業地区の中心地域に位置する。遺跡は、東大道、南金池、桜ヶ丘地区の東西約 0.6km、南北約 0.7km の標高約 4.6 ~ 6m の微高地上に展開している。遺跡範囲の北限には大分駅が位置し、南限には上野台地が延びる。大分川流域の沖積面には今から約 7400 年前に最高水位に達した繩文海進時に海成層が堆積しており、当時の海域は上野台地を越え、さらに内陸側の古国府や玉沢地区付近まで至っていたことが確認されている。さらに、大分川から約 6km 遠った花園付近では、「花園カキ層」が確認されており、当時の海岸線を裏付ける資料となっている。大分川は、大分平野の西半分の形成に関わる河川である。大分川流域の沖積面は、東西に延びる上野台地により南北に二分される。第2図からも南側は河道変遷が激しく、旧河道や微高地が複雑に入り組む様相であり、大道遺跡群が位置する北側は三角州地帯であるこ

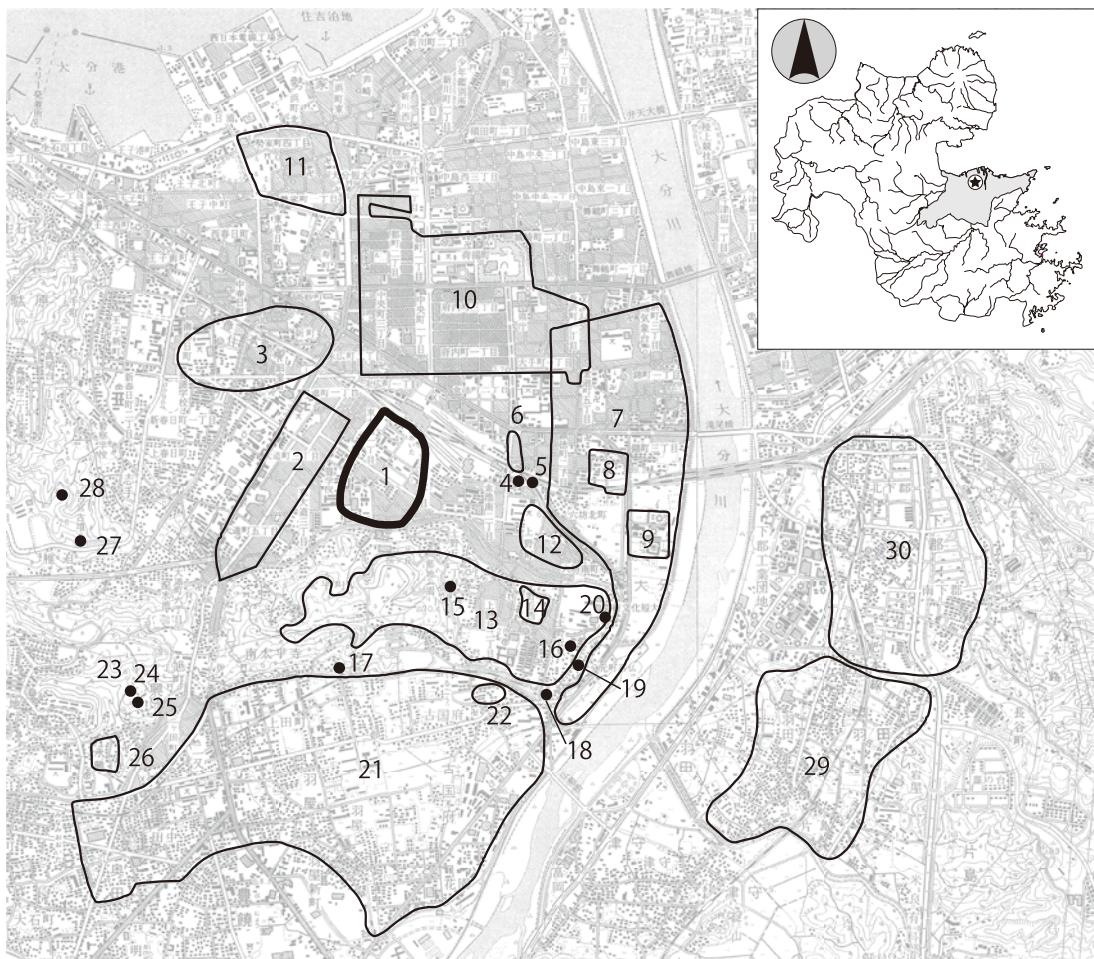


第2図 調査地周辺地形分類図（『大分市史』上 一部改変）および遺跡分布図（1/60,000）

とがわかる。しかし、北側には自然堤防、後背湿地、旧河道などの微地形が包蔵されており、流路と流路に挟まれた部分の紡錘形の平面をもつ微高地に遺跡が立地していることが確認された。また、出土遺物からも海岸線と接した立地であることが確認され、周辺に展開する東田室遺跡、若宮八幡宮遺跡、上野町遺跡が位置する現在の日豊本線付近は一時海岸線になっていたと想定される。その海岸線の変遷とともに土地利用が変化している点も当地域における重要な所見である。このように大道遺跡群は、海岸に隣接し、水田を行うのに適した後背湿地にも隣接するという土地条件を備えた環境に位置していたと考えられる。

## 第2節 歴史的環境

大道遺跡群が位置する地点を中心に半径2キロ以内には大分川左岸の沖積低地、上野台地、更には中世の大友府内町跡、近世府内町跡までが含まれる。こういった状況を踏まえて、考古学的調査の成果を踏まえ、時代や遺跡ごとに当該地域における歴史を概観したい。



1	大道遺跡群	11	勢家遺跡	21	古国府遺跡群
2	大道条里跡	12	若宮八幡宮遺跡	22	岩屋寺遺跡
3	東田室遺跡	13	上野遺跡群	23	城南遺跡
4	上野町遺跡	14	上野大友館跡(上原館跡)	24	千人塚古墳
5	顯徳寺遺跡	15	上野廃寺	25	弘法穴古墳
6	南金池遺跡	16	上野竜王畑遺跡	26	永興遺跡
7	中世大友府内町跡	17	元町石仏	27	古宮古墳
8	大友氏館跡	18	岩屋寺石仏	28	亀甲古墳
9	万寿寺跡	19	伽藍石仏	29	羽田遺跡
10	府内城・城下町跡	20	大臣塚古墳	30	下郡遺跡群

第3図 周辺主要遺跡分布図 (1/40,000)

旧石器時代の遺物としては、上野遺跡群から流紋岩製二次加工剥片が出土している。

縄文時代の良好な遺跡は確認されていない。ただ、大道遺跡群（第7・10・14・15次調査）では、縄文時代前期の轟Ⅲ式土器や中期の瀬戸内系土器である船元式土器、後期の磨消縄文土器、阿高系土器、晚期の土器が多量に出土していることから、周辺では、途絶える事なく人々の営みがあったと想定される。また、古国府上七曾子遺跡・園遺跡などで、西平式を中心とした後期の土器や晚期の包含層が確認されている。大道遺跡群の南側に位置する上野遺跡群では、腰岳産、姫島産黒曜石を使用した石器が出土している。

弥生時代になると、良好な遺構や集落遺跡の存在が確認できる。上野台地北側の低地に位置する若宮八幡宮遺跡では、溝状遺構から下黒野式に比定される土器が一定量出土している。このことから、弥生時代早期段階には微高地としてすでに安定しており、人々の生業が始まっていると推測できる。古国府上七曾子遺跡では、弥生時代前期前半（板付Ⅱa式）の土器を伴う溝が検出されている。溝には全体に白色粘土が貼られており、初期の水田耕作に関わる遺構だと考えられる。大道遺跡群や東田室遺跡では、弥生時代前期末と後期の土坑が発見された。東田室第2次調査地点では舟形土製品が出土していることから海との関わりが示唆される。東大道遺跡B地区や大道遺跡群第4次調査では、弥生時代後期の後漢鏡の破片が採集されており、この遺跡の周辺に比較的規模の大きな集落の存在が予測される。また、上野台地上にも弥生時代中期の上野遺跡群が立地する。美術館の建設に伴い調査が行われた上野遺跡群では、当該時期に比定される集落を区画するV字溝（環濠）・住居跡・貯蔵穴・内部に掘立柱建物を持つ隅丸長方形周溝遺構などが発見された。特に、隅丸長方形周溝遺構の溝からは、祭祀用の土器類や鉄製ヤリガンナなどが出土しており、特殊な祭祀遺構として位置づけられている。大分県内で唯一の遺構である。

古墳時代前期は、大道遺跡群で発見される遺構のピークというべき時代である。近年注目すべき発見が相次いでいる。平成18・19・21年度の第20・23・32次調査地点では、土器が大量に廃棄された幅約2～4mの環濠が検出された。現在の大分駅を中心とする地域に大規模な集落が形成されていたものと考えられる。残念ながら、環濠や井戸等の特に深い遺構以外の住居跡などの遺構は、後世の削平によりほとんど失ってしまったと考えられる。しかし、多量の出土遺物の中には、大形の土錘や製塙土器といった海との深い関わりを示す資料が見られる。そのほか注目される遺物としては、猿形土製品が環濠から出土しており、管見の限りでは、弥生時代後期～古墳時代前期の資料としては、徳島県に例があるのみである。大道遺跡群第24次調査では、当該期の井戸が多数発見されたが、このうちの1基（SE008）からはクスノキ製のほぼ完形の臼が出土した。クスノキの伐採年代は歴博年代研究グループにより西暦290年頃と判明している。大道遺跡群のやや西側の東田室遺跡では、古墳時代前期中葉～中期前葉にかけての住居跡などの遺構が多数検出されている。大道遺跡群に後続する時期であり、拠点集落がこちらに移動したかのようである。また、東田室遺跡第3次調査SH3205から絵画土器が出土している。竜をモチーフにしていると考えられ、古墳時代に生きた人々の精神世界や祭祀行為を推察する上で貴重な資料といえる。若宮八幡宮遺跡では古墳時代後期の玉作り工房を伴った集落跡が確認され、工房である堅穴住居跡の内部から、近畿地方より搬入されたと考えられる大阪湾岸製の製塙土器が出土している。古墳時代の墳墓である高塚古墳や横穴墓は、上野台地および駄ノ原・永興台地に存在する。古墳時代前期の拠点集落に対応する墳墓として想定されるのは、三角縁波文帯三神三獸鏡と仿製重圈文鏡が出土したことで著名な亀甲山古墳がある。大道遺跡群から見てやや西側に離れた永興台地上の構築されており、古墳時代前期後半に位置付けられる事からも、時期的、距離的に近い東田室遺跡との関連が想定される。上野台地の東端部には大臣塚古墳が存在する。当該古墳は、1997年に大分県教育委員会が実施した確認調査で円筒埴輪が出土している。その特徴から4世紀末～5世紀初頭の前方後円墳と考えられている。永興台地上には、5世紀後半～6世紀初頭の所産とされる千人塚古墳がある。前方部が短い全長約47mの前方後円墳である。また、後期古墳では大規模な横穴石室を持つ弘法穴古墳が6世紀後半に造られる。これらの古墳は、一系列の首長墓であると考えられるが、発掘調査により前方部が明らかになった千人塚古墳の例を見れば、上野、永興台地上には後世に削平されたため知られていない古墳が他にあることが推定される。これら首長墓の最後に位置づけられるのが古宮古墳である。古宮古墳は、九州地方唯

一の畿内系削貫式横口構造を有する終末期古墳で、7世紀後半に築造されたものと推定され、壬申の乱で大海人皇子方として活躍した大分君恵尺・雅臣のいざれかの墓と想定されている。上野台地南斜面には6世紀末から7世紀の時期の南太平寺横穴墓群が所在する。

古代の遺構としては、羽屋井戸遺跡の成果が注目される。長大な規模の掘立柱建物跡や門状遺構・柵列などが検出されている。これらの帰属年代は、7世紀後半から8世紀初頭に遡ることから評衡関連の遺構である可能性が想定されている。国衙推定地の古国府地区では、いままでの調査結果から8世紀以降の国衙関連施設が存在する可能性を想定することは困難であるという評価がなされつつある。それに伴い、従来から豊後国府の比定地であった古国府遺跡群に変わり上野台地上に豊後国府及び国衙関連施設の存在を推定する考えが有力になってきている。1997年に大分県教育委員会が実施した上野遺跡群竜王畑遺跡では、7世紀後半から10世紀代にかけてのまとまった大規模建物群が検出された。特に9世紀代の遺構群には築地塀に伴うと見られる溝や一定方位に沿って規画的に配置されている掘立柱建物跡などが認められ、これらが『国司館』の一部であった可能性が考えられている。また、大道遺跡群第23次遺跡調査では、8世紀後半から9世紀前半の国衙関連施設と推定される掘建柱建物跡14棟などが検出されている。竜王畑遺跡から北西約1.4kmの地点にあり、大分河口部の水上拠点でもあることから国衙の何らかの機能を持つ施設が分立したものと考えられる。また、隣接する調査地点では、当該期の井戸跡や掘立柱建物跡だけでなく円面硯や奈良三彩陶器壺も出土している。また、海とつながっていたと考えられる水路から『厨』と刻書された土師器が出土している。隣接する金池南遺跡では、井戸や、製塩土器が多く廃棄された土坑が検出されており、青銅製柄杓子の注口部破片など特殊な遺物も出土している。金池南遺跡の東側に近接し、一連の遺跡である可能性の高い上野遺跡では自然流路と思われる遺跡の内部から大形土錘79個、小形土錘339個が集中して出土している。これら土錘の存在は海岸線付近である事、漁労を営む集団が居住していた事を示唆している。埋土中には墨書き土器や円面硯、長沙窯系黄釉褐彩水注が出土している。国府比定地の北側に位置しており、大道遺跡群と同様に国府との関連性をもつ水上交通の拠点的集落である可能性が指摘されている。また、大分川右岸には大分郡衙と推定される下郡遺跡群が立地している。11世紀後半以降、上野台地東部とその北・東側の沖積低地では「高（隆）国府・勝津留」の名称で呼称されるようになる。

鎌倉幕府の時代になると大友氏がこの地域の支配権を掌握するようになり、この「高（隆）国府・勝津留」の割譲を迫る文書が見られるようになる。南北朝時代以後、大友氏は大分川河口付近の左岸地域を拠点とし、第21代義鎮（宗麟）の頃には、南蛮貿易を背景に西日本随一の都市として繁栄した。大道遺跡群は、中世大友府内町跡の近くに立地するにもかかわらず、中世以降の遺構の検出は顕著でない。

#### 参考文献

- 大分市教育委員会 1993『上野遺跡群』大分市立美術館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書  
大分市教育委員会 2005『東田室遺跡2』都市計画道路田室まち春日線に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書  
大分市教育委員会 2008『大道遺跡群1』大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4  
大分市教育委員会 2009『大道遺跡群2』大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5  
大分市教育委員会 2010『大道遺跡群3』大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6  
大分市教育委員会 2006『若宮八幡宮遺跡第1次発掘調査』上野ヶ丘中学校の校舎建て替え工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書  
大分県教育委員会 2004『東大道遺跡（A地区）』庄の原佐野線工事に伴う発掘調査2  
大分県教育委員会 2006『上野町遺跡／顯徳寺遺跡』大分駅付近立体交差事業に伴う埋蔵文化財調査報告書  
大分県教育庁埋蔵文化財センター 2008『東田室遺跡』大分駅付近立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（7）

## 第Ⅲ章 調査の成果

### 第1節 調査の概要

今回報告の対象となる調査区は、第20次・23次・32次の3地点である。大分駅旧南口一帯に設定したこれらの調査区の調査期間及び面積は、第20次が平成18年12月9日～平成19年3月28日で1,389m<sup>2</sup>、第23次が平成19年7月24日～平成19年12月1日で4,152m<sup>2</sup>、第32次が平成21年10月13日～平成21年12月3日で954m<sup>2</sup>である。

一連の調査区の調査の結果、東から第23次、20次、32次とそれぞれ隣接する位置関係にある全ての調査区にまたがる形で検出された古墳時代前期の環濠遺構が、JR大分駅構内を中心とする環濠集落を想定した一連の環濠遺構(23SD001・23SD170・20SD001・32SD001)として捉えられることから、今回の報告は、これら環濠関連遺構に関する調査成果を中心とした「弥生時代・古墳時代環濠関連遺構編」とした。この他、今回の調査結果の中には、第23次調査区における古代官衙に関連する掘立柱建物跡群を中心とした遺構群・近代～現代の遺構群には、現在のJR、旧国鉄時代の大分駅に係る廃棄遺構、第20次の時期不明の溝群、第32次の中世から近代の溝、土坑群等の遺構が検出されているが、これらの遺構・遺物については、「古代以降遺構編(仮)」での報告となる。

以下、第23次、20次、32次調査の調査成果のうち、弥生時代・古墳時代環濠関連遺構内容について報告する。

### 第2節 大道遺跡群第23次調査

#### 概要

第23次調査区は、3地点中最大面積の調査区で、弥生時代後期、古墳時代前期、古代、近代～現代の遺構群が検出された。

弥生時代後期の遺構は、井戸跡(23SE003・011)及び不明遺構(23SX038)で、古墳時代の環濠をまたぐ形で、調査区南西部に分布の中心をもつ。

古墳時代前期の遺構は、環濠遺構(23SD001・23SD170)及び井戸跡(23SE051・052・076・087・099)がある。遺構の分布は、調査区の南西隅で北方に延びる23SD001、南東部で東方に延びる23SD170の環濠遺構が存在し、これらに囲まれた一帯に井戸跡の分布が見られる。井戸跡の分布については調査区西側23SD001に近い一群と調査区中央部に分布する2群が存在するようである。

古代の遺構群には、掘立柱建物跡(23SB001～008・011～016)、柵列跡(23SA009・010)、井戸跡(23SE047・109・090)、竪穴跡(23SX169)及び溝跡がある。掘立柱建物跡群は、調査区南西部を中心に分布し、2間×5間の大型建物2棟(23SB005・007)を含む。その主軸方位により大きく2つのグループに分類され、少なくとも3時期存在するが、概ね8世紀末～9世紀前半の時期幅での変遷と考えられている。「L」字状や「コ」字状の規格的な建物配置はみられないものの、周辺に隣接する調査区において出土した奈良三彩陶器壺・円面硯・刻書土器(「厨」)の存在から総合的に考えると、なんらかの官衙関連施設の可能性が考えられる。

近代～現代の遺構群には、現在のJR、旧国鉄時代の大分駅に係る廃棄遺構がある。23SD170の続きを確認するため設けられた東側拡張区で検出されたこれらの遺構からは、汽車土瓶が大量に出土した。

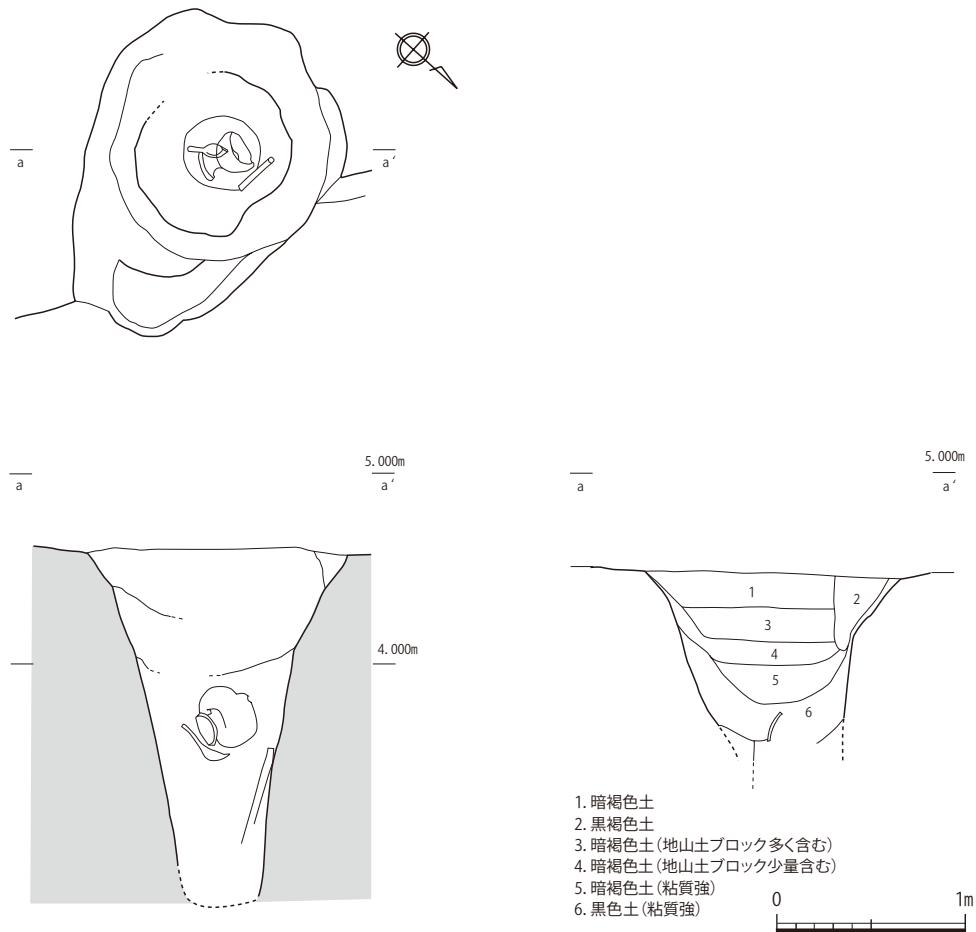
以下、これらの遺構から弥生時代・古墳時代環濠関連遺構及び出土遺物についてその詳細を記す。



第4図 大道遺跡群第20・23・32次調査区 (1/500)



第5図 大道遺跡群第23次調査区全体図（1/400）



第6図 23SE003 遺構実測図 (1/40)

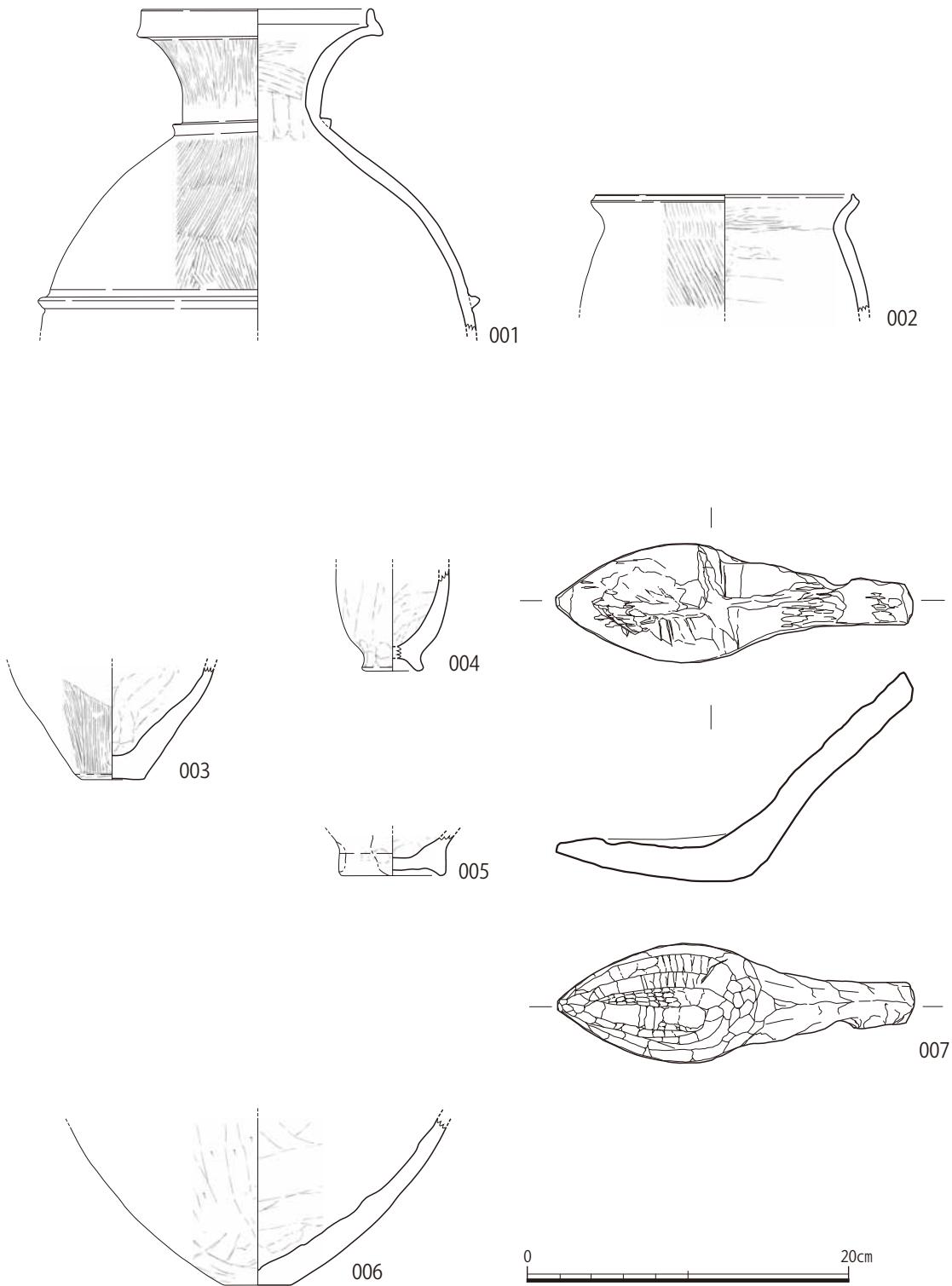
**23SE003 (第6図)**

調査区南西端において検出した、径 1.3 m～1.4 mを測る円形状の井戸状遺構である。深度は現状で 1.85 m を測るが、湧水により崩落の危険が生じたため、それ以下の掘り下げは行っておらず底面までには至っていない。埋土は 6 層下位に垂直方向に不整合面があり、その形状から井筒の痕跡とも考えられる。7 層以下の最深部は湧水のため、土色等の詳細な観察が困難であった。遺物は 6 層下位にあたる標高 3.4 m～3.6 m付近において弥生土器壺と、木製品が出土した。これらの出土遺物は、井戸が埋まって行く過程において投棄されたものとみられるが、上層の 3・4 層はブロックを含む埋土であり、遺物投棄後に人為的な埋戻し行為が行われたと考えられる。

**23SE003 出土遺物 (第7図)**

出土遺物には、弥生土器壺、甕、鉢、木製杓がある。

001 は弥生土器複合口縁壺である。口径 14.4cm を測る。口縁部から体部上半を遺存し、頸部及び胴部に突帯が認められる。胴部の突帯の位置は中位より若干上に位置する。002 は弥生土器甕である。復元口径 16.6cm を測る。口縁端部は平坦に納められ、沈線が認められる。003～006 は弥生土器底部資料である。004・005 は弥生土器鉢形の脚付き底部、003・006 は弥生土器甕形資料の底部である。007 は木製の杓である。現存長 22.1cm を測る。出土遺物の様相から弥生時代後期終末の所産と考えられる。



第7図 23SE003 出土遺物実測図 (1/4)

**23SE011 (第8図)**

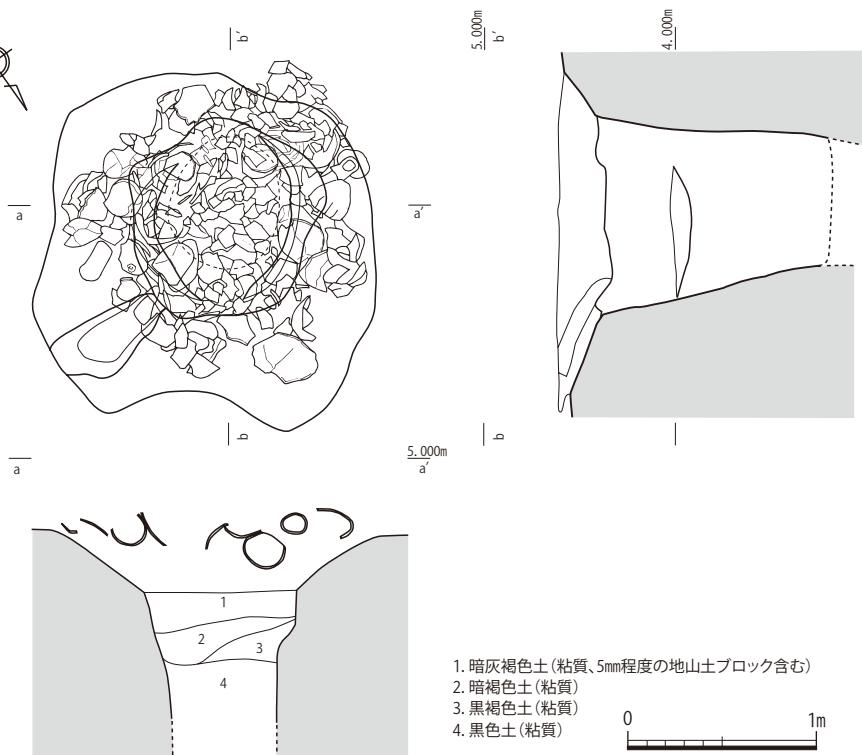
調査区西端付近で検出した井戸跡と考えられる遺構である。中心部の直径約1.0m～1.1mの不整円形を呈し、最大深さは検出面から1.6m以上を測る。検出面付近では、直径約1.7m、深さ0.3mの不整円形の浅い凹みを伴っていた。この部分には人頭大の石数点とともに多量の土器が廃棄されており、出土遺物の大半はここから出土したものである。遺構廃絶時に一括廃棄されたものとみられる。1層以下の井戸掘り込みには壁面のオーバーハンプや崩落痕は認められなかった。調査中下層からは豊富な湧水があり、検出面から1.6m以下については崩落の危険が生じたため、完掘には至らなかった。埋土は暗褐色から黒色の粘質土を基調とする。井筒は検出されず、土層にも痕跡が窺えない。出土遺物は、弥生時代後期中葉頃と推定され、遺構の廃絶も同時期と考えられる。

**23SE011 出土遺物 (第9図～第15図)**

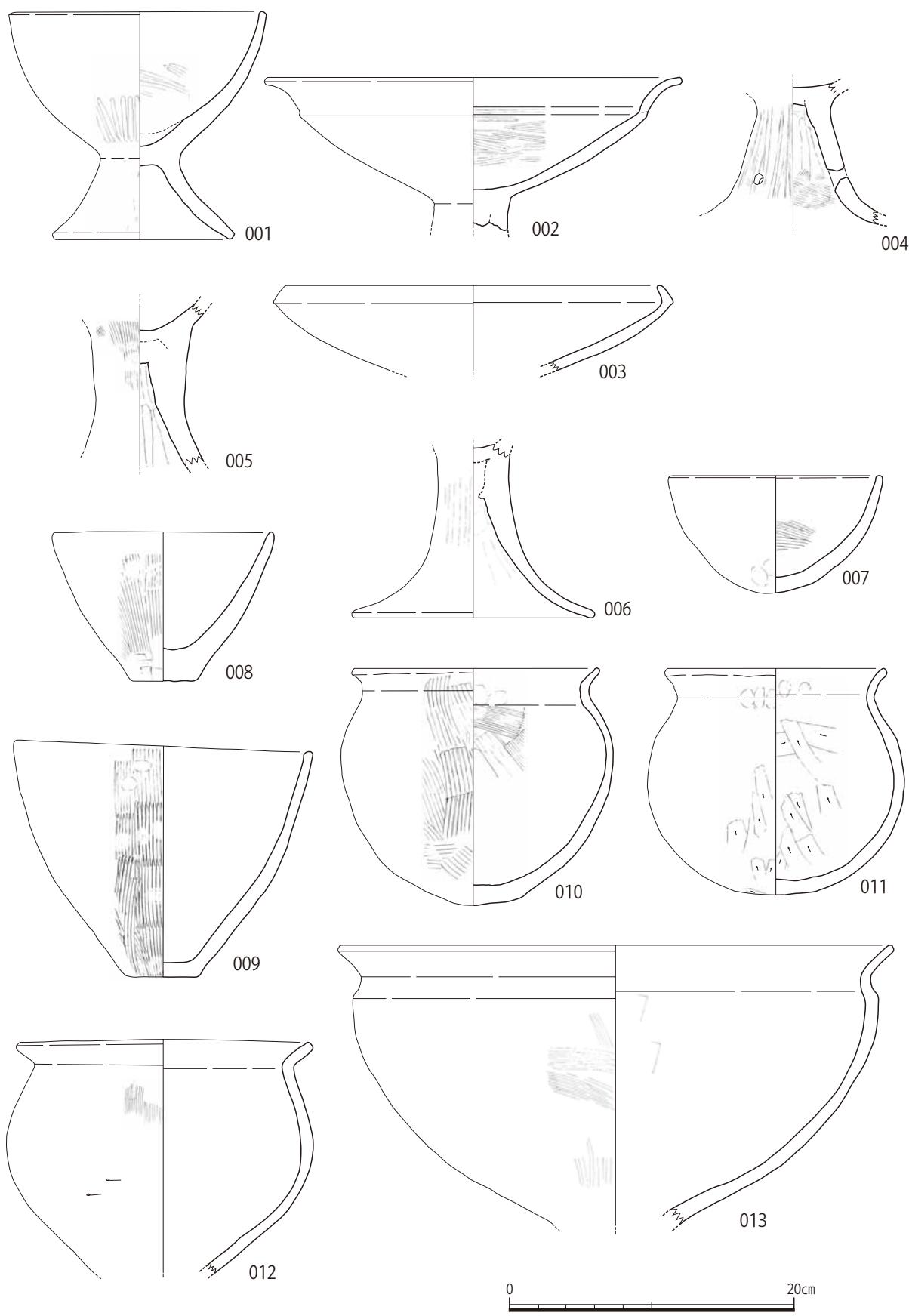
出土土器は、弥生土器高坏、鉢、壺、甕である。001～006は高坏である。002は、坏部の中位に段を持ち口縁部が外方に大きく開く。007～014は鉢である。007は椀形を呈す。008・009は、バケツ状で口縁部が直線的に開く。010～014は、口縁部が「く」の字状を呈し、端部が外方へ開く。底部は平底が基本だが、007など丸底化した資料が一部みられる。

015～041は壺である。015は長頸壺。016は台付き壺。017～018は小形で口縁部が屈曲し、肩が張る壺である。017は肩部の屈曲部分に穿孔があり、弥生時代後期中葉の所産と考えられる。019は無頸壺。主に出土しているのは、短く外反する口縁部をもつ短頸壺(020～032)と、安国寺式の複合口縁壺(033～041)の二つのタイプである。020は小形壺。024は肥厚した口縁端部に文様を施文する。壺の底部は平底が基本だが、中には023のように凸レンズ状を呈す。胴部形態は長胴形が基本である。安国寺式の複合口縁壺は、033のように、逆「く」の字状の口縁部に1段の櫛描波状文を施文し、頸部の突帯は1条、胴部の突帯は3条のタイプが主体的に出土している。頸部の浮文は省略傾向である。042～059は甕である。在地の甕から型式変化した資料が主流で、内面はケズリ調整である。底部は小形化しているが、平底が多い。045は上げ底状の底部。なかには、043のように凸レンズ状を呈する個体や、046のように、より小さな不安定な平底をもつ資料も出土している。060～067は、壺または、甕の底部と考えられる。060は、底部外面にハケ目が施される。

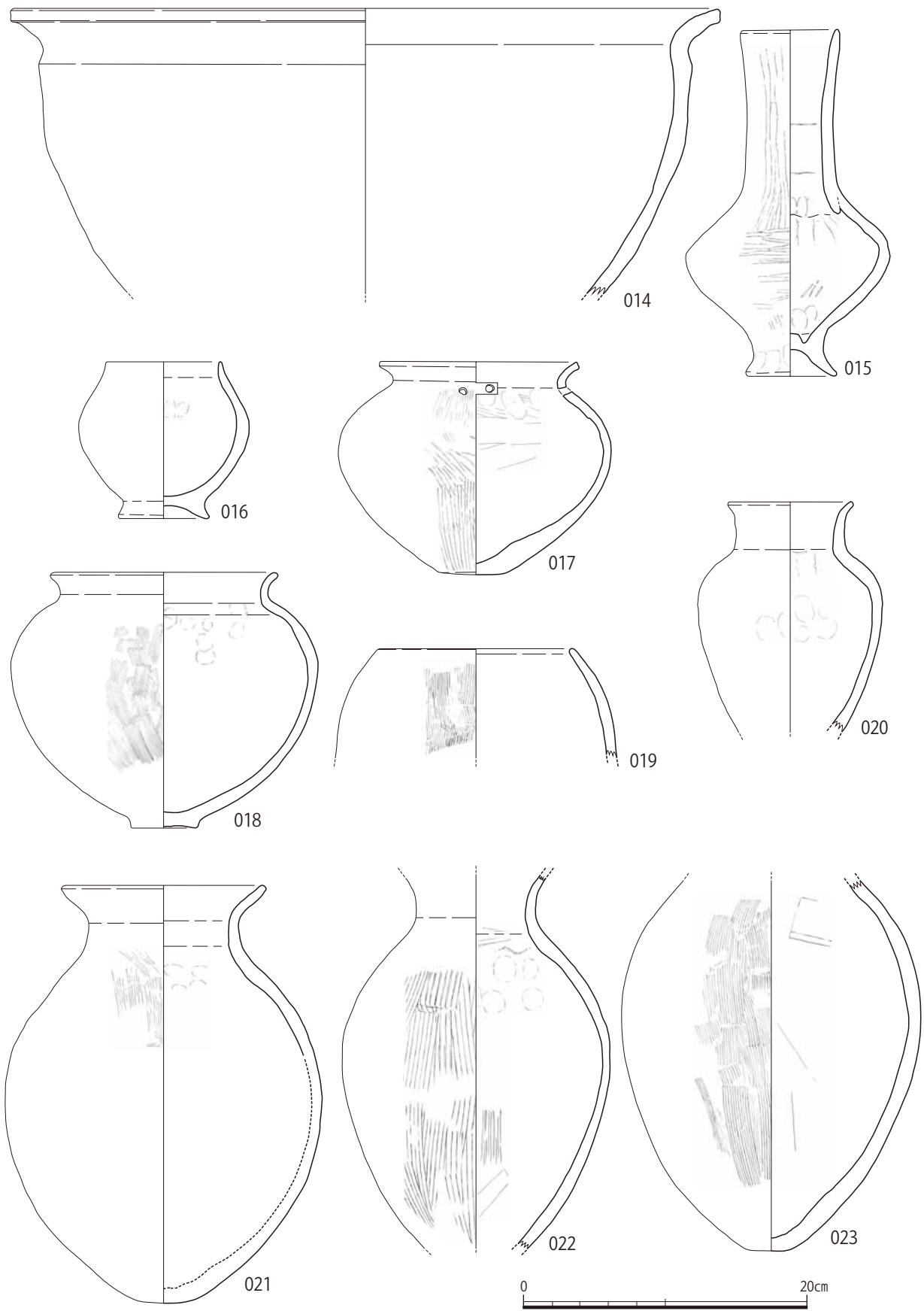
23SE011出土土器の様相は、甕の内面にケズリ調整が施され、底部が小形化しているものの、比較的安定した平底を呈す。安国寺式の複合口縁壺は、033のように頸部の浮文と、突帯の減少傾向が認められる。概ね弥生時代後期中葉の様相を示しているが、なかには012のような丸底化した鉢、046のような小さく不安定な平底の甕など、弥生時代後期後葉の要素を示す資料を一部に認めることができる。



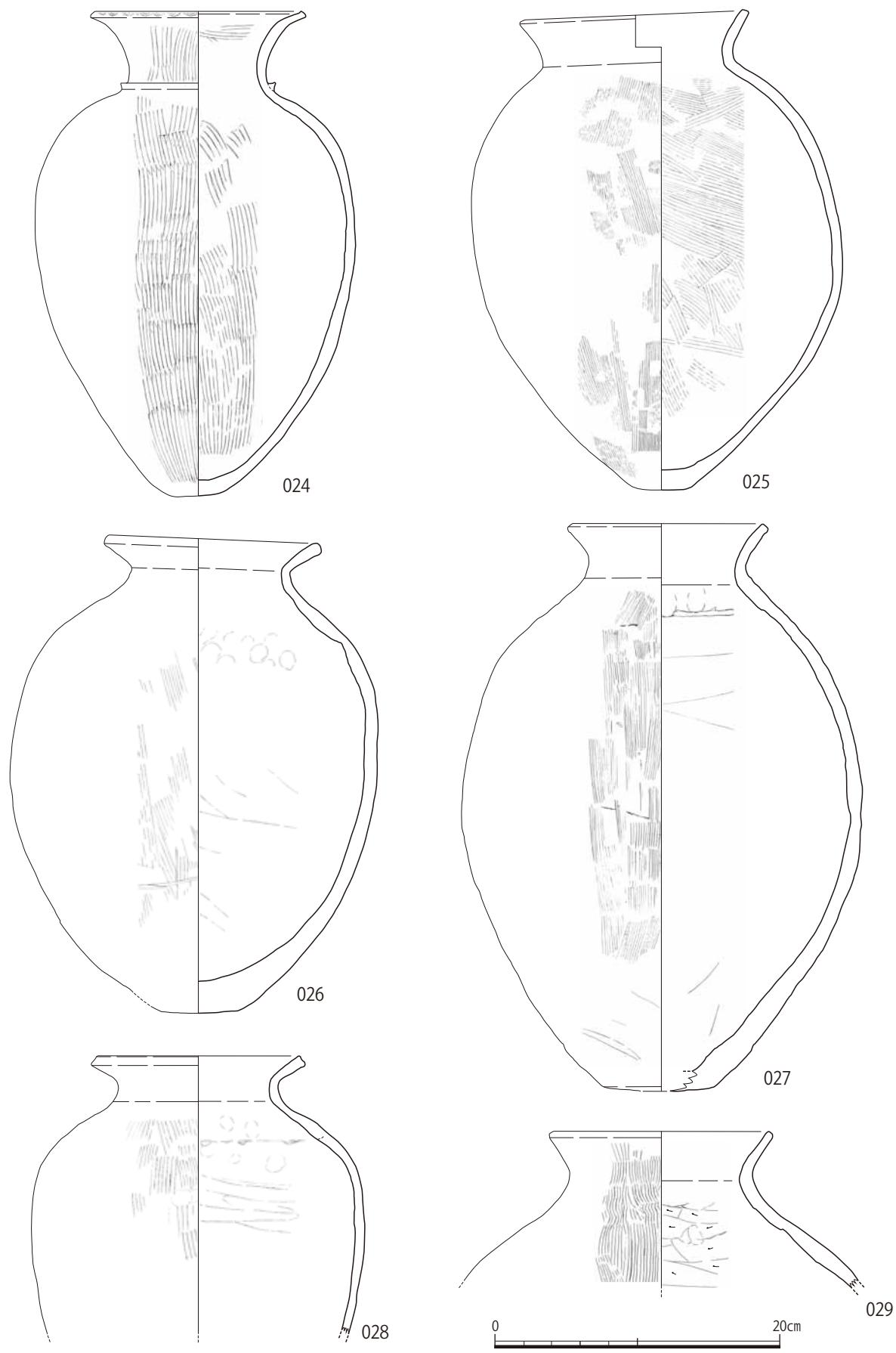
第8図 23SE011 遺構実測図 (1/40)



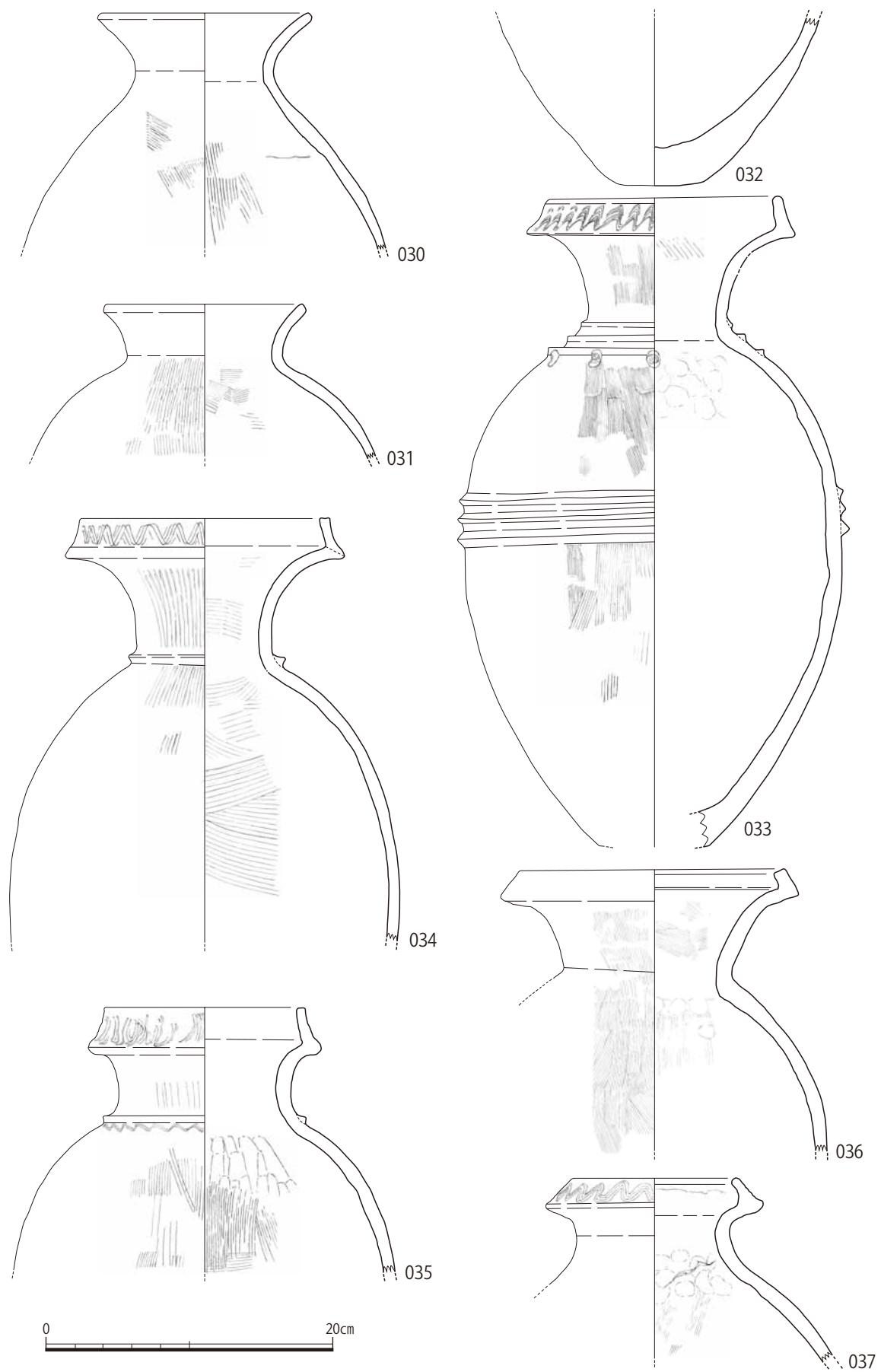
第9図 23SE011 出土遺物実測図1 (1/4)



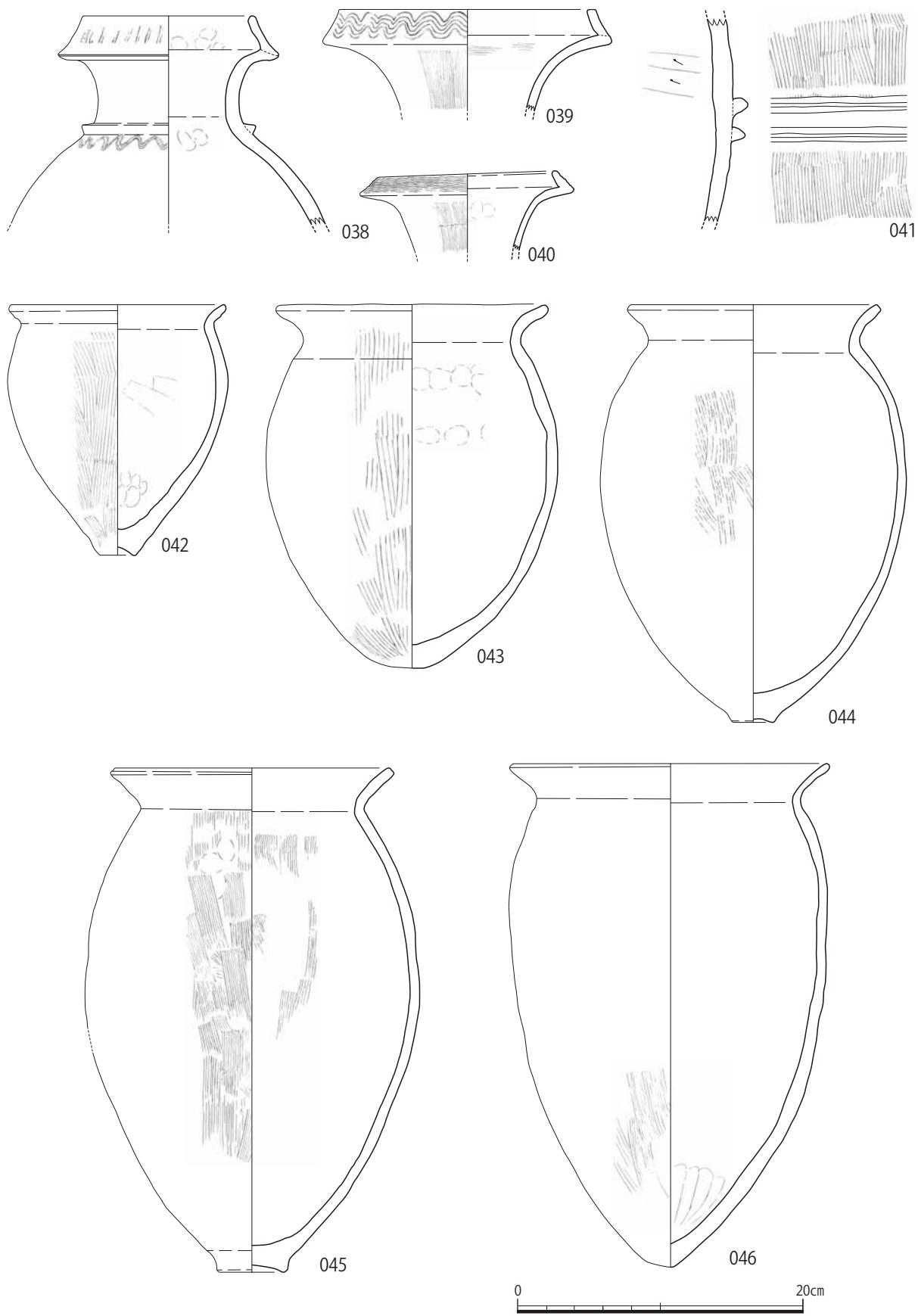
第10図 23SE011出土遺物実測図2 (1/4)



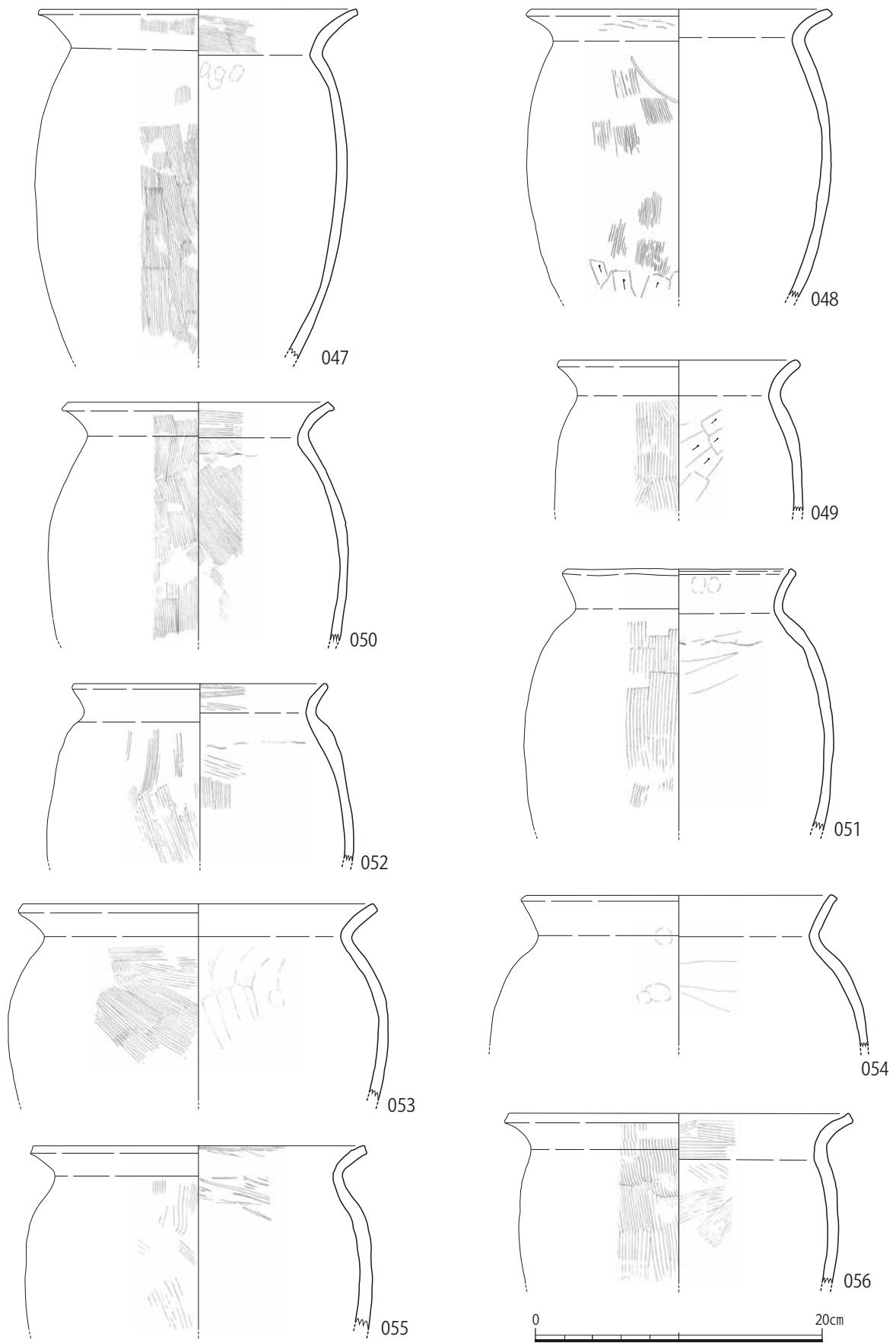
第 11 図 23SE011 出土遺物実測図 3 (1/4)



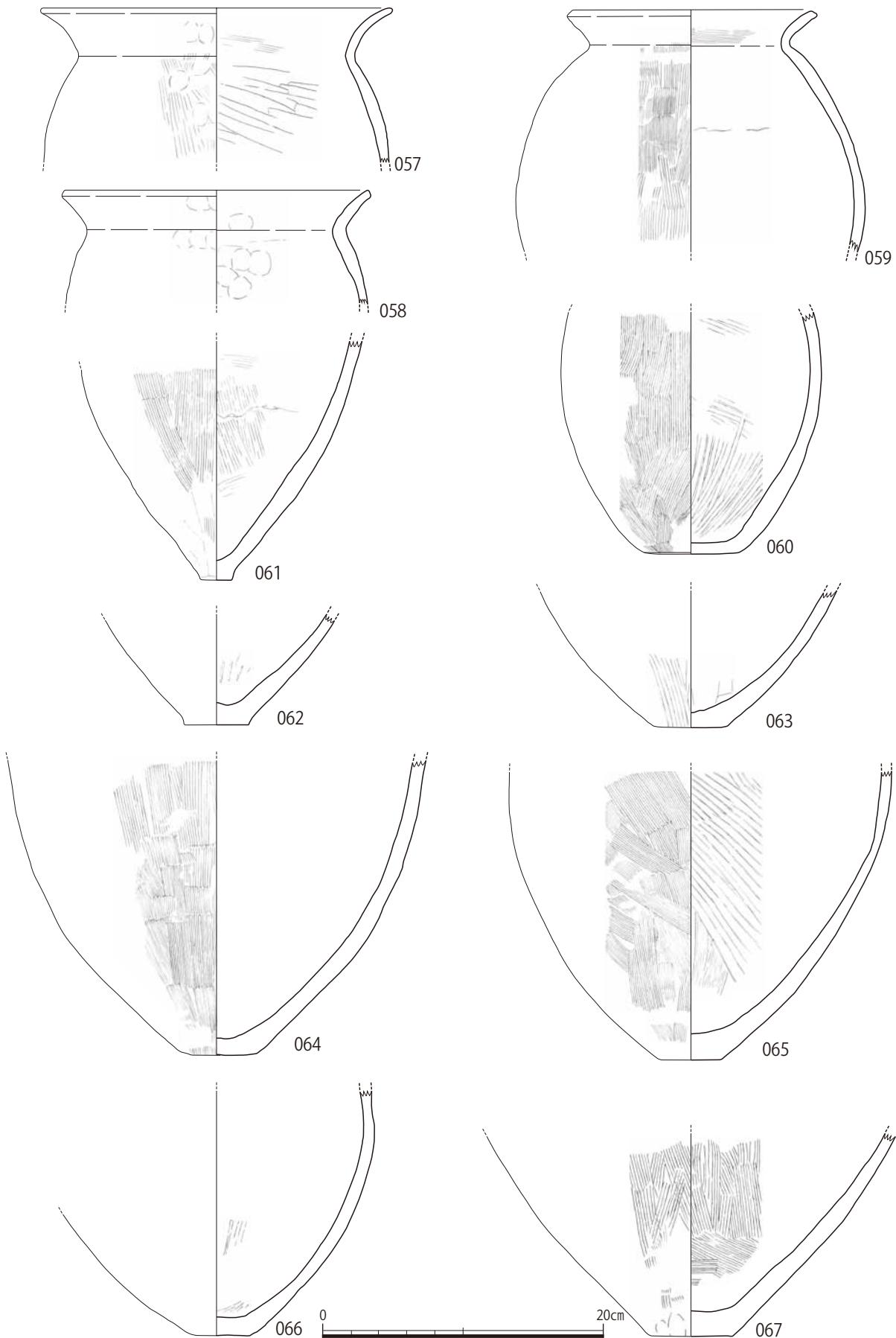
第12図 23SE011出土遺物実測図4 (1/4)



第13図 23SE011出土遺物実測図5 (1/4)



第14図 23SE011出土遺物実測図6 (1/4)



第15図 23SE011出土遺物実測図7 (1/4)

**23SX038 (第 16 図)**

調査区の西部、23SD001 の東側で検出した遺構である。東西長 1.8m × 南北長 2.1m の不整円形を呈する土坑であり、最大深度は検出面より約 0.6m を測る。遺構の南側の 3 分の 1 程度は、長方形状を呈する近代以降の搅乱により欠失する。遺物は 2 層下半から 3 層にかけて多量に出土しているが、多くが破損した土器片であり、レベル差をもって出土している状況が観察されることから、この遺構は廃棄土坑であり、一定の時間幅をもって土器等が廃棄され、埋没したものと考えられる。出土遺物から、弥生時代後期後葉の時期に埋没したものと推定される。

**23SX038 出土遺物 (第 17 図～第 21 図)**

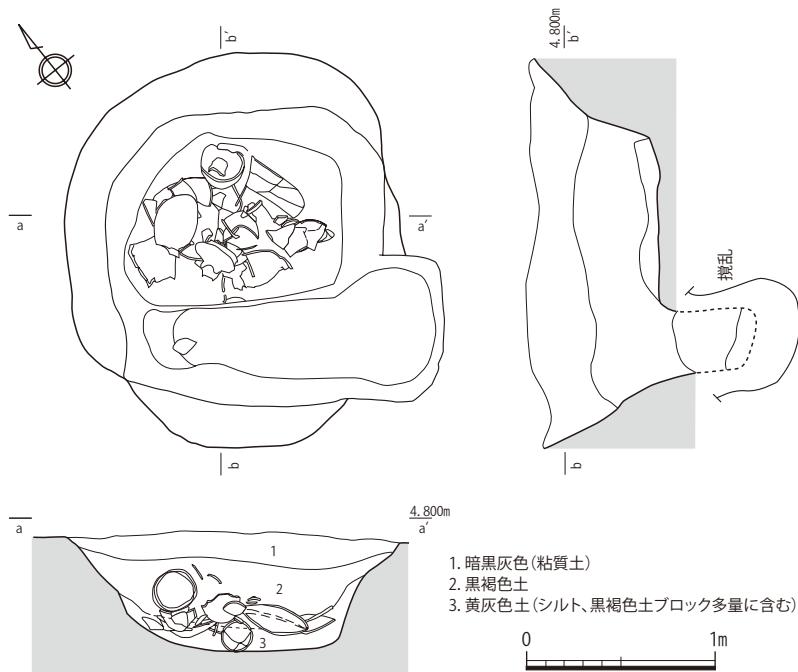
出土遺物は、弥生土器鉢、壺、甕、石器である。001～002 は鉢である。002 はやや深めである。

003～014 は壺である。003 は無頸壺。005～009 は、頸部から底部資料である。底部は平底と、007 のように凸レンズ化している資料、006、008 のように丸底化している資料がある。胴部は長胴形が基本であるが、006 のように球形化が進んでいる資料が見られる。010 は口縁部から胴部片である。011・012 は安国寺式複合口縁壺の破片資料で、同一個体と考えられる。011 は口縁部から頸部片で、伸長した複合口縁部に櫛描波状文が 2 段に施文されており、頸部には 2 条の突帯がめぐり、浮文が貼付されている。012 は、胴部片で 2 条の三角突帯を持つ。胴部は細めの長胴形で、突帯や浮文の数も多いことから、弥生時代後期中葉の所産であろうか。以上のように壺は、弥生時代後期後葉の様相を示し、さらに新段階への過渡期の様相を呈していると考えられる。

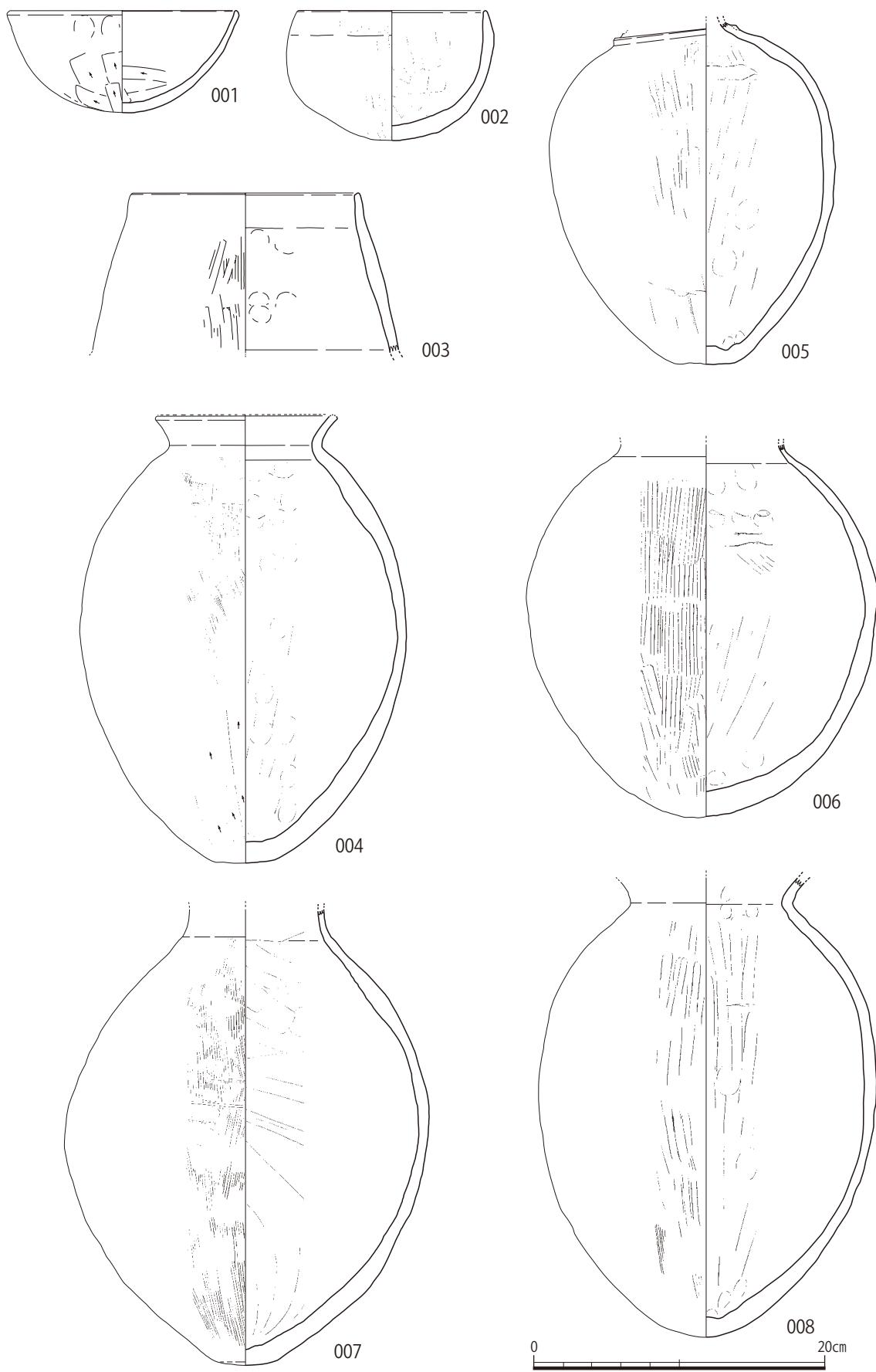
015～036 は甕である。015～022 は平底であり、中でも 019・020 は上げ底状の底部。017 は口縁端部が肥厚気味の資料である。023 は底部を欠損する。024～033 は甕の口縁部から胴部片、034・035 は甕の口縁部片。036 は甕の底部。甕の口縁端部は、丸くおさめるものと、面取り風に調整するものの 2 つのタイプがある。甕の底部は小さいものの、平底が基本であり、凸レンズ状を呈すものはない。胴部は長胴形が基本であり、甕内面にケズリ調整は施されない。甕は弥生時代後期後葉の様相を示していると考えられる。

037 は蛇紋岩製のすり石である。

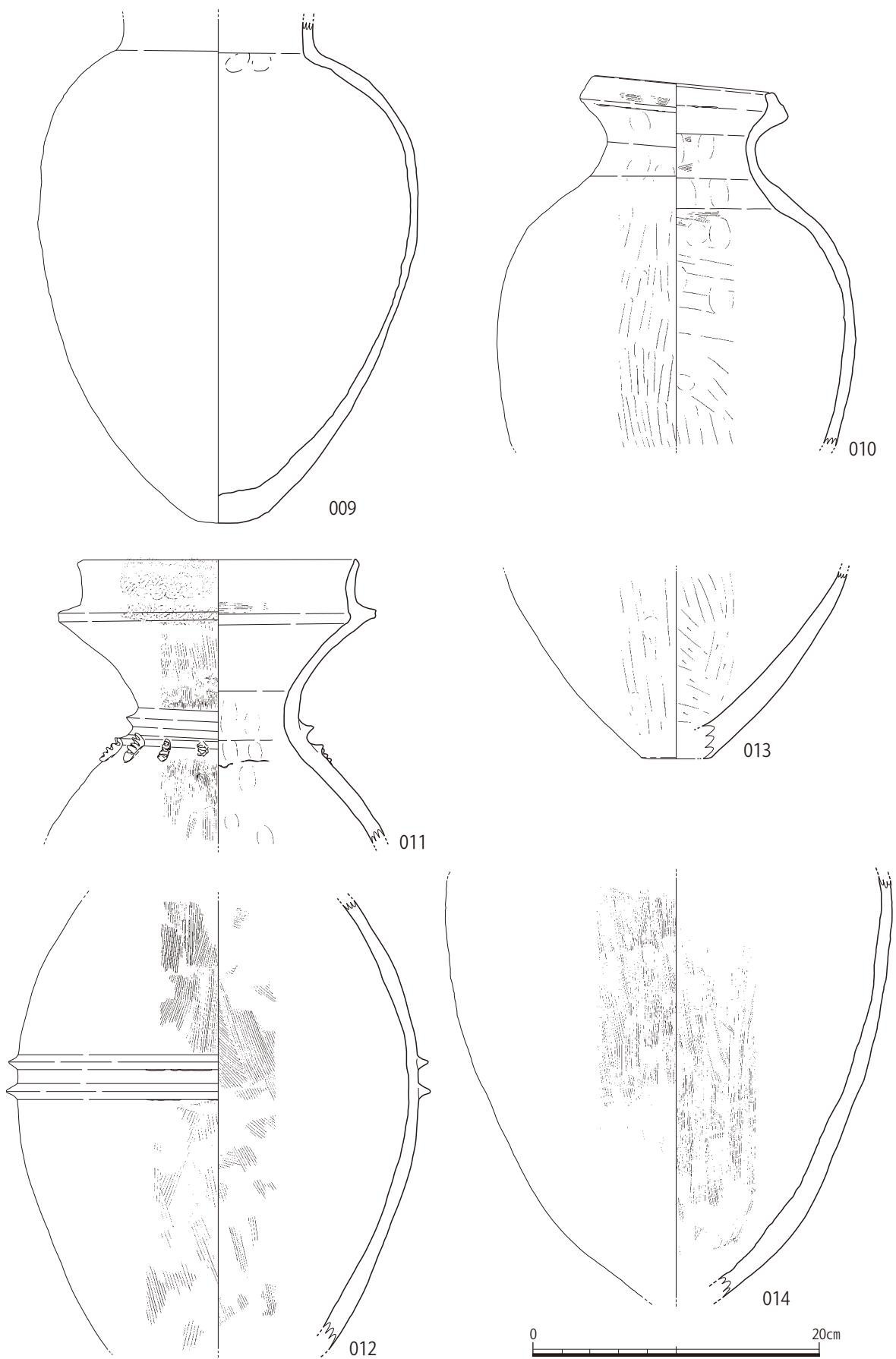
出土遺物の様相は、弥生時代後期中葉を示す 012 の安国寺式複合口縁壺以外は、弥生時代後期後葉の様相を示していると考えられ、一部に新相を示す 006 のように胴部の球形化が進み、底部が丸底化した資料が混在する。



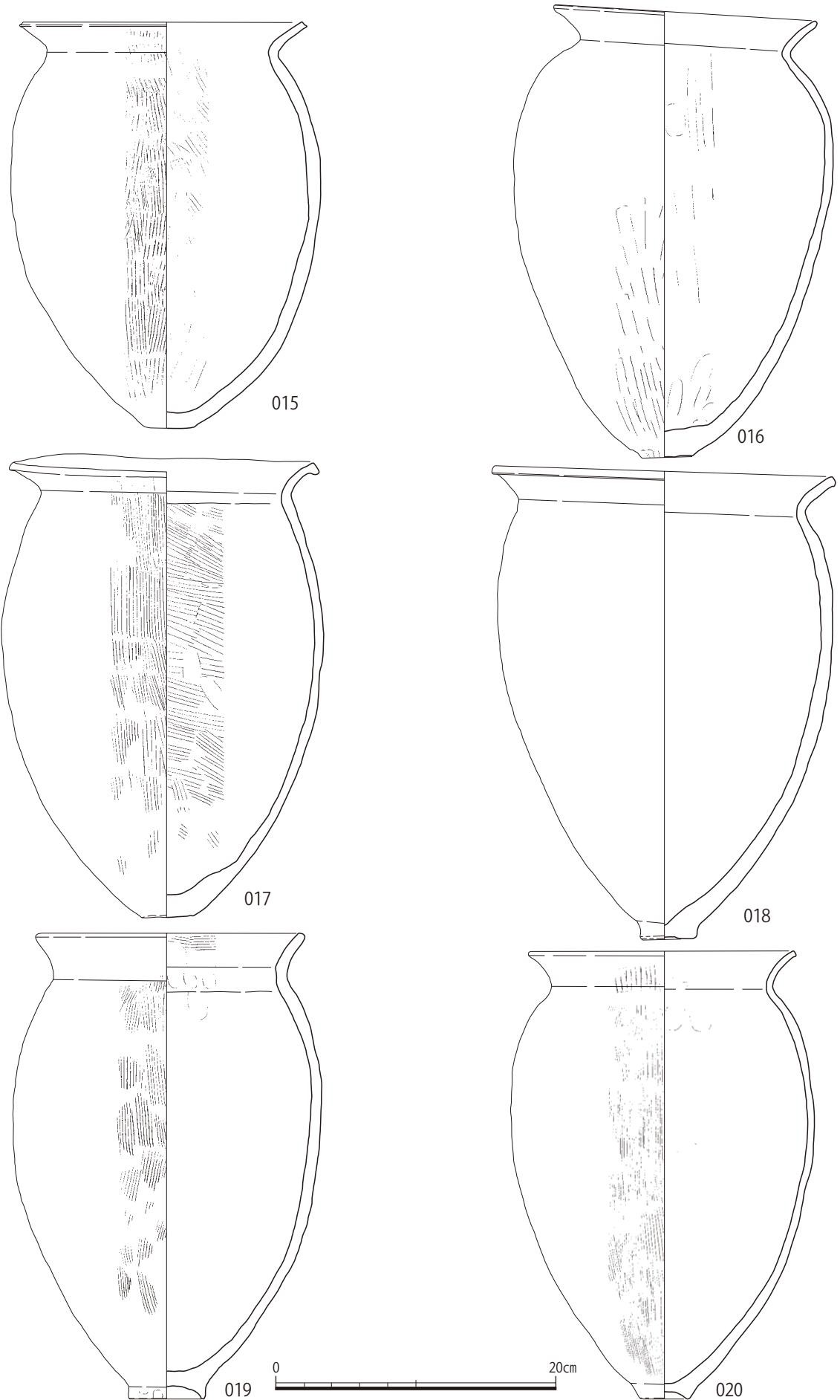
第 16 図 23SX038 遺構実測図 (1/40)



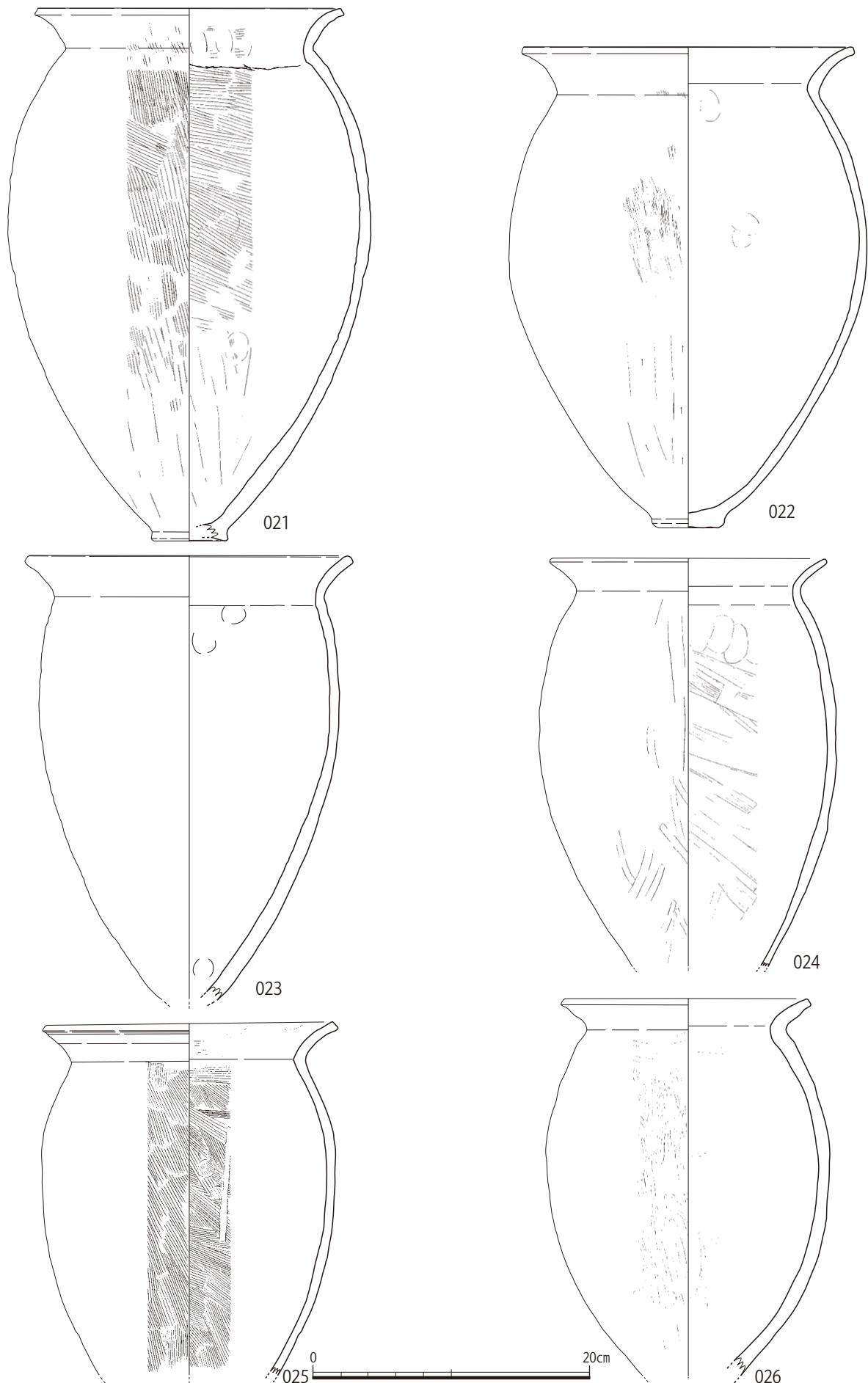
第17図 23SX038 出土遺物実測図1 (1/4)



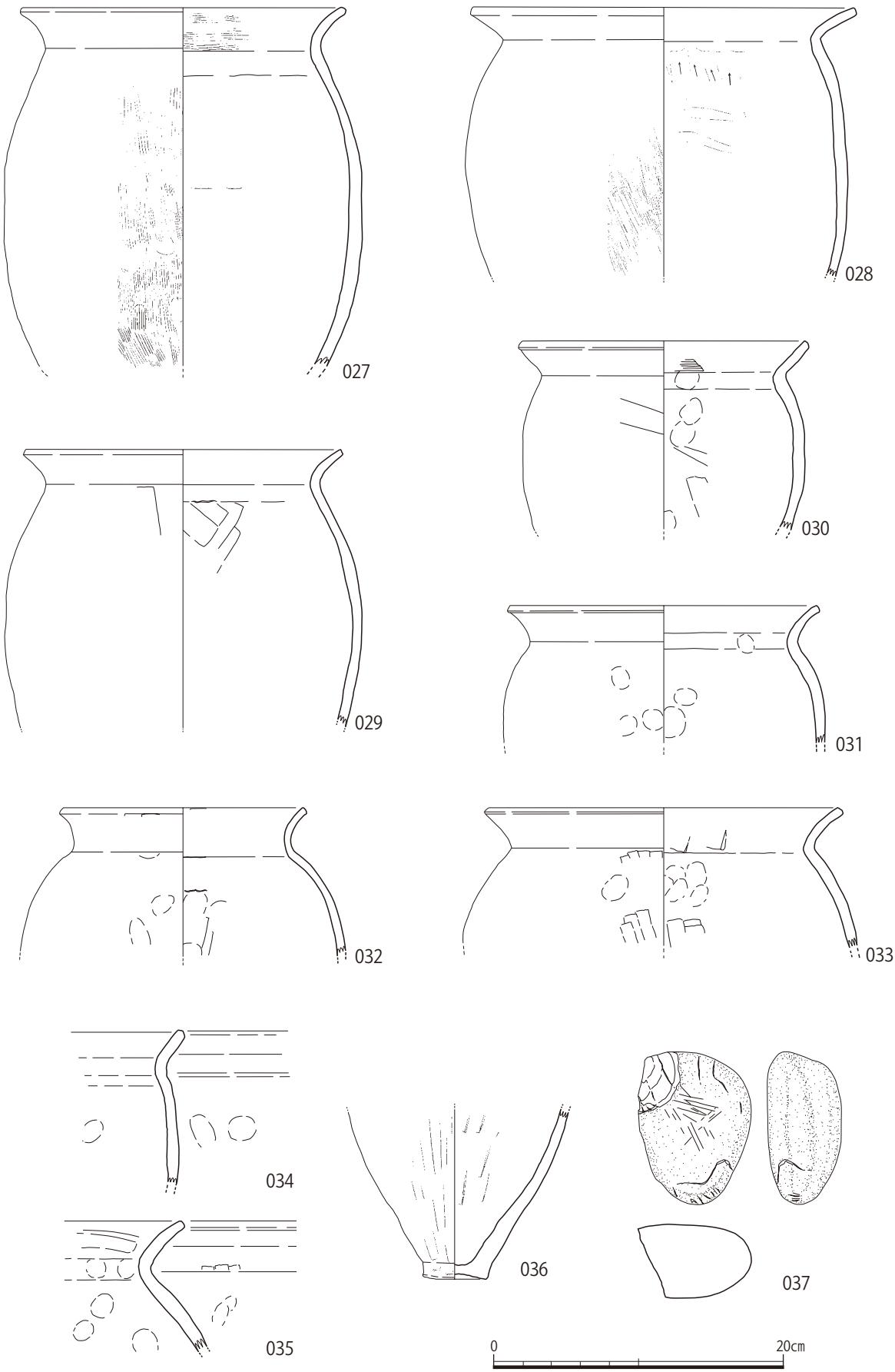
第18図 23SX038 出土遺物実測図2 (1/4)



第19図 23SX038 出土遺物実測図3 (1/4)



第20図 23SX038 出土遺物実測図4 (1/4)

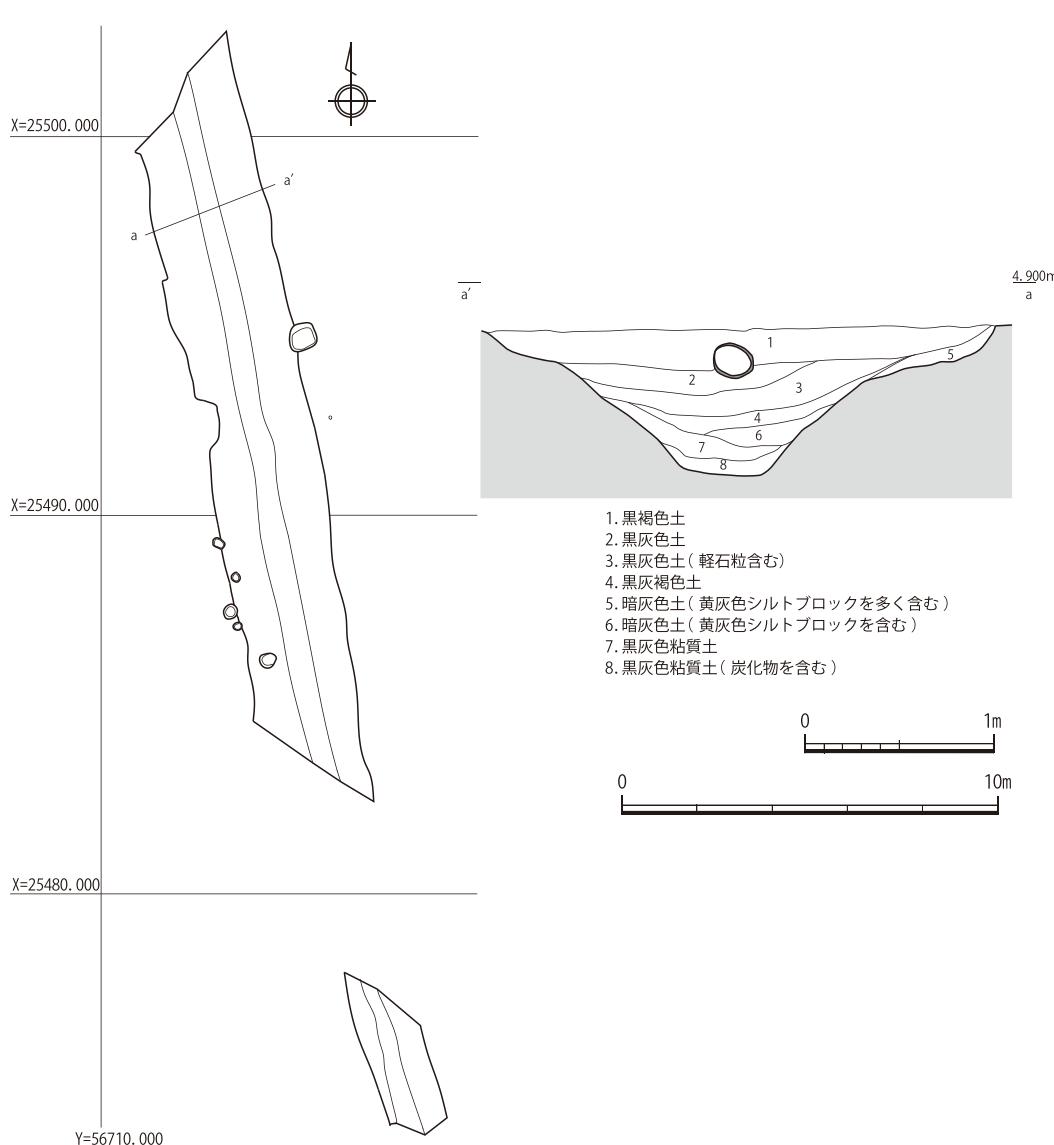


第21図 23SX038出土遺物実測図5 (1/4)

**23SD001（第 22 図）**

23SD001 は、調査区の西端で検出した溝状遺構で、南北方向に延び、主軸方向は N-12.7° -W である。西側に隣接している第 20 次調査で検出した 23SD001 に連続するものである。東側拡張調査区においても、ほぼ同時期と推定される大溝 (23SD170) を検出しており、これらは一連の環濠と考えられる。

最大幅約 3m、最大深さ 1 m で、断面形状は、逆台形状を呈している。最上層では、やや広がっているが、これは埋積時に肩部が崩落した結果であろう。埋土は最上層を除き、黒灰色～暗灰色土を基調とする。7・8 層は特に粘質土からなっており、滞水した状態により堆積した可能性が考えられる。調査時にも常に湧水があり、渴水時期を除いて滞水していた。4・6 層と 7 層の間には不整合がみられ、少なくとも 1 回の掘り返しが行われたと推定される。溝内には、大量の土器が廃棄されていた。土師器甕・壺・高坏・鉢などと共に、猿形土製品と製塩土器が出土しているが、出土遺物はおもに 1 層～3 層で出土しており、一定程度埋まった時点で土器が廃棄されていることが窺われる。遺物は、古墳時代前期中葉を中心とした資料であり、溝の埋没時期もほぼこの時期と推定できる。



第 22 図 23SD001 遺構実測図 (1/200・1/40)

## 23SD001 出土遺物（第 23 図～第 59 図）

出土遺物には、ミニチュア土器、器台形土器、高坏形土器、鉢形土器、壺形土器、甕形土器、土錘、石器などがある。

### ミニチュア形土器・器台形土器（第 23 図 001～020）

001～011 はミニチュア土器鉢。012・013 はミニチュア土器壺。014 はミニチュア土器の底部片。015 は皿状の受け部に直線的に広がる脚部を持つ小形器台である。016 は皿状、017 は直線的に広がる中空の小形器台の上半部である。018～020 は小形器台の脚部で、019 はやや内湾気味に開き、円孔が中位に 3 箇所施す。

### 高坏形土器（第 23 図～第 26 図 021～087）

今回掲載する大道遺跡 20 次・23 次・32 次調査検出の溝状遺構からは、多数の土師器高坏が出土している。その形態はさまざまであり、高坏形土器は坏部形状と脚部形状により組合せられるため、それらを二分して分類した。まず坏部形状を A～D 類に分け、次に組合せられる脚部形状を分類した。第 187 図に掲載した分類表を基に記述する。23SD001 土師器高坏について述べる前に分類について説明を加える。

坏部形状から高坏 A～D 類の 4 タイプに分類した。

高坏 A 類 棱をもって大きく外反する口縁部を有するもの

高坏 B 類 坏部の下半が有段を呈し、概ね直線的に外傾する口縁部を有するもの

高坏 C 類 棱をもって概ね直線的に外傾する口縁部を有するもの

高坏 D 類 坏の受け部が深く緩やかに外反する口縁部を有するもの

高坏 A 類はいわゆる弥生土器の系統を残す在地系のものである。脚部は円柱状の脚柱部に棱をもって屈曲する脚裾部を有するものと組合せられる。

高坏 B 類は外来系の技法がみられるもので、坏部に有段を有する畿内系（庄内式系）の技法を模倣した高坏と考えられる。脚部は脚柱部に下部に広がりをもち、棱をもって屈曲する脚裾部を有するものと組合せられる。口縁部が外反するなどの在地系の様相も残るが、調整は丁寧な横方向のミガキがみられ外来系の影響を受けている。

高坏 C 類は外来系（布留式系）の技法を模倣した高坏と考えられる。口縁部が外反気味のものもあるが、坏底部は水平化が進み、口縁部も直線的をなす。坏口径 20cm～27cm と大型のものから次第に縮小化（10cm～17cm 程度）が進む。それに伴い坏の深さも浅くなる。内外面にはミガキ調整が施されているが、次第にハケ目やナデなど調整に手抜きがみられる。高坏 C 類に組み合せられる脚部はバリエーションが多く、a～e 類に細分した。

脚 a 類 脚柱部の下部に広がりをもち稜をもって屈曲する脚裾部を有するもの

脚 b 類 脚柱部から稜をもって低平に屈曲する脚裾部を有するもの

脚 c 類 ラッパ状で稜をもたず直線的に広がるもの

脚 d 類 長脚で稜をもって緩やかに広がる脚裾部を有するもの

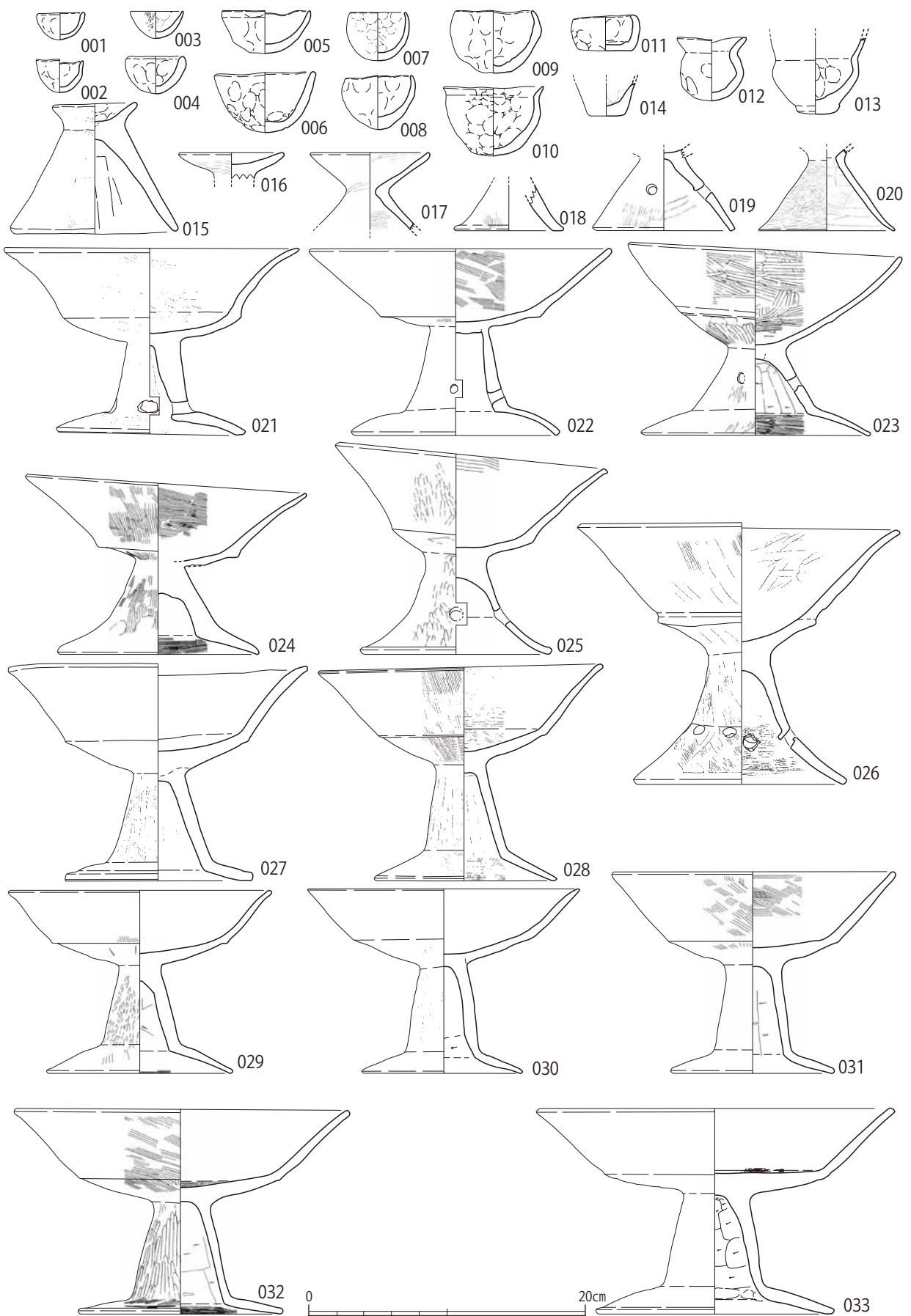
脚 e 類 脚柱部が細長く稜をもって低平して屈曲する脚裾部を有するもの

高坏 C 類に組み合せられる脚部は、坏部と同様に外面はミガキ調整からハケ目・ナデと調整に手抜きがみられる。内面調整はケズリが施されるようになるのが特徴的である。それにより器壁は次第に薄くなる。

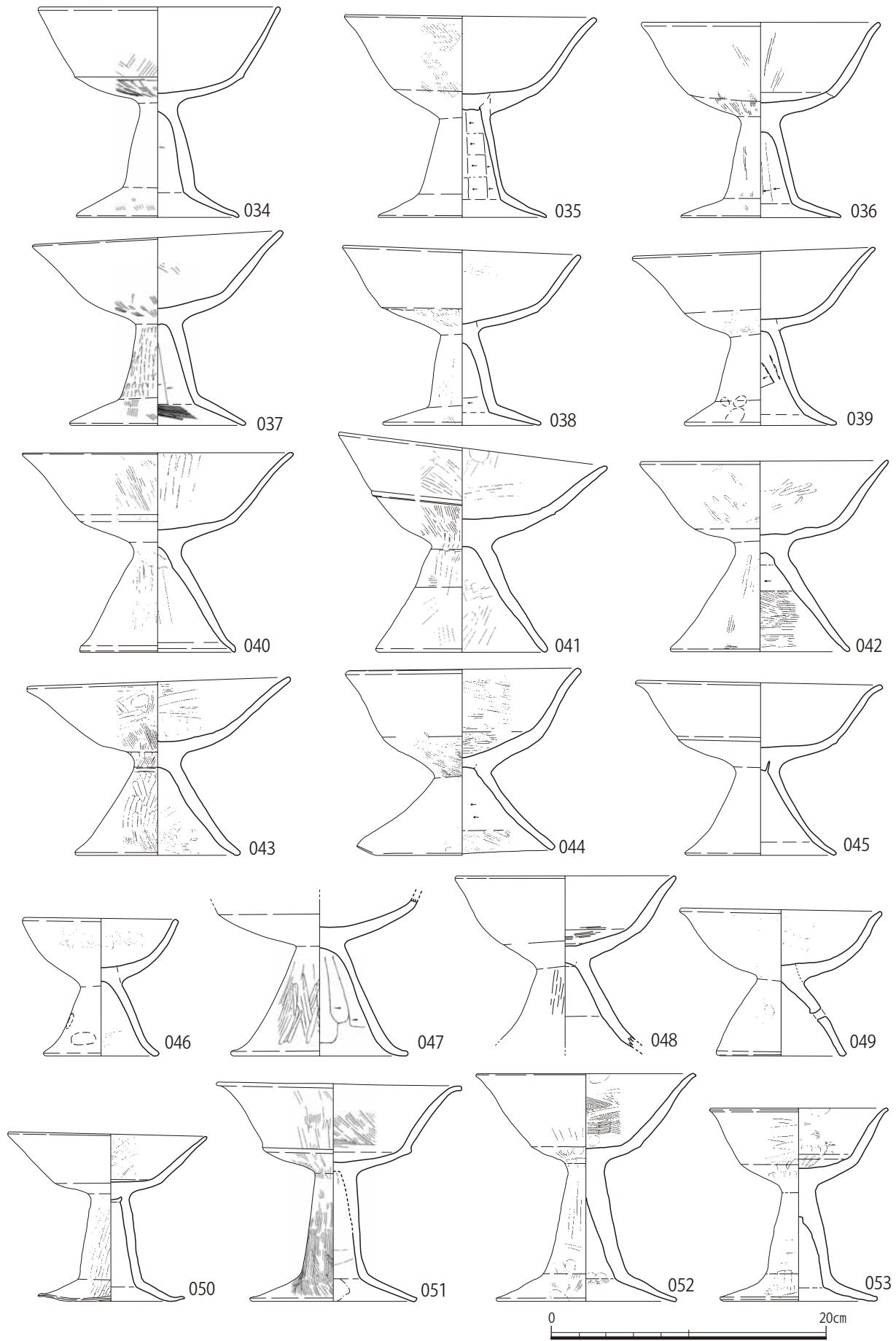
高坏 D 類は弥生土器の系譜をたどる在地系の高坏で、台付鉢の形状に類似している。守岡遺跡 19 号住居跡出土の高坏と同様のものと考えられる。脚部は低脚でラッパ状に広がるものが組み合う。

以上の分類をもとに本文の記述を行う。

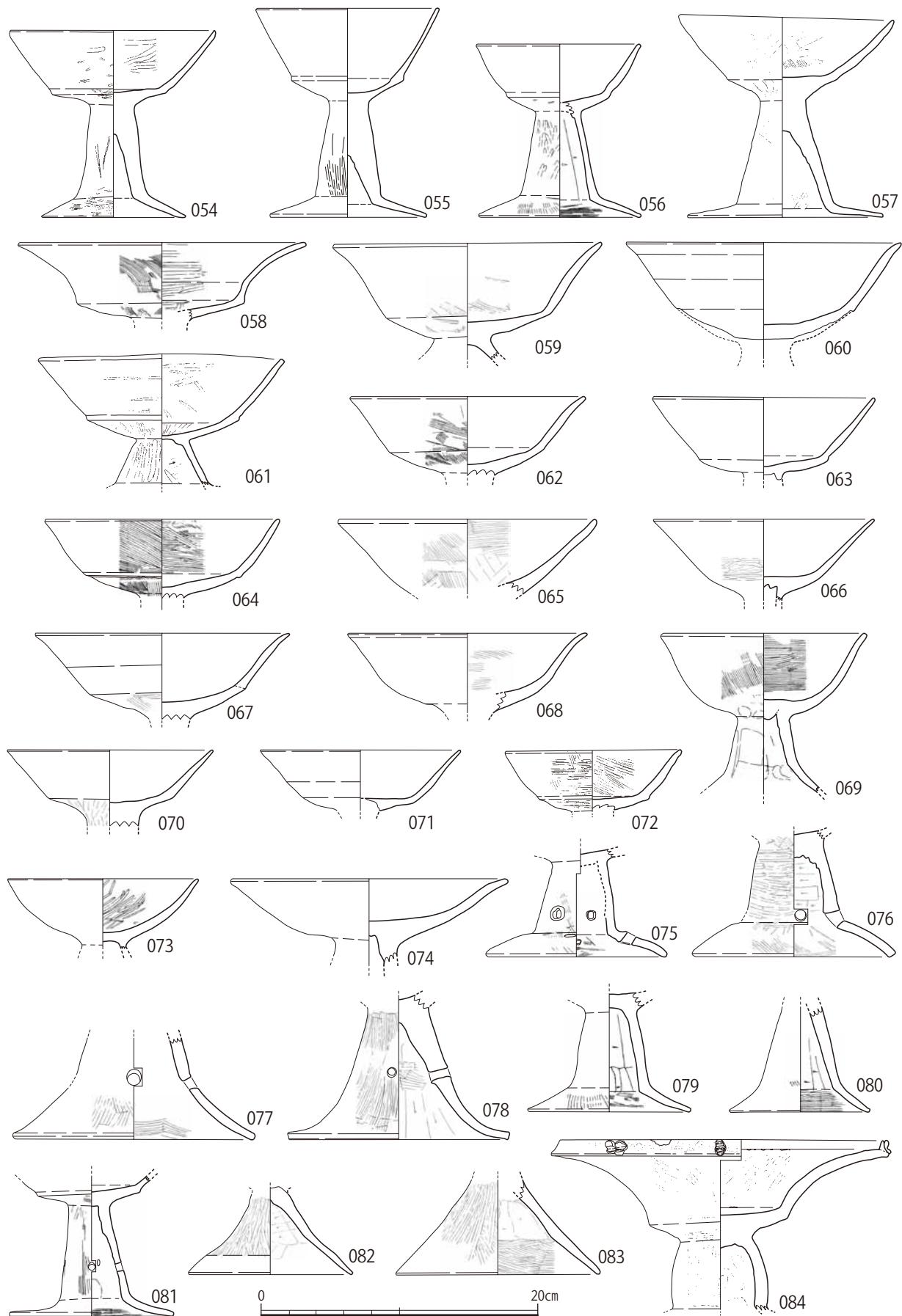
021～083 は土師器高坏である。021～057 は坏部が稜をもって直線的に外傾する口縁部をもつ高坏 C 類である。021～026 は、脚柱部が下部に広がりをもち稜をもって屈曲する脚部に、坏の深さが器高の 1/2 程度と深めの高坏 Ca 類。概ね坏口径 20cm～24cm を測る。021～023 は脚裾部に膨らみをもつ。円孔は脚部の



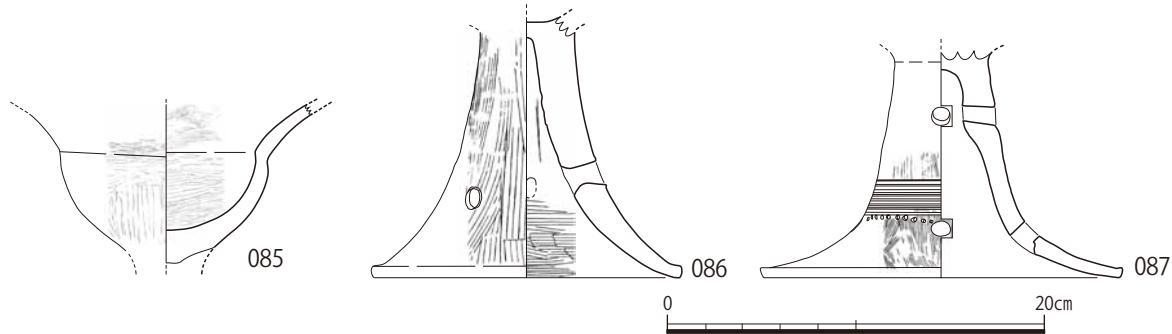
第23図 23SD001 出土遺物実測図1 (1/4)



第24図 23SD001出土遺物実測図2 (1/4)



第25図 23SD001出土遺物実測図3 (1/4)



第26図 23SD001出土遺物実測図4 (1/4)

屈曲部より上位に施す。024は脚部外面の稜は不明瞭だが内面の稜は明確である。025・026は脚部の屈曲部付近に円孔を施す。027～039は脚柱部から稜をもって低平に屈曲する脚部に、壺の深さが器高の1/3程度と浅めの高壺Cb類。脚部内面はヘラケズリ。027～031は壺口径20cm前後を測る。032・033は大型の壺部で、032は口径24.2cm、033は口径25.9cmを測る。034～039は壺口径17cm前後で、027～033よりもやや小さめで深い。040～049は脚部はラッパ状で直線的に広がり、浅めの壺部をもつ高壺Cc類。概ね壺口径16～21cmを測る。043は壺部が皿形状である。044・045は口縁端部を外方に少しつまみ出す。046～048は脚端部が外側に折れる。049は口縁端部を少し外方につまみ出し、脚部はやや膨らみ気味に広がる。脚部中位に円孔を施す。046・049は壺口径11.4cm、14.5cmと小形である。050～057は脚柱部が細長く稜をもって低平に屈曲する脚部で、壺口径16cm前後の小さめの壺部をもつ高壺Ce類。050は脚裾部の端部が跳ね上がる。051～053は口縁端部を少し外方につまみ出す。054～057は口縁部がやや内湾気味である。056・057は口縁部の中位が肥厚気味。058～072は高壺C類の壺部の資料。058～061は壺口径21～24cm前後の深めの壺部。062・064・065は壺口径17～20cm前後の浅めの壺部。067・068は壺口径17cm前後のやや小さめの深い壺部。063・066・071・072は壺口径12～16cmの小さめの壺部。074は椀状を呈する壺部。075は壺の深さが3.2cmと極めて浅い皿状の壺部片。076～082は高壺C類と組合せられる脚部である。075～078は脚a類である。075・076は脚裾部が膨らみをもつ。円孔を屈曲部の上位に施す。077は円孔が屈曲部分、078は脚柱部の中位に施す。079・080は脚d類である。081は脚g類で、円孔は脚柱部中位に施す。082・083は高壺Ce類もしくは小形器台の脚部。084は装飾高壺で口縁端部が立ち上がり、3～5条の波状文を巡らす。その上に浮文4箇所が認められる。残存部分から浮文に1本の沈線のあるものは2個1組で、2本の沈線のものは1個単位で、交互に8箇所貼付されていたと考えられる。

085～087は弥生時代後期終末期の所産と考えられる。085は弥生土器高壺の壺部片。086・087は脚部の資料である。086は円孔を4箇所施す。087は円孔が脚上部に4箇所と裾部に残存2箇所に認められ、下部の円孔の上部に多条の沈線を巡らす。

23SD001では、土師器高壺は高壺C類のみが出土している。その中でも、高壺Ca類の割合は少なく、一方で壺部が浅い高壺Cb類と高壺Cc類が大半を占める。調整は脚部の内面にケズリがみられる。古墳時代前期中葉でも新相を示すものか。また050～057のような植田市遺跡E区溝Iを標識とする古墳時代前期中葉から後葉の布留式系高壺と同様の高壺Ce類のものが多くなる。全体の様相は、弥生時代後期終末期の遺物も混在するが、主体は古墳時代前期中葉から前期後葉の時期と考えられる。遺物の主体は古墳時代前期中葉であると考えられる。

### 鉢形土器（第27図～第30図）

今回報告する大道遺跡群第20次・第23次・第32次検出の溝状遺構の出土遺物には、報告書掲載点数約230点の鉢形土器が含まれている。その形状は壺・皿に近いごく浅い形状のものから脚台付のもの、屈曲した口縁部を有する深鉢型のものなど多種多様に渡る。報告にあたり、鉢A～G類のように、形状別に以下通りに

分類を行った。更に、A～Dは口縁部／器高の値を算出して数値化し、基準を設けて1:浅いもの、2:深いものと細分した。各基準に関しては、後述する。尚、各分類は、第188図に掲載している。

鉢A類には、壺・皿に近い形状をしたものと分類した。浅い形状のものから順に並べて整理し、前述の算出方法により2.5を境に、2.5を超えるものを浅いもの(鉢A1類)、1.5から2.5を深いもの(鉢A2類)とした。口縁部形状は主に直線的・やや内湾気味・外反気味の三つからなる。

鉢B類には、鉢A類よりも深い壺・皿に近い形状をしたものと分類した。値1.0から1.5のもの(鉢B1類)、1.0に満たないもの(鉢B2類)である。鉢B2類には弥生時代の所産と思われる底部形状が尖底で長胴タイプのものが多く含まれる。また、鉢A類と比べ、底部厚が厚いものが多い。

鉢C類には、口縁部に屈曲を有する浅い形状の鉢を分類した。値2.5を超えるもの(鉢C1類)、2.0から2.5のもの(鉢C2類)とあり、屈曲部の締りはゆるい。

鉢D類には、口縁部に屈曲を有する深い形状の鉢を分類し、値2.0に満たないものをこの鉢D類とした。小形から中形(口縁部径35cm未満)のもの(鉢D1類)、大形(口縁部径35cm以上)のもの(鉢D2類)、山陰系と思われる複合口縁を有するもの(鉢D3類)とあり、屈曲部に突帯を有するものを含む。底部形状は大部分が丸底化している。

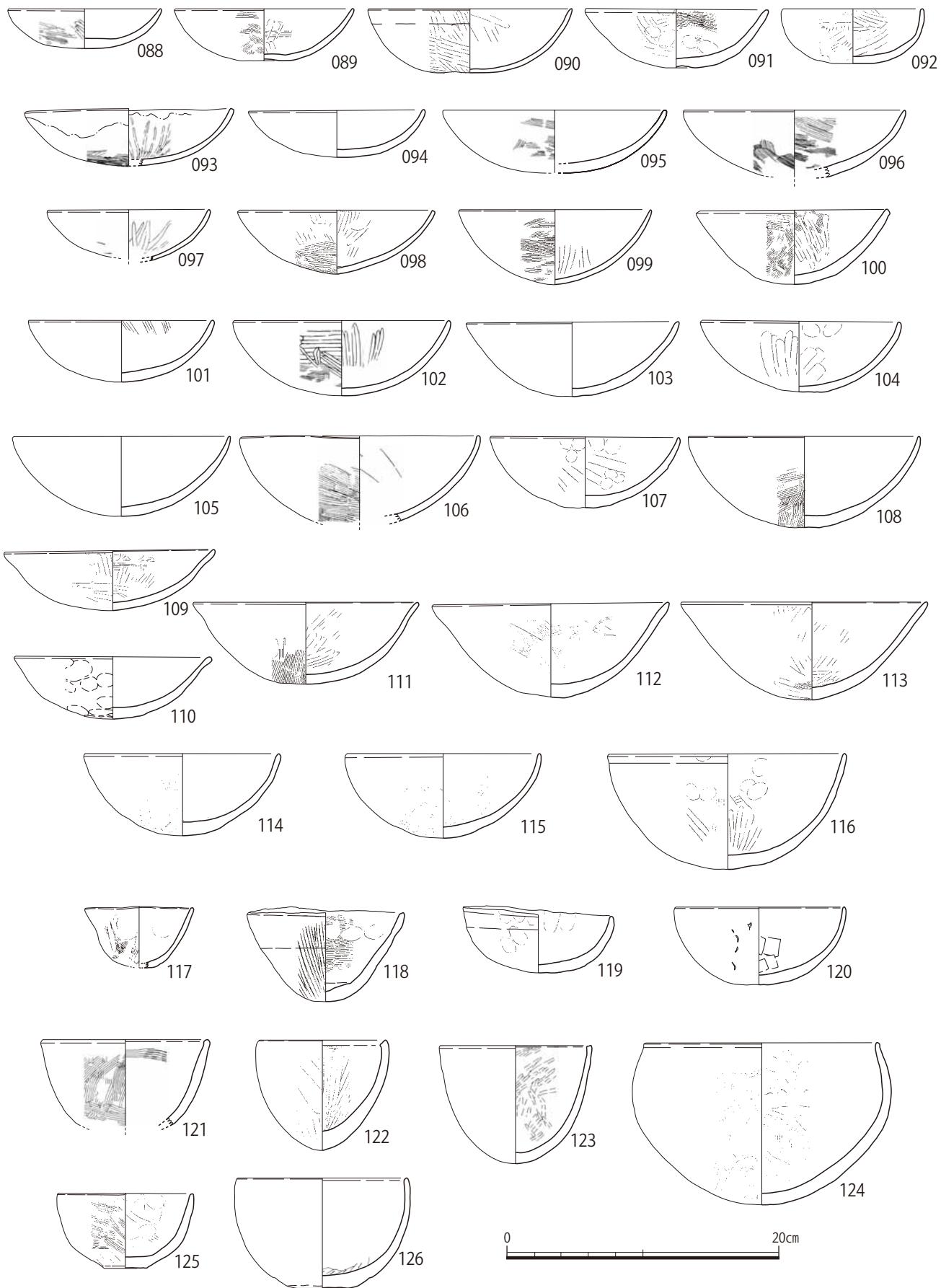
鉢E類には、壺・椀の形状を呈する鉢に脚が付いたものを分類した。細分類はしていないが、高壺の脚に近い脚部形状、外反しない短い脚部形状などもこの鉢E類に分類した。脚台部には指頭圧痕、工具痕が認められる。

鉢F類には、口縁部が屈曲する形状の脚台付鉢を分類した。鉢E類同様、脚部形状での細分類は行っていない。

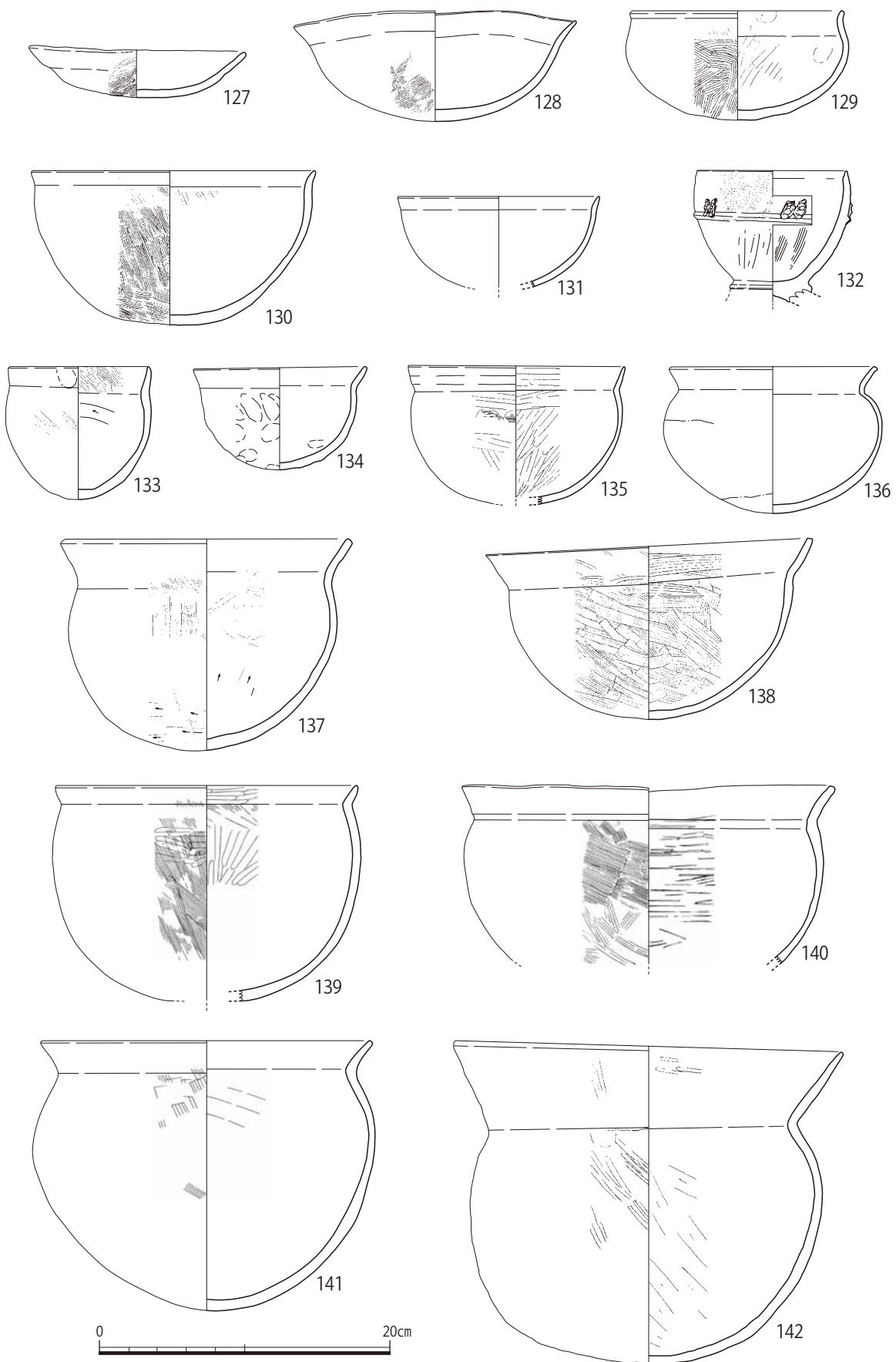
鉢G類には、平底を呈する鉢を分類した。口縁部径の値が18cmに満たない小形のもの(鉢G1類)、18cmを越える大形のもの(鉢G2類)である。

088～113は鉢A1で、皿・壺に近い形状の小形の浅い鉢である。088はレンズ状の底部を呈する。089～091は直線的に外方に伸びる口縁端部、092は平底気味の底部。093～097は直線的に上方に伸びる口縁端部を有し、093には内外面共にスヌの付着がみられる。098～103は直線的で外方へと伸びる口縁部と、尖底気味の底部を有する。104～108は軽く内湾する口縁端部を有し、104は全体にスヌ付着。109～113は外反する口縁端部を有する。114～121は鉢A2で、椀型の小形の鉢。114・115は僅かに内湾した口縁端部と、丸底の底部。116は赤色塗彩を施し、直線的に上方に伸びる口縁部と、丸底の底部を有する。117・118・121は直線的に外方に伸びる口縁と、尖底を呈する。118は赤色塗彩を施す。119・120は軽く内湾する口縁端部を有する。122～124は鉢B1で、深鉢である。122は器壁が厚く、内側へと入り込む口縁端部と、尖底を呈する。123は水平に整えられた口縁端部を有し、口縁部は直線的に伸びる。124は内湾する口縁部を有し、球形の形状を呈する。125・126は鉢G1で、小形の平底鉢。127は鉢C1で、口縁部に屈曲を有する浅鉢である。128～131は鉢C2で、C1よりも深い口縁部に屈曲を有する形状のものである。128は全体的に歪みが著しい。129は胴部に膨らみを持たせ、口縁端部を外方へと屈曲させている。132は鉢Eで、台付鉢である。内外面共に赤色塗彩を施し、中位に貼付突帯と等間隔に二つずつ並んだ浮文を5箇所有する。類例が下郡遺跡群第90次SX464から出土。133～148は鉢D1で、口縁部に屈曲を有する深鉢である。133～136は小形、137～148は中形の鉢である。140は外面にスヌの付着がみられる。144は内湾する口縁端部を有する。148は屈曲部に貼付突帯を有する。149・150は鉢D2で、口縁部に屈曲を有する深鉢である。共に屈曲部に貼付突帯を有する。150は内面にスヌが付着。151・152は鉢Fで、口縁部に屈曲を有する台付鉢である。151は曲線的に外反する口縁部を有し、胴部中位の器壁が薄い。153・154は鉢B2で、深鉢である。共に尖底で器壁が厚い。154は内湾する口縁部を有する。155は弥生土器鉢。平底を呈し、口縁部に歪みが見られる。156は分類不明の平底の鉢で、外器面全体に指頭圧痕が見られるため凹凸が著しい。

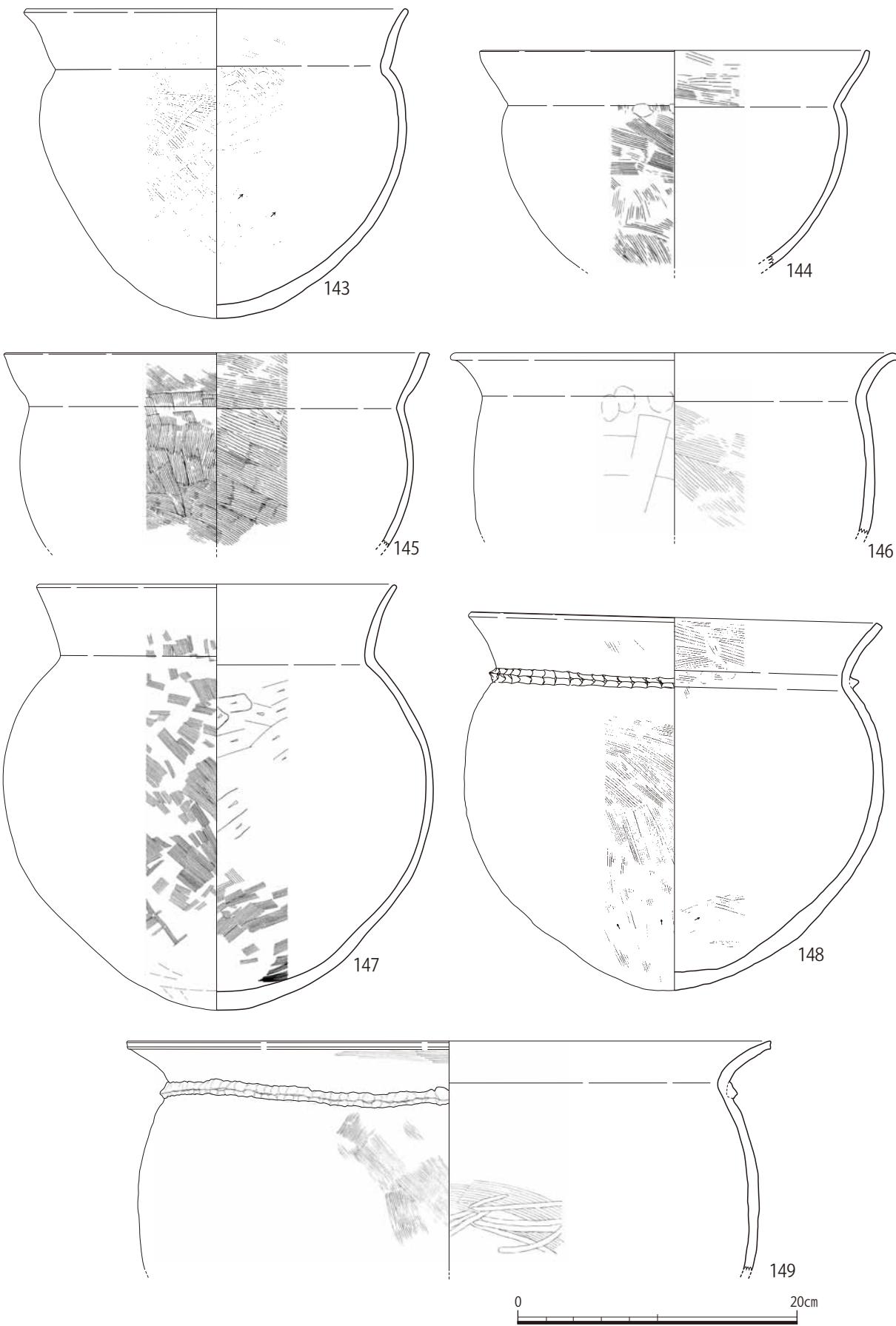
23SD001から出土した鉢は、丸底化した底部形状を呈するものが大半である。胴部も150をはじめ、球形化したものが多い。このことから、23SD001出土の鉢は主として古墳時代前期前葉(古相)から古墳時代前期後葉の所産であると考えられるが、平底の底部を有する小形の鉢(155)や長胴を呈する深鉢(153・154)もみられることから、弥生時代後期終末所産の遺物も僅かに含まれていると思われる。



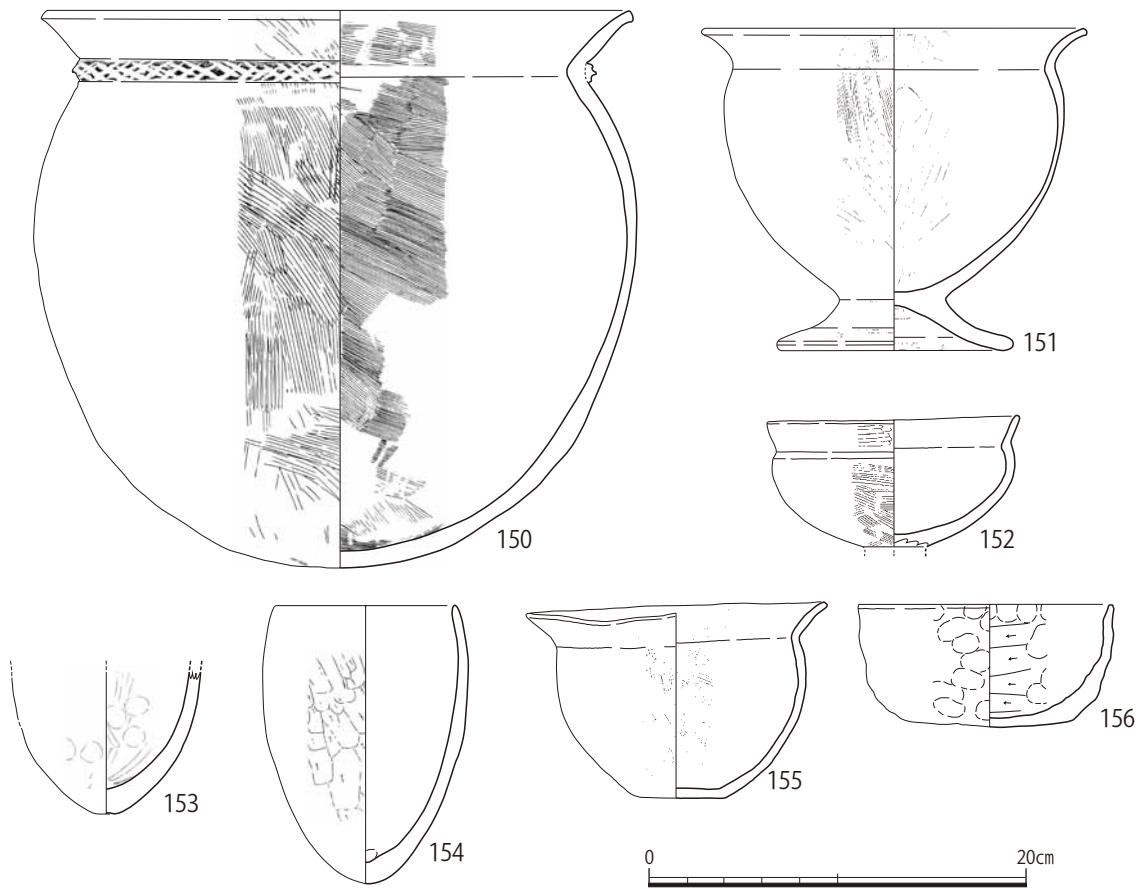
第27図 23SD001 出土遺物実測図5 (1/4)



第28図 23SD001 出土遺物実測図6 (1/4)



第29図 23SD001出土遺物実測図7 (1/4)



第30図 23SD001 出土遺物実測図8 (1/4)

**壺形土器（第31図～第40図）**

今回掲載した大道遺跡群第20次・23次・32次検出の溝状遺構からは、多くの土師器壺形土器が出土している。出土点数が多いため、壺形土器を形態からA～E類に分類し、分類表に基づいて記述した。壺A類：小形の丸底壺・鉢、壺B類：直口壺、壺C類：単口縁壺、壺D類：複合口縁壺、壺E類：二重口縁壺である。

ここでは、23SD001出土の壺形土器について述べる前に、今回の分類について説明を加える。分類表については、第189図に掲載している。

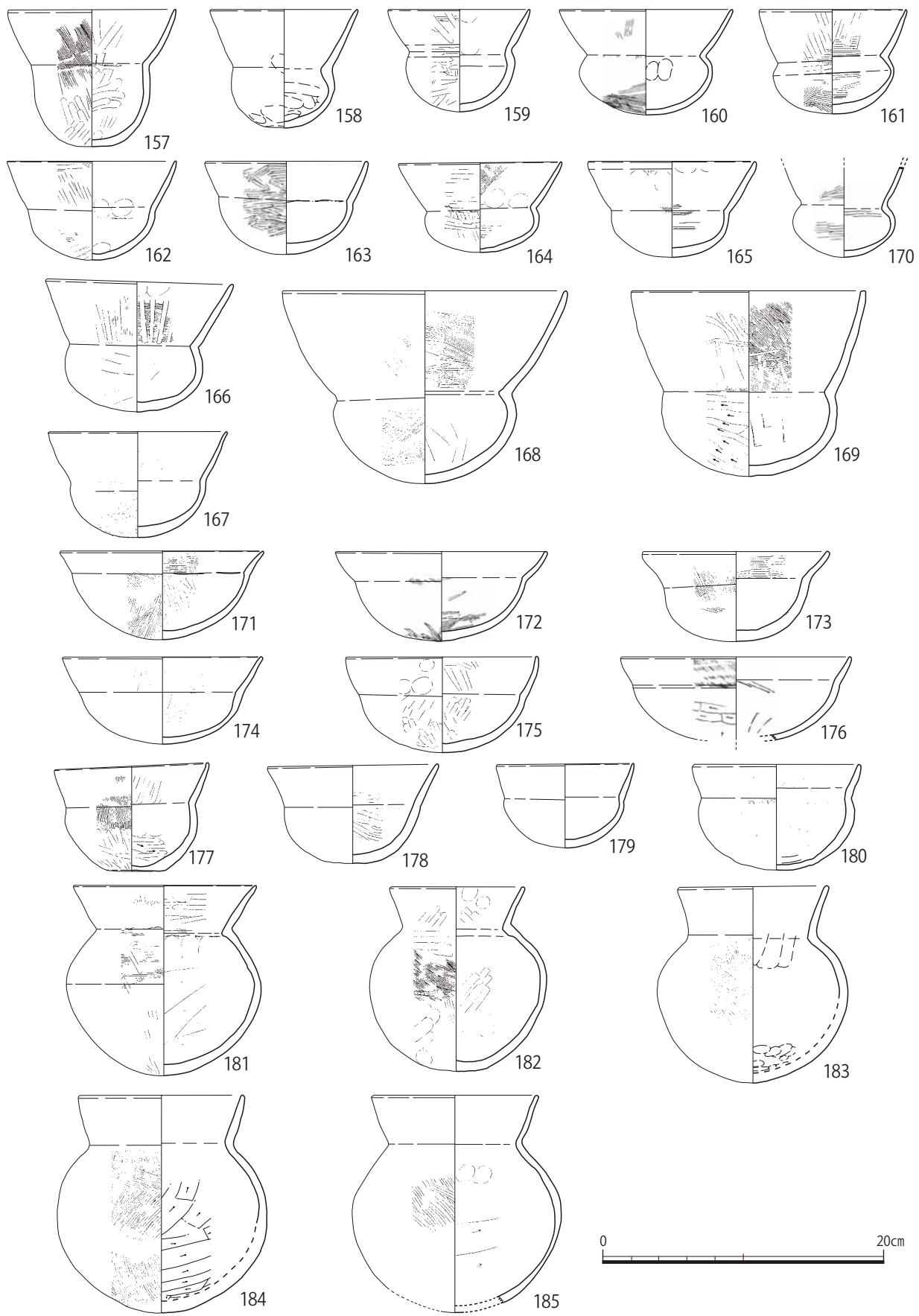
壺A類は、小形の丸底壺・鉢。壺A類には、大きく分けて①いわゆる畿内の影響のもとに成立した小形精製器種を構成する小型丸底壺と、②口縁部が、「く」の字形に屈曲する小形鉢から発展したもの、③さらに両者の影響を受け成立したと考えられるもの、があると考えられる。これらを一括し、主に形態の違いや、器高に対する口縁高の割合、口径に対する器高の割合などでさらに細分した。

①は、壺A-a類～壺A-b類、②には壺A-c類、③には壺A-d類～壺A-h類が、概ね相当すると考えられるが、調整技法の検討などから、更に細分できる可能性がある。

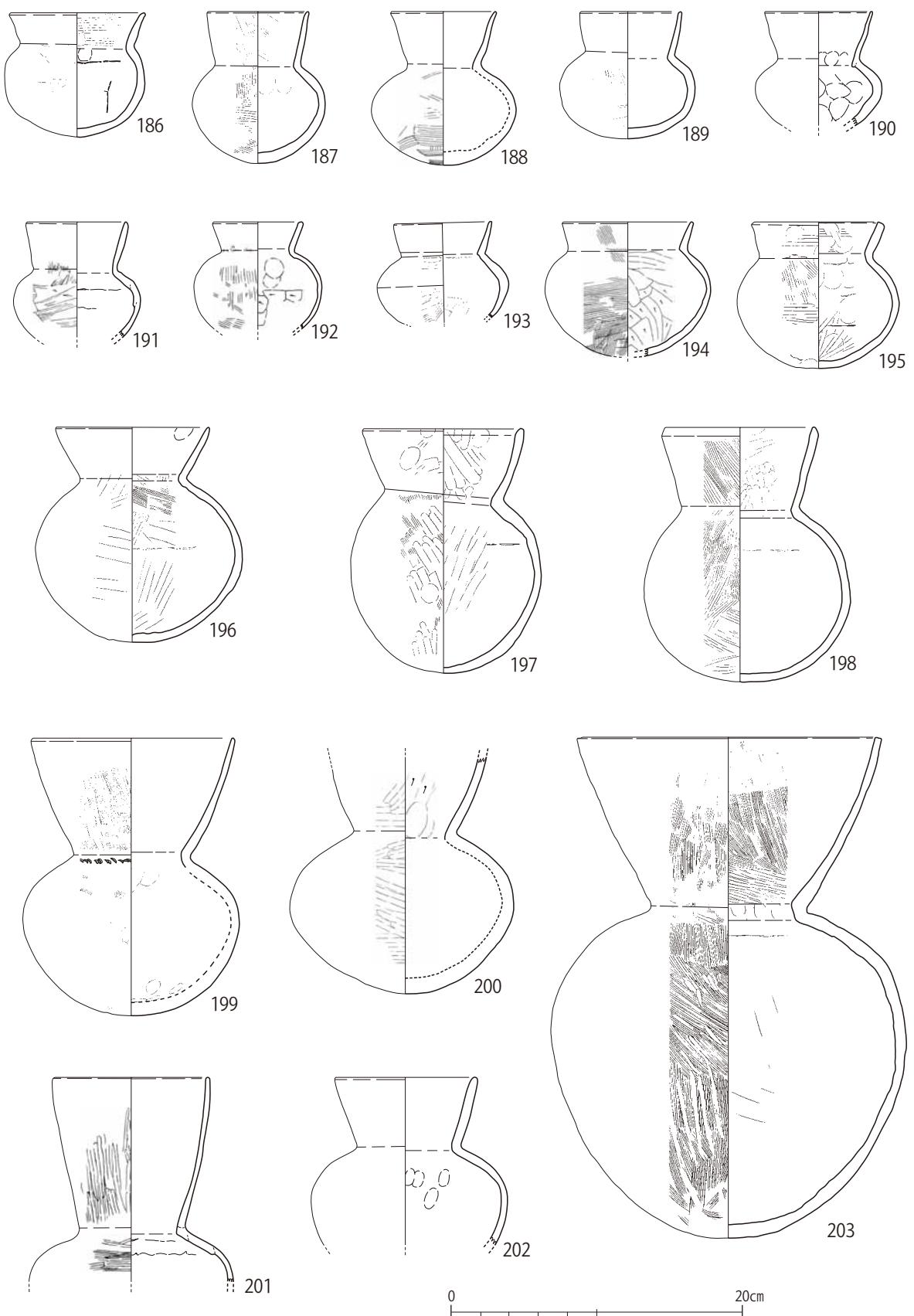
本書に掲載した次数で出土した壺A類の遺物は、ミガキを多用する精製と呼べるものは少なく、特に壺A-d類～壺A-h類は、器壁が厚く、粗い作りのものが多い傾向にある。外面はハケ目もしくは、ケズリのままなど、調整に手抜きがみられる。底部はほぼ丸底化している。

壺B類は、直口壺。おもに、器高15cm～20cm程の法量が主体であるが、30cmを超える大形品も混じる。口縁部高の器高に対する割合でさらに細分した。口縁部高が、概ね器高の1/3を超える資料が主である。口縁端部が外反する資料と、内湾する資料がある。内外面の調整は、ミガキ、ハケ目、もしくはナデである。

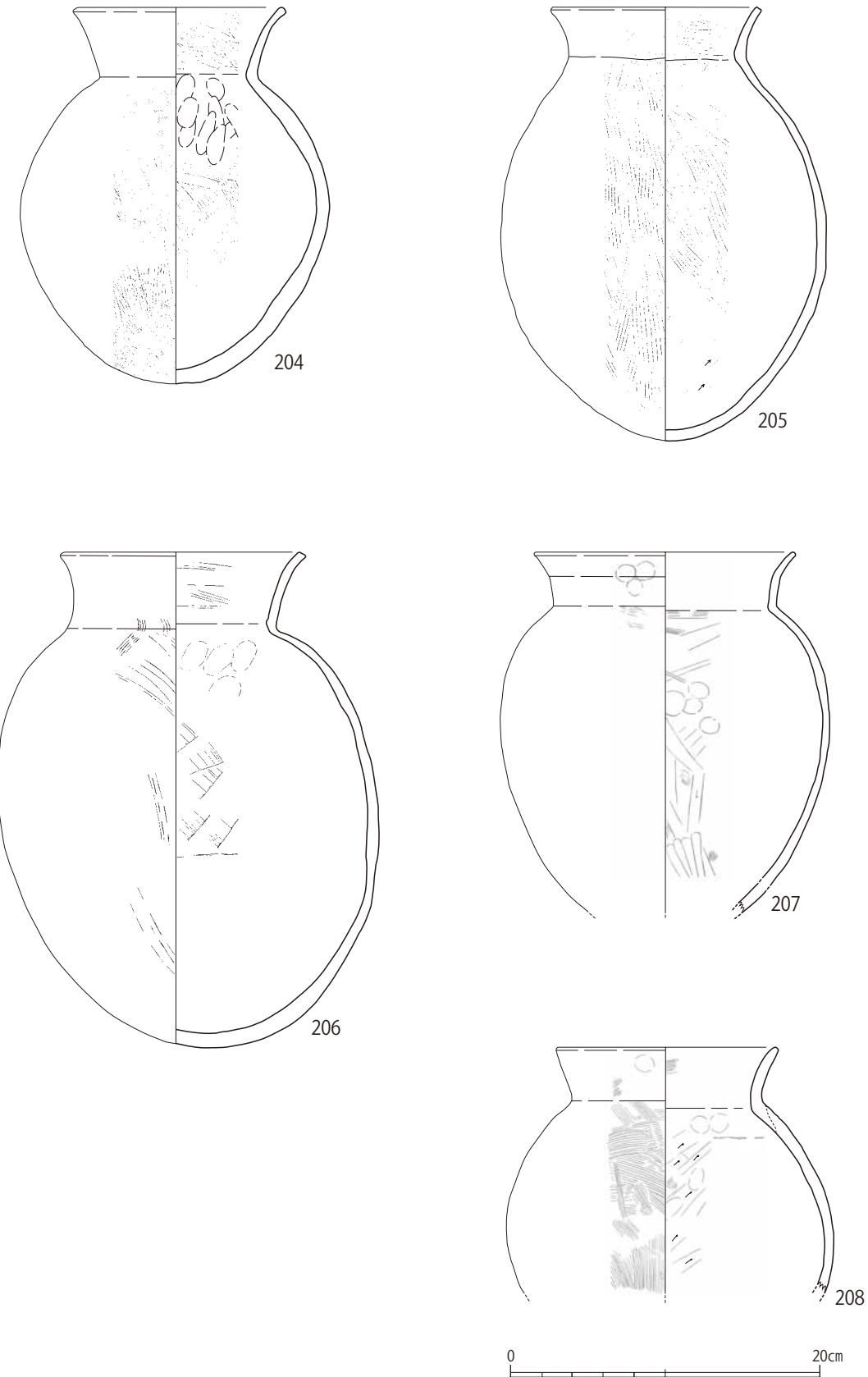
壺C類は、単口縁壺。器高15cm～20cmほどの中形のものと、25cmを超える大形の器種がある。底部は丸



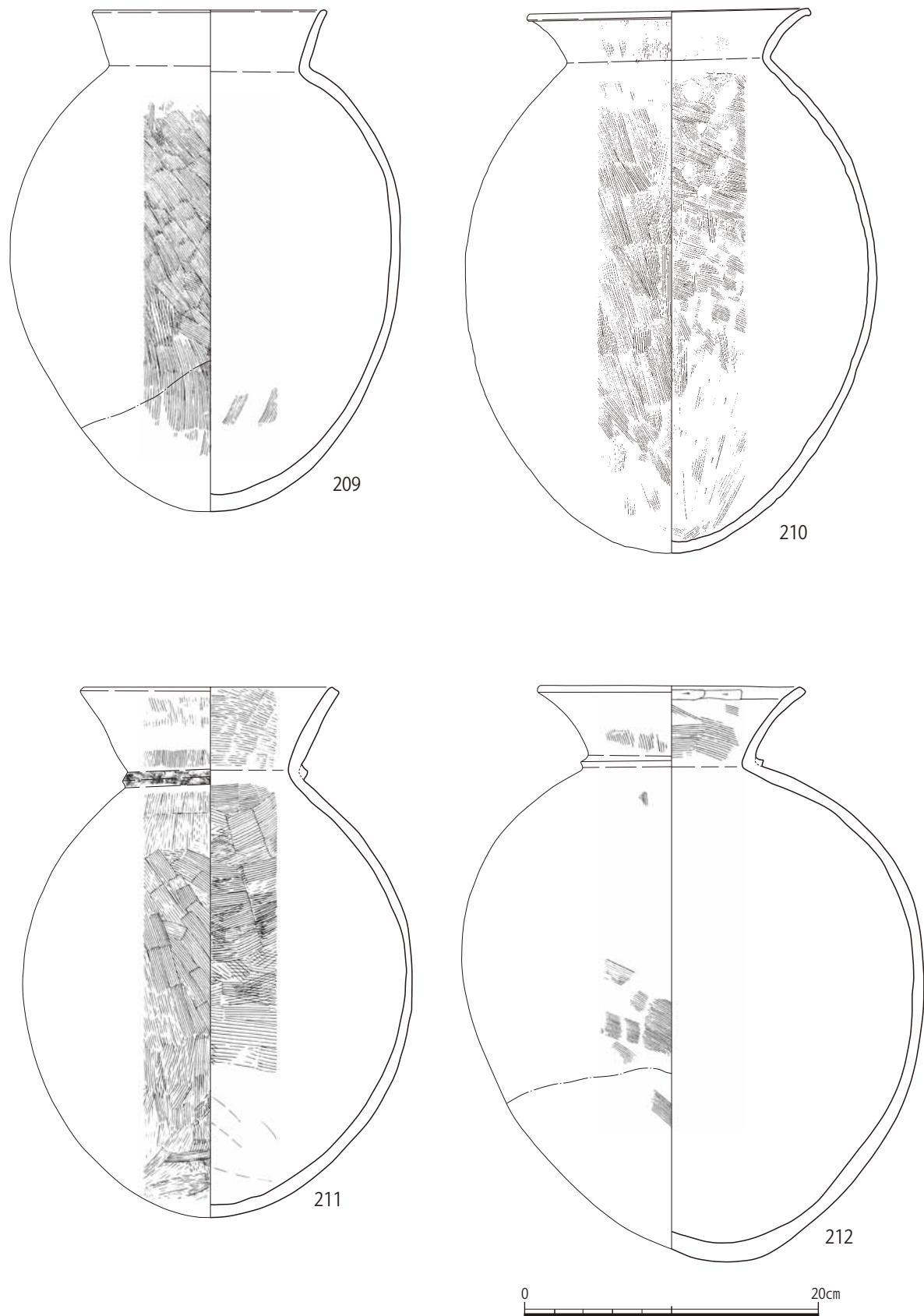
第31図 23SD001 出土遺物実測図9 (1/4)



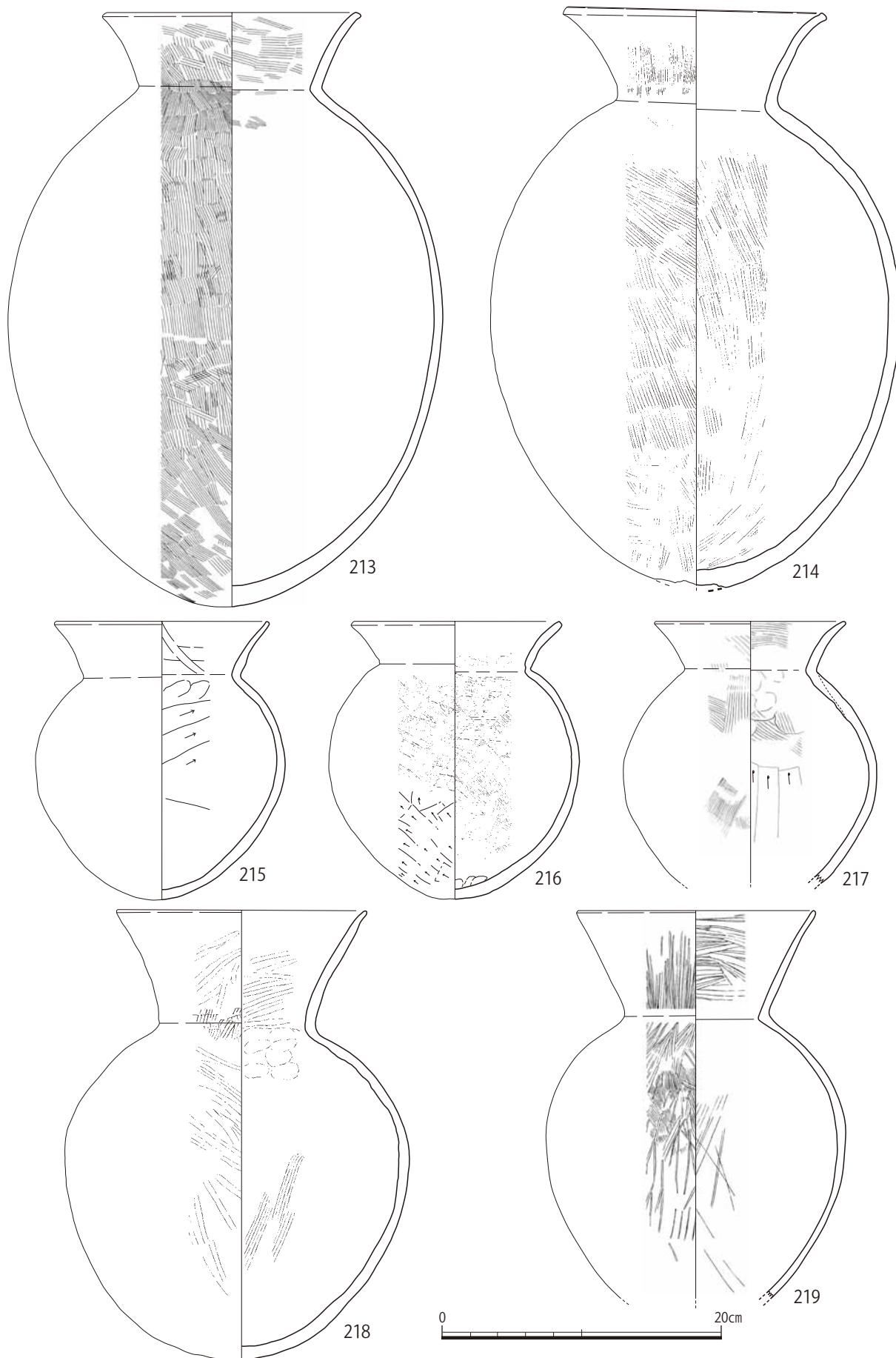
第32図 23SD001 出土遺物実測図 10 (1/4)



第33図 23SD001 出土遺物実測図 11 (1/4)



第34図 23SD001出土遺物実測図12 (1/4)



第35図 23SD001出土遺物実測図13 (1/4)

底化しており、内面調整にケズリを施す資料が存在する。長胴卵形の胴部に、外反ないし内湾気味に外方へ開く短い口縁部を有する資料（壺 C-a 類）などは、頸部に突帯を有するものがあり、弥生時代後期からの系譜をたどることができると考えられる資料である。さらに、胴部は長胴形であるが、より直線的に長い口縁部を有する資料（壺 C-b 類）や、球形化のすんだ胴部に外方へ開く口縁部を有する資料（壺 C-c 類）などは、外来系の影響を少なからず受けているものと考えられる。

壺 D 類は、複合口縁壺。弥生時代から続く在地系の「安国寺式」タイプの複合口縁壺（壺 D-a 類～壺 D-c 類）と、外来系（山陰系）と考えられるタイプの複合口縁壺（壺 D-d 類）がある。安国寺式タイプの複合口縁壺は、胴部、頸部の突帯の有無でさらに細分した。複合口縁部の立ち上がりが直線的で、胴部、頸部の突帯が省略される資料（壺 D-c 類）ほど、複合口縁部に施文される櫛描波状文が粗雑化し、調整の粗いものが目立つ傾向にある。外来系（山陰系）と考えられる複合口縁壺（壺 D-d 類）は、内面に横方向のケズリが施され、器壁が薄いものがある。

壺 E 類は、二重口縁壺。一次口縁部との境がスムーズで、二次口縁部が大きく外反するタイプ（壺 E-a 類）と、頸部が筒状を呈し、一次口縁との境が明瞭なタイプ（壺 E-b 類）に細分した。壺 E-a 類は、内面にヘラケズリが施されるものがあり、山陰系の影響下に成立したものを含んでいると考えられる。壺 E-b 類は、畿内系の影響を受けていると考えられる。出土数は、壺 E-a 類が多い。

23SD001 から出土した壺形土器は、すべて土師器である。

157～195 は、小形の丸底壺・鉢である。底部はほぼ丸底化している。157～163 は、壺 A-a 類で、体部が偏球形で、口径が器高より大きく、さらに口縁部が内湾気味に大きく広がり、口縁部高が体部高と同じかやや小さいタイプである。157 は体部がやや長め。外面にミガキが施される。158 は、内外面に指頭圧痕が残る。160 はハケ目調整。159・161～163 は、外面調整にミガキが施される。162 は、口縁部から体部へのしまりがゆるい。163 は、やや丁寧なミガキ調整を施す。

164～170 は、壺 A-b 類で、壺 A-a 類より口縁部が長く伸長し、口縁部高が体部高を超えるものである。164 は、外面にミガキ調整。器壁が薄い。167 は内外面ともハケ目調整。中でも、168・169 の 2 点は、大分市東田室遺跡 SD111a (X6 区) で出土した「巨大な小型丸底土器」と表現されてる土器と類似している。今回の調査で出土した同形状の壺 A-b 類の小形の丸底土器と比較して、口径・器高ともに 2 倍ほどのサイズになる資料である。法量に差はあるが、形状の一致からここに掲載した。169 の外面下半はヘラケズリが施される。170 は、口縁端部が欠損しているが、壺 A-b 類であると考えられる。内外面にミガキが施される。

171～176 は、壺 A-c 類で、器高が口径の 1/2 より小さく、浅い鉢状の体部に、おおむね体部高より小さい口縁部がつくものである。171 は口縁部が内湾せず、外反気味に広がる。外面は、ハケ目調整。内面はミガキ調整が施される。172・174・175 は、内外面に、ミガキ調整が施される。173 は器壁が厚く、粗い作りである。176 は底部を欠損している。

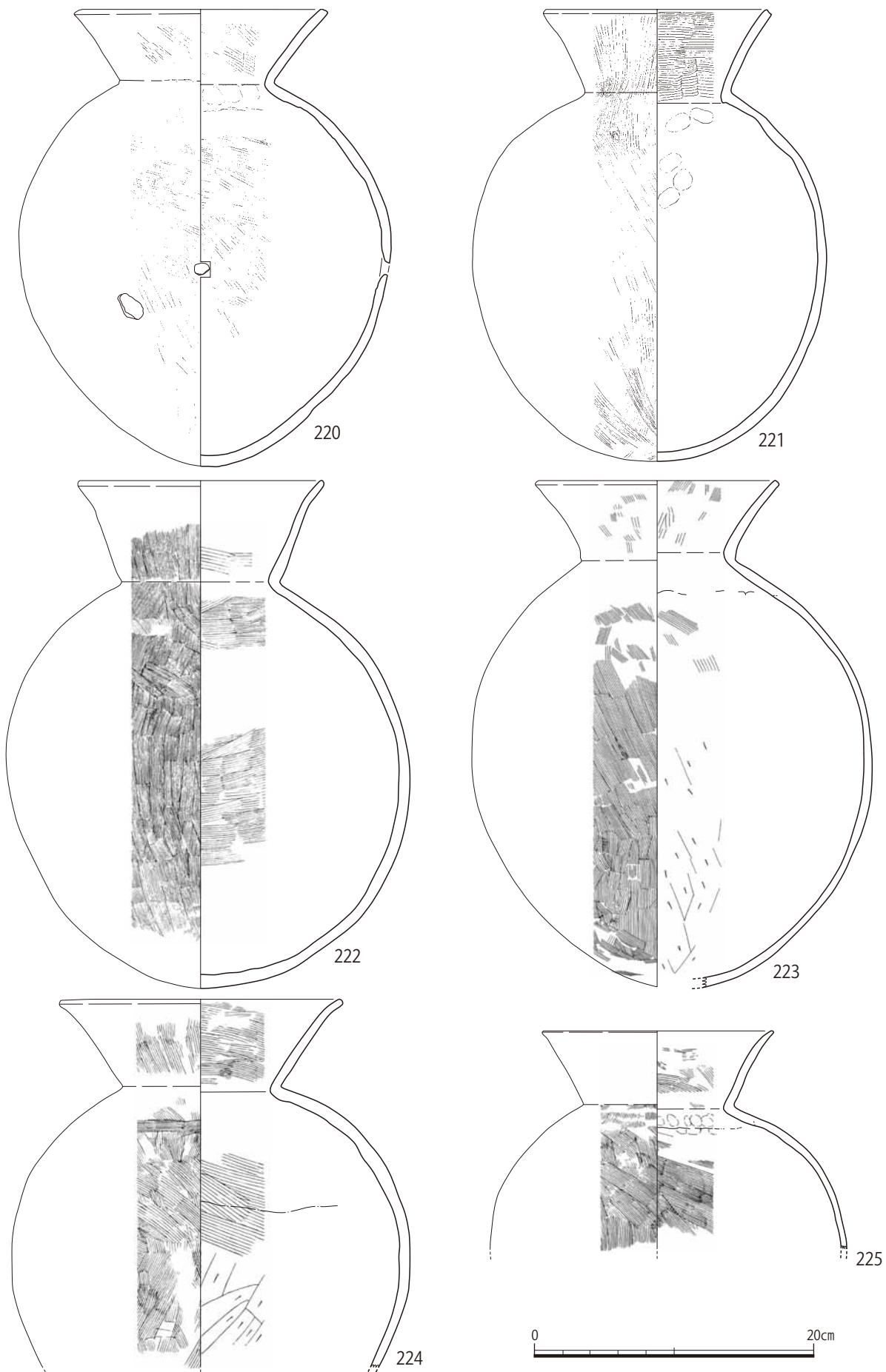
177～180 は壺 A-d 類で、内湾しつつ開きながら立ち上がる体部に、短い口縁部がつく資料である。いわゆる小型丸底壺を模倣した鉢と呼ぶべきような形態である。全体的に口縁部のしまりがゆるく、作りが粗い。ナデで仕上げる資料が多い。177 は内外面ともミガキ調整が施される。178 は内面にミガキ調整が施される。177・178 は、底部が平底である。

181 は、壺 A-e 類である。体部が偏球形で、器高の 1/3 程度の口縁部が直線的に立ち上がり、口縁部径が体部最大径に近い。内面はケズリ、外面と口縁部内面は、ミガキ調整が施される。

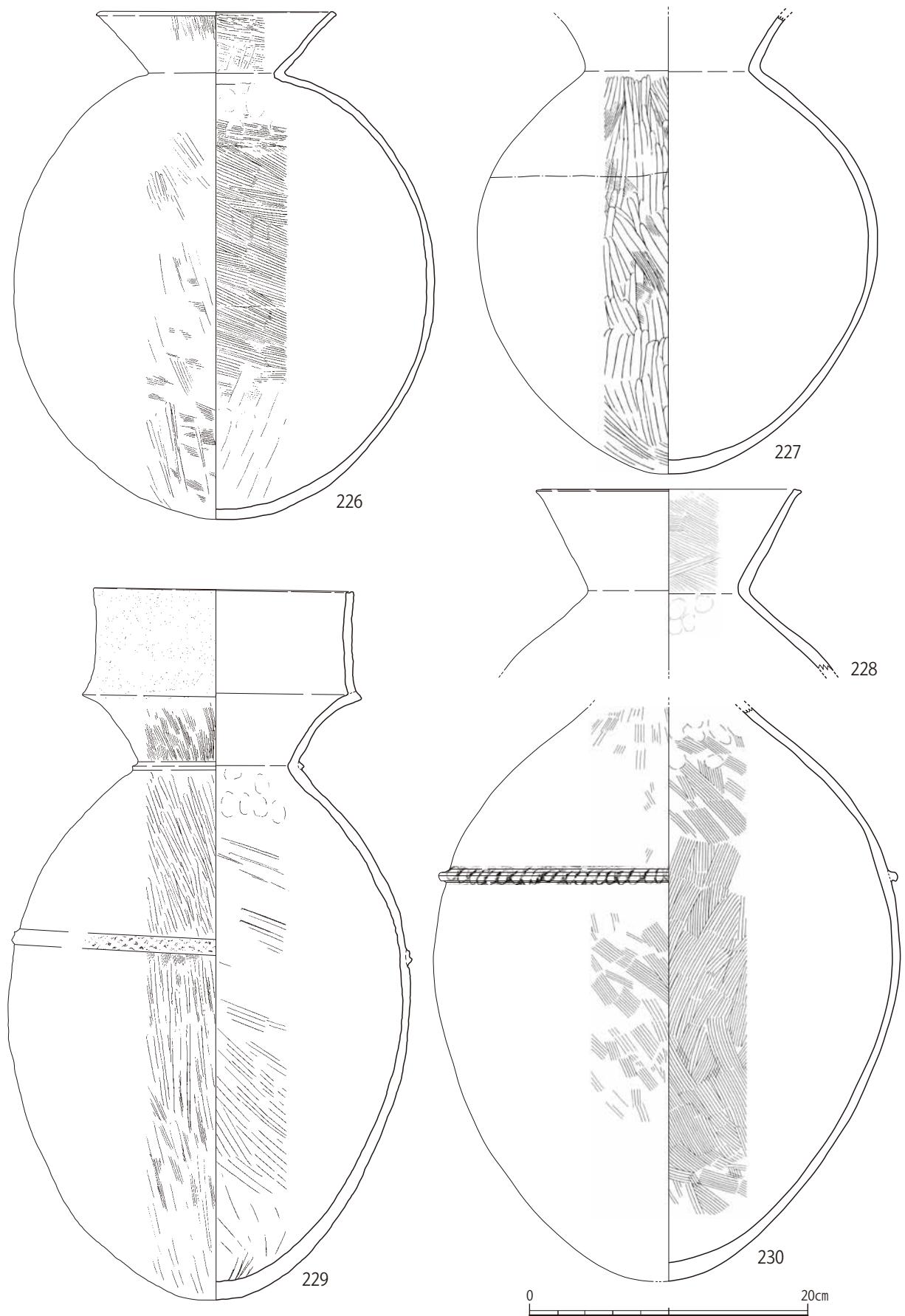
182～185 は、壺 A-f 類。体部が球形ないし偏球形で、口縁部がおおむね器高の 1/4 ほどで、最大径は胴部にある。183～184 は、内面にケズリ、外面はハケ目後ナデで仕上げられる。法量は、やや大きめである。

186 は、壺 A-g 類。内湾しつつぼまる鉢状の体部に短い口縁部がつく資料である。器壁が厚く、作りは粗い。

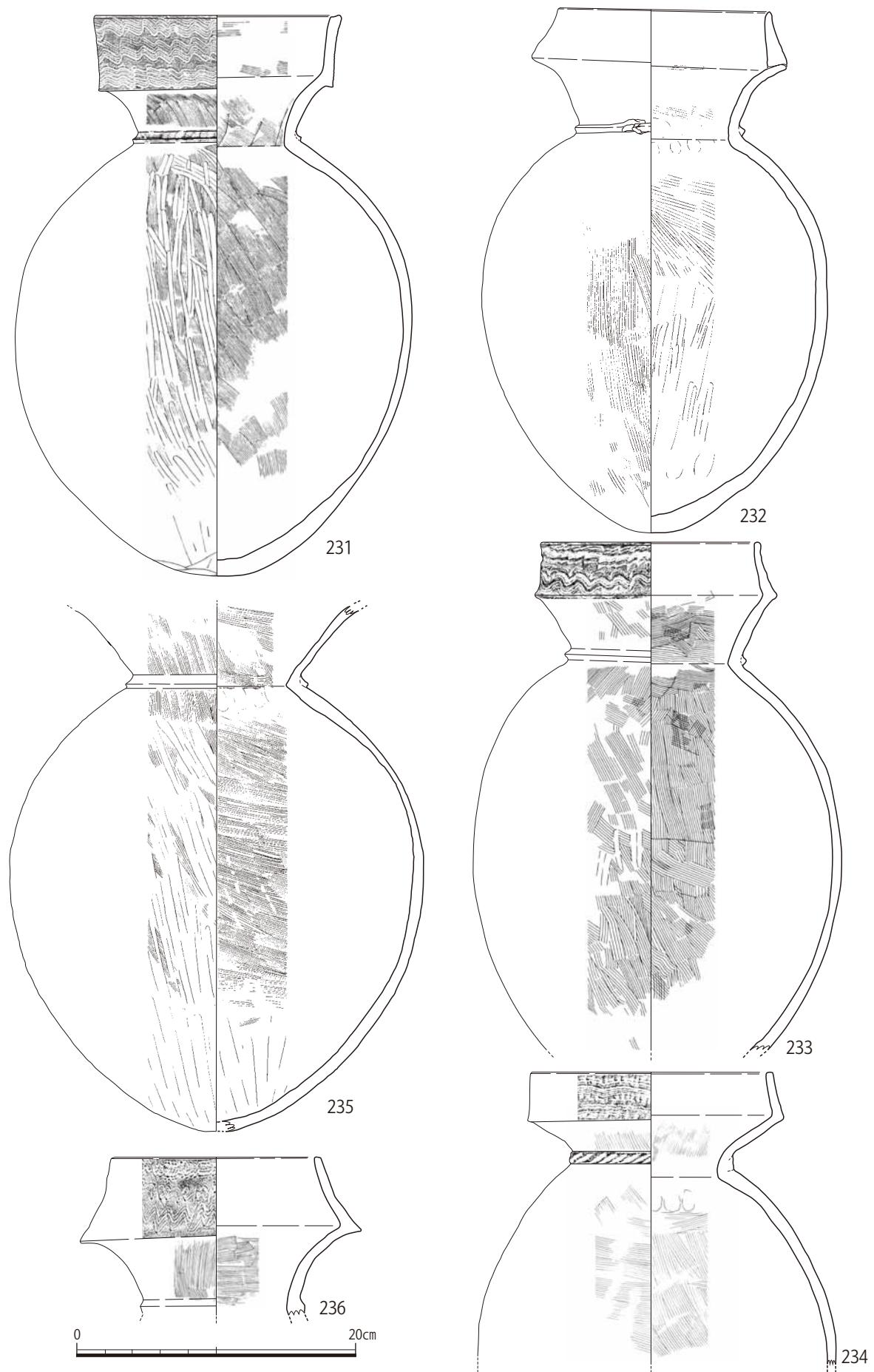
187～195 は壺 A-h 類である。口径が器高あるいは、胴部最大径より小さい。185～189 のような口縁部が長く伸長する資料と、190～193 のような短く直線的に立ち上がる資料がある。内外面の調整は、ミガキを施す資料が少なく、ハケ目、もしくはヘラケズリなどによる資料が多い。188 は内面に指頭圧痕が残り、189 は



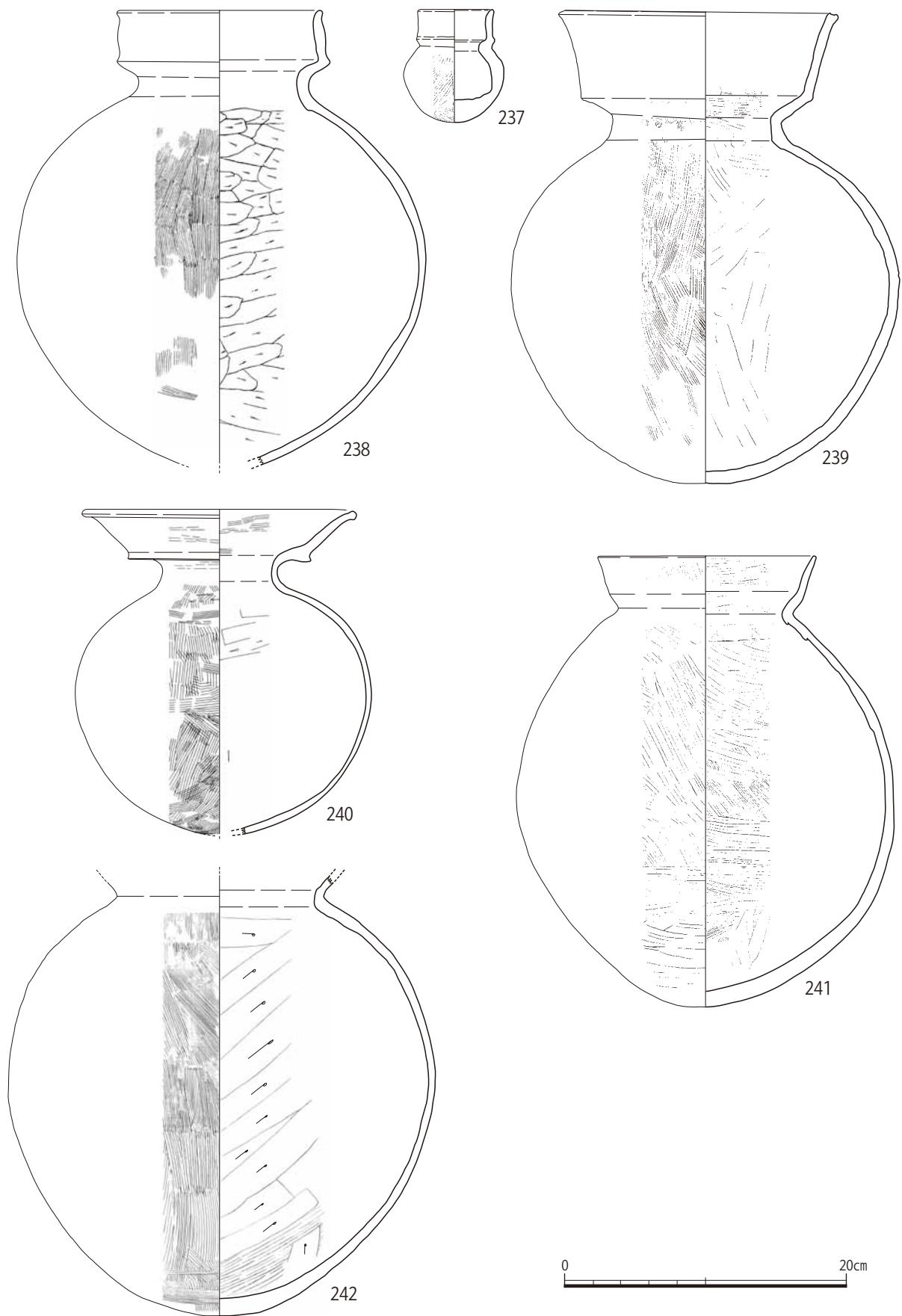
第36図 23SD001 出土遺物実測図 14 (1/4)



第37図 23SD001出土遺物実測図15(1/4)



第38図 23SD001出土遺物実測図16 (1/4)



第39図 23SD001 出土遺物実測図 17 (1/4)

粘土接合痕が観察できる。191と192は内面にヘラケズリが施される。193は内外面とも、胴部下半にミガキが施される。185～191は、上層からの出土遺物である。

壺A類の様相として、壺A-a類や、壺A-b類のようないわゆる小型丸底壺は、口縁部が伸長して、体部高の1/2以上を占める資料がほとんどである。ただし、口縁部が伸長して体部高を凌駕する壺A-b類の資料は、後述する20SD001に比べると、伸びが比較的少ない印象を受ける。壺A-d類のような小型丸底壺の模倣鉢と呼ぶべきような形態の資料の出土が増加しており、全体的に調整も粗い。また、口径が器高・胴部最大径などより小さい壺A-h類なども多数出土しており、古墳時代前期中葉でも新相を示していると考えられる。

196～203は直口壺である。196～198は、壺B-a類で、口縁部の伸びが短く全体の1/3程度の資料である。

199～203は、壺B-b類で、口縁部高が器高の1/3以上の資料である。器高はおおむね15cm～20cmがほとんどであるが、なかには203のような器高30cmを超えるような大形品がある。

204～228は、単口縁壺である。204～210は、壺C-a類である。長胴形の胴部に、短く外反ないし、内湾気味に立ち上がる口縁部をもつ資料である。204などの比較的小振りな器高25cm程度の資料と、30cmを超える大形品がある。底部はほぼ丸底化している。外面調整はハケ目が施される。

211～214は、壺C-b類で、長胴形の胴部に壺C-a類より伸長した口縁部を有する資料である。211・212は頸部に突帯を有する。212は尖底傾向。外面調整は、ハケ目を基本とする。

215～228は、壺C-c類で、球形化のすすんだ胴部に外方に開く口縁部を有する資料である。215～217は、器高20cm程度の小振りな資料である。218・219は、他に比べて、口縁部が長く伸長する資料である。内外面には、ミガキ調整が施される。220は尖底傾向で、胴部には打ち欠きが見られる。220～225の外面調整は、ハケ目が基本である。223は、内面にヘラケズリを施す。224・225は底部を欠損する。224は口縁端部が肥厚気味の資料。胴部下半にケズリが施される。226は頸部のしまりが他資料より強く、胴部もかなり球形化がすすんでいる。外面にはミガキが施される。227は口縁部を欠損する。外面にはミガキ調整が施される。228は、胴部以下を欠損する。口縁部端部を面取り風に調整する。

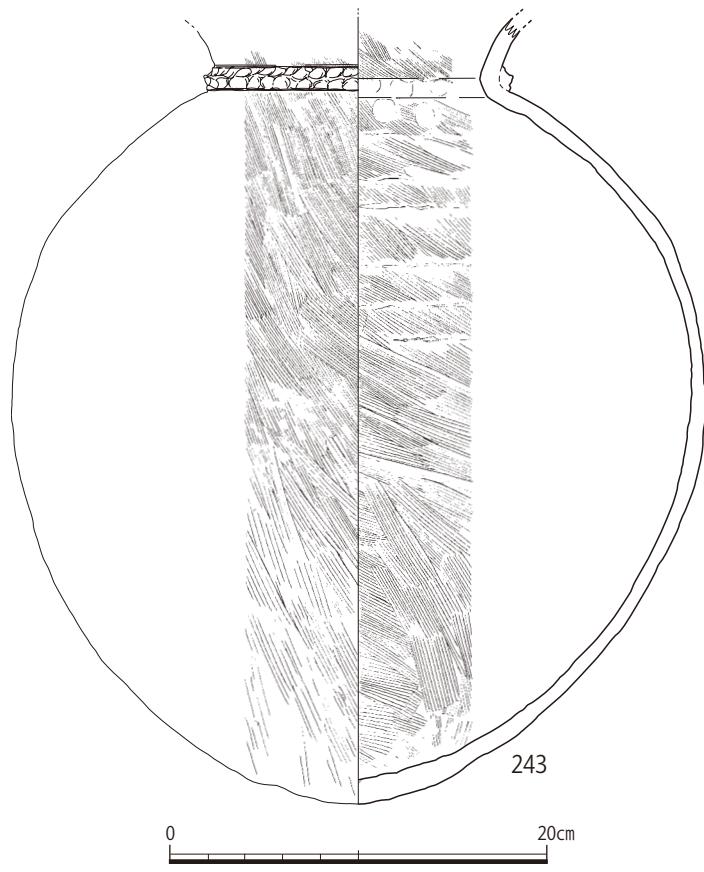
単口縁壺は、長胴形が残るもの、球形胴の資料も増加している。底部は丸底化している。内面の調整は、ヘラケズリを施す資料がやや少ない。

229～234は、安国寺式タイプの複合口縁壺である。底部は丸底化している。229～230は、壺D-a類で胴部及び頸部に突帯を有する資料である。229は伸長した口縁部が直立気味に立ち上がり、3段に粗めの櫛描波状文を施文する。外面はミガキ調整。230は複合口縁部を欠損するが、胴部の突帯は安国寺式タイプの複合口縁壺に特有のものである。229に比べ頸部がしまる。胴部は長胴である。

231～234は、壺D-b類で、胴部突帯を省略し、頸部に突帯を有す。231は垂直に立ち上がった複合口縁部に、櫛描波状文を3段に施文する資料である。外面にはミガキ調整が施される。外面下半は、ヘラケズリ。232は、底部がわずかに凸レンズ状の痕跡を残し、他の資料に比べ、複合口縁部が内傾している。古相を示すと考えられる資料である。233は直立気味の複合口縁部に長胴気味の胴部で、底部を欠損する。2段にわたって施文される櫛描波状文は、だれた印象を受ける。234は、胴部から底部を欠損するが、短く直立した複合口縁部をもつ資料である。235は複合口縁部を欠損するが、口縁部の立ち上がりから、安国寺式タイプの複合口縁壺であると考えられる。外面は下半にミガキ調整が施される。236は複合口縁部のみの破片資料。頸部に突帯を有する。

安国寺式タイプの複合口縁壺は、長胴形の資料が残るもの、球形化のすすんだ資料もみられる。複合口縁部の立ち上がりが直線的で長く、施文される櫛描波状文の粗い資料がある。23SD001からは、胴部及び頸部突帯を省略する壺D-c類は出土していない。内面の調整は、ハケ目が主体である。

237～239は、壺D-d類で、山陰系の複合口縁壺と考えられる資料である。237は小形の資料。底部がかなり厚い。238は、直立する口縁部に肩の張った胴部の資料である。内面には丁寧な横方向のヘラケズリが施され、器壁が薄くなっている。底部は欠損する。20SD001出土資料と遺構間接合している。239は、複合口縁部が238より伸長する。胴部は球形化が進み、内面にはケズリ後ナデ調整が施される。



第40図 23SD001 出土遺物実測図 18 (1/4)

240・241は、壺E-a類で、山陰系の二重口縁壺と考えられる資料である。240は底部の一部を欠損する。内面には、ケズリ後ナデ調整が施され、器壁は薄い。二重口縁部にはミガキが施される。一次口縁から二次口縁への移行はスムーズで、口縁端部は玉縁状に肥厚している。241は、口縁部形状に二重口縁形状への意識が感じられる資料である。最大径が胴部下半にあり、下膨れの印象を受ける。内外面ともハケ目調整が施される。242は口縁部を欠損するため、全体形状は不明であるが、球形化のすんだ胴部に、内面に横方向のケズリが施され、器壁が薄いことなどから、山陰系などの外来の影響を受けている資料と考えられる。外面はハケ目調整が施される。243は口縁部を欠損する。頸部に突帯を1条有し、球形化のすんだ胴部に、内外面ともハケ目調整が施されている。外面下半にはミガキ調整が施される。胴部形態などに外来の影響が考えられるが、在地系の壺であると考えられる。

23SD001から出土した土師器壺は、いわゆる小型丸底壺の口縁部が伸長して、体部高より長くなっている壺A-b類が出土している、小型丸底壺の模倣と考えられる壺A-d類などの小形資料が増加している。また、口縁部が器高・胴部最大径より小さい壺A-h類が多く出土している。単口縁壺の胴部形態が、長胴に混じって球形化が進んでいる。安国寺式タイプの複合口縁壺では、複合口縁部が伸長し、直線的になっているなどの特徴が挙げられる。古墳時代前期中葉頃と考えられる下郡遺跡群第90次SH020や、同92次SH343出土土器と比較し、やや新相を示すと考えられる。ただし、より新相を示すと考えられる複合口縁壺の胴部及び頸部の突帯を省略するタイプ（壺D-c類）が見られず、小型丸底壺の口縁部の伸びも比較的短い。古墳時代前期中葉から後葉の標識となっている大分市種田市遺跡E区溝I資料との比較では、古相を示していると考えられる。全体としては古墳時代前期中葉でも新相を示し、古い様相を示す壺C-a類とした資料なども、古墳時代前期中葉の範疇におさまると考えられる。

### 甕形土器（第41図～第57図）

大道遺跡群第20次・23次・32次出土の土師器甕資料は本稿に掲載した完形に近い資料だけでも500点以上を数える。それらの遺物の所産時期は古墳時代前期に相当すると考えられる。大道遺跡群内の既往の調査による該期の遺構、遺物の様相も今次報告と同様の結果が得られている。また、該期の大分平野における甕の様相は「長胴タイプ（在地系）を残しつつも、丸底化し球形タイプ（外来系）の甕へと暫時移行していく」ということが先学により指摘されている。

ここでは以上の点を踏まえ、各次数別溝状遺構出土の土師器甕の様相についてを検証するために、下記の基準においてまず次数別に分類を試みる。その上で、検討遺構が溝状遺構であることを念頭におきながら、分類したタイプを先学諸氏の編年と比較検討し、時間的な位置付けを明らかにする。さらに、検出長60mを超える環濠において、廃棄された地点により出土遺物間に時期的な様相差が認められるのか。タイプ別出土個数の変移等をみながら検討したい。

分類は、出土した多様な甕を法量の上で「大甕」「中甕」「小甕」に分別する。次に、大甕・中甕を長胴タイプと球形タイプに分け、前者をA類、後者をB類とする。長胴と球形を分別するために、器高と最大胴部径を使用し球形率を算出した。この数値が1に近ければ近いほど球形となる。その結果0.8付近を境に大きく二つに分ける事ができたため、0.8以上は球形、未満は長胴とみなしている。さらに、口縁部の形状により外反するものを1類、直線的に立ち上がり外傾するものを2類として細分する。また、頸部の締まり具合、底部形態によつても下記の基準に基づき分類する。頸部の締まり具合は頸部径と口径を使用し算出した。その結果、0.75付近を境に分けることが可能であったため、0.75以上は締りがゆるいものとしてa類、0.75未満の締りが強いものはb類としている。底部形状は、尖底もしくは尖底状に近いものをi類、丸底またはそれに近い丸底状をii類とする。なお、小甕については多様のバリエーションが認められ、甕資料としているものの、小壺もしくは小形鉢等との判別が困難な資料も存在したため、細分類は行わず、一括して報告する。

#### 《分類属性のツリー》

大甕 … 器高29cm以上のもので口径は概ね19cm以上

中甕 … 器高18～28cmのもので口径は概ね15～18cm

A … 長胴タイプ（0.8以下）

B … 球形タイプ（0.81以上）

1 … 口縁部が外反するもの

2 … 口縁部が直線的に立ち上がり外傾するもの

a … 頸部の締りが緩いもの（0.75以上）

b … 頸部の締りが強いもの（0.75未満）

i … 尖底状のタイプ

ii … 丸底状のタイプ

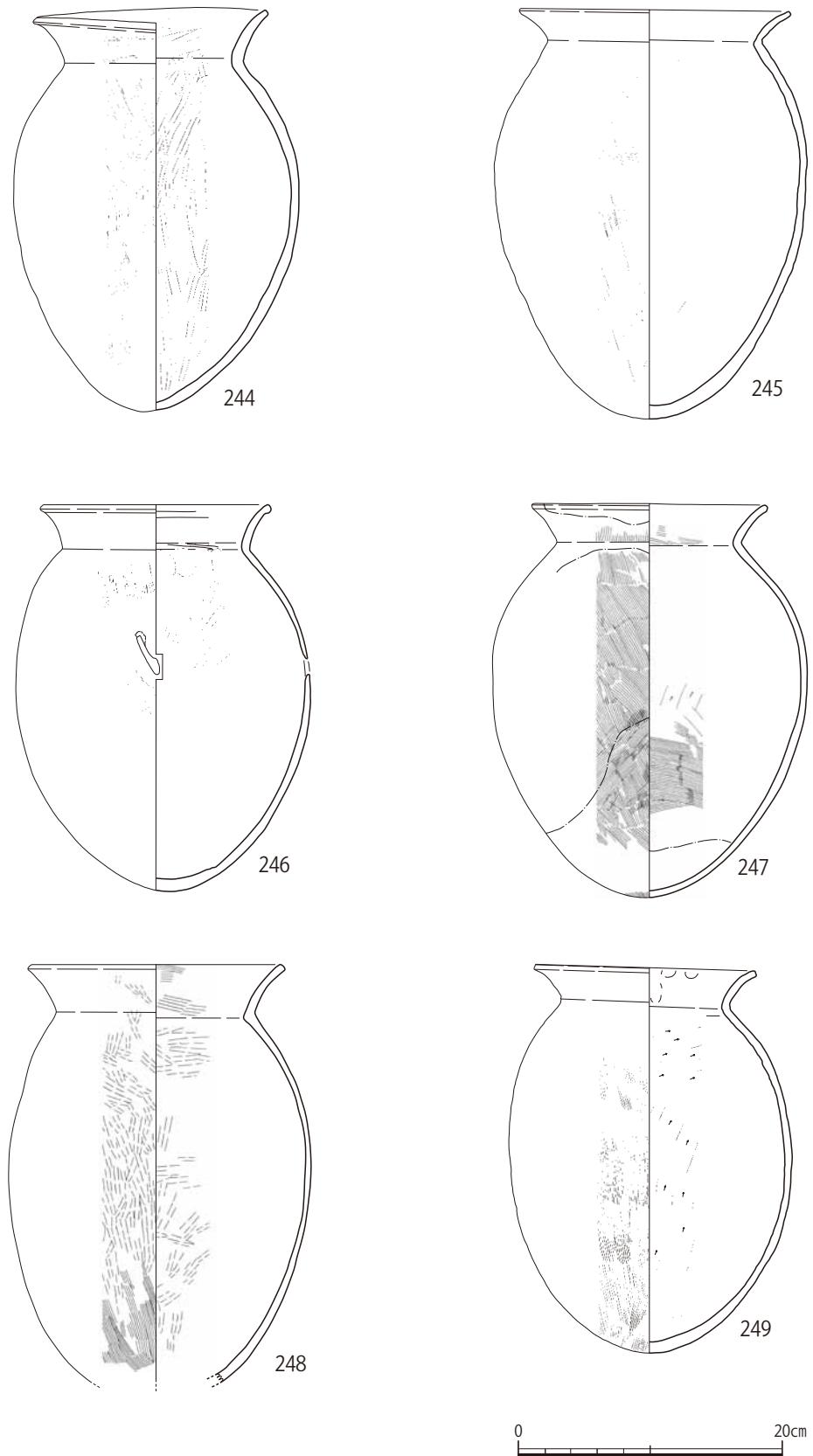
小甕 … 器高18cm未満のもので口径は概ね14cm以下

(例)

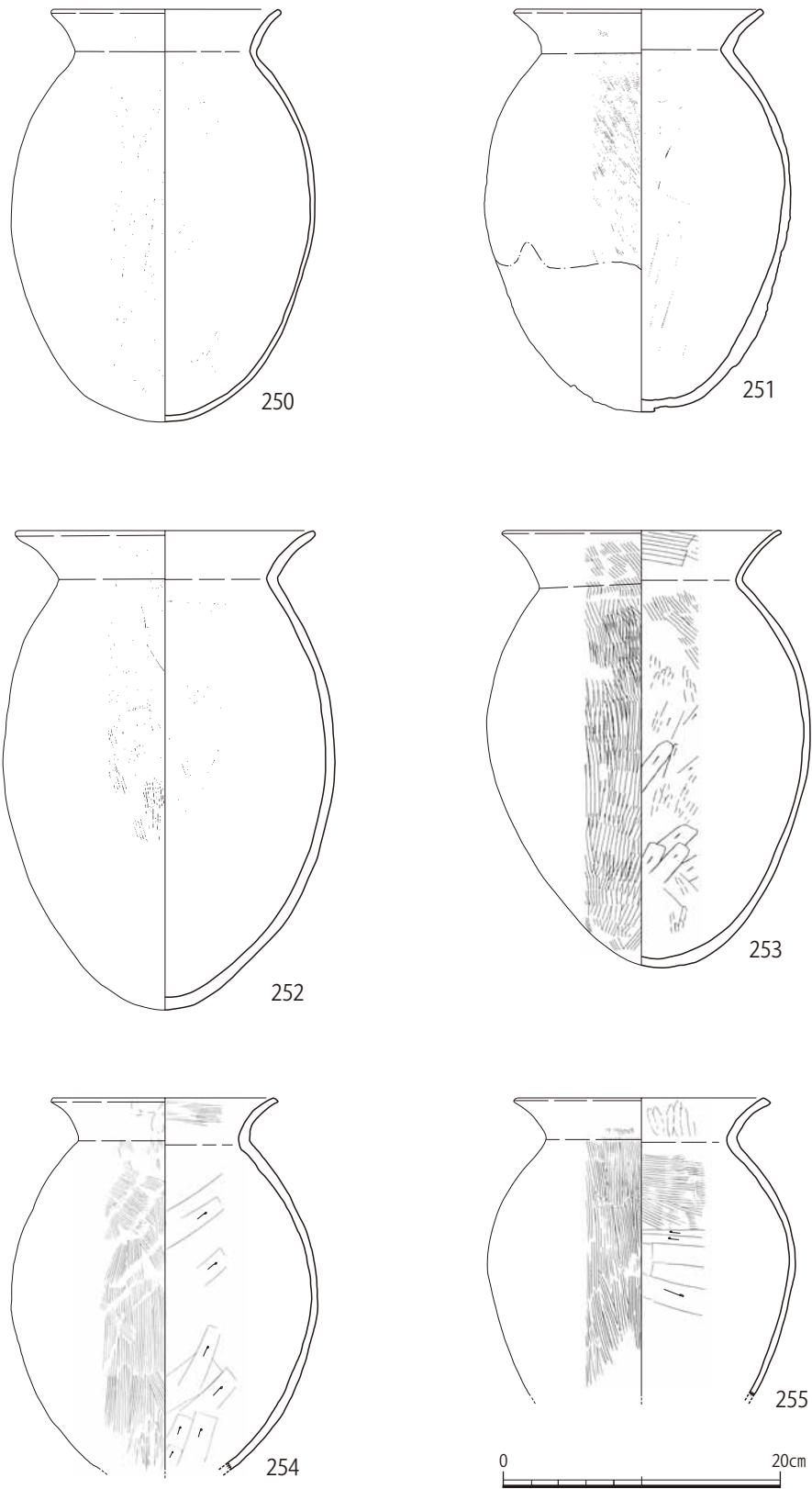
大甕 A1-ai … 法量は大で長胴タイプ、口縁部は外反し、頸部の締まりは緩く、尖底状のもの

中甕 B2-bii … 法量は中で球形タイプ、口縁部は直線的に外方へ外傾し、頸部の締まりは強く、丸底状のもの

上記分類表は第190図に掲載している。また、これら数百点にのぼる個々の資料の詳細については紙面の都



第41図 23SD001出土遺物実測図19 (1/5)



第42図 23SD001出土遺物実測図20 (1/5)

合上すべての報告が困難なため、ここでは主に各分類の代表的な資料や特記すべき資料について説明をくわえる。

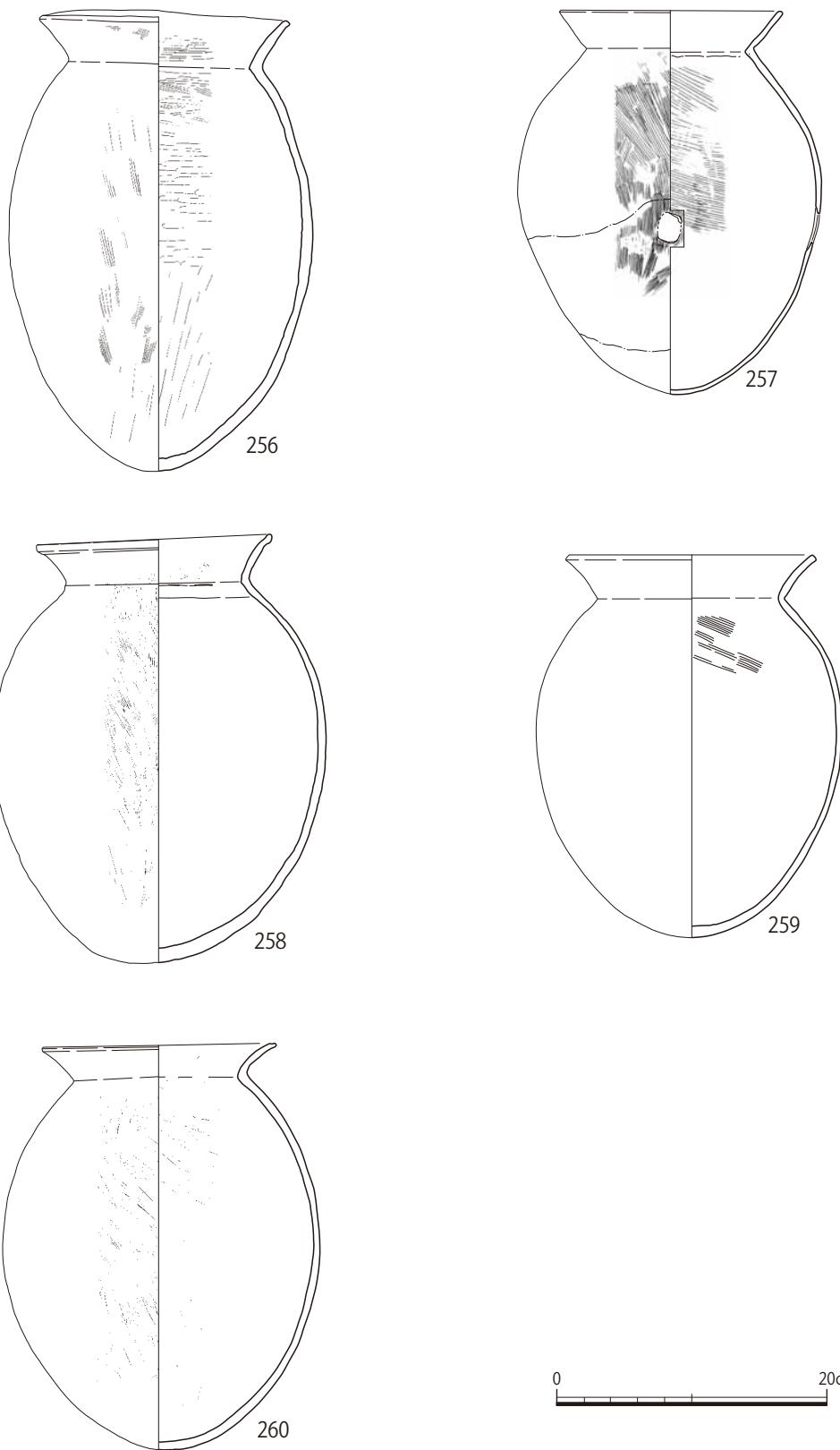
244 から 260 は大甕 A と分類した資料である。法量は器高 29cm 以上、口径 19cm 以上を測るもので、球形率は 0.8 以下のものである。

244～247 は頸部のしまり具合はゆるく、底部形態は尖底を呈する大甕 A1-ai である。

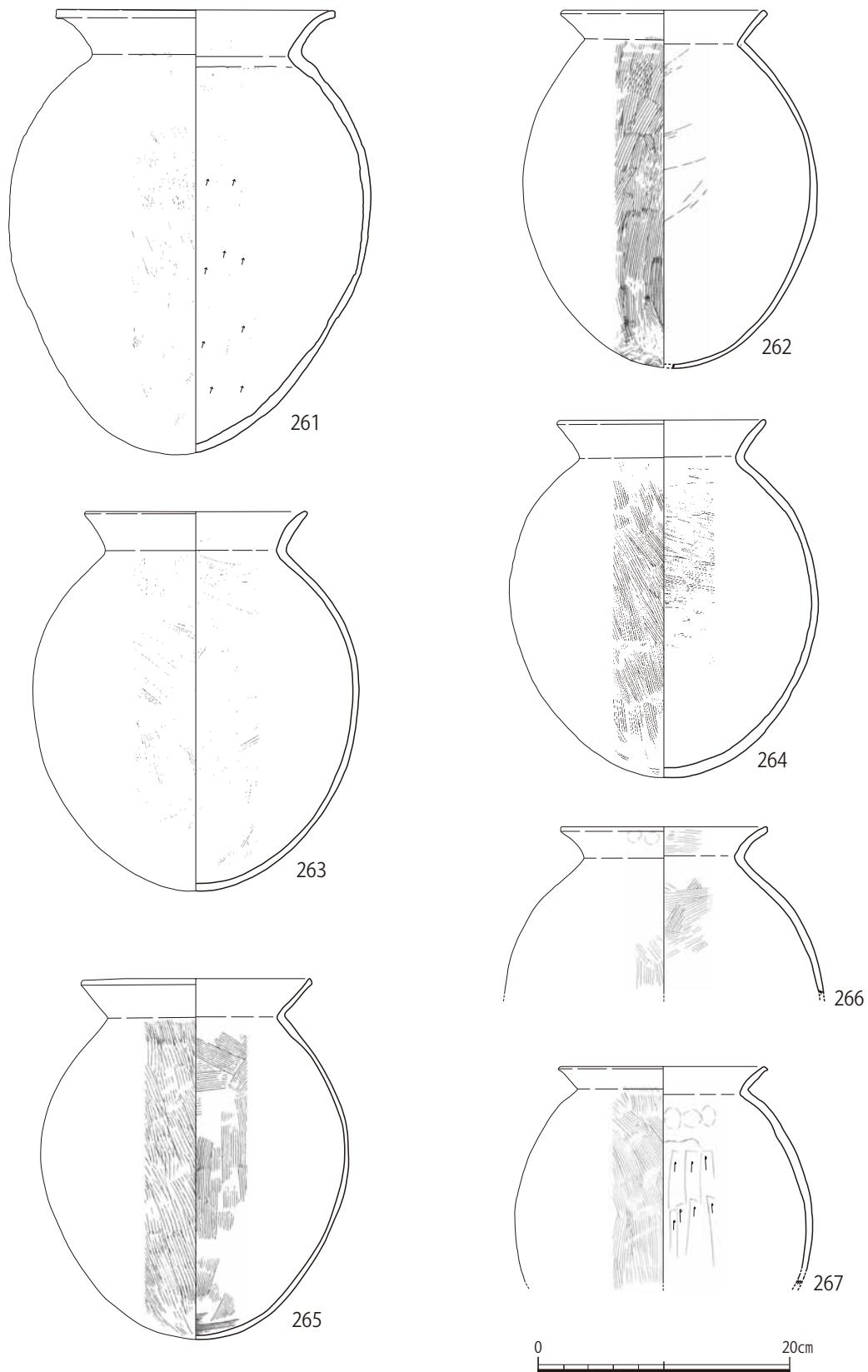
244 は口径 17.8cm、器高 30.6cm、最大胴部径 21.6cm であり、口縁端部は外方に丸く納まる。外面はハケ目、内面はミガキ調整が認められる。胎土中には石英粒、長石粒、雲母粒等が含まれる。胴部の膨らみは胴部中位より少し上にあり、底部形状は尖底、凸レンズ状の名残を残す資料である。246・247 は同じく大甕に分類されるものであり、頸部の締りは緩く、調整は外面・ハケ目、内面・ミガキあるいはハケ目が認められる。口縁部は外反しており、口縁端部は丸く納まる。

248～251 は大甕 A1-aii に分類されるものである。球形率は 0.8 未満であり、口縁部は外反し、頸部の締りは緩い。底部形状は丸い。252～255 は大甕 A1-bi および大甕 A1-b タイプに属する資料である。252 は大甕 A1-bi に分類されるものであり、口径 21.6cm、器高 34.5cm、最大胴部径 23.8cm を測り、口縁は外反する。頸部の締りは、0.75 以下で締りが強く底部は尖底状をなす。253 は大甕 A1-bi に属するが口縁部は他資料に比して長い。また、内面にハケ目調整後ケズリが認められる。254・255 は大甕 A1-b タイプである。口縁部は外反し、口縁端部は平坦に納められる。肩部はナデ型状を示し、胴部の膨らみは中央付近で最大である。255 にあっては口縁端部を平坦に仕上げた後、その中央部が浅く凹む。また、内面頸部にはつきりとした稜はなく平坦に仕上げられる。このような特徴は在地の甕には認められず、外来の制作技術を模倣したと考えられる。256・257 は大甕 A2-ai である。256 は口径 18.5cm、器高 34.1cm、最大胴部径 22.6cm を測る。内外面ともに橙色を基調とし、口縁部は直線的に立ち上がり外傾する。調整は内外面ともにハケ目、ケズリが実施される。球形率は 0.66 と低く、長胴の資料である。底部形状は尖底をなす。257 は 256 と同様の大甕 A2-ai であるが、球形率は 0.8 を示し大甕 B に近く、A と B のボーダーライン上の資料である。口縁部は中位付近で肥厚しながら直線的に立ち上がり外傾する。頸部内面の稜は明確である。肩部はナデ肩状を呈しており、胴部中央付近には打ち欠きと推定される穿孔が認められる。いわゆる布留式系甕の影響を受けた模倣甕と考えられる。258・259 は大甕 A2-aii に分類される資料である。258 は口径 18.4cm、器高 31.7cm、最大胴部径 24.6cm を測る。内面は黄橙色～黒色、外面は黄橙色～橙色を呈する。ハケ目調整で仕上げられる資料であり、口縁端部は外方に丸く納まる。260 は大甕 A2-bii に分類される。口径 16.8cm、器高 30.0cm、最大胴部径 23.4cm を測る。この資料も球形率 0.79 を示し B タイプに近い。内外面はハケ目調整が認められる。頸部は稜を持って肥厚する。口縁端部は平坦面を有し微妙な凹みが認められる。261～269 は大甕 B としたものである。口径・器高は大甕 A と同様であるが、球形率が 0.8 より大きいものをさす。261 は大甕 B1-ai である。口径 22.0cm、器高 35.4cm、最大胴部径 28.8cm を測る。この資料は他の甕資料に比して大きく目を引く資料である。内面は橙色、外面は明褐灰色を呈し、胎土中には長石、角閃石等を含む。調整は内面・ハケ目、ケズリ、外面はハケ目が認められる。口縁部は外反し、頸部付近は肥厚し、明確な稜を持つ。262～265 は大甕 B1-a に属する資料である。262 は復元口径 16.4cm、器高 28.5cm、最大胴部径 23.3cm を測る。ナデ肩状の形状を示すが球形率は 0.82 を示し胴部は丸味が増す。内面は強いナデ、外面はハケ目により調整される。口縁部は直線的に立ち上がり外傾する。口縁端部は平坦に仕上げられる。底部はわずかに欠損しているが、形状は丸い。265 は口径 18.3cm、器高 28.6cm、最大胴部径 24.4cm を測る。内外面ともにハケ目により調整される。胴部の膨らみは胴部中央より上位にあり、口縁部はわずかであるが肥厚しながら外傾する。胴部の器壁は薄いが頸部は稜をなし、肥厚する。266・267 は底部が欠損するため大甕 B1-a タイプとなるものである。いずれも外反する短い口縁部を持ち、頸部の締りは緩い資料である。268・269 は大甕 B2-b タイプに属する資料であり頸部が締まるものである。270 は広口甕と考えられる資料である。このタイプは 1 点のみの出土である。復元口径 27.6cm を測る。内外面ともにハケ目により調整される。内面は黄橙色～赤色、外面は橙色～黒褐色を呈する。

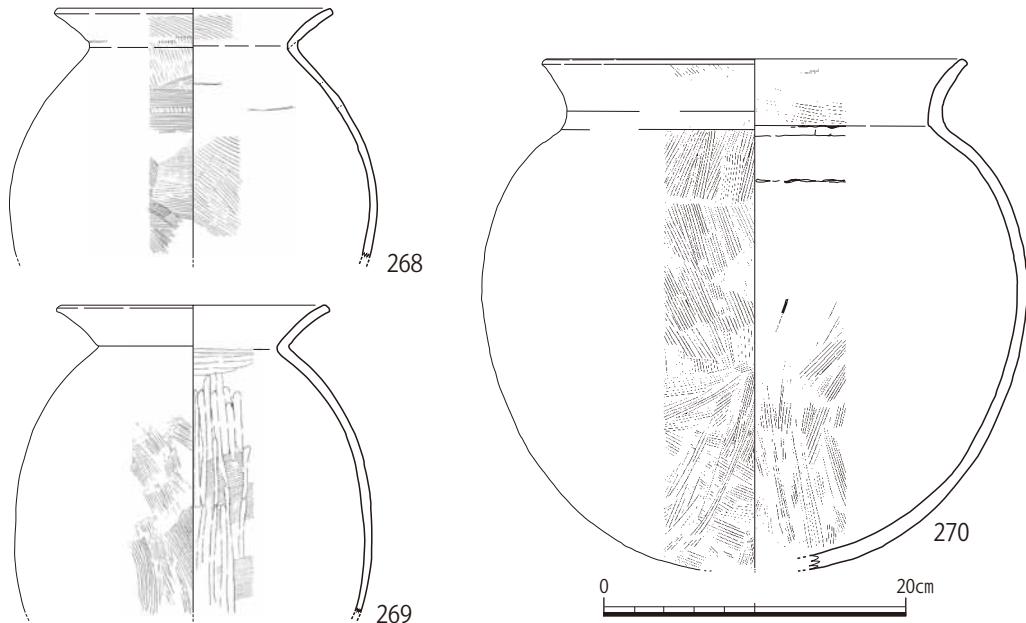
271～295 は口径 15cm～18cm、器高 18cm～28cm 前後を測り、球形率 0.8 未満の中甕 A に属する資料



第43図 23SD001出土遺物実測図21 (1/5)



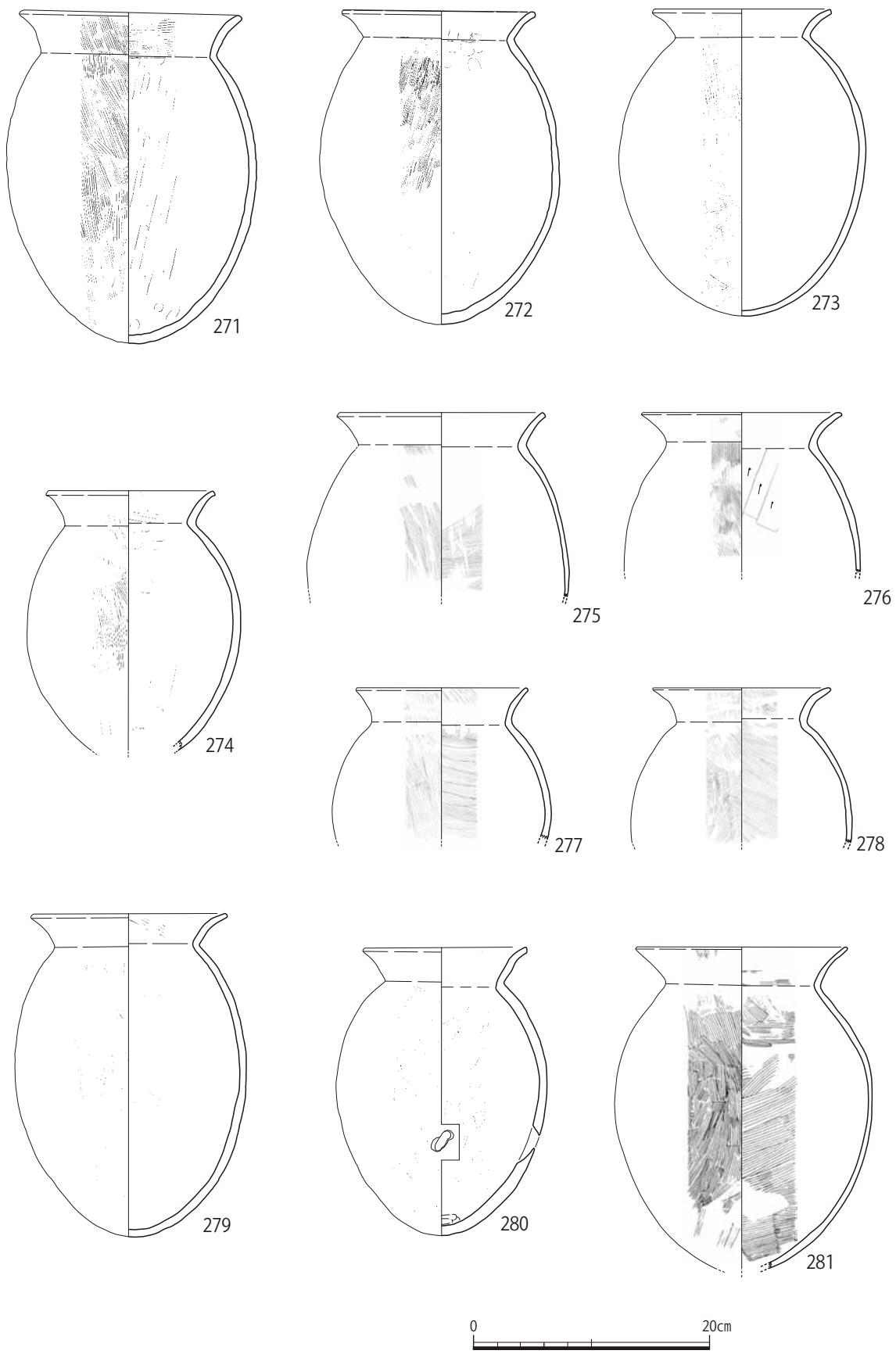
第44図 23SD001出土遺物実測図22 (1/5)



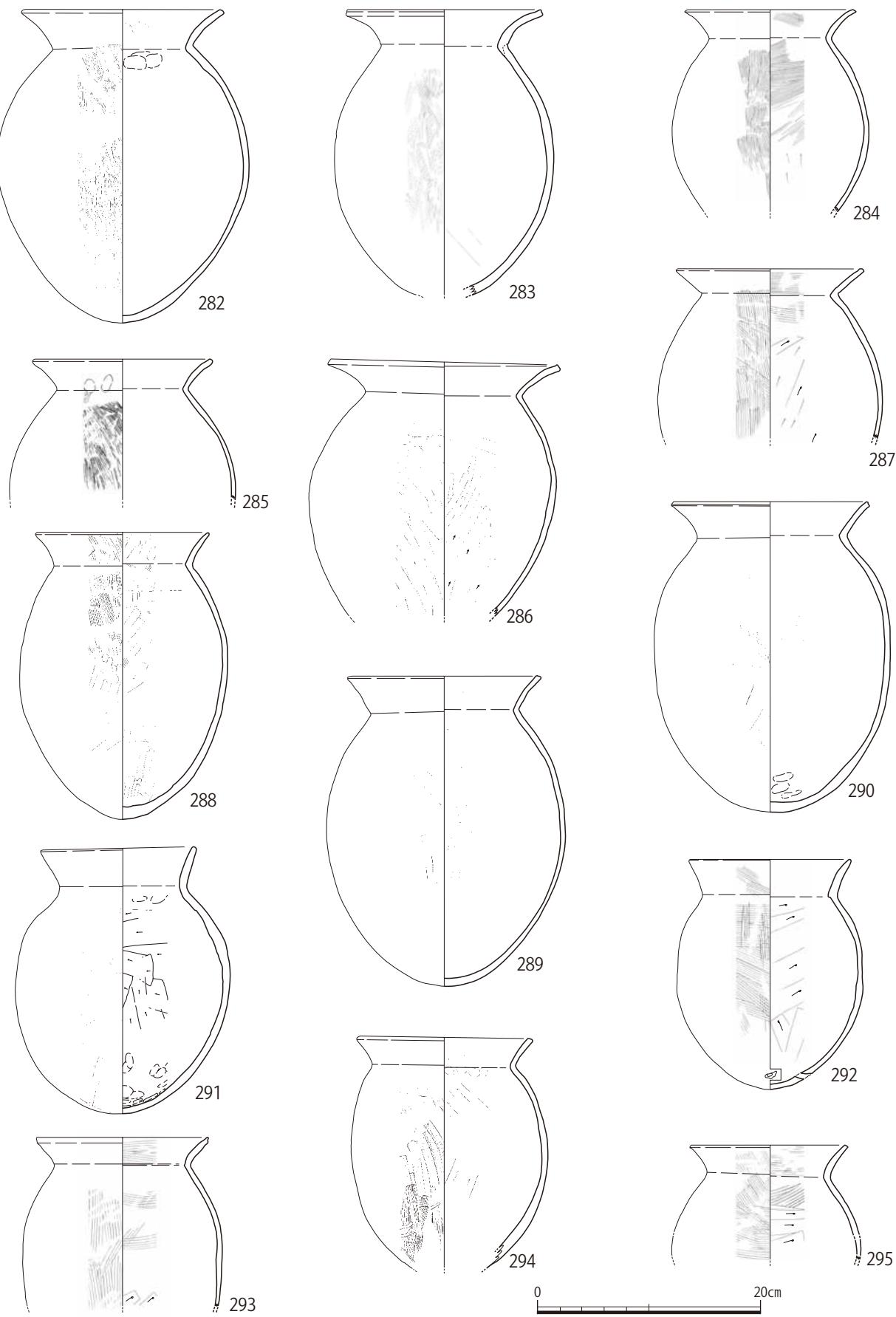
第45図 23SD001出土遺物実測図23 (1/5)

である。271・272は中甕A1-aiである。調整はいずれも内面はケズリ、外面はハケ目である。頸部の締りは緩い。273は中甕A1-aiiに分類されるものである。口径15.1cm、器高26.0cm、最大胴部径20.9cmを測る。外面はハケ目調整が認められる。頸部の締りは強い資料である。274～278は底部欠損している資料である。口縁部形状と締り具合により中甕A1-aタイプとしている。279～281は中甕A1-biに属する資料である。036は口径16.2cm、器高27.4cm、最大胴部径19.6cmを測る。口縁部は外反する。内外面ともにハケ目調整が主体である。279も同様の甕資料であるが器壁は他資料に比して厚い。口縁部は立ち上がり部分から中位にかけて肥厚している。281は内外面ともにハケ目調整で仕上げられているものの、器壁は279とは対称的に胴部から口縁部に至るまでほぼ同じ厚さである。頸部の締りは強い。288・289は中甕A2-aiである。288は口径25.5cm、器高25.5cm、最大胴部径18.6cmを測る。内面は強いナデ、ケズリ、外面はハケ目により調整される。口縁部は外方に外傾し、頸部内面の稜が明確である。底部形状は尖底気味である。290～292は中甕A2-aiiである。290は口径17.7cm、器高27.8cm、最大胴部径21.2cmを測る。内面底部には指頭圧痕が残りケズリ痕跡も認められる。外面はハケ目調整で仕上げられる。頸部付近は肥厚している。292は復元口径14.6cm、器高20.8cmを測る。内面はヘラケズリが顕著にみられるが、器壁は厚い。外面はハケ目調整である。頸部の締りは緩いが、肩部に張りが認められるため、締りがあるようにみられる。

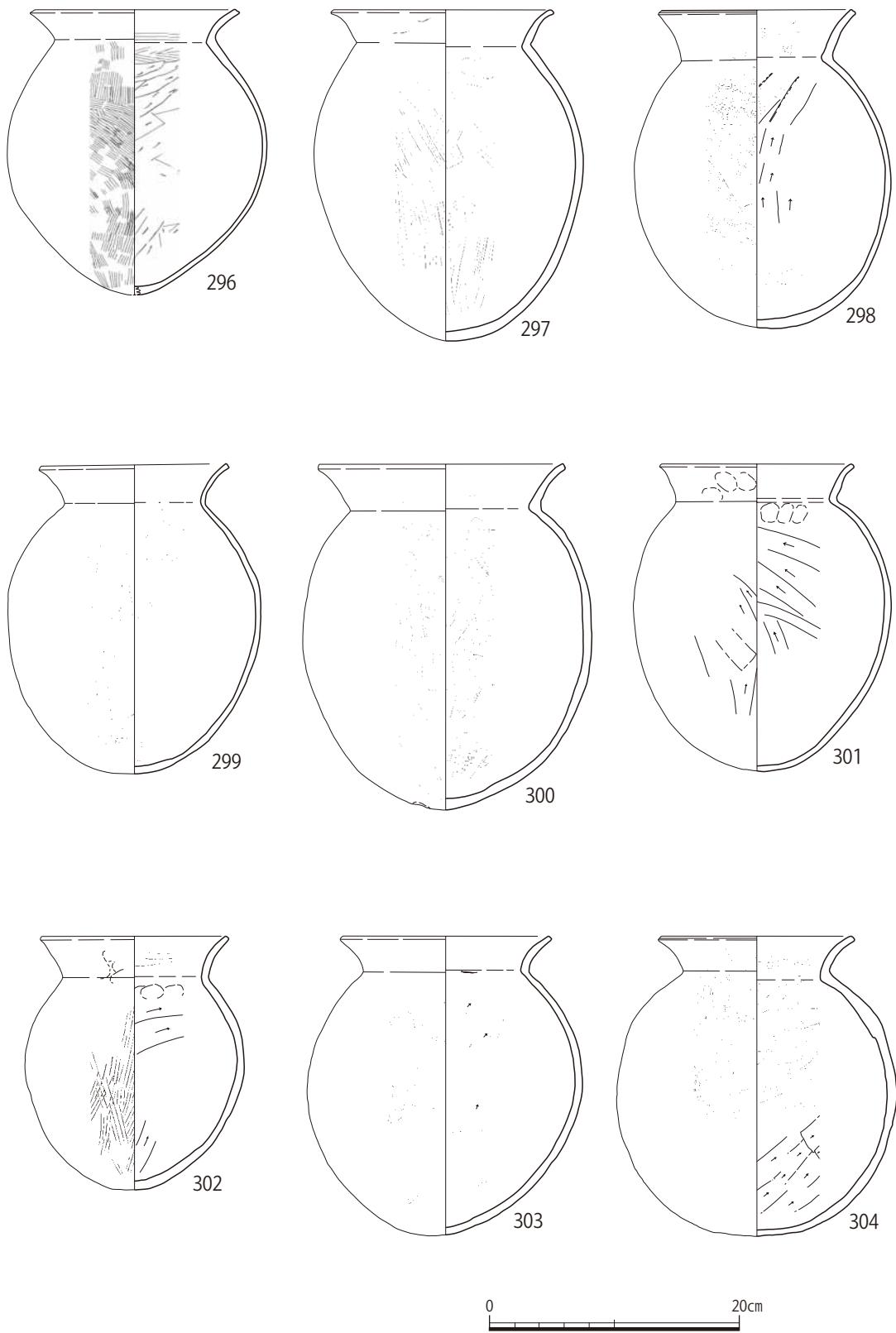
296～369は中甕Bに属する資料である。口径15cm～18cm、器高18cm～28cm前後を測り、球形率0.8以上の資料が相当する。296は中甕B1-aiに属するタイプである。中甕B1資料の中で底部が尖底状をなす資料はこの1点のみである。内面は胴部下位から上位にかけてケズリが認められ口頸部付近にはハケ目調整が実施される。甕全体のフォルムはナデ肩状を呈し底部は尖底状となっている。また、体部から続く口頸部内面は明確な稜を持ちながら肥厚する。いわゆる、布留式系甕の模倣甕と考えられる資料である。297～305は中甕B1-aiiに属する資料である。297は復元口径17.8cm、器高26.4cm、最大胴部径21.5cmを測る。内外面ともにハケ目調整が認められる。口縁部は立ち上がり部分から肥厚し、口頸部の締りは緩いタイプである。301は297と全体のフォルムや口縁部の形状等類似しているが、内外面の調整にはケズリが導入されている。また、304は口径15.7cm、器高24.0cm、最大胴部径22.4cmを測る資料であるが、球形率は0.93と明らかに球形に近いものである。内面の調整は胴部下位にケズリが認められる。313～316は中甕B2-aiである。314は口径



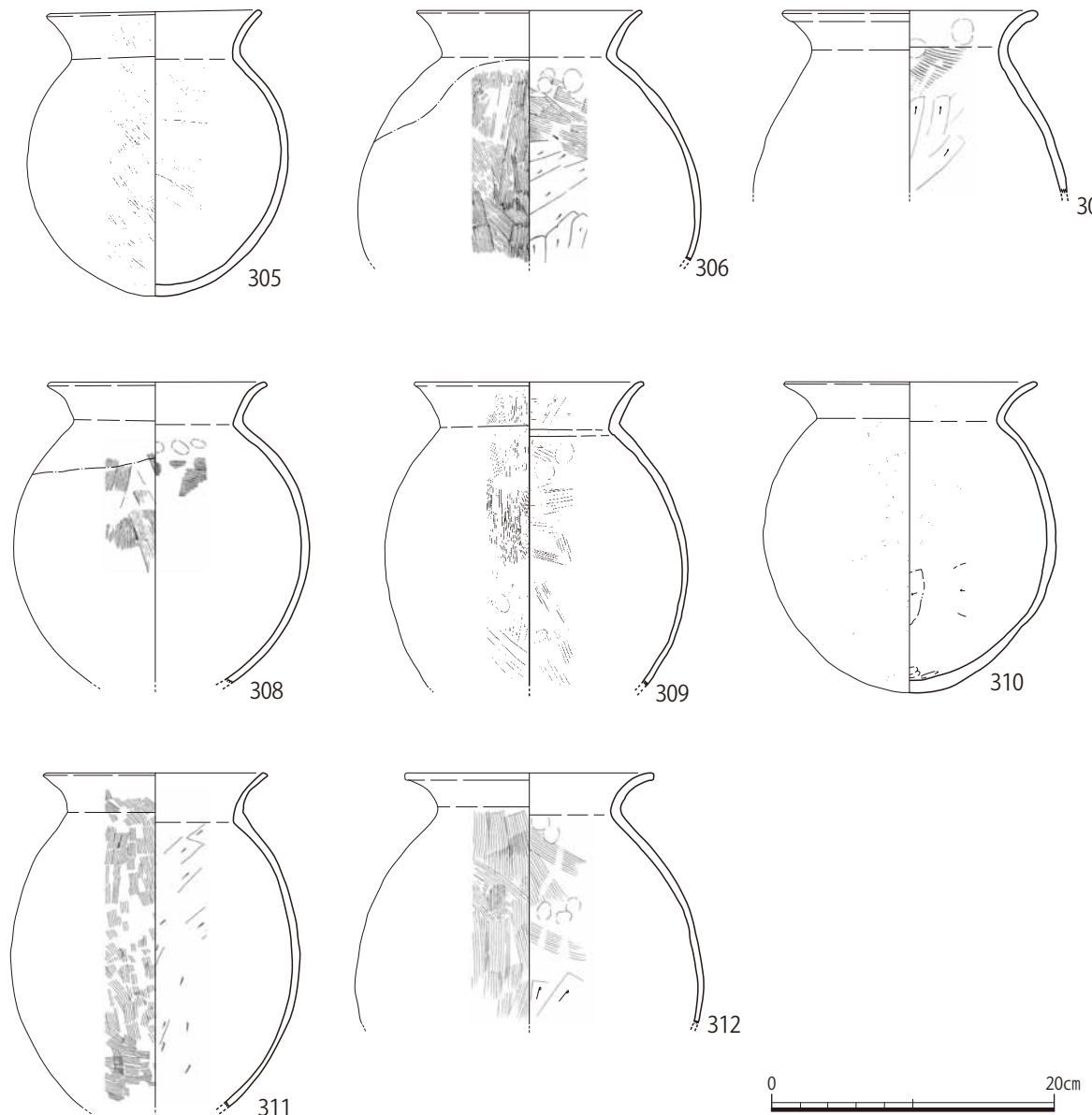
第46図 23SD001 出土遺物実測図 24 (1/5)



第47図 23SD001出土遺物実測図 25 (1/5)

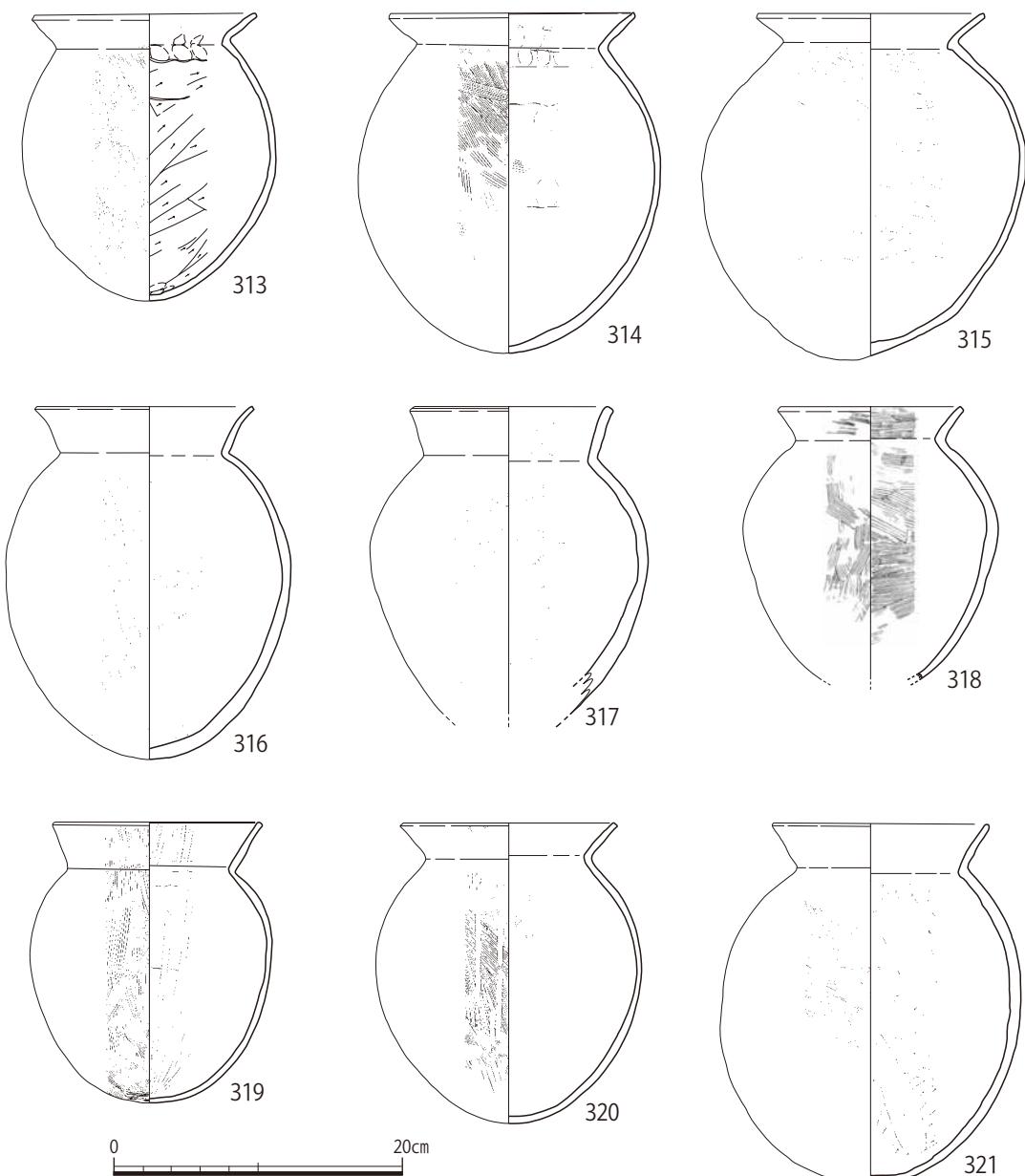


第48図 23SD001出土遺物実測図26 (1/5)



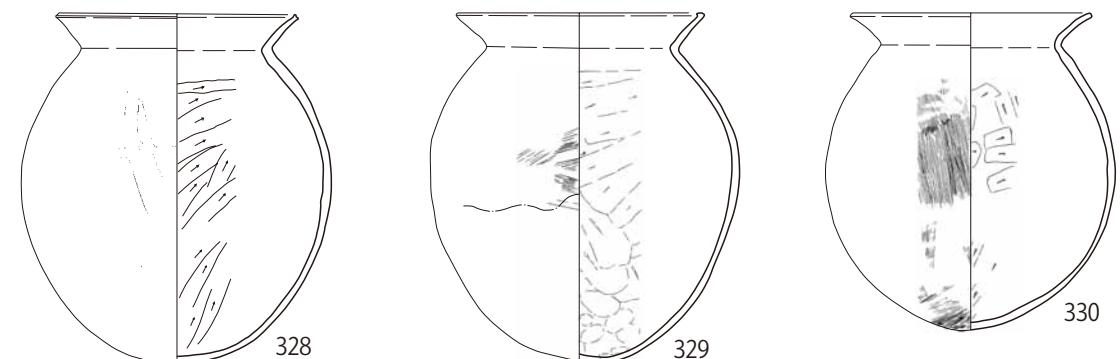
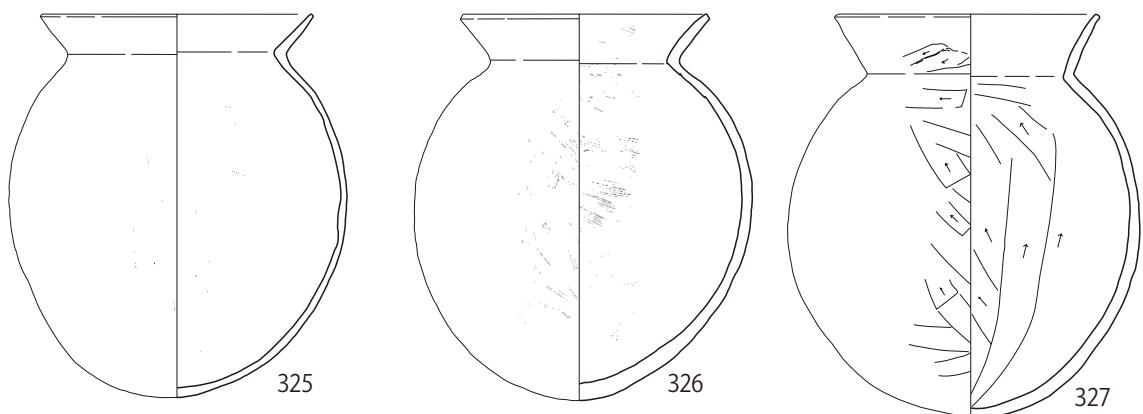
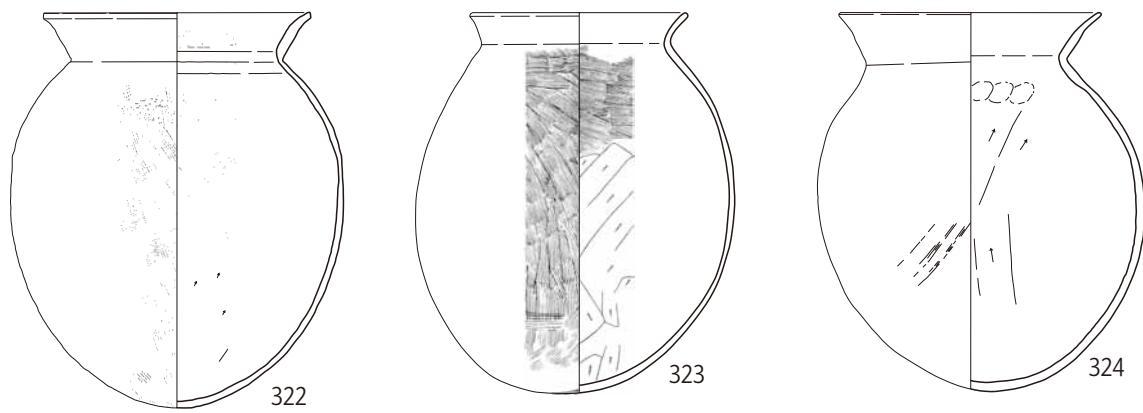
第49図 23SD001出土遺物実測図27 (1/5)

17.0cm、器高 23.5cm、最大胴部径 21.0cm を測る。内面・黄橙色、外面・灰白色～浅黄橙色を呈し、胎土中には長石粒、角閃石粒等が含まれる。外面は胴部上位にハケ目調整が施されている。短い口縁部は外方に外傾し、中位はわずかに肥厚する。315 は口径 15.6cm、器高 25.0cm、最大胴部径 22.4cm を測る資料であり、調整は内外面ともにケズリが認められる。314 はナデ肩状を呈するのに対し 315 は球形を呈している。内面頸部は肥厚し平坦に仕上げられている。布留式系甕の要素が強い資料である。また、317・319・321・322・324・327 等は他資料に比して口縁部がより直立して立ち上がり外傾する。327 は内外面ともにケズリが顕著に認められる資料である。329 は口径 16.4cm、器高 23.1cm、最大胴部径 20.4cm を測る。内面は底部付近に指頭圧痕が認められ、胴部下位から上部にかけてヘラケズリが実施される。口縁端部は平坦に仕上げられ内面方向にわずかに突出する。339 の資料も同様の口縁部形状を示す。ナデ肩状のフォルムをなし、ヘラケズリの多用や口縁端部の処理等、新来の技術の導入がなされた布留式系甕の模倣と考えられる。341～353 は底部が欠損する資料であ

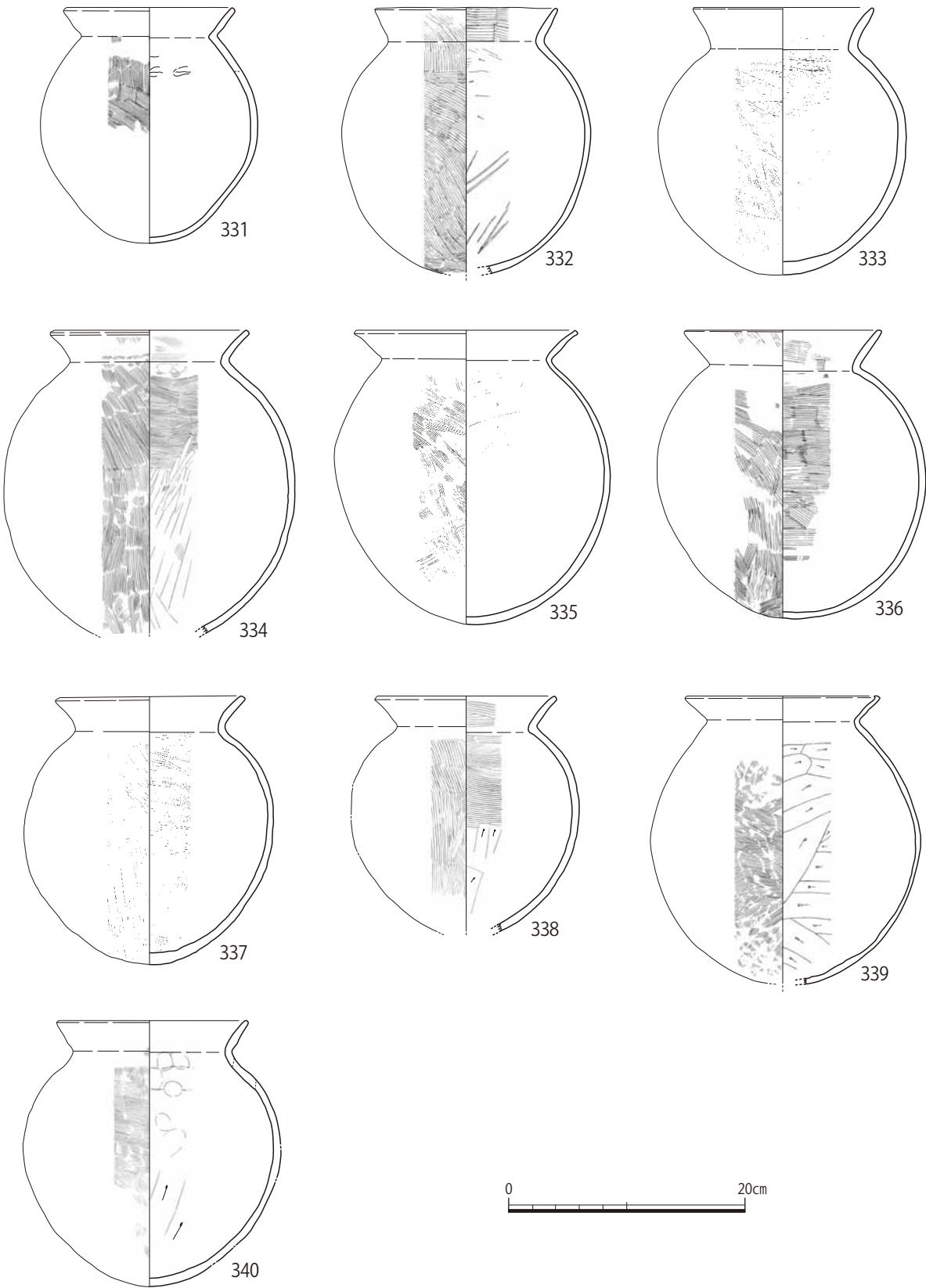


第 50 図 23SD001 出土遺物実測図 28 (1/5)

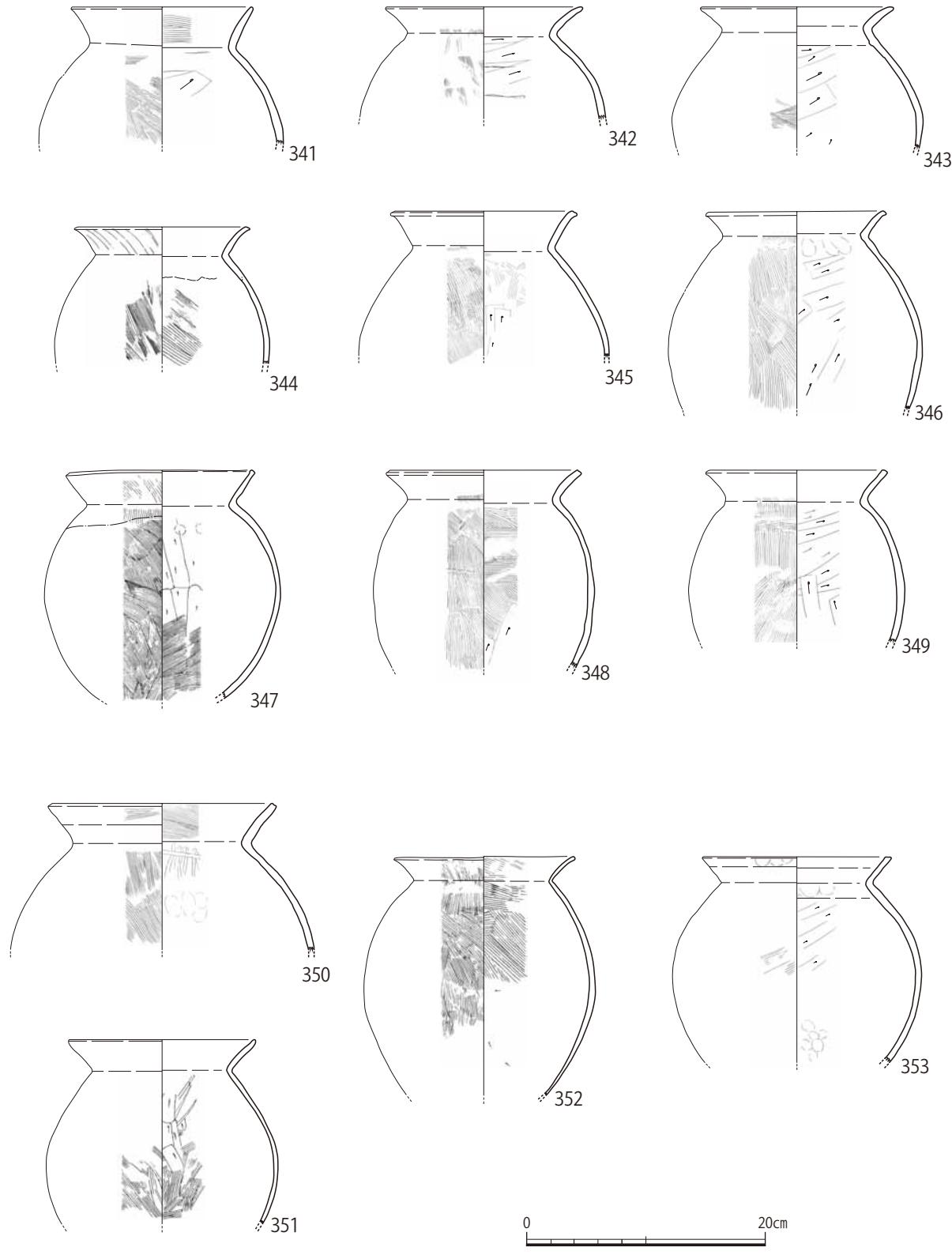
り、口縁部の形状と口頸部の締り具合により中甕 B2-a タイプとしたものである。口縁端部の処理にはバリエーションが多く、そのほとんどは布留式系甕の影響を受けたものである。354 は中甕 B2-bi に分類されるものである。内外面はハケ目により調整されている。口縁部は中位においてわずかに外方へ屈曲する。頸部の締りは強いタイプである。底部形状は尖り気味である。355～363 は中甕 B2-bii に属する資料である。360 は復元口径 20.4cm、最大胴部径 22.0cm を測る。内外面ともにハケ目調整により仕上げられる。胴部は球形に近いフォルムをもち、口縁部は他の資料に比して長く伸びる。その中位はわずかに外側に肥厚し、口縁端部は平坦に仕上げられている。361 はヘラケズリが内面に認められ、口縁端部は 360 と同様に平坦に仕上げられたのち中央部分に沈線状の凹みがめぐるものである。362 は復元口径 16.4cm、器高 23.1cm、最大胴部径 20.7cm を測り、内面は底部付近に指頭圧痕、胴上半部にはヘラケズリが認められる。外面のハケ目は上半部にヨコハケ目が認められる。頸部内面は平坦に削られており、口縁部は肥厚しながらわずかに内湾する。また、口縁端部は内側につま



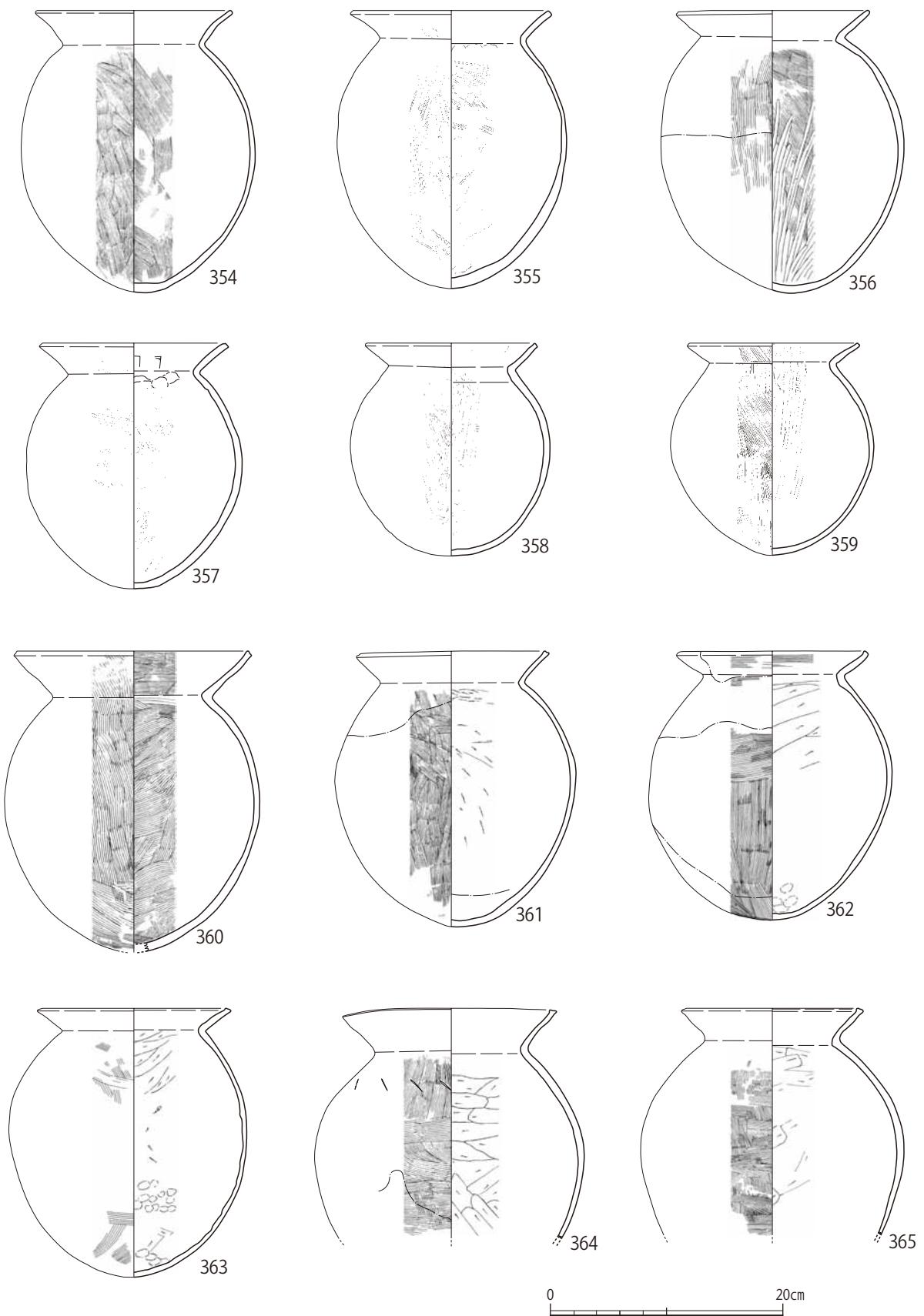
第51図 23SD001出土遺物実測図29(1/5)



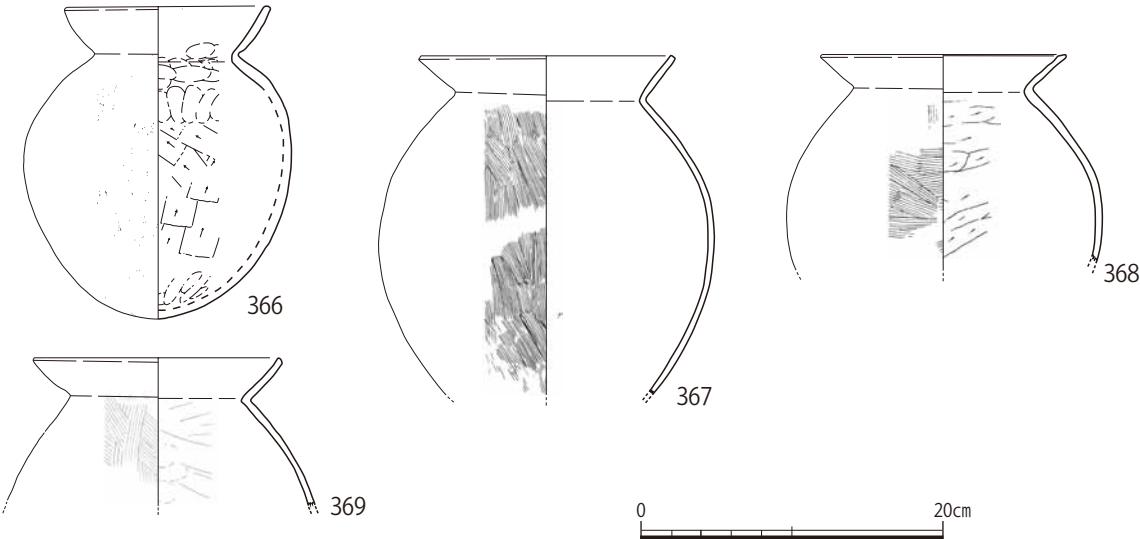
第 52 図 23SD001 出土遺物実測図 30 (1/5)



第53図 23SD001出土遺物実測図31 (1/5)



第54図 23SD001 出土遺物実測図 32 (1/5)



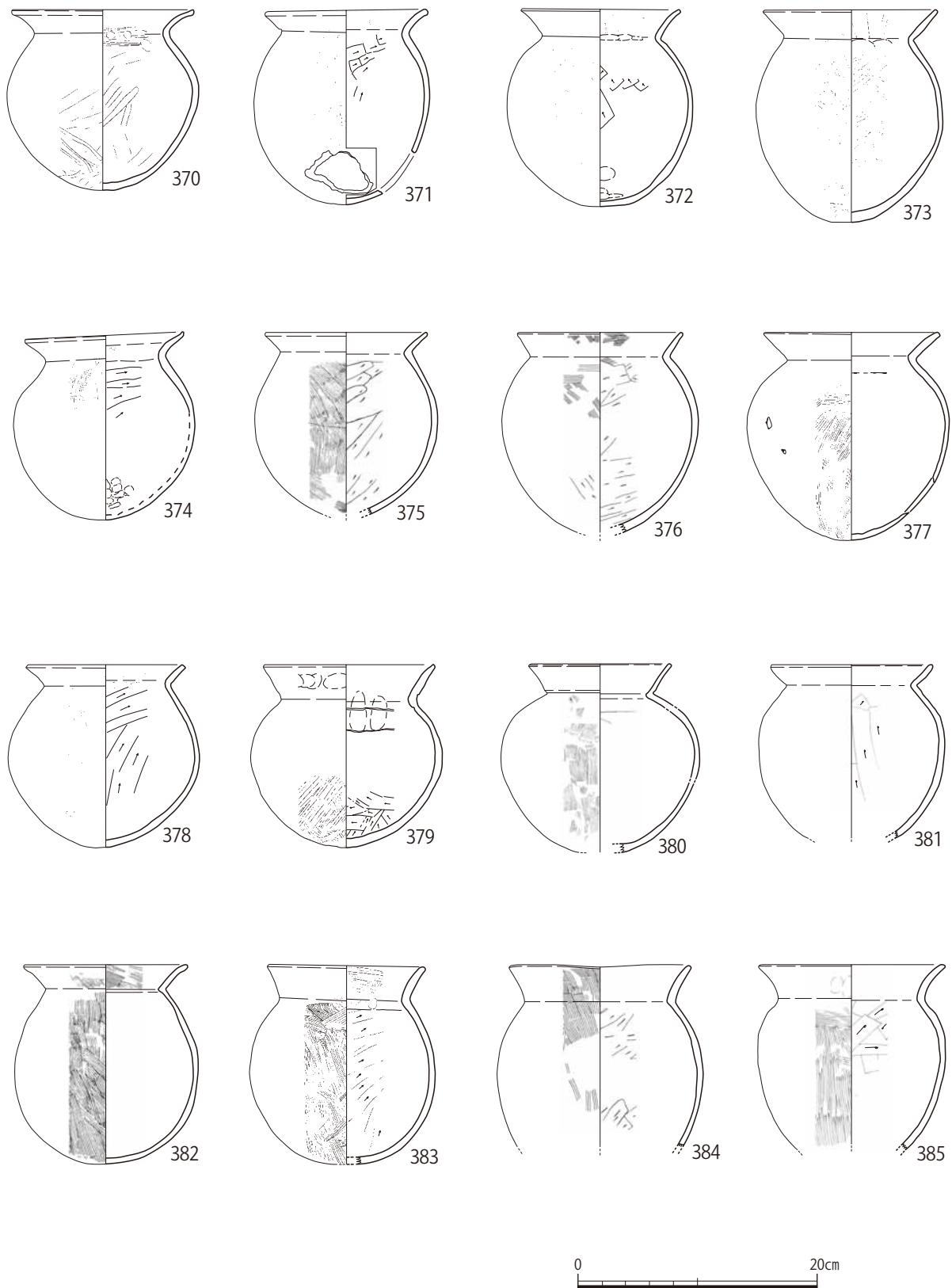
第 55 図 23SD001 出土遺物実測図 33 (1/5)

みあげたように膨らむ。363～365はいずれも口縁端部を平坦に仕上げた後、中央部に沈線状の凹みをめぐらす。このような特徴は布留式系甕でも古相のタイプに認められるものである。364～369は中甕 B2-b タイプである。370～397は法量による分類で小甕としたものである。386～396の小甕はバリエーションに富み、中には388・391のように頸部が締り、小壺としても小甕としても違和感がないものや、390のように小形の鉢としても認められるような資料がある。内面調整にはほとんどの資料にケズリが実施されている。この小甕は第20次溝資料と第23次溝資料の中に一定量出土しており、器高が15cm～18cm前後のもの、10cm～15cm前後のものとさらに細分が可能のようであるが、本書では一括して掲載した。402は弥生土器甕の底部資料と考えられる。底部は厚く平底を呈している。

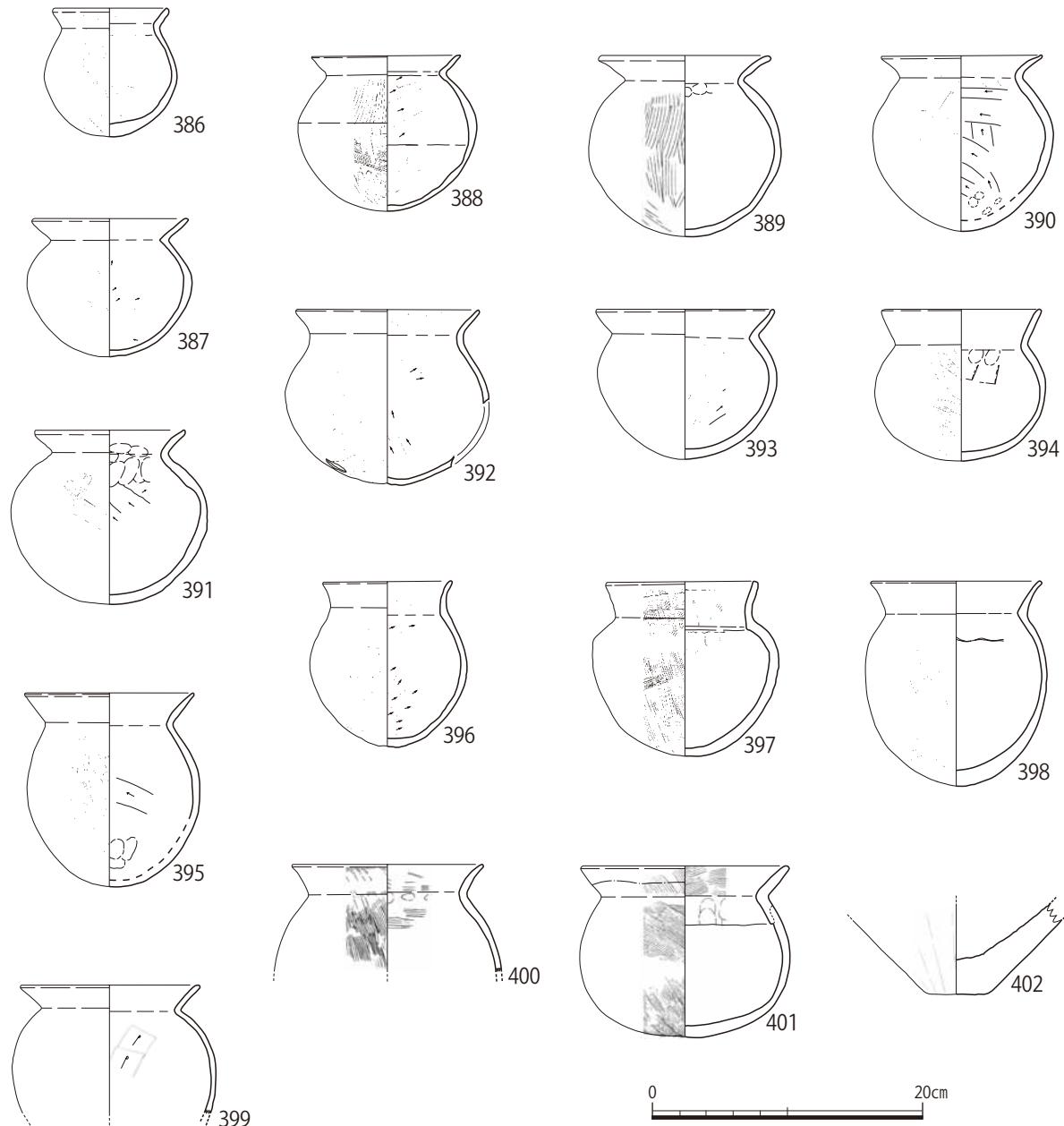
以上が23SD001出土甕資料の詳細である。

ここで23SD001出土の甕について分類結果を踏まえて、時間的位置づけを検討する。

23SD001出土土師器の中で土師器甕の個体数は、大甕・中甕・小甕を合わせ157個体である。そのうち大甕は全体の17%、中甕は63%、残る20%は小甕である。大甕17%の中で、大甕Aに分類された長胴タイプの甕は65%と半数以上を占める。逆に中甕では、球形タイプの（中甕B：75%）占める割合が大きい。さらに口縁形態別の割合では、大甕の場合は1類とした外反するタイプのものが7割ほどを占め、中甕では2類としたタイプが8割ほどを占める。また、底部形状の分類結果は長胴タイプの占める割合が大きい大甕は尖底（i類）も丸底（ii類）も半々であった。逆に球形タイプが半数以上を占める中甕は丸底（ii類）が8割ほどを占めている。以上の点を整理すると、長胴の甕は、尖底状を残しつつ、丸底化を指向している。また、球形タイプの甕は新来の技術導入が進み、口縁端部は面取りされ平坦に仕上げられるものが主流である。底部も丸底となり球形化したタイプが一定量出土するという状況が認められる。これらは古墳時代前期前葉から前期中葉の範疇におさまるものと考えられる。具体的にいえば、大甕A1-aiとした長胴タイプの甕244・252・280などは内外面の調整にハケ目、ミガキが施され、器壁の薄壁化は進展していない。これは古墳時代前期前葉の標識資料となっている守岡遺跡19号住居跡出土の在地系甕資料や下郡遺跡群第90次SH020出土の甕に類似する。同じ長胴タイプの甕でも249・251・256には内面にヘラケズリが認められ在地系の甕に新来の技術が導入されているものである。また、329・362・363はナデ肩のプロポーションを持ち、口縁端部の処理についても外来の成形技法が導入されている。これは下郡遺跡群第92次SH343出土の甕資料に類似し、古墳時代前期中葉における諸特徴と一致する

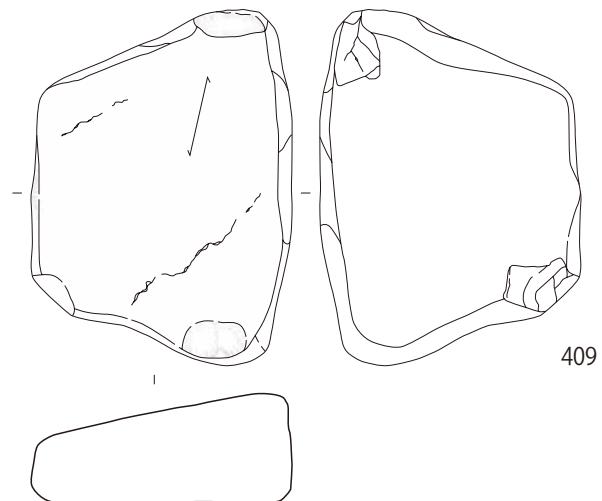
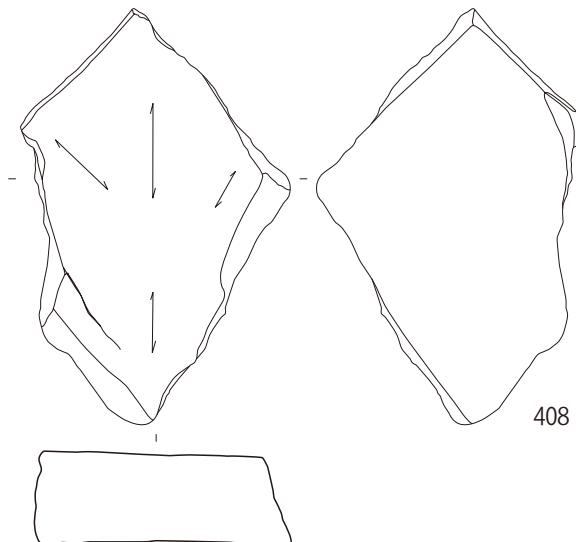
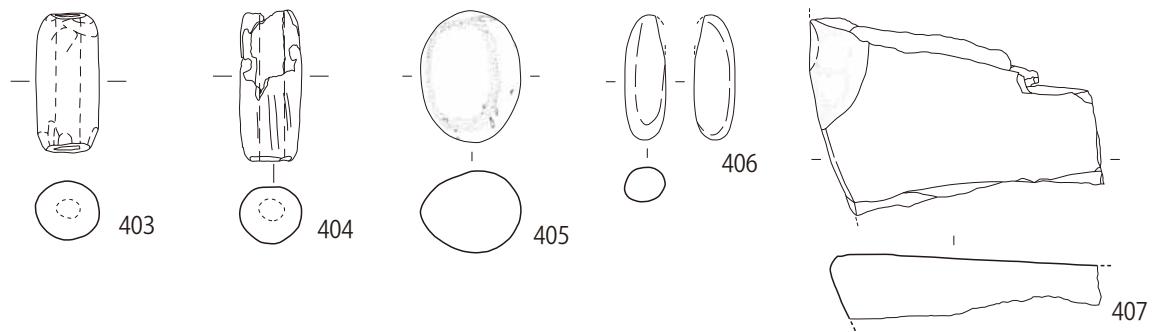


第 56 図 23SD001 出土遺物実測図 34 (1/5)

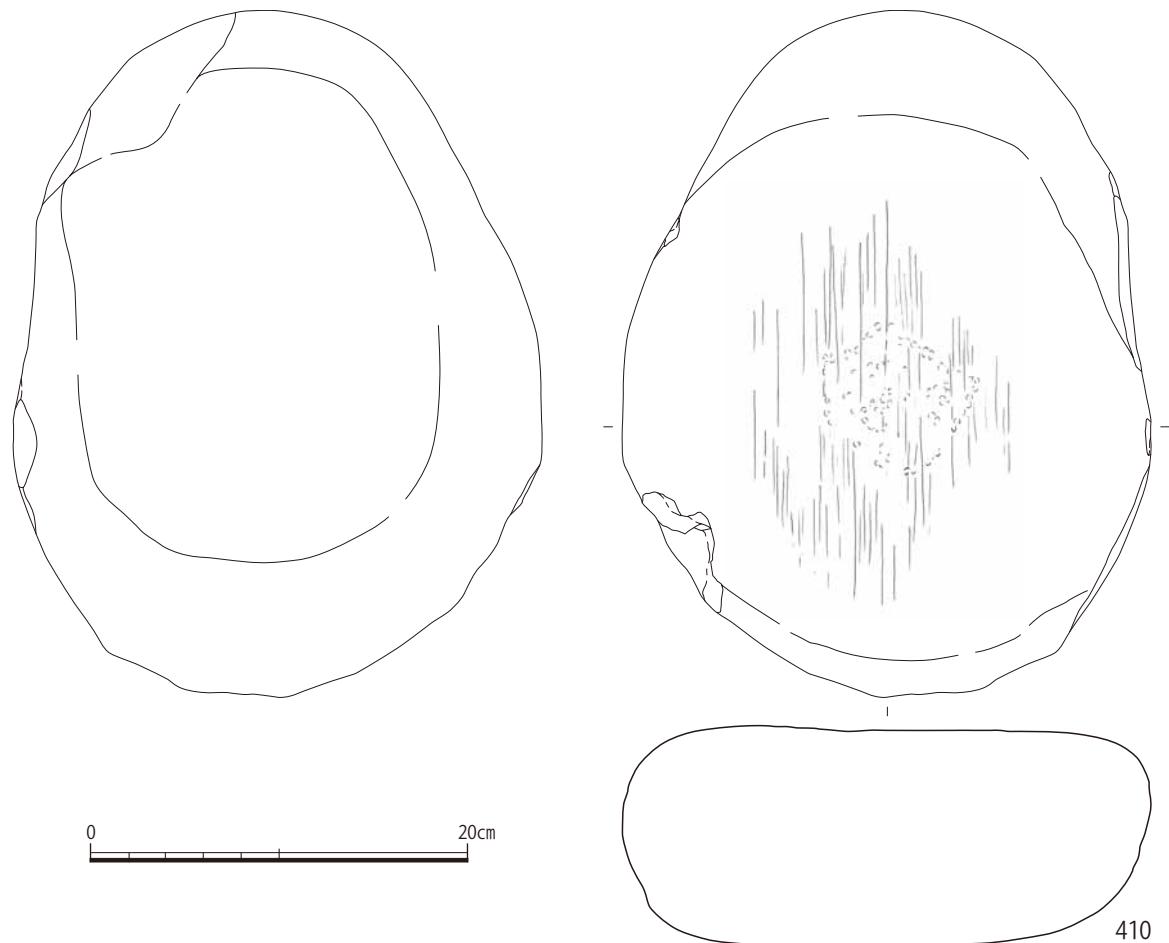


第57図 23SD001出土遺物実測図35 (1/5)

ものである。さらに120においては内面の指頭圧痕が底部から胴部中位付近まで見られ、092には口縁部の肥厚も認められる。このような特徴は古墳時代前期中葉でも新相段階に位置づけられるものである。以上のことから23SD001出土の甕は先述した通り古墳時代前期前葉から前期中葉に相当するとしながらも、その主体は古墳時代前期中葉であると考えられる。



第58図 23SD001 出土遺物実測図 36 (1/4)



第 59 図 23SD001 出土遺物実測図 37 (1/4)

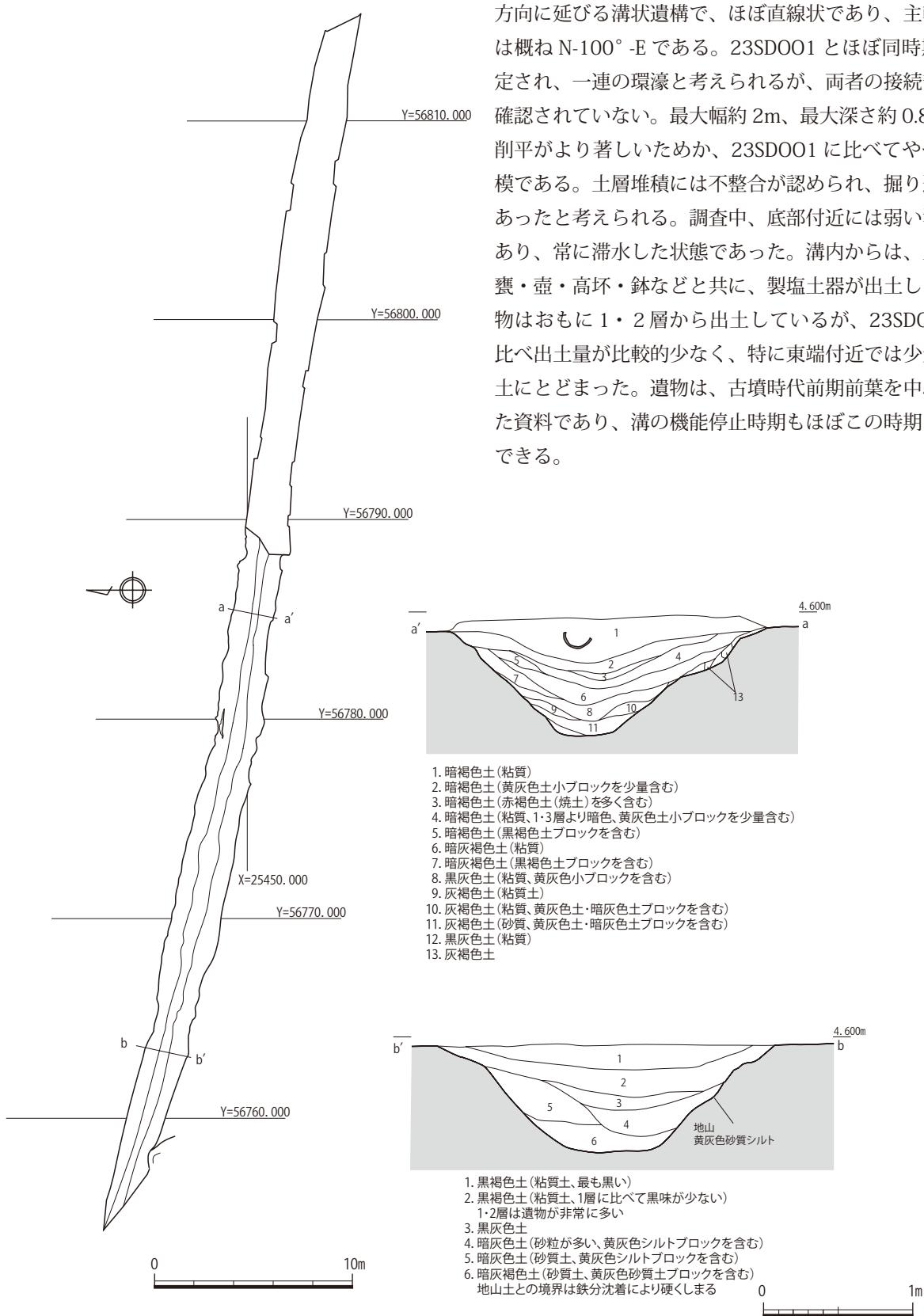
**土錘・石器（第 58 図～第 59 図）**

403・404 は管状土錘である。403 は褐色から黒褐色、404 は赤褐色を呈す。

405～410 は石器である。405・407～409 は、いずれも安山岩製のすり石である。405・409 は下層から、408 は中層から出土した。406 は砂岩製と考えられる用途不明石器である。410 は安山岩製の台石である。大形で中央には使用痕が確認できる。敲打痕か。中層から出土した。

## 23SD170 (第 60 図)

23SD170 は、東側拡張調査区において検出した東西方向に延びる溝状遺構で、ほぼ直線状であり、主軸方向は概ね N-100°-E である。23SD001 とほぼ同時期と推定され、一連の環濠と考えられるが、両者の接続部分は確認されていない。最大幅約 2m、最大深さ約 0.8m で、削平がより著しいためか、23SD001 に比べてやや小規模である。土層堆積には不整合が認められ、掘り返しがあったと考えられる。調査中、底部付近には弱い湧水があり、常に滯水した状態であった。溝内からは、土師器甕・壺・高坏・鉢などと共に、製塩土器が出土した。遺物はおもに 1・2 層から出土しているが、23SD001 に比べ出土量が比較的少なく、特に東端付近では少量の出土にとどまった。遺物は、古墳時代前期前葉を中心とした資料であり、溝の機能停止時期もほぼこの時期と推定できる。



第 60 図 23SD170 遺構実測図 (1/300・1/40)

## 23SD170 出土遺物（第 61 図～第 85 図）

出土遺物には、ミニチュア土器、器台形土器、高環形土器、鉢形土器、壺形土器、甕形土器、土錘、石器などがある。

### ミニチュア形土器・器台形土器（第 61 図 001～008）

001～004 はミニチュア土器鉢である。001 は口縁部付近に渦巻状の線刻が認められる。002～004 は椀状の鉢である。005 は皿状の受け部に直線的に広がる脚部をもつ小形器台で、円孔が脚中位に 4 箇所認められる。006 は小形器台の受け部と考えられる。007・008 は浅い鉢状の受け部をもち直線的に広がる脚部をもつ小形器台である。円孔が脚中位に 4 箇所認められる。007 は脚部が外反気味。008 はやや内湾して広がる。

### 高環形土器（第 61 図～第 64 図 009～047）

009 は稜をもって大きく外反する口縁部をもつ環部で、脚柱部が円柱状で稜をもって屈曲する高環 A 類と考えられる。脚裾部に円孔を施す。

010～012 は、环下半が有段でやや直線的に広がる口縁部をもち、脚部は脚柱部が下方に向かって広がり稜をもって屈曲する高環 B 類である。脚の屈曲部の下位に円孔が認められる。010 は环上半が外反気味。环部の調整は縦方向ミガキ、脚外面は横方向のミガキを施す。011 は内外面ともに横方向のミガキを施す。脚内部の調整はケズリを施す。012 は 010・011 に比べ、环底部の水平化が進んでいる。器壁も薄く、脚部にはミガキ調整が残るもの環部などはヨコナデ・ナデなど調整に手抜きがみられる。

013～030 は、环部が明確な稜をもち概ね直線的に外傾する口縁部をもつ高環 C 類である。013～019 は脚柱部が下部に広がりをもち稜をもって屈曲する脚部で、环の深さが器高の 1/2 程度の深めの环部をもつ高環 Ca 類である。环口径 20cm～24cm を測る。脚裾部に円孔を施す。015 は 2 個 1 組の円孔を 1 対施す。020～024 は屈曲部付近に円孔を施す。025～030 は脚柱部が短めで下部で大きく広がり稜をもって屈曲する脚部で、环口径 23cm 以上と大きく浅いものになり、全体の器壁は薄い。025・029・030 は环内部に放射状のミガキを施す。円孔が 025 は脚部の屈曲部より下位に、028 は屈曲部付近、026・027・029・030 は脚の屈曲部の上位に施す。

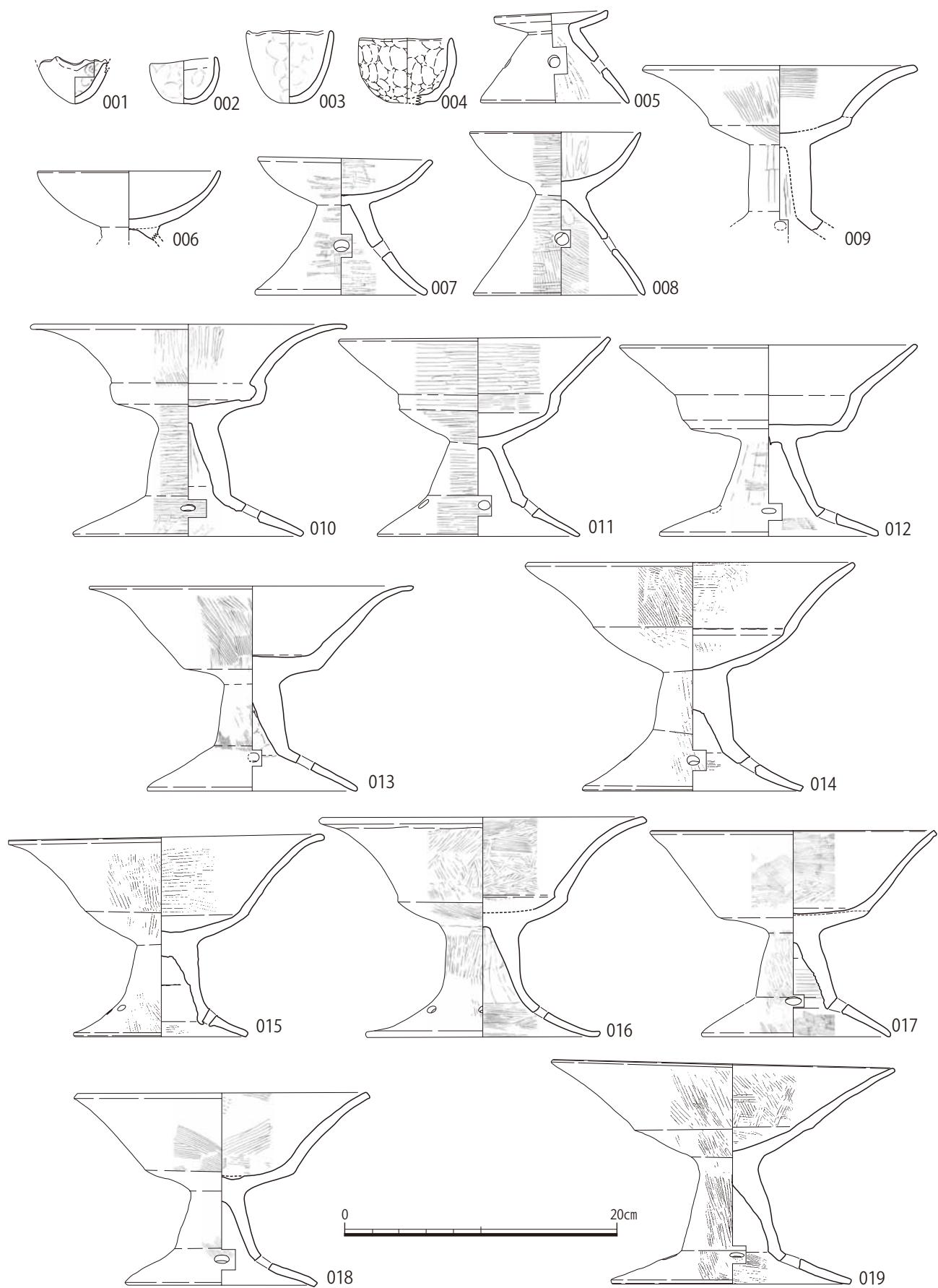
031・032 は环下半が深く口縁部が緩やかにやや外反し、脚部はラッパ状に広がる高環 D 類である。弥生時代終末期の 043～048 よりも环下半部は浅めで、口縁部は直線に近くなる。調整はハケ目後ミガキ、指オサエを施す。

033～037 は高環 C 類の环部片の資料である。033～035 は脚 a 類で、脚柱部が下部に広がりをもち稜をもって屈曲する。036 は环口径が 27.0cm と大型である。脚裾部が欠損しているが高環 Ca 類と思われる。037 は环口径 18.6cm を測る。外面にミガキを施す。038～039 は高環 C 類と組合せられる脚部片の資料と考えられる。038 は屈曲部付近に、039 は屈曲部の上位に円孔を施す。040 は口縁部・脚裾部が欠損しているため、全貌は不明である。脚柱部が中実であり、円孔を 4 箇所施す。

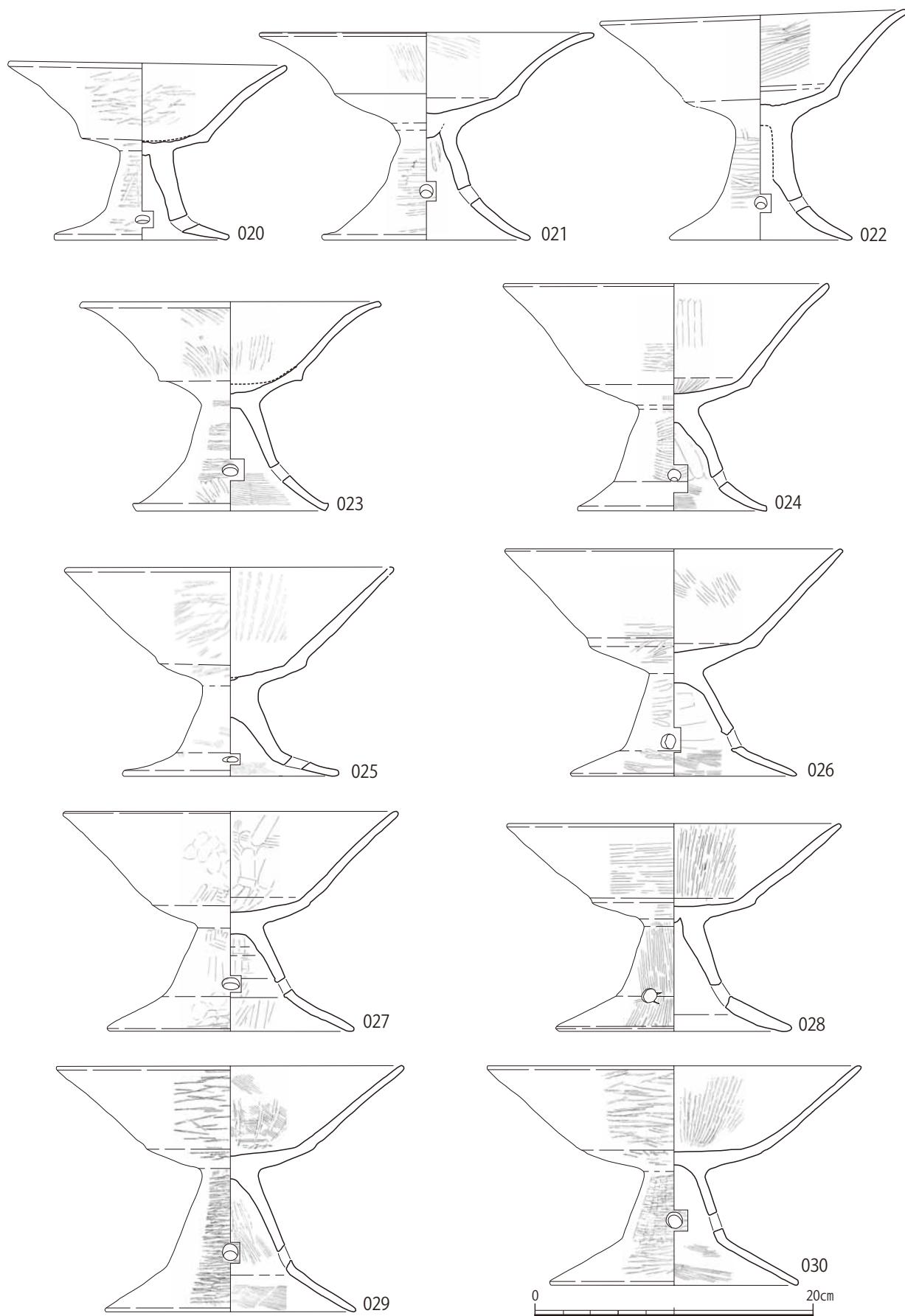
041 は装飾高環である。口縁端部が短く立ち上がり、2 個 1 組の円形浮文を 4 箇所に貼りつける。脚柱部はエンタシス状で、稜をもって屈曲し脚裾部に至る。脚裾端部は欠損しているため不明であるが、脚柱部の屈曲部のすぐ下位に円孔が施され、その下位に明確な稜をもって脚裾部の端部へ至る。口縁端部と脚裾部の稜に竹管文を各 2 条施文している。环部内部に放射状のミガキを施す。

042～049 は弥生時代後期終末期頃の所産と考えられる。042 は大形高環の环部である。口径は 28.6cm を測る。内外面ともに丁寧なミガキを施す。043 は环部に外面から内面への穿孔がみられ、対称面にも 1 箇所認められる。044 は口縁端部が欠損している。045 は口縁・脚部の端部を欠損している。046・047 は同様の环部片である。047・049 は脚部片である。

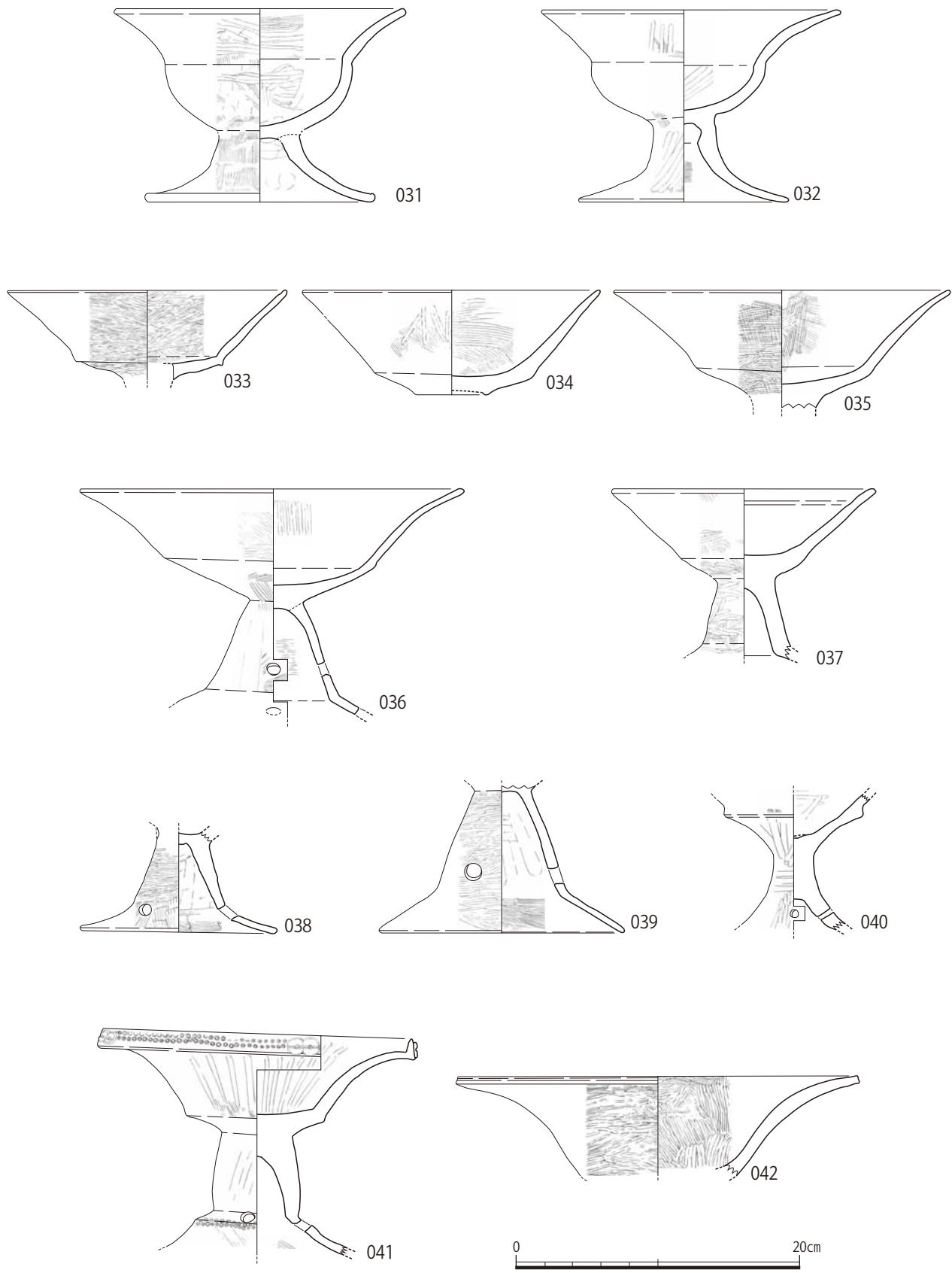
23SD170 では、他調査区の溝状遺構に出土していない高環 B 類 (010～012)・高環 D 類 (031・032) が出土している。高環 B 類は外来系（庄内式系）の影響を受けて成立したものである。012 は同種であるが、ミガキが



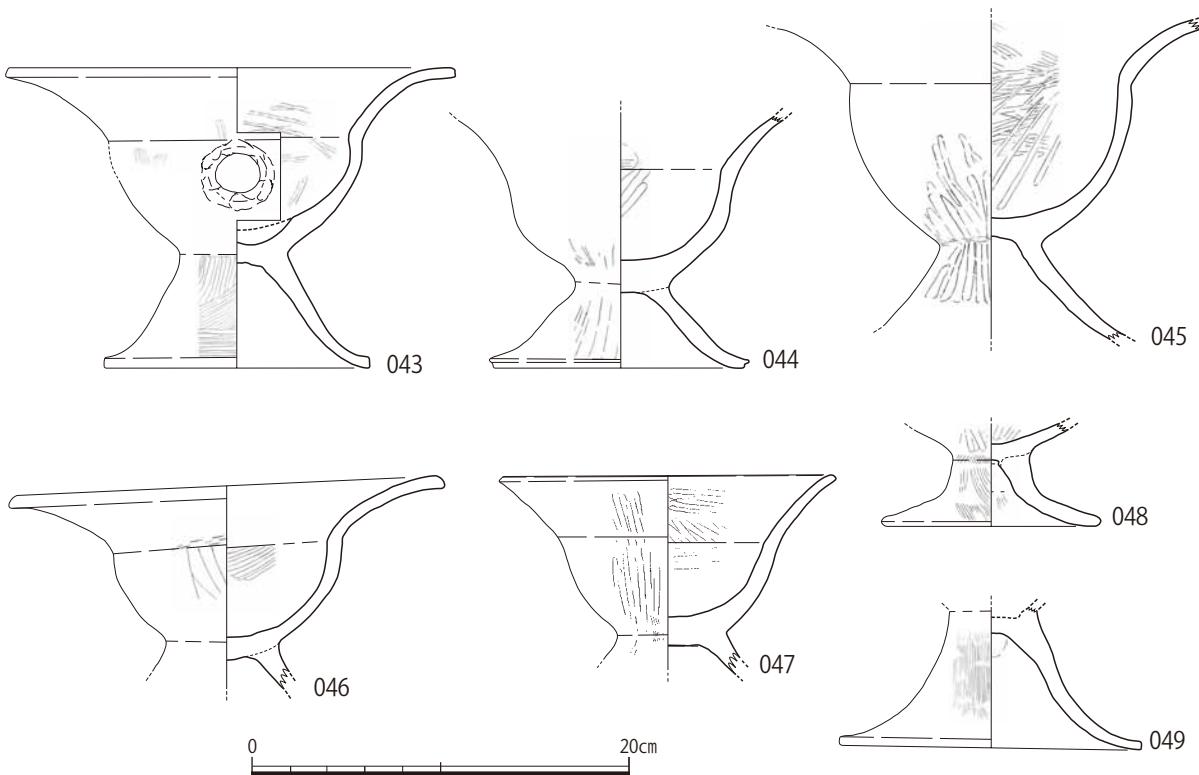
第61図 23SD170出土遺物実測図1 (1/4)



第62図 23SD170出土遺物実測図2 (1/4)



第63図 23SD170出土遺物実測図3 (1/4)



第64図 23SD170 出土遺物実測図4 (1/4)

省略され、器壁が薄くなるなど布留式系の要素もとり入れられる。高坏D類は、守岡遺跡19号住居跡出土資料を標識とする古墳時代前期前葉の高坏と同様のものである。高坏Ca類については、口縁部が外反気味なものや内外面に丁寧なミガキが残るなど古い様相もみられる。脚部の内面にヘラケズリを施す外来系の影響を受けたものもみられるようになる。高坏Cb・Cc・Cd・Ce類はみられない。全体の様相は、古墳時代前期初頭から前期中葉頃が考えられ、弥生時代終末期の土器も混在する。

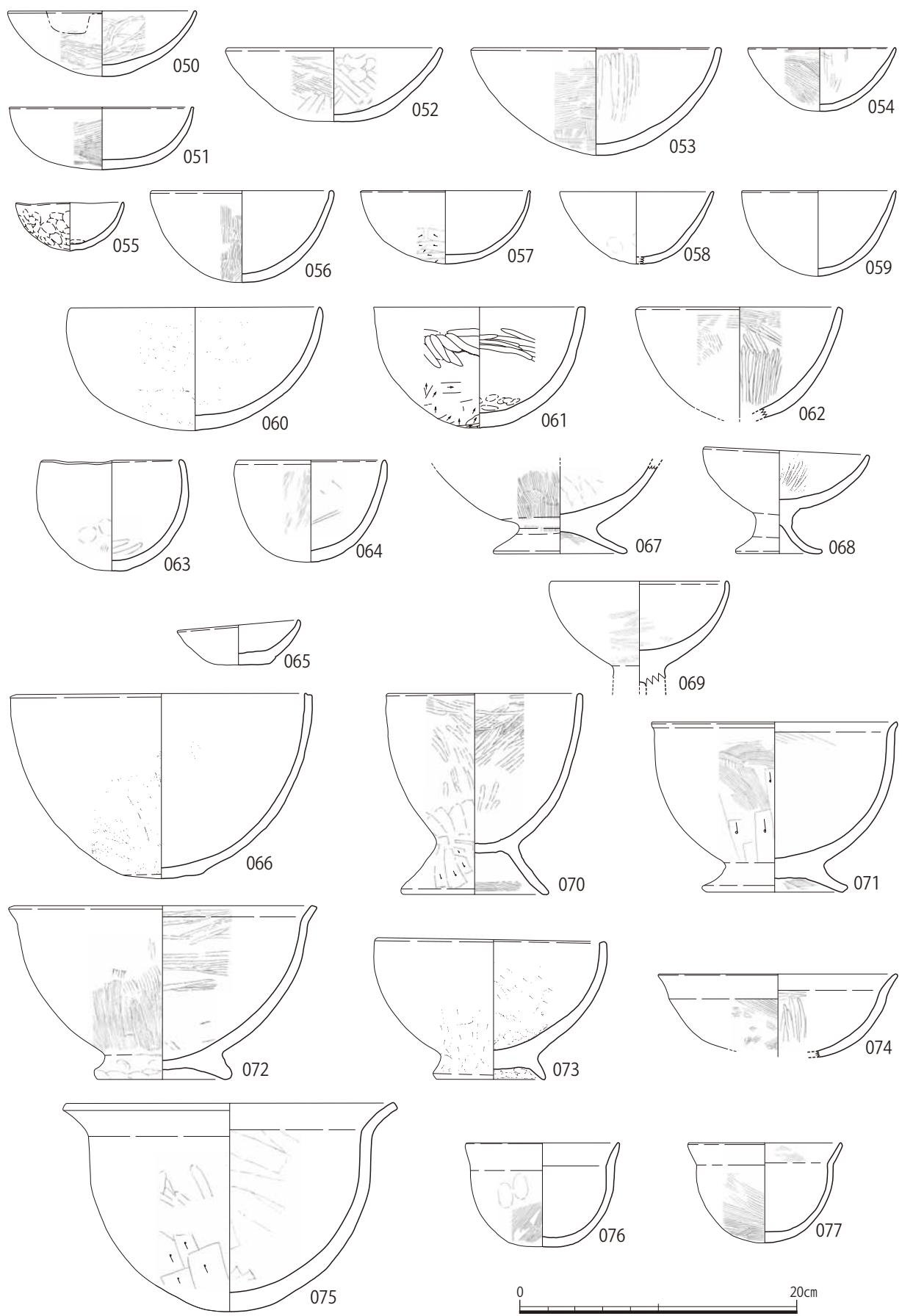
#### 鉢形土器（第65図～第67図）

050～052は鉢A1で、皿・坏に近い形状の小形の浅い鉢である。050・051は直線的に外方へと伸びる口縁端部を有する。050はススの付着が認められる。052は軽く内湾する口縁端部を有する。053～062は鉢A2で、椀型の小形の鉢である。053は平坦に整えられた口縁端部を有し、内面に縦方向のミガキを施す。054・058・059は直線的に外方に伸びる口縁と、やや尖底気味の底部を有する。055は外方に伸びる口縁端部を有し、外面は全体的に指頭圧痕による調整が見られる。056・057は外方へと伸びる口縁端部と丸底を呈する。060は軽く内湾した口縁部を有し、粘土接合痕が認められる。内外面共にミガキを施す。061は直線的に上方へと伸びる平坦に整えられた口縁端部を有し、全体的に器壁が厚い。062はやや外側へと傾いた平坦な口縁端部を有し、全体的に器壁が厚い。内面にミガキを施す。

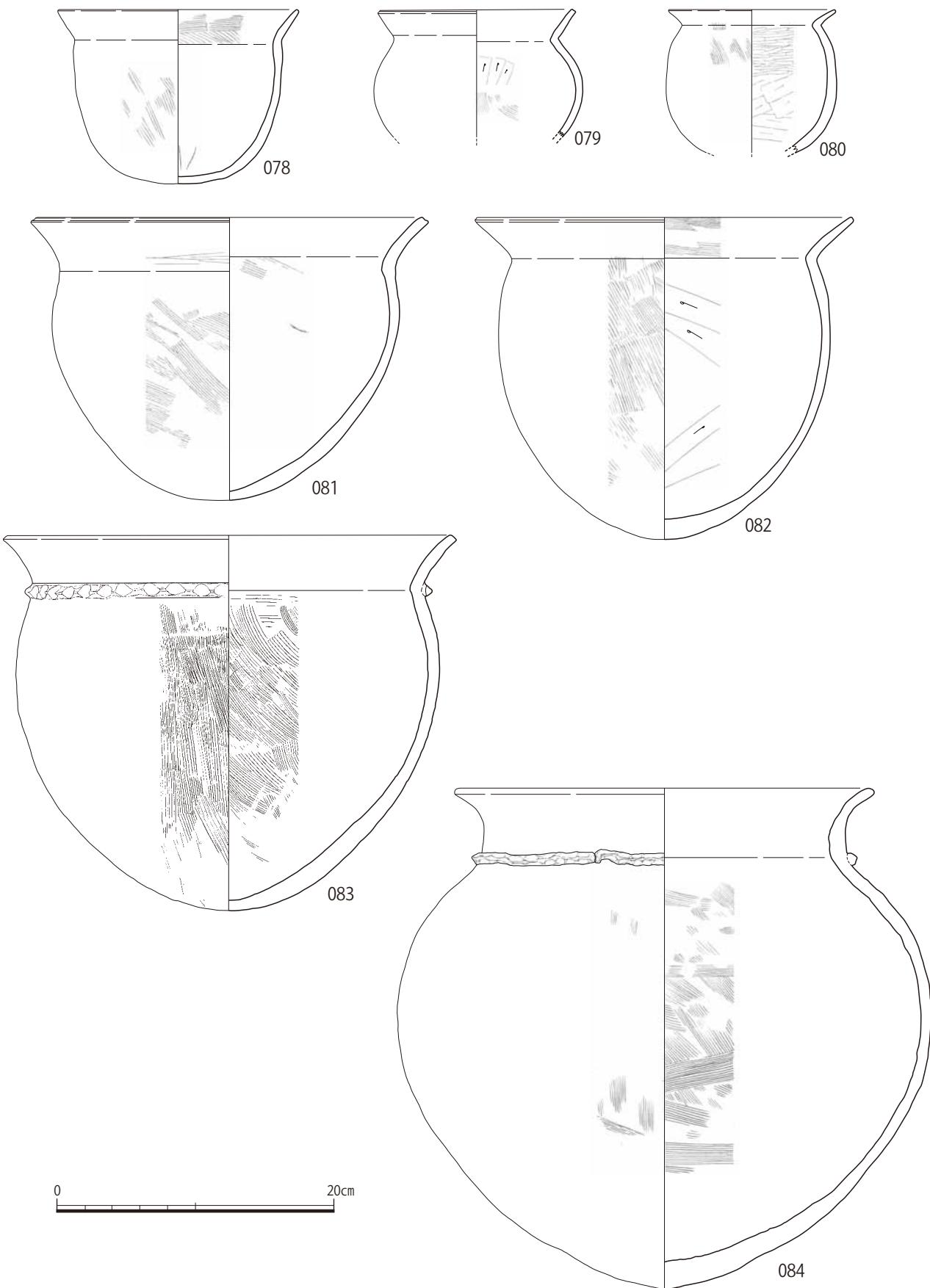
063・064は鉢B1で、深鉢である。共に軽く内湾する口縁部を有し、丸底を呈する。

065は鉢G1で、小形の平底鉢である。底部が厚く、器高に傾きが見られる。066は鉢G2で、大形の平底鉢である。口径21.8cmを測り、口縁端部に沈線状の凹みを有する。

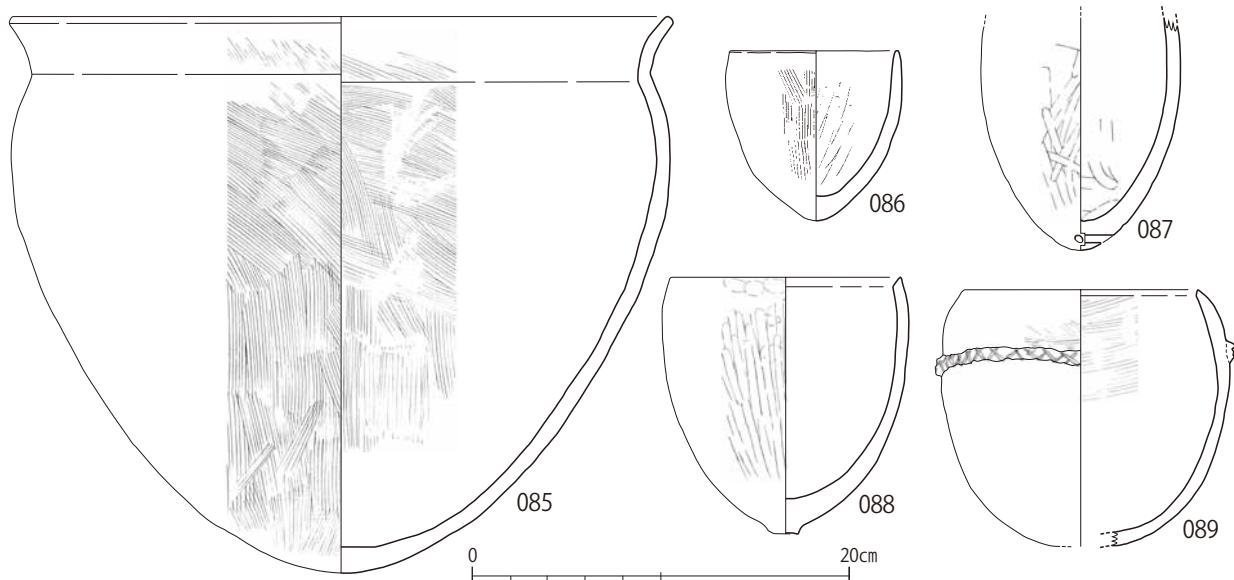
067～073は鉢Eで、台付鉢である。068は高坏の脚部に似た脚台部を有し、内面にミガキを施す。069は脚部が欠損しているが、高坏の脚部に似た脚台部を有すると考えられる。070は深鉢状の坏部を有し、脚部～鉢部外面下方にケズリ、内外面共にミガキを施す。071は口縁端部をつまみ出す。外面下方にヘラケズリを施す。072は肥厚した口縁端部をつまみ出し、平坦に整える。外面にススの付着が認められる。073は肥厚した口縁



第65図 23SD170 出土遺物実測図5 (1/4)



第66図 23SD 170 出土遺物実測図6 (1/4)



第67図 23SD170出土遺物実測図7 (1/4)

端部を平坦に整えている。

074は鉢C1で、口縁部に屈曲を有する浅鉢である。内面にミガキを施す。075は鉢C2で、口縁部に屈曲を持つ鉢C1よりも深い形状のものである。底部が厚く、やや外側へと傾いた肥厚した口縁端部を有する。

076～085は鉢D1で、口縁部に屈曲を有する深鉢である。082は内面にケズリを施す。083は屈曲部に貼付突帯を有し、内外面ともにハケ目調整を施す。084は曲線的に外反する口縁部と貼付突帯を有し、胴部は球形である。086～089は鉢B2で、鉢B1よりも深い形状の深鉢である。087は底部に横方向の穿孔を有し、赤色塗彩を施す。088は口縁端部を内側に平坦に整え、平底を呈する。外面にミガキを施す。089は口縁部が内湾し、胴部上位に刻み目突帯を廻らせる。

23SD170から出土した鉢には、084のように胴部の球形化が進んだ形状の鉢が見られる一方で、086～089のように弥生時代の所産と思われる深鉢が含まれている。また、085に見られるようなやや尖底気味の底部形状を呈する深鉢や、070のような深い鉢部を有する台付鉢がみられることから、弥生時代後期終末から古墳時代前期前葉の所産であると考えられる。

#### 壺形土器（第68図～第75図）

23SD170から出土した壺形土器は、壺A類：小形の丸底壺・鉢、壺B類：直口壺、壺C類：単口縁壺、壺D類：複合口縁壺、壺E類：二重口縁壺である。ほとんどが土師器であるが、148は弥生土器である。

090～106は小形の丸底壺・鉢の資料である。090～091は壺A-a類。092は、壺A-b類。093～095は、壺A-c類である。096～099は、壺A-d類。100は壺A-e類。101は壺A-f類。102～103は壺A-g類。104は球形化が進んだ胴部に、強く外反する短い口縁部がつく資料で、口縁部には一箇所穿孔が見られる。105は法量が大きいが、壺A-g類と考えられる資料である。106も同じく壺A-g類とした。

107～113は直口壺。多くは、内外面ともナデもしくはハケ目調整を施される。110は、口縁部に内外面ともミガキが施される。111は口縁端部が内湾する資料である。112は口縁端部を欠損するが、体部外面や口縁部内面にミガキが施される。113は頸部から口縁部を欠損するが、直口壺の胴部と考えられる資料である。

114～126は、単口縁壺である。114～122は壺C-a類で、胴部が長胴形で、口縁部が短く外反、もしくは内湾気味に立ち上がる資料である。114～117は、頸部に突帯を有する。114・116は口縁部が内湾気味に立ち上がる。117は胴部から下部を欠損するが、同タイプの資料であると考えられる。116は、短く外反す

る口縁部に長胴形の胴部。底部はいずれも丸底化している。118～122は、頸部に突帯がないタイプである。118・119は内面にケズリが施される。120～122は胴部から底部を欠損する。

123～126は、球形化のすんだ胴部に大きく開く口縁部を有する壺C-c類の資料である。124は、口縁部を欠損するが、球形化のすんだ胴部が共通する。内面調整はハケ目である。125・126は底部を欠損するため全体の形状は不明である。

127～143は複合口縁壺である。127・128は、安国寺式タイプの複合口縁壺であると考えられる。壺D-a類で胴部及び頸部に突帯を貼り付ける。胴部は長胴で底部を欠損する。複合口縁部は長く伸長し、2段にわたって比較的精緻な櫛描波状文が施文されている。129は頸部に1条と、球形化のすんだ胴部に突帯を1条巡らせる。直線的に立ち上がる複合口縁部には鋸歯文（連続三角文）を施文している。安国寺式タイプに特徴的な櫛描波状文ではないが、鋸歯文（連続三角文）も、古墳時代初頭に在地系の複合口縁壺の文様として盛行する。このような頸部や胴部の突帯や、施文される文様は、在地系の複合口縁壺と共通する。しかしながら、かなり球形化がすすんだ胴部形状は、在地系にはあまり類例のないタイプであり、外来系の影響が考えられる。130は、壺D-a類で、長胴の胴部に内面にはヘラケズリを施し、器壁は薄くなっている。131は、複合口縁部を欠損するが、安国寺式タイプの複合口縁壺か。132～136は、安国寺式タイプの複合口縁部。いずれも、頸部に突帯を貼り付ける。137は129と同じく、複合口縁部に鋸歯文（連続三角文）を施文する。

139～143は、壺D-c類か。胴部及び頸部の突帯を省略する。内外面ともハケ目調整。139は、複合口縁部に波状文を施文する。文様はかなりだれており、沈線状である。140は外反気味に立ち上がる複合口縁部や、肩が張る胴部形状に、外来系の影響がみられる資料である。141は、複合口縁部に2段の櫛描波状文を施文する。複合口縁部の器壁が厚い。142は、複合口縁部の櫛描波状文を省略する。複合口縁部が外反気味に立ち上がるなど、外来系の影響か。143は、小形の複合口縁壺の口縁部片で、赤色塗彩される。

144・145は、山陰系の複合口縁壺と考えられる壺D-d類である。144は小形で脚付きである。145は複合口縁部のみの遺存である。146は、壺E-a類の口縁部資料と考えられる。山陰系の二重口縁壺の資料か。

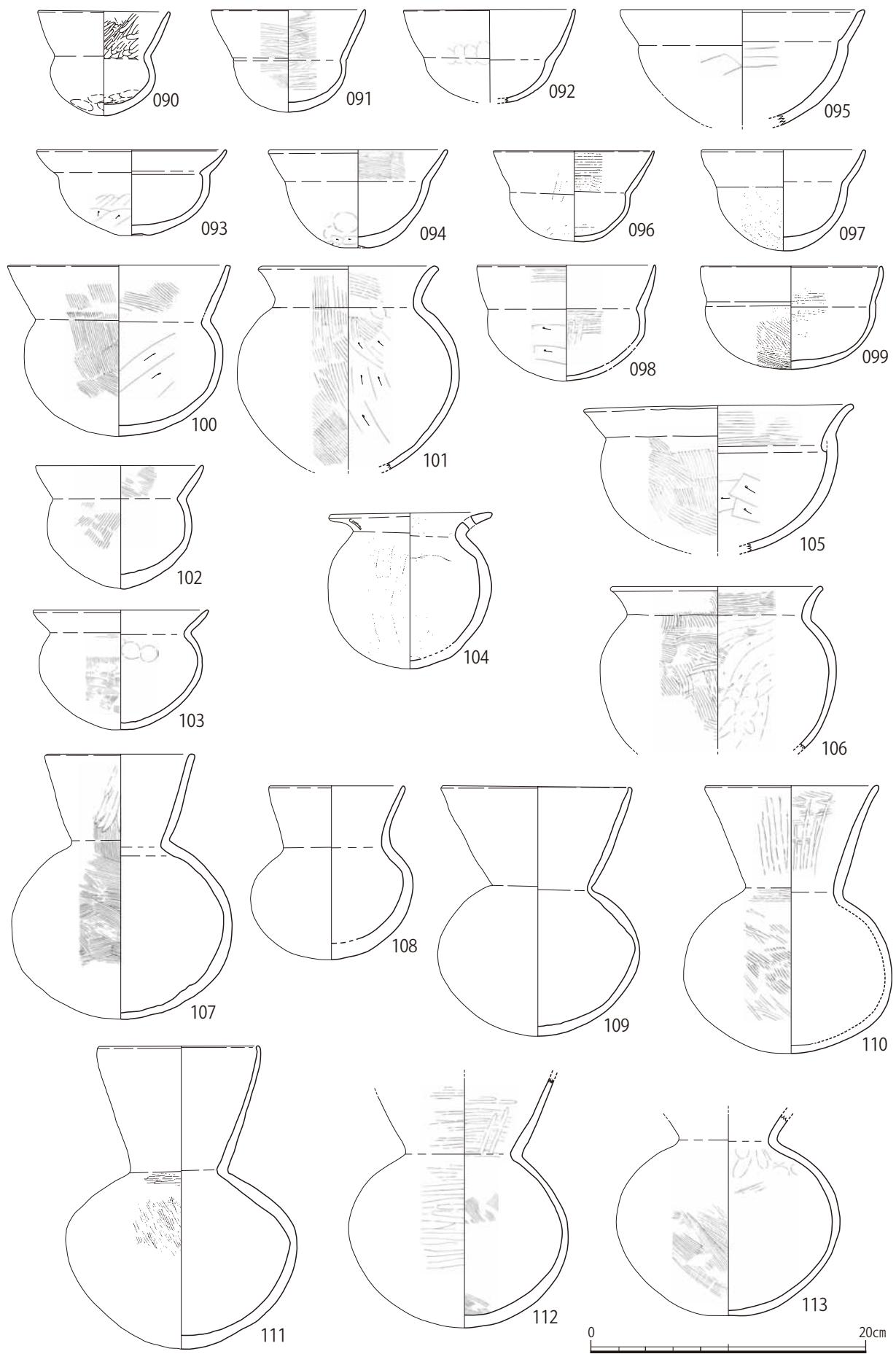
147は今回分類していないタイプの壺で、土師器の無頸壺か。口縁部から肩部の破片資料である。内面はケズリ後ハケ目、外面はミガキ調整が施される。

148は頸部から上を欠損するが、弥生土器長頸壺か。赤色塗彩され、内外面ともミガキ調整が施される。

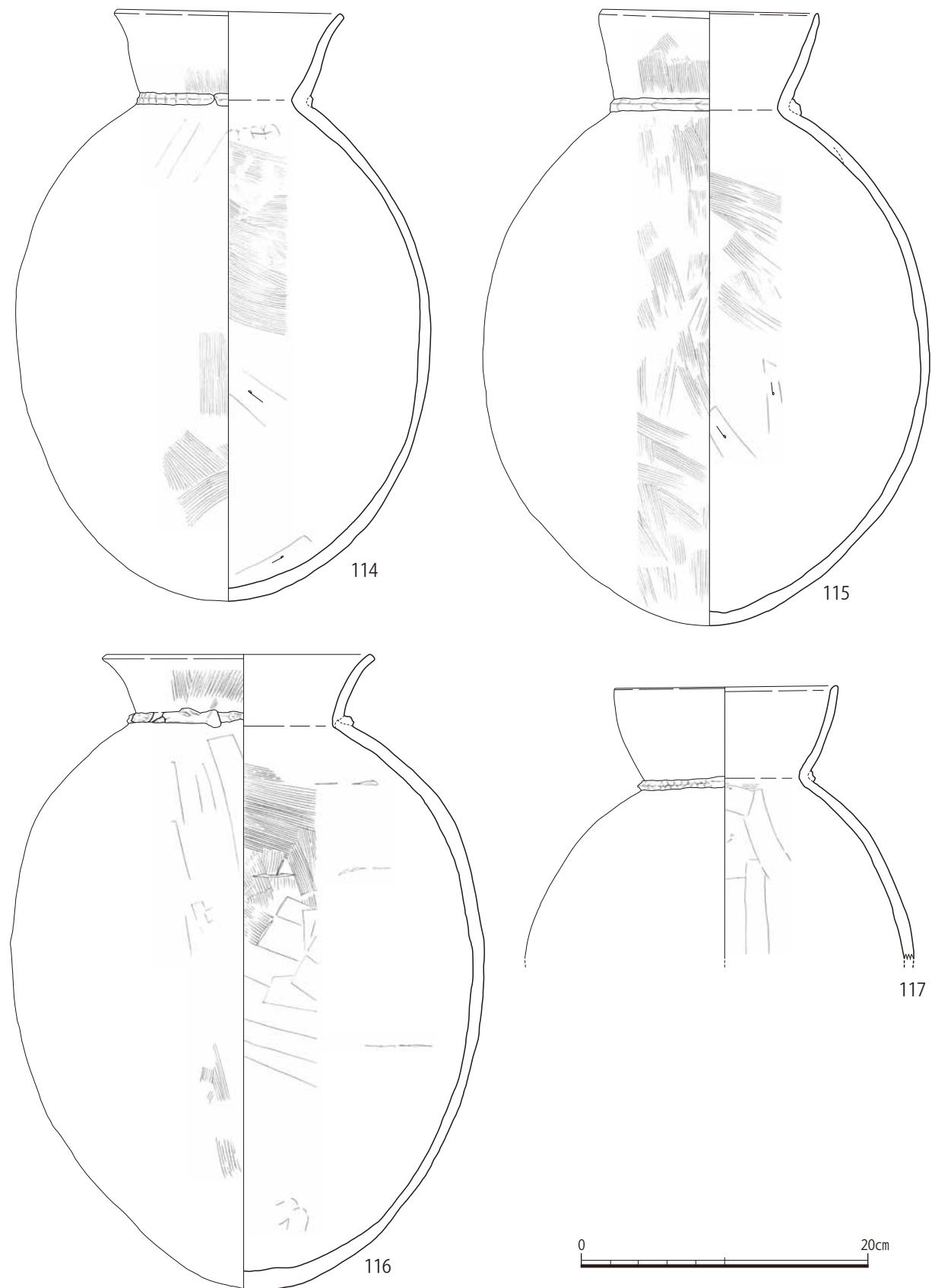
149は、頸部から上を欠損する大形の土師器壺である。内面は単位の大きいハケ目調整、外面はハケ目後ナデ調整を施す。器壁は薄いものの、底部は小さいながら凸レンズ気味の平底が残るため、古相を示していると考えられる。

全体の様相として、いわゆる小型丸底壺は口縁部の伸びが短く、23SD001や後述の20SD001で比較的多く出土している091のような壺A-b類がほとんどみられない。また、新相を示すと考えられる口縁部が器高、胴部最大径より狭いタイプ（壺A-h類）が認められない。複合口縁以外の壺は球形化が顕著ではなく、胴部が長胴形で、頸部に突帯を有する資料（壺C-a類）が主体で、口縁部が直線的に大きく開くタイプ（壺C-c類）が少ない。安国寺式タイプの複合口縁壺は、全体的に複合口縁部に施文される櫛描波状文も比較的精緻で、粗いものが少ない。胴部形態も長胴形が多い。

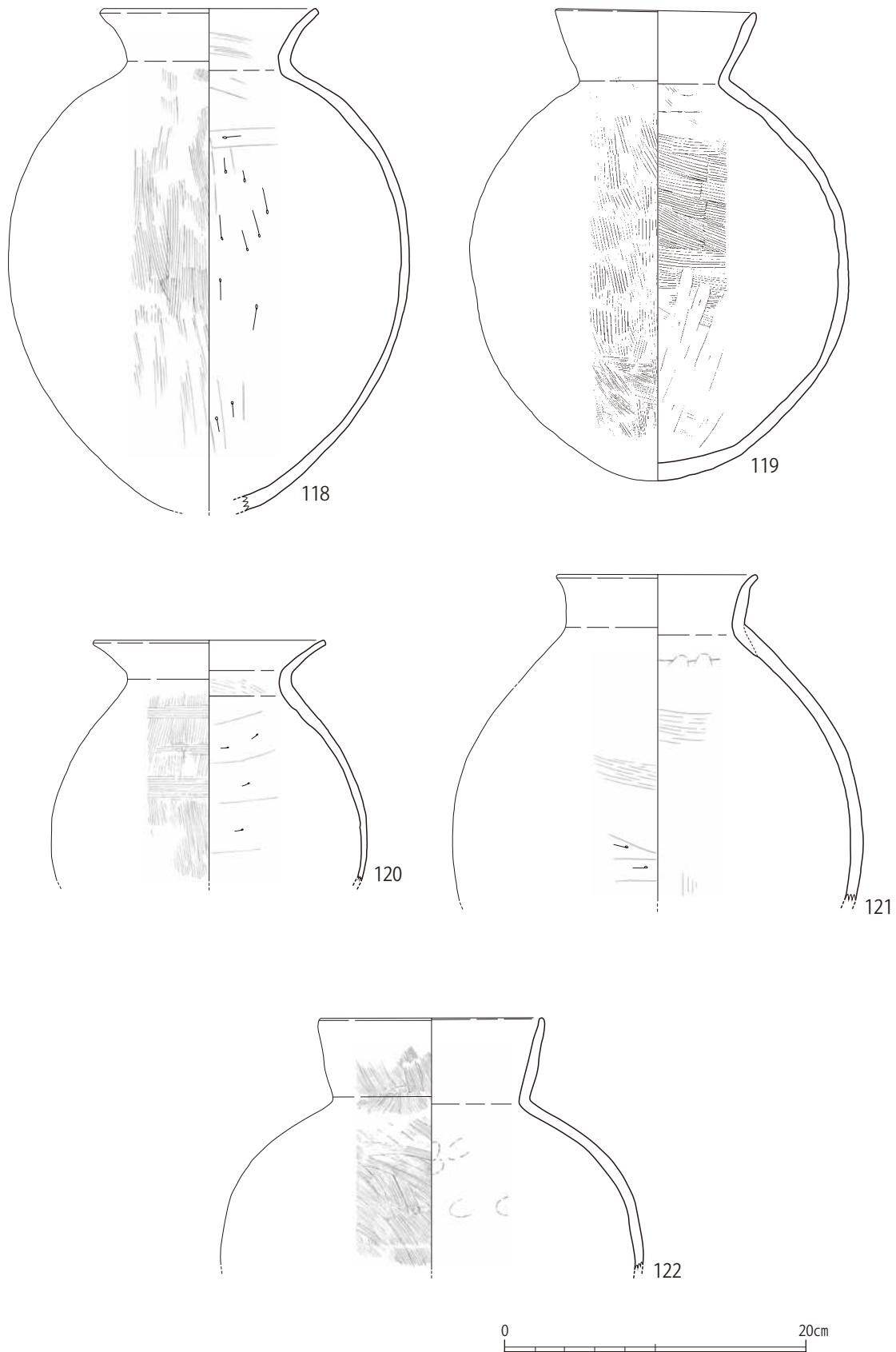
これらの様相は先に述べた23SD001や後述する20SD001出土土器より古相を示していると考えられ、古墳時代前期前葉が主体であると考えられる。



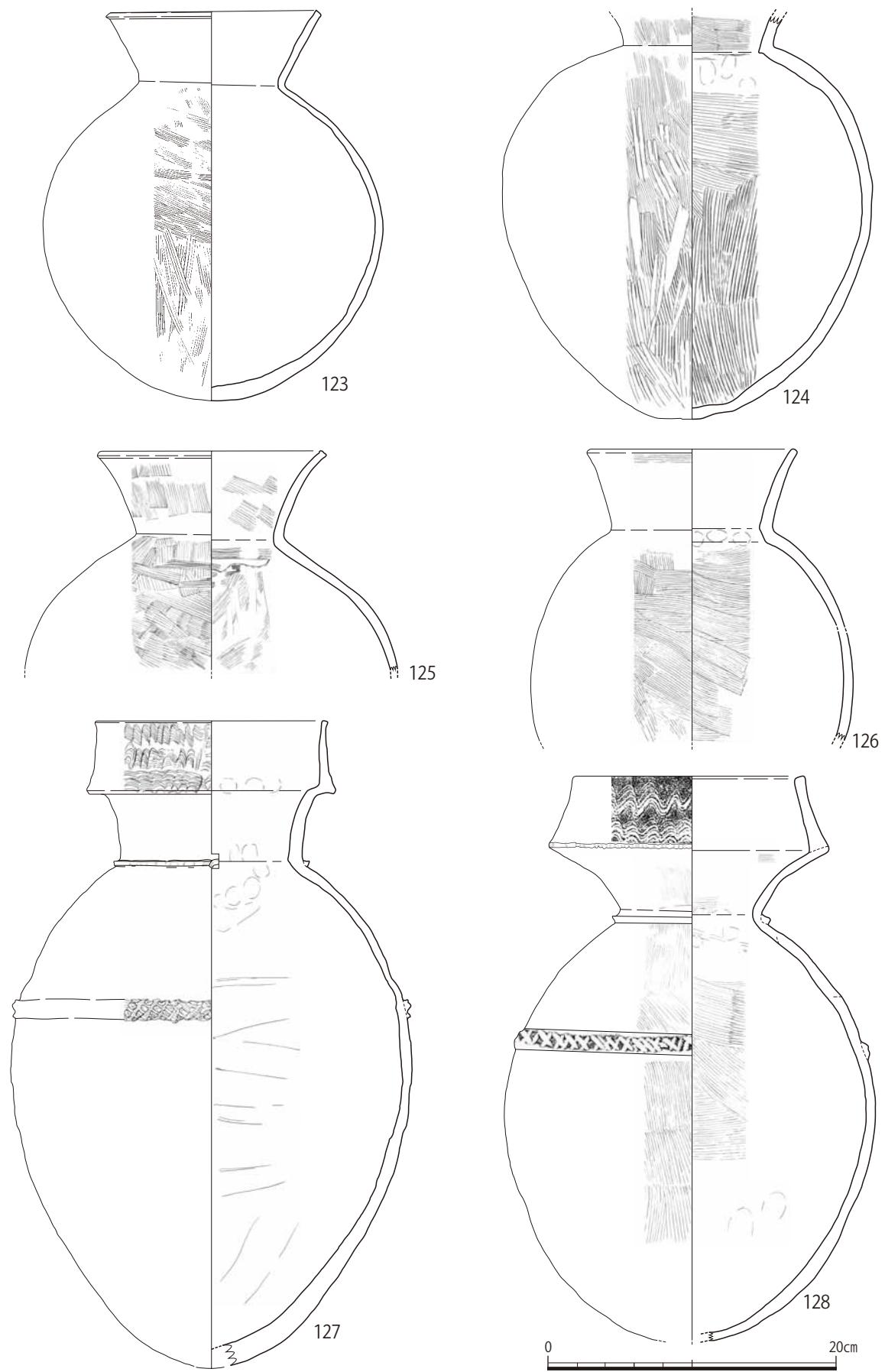
第68図 23SD170 出土遺物実測図8 (1/4)



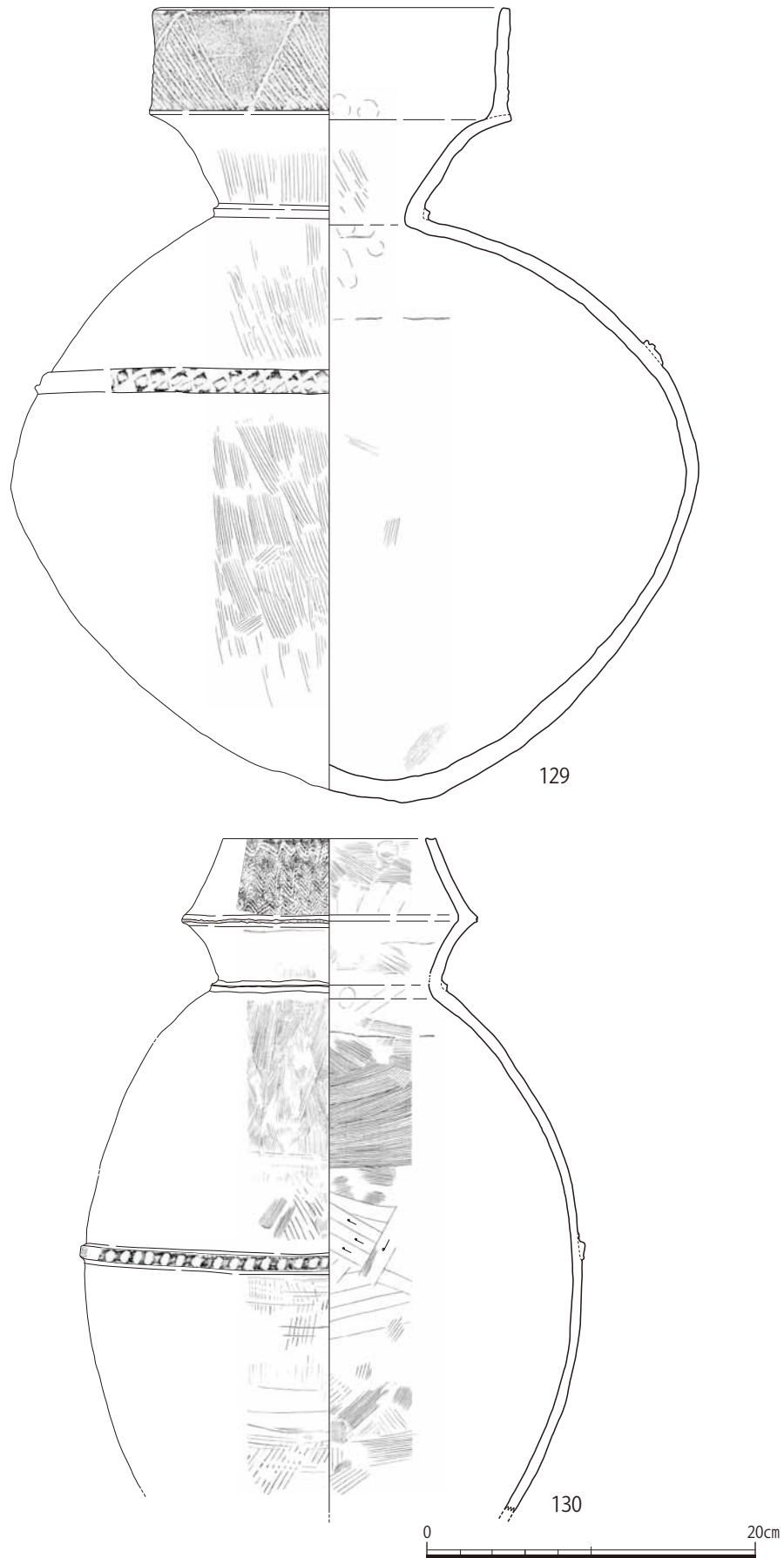
第69図 23SD170出土遺物実測図9 (1/4)



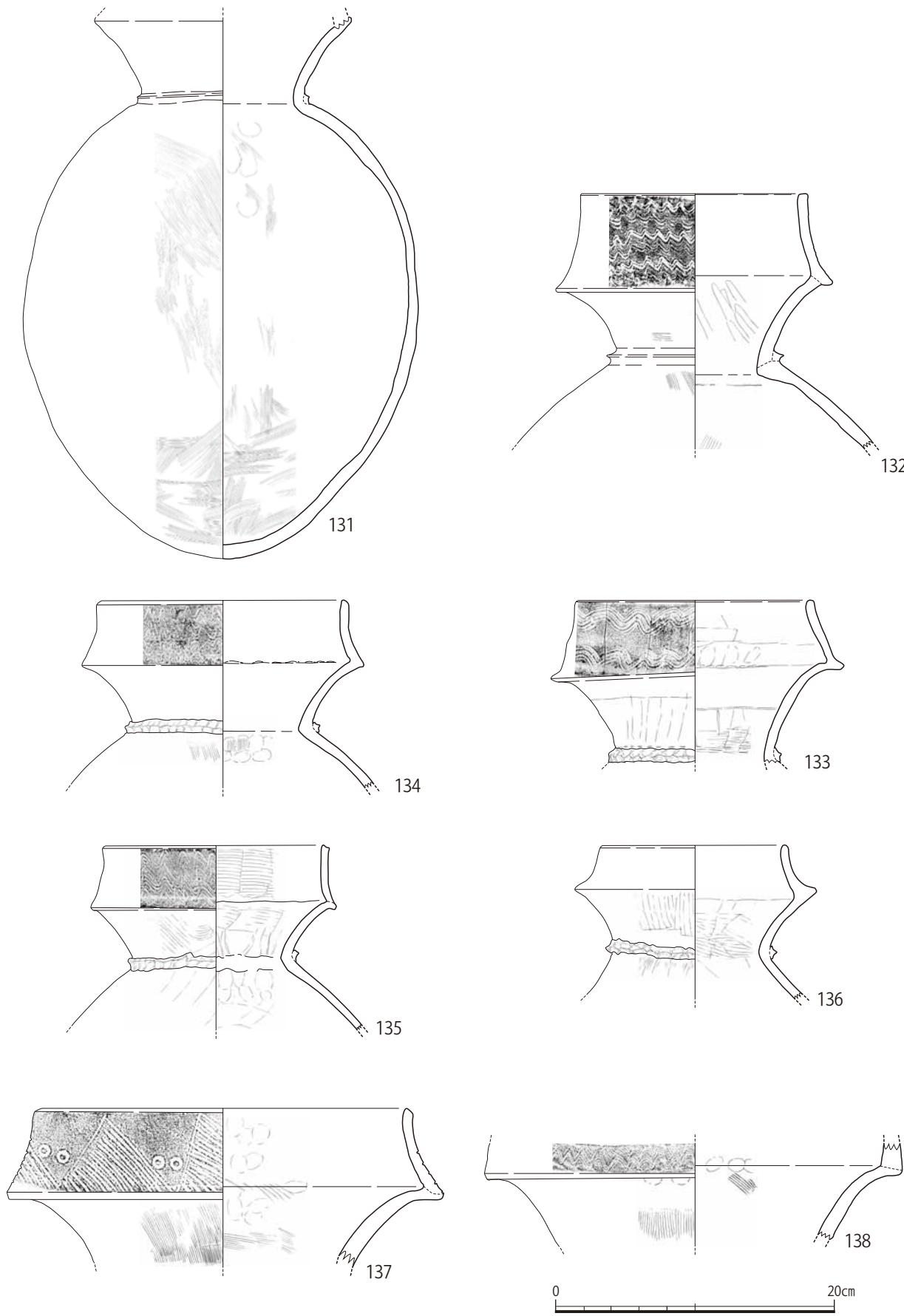
第70図 23SD170 出土遺物実測図 10 (1/4)



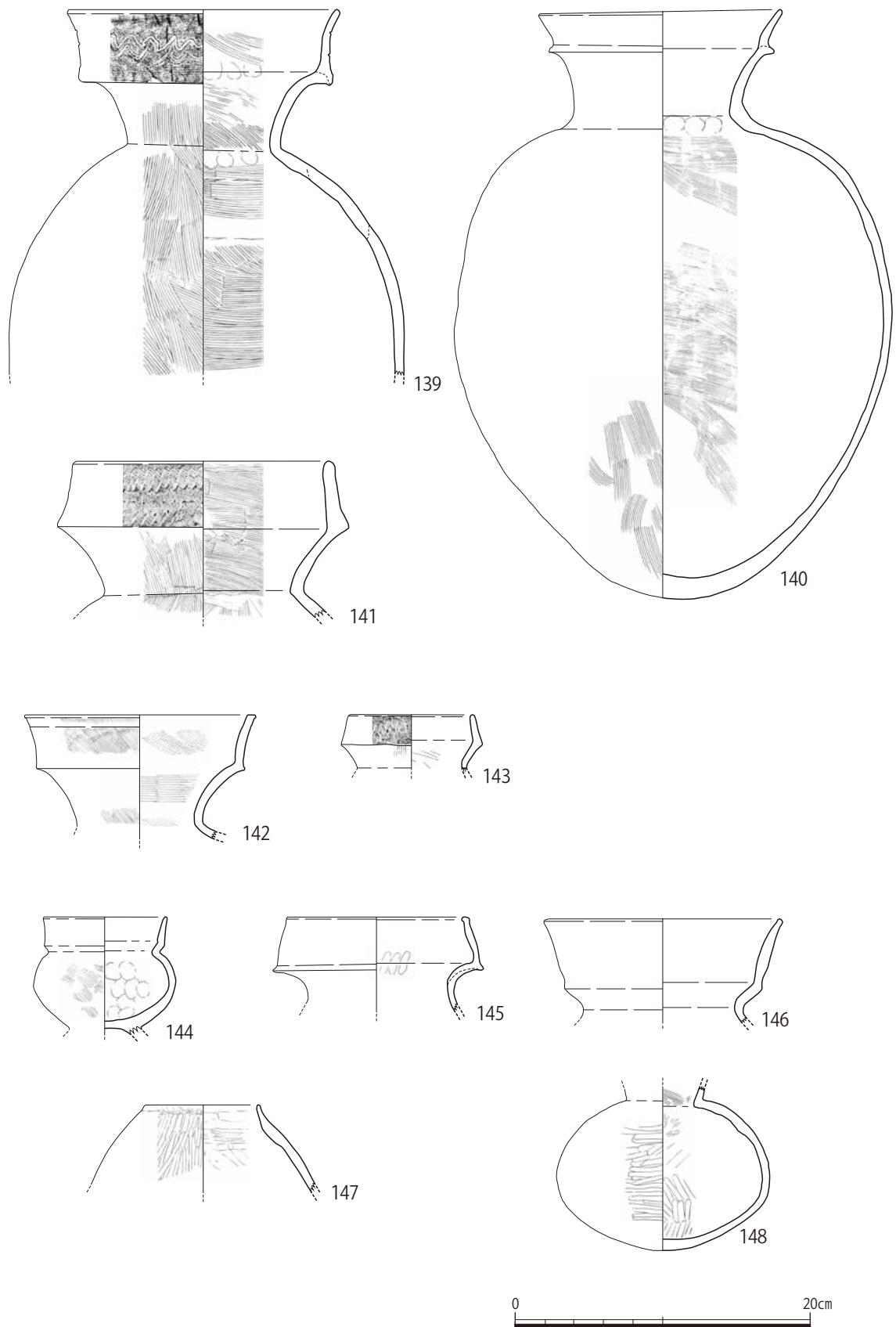
第71図 23SD170 出土遺物実測図 11 (1/4)



第72図 23SD170出土遺物実測図12 (1/4)



第73図 23SD170出土遺物実測図13 (1/4)



第74図 23SD170出土遺物実測図14(1/4)

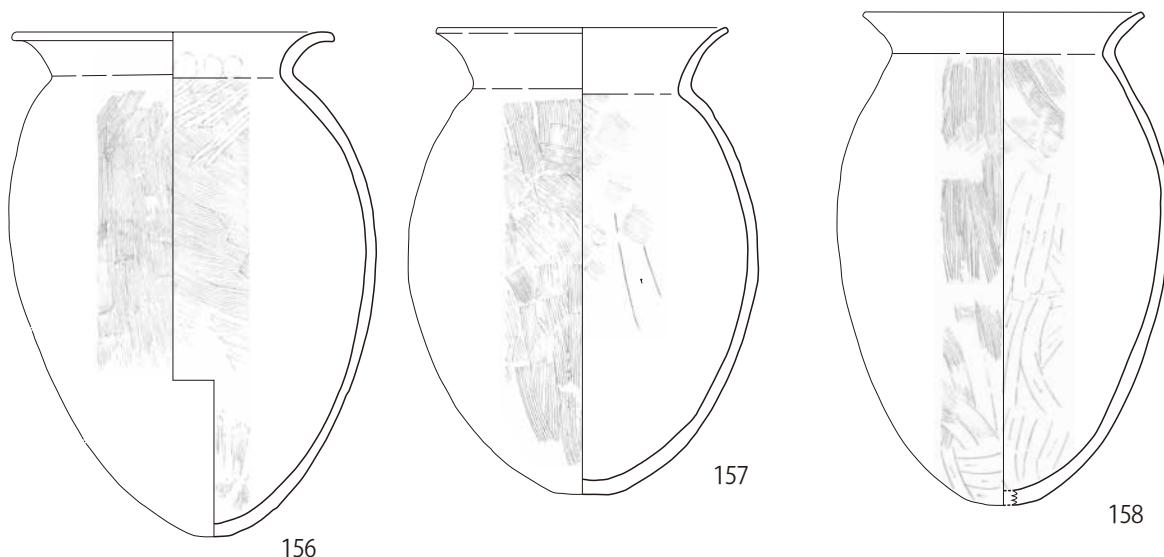
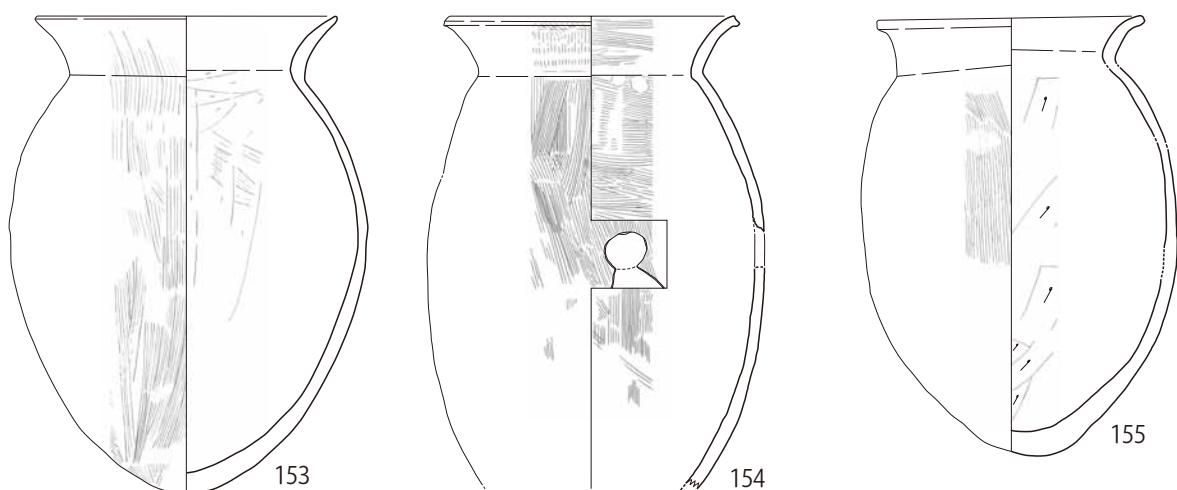
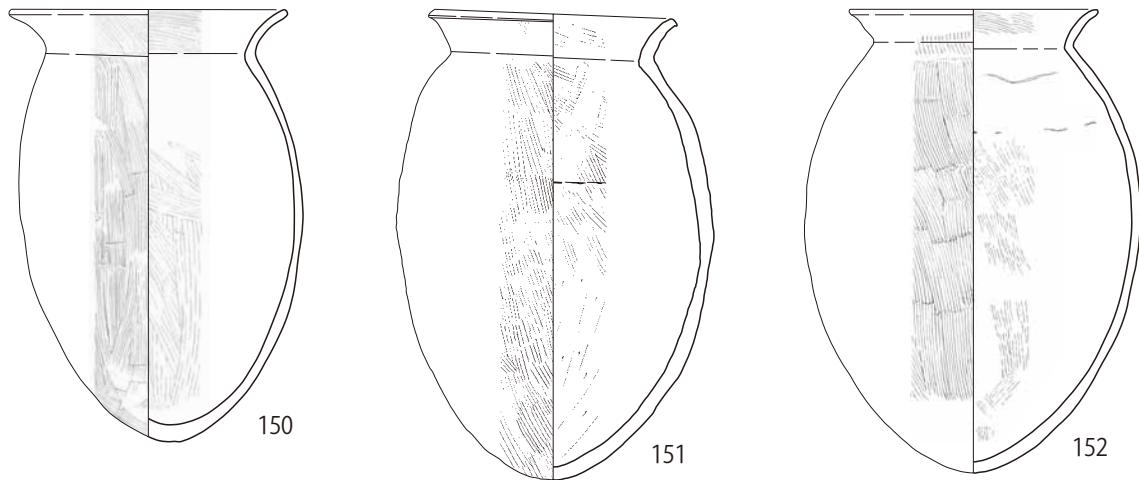


第75図 23SD170 出土遺物実測図 15 (1/4)

### 甕形土器（第 76 図～第 85 図）

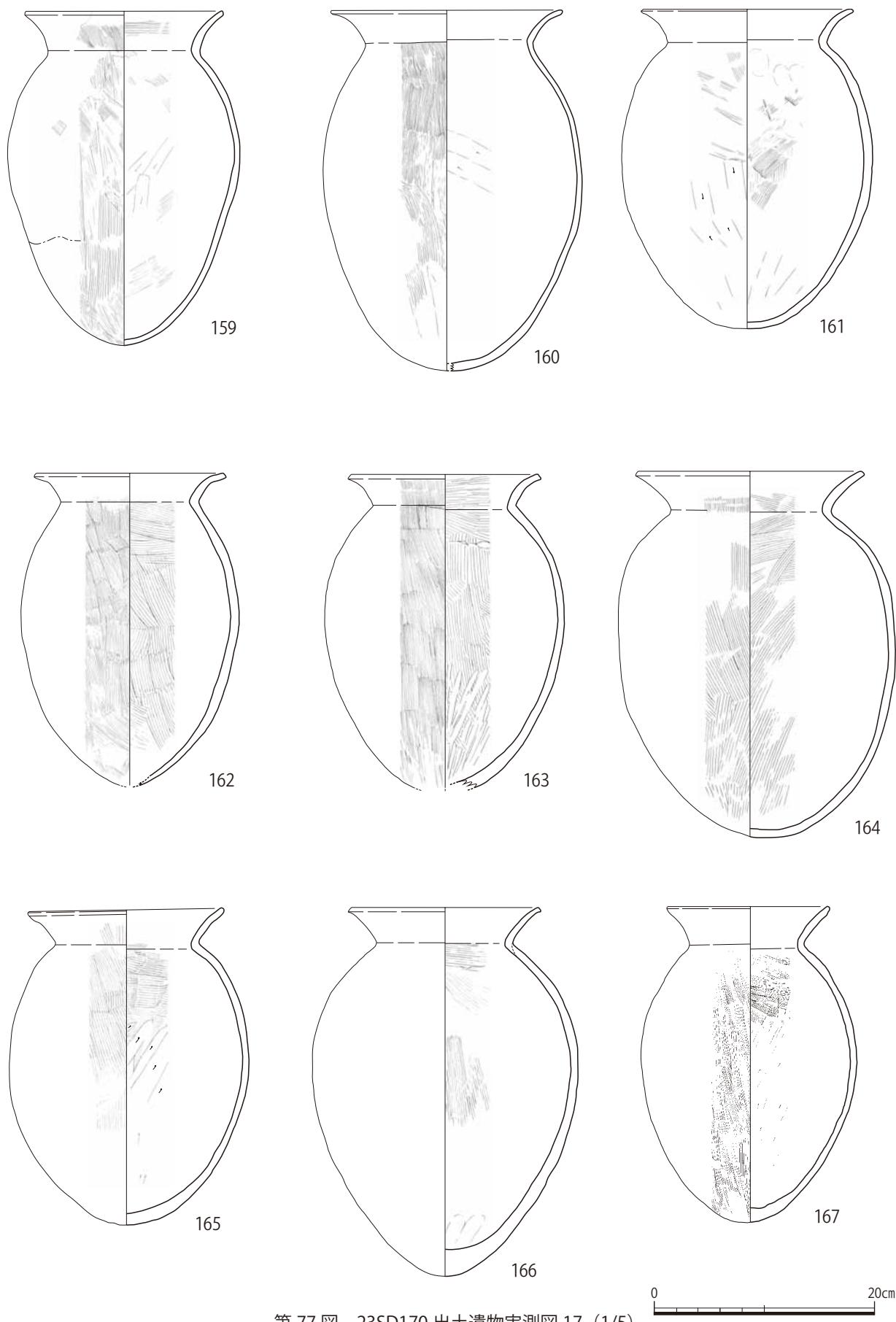
23SD170 から出土した土師器甕の本稿における掲載点数は 100 点あまりである。それらの甕について、23SD001 同様に本稿での分類基準（第 190 図参照）に準じながら報告する。

150～178 は器高 29cm 以上の大形の甕である。球形率 0.8 以下の長胴傾向を示すもの（甕 A）に相当する。その中で、150～155 は口縁部が外反し、頸部の締まりがゆるく、底部形状は尖底状を呈するタイプである。大甕 A1-ai に分類される。151 は口径 18.5cm、器高 31.1cm、最大胴部径 20.8cm を測り、内面は底部から胴部中位付近までケズリが施され、それよりも上位にはハケ目が認められる。外面はハケ目調整が全面に施されている。球形率は 0.68 を示す。152 は口径 16.4cm、器高 30.7cm、最大胴部径 22.0cm を測り、内外面ともにハケ目が認められる。球形率は 0.7 を示し、数値的にはわずかな差違であるが 151 に比して胴部の膨らみが増し、最大胴部の位置も胴中位付近に認められる。155 は口径 17.6cm、器高 29.5cm、最大胴部径 20.8cm を測る資料である。口縁部の立ち上がり角度は大きく、頸部付近から肥厚し、口縁端部は外方にわずかに屈曲して丸く納まる。内面はケズリ、外面はハケ目により調整される。底部付近の器壁は厚い。156～161 は大甕 A1-aii に属するタイプである。器高は 29cm 以上と大形であり、口縁部は外反し、口縁頸部は締りが緩く、底部形状は丸底を呈する。157 は復元口径 19.2cm、器高 31.0cm、最大胴部径 23.0cm を測り内面はケズリとハケ目、外面は綿密なハケ目により調整される。口縁端部は先細りとなり丸く納まる。底部形状は丸底状を呈するが、一部平坦部も認められる資料である。162 は大甕 A1-bi である。復元口径 17.5cm、最大胴部径 19.5cm を測り、内外面ともにハケ目により調整される。頸部の締まりは強く、底部はわずかに欠損するものの形状は尖底状を呈する。164 は器高 30cm 以上の大形の資料である。肩部に張りがあり、口縁部は長く伸びる。底部形状は丸底状を呈する。166～168 は大甕 A2-bi に属する資料である。166 は復元口径 17.4cm、器高 33.4cm、最大胴部径 23.3cm を測り、口縁部は直線的であり、「く」字状に外傾し、頸部の締まりは強い。内面の調整は胴上半部にハケ目、底部付近に指頭圧痕が認められる。底部は他資料に比して厚く、器壁も全体を通じて厚い。底部形状は尖底である。前代からの在地の甕を踏襲する在地色の強い甕資料である。169～178 は大甕の、口縁部から胴上半部が遺存する資料である。底部形状は欠損のため不明である。胴部の膨らみから長胴タイプと仮定し、口縁部・頸部により細別する。169～174 までは大甕 A1-a タイプ、175～178 は大甕 A2-b タイプに相当する。179～189 は大甕 B に属する資料である。球形率は 0.81 以上のものであり、胴部の膨らみが顕著なタイプである。口縁部の形状も多様に認められ、底部形状は丸底タイプが大半を占める。外来系の甕の影響を強く受けていると考えられる。179 は復元口径 17.1cm、器高 27.9cm、最大胴部径 23.2cm を測り、内面底部付近には指頭圧痕が認められ、胴上半部は縦方向の、頸部直下は横方向のヘラケズリが施され器壁は薄い。外面は胴上半部に縦方向のハケ目を施した後、横方向のハケ目が最終調整として実施される。肩部はナデ肩状を呈し、底部は尖底状である。布留式系甕の属性を具備した甕資料と考えられる。180 は大甕 B1-bii に相当する甕資料である。内面は底部から胴部中位にかけてヘラケズリが実施されており、その上位には、縦方向のハケ目の後、横方向のハケ目が認められる。器壁は厚く、底部は丸底状を呈する。外来の影響を受けつつも在地色が残る甕資料である。185 は 23SD170 出土の大甕 B タイプの中でも特に大形の資料であり、復元口径 24.2cm、器高 35.5cm、最大胴部径 29.0cm を測る。口縁部は直線的に外傾し、頸部の締まりは緩いタイプの大甕 B2-aii に属する。内面はケズリにより調整され、頸部付近はハケ目が実施されている。胴部下半に穿孔が認められる。186～189 は大甕 B2-b タイプに相当する甕資料である。いずれの資料も内面は横方向のケズリが認められ、器壁は薄い。外面のハケ目調整は縦方向後横方向に実施されており 188 は頸部付近にも指頭圧痕が認められる。口縁端部は平坦に仕上げられ沈線状の凹みが認められる。いずれも布留式系甕の影響を強く受けている資料である。190～193 は突帯が貼付された土師器甕資料である。192 は口径 20.6cm、器高 38.5cm を測る。頸部に三角状突帯が一条貼付する。内外面ともにハケ目により仕上げられる。底部はボタン状に突出している。193 は口径 26.4cm、器高 42.0cm を測る。内面はケズリ、外面はハケ目、ケズリにより調整される。頸部に貼付突帯が貼付する。190～192 は弥生時代後期終末に比定される資料と考えられるが、193 に関しては球形化が見られる点、ヘラケズリが内外面に認められ

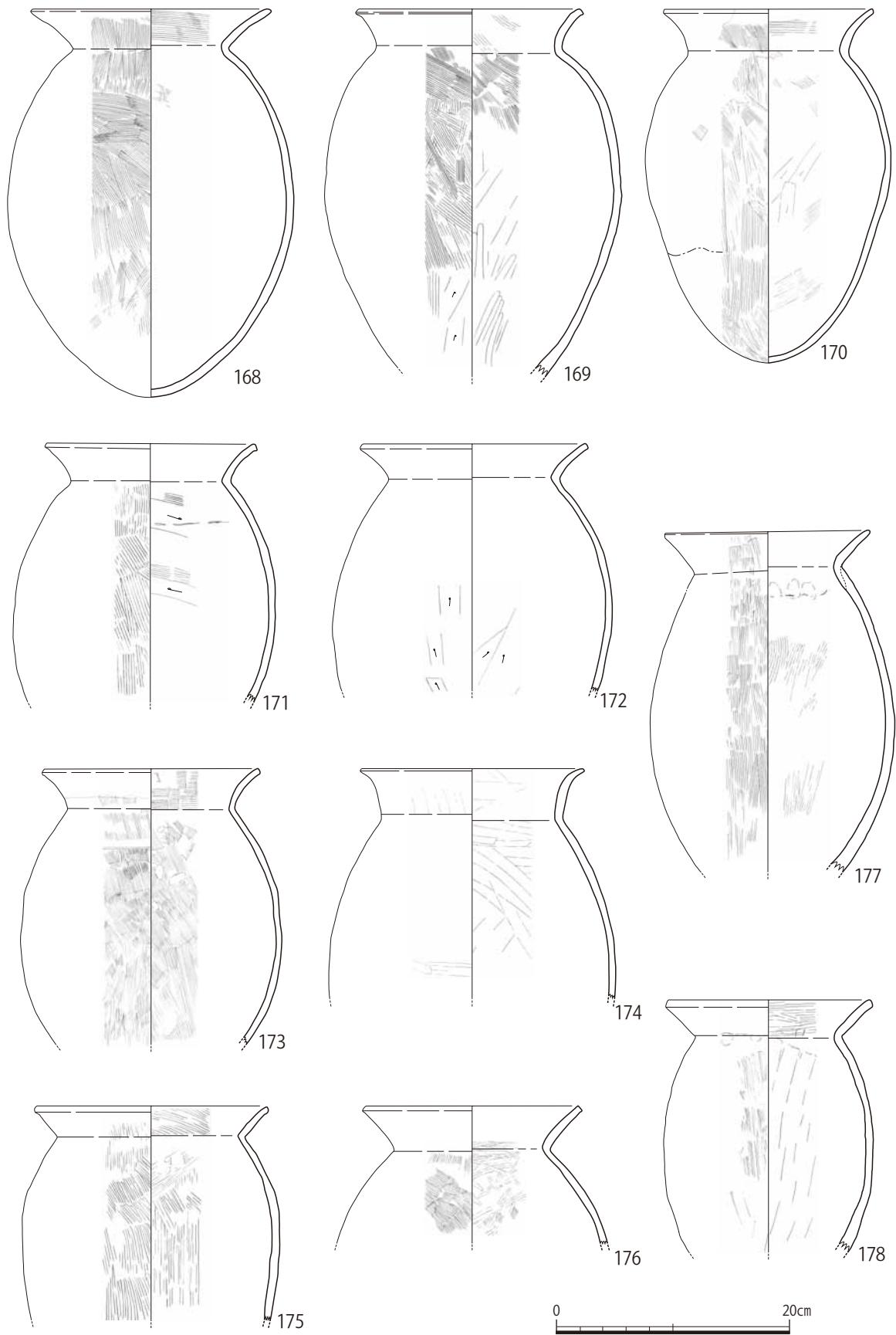


0 20cm

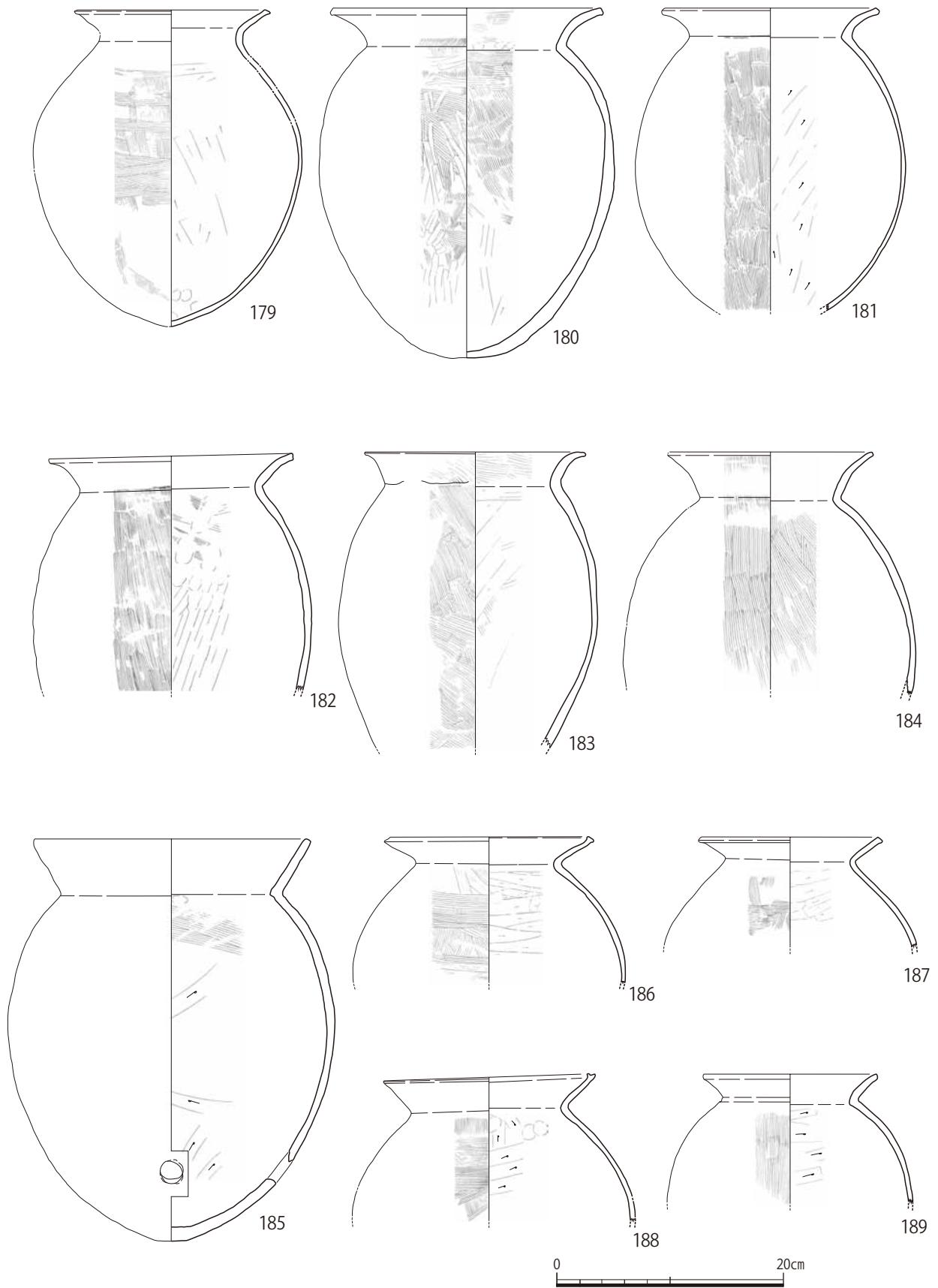
第76図 23SD170出土遺物実測図16(1/5)



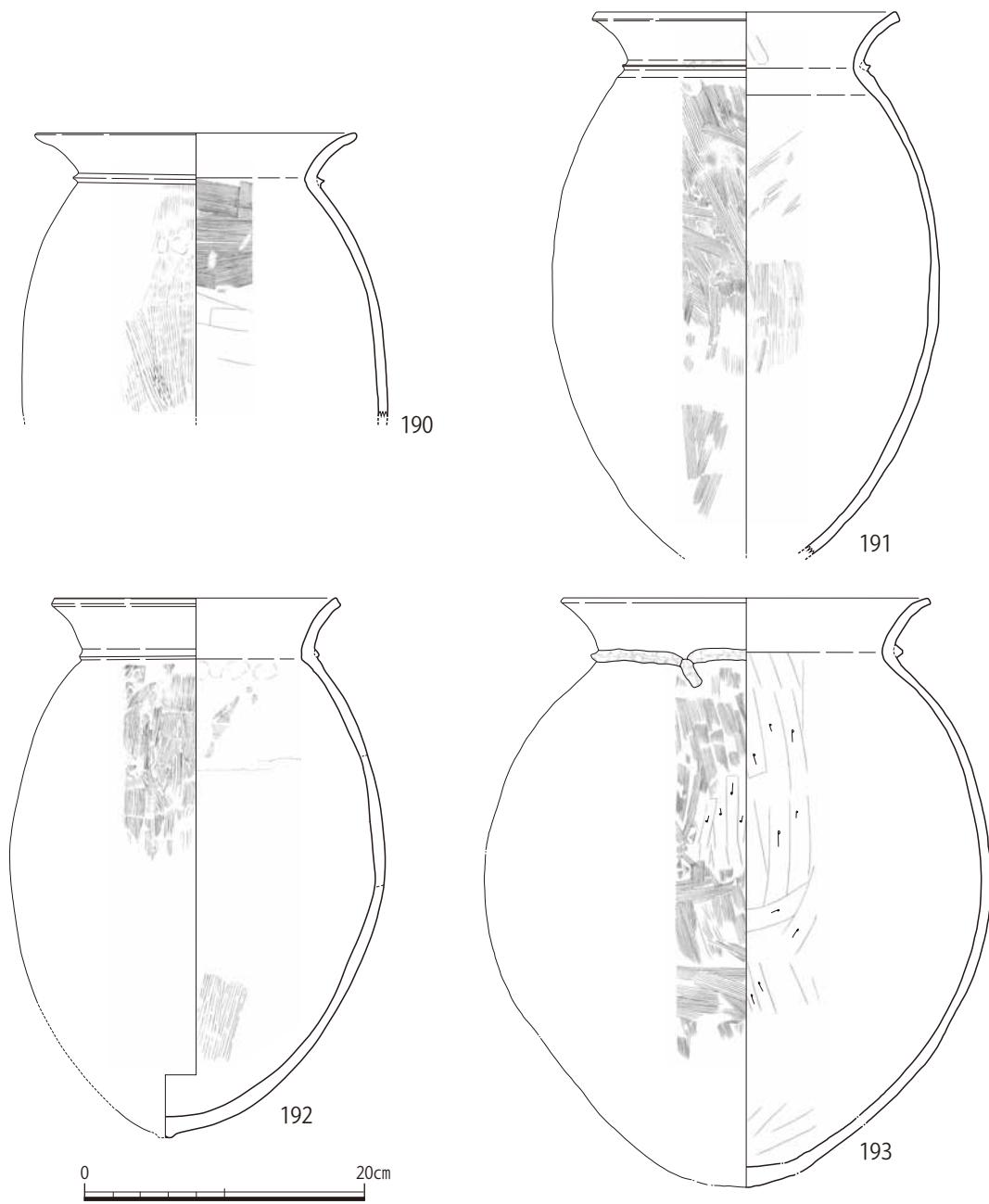
第 77 図 23SD170 出土遺物実測図 17 (1/5)



第78図 23SD170出土遺物実測図18 (1/5)

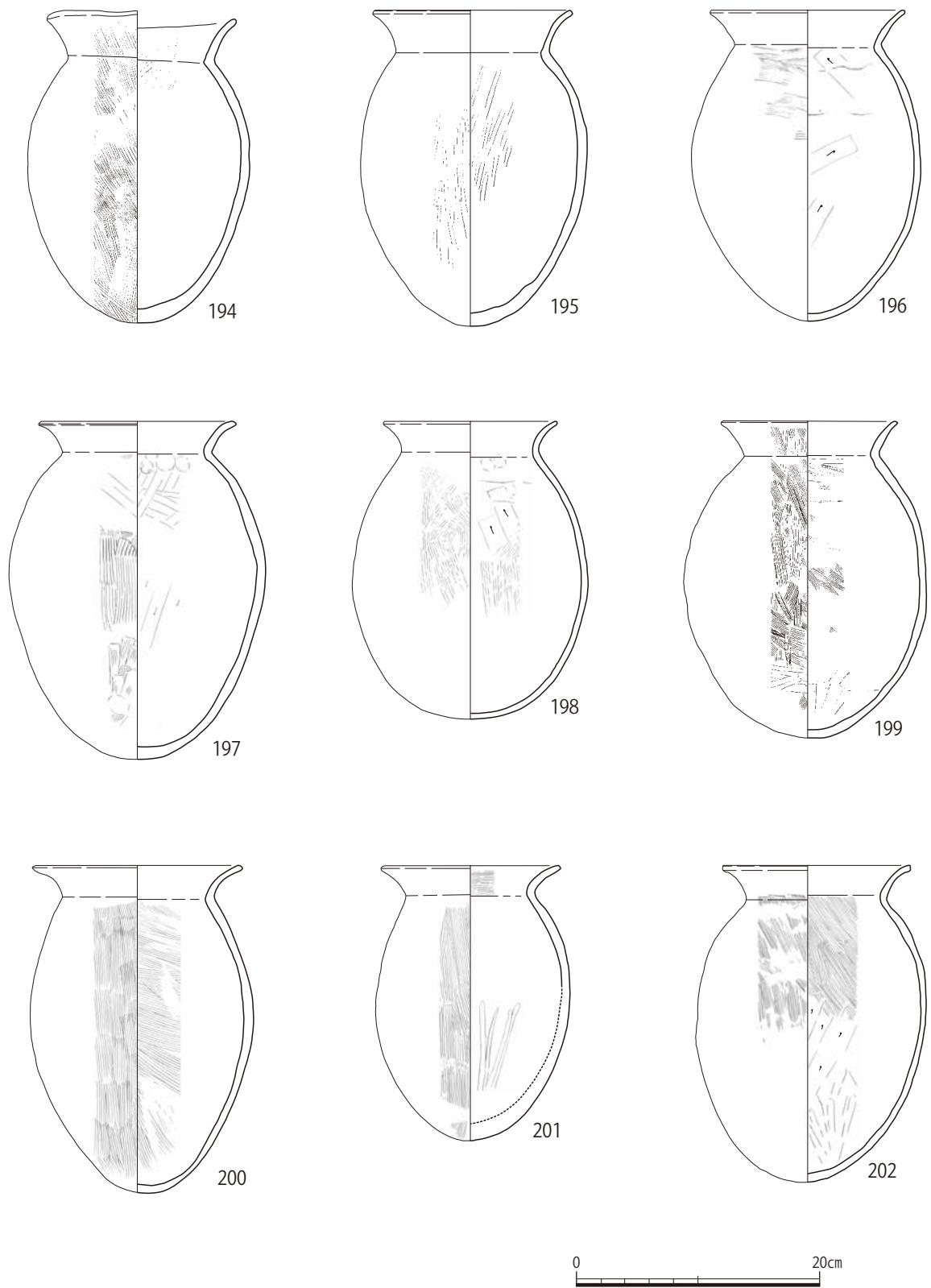


第79図 23SD170出土遺物実測図19 (1/5)

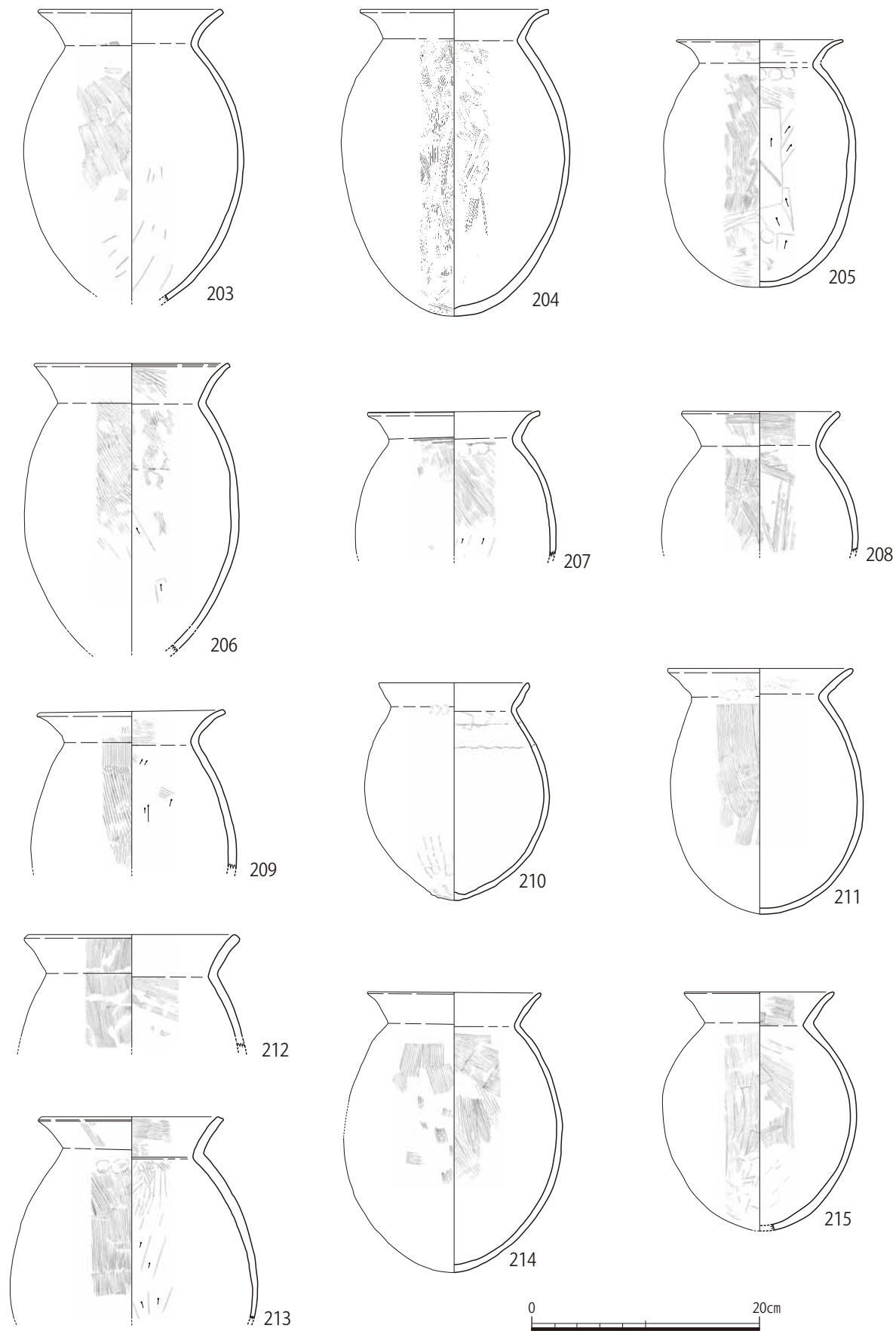


第80図 23SD170出土遺物実測図20 (1/5)

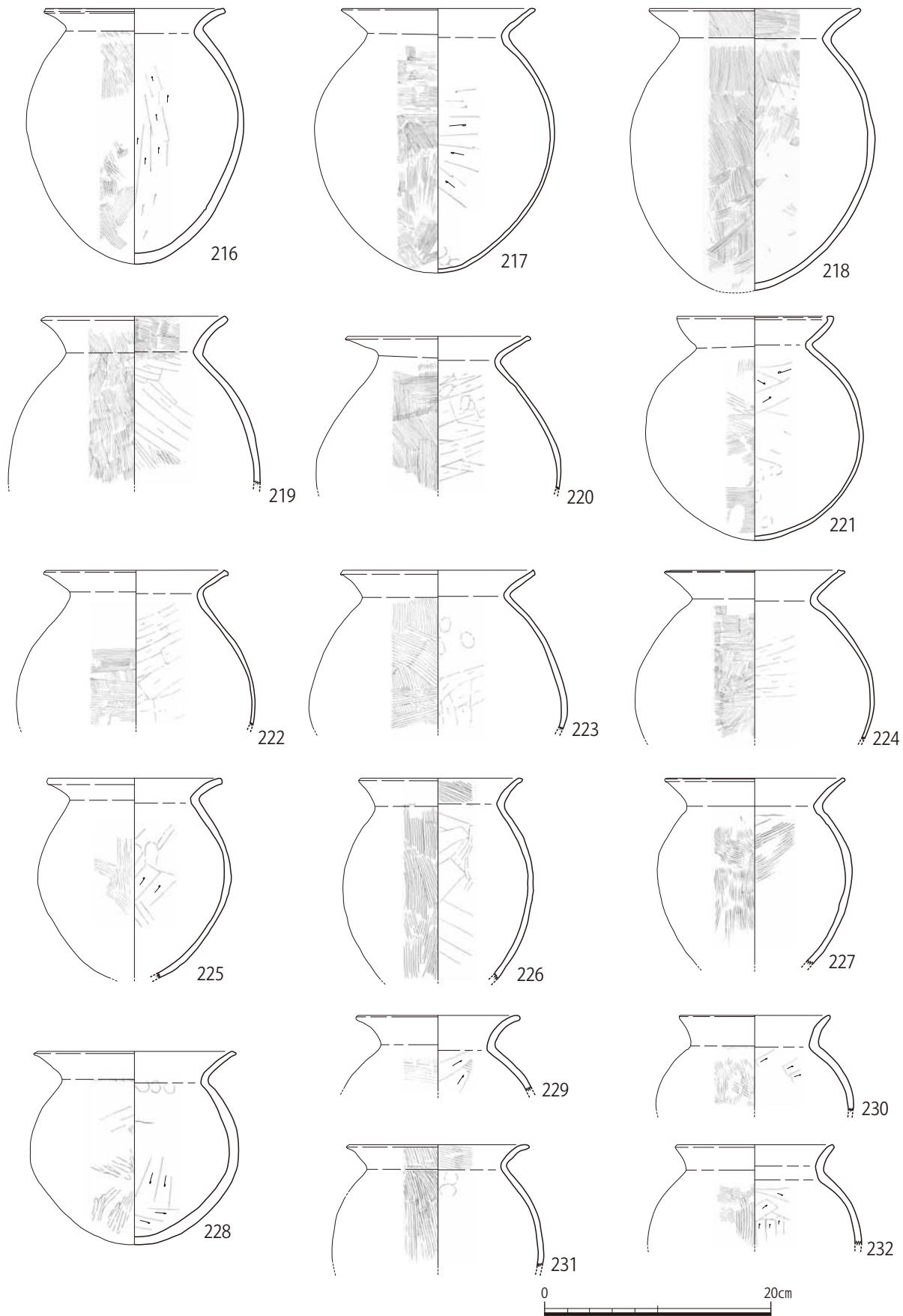
る点、新来の制作技術を取り入れており、古墳時代初頭から前葉にかけての資料と考えられる。194～215は中甕Aタイプとされるものであり、器高19cm～28cm、口径15cm～20cmの資料で球形率が0.8未満のものが相当する。194～199は中甕A1-aiiに属する。194は口径15.6cm、器高25.7cm、最大胴部径18.0cmを測る。内外面ともにハケ目により調整される。口縁部は外反し、底部形状は丸底状を呈する。196は底部が尖り気味ではあるものの丸底をなす。内面はケズリにより調整され、器壁の薄壁化が認められる。198は最大胴部径の位置がわずかに中位より下にあり、雑なつくりである。内面のヘラケズリにより器壁は薄く、頸部の締まりは緩い。204は中甕A1-biiに分類される資料である。内外面ともにハケ目により調整される。口縁部は口縁中位において屈曲し外反する。底部形状は丸底である。214は口縁部が直線的に立ち上がって外傾する。内面底部付近はケズリにより調整される。216～232は中甕Bタイプに相当する資料である。217は中甕B2-biiに分類される。内面は底部付近に指頭圧痕、胴部中程にはヘラケズリが認められる。また、外面は縦方向のハケ目後、



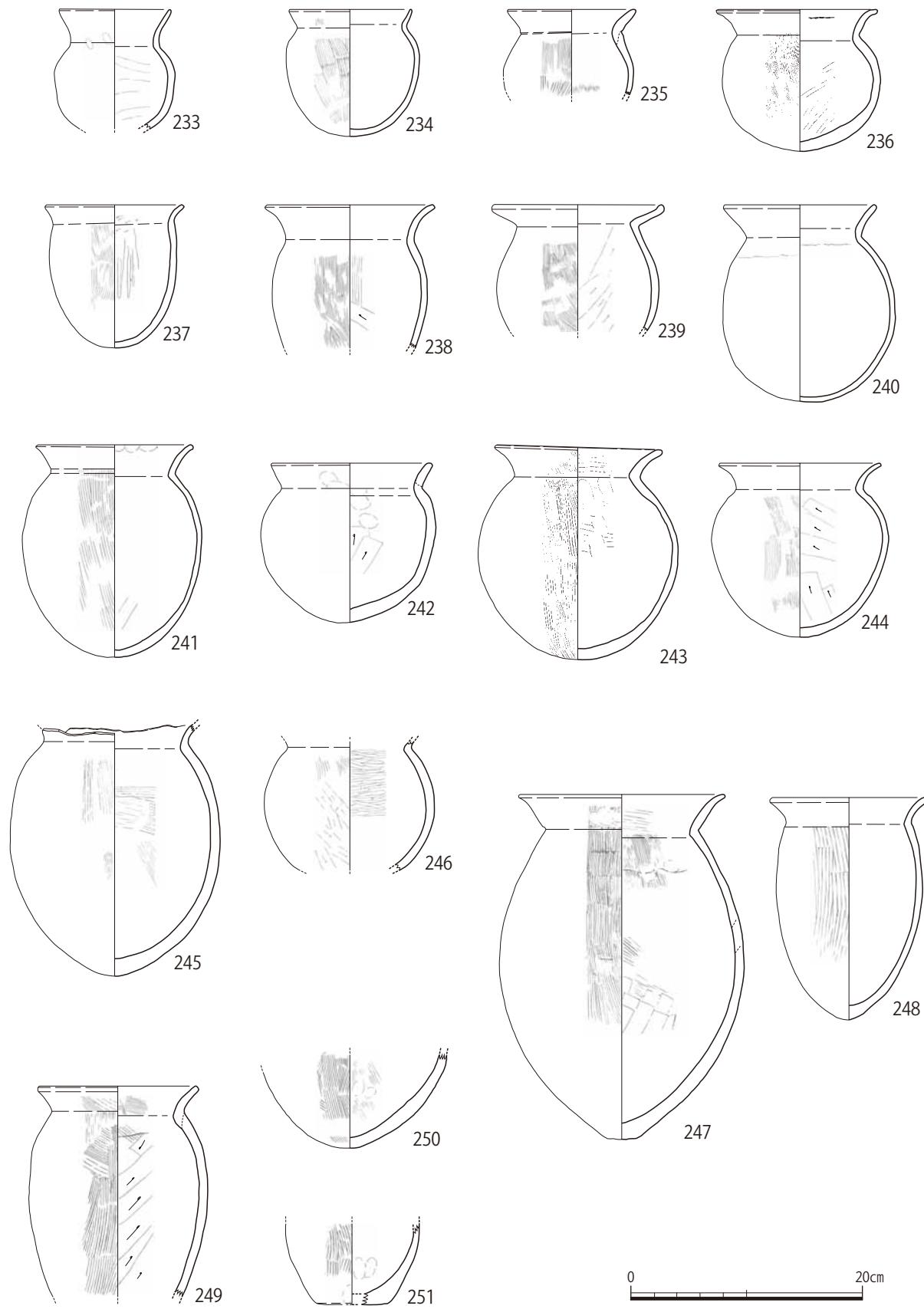
第 81 図 23SD170 出土遺物実測図 21 (1/5)



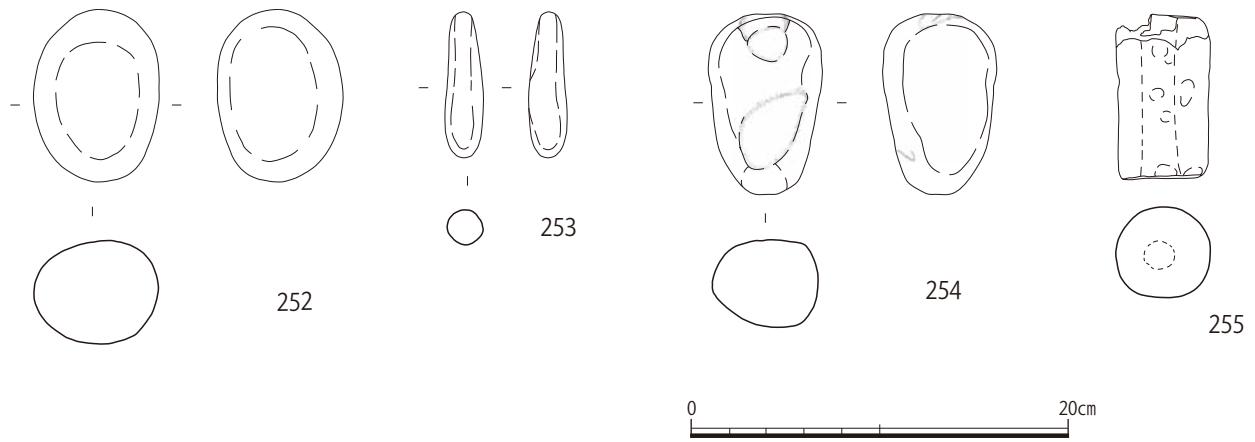
第82図 23SD170 出土遺物実測図 22 (1/5)



第 83 図 23SD170 出土遺物実測図 23 (1/5)



第84図 23SD170出土遺物実測図24 (1/5)



第85図 23SD170 出土遺物実測図 25 (1/4)

横方向のハケ目が実施される。頸部付近は肥厚し口縁中位はわずかに凹む。肩部はナデ肩状を呈し、布留式系甕の特徴を模したものである。221も同じく布留式系甕の影響を強く受けた資料であり、内面の調整にはケズリ、指頭圧痕が認められ、外面はハケ目調整が実施されている。233～244は小甕資料である。該期の小形の甕はバリエーションにとみ、分別が困難を極めたため、分類上小甕としているものの、小形の鉢および壺として考えられる資料も一括している。247～251は弥生時代後期終末前後の資料である。247は底部平底を残す甕資料である。内面はケズリが認められ、外面はハケ目により調整される。

以上が23SD170のについての遺物の報告である。

ここで、23SD170出土の甕資料の分類結果を踏まえて、時間的位置づけを検討する。

23SD170出土の甕のうち、法量別の出土状況は、大甕が全体の44%を占める。その中で大甕Aとする長胴タイプのものは73%におよび、大甕Bとする球形タイプのものは27%である。また、中甕は全体の43%であり、残りは小甕である。中甕Aの割合は56%、中甕Bは44%となり、わずかに中甕においてもAタイプの占める割合が多い。大甕、中甕を合わせてみても、長胴タイプであるAタイプは56%、球形タイプであるBタイプは32%となり低い割合を示す。これは、23SD001の様相とは逆転しており、異なる様相を示している。また、口縁形態別でみると、1類とした外反するタイプは8割ほどを占め、2類とされる直線的に立ち上がるタイプは2割ほどである。底部形態別ではii類とする丸底タイプが6割強を占めている。以上の事から、23SD170出土の甕は長胴タイプのものが半数以上を占め、口縁形態も在地系の甕に多用される外反した口縁部を持つもので占められる。底部形態は尖底状から丸底化を指向し始めている時期のものである。これらの特徴は古墳時代前期初頭から前葉に相当すると考えられる。具体的に示せば、23SD170の152・156・166・201は口縁部が外反し、胴部形態は長胴、調整もハケ目やミガキが実施され、器壁も厚く前代の系譜をひく資料と考えられる。古墳時代前期前葉の標識資料となっている守岡遺跡19号住居跡出土の甕資料にはケズリがみられるものが多く、賀来中学校1次調査出土の甕資料は底部にわずかに平底を呈しているものが多いことから先述の資料はそのどちらでもなく、底部形態が型式変化していく途上の段階に位置するものと推定される。また、球形タイプの甕179・217・221等は新來の技術導入による影響を強く受けたものであり、外面は細密なハケ目、内面は胴上半部にケズリ、底部付近に指頭圧痕が認められる。守岡遺跡19号住居跡の出土資料に類似する。以上の事から、23SD170出土の甕は古墳時代初頭から前期前葉の所産であり、その主体は古墳時代前期前葉に求められるものと考える。

#### 土錐・石器（第85図）

252・253はすり石であり、ともに安山岩を使用している。254は用途不明石製品である。255は大形の土錐である。一部欠損しており現在長は8.8cm、径4.8cmを測る。

**23SE051 (第 86 図)**

調査区の北西で検出した井戸跡と考えられる遺構である。径 0.9m ほどの円形基調で、後世の削平により検出面からの最大深さは 0.49m 程しか残存していない。黒褐色粘質土を基調とする土で埋積しているが、底部付近のみ砂質土が層状に堆積している。底部付近にはわずかながら湧水が認められる。井筒は検出されなかった。遺構上層（1 層）からは土師器片とともに土錐がまとまって出土した。土錐は出土位置が記録できたものが 8 点、それ以外にも 4 点出土した。いずれも大型のものである。最下層からは、ほぼ完形の土師器甕が出土している。出土遺物は、古墳時代前期中葉の土器であり、井戸の廃絶も同時期と考えられる。

**23SE051 出土遺物 (第 88 図)**

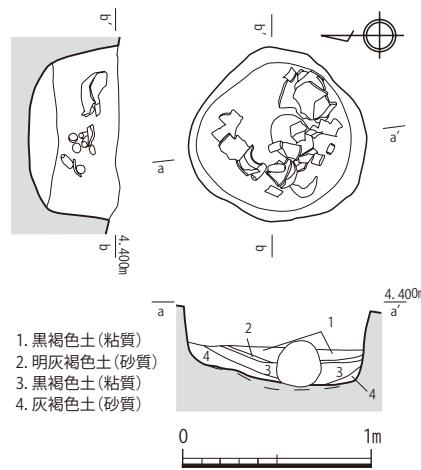
出土遺物は、土師器器台、壺、甕、土錐である。001 は小形の器台で、内外面にミガキが施される。002～004 は、山陰系の二重口縁壺であろうか。002 は小形。004 は上層出土。005～008 は土師器甕である。底部形態は丸底が基本だが、005 は尖底傾向。005～007 の甕は、内面にケズリが施されているが、器壁が厚く、いずれも在地系の甕であると考えられる。005・007 の口縁部が外傾気味で、005 の頸部屈曲部分が平坦化していること、007 の口縁部の中位が、肥厚していることなどに外来系の影響が見られる。全体的に、球形胴化が進んでいるものの、最大径は胴部中位もしくは、005 のように上位にある。008 は、最下層から出土した在地系の土師器甕で、ほぼ完形で器壁は厚く、内面はハケ目調整、胴部は球胴化が進むが、長胴傾向が残る。009～020 は長さ 7.0cm～10cm 程度の大形の管状土錐で、多くがほぼ完形の状態で出土した。016～018 は下層からの出土である。遺物の時期は、甕の底部が丸底化する一方で、長胴傾向が残ることなどから、古墳時代前期中葉でも古相であると考えられる。

**23SE052 (第 87 図)**

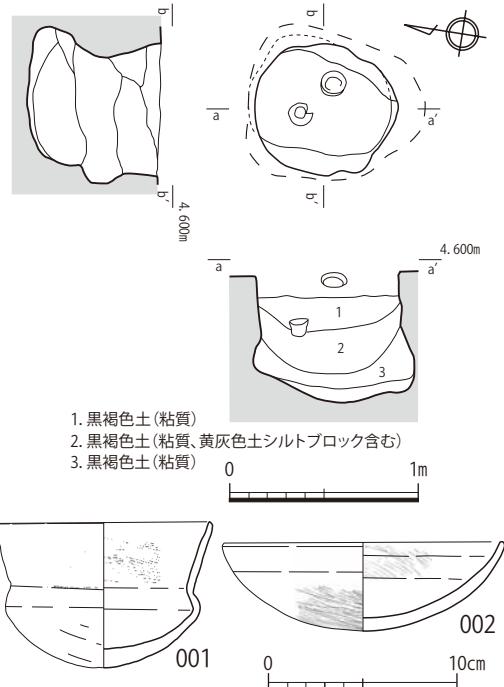
調査区の北西、23SE051 の南側で検出した井戸跡と考えられる遺構である。径 0.9m ほど円形基調で、後世の削平が著しいため検出面からの深さは 0.7m 程度である。埋土は黒褐色土を基調とする。壁面の一部には滯水により崩落したとみられるオーバーハングが認められ、遺構北東側と南側で特に著しく、壁面から 15cm 程度に及んでいる。調査中も底部付近には湧水が認められる。井筒は検出されなかった。出土遺物は少ないが、遺構検出面付近でほぼ完形の土師器鉢が出土している。出土遺物から、遺構廃絶時期は古墳時代前期中葉と考えられる。

**23SE052 出土遺物 (第 87 図)**

出土遺物は、土師器小型丸底壺と鉢の 2 点である。001 は小型丸底壺。胴部はつぶれた偏球形で、長く伸長した口縁部は、器高の 1/2 程度を占める。外面は丁寧なナデで調整される。002 は鉢。古墳時代前期中葉頃の所産であろうか。

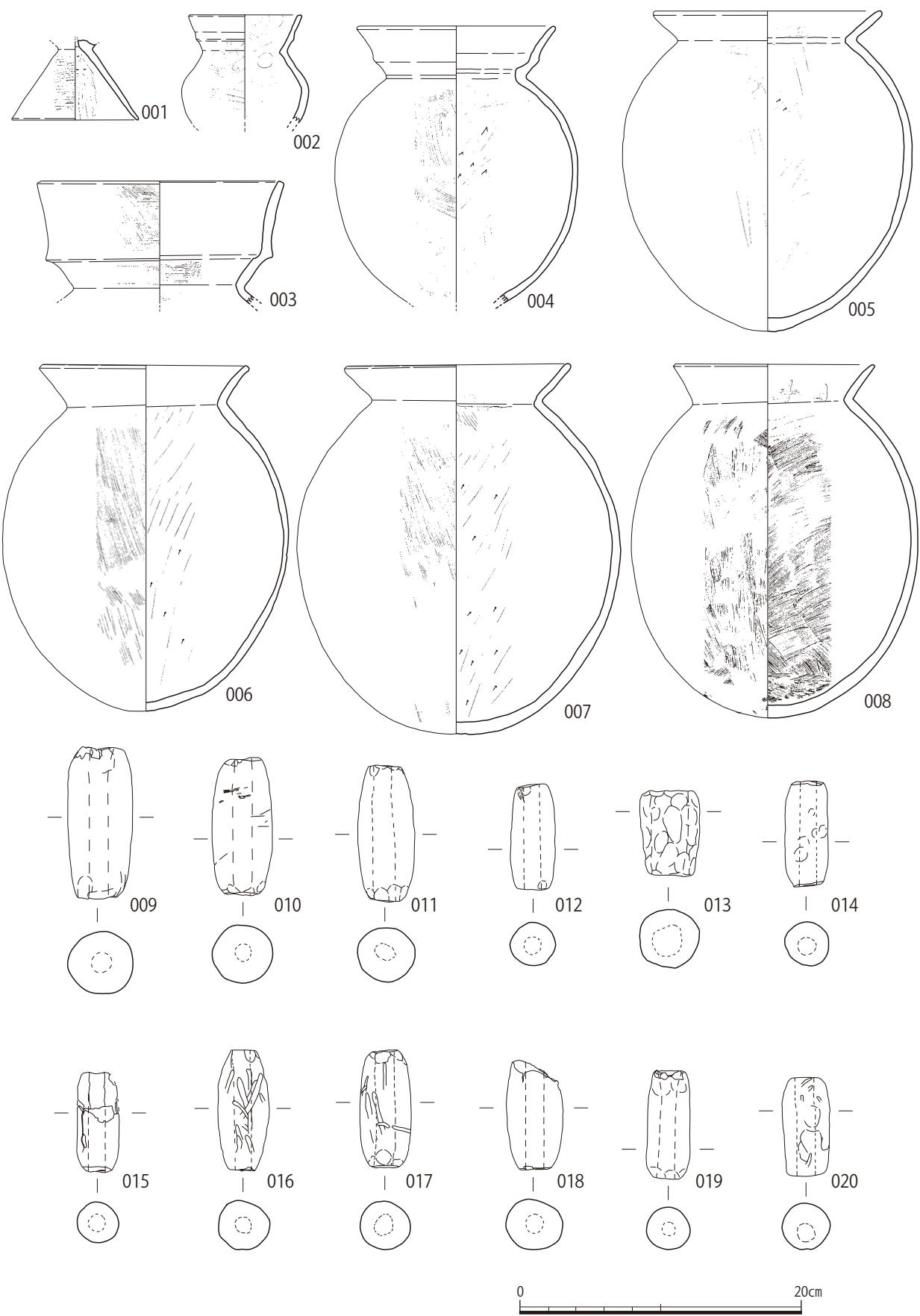


第 86 図 23SE051 遺構実測図 (1/40)



第 87 図 23SE052 遺構実測図 (1/40) ·

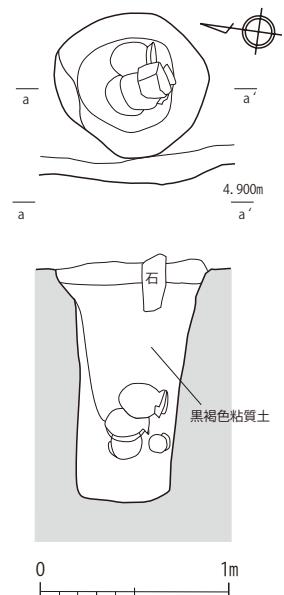
出土遺物実測図 (1/4)



第88図 23SE051 出土遺物実測図 (1/4)

### 23SE076 (第 89 図)

調査区西端中央付近で検出した井戸状遺構である。長軸 0.82 m、短軸 0.86 m、検出面からの深度は 1.28 m を測り、平面プランは円形に近い形状を呈する。井戸底部付近に豊富な湧水が認められたが、それによる崩落痕跡や井戸壁面の抉り痕等は見られない。また、井筒や井戸枠等も検出されていない。底部の標高は約 3.3 m である。それから 30cm ~ 50cm 上位において遺物の出土が認められ、完形もしくは、ほぼ完形の土師器甕や壺 4 個体がまとまって出土した。遺構廃絶時の一括廃棄と考えられる。また、埋土については分層は困難で、黒褐色を基調とする粘質土のみであり、遺物の一括廃棄とともに、一度に埋め戻されたことを示す可能性が高いと考えられる。検出面付近からは 20cm × 30cm の大形の角礫が出土している。出土遺物の様相から、古墳時代初頭から前期前葉の所産と推定される。

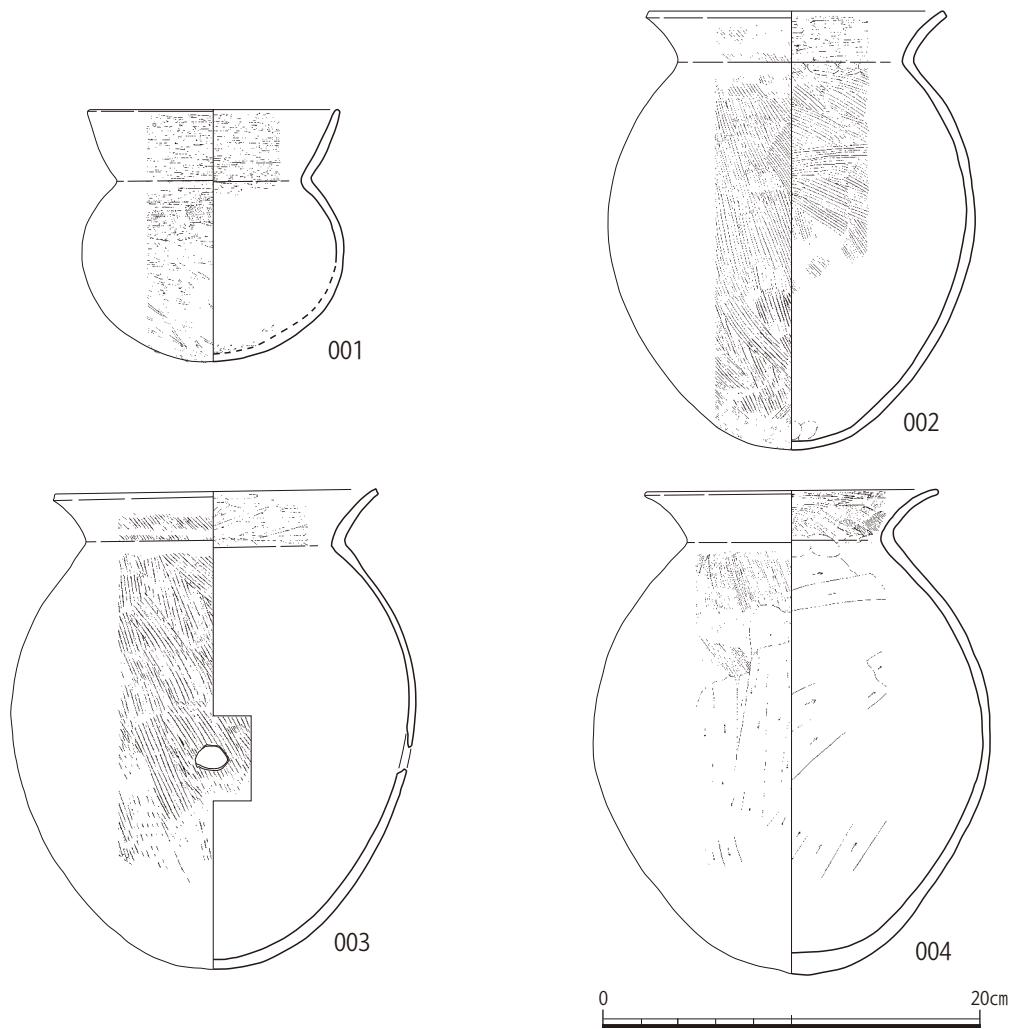


第 89 図 23SE076  
遺構実測図 (1/40)

### 23SE076 出土遺物 (第 90 図)

出土土器は、小型丸底壺、土師器甕である。

001 は小型丸底壺である。口径 13.3cm、器高 13.3cm を測る。口縁部内

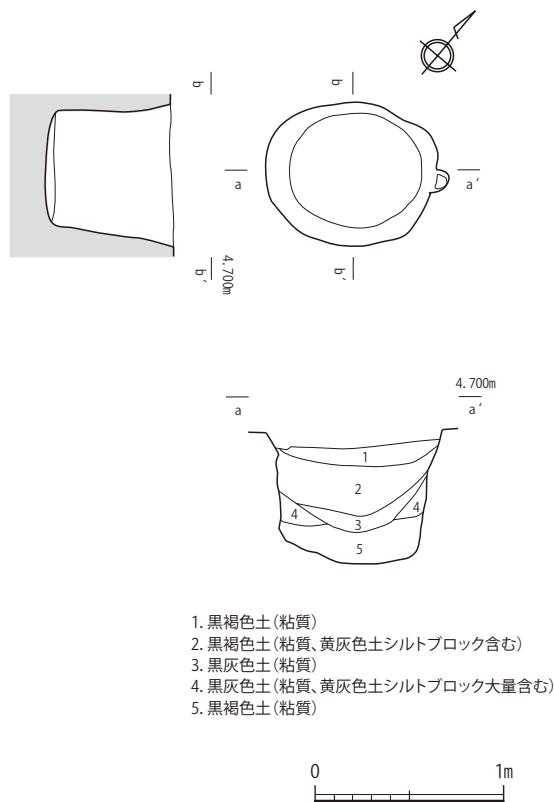


第 90 図 23SE076 出土遺物実測図 (1/4)

面及び外面にはハケ目後ミガキ調整が施される。002～004は土師器甕である。器高、口径とも中甕Bに属し、いずれの資料も球形率0.8以上を示す。口縁部は外反しており、調整はハケ目やミガキが施される。底部形状は丸底を呈し、外面には環状にススが付着している。胴部が膨らみ、内面の調整にケズリが施されている資料もあることから外来の影響を受けつつ、在地の甕の系譜を引く資料と考えられる。古墳時代前期前葉の中でも古相を示す資料である。

### 23SE085（第91図）

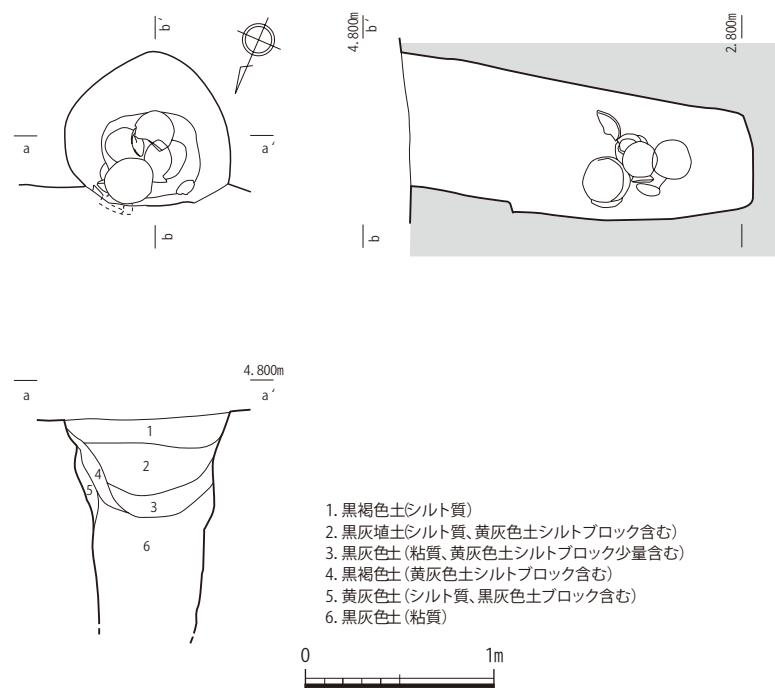
調査区西端北側において検出した井戸状遺構である。平面プランは長軸0.91m、短軸0.74mの橢円形状を呈し、深度は0.78mを測る。井戸底部に湧水が認められる。埋土は黒褐色を基調とする粘質土であり、堆積状況から掘り返しが認められる。出土遺物はほとんどみられず、遺構の時期は不明である。しかしながら、周辺に古墳時代に属すると考えられる遺構が認められ、黒褐色～黒灰色を呈する埋土も類似している事等から、古墳時代に属する可能性が高いと考えられる。



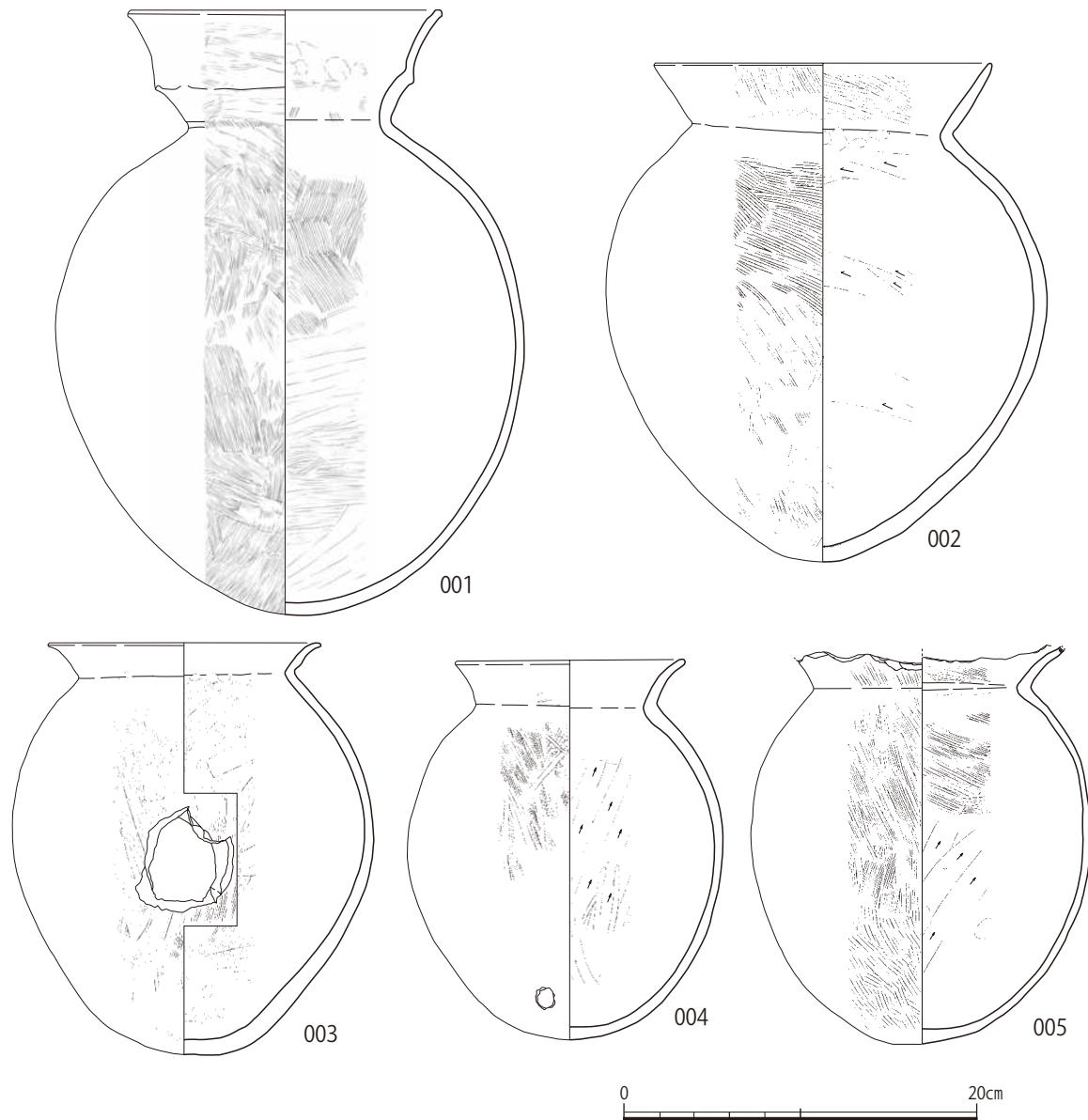
第91図 23SE085 遺構実測図 (1/40)

### 23SE087（第92図）

調査区西端において検出した井戸状遺構である。平面プランは径0.84mの不整円形を呈する。検出面から井戸底部までは、1.82mを測る。井戸底部付近には現状において豊富な湧水が認められた。土層堆積状況から6層と3・4層の間に不整合があり、掘り返しの可能性が考えられる。さらに同層より下位、井戸下部に相当する土層の観察は湧水のため、明確には確認できていないものの、土質は概ね6層と類似している。井筒は検出されていない。6層下部に相当する標高3.1m～3.4mの位置において、土師器6個体を主体とする遺物が集中して出土しており、井戸廃絶時の一括廃棄と考えられる。出土遺物の様相から古墳時代前期前葉と推定される。



第92図 23SE087 遺構実測図 (1/40)



第93図 23SE087 出土遺物実測図 (1/4)

### 23SE087 出土遺物 (第93図)

出土遺物には、土師器壺、甕がある。

001は二重口縁壺である。口径17.8cm、器高34.2cmを測る。一次口縁部との境がスムーズで、二次口縁部が大きく外反する口縁部を持つとされる壺分類E-aに属する。胴部は球形を呈し、底部は丸底である。002～005は土師器甕資料である。002は口径19.0cm、器高23.2cmを測り、内面はケズリ、外面はハケ目調整が施される。口縁部は外方に直立気味に立つ。底部は尖底状をなす。中甕B2-aiiに属する。003は口径15.3cm、器高23.3cmを測る資料であり、胴部中位には打ち欠きと考えられる穿孔が2箇所ほど認められる。内外面はハケ目による調整が施される。口縁部中位が膨らみ、口縁端部は外方に丸くおさめる外来系技術の影響を受けた形状を示している。004・005ともに口縁部が外反し、内面はケズリが認められる。004は胴部外面に環状にスヌの付着が認められる。005は口縁部全体をきれいに打ち欠いた痕跡が認められ、胴部を打ち欠いた003資料とともに井戸廢絶時の祭祀行為に伴うものと推定される。

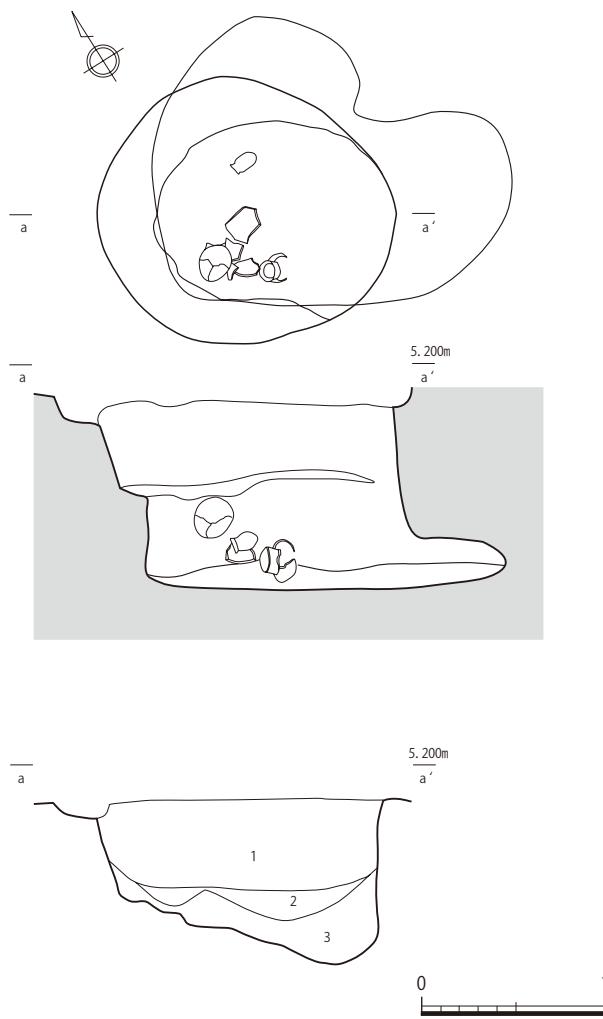
**23SE099 (第 94 図)**

調査区中央東よりにおいて検出した井戸状遺構である。検出時の平面形状は径 1.6 m の円形を呈する。深度は検出面から約 1.0 m であるが、検出面から約 0.4 m ~ 0.5 m の位置にテラス状の平坦面が確認されている。埋土については底部付近に黒褐色を基調とする粘性の強い土が堆積している。また、テラス部分よりも上位にはブロック状の黄灰色土を含む土が堆積しており、廃絶後に人為的に埋め戻された可能性が高いと考えられる。また、井戸底部西側は湧水によると考えられる深い抉りが確認され、50cm ~ 60cm 奥まで井戸壁面が窟状に浸食されている。こうした状況から機能時は素掘りであったと推定される。出土遺物には小型丸底壺、土師器甕、壺等があり、遺構の所産時期は古墳時代初頭～前期前葉頃と考えられる。

**23SE099 出土遺物 (第 95 図)**

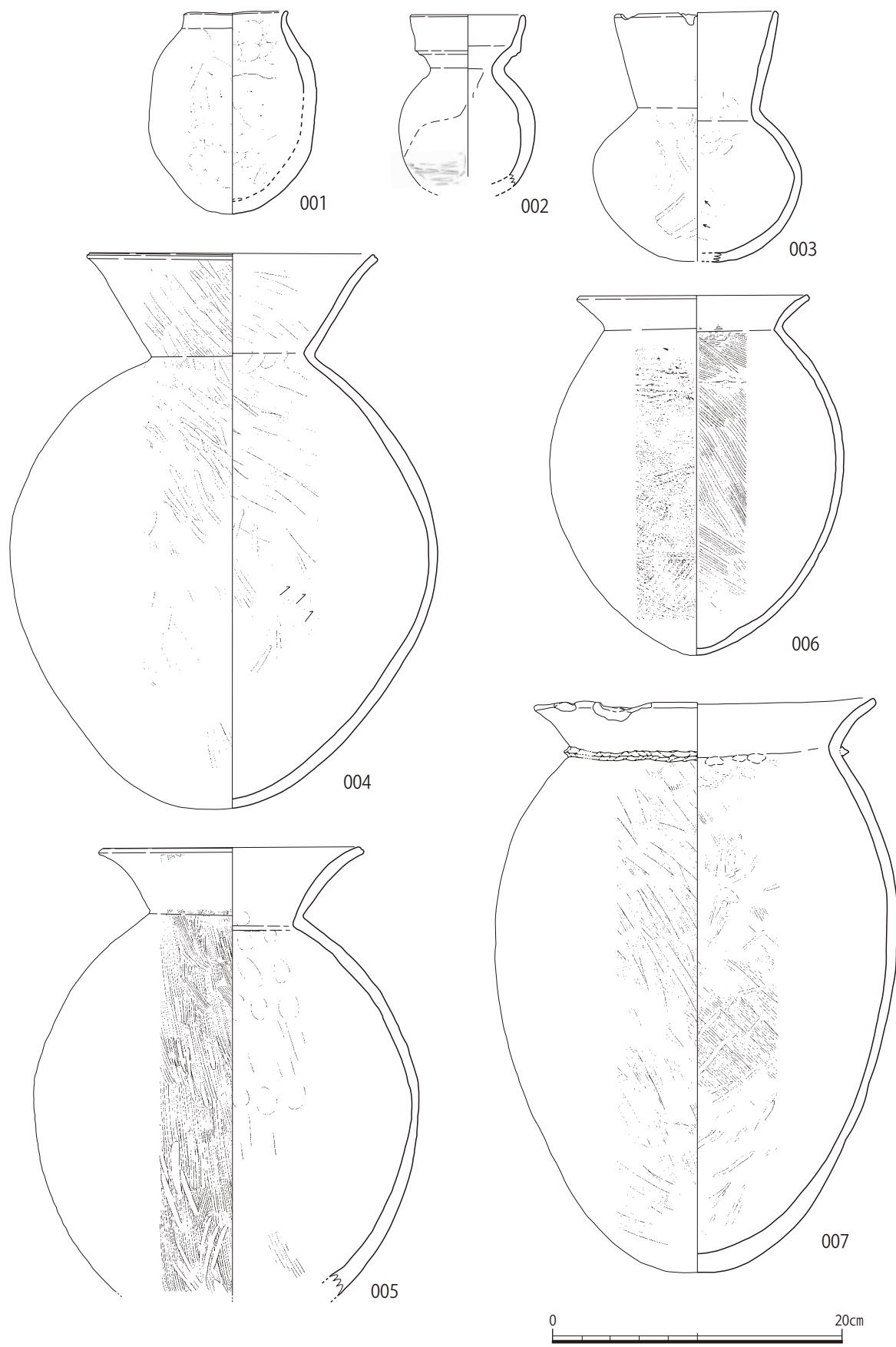
出土遺物には、土師器壺、甕、弥生土器壺がある。

001 は小形の弥生土器無頸壺である。口径 7.2cm、器高 13.9cm を測り、内面明褐色～灰褐色色、外面にぶい黄褐色～ぶい黄橙色を呈する。内外面ともに指頭圧痕が顕著であり、その後粗い工具ナデにより仕上げられる資料である。002 は小形の二重口縁壺である。復元口径 7.6cm 測る。003 は小形の長頸壺である。口径 10.8cm を測りヨコナデ、ナデにより調整される。004・005 は単口縁壺である。ともに大きくハの字状に開く口縁部を持ち、平坦な口縁端部には沈線が認められる。004 は外面に細かいハケ目、内面は粗いハケ目が施される。胴部の張りは中位にあり、底部形態は尖底気味である。006 は土師器甕資料である。復元口径 16.1cm、器高 24.9cm、最大胴部 20.2cm を測る。頸部のしまりはゆるく、口縁部は外方に大きく外傾する。内面はハケ目、外面はハケ目後タタキ調整である。底部形態は尖底状をなす。在地系の甕と考えられる。分類は中甕 B2-a i である。007 は土師器甕である。口径 23.3cm、器高 39.5cm を測り、頸部に突帯を貼付する。内外面ともにハケ目調整が施され、内面にミガキが認められる。弥生時代後期終末の資料と考えられる。壺資料の球形化が認められることからこの遺構の帰属年代は古墳時代前期前葉頃と考えられる。

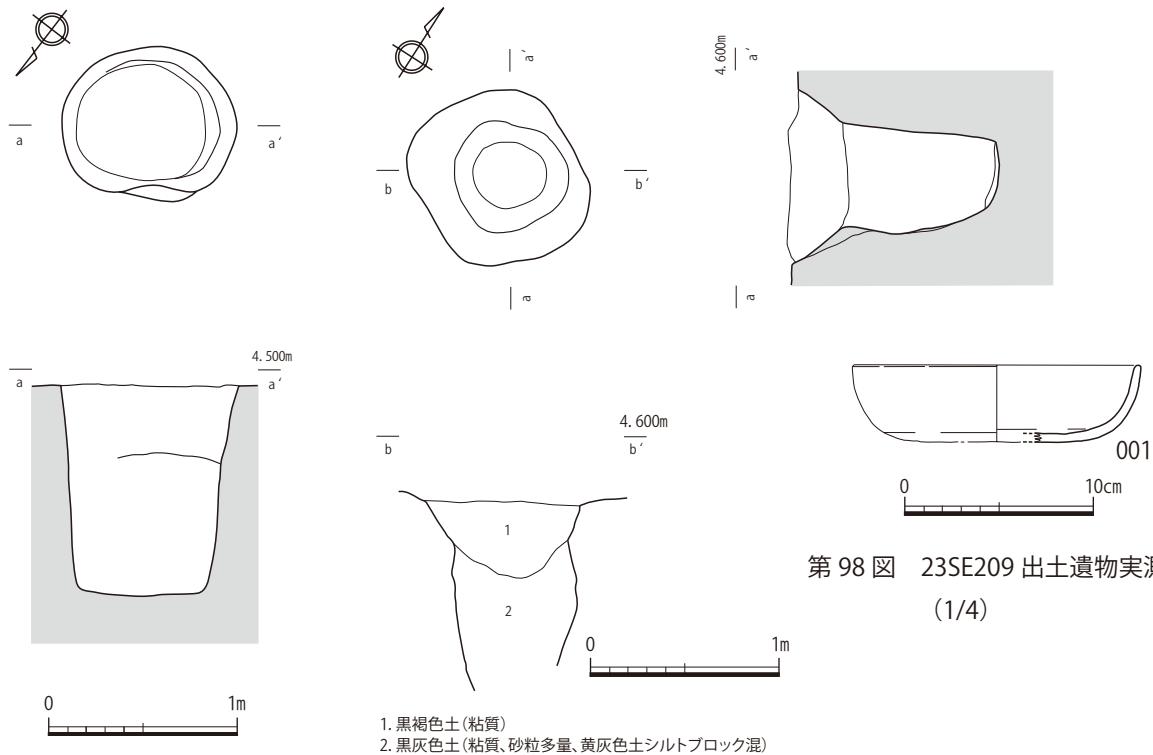


1. 暗褐色土(粘質、黄灰色土ブロック少量含む)
2. 黒褐色土(粘質)
3. 黒色土(粘性強い)

第 94 図 23SE099 遺構実測図 (1/40)



第95図 23SE099出土遺物実測図 (1/4)



第96図 23SE183 遺構実測図 (1/40)

第97図 23SE209 遺構実測図 (1/40)

第98図 23SE209 出土遺物実測図  
(1/4)**23SE183 (第96図)**

調査区中央北東寄りにおいて検出した井戸状遺構である。長軸 0.92 m、短軸 0.81 m、深度は 1.1 mを測る。平面プランは楕円形状を呈し、井戸底部付近には豊富な湧水が認められる。埋土は暗褐色土を基本とする軟質土である。また、出土遺物は僅少であり、時期決定には至っていないが、周辺に存在する他遺構との埋土の類似性から古墳時代の可能性が高いと考えられる。

**23SE209 (第97図)**

東側拡張区中央北東より、23SE183 の北側において検出した井戸状遺構である。平面プランは長軸 0.91 m、短軸 0.81 mの隅丸方形を呈する。深度は 1.1 mを測る。調査時には井戸底部付近に豊富な湧水が認められた。埋土下層（2層）は黄灰色シルトブロックを含む土であり、遺構廃絶後に埋め戻された可能性が考えられる。また、上層（1層）については廃絶後の掘り返しの可能性が考えられる。出土遺物には土師器があるが、小片のため時期決定には至っていない。

**23SE209 出土遺物 (第98図)**

001 は復元口径 15.6cm、器高 4.1cm、復元底径 7.8cm を測る土師器皿状の資料である。底部が平坦に仕上げられており、内面・淡橙色、外面・橙色を呈する。胎土中には石英粒・白色粒子・赤色粒子が含まれ、内外面ともにナデにより調整される。詳細な所産時期等は不明である。

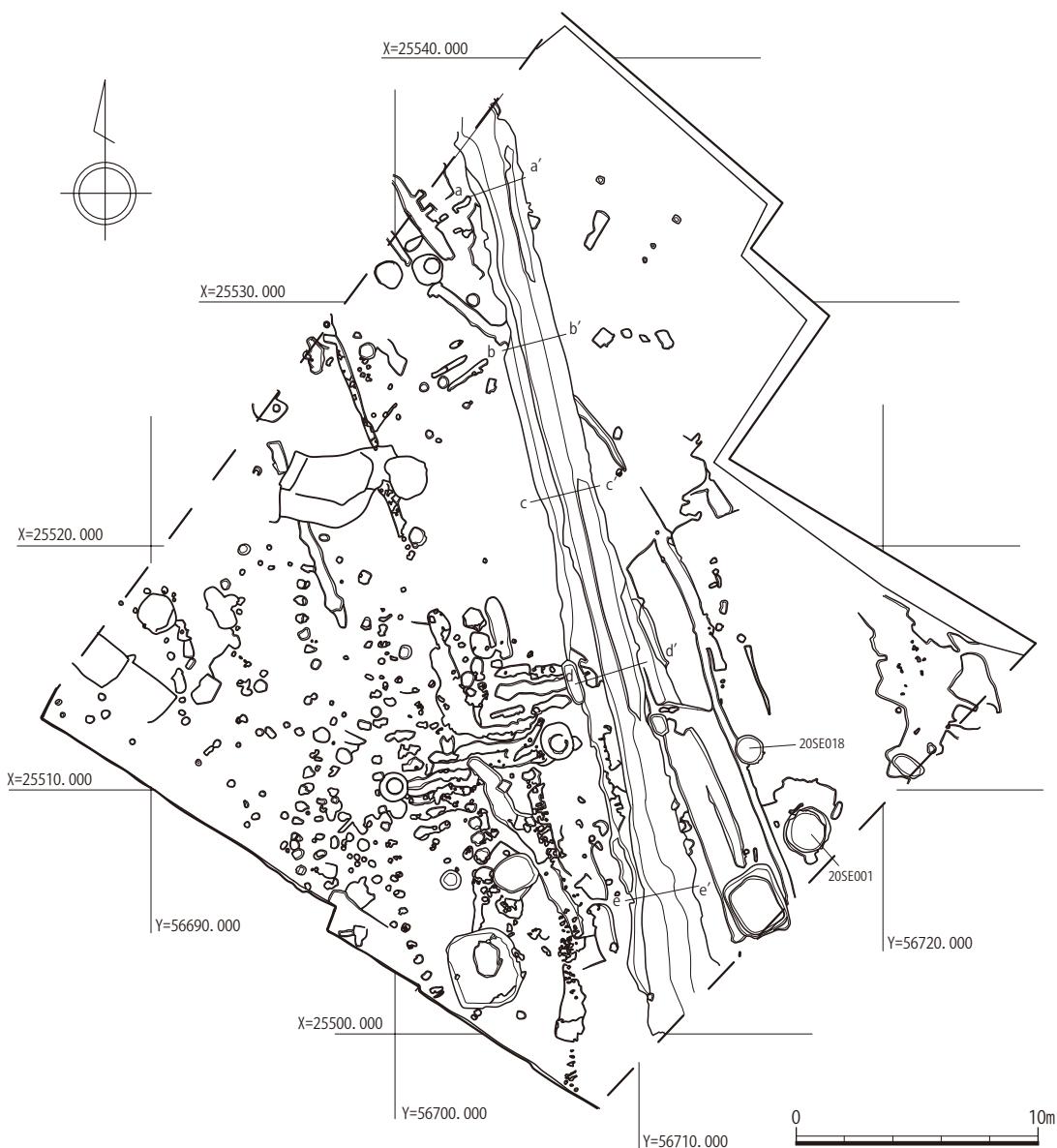
### 第3節 大道遺跡群第20次調査

#### 概要

第20次調査区は、第23次と第32次の間に挟まれた調査区で、古墳時代前期の遺構群が検出された。古墳時代前期の遺構は、環濠遺構(20SD001)及び井戸跡(20SE001・018)がある。遺構の分布は、南東部を23SD001、北西部を32SD001に連続する環濠遺構20SD001が調査区の中心に位置し、その北東部に井戸跡群が存在する。

この他出土遺物が少なく、時期の確定が困難な溝状遺構等が検出されている。これら遺構群については、古墳時代の環濠と同じかやや西に主軸をもつ方向性を有している。隣接する第23・第32次にも同様な方向性を有する溝が存在している。

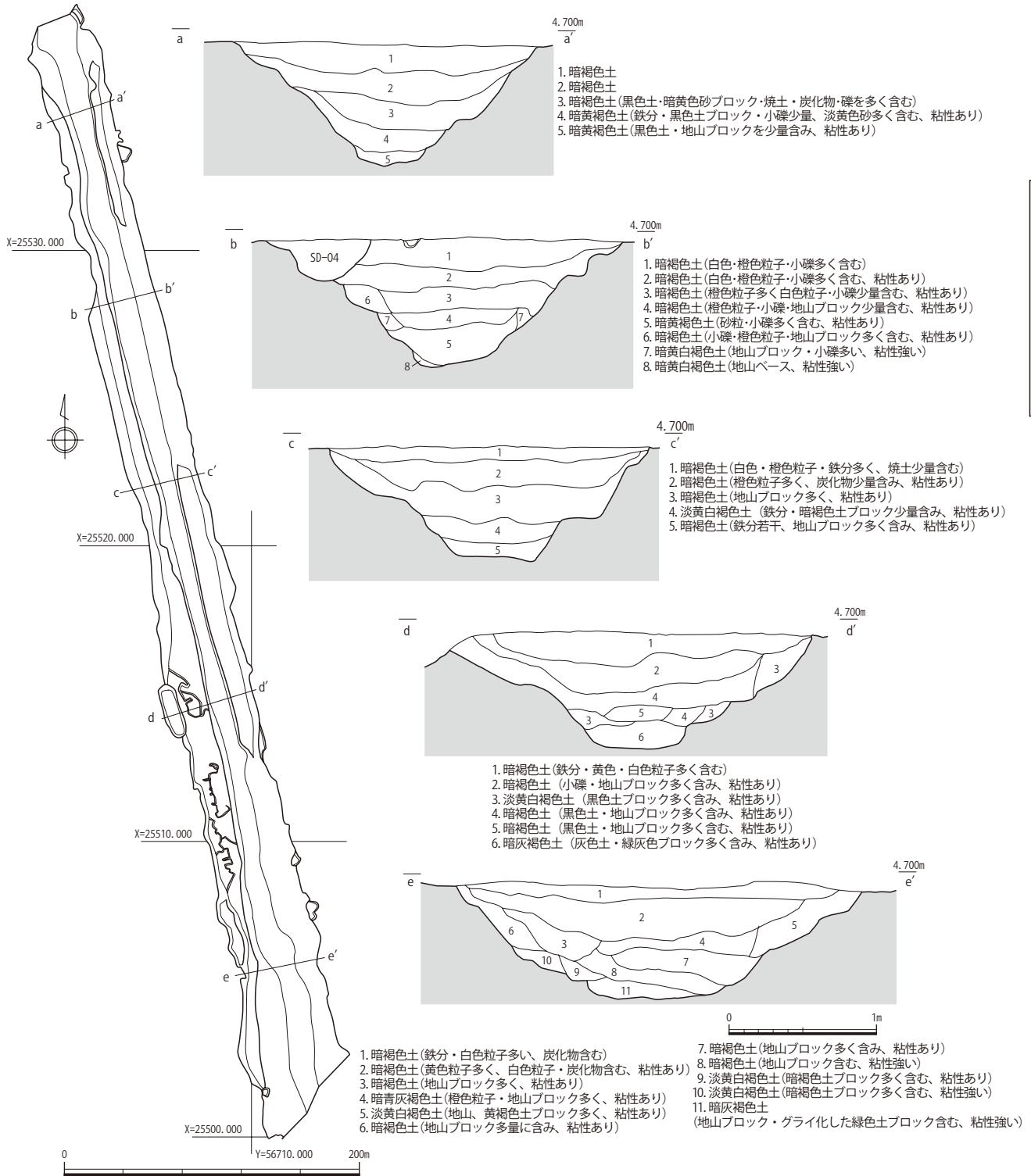
以下、調査区内で検出した弥生時代・古墳時代環濠関連遺構及び出土遺物についてその詳細を記す。



第99図 大道遺跡群第20次調査区全体図 (1/300)

## 20SD001（第100図）

調査区のほぼ中央において検出した、南北方向に伸びる溝状遺構である。幅約2.8m～4.3m、検出長さ約57.8m、最大深度約0.9mを測る。断面形状は概ね逆台形を呈する。遺構の北端は32SD001と南端は23SD001と接続する。埋土は暗褐色土を基調とし、土層断面b-b'からは鉄分の集積が2枚観察されており、溝の中央付近は滞水していたと考えられる。また、土層堆積には不整合が認められ、少なくとも1回の掘り返しがあったと推測される。出土遺物には、土師器甕、壺、高坏、鉢、ミチア土器とともに製塩土器や土錘が出土している。土器の出土層位は上層から中層で、ある程度埋まった時点で土器が廃棄されたと考えられる。出土遺物の状況から、古墳時代前期中葉に機能を停止した遺構であると考えられる。



第100図 20SD001 遺構実測図 (1/300・1/40)

## 20SD001 出土遺物（第 101 図～第 154 図）

出土遺物は、ミニチュア土器、器台形土器、高坏形土器、鉢形土器、壺形土器、甕形土器、土錐、石器などがある。

### ミニチュア形土器・器台形土器（第 101 図 001～022）

001～012 はミニチュア土器鉢である。013 は平底タイプである。015 ミニチュア土器高台付鉢。016・017 はミニチュア土器壺。018・019 はミニチュア土器高坏の脚部片である。020 は小形器台の受け部片。021 は筒形器台の下半部片。弥生時代後期終末期の所産か。022 は鼓形器台で、古墳時代前期中葉頃と考えられる。

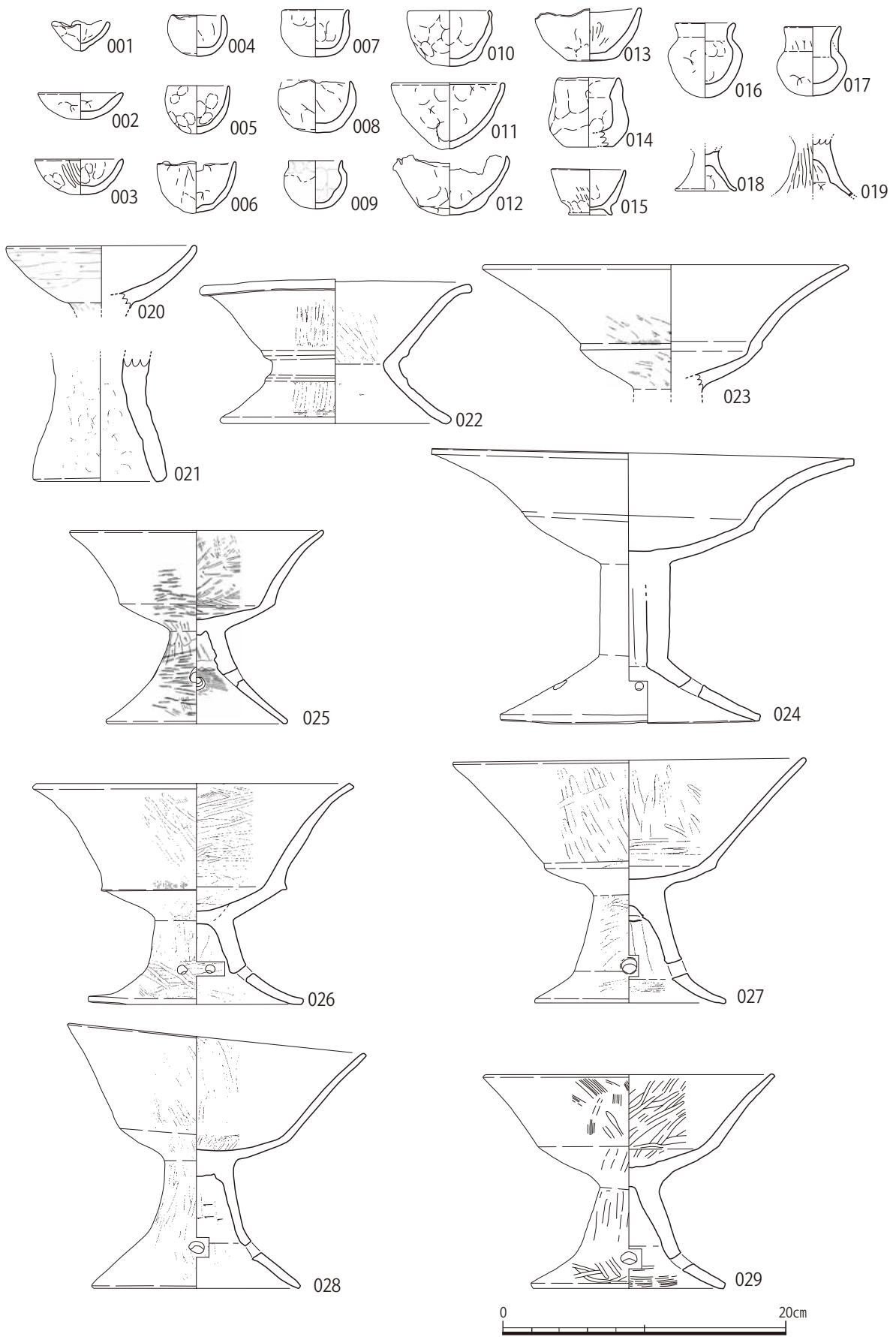
### 高坏形土器（第 101 図～第 104 図 023～086）

023・024 は稜をもって大きく外反する口縁部をもつ坏部で、脚柱部が円柱状で稜をもって屈曲する高坏 A 類である。024 は円孔が脚裾部に 4 箇所認められる。

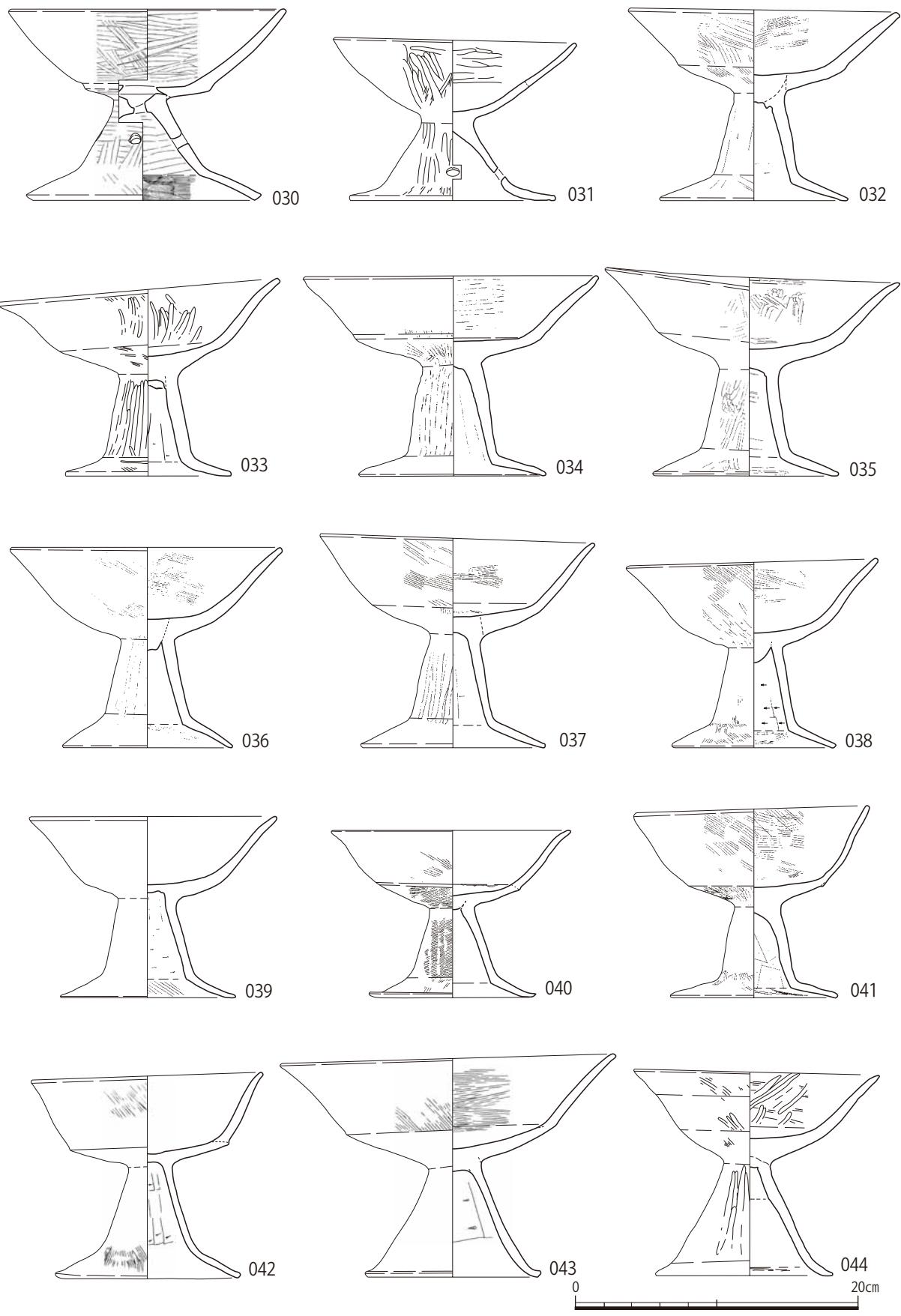
025～048 は坏部が稜をもって概ね直線的に外傾する口縁部をもつ高坏 C 類である。025～029 は脚柱部が下部に広がりもち稜をもって屈曲する脚部で、坏の深さが器高の 1/2 前後の深めの坏部をもつ高坏 Ca 類。坏口径 20cm～24cm を測る。脚部の屈曲部に円孔を施す。026 は円孔が 2 個 1 組で 1 対に施される。030・031 は円孔は屈曲部の上位に施す。032～042 は脚柱部から稜をもって低平に屈曲する脚部で、坏の深さが器高の 1/3 前後の浅めの坏部をもつ高坏 Cb 類。脚部内面はヘラケズリが実施される。032～035 は坏口径 20cm 前後を測る。036～042 は坏口径 17cm 前後で、032～035 よりもやや小さめで深い。040 は口縁端部がやや外方に広がり、脚部の端部は跳ね上がる。043・044 はラッパ状で直線的に広がる脚部で、浅めの坏部をもつ高坏 Cc 類。043 は坏口径 23.7cm を測る大形の坏部で、口縁端部と脚端部は外側に丸くおさめる。044 は坏口径 17.1cm を測り、脚端部は外方に広がる。045 は長脚で稜をもって緩やかに広がる脚部で、坏の深さが器高の 1/4 程度の浅い坏部をもつ高坏 Cd 類。坏口径 15.4cm を測る。坏部は皿形状、脚部は細い脚柱部から稜をもって緩やかに広がる。脚部内面はヘラケズリが施される。046～048 は脚柱部が細長く稜をもって低平に屈曲する脚部で、小さめの坏部をもつ高坏 Ce 類。坏口径は 13cm～16cm を測る。046・047 は口縁部の中位が肥厚気味で、外面は丁寧な横方向のミガキを施す。049～063 は高坏 C 類の坏部片の資料である。051～052 は深めの坏部。坏口径 21cm～24cm を測る。053・055・056・058～063 は浅めの坏部。坏口径 17cm～20cm を測る。063 は高坏 Cd 類と考えられる。円孔が脚中位に 2 箇所、上位に 3 箇所確認できるが欠損により総数は不明である。054・057 は小さめの坏部。坏口径は 054 が 16.3cm、057 が 15.8cm を測る。064～077 は高坏 C 類と組合せられる脚部片と考えられる。064～068 は脚 a 類で、064・065 は円孔が屈曲部の上位に施す。066～067 は円孔を屈曲部に施す。068 は脚裾部が膨らみ、円孔を屈曲部の上位に施す。069～071 は脚 b 類。072・073 は脚 c 類の脚部。074～077 は脚 e 類の脚部。

078～085 は弥生時代終末期の高坏の破片資料である。078・079・085 は坏部片。080・081 は在地系の弥生土器高坏（台付鉢）の破片資料である。082～084 は脚部片で、円孔が認められる。084 は脚柱部のみで充填部から中位に円孔 6 箇所認められる。欠損のため総数は不明である。086 は小形の脚部片である。

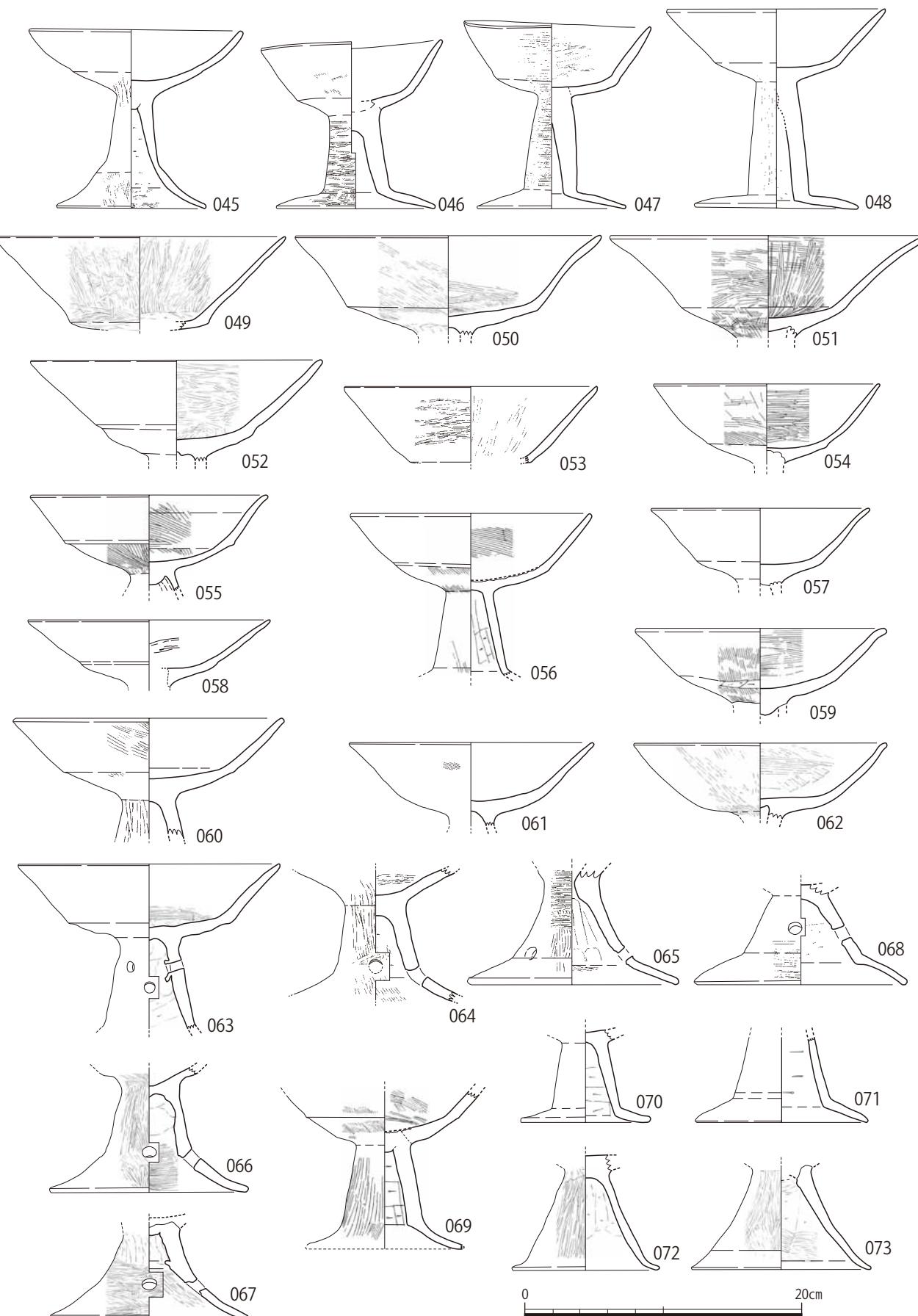
20SD001 の高坏の様相は、ほぼ同類の遺物が出土している前述した 23SD001 と時期差はあまりないと考えられる。高坏 Ca 類は口縁部が外反気味であったり、ミガキ調整をしていることから 23SD001 より古い様相を示す。大半は高坏 Cb 類と高坏 Cc 類が占める。また、他遺構ではみられない 045 のような高坏 Cd 類が出土している。形状は、坏部が浅くなり稜も不明瞭で皿状を呈し、脚部が細長くなる。外面の調整は省略され、脚部の内面にケズリを施すなど外来系の技術の強い影響がみられる。今回分類する中で、形状や調整から布留式系高坏を代表する高坏 Ce 類の前段階という位置付けを行った。高坏 Ce 類の出土からも、全体の様相は、弥生時代後期終末期のものも混在するが、主体は古墳時代前期中葉から前期後葉頃と考えられる。



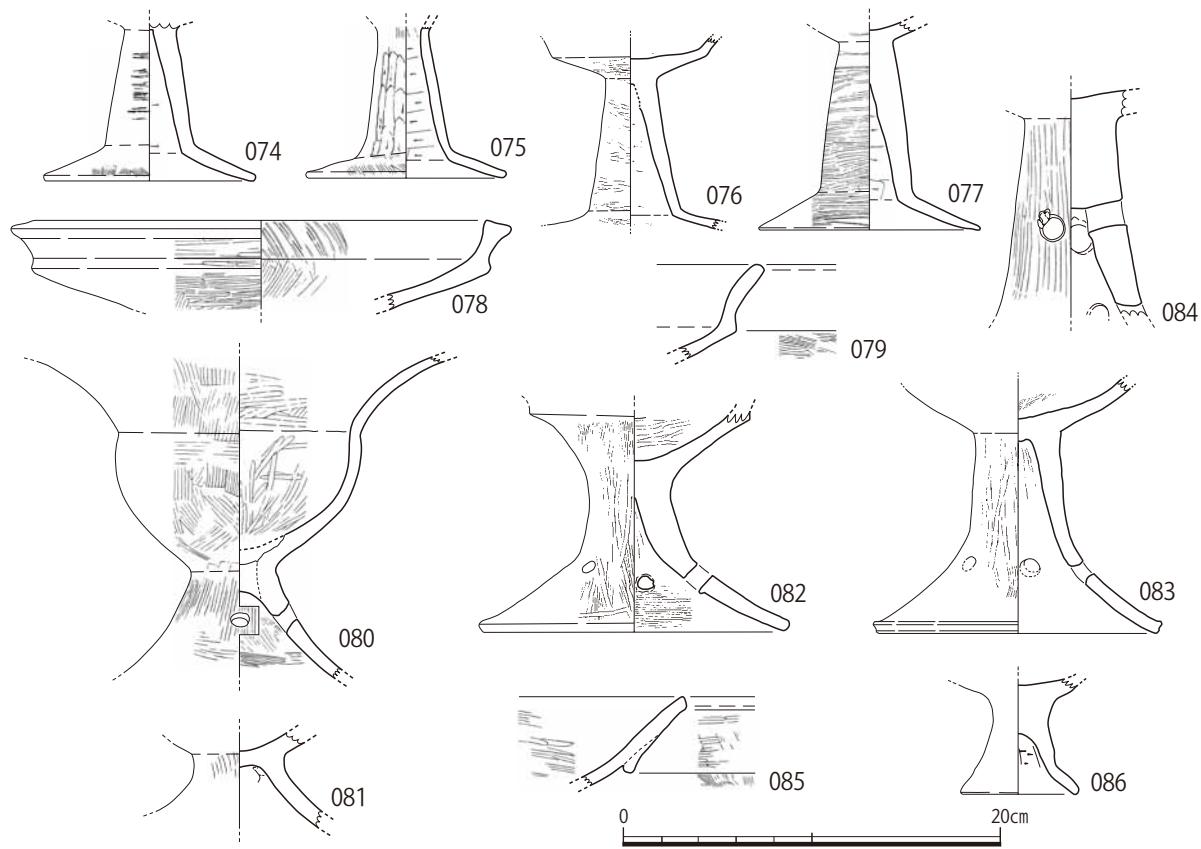
第 101 図 20SD001 出土遺物実測図 1 (1/4)



第 102 図 20SD001 出土遺物実測図 2 (1/4)



第103図 20SD001出土遺物実測図3 (1/4)

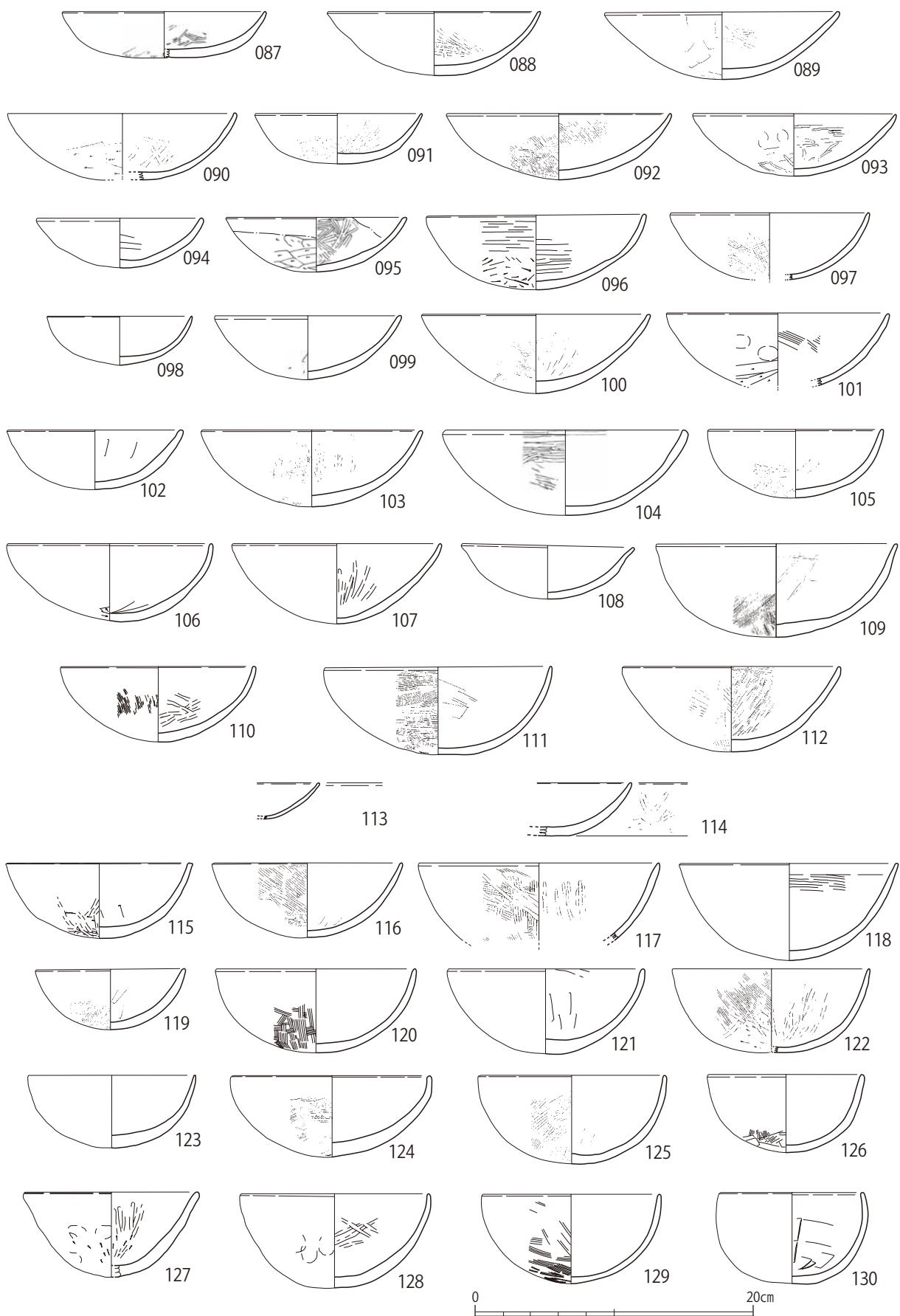


第104図 20SD001出土遺物実測図4 (1/4)

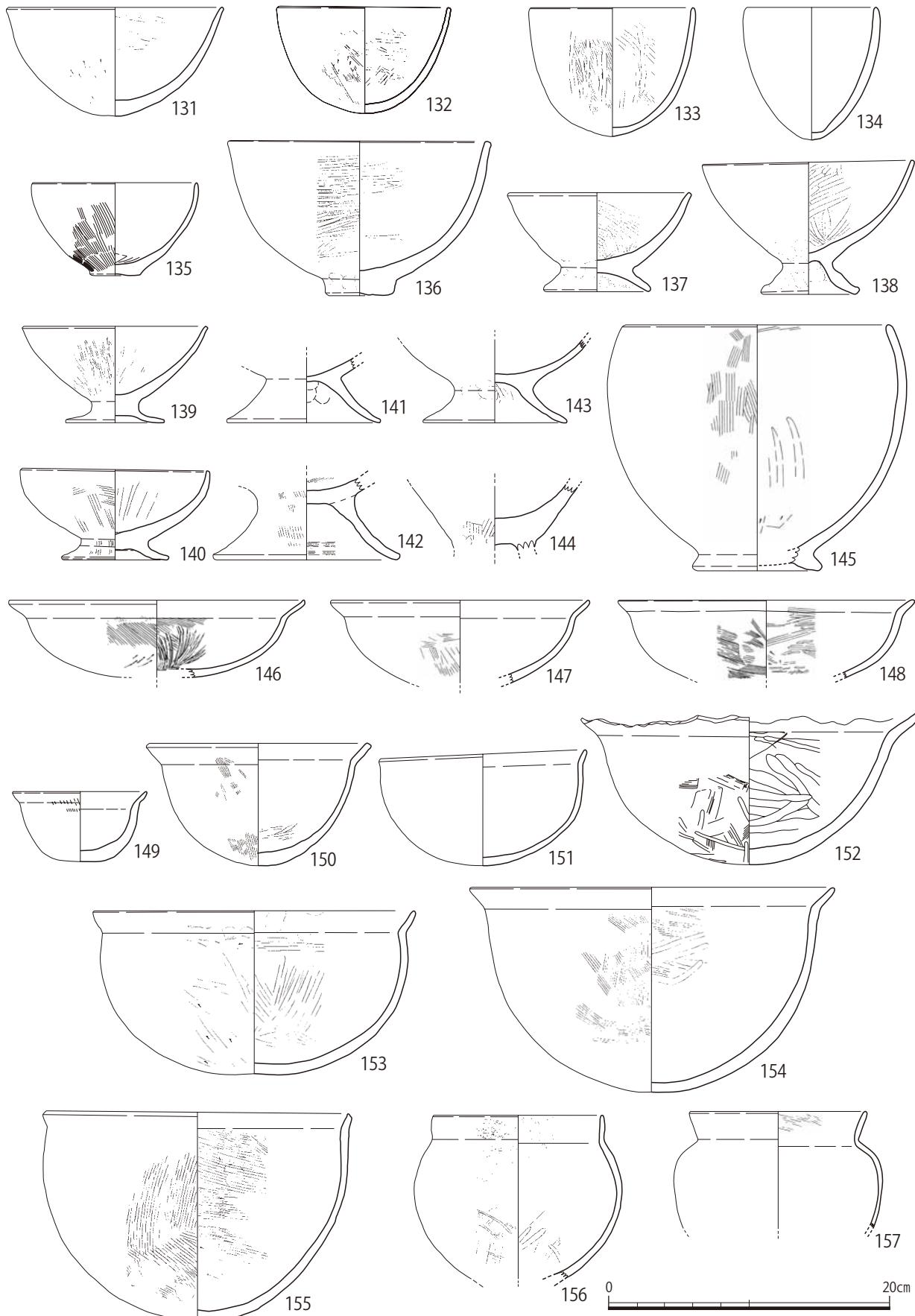
## 鉢形土器（第105図～第110図）

087～114は鉢A1で、皿・壺に近い形状の小形の浅い鉢である。087～104は直線的に外方に伸びる口縁部を有する。099は内外面共にスヌの付着がみられる。105～107は、直線的に上方に伸びる口縁部を有する。108・109は僅かに外反する口縁部を有し、口縁端部は器壁が薄くなっている。110～112はやや内湾する口縁端部を有し、丸底を呈する。113・114は口縁部のみの資料である。115～130は鉢A2で、椀型の小形の鉢である。115～118は直線的に外方に伸びる口縁部を有する。119～126は直線的に上方に伸びる口縁部を有する。127は外反する口縁部を有し、全体的に器壁が厚い。128～130は内湾する口縁部を有し、丸底を呈する。131～133は鉢B1で、深鉢である。131は僅かに外反する口縁端部を有する。134は鉢B2で、深鉢である。内外面に赤色塗彩がみられ、全体的に丁寧なナデを施された精製品である。135は鉢G1で、小形の平底鉢である。136は鉢G2で、大形の平底鉢である。137～145は鉢Eで、台付鉢である。137は内湾する脚台部を有する。141～143は脚台部のみで、144は鉢部の底部のみである。145は大きく内湾する球形の形状を呈する。146～148は鉢C1で、口縁部に屈曲を有する浅鉢である。146は内面に放射状のミガキを施す。147は内外面共に丁寧なナデが施されている。149～155は鉢C2で、口縁部に屈曲を有する浅鉢で、鉢C1よりも深い形状のものである。149は厚い平底気味の底部を呈する。152は口縁部を打ち欠いており、器壁が厚い。155はやや外側に傾いた肥厚した平坦な口縁端部を有する。156～171は鉢D1で、口縁部に屈曲を有する深鉢である。156～159は小形、160～171は中形の鉢である。164～171は屈曲部に貼付突帯を有する。172は鉢D2で、大形の深鉢である。173～175は山陰系折衷型の二重口縁鉢である。173は屈曲部に貼付突帯を有する。176は底部の一部のみ残存の詳細不明遺物である。177～181は鉢Fで、口縁部に屈曲を有する台付鉢である。179は底部器厚が著しく厚い。182は弥生土器鉢である。内外面に赤色塗彩が施され、口縁部外面に波状文が認められる。

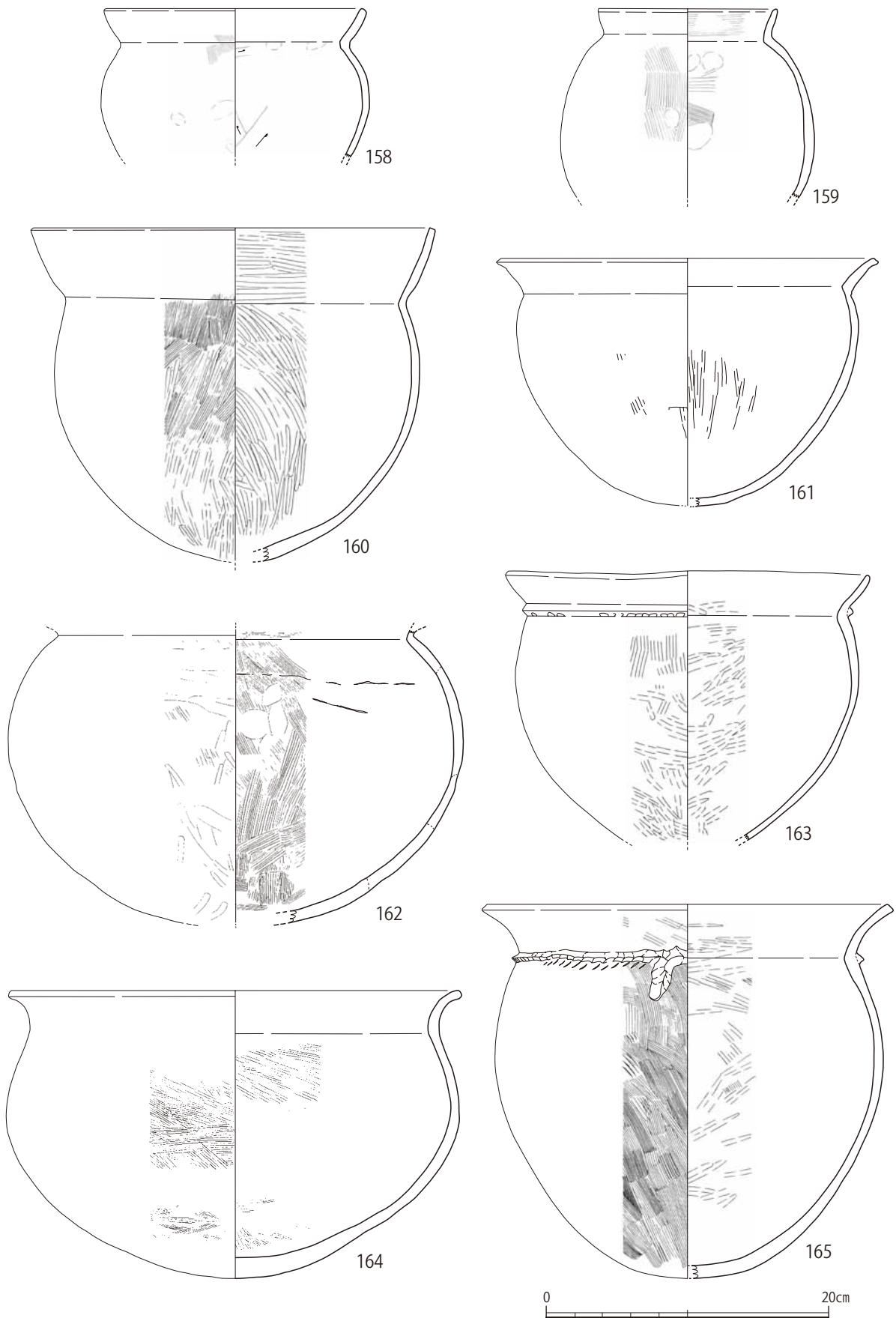
20SD001から出土した鉢は、尖底を呈する底部形状のものは少なく、丸底化した底部形状を呈するものが大半である。胴部も球形化したものが多いため、このことから、20SD001出土の鉢は主として古墳時代前期中葉の所産であると考えられるが、全体の様相は古墳時代前期前葉から前期後葉で、弥生時代後期終末所産の遺物も含んでいる。



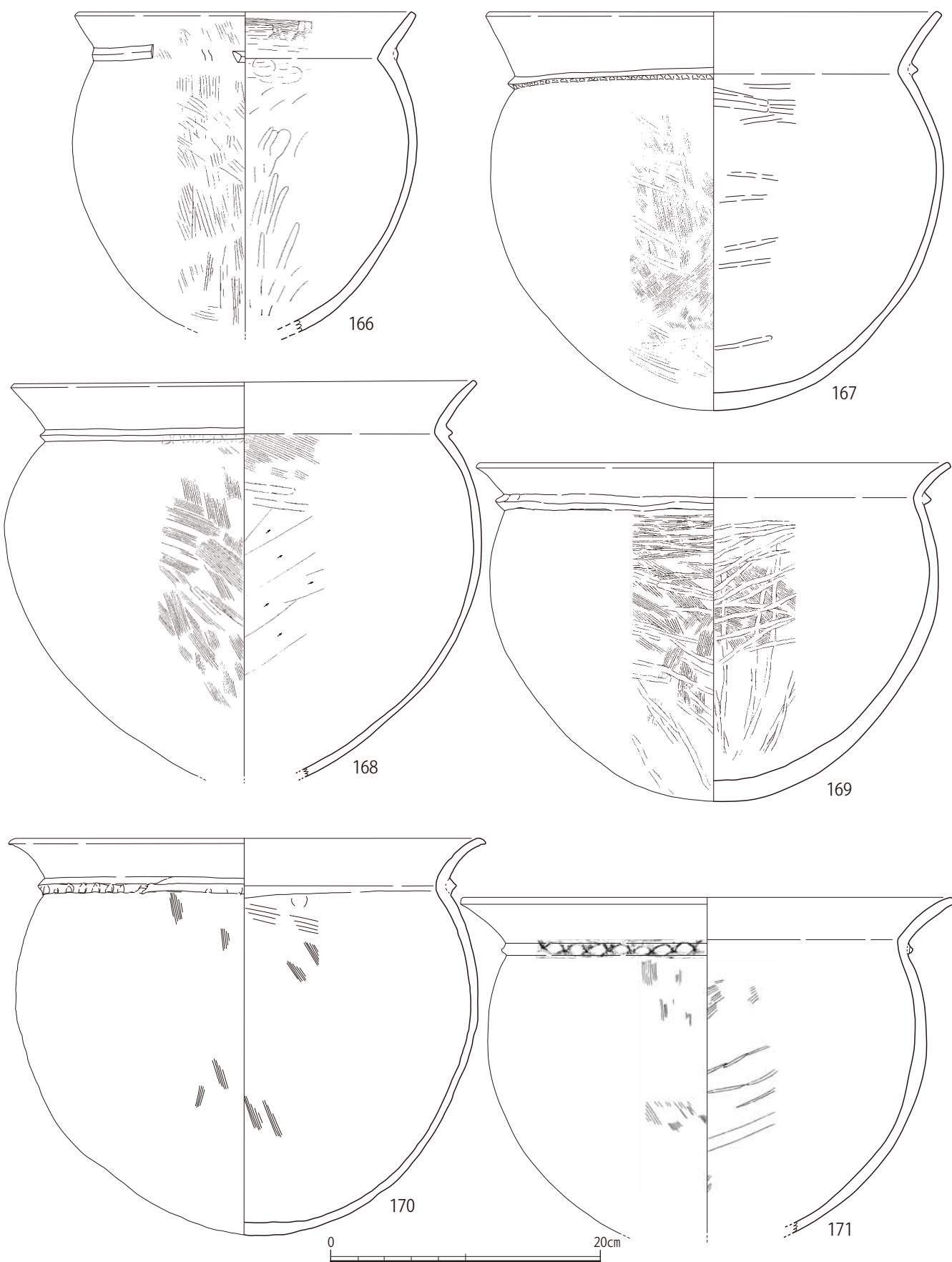
第105図 20SD001 出土遺物実測図5 (1/4)



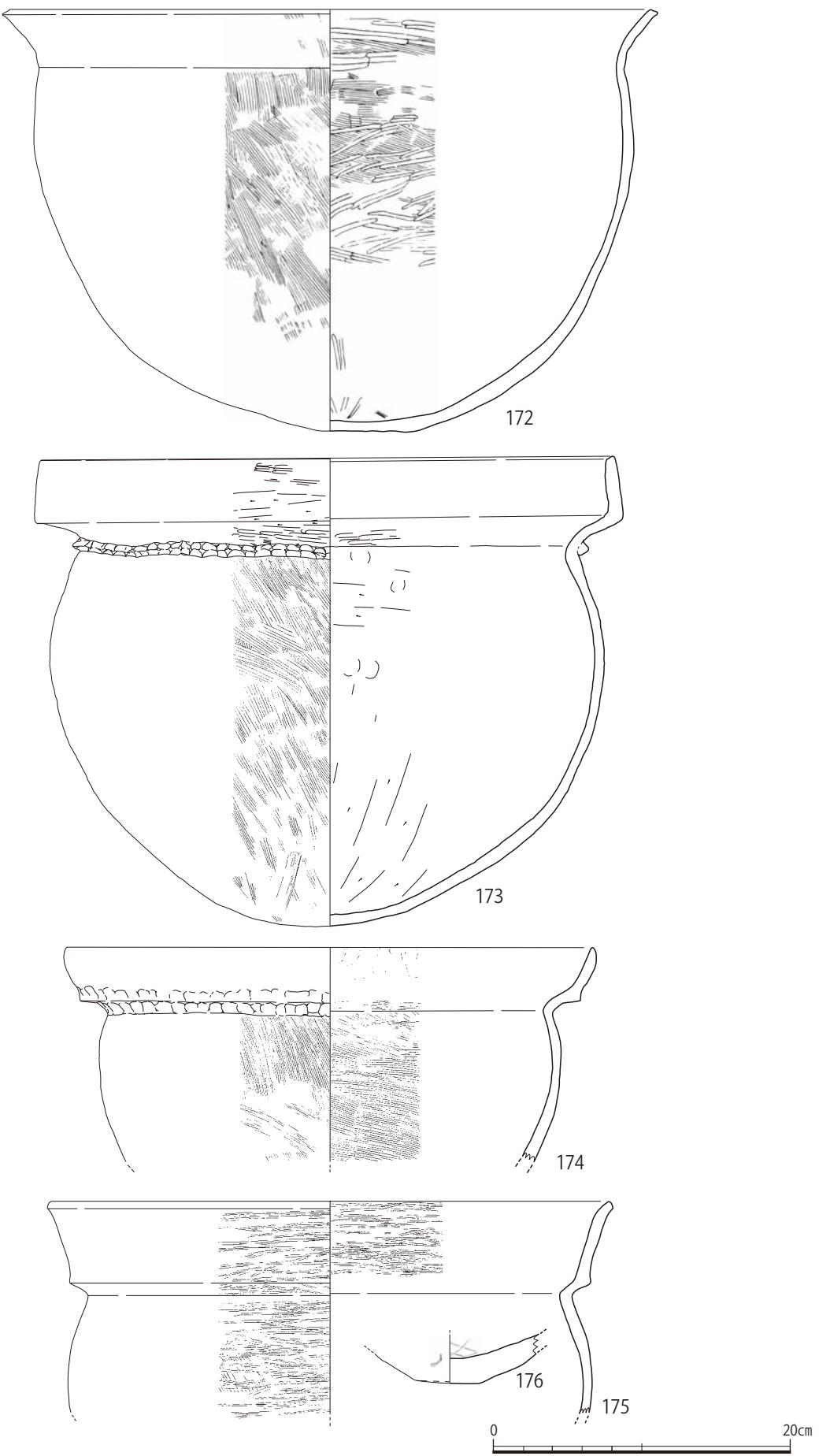
第106図 20SD001出土遺物実測図6 (1/4)



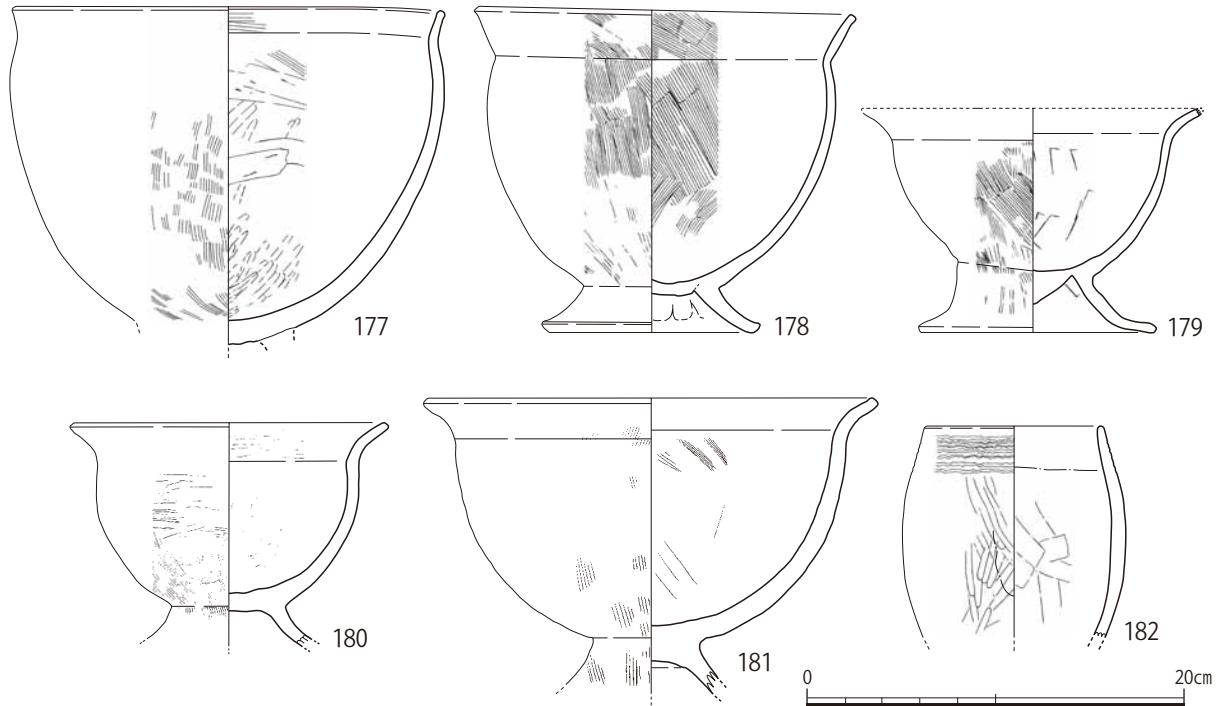
第107図 20SD001出土遺物実測図7 (1/4)



第108図 20SD001出土遺物実測図8 (1/4)



第109図 20SD001出土遺物実測図9 (1/4)



第 110 図 20SD001 出土遺物実測図 10 (1/4)

**壺形土器（第 111 図～第 125 図）**

出土した壺形土器には、壺 A 類: 小形の丸底壺・鉢、壺 B 類: 直口壺、壺 C 類: 単口縁壺、壺 D 類: 複合口縁壺、壺 E 類: 二重口縁壺がある。掲載した壺形土器のうち、183～317 は土師器、弥生土器壺は 318～320 である。

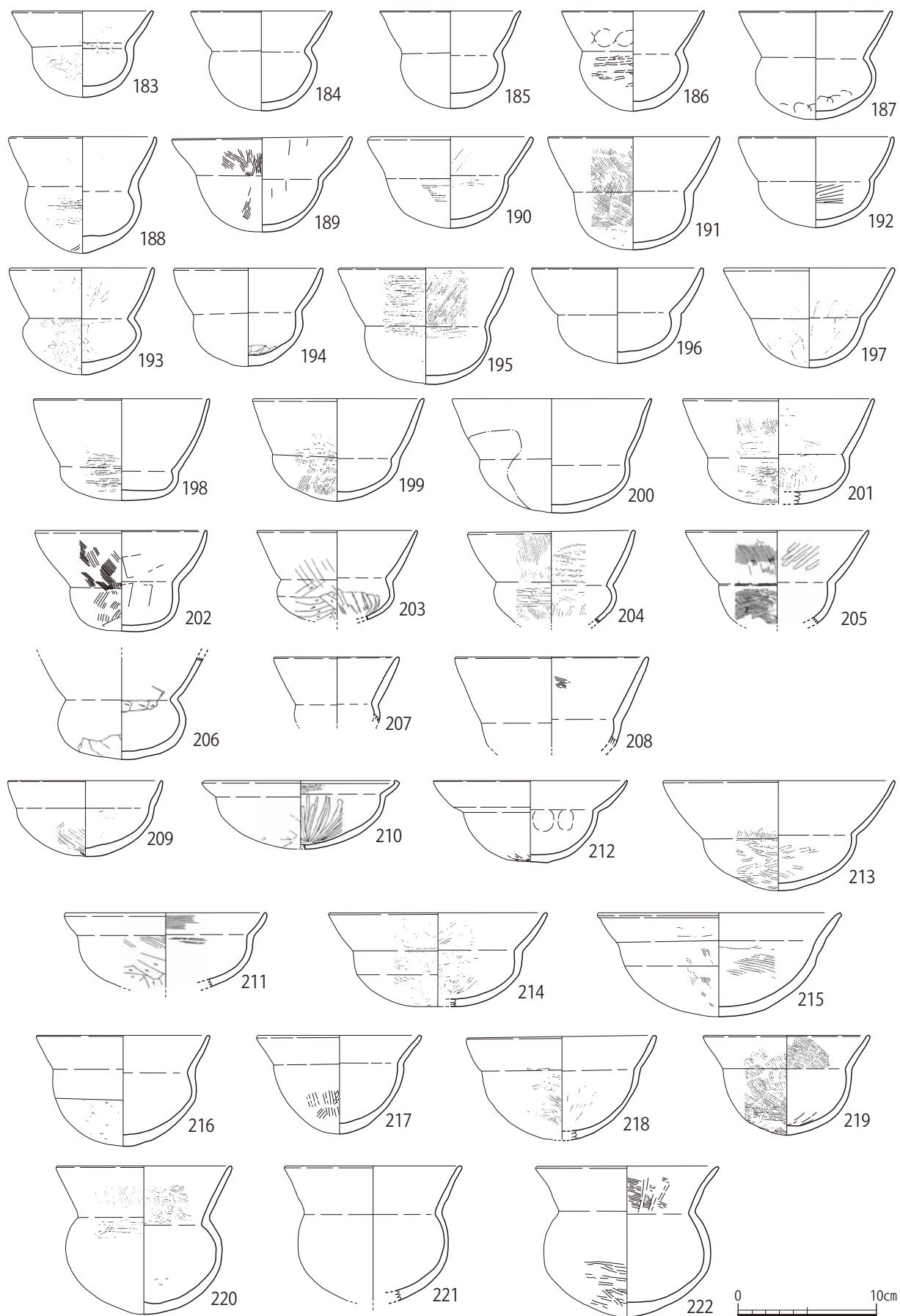
183～238 は小形の丸底壺・鉢である。183～197 は、壺 A-a 類である。体部が偏球形で、大きく広がる口縁部の高さが、体部高と同じか、やや小さい資料である。183 は、内外面ともミガキ調整。185 は、外面にススが付着する。底部が厚い。186 は、外面にミガキ調整か。188 は底部が尖底気味で、外面はミガキ調整。191 の外面は、ハケ調整、下半はヘラケズリ。193 は、外面にススが付着する。195 は外面ミガキ調整、内面はハケ調整。196 は器壁が厚い。197 は、外面にススが付着する。内外面とも工具ナデの痕跡が残る。

198～208 は、壺 A-b 類である。壺 A-a 類より口縁部がさらに伸長し、器高の 1/2 以上を占めている資料である。198 は体部が小さくつぶれた形状をしている。外面にはミガキ調整が施される。199 は外面にミガキ調整が施される。200 は外面にススが付着し、丁寧なナデで調整され、やや精良な作りである。201 は底部を欠損する。内外面ともミガキ調整が施される。202 は内面に工具ナデが施される。203 は底部を欠損する。外面はケズリが顕著で、内面上半は、丁寧なナデ調整。204 も底部を欠損する。内外面とも、ミガキ調整が施される。205 は底部を欠損する。外面は全体的に丁寧なミガキ風のナデが施される。206 は口縁端部を欠損する。内面にヘラケズリが施される。207・208 は、底部を欠損する。

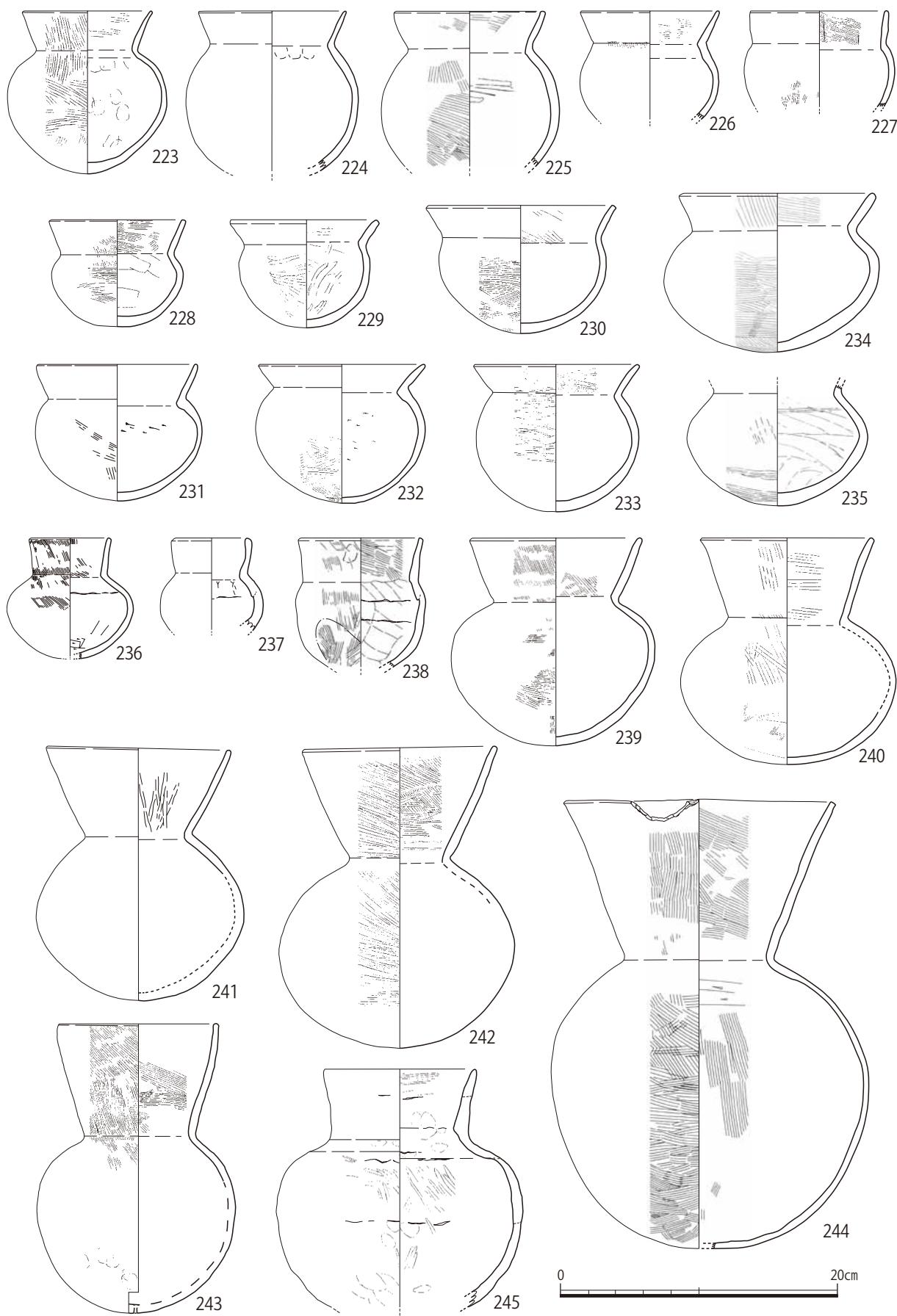
209～215 は、壺 A-c 類である。器高が口径の 1/2 より小さく、浅い鉢状の体部に、概ね体部高より小さい口縁部がつくものである。209 は外面にミガキが施される。口縁部のしまりがゆるい。210 は、内面に放射状のミガキを施す。口縁端部を内側につまみあげる。211 は底部を欠損する。210・211 は、口縁部が他に比べ短い。212 は外面にヘラケズリ。213 は、内外面とも体部にミガキ調整が施される。口縁部が体部高と同程度に伸長している。新相を示す資料か。214 は、内面にミガキ調整を施す。215 は口縁部のしまりがゆるい。

216～219 は、壺 A-d 類である。内湾しつつ開きながら立ち上がる体部に、短い口縁部がつく。外面調整は、ハケ目、ケズリなどである。218 は、外面にミガキを施す。底部を欠損する。

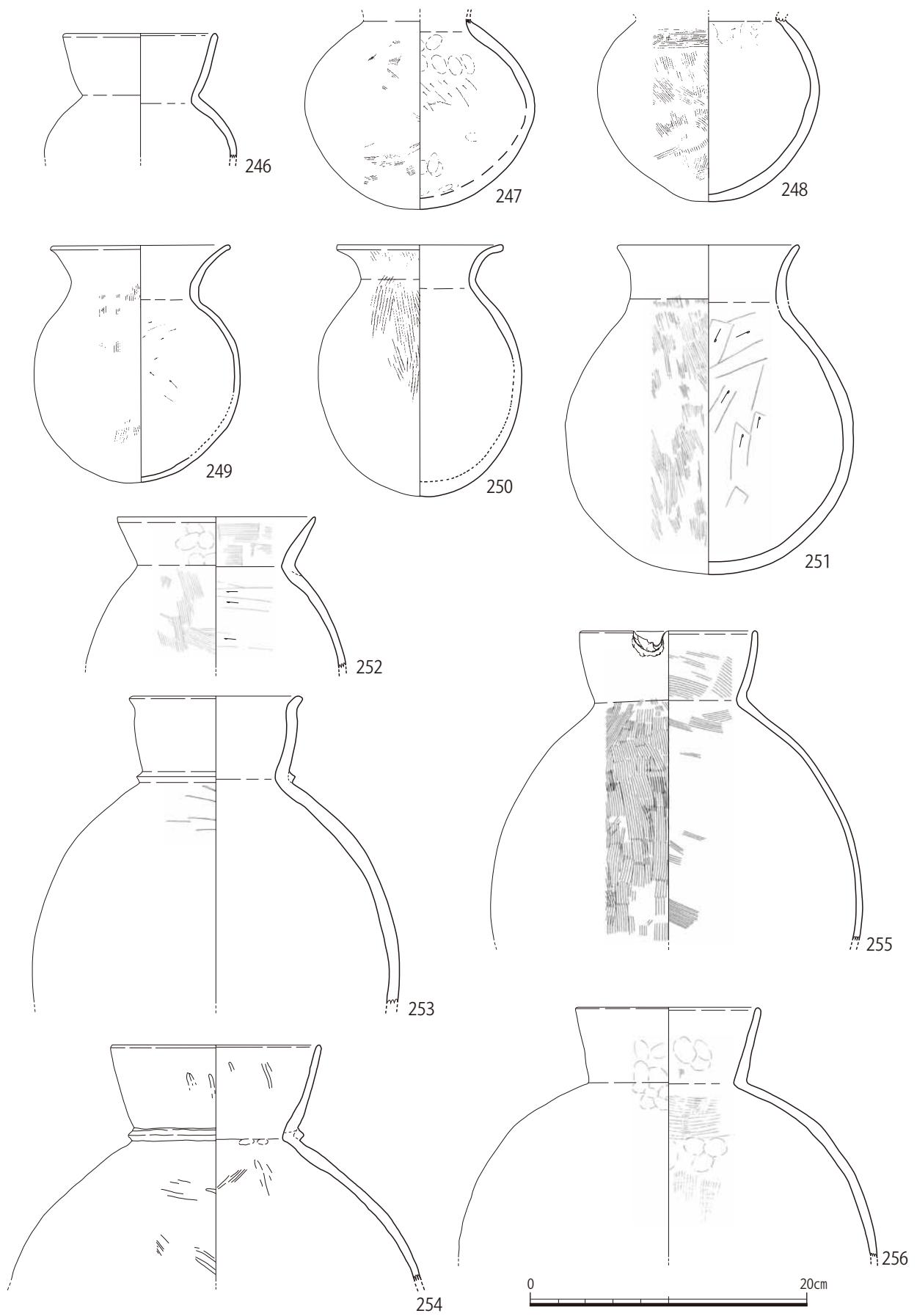
220～222 は、壺 A-e 類である。体部が偏球形で、器高の 1/3 程度の口縁部が直線的に立ち上がり、口縁部径が体部最大径に近いもの。221 は底部を欠損する。220・222 は、外面にミガキ調整を施す。



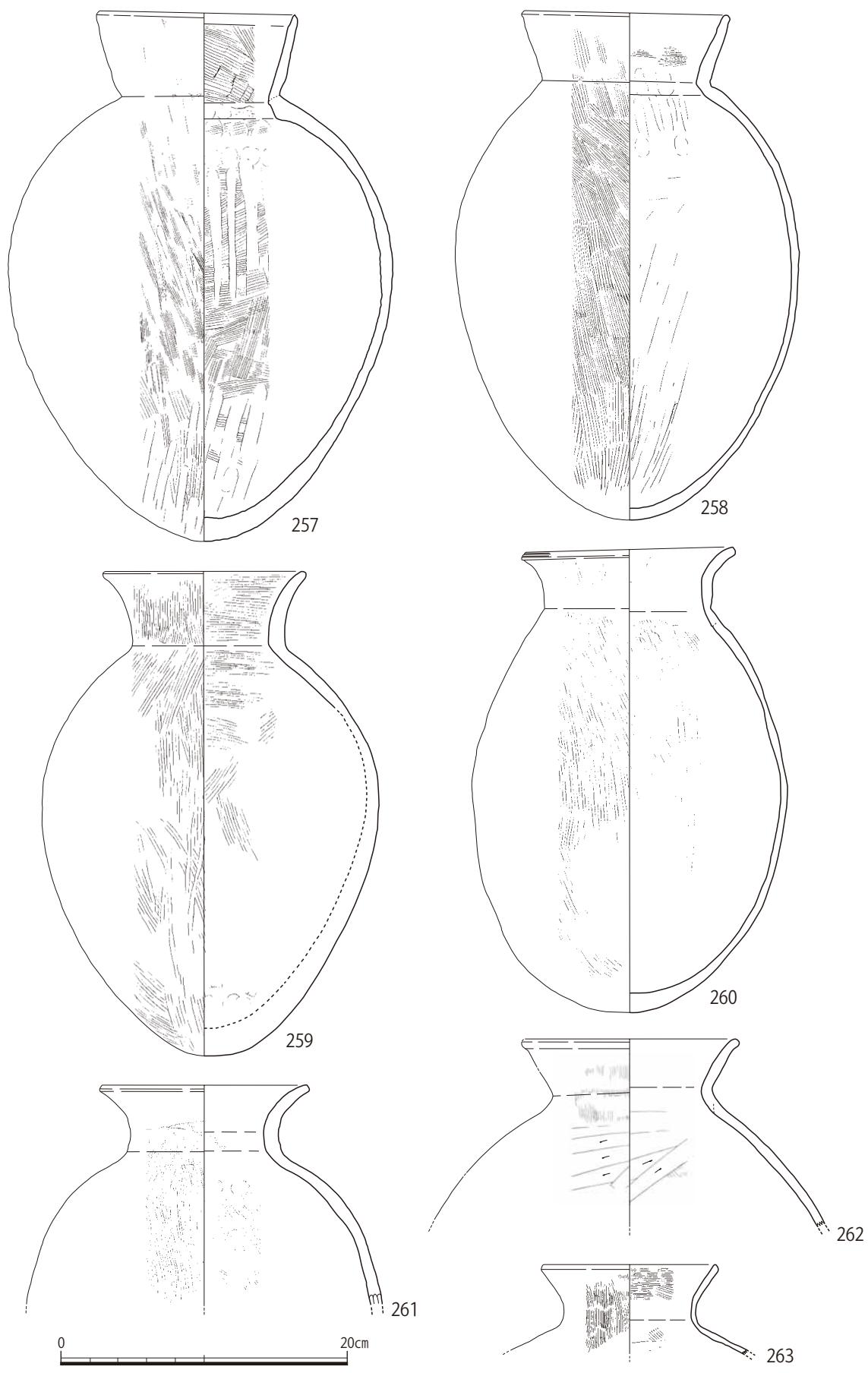
第111図 20SD001出土遺物実測図11 (1/4)



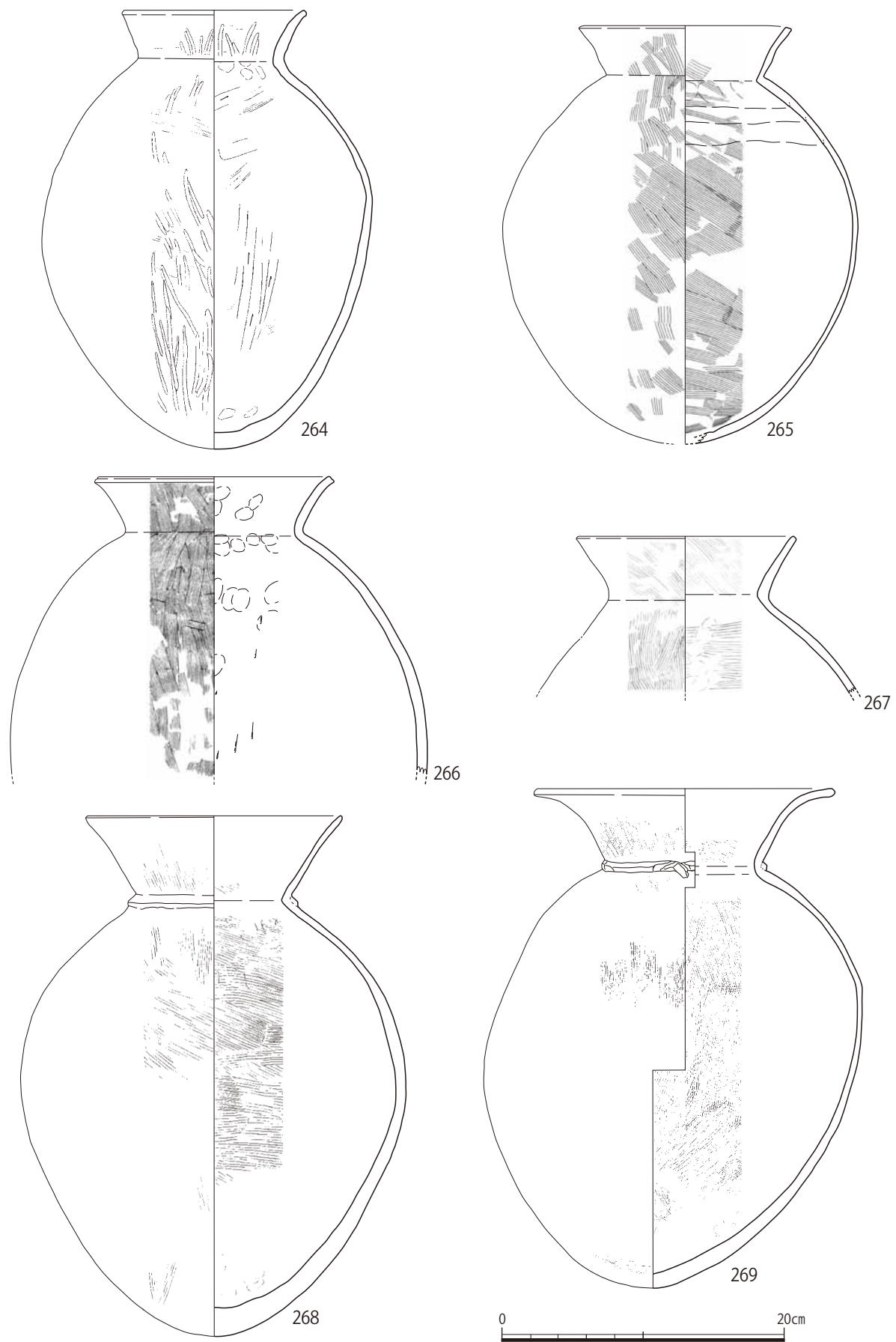
第 112 図 20SD001 出土遺物実測図 12 (1/4)



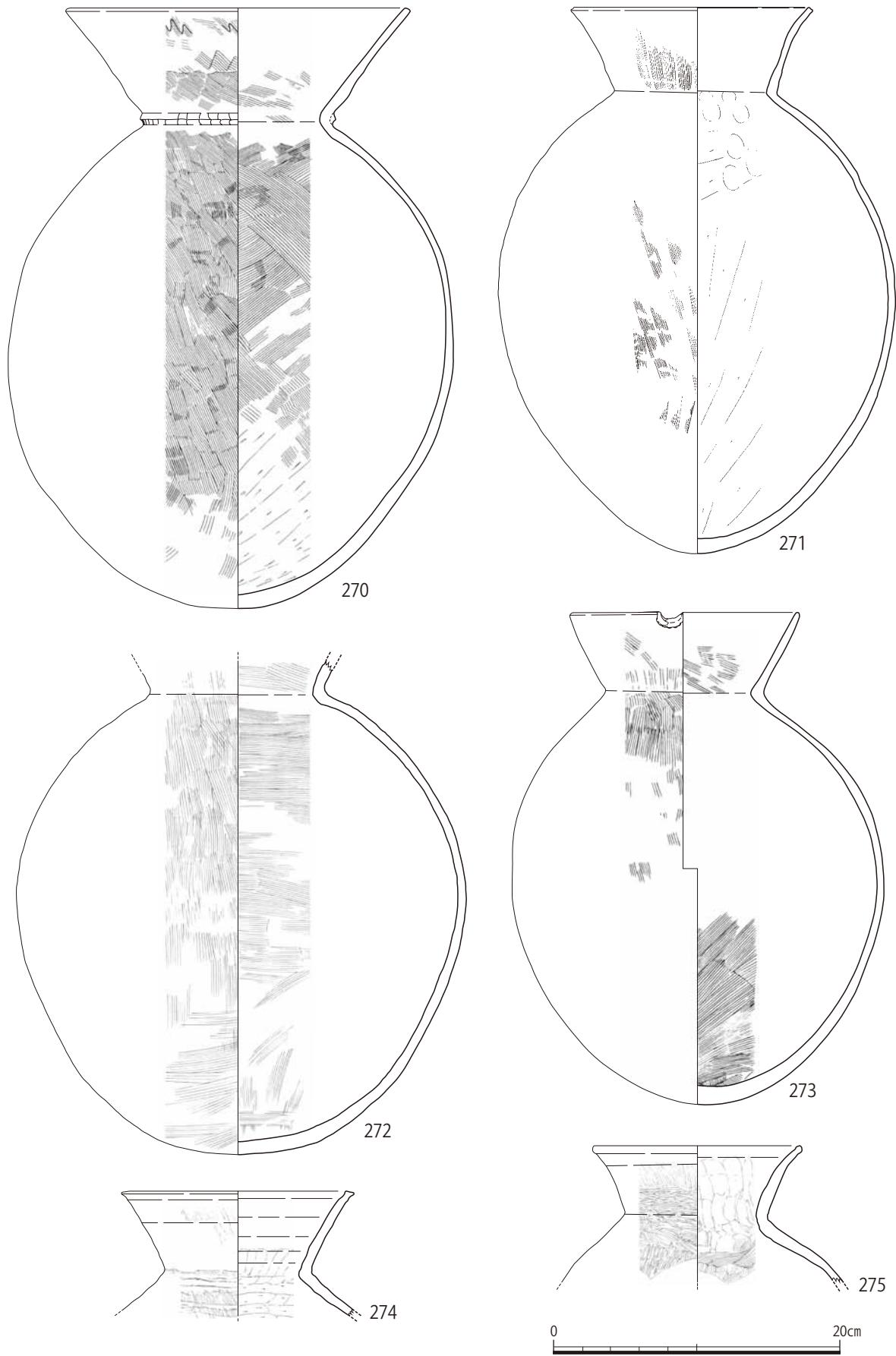
第113図 20SD001出土遺物実測図13 (1/4)



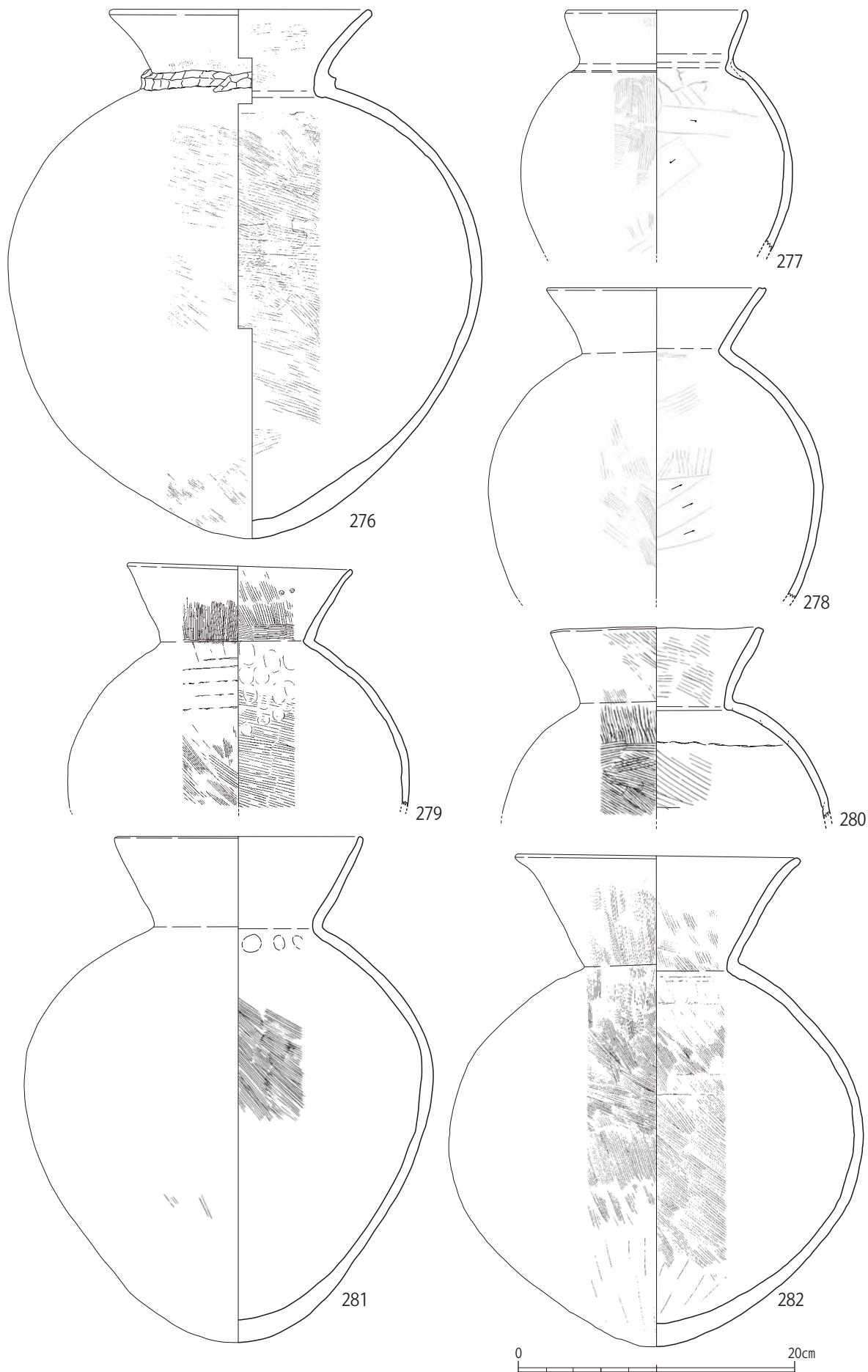
第114図 20SD001出土遺物実測図14(1/4)



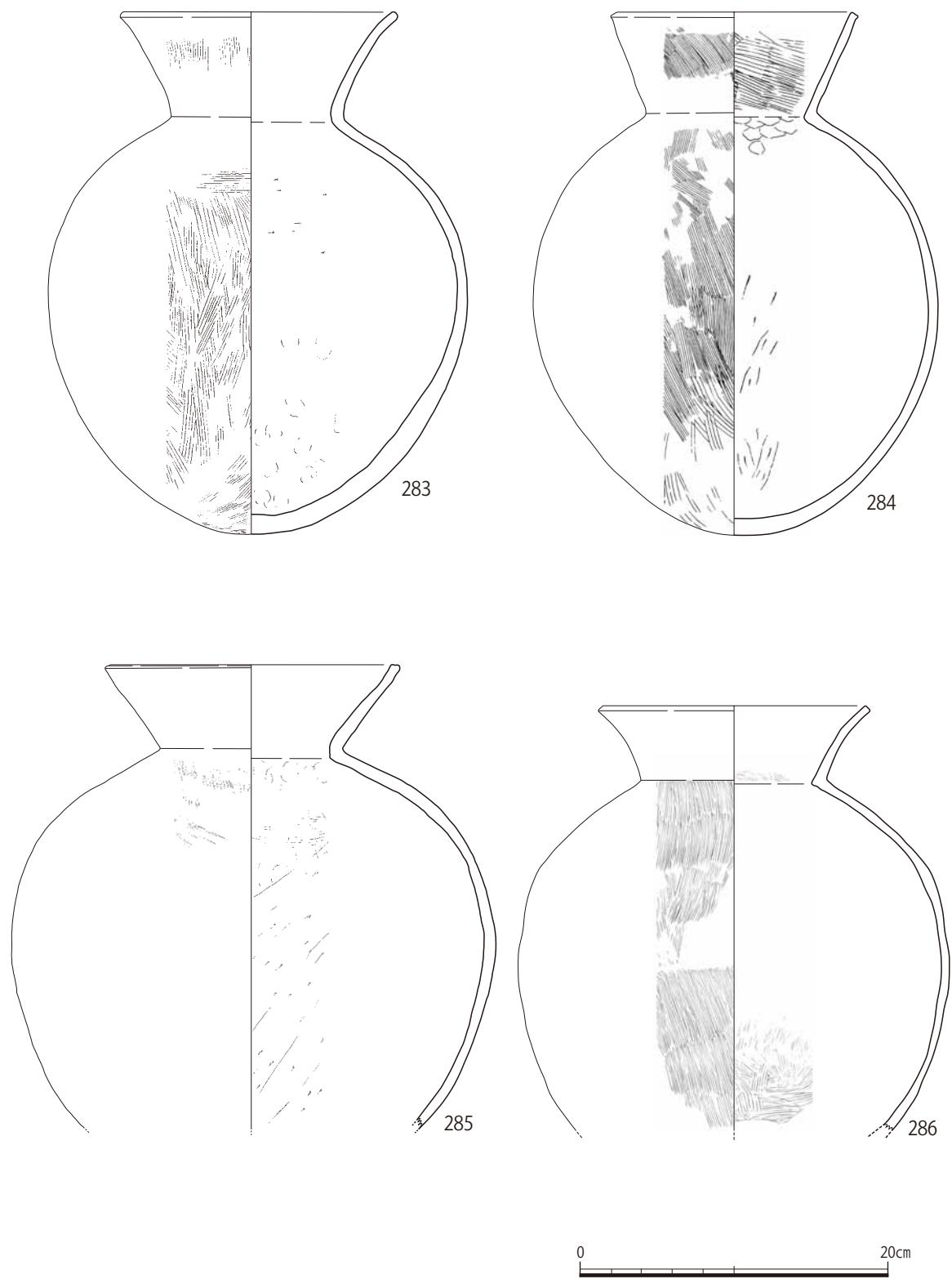
第115図 20SD001出土遺物実測図15 (1/4)



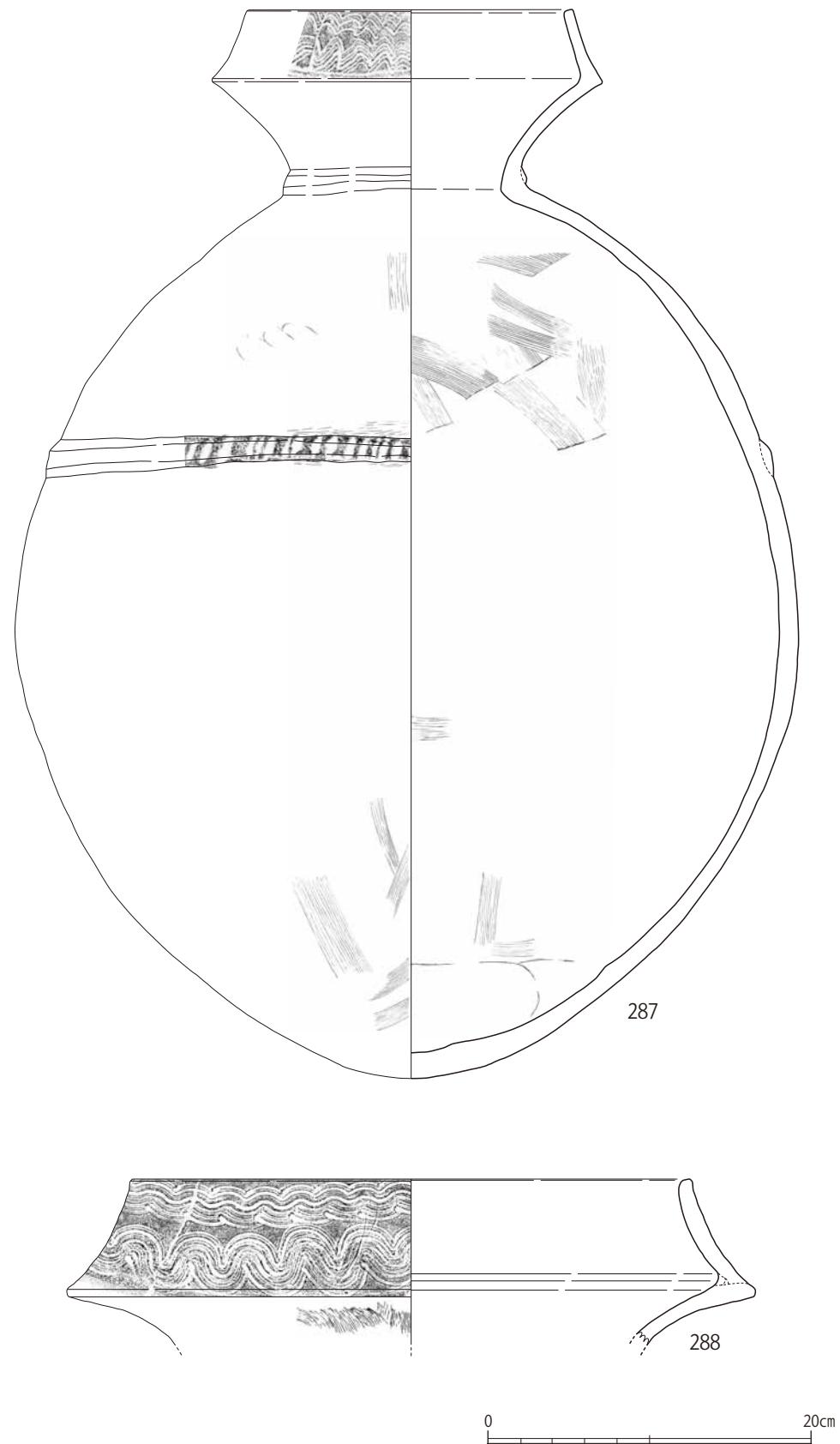
第 116 図 20SD001 出土遺物実測図 16 (1/4)



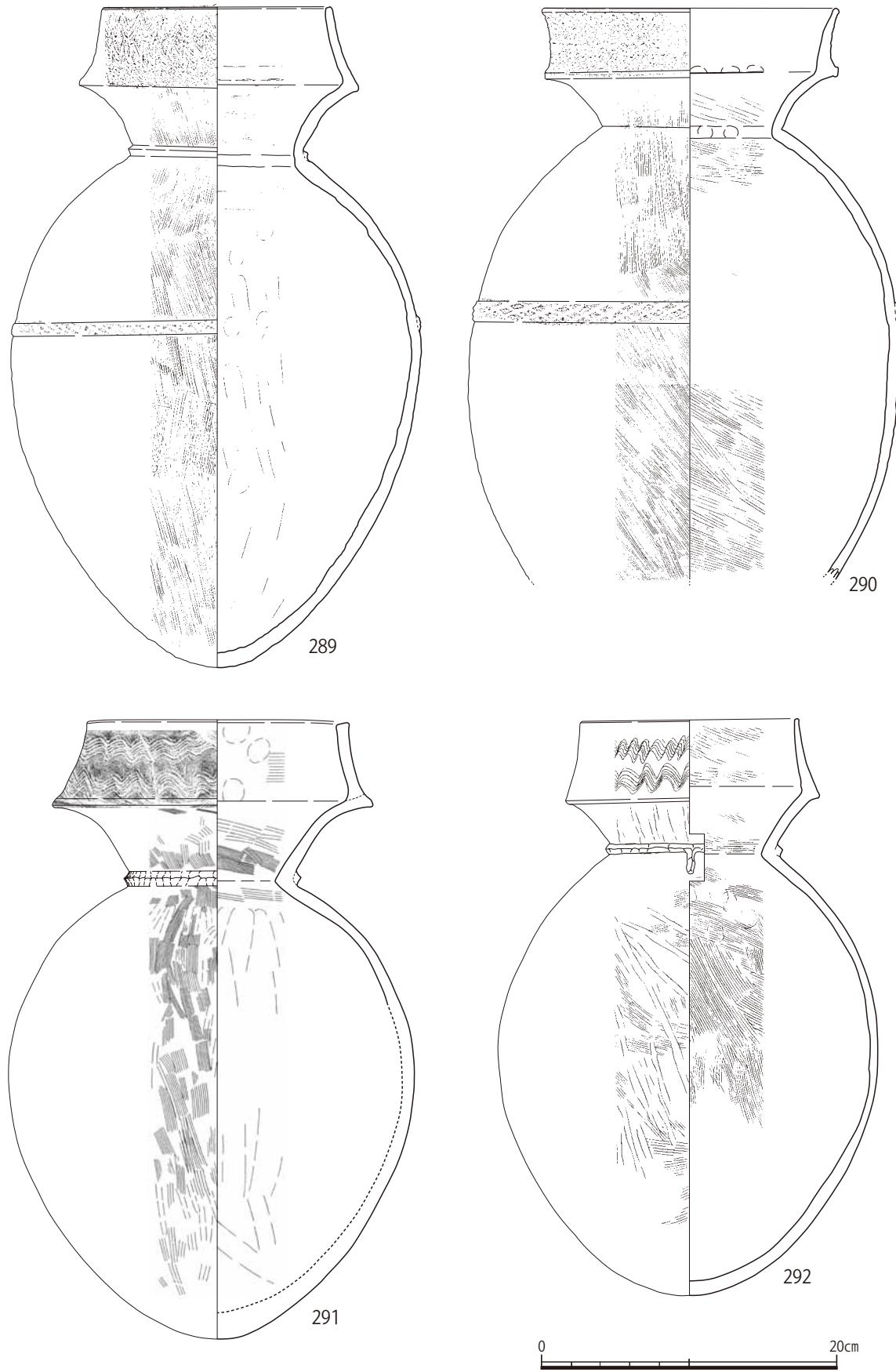
第 117 図 20SD001 出土遺物実測図 17 (1/4)



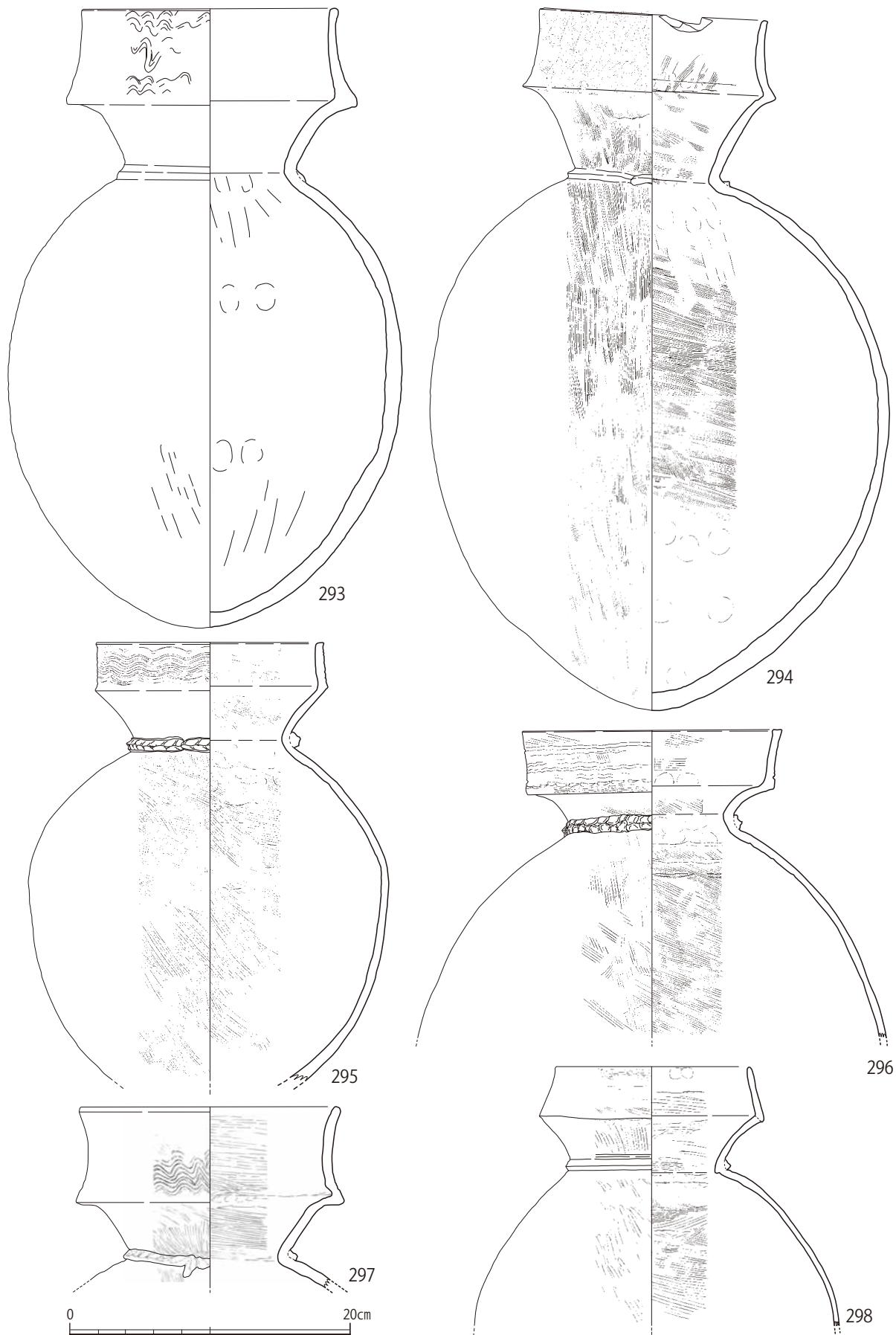
第 118 図 20SD001 出土遺物実測図 18 (1/4)



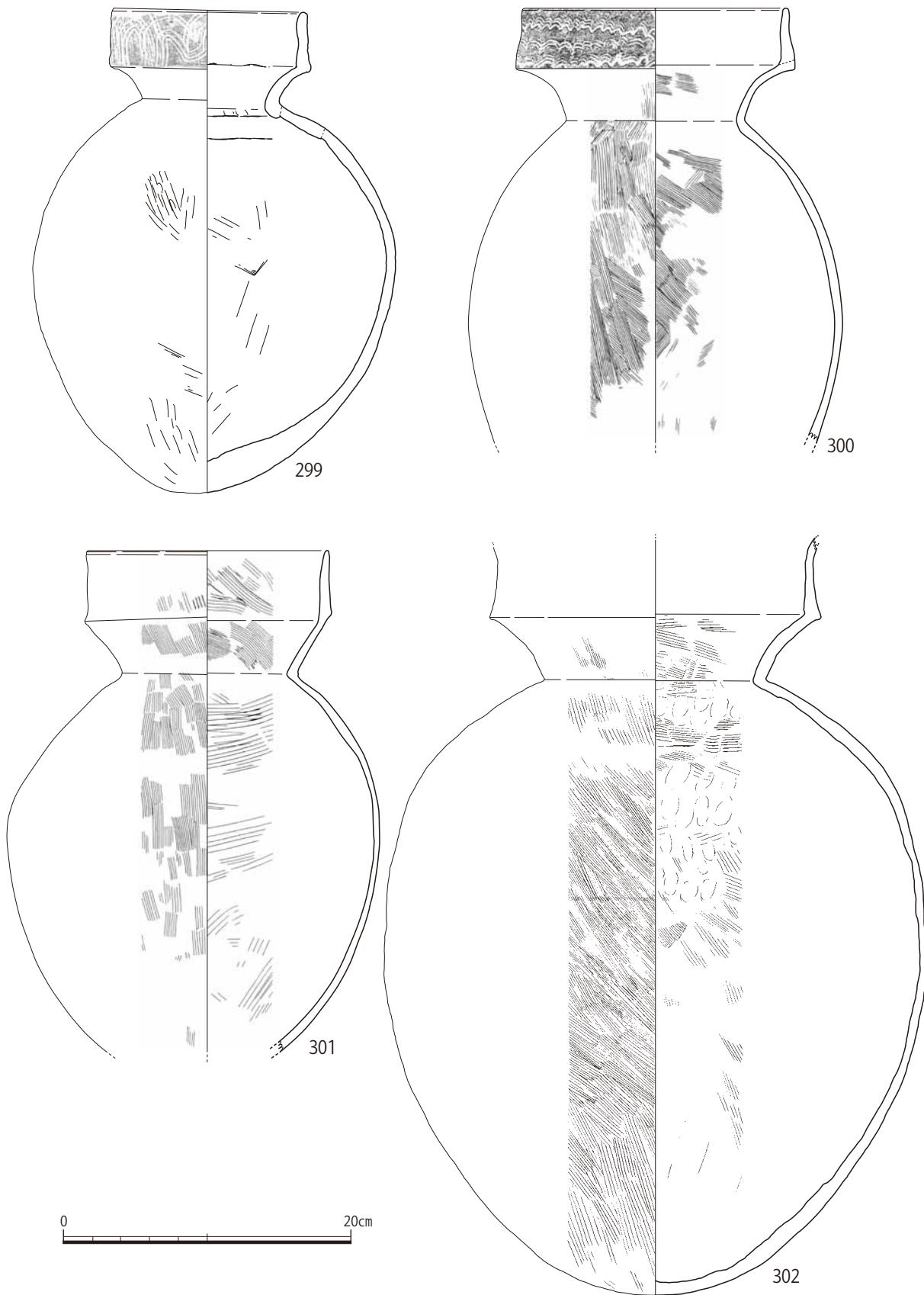
第 119 図 20SD001 出土遺物実測図 19 (1/4)



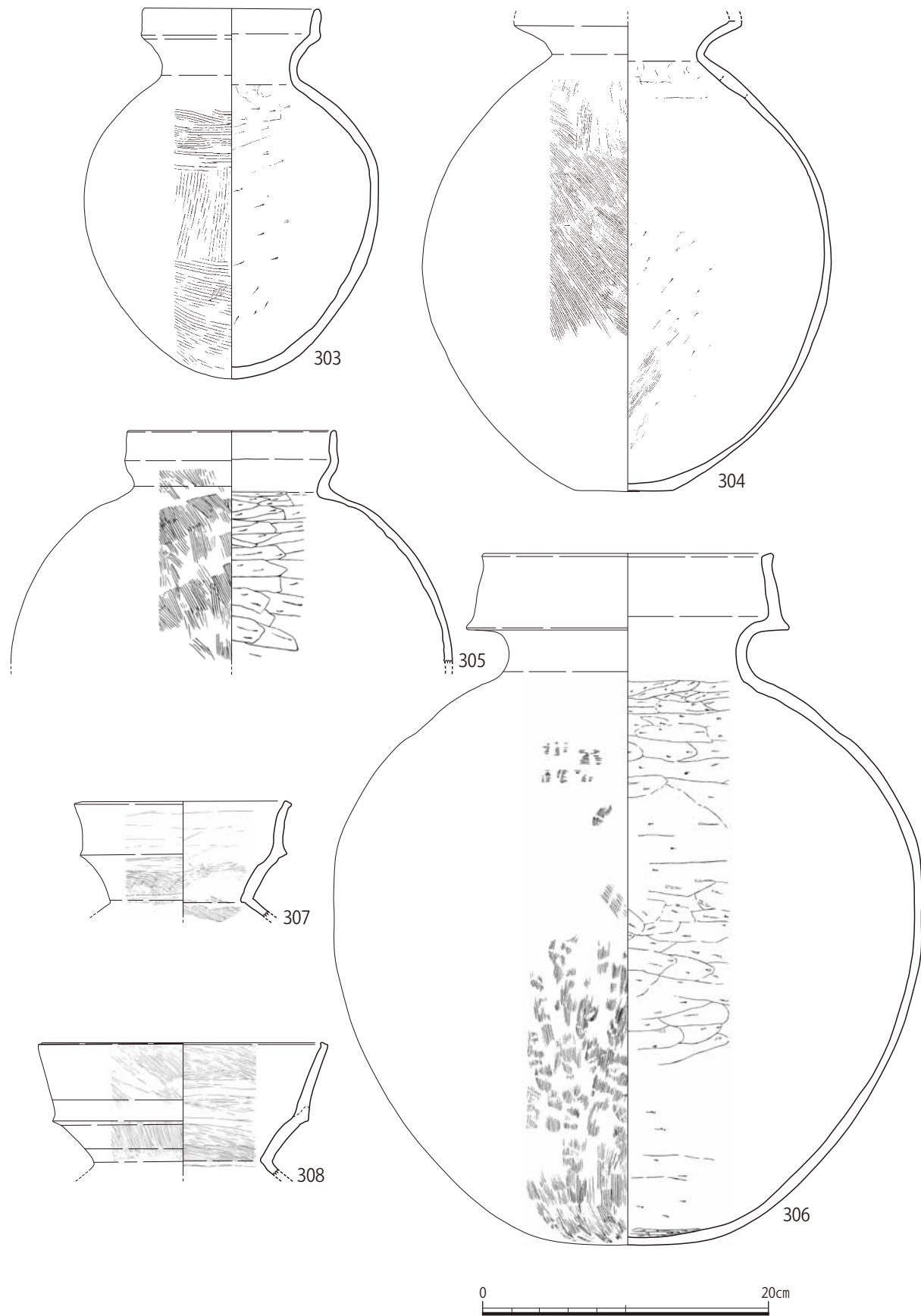
第 120 図 20SD001 出土遺物実測図 20 (1/4)



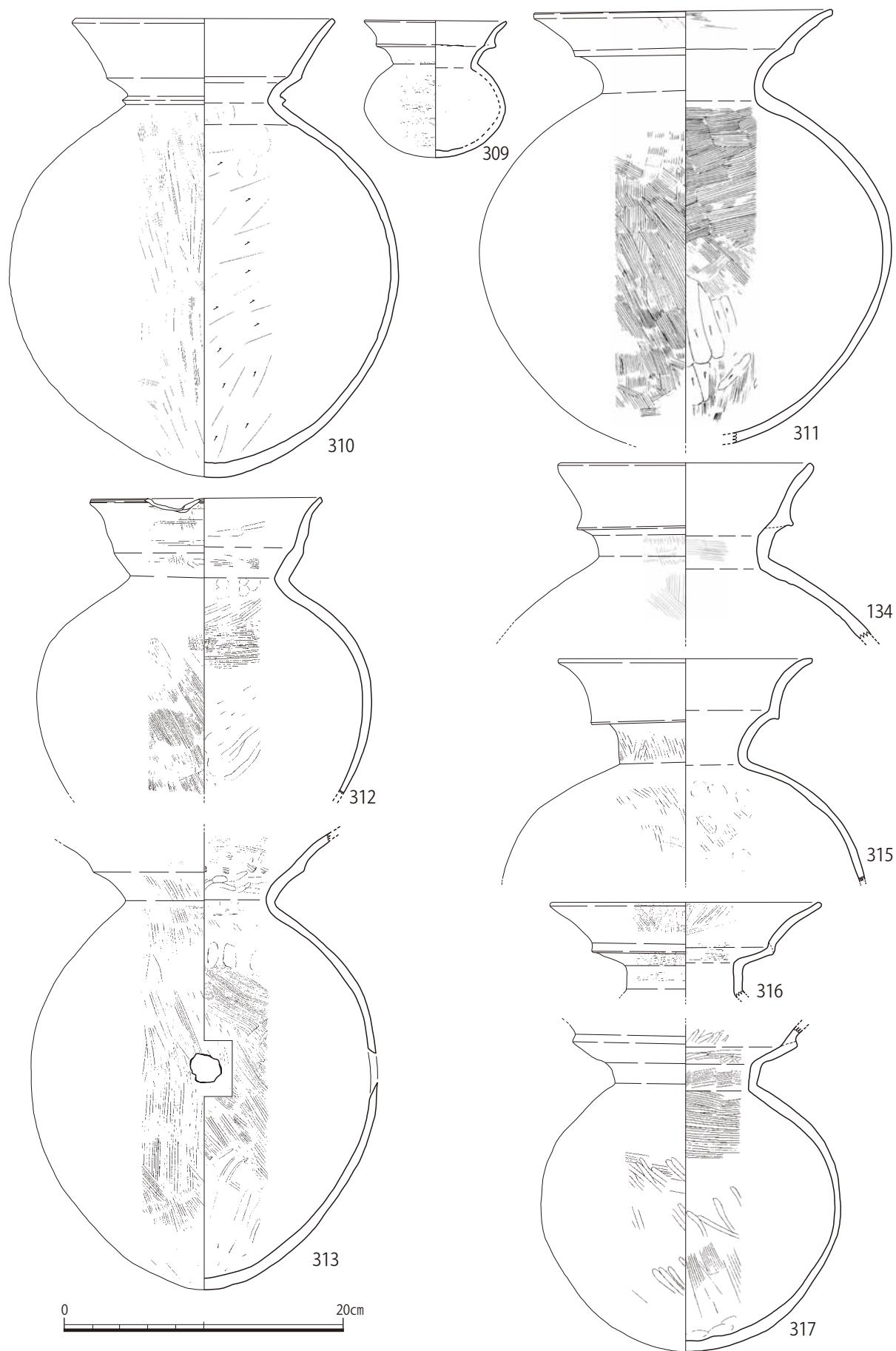
第121図 20SD001出土遺物実測図21 (1/4)



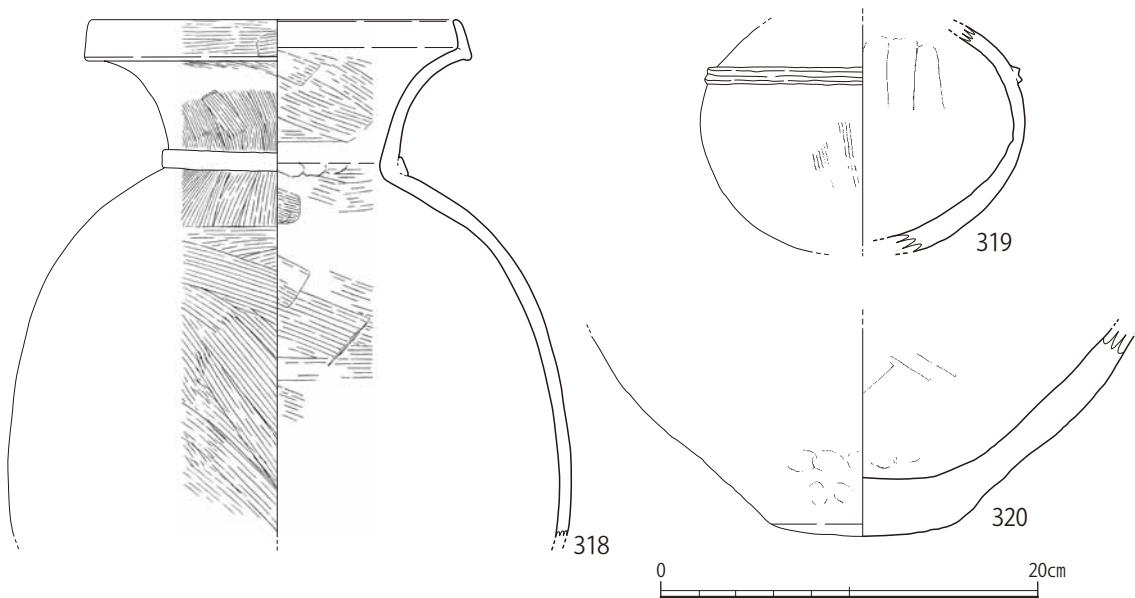
第 122 図 20SD001 出土遺物実測図 22 (1/4)



第123図 20SD001出土遺物実測図23 (1/4)



第124図 20SD001出土遺物実測図24 (1/4)



第125図 20SD001出土遺物実測図25(1/4)

223～227は、壺A-f類である。体部が球形ないし、偏球形で、口縁部が概ね器高の1/4程度で、最大径は胴部にある。224～227は底部を欠損する。外面はハケ目調整がほとんどである。

228～235は、壺A-g類である。内湾しつつすぼまる鉢状の体部に短い口縁部がつく。229が内外面ともミガキ調整で、赤色塗彩を施す。230～232、外面はハケ目調整。231・232は、内面ヘラケズリ。233は、外面ミガキ調整が施される。232はやや大形。235は口縁部を欠損するが、このタイプか。

236～238は、壺A-h類。口径が、器高あるいは胴部最大径より小さい。すべて底部を欠損する。238は、粗い器形調整の資料である。外面にススが付着し、ハケ目調整。内面は工具ナデ。

239～245は、直口壺。器高15cm～22cm程度の資料がほとんどであるが、一部30cmを超える大形の資料が混在する。239・240は、壺B-a類である。口縁部の伸びが短い。240は、口縁端部が外反する。

241～244は、壺B-b類。口縁部の伸びがa類より長い。242は外面に丁寧なミガキ調整を施す。243は口縁部が直立気味に立ち上がり、端部が内湾する。244は大形。底部を欠損する。外面にはススが付着し、ハケ目調整が施される。口縁部に打ち欠きがみられる。245は底部を欠損する。口縁部が直立気味に立ち上がり、内外面には、一部ミガキが施され、接合痕が観察できる。新相を示す資料と考えられる。

246～248は、直口壺の破片資料と考えられる。246は底部を欠損する。247・248は口縁部を欠損する。

249～286は、単口縁壺である。249～267は、壺C-a類。長胴形の胴部に、外反ないし、内湾気味に外方へ開く短い口縁部を持つ。249～251は、25cm以下の小振りな資料。249・251・252は、外面にヘラケズリを施す。253～258は、口縁部が内湾気味に立ち上がる。253・254は、頸部に突帯を有する。底部を欠損する。255は、口縁部に打ち欠きが見られる。257・258は、口縁部の屈曲部分が平坦化している。258は、内面ヘラケズリで器壁が薄く、下半はミガキ調整が施される。259～267は、口縁部が外反する資料。260は、最大径が胴部中位より下位にあり、下膨れの形状を呈す。262は内外面ともヘラケズリ。口縁端部を玉縁状に肥厚させる。264は外面にミガキ調整、内面には、ヘラケズリが施される。265は胴部の球形化がすすんでいる。266は部分的にススが付着し、口縁端部は、面取り風に調整する。

268～275は、壺C-b類である。長胴形の胴部に、壺C-a類より長い口縁部がつく。268～270は、頸部に突帯を有す。268・270が、口縁部が直線的に開くのに対し、269は口縁部が大きく外反する。270の内面下半は、ヘラケズリが施される。やや球形化がすすむ。271は、内面にヘラケズリ。272は、口縁部を欠損するが、内外面にハケ目調整を施す。胴部はやや球形化がすすんでいる。273は、口縁部に3箇所の打ち欠きがある。

274・275は、胴部から下を欠損する。274は、口縁端部を面取り風に調整する。275は、口縁端部を玉縁状に調整する。

276～285は壺C-c類である。球形化のすすんだ胴部に、大きく開く口縁部を有する資料である。276は、尖底気味の資料。頸部には突帯を有する。277は、底部を欠損するが、やや小振りな資料。277・278とも内面にヘラケズリが施される。279は、口縁部に2箇所、刺突文と思われる痕跡が見られる。280は、内外面に赤色塗彩の痕跡が認められる。281は外面がやや粗いナデで調整される。最大径がやや胴部上位にある。282は、外面にススが付着し、内外面ともハケ目調整。底部は尖底傾向である。283は、内面ヘラケズリが施される。284は、外面に赤彩が残るか。ケズリ後ナデ調整。285は、底部を欠損するが、内面にヘラケズリが施される。口縁端部上面に沈線が施される。286は、底部を欠損する。

287～302は、安国寺式タイプの複合口縁壺である。287・289・290は、頸部及び胴部に突帯を持つ壺D-a類である。287は口縁部に比して、器高がかなり大きく65cmを超える大形品である。内傾する複合口縁部には、2段に比較的精緻な櫛描波状文を施文する。色調は内外面とも淡黄色。複合口縁部の様相などは、古相を示していると考えられるが、胴部の球形化がかなりすすんでいることから、古墳時代初頭の所産か。288は、大形の複合口縁部。精緻な櫛描波状文を2段に施文する。289は、内面にヘラケズリが施される。290は、複合口縁部が直立気味に立ち上がる。

291～298は、胴部の突帯を省略する壺D-b類である。複合口縁部は、直立気味に立ち上がる資料がほとんどである。292は、外面にミガキ調整が施される。293は、内外面にケズリ調整が施され、複合口縁部の櫛描波状文はだれた印象となっている。294は、尖底傾向、幅広の櫛描波状文を2段に施文する。297は、複合口縁部の櫛描波状文を省略する。

299～302は、壺D-c類である。頸部及び胴部の突帯を省略する。299は底部がかなり厚い。内面はヘラケズリ。直立する複合口縁部にはかなり崩れた櫛描波状文が施文される。301は、器形調整が粗く、複合口縁部の櫛描波状文を省略する。302は301と同じタイプか。口縁部を欠損するが、器高50cmを超える大形品である。

303～308は、壺D-d類である。外来系（山陰系）の複合口縁壺と考えられる。いずれも内面はヘラケズリが施され、器壁が薄くなっている。305・306は、内面の横方向のヘラケズリが顕著である。306は平底が残る。

309～315は、壺E-a類である。二次口縁と一次口縁の境がスムーズな二重口縁壺である。309は小形。外面はミガキ調整。310は内面ヘラケズリ。311は、内面のヘラケズリが顕著ではない。畿内系の二重口縁壺か。312は底部を欠損する。口縁部に4箇所打ち欠きが見られる。313は口縁部を欠損する。胴部は長胴形である。314・315は、肩部から上の資料。内外面ともハケ目調整が施される。

316・317は、壺E-b類である。頸部が筒状をなし、一次口縁と二次口縁に明瞭な境がある。内外面ともに、ミガキ調整を施し、ケズリを行わない。外来系（畿内系）と考えられる。

318～320は、弥生土器である。318は、複合口縁壺。319は、M字形貼付突帯を胴部に巡らせる長頸壺。320は、壺の底部である。凸レンズ気味の平底が残る。いずれも弥生時代後期終末の所産か。

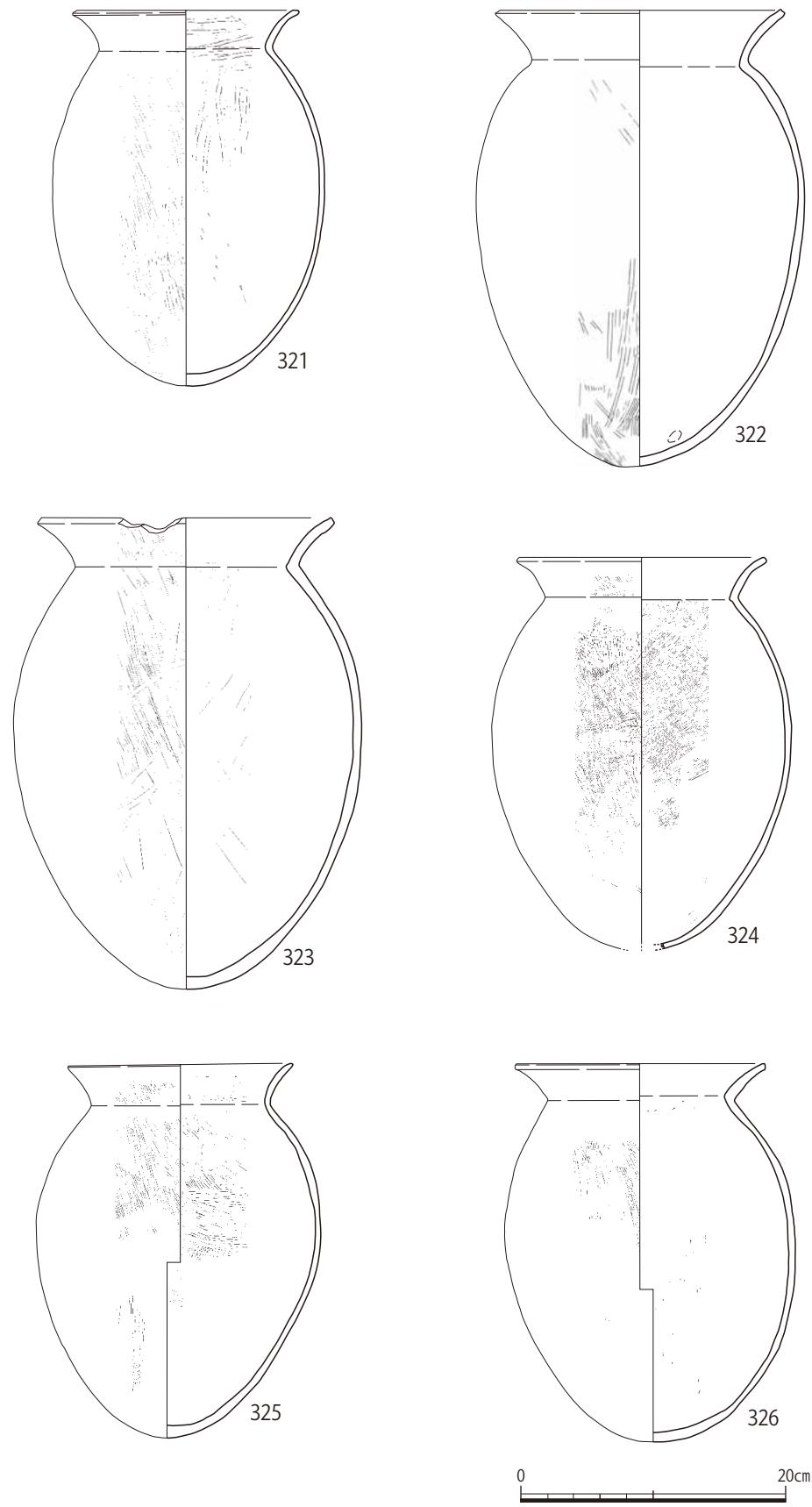
20SD001の資料は、小型丸底壺では、口縁部が伸長して、体部高を凌駕するタイプ（壺A-b類）が多く出土している。なかでも198は、かなり口縁部が伸長し、体部が小さくつぶれている。調整は、精製なミガキ調整を施すものが少なく、なかには外面をヘラケズリで終える資料などが散見される。さらに、いわゆる小型丸底壺を模倣したような調整の粗い資料（壺A-d類）や、口径が器高や、体部最大径より小さいタイプ（壺A-h類）が見られるなど、古墳時代前期中葉でも新相を示していると考えられる。単口縁の壺では、内面にヘラケズリを施す資料が増え、長胴卵形の胴部の壺に混じって球形胴化のすすんだ壺が多い。壺C-a類とした突帯付の長胴壺が残るが、壺の底部は丸底化しているなど、古墳時代前期前葉の新相から古墳時代前期中葉の様相を示していると考えられる。安国寺式タイプの複合口縁壺では、複合口縁部の内傾化が弱く、直線的に立ち上がる資料が多く見られ、胴部にベルト状突帯を貼付する資料のほかに、胴部の突帯及び、頸部の突帯も省略する資料（壺D-c類）が出土。それらの多くは、複合口縁部の立ち上がりが直線的で逆L字状を呈している。中には大分市植田市遺跡

E 区溝 I 資料に類似する、301 のような複合口縁部の櫛描波状文を省略し、器形の粗い資料が存在する。さらに、複合口縁壺の内面にヘラケズリの痕跡がある 299 のような資料が見られるなど、古墳時代前期中葉から古墳時代前期後葉への過渡期的な様相を示していると考えられる。しかしながら、比較的精緻な櫛描波状文を施文する 287・288 のような資料もあり、古墳時代初頭などの古い様相も一定量混じると考えられる。また、外来系(山陰系)の複合口縁壺と思われる土器が一定程度存在する。平底が残り、比較的古相を示すと思われる 306 などの資料も、古墳時代前期前葉の標識となっている大分市守岡遺跡 19 号住居跡出土遺物よりは、新相を示していると考えられる。わずかに出土した弥生土器は、弥生時代後期終末の様相を示している。

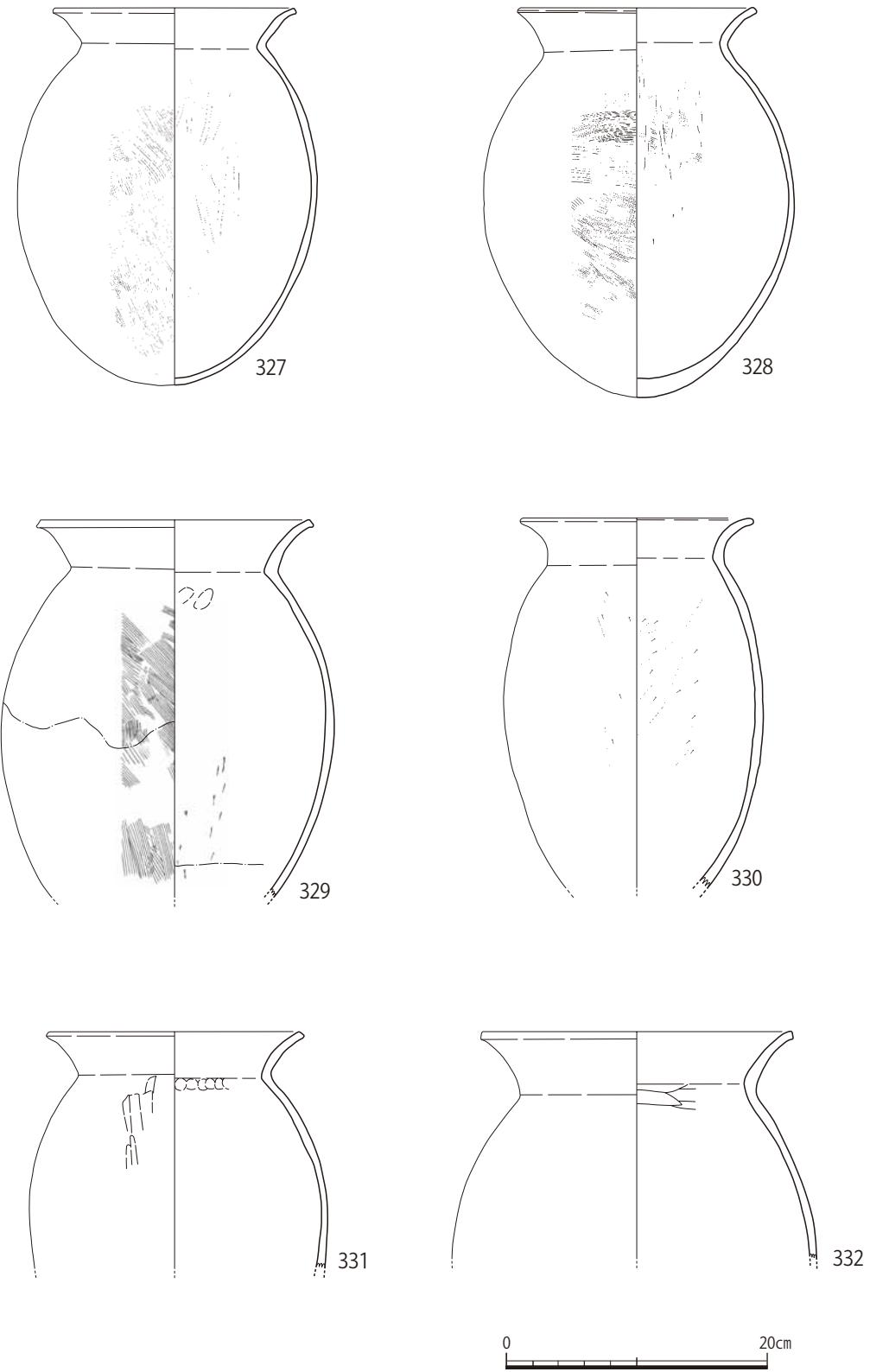
### 甕形土器（第 126 図～第 153 図）

20SD001 出土の土師器甕資料は今回報告する中で一番多く 287 点を数える。ここでは、それらを本稿分類基準に従い記述する。(第 190 図参照)。

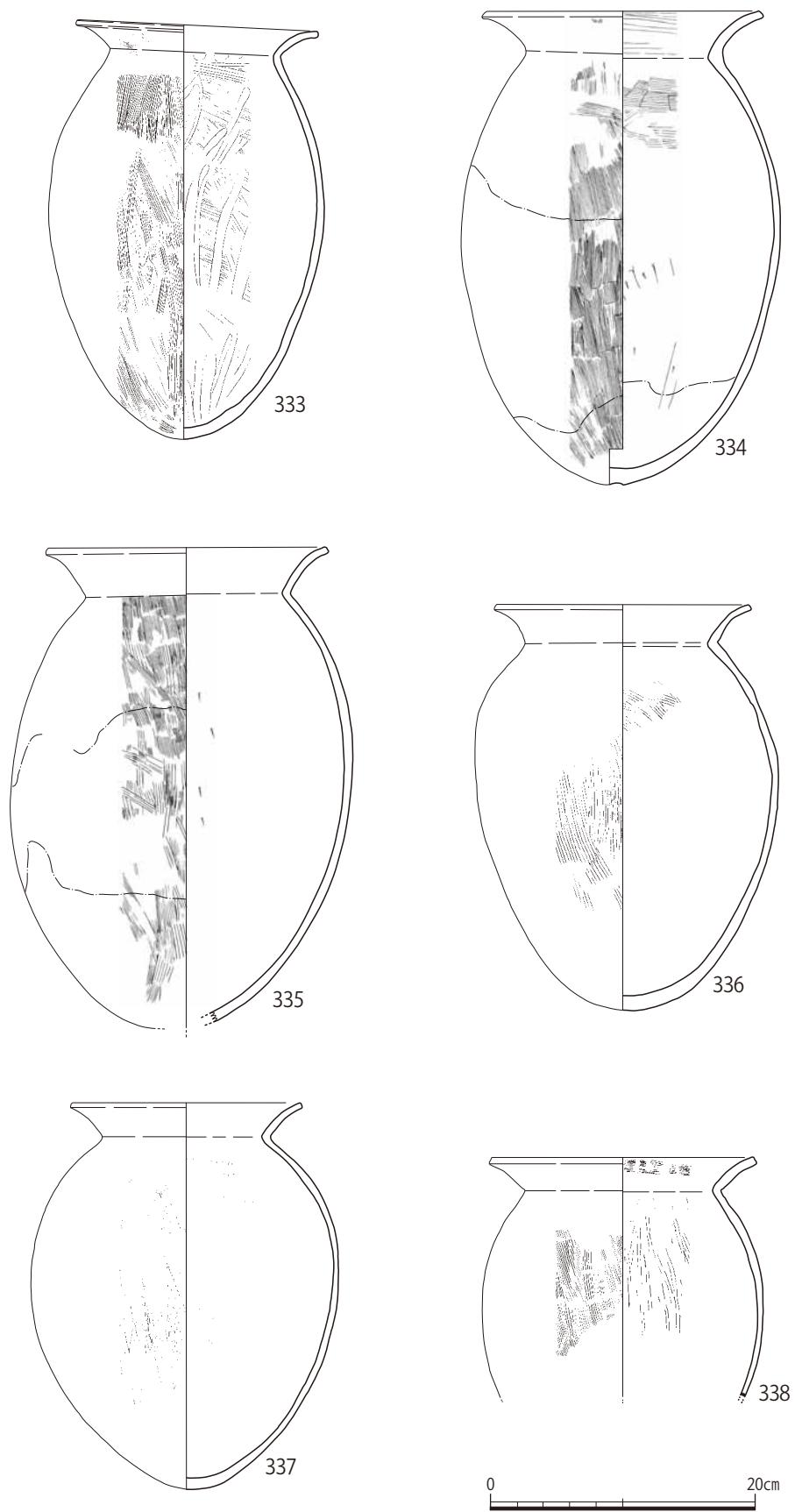
321～349 は大甕 A タイプに属する資料である。器高 29cm 以上、口径 21cm 以上の大型の甕資料であり、球形率が 0.8 未満のものをさす。その中で口縁形状や底部形状によりさらに小分類している。321～325 は大甕 A1-ai に相当する。322 は復元口径 21.8cm、器高 34.4cm、最大胴部径 25.0cm を測る。内面は指オサエ、ナデにより、外面はハケ目により調整される。口縁部は外反し、底部形状は尖底状をなす。肩部に張りが残る資料である。324 は復元口径 18.8cm、最大胴部径 22.6cm を測る。底部をわずかに欠損しているが現存高 29.5cm を測るため大型の甕に分類している。内外面ともに綿密なハケ目により調整され、頸部には明瞭な稜をもつ。326 は口径 18.6cm、器高 28.5cm、最大胴部径 21.9cm を測る。内面・暗褐色、外面・黒褐色を呈し、内面の調整はケズリ、外面はハケ目によるものである。頸部付近から口縁中位が肥厚している。いずれも外来系の手法を取り入れながらも底部状況等には在地色を強く残す資料である。327・328 は大甕 A1-aii の資料である。頸部の締りはゆるく底部は丸底を呈している。330 は長胴タイプの甕であり、在地の甕のフォルムを強調している資料であるが、内外面にはケズリが実施されており、外来系の製作技法が施されている。過渡期の様相を如実に表している資料の一つといえよう。333～337 は大甕 A1-bi に相当する。334 は口径 21.2cm、器高 35.8cm、最大胴部径 24.2cm を測る。内面はケズリ、ハケ目により、外面は綿密なハケ目により調整される。内外面にススの付着も認められる。頸部内面には明確な稜が認められ、底部形状は尖底状を呈する在地系の甕資料である。337 は復元口径 18.0cm、器高 29.2cm、最大胴部径 23.2cm を測る。内外面ともにハケ目により調整される。底部は尖底状を呈している。334 同様に大甕 A1-bi に相当するが球形率は 0.79 と高く在地系の甕の球形化が進展した資料の一つである。339～341 は大甕 A1-bii の資料である。いずれの資料も口縁部が長く伸び、口縁中位より少し上でわずかに外方に屈曲する。頸部の締りは強いタイプである。341 は口径 19.2cm、器高 30.3cm、最大胴部径 24.2cm を測る。内面は胴部中位までケズリが実施されており上半部にはハケ目による最終調整が認められる。外面は縦方向のハケ目により調整される。長胴タイプに分類されているものの、かなり球形化した、外来系要素の強い資料である。342 は口縁形状が直線的に立ち上がり外傾するタイプの大甕 A2 に相当する。内面はケズリ、外面はハケ目により調整される。口縁部は体部をそのまま引っ張りあげたような、だれたつくりである。345～349 は大甕 A2-bi に属する資料である。345 は口径 16.8cm、器高 32.6cm、最大胴部径 21.8cm を測る。頸部は締り、内面は底部から胴上半部までヘラケズリが実施されており頸部付近には指頭圧痕が認められる。外面はハケ目により調整される。346 は口径 16.2cm、器高 34.2cm、最大胴部径 22.7cm を測る。内外面は橙色を呈し、内面はハケ目後ミガキが施され、外面は綿密なハケ目により調整される。どちらも在地系の甕であるが、345 は外来系の要素が入った資料である。350～365 は大甕 B に分類される甕資料である。球形率 0.81 以上であり、胴部が膨らみ球形化の進展した資料が相当する。350 は復元口径 18.7cm、器高 29.1cm、最大胴部径 23.6cm を測る。内面はケズリ、外面はハケ目により調整される。器壁は薄い。351 は口径 20.9cm、器高 32.6cm、最大胴部径 26.7cm を測る。内面・にぶい橙色、外面・淡黄色を呈し、内外面はケズリ後ハケ目により調整される。口縁部は長く伸び口縁端部は面取りされ中央は沈線状の窪みが認められる。353 は底部が



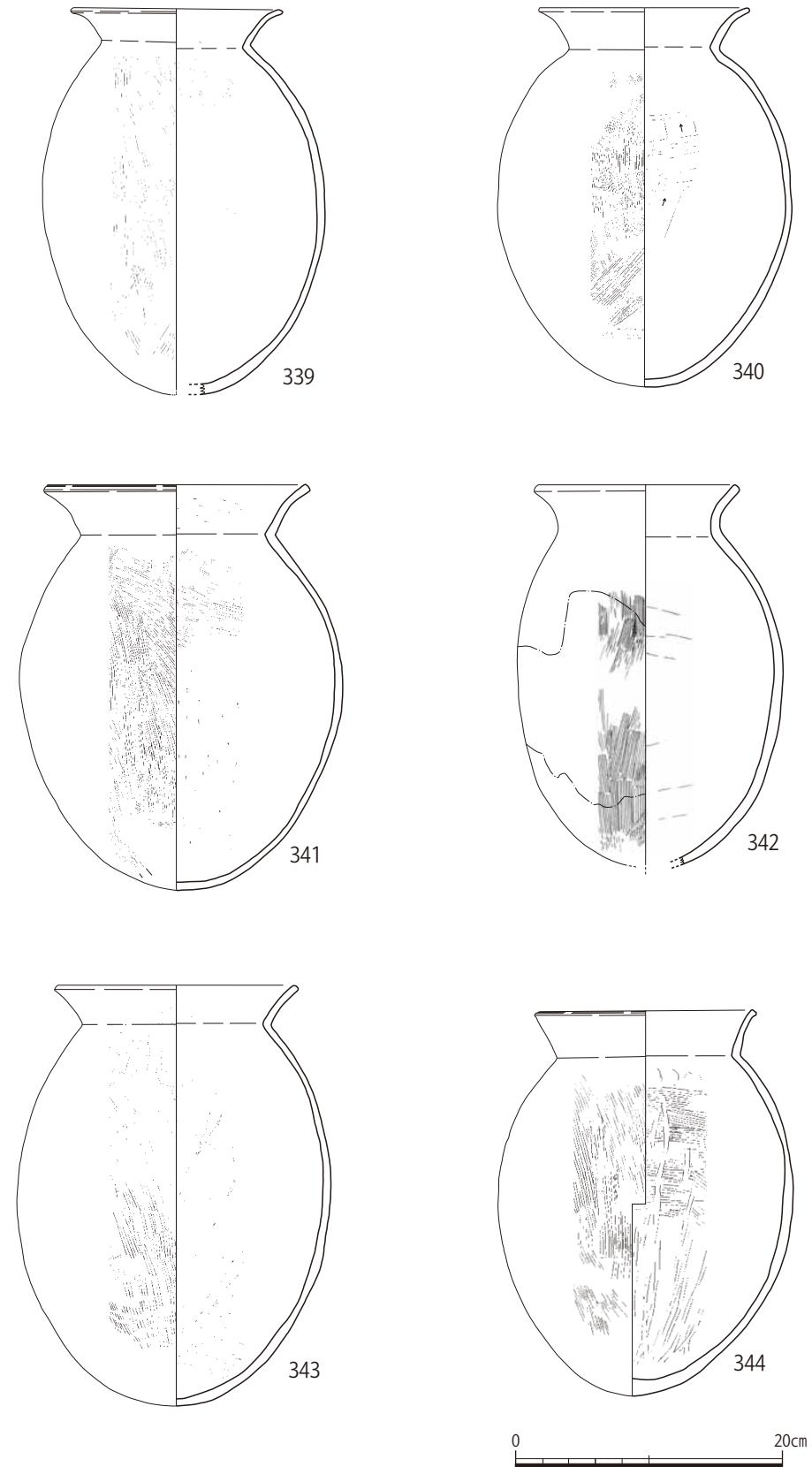
第 126 図 20SD001 出土遺物実測図 26 (1/5)



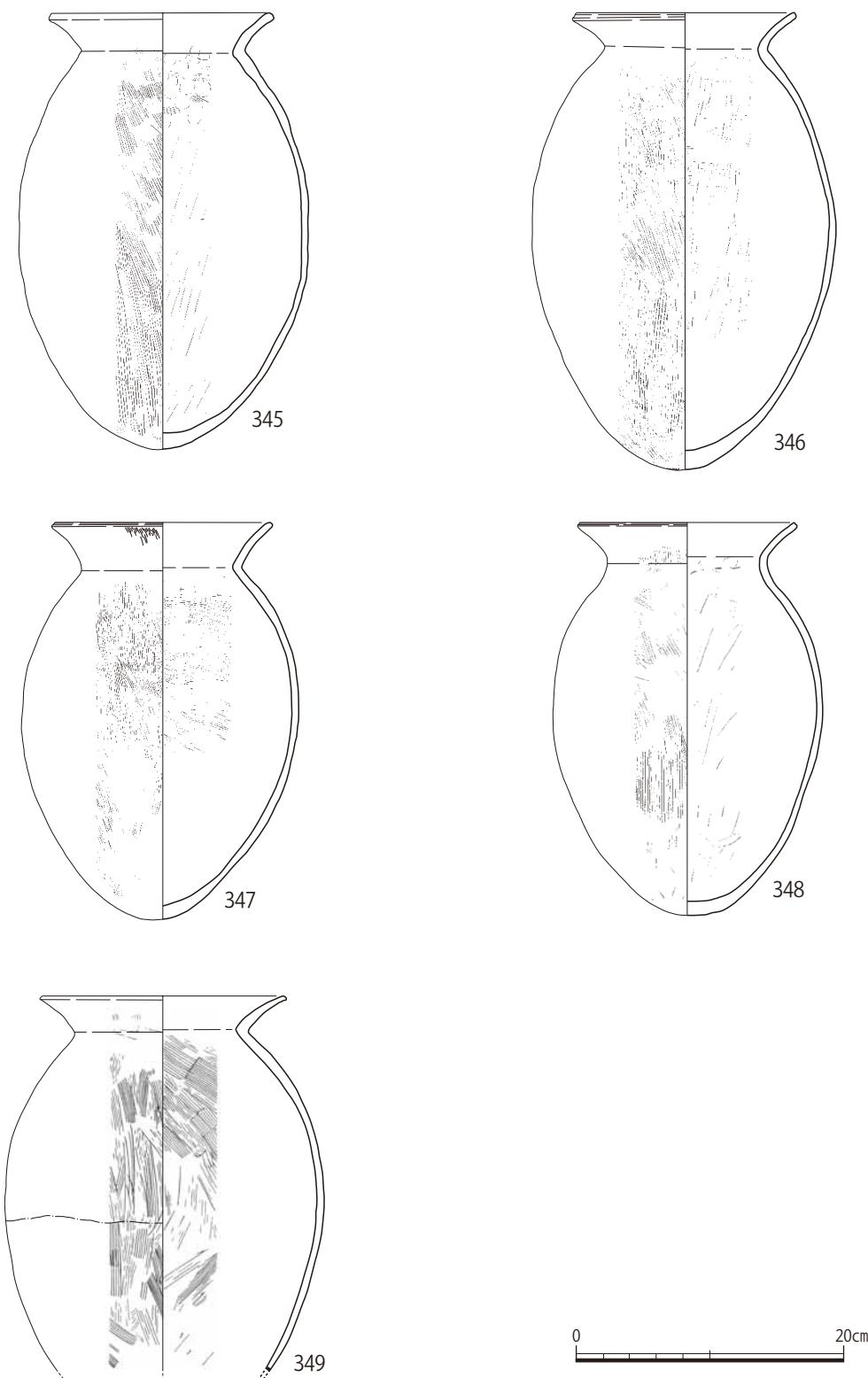
第 127 図 20SD001 出土遺物実測図 27 (1/5)



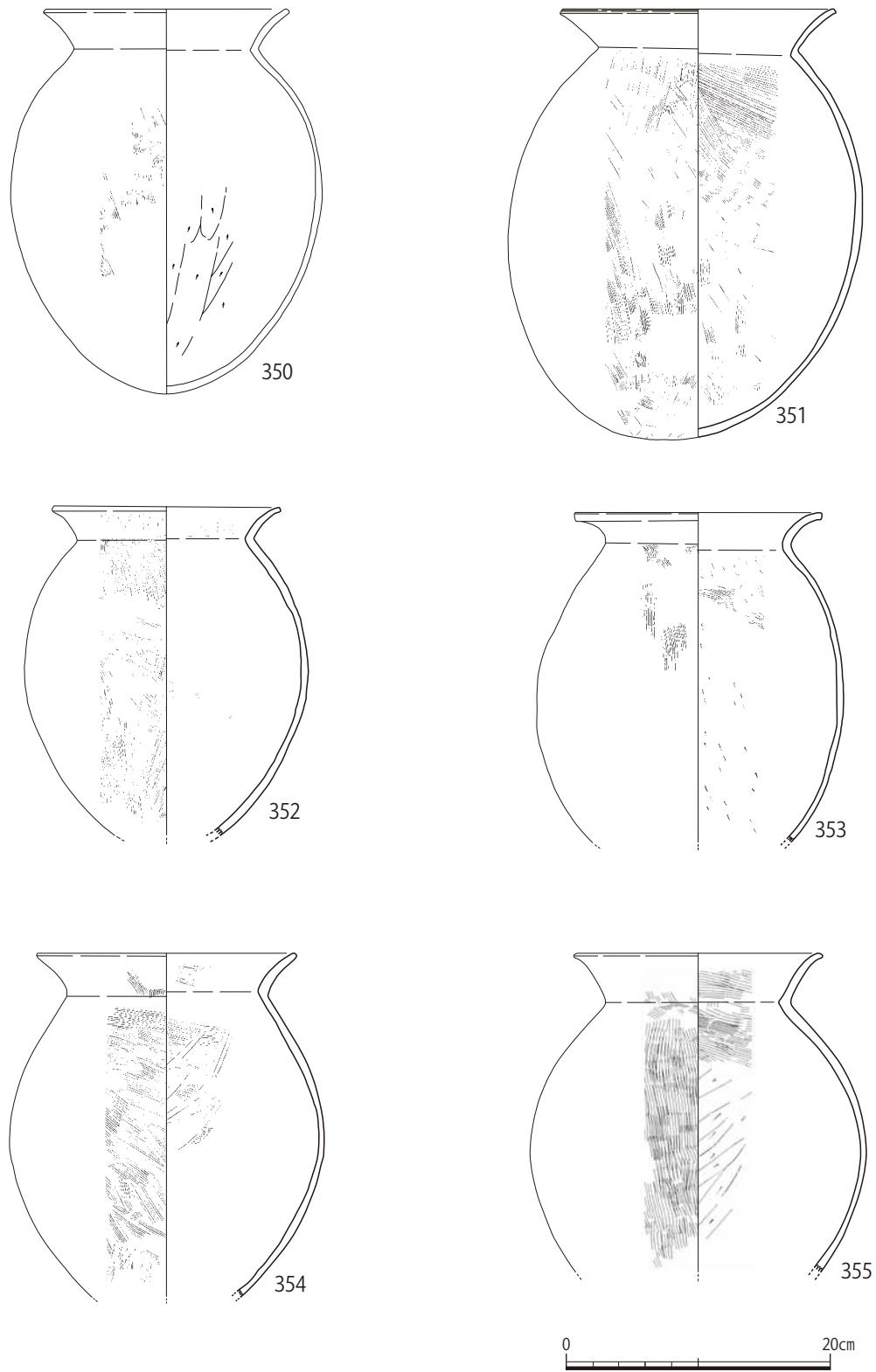
第 128 図 20SD001 出土遺物実測図 28 (1/5)



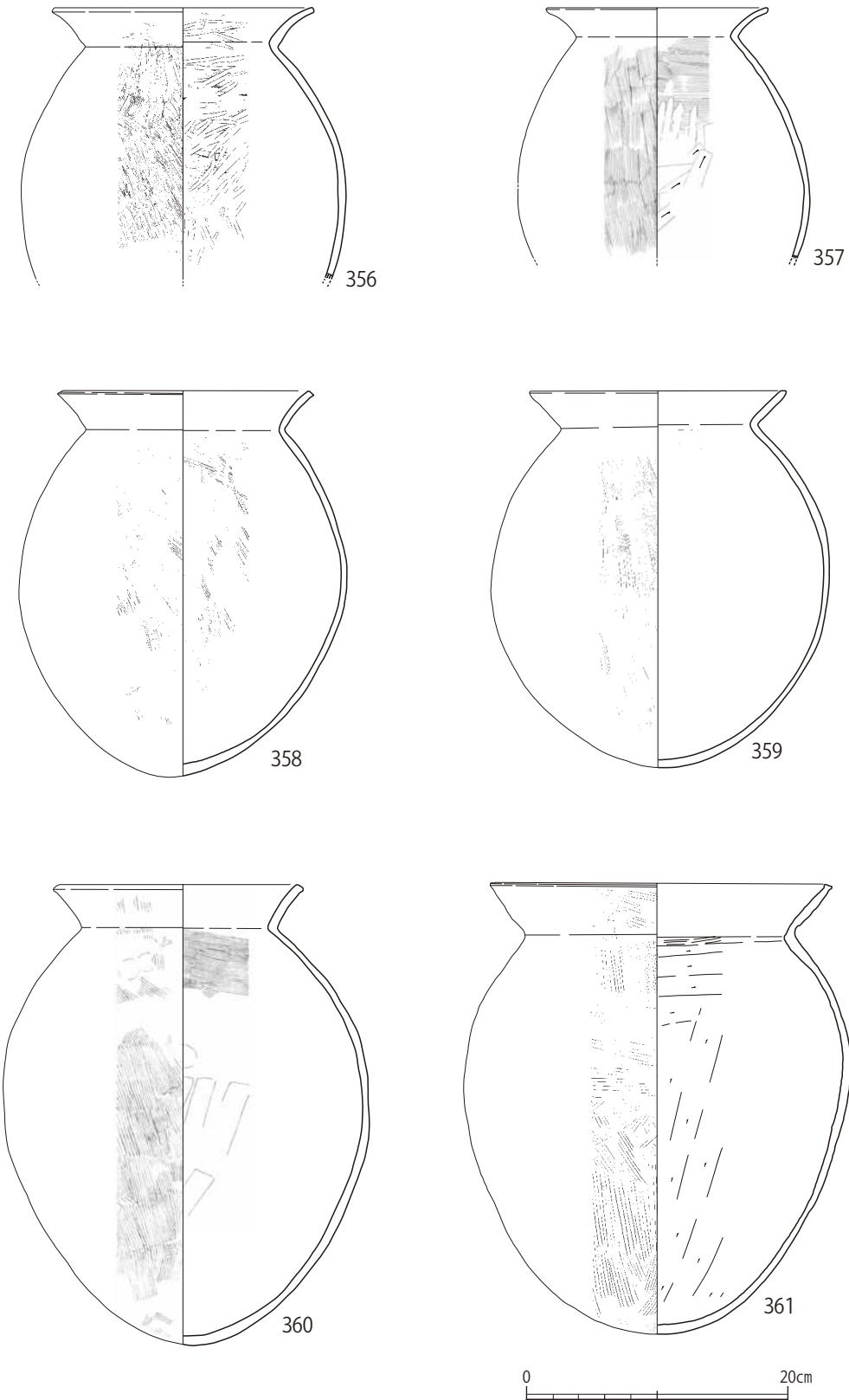
第 129 図 20SD001 出土遺物実測図 29 (1/5)



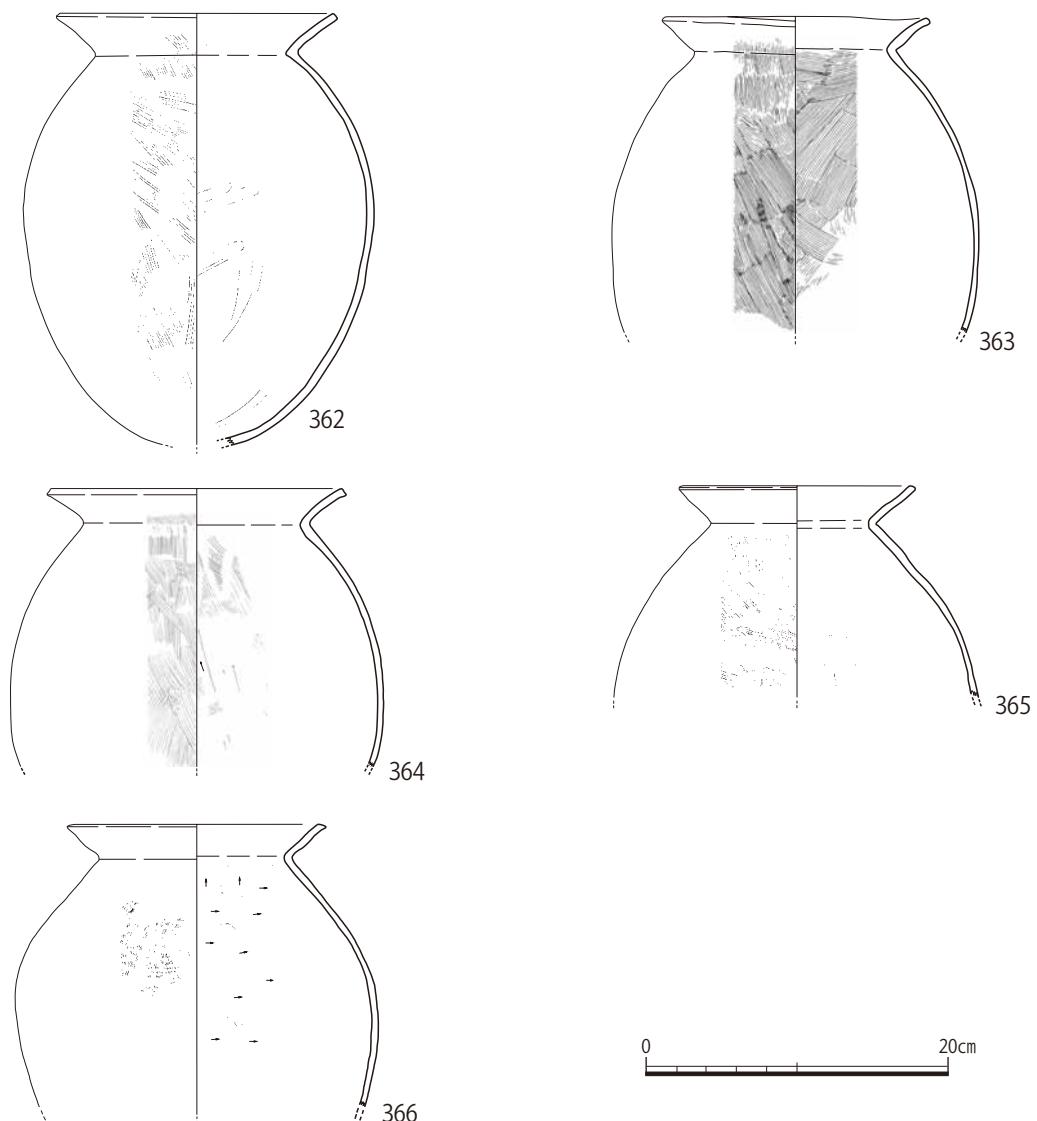
第130図 20SD001出土遺物実測図30 (1/5)



第131図 20SD001出土遺物実測図31 (1/5)

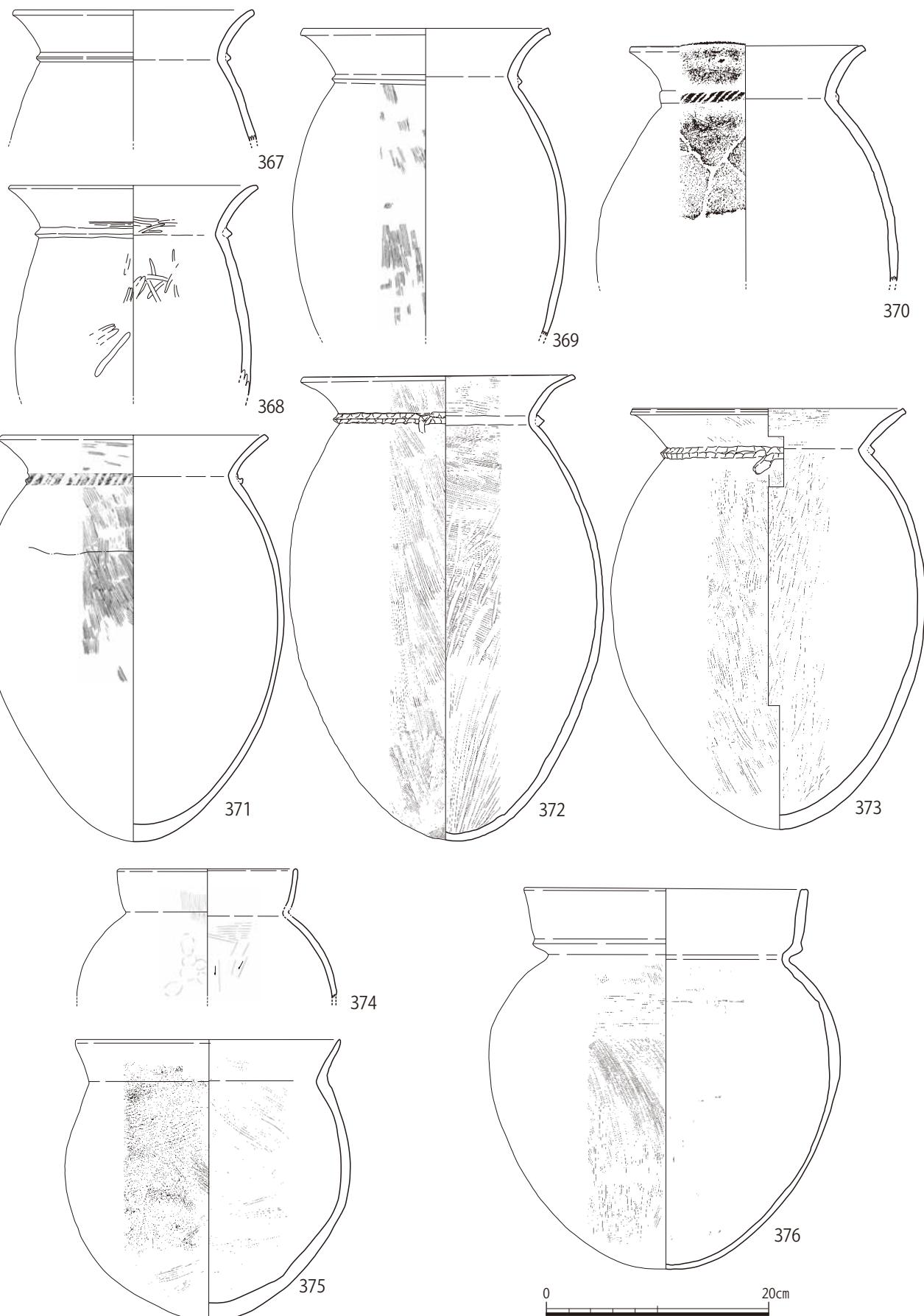


第 132 図 20SD001 出土遺物実測図 32 (1/5)

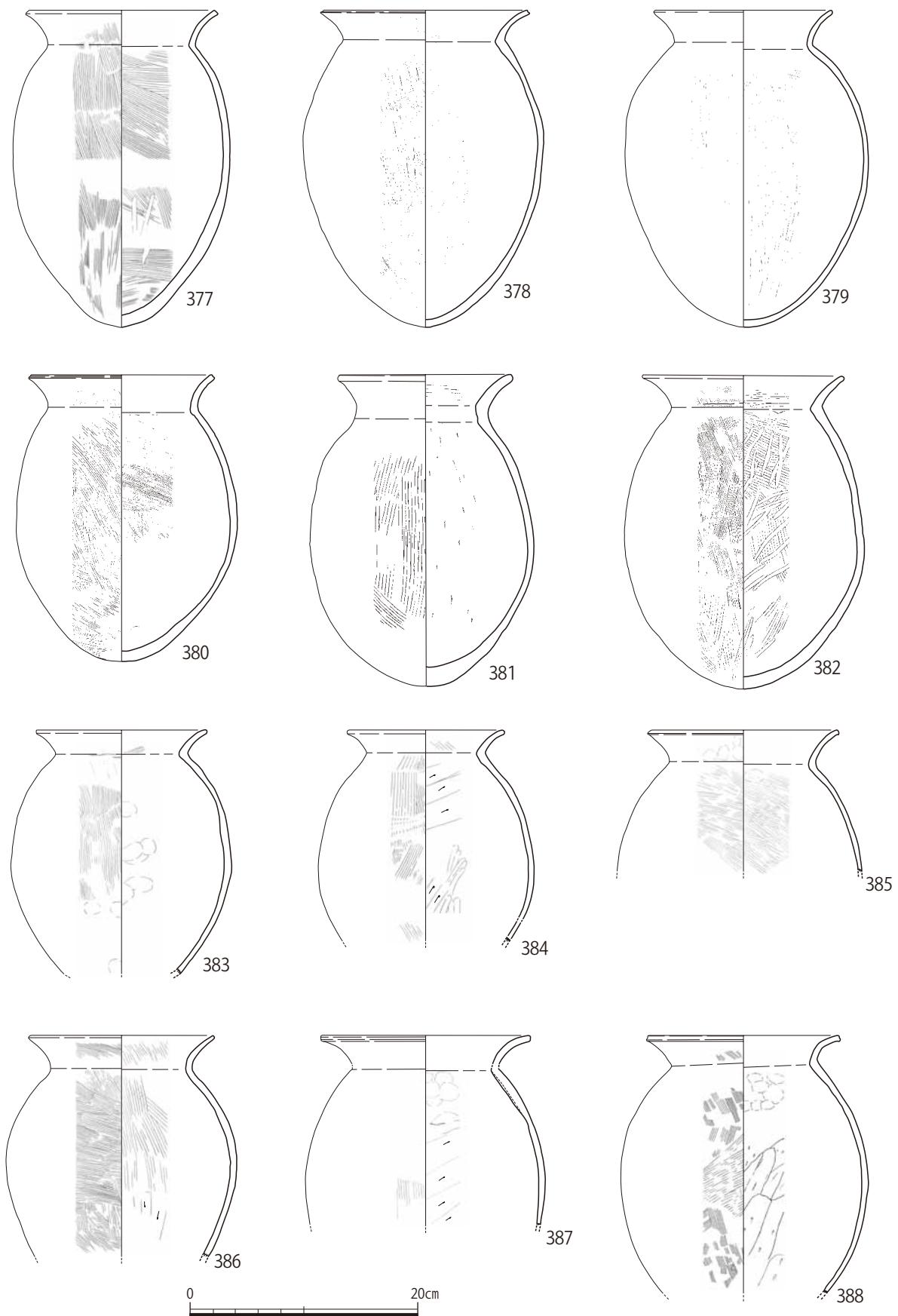


第133図 20SD001出土遺物実測図33 (1/5)

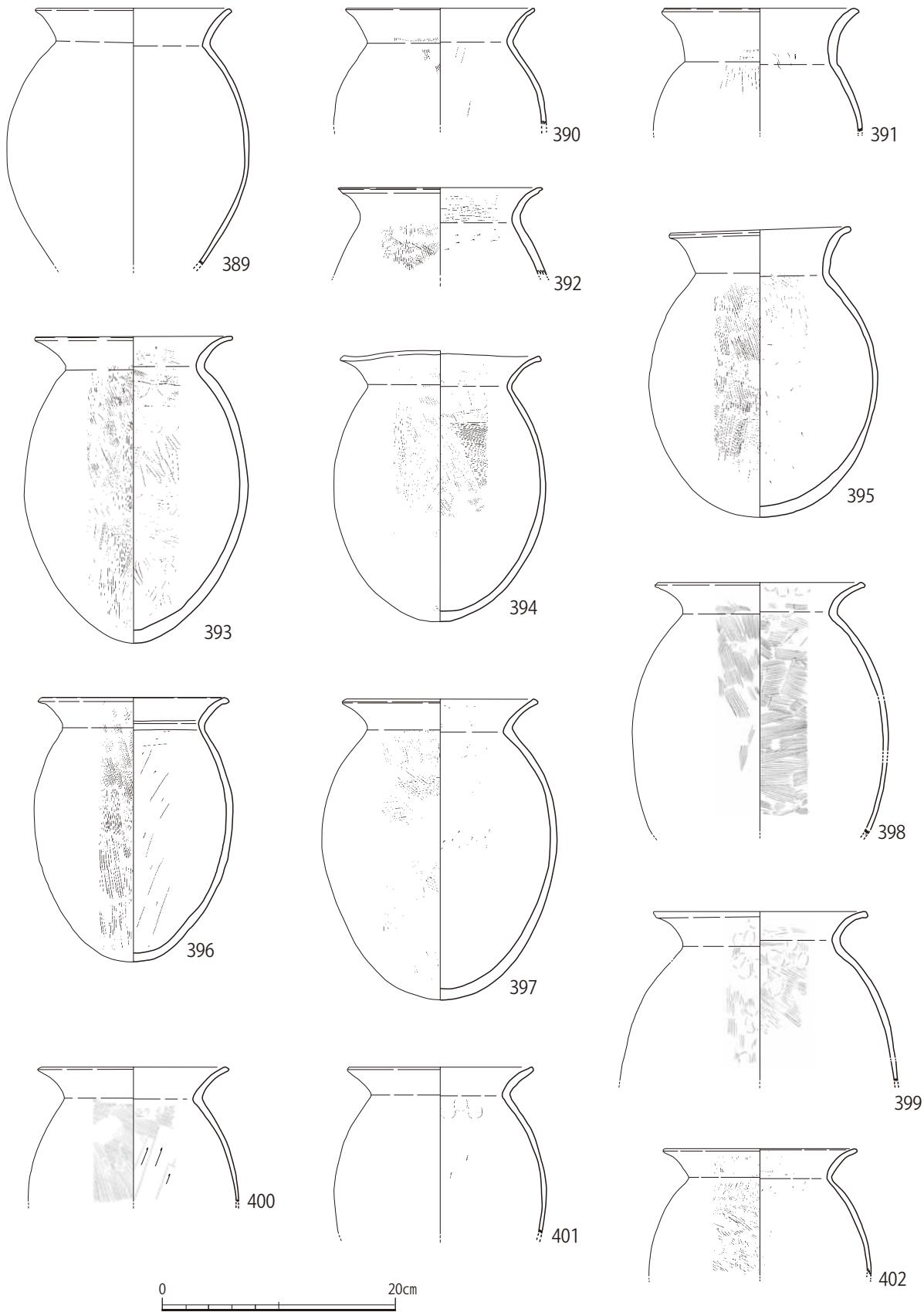
欠損する資料である。内面は頸部直下に指頭圧痕、胴部下半から上半部にかけてヘラケズリが認められる。最大胴部の位置は中位より下位にあり全体にだれた感がある。357の資料も底部が欠損するものであるが353同様に最大胴部の位置が中位より下位にあり下膨れ状のフォルムを呈する資料と推測される。358～361は大甕B2-aiiに相当する資料である。361は口径26.0cm、器高34.5cm、最大胴部径29.4cmを測る。内面・橙色、外面・浅黄橙色を呈す。内面はケズリ、外面は縦方向のハケ目の後横方向のハケ目が実施される。頸部付近は肥厚し、口縁端部はツマミ上げされた後面取りされている。362は大甕B2-biiに分類される資料である。口径18.5cm、最大胴部径23.2cmを測る。口縁部は直線的に立ち上がり外傾する。頸部は明確に稜を持つ。底部は欠損しているが丸底を呈するタイプと推測される。365および366は胴部下半が欠損しているが肩部の形状や口縁部の処理等明らかに布留式系甕を模倣した甕資料である。367～373は突帯の貼付けされた資料である。弥生時代後期終末前後の資料と考えられるものである。369は三角様の突帯が頸部にめぐり、内面はナデ、外面はハケ目により調整される。371は口径24.3cm、器高36.6cm、最大胴部径26.8cmを測る。内面はナデ、外面はハケ目により調整され、スヌの付着も認められる。頸部には斜方向に刻み目の入った突帯が以一条巡っている。372は口径24.6cm、器高41.9cm、最大胴部径28.3cmを測る大形の甕資料である。内面はハケ目後ミガキ、外面



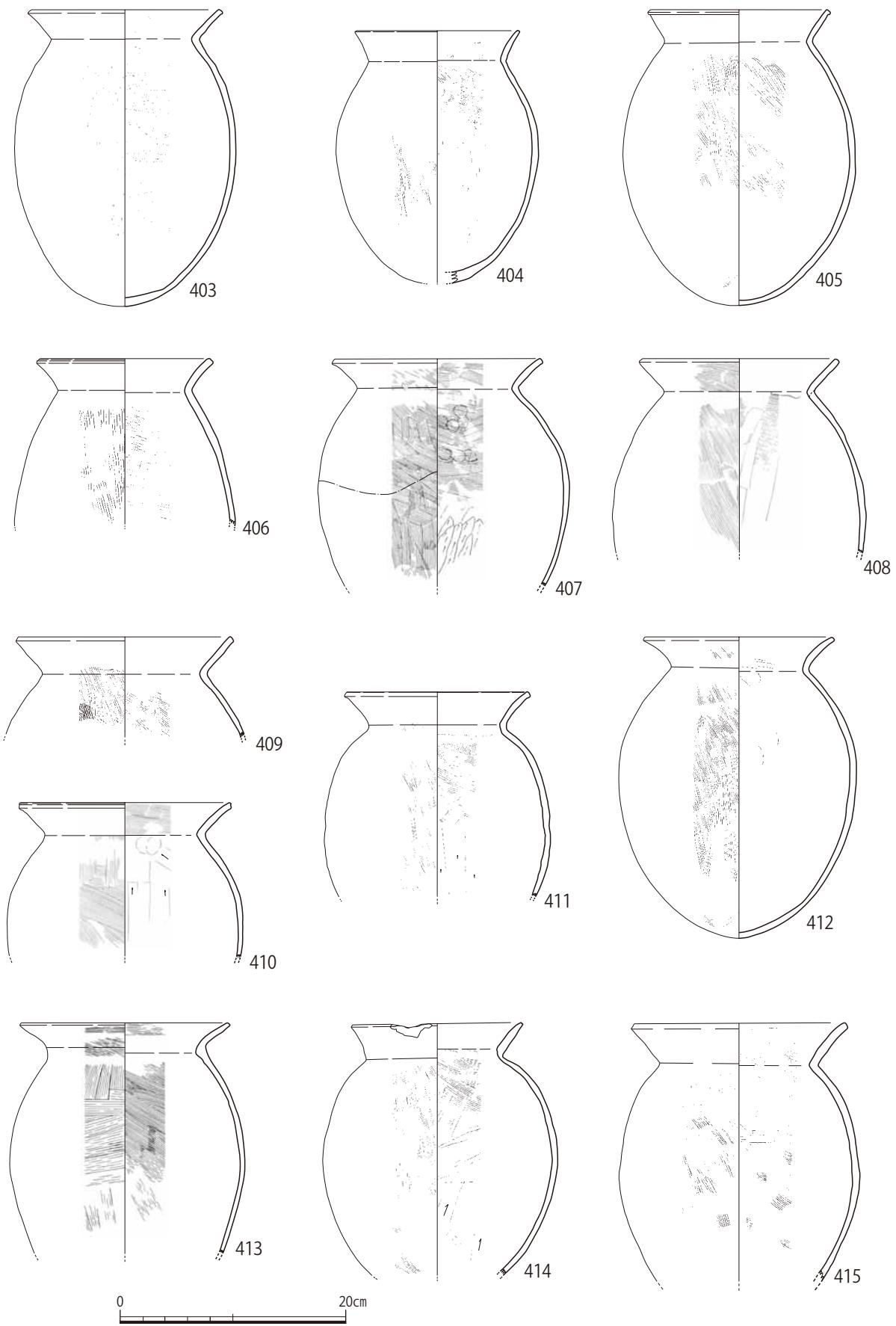
第134図 20SD001出土遺物実測図34 (1/5)



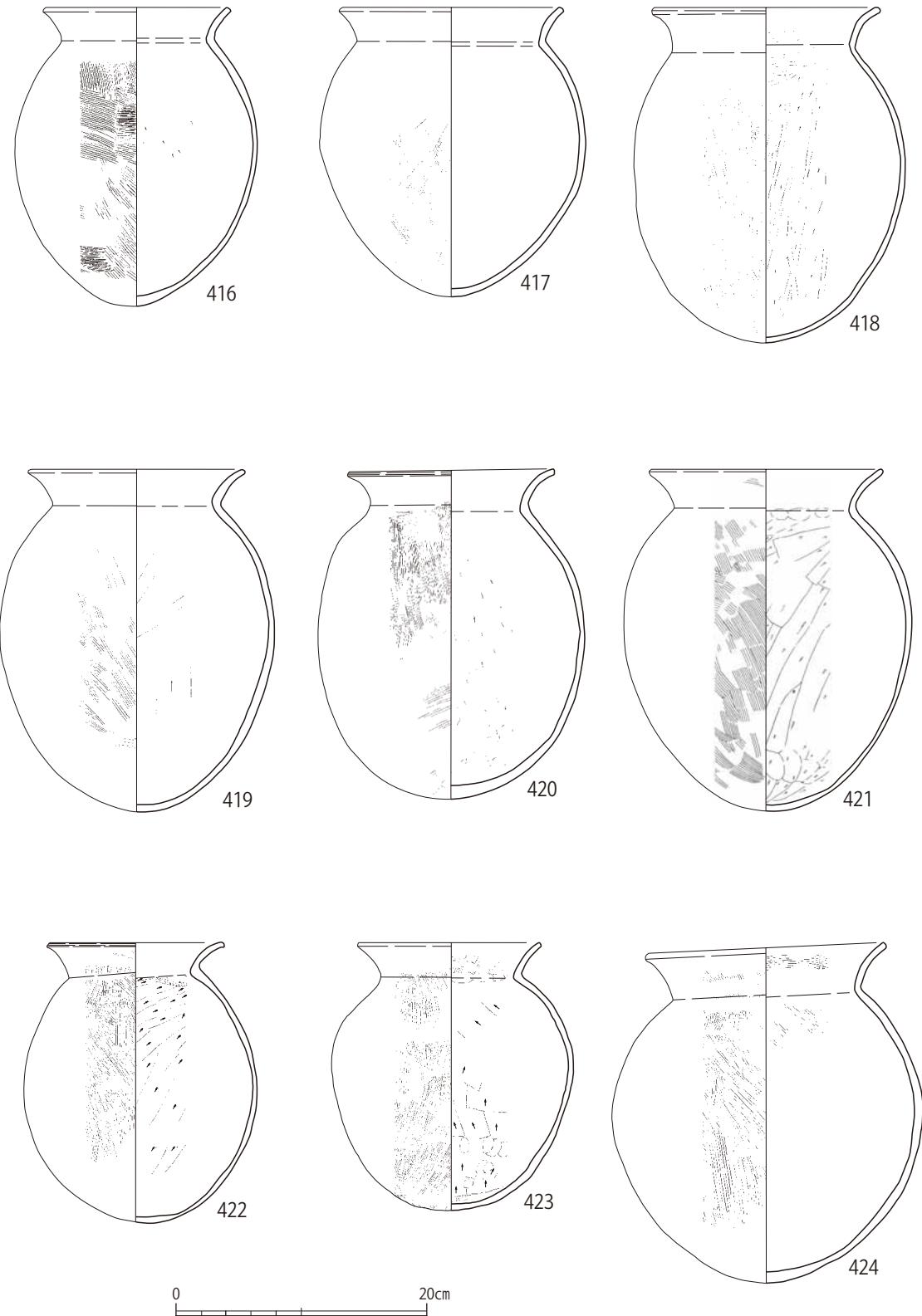
第135図 20SD001出土遺物実測図35 (1/5)



第136図 20SD001 出土遺物実測図 36 (1/5)

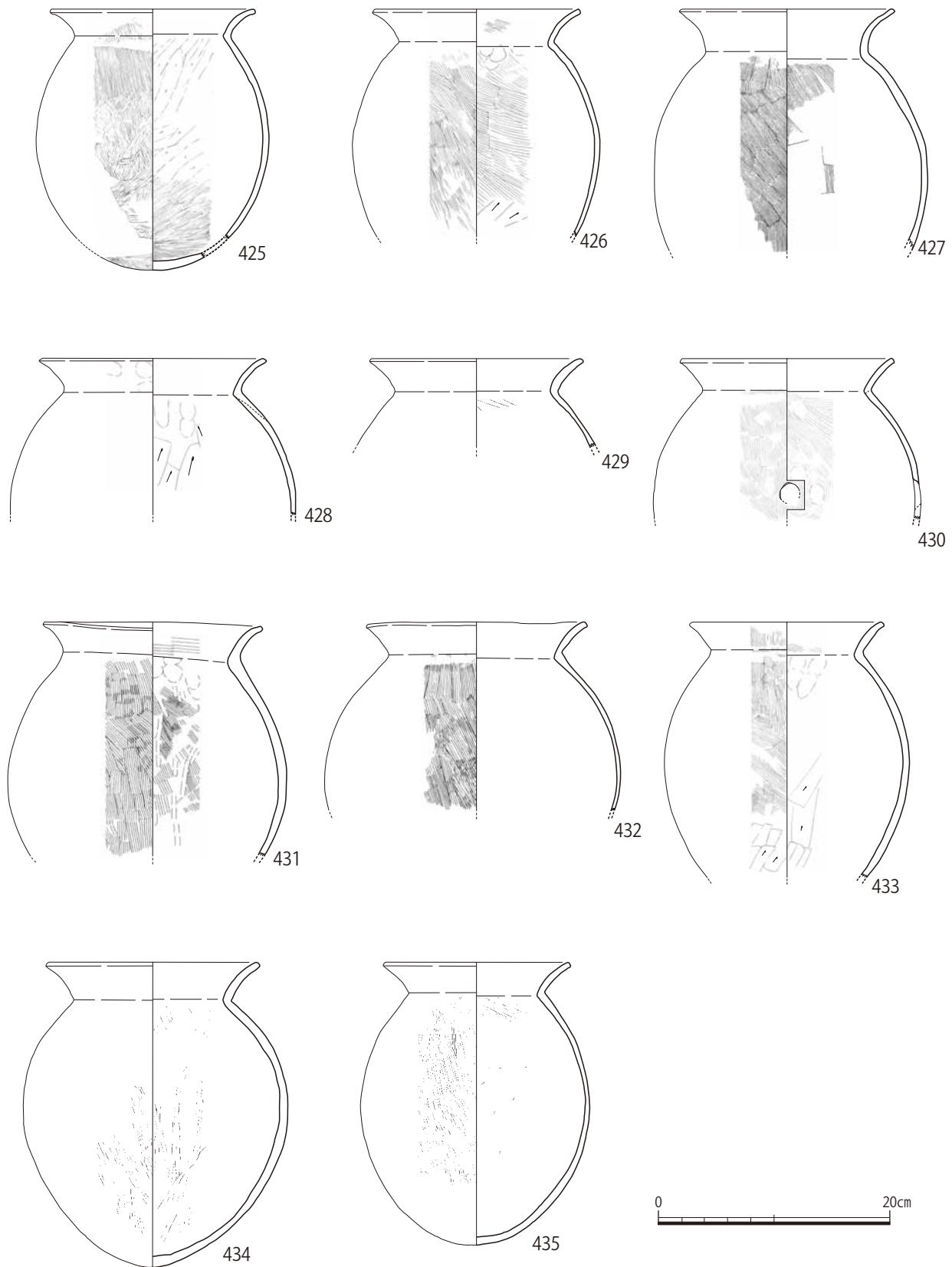


第137図 20SD001出土遺物実測図37 (1/5)

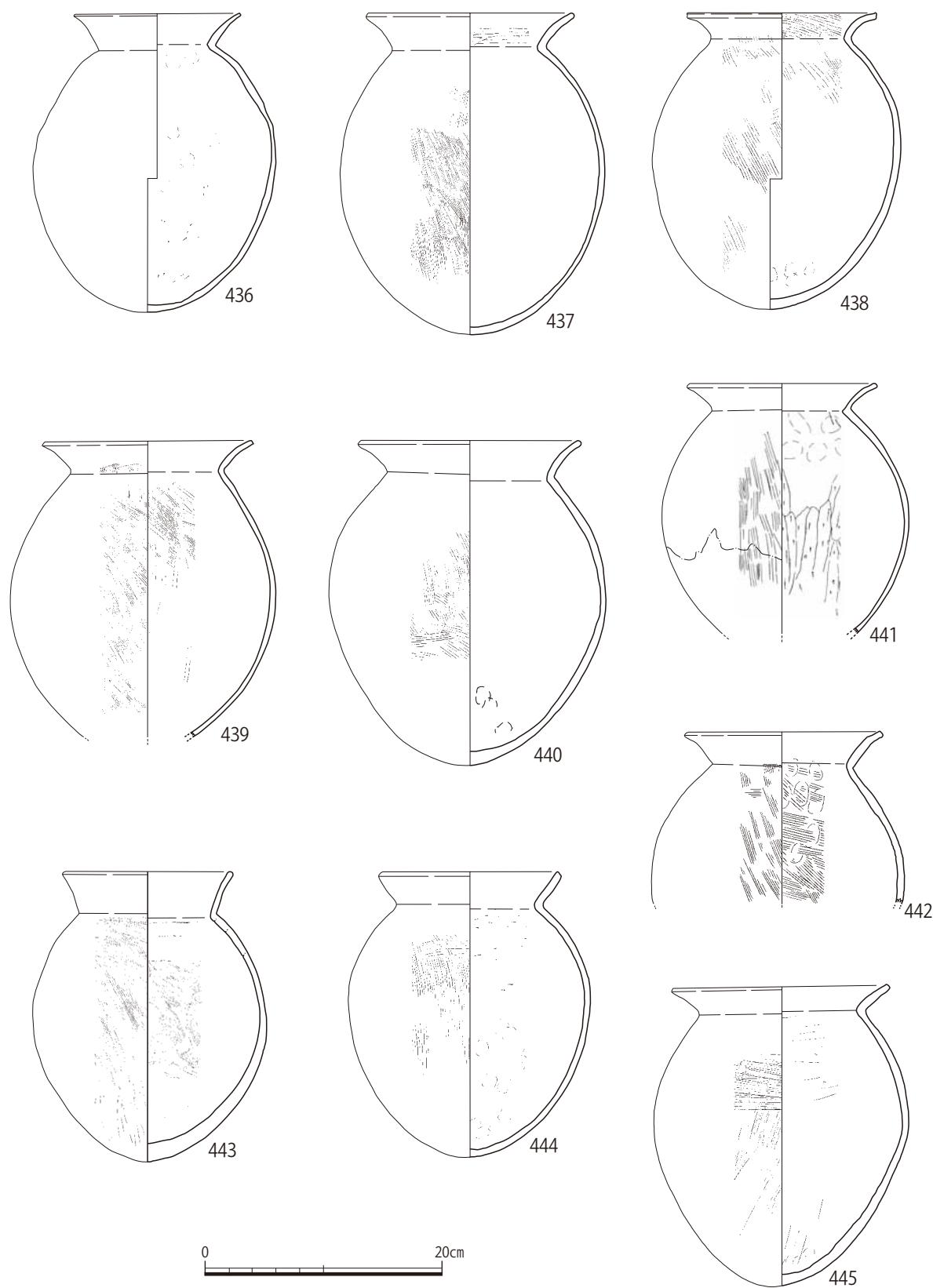


第138図 20SD001 出土遺物実測図 38 (1/5)

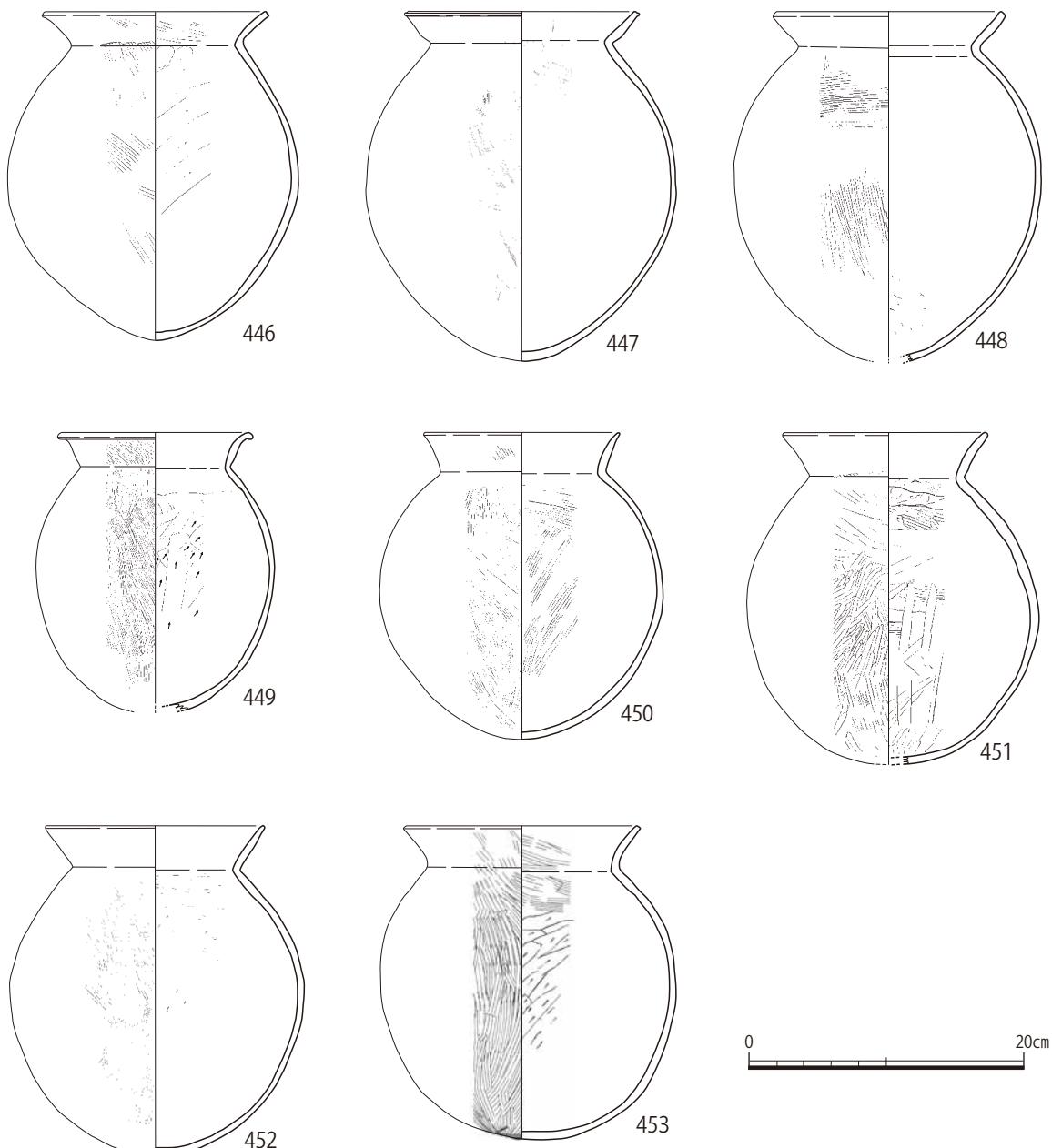
第三章  
調査の成果



第139図 20SD001出土遺物実測図39 (1/5)

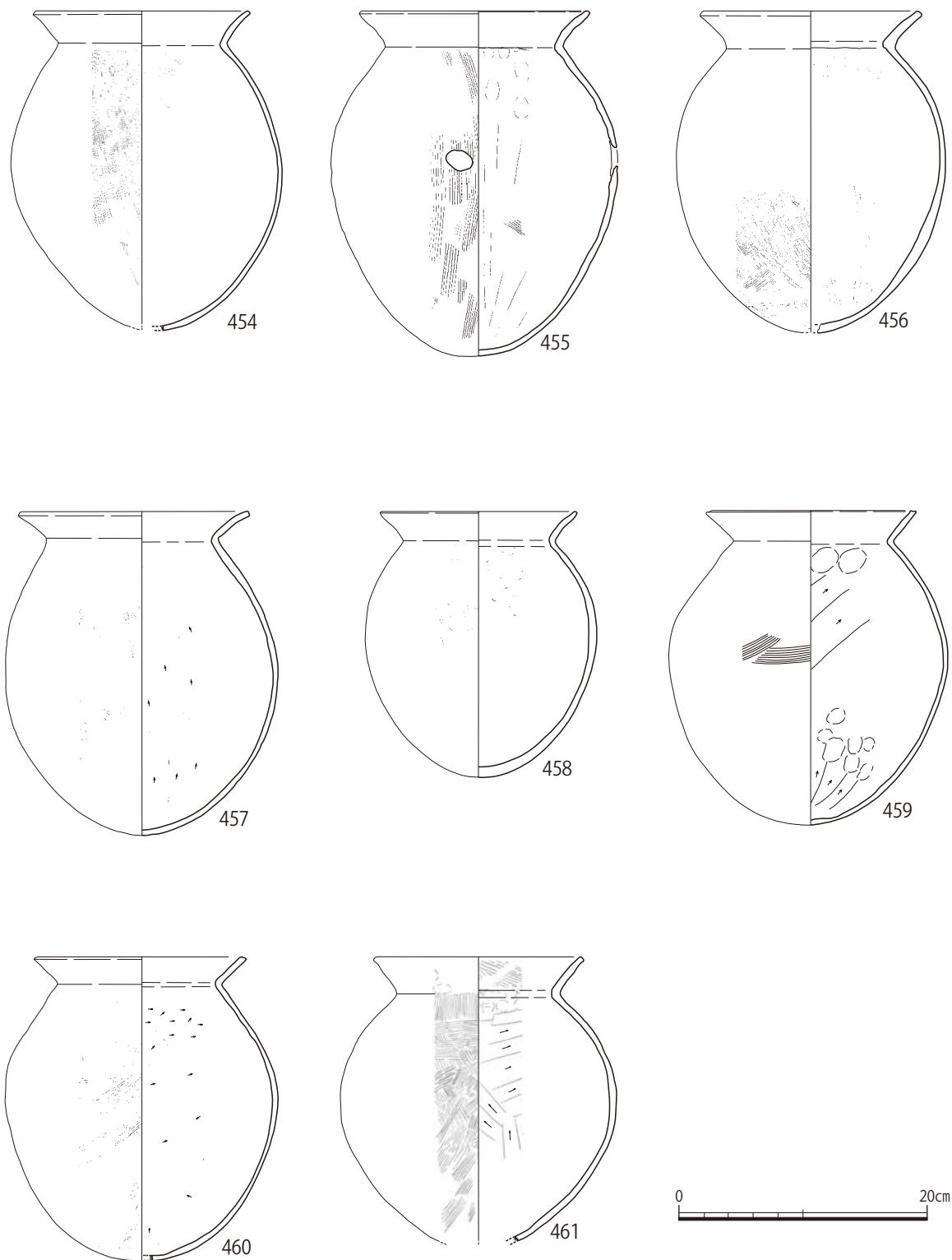


第140図 20SD001出土遺物実測図40 (1/5)

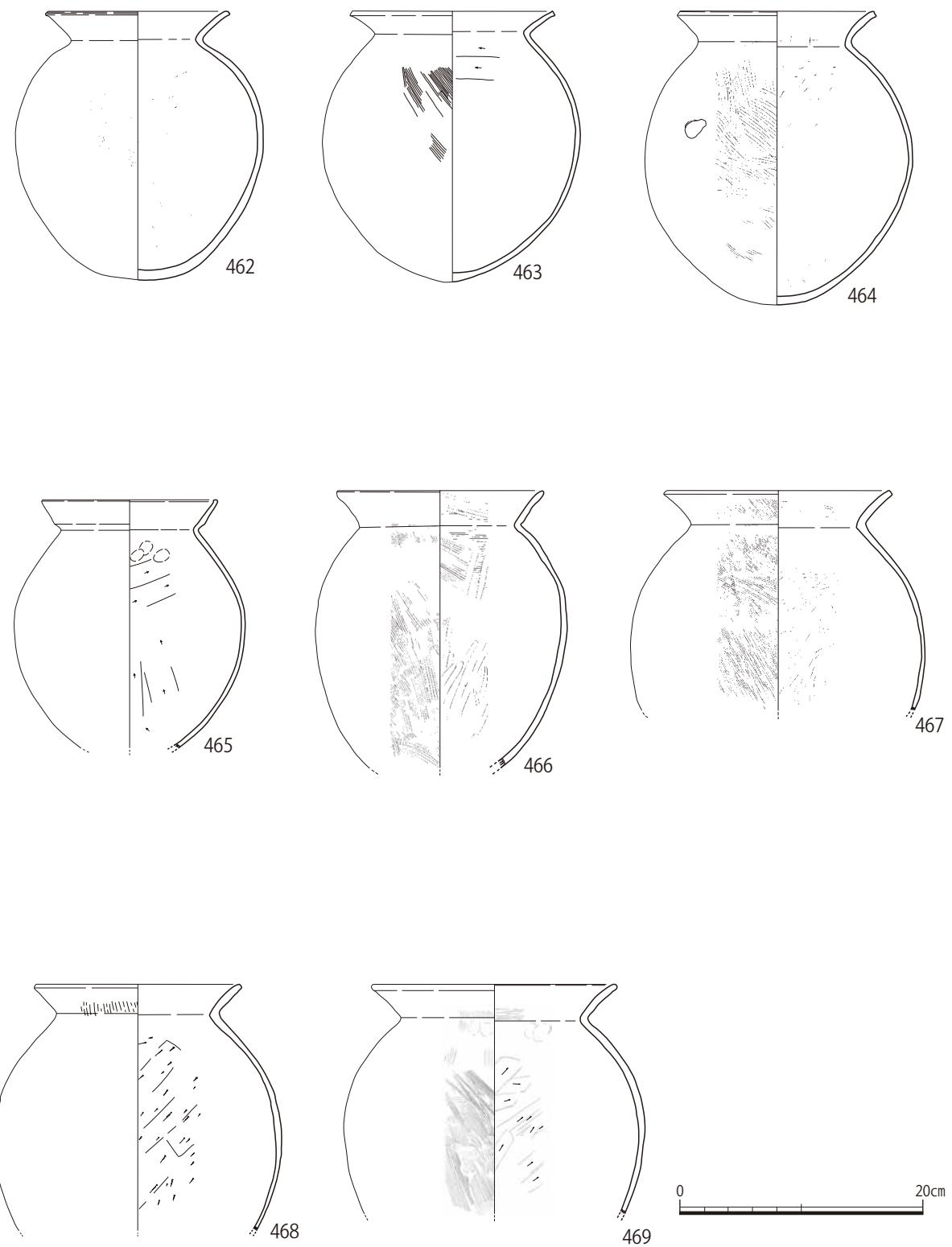


第141図 20SD001出土遺物実測図41 (1/5)

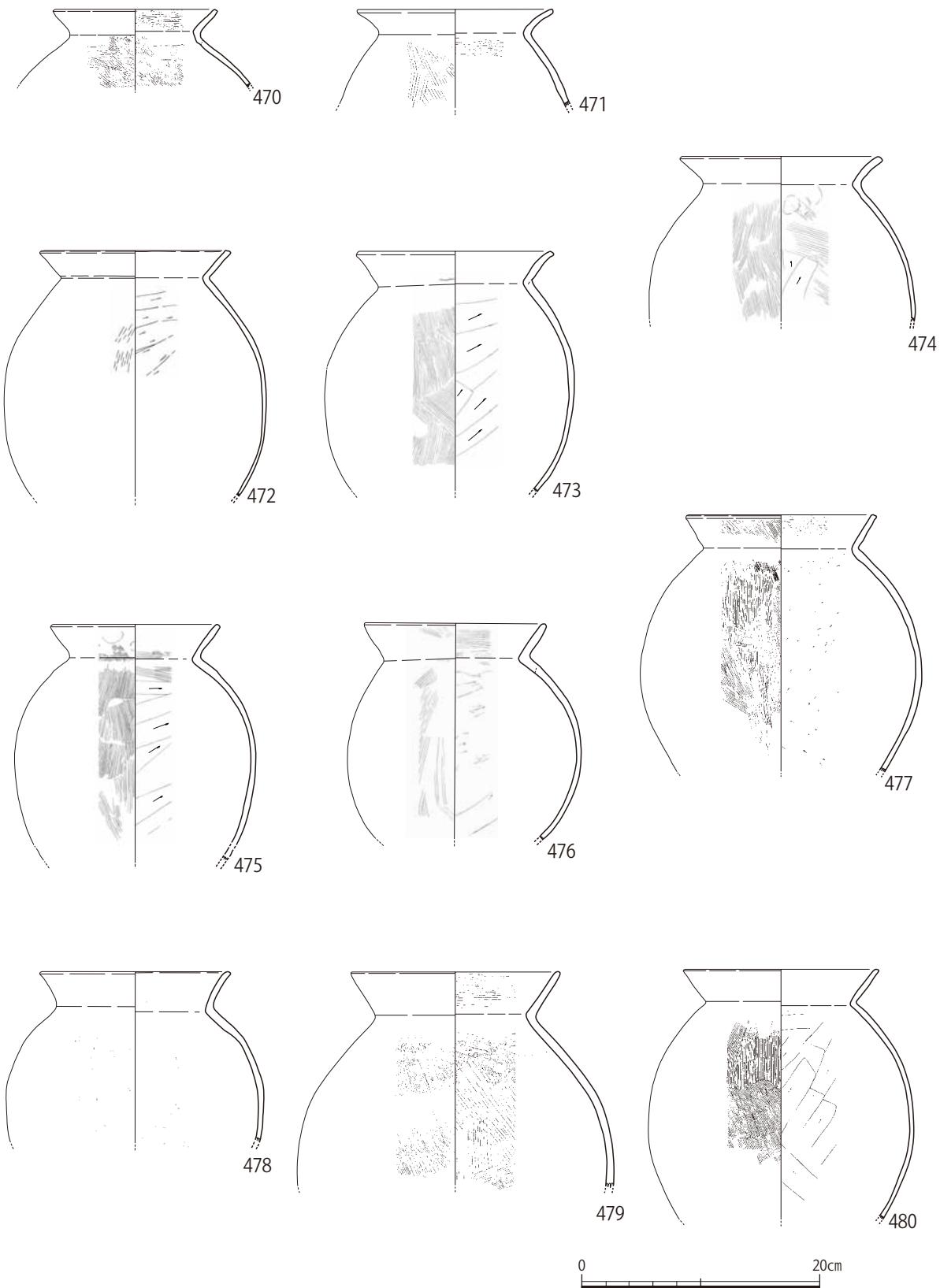
は綿密なハケ目により調整される。口縁部は外反し頸部に突帯が巡っている。374・375は広口甕である。375は復元口径 23.6cm、器高 25.3cm を測る。内外面ともに橙色を呈する。内面は指オサエ、ハケ目により調整され、外面はハケ目後タタキにより仕上げられる。器壁は厚い。376は山陰系の甕と考えられる資料である。口径 24.5cm、器高 34.3cm、最大胴部径 31.6cm を測る。内面はケズリおよび頸部付近に指頭圧痕が認められ、外面は縦方向のハケ目の後横方向のハケ目が実施される。底部は平底状を呈する。377～0415は中甕 A タイプである。器高 19cm 以上 28cm 以下の資料のなかで、球形率が 0.8 以下のものが属している。378～382は中甕 A1-ai に相当する。378は口径 18.3cm、器高 27.8cm、最大胴部径 21.2cm を測る。内面はケズリ後ミガキ、外面はハケ目後ナデにより調整される。頸部は肥厚して内面に明確な稜を持つ。口縁部は外反し底部は丸底である。381は口径 15.0cm、器高 27.4cm、復元最大胴部径 19.6cm を測る。内外ともに橙色を呈し、内面は



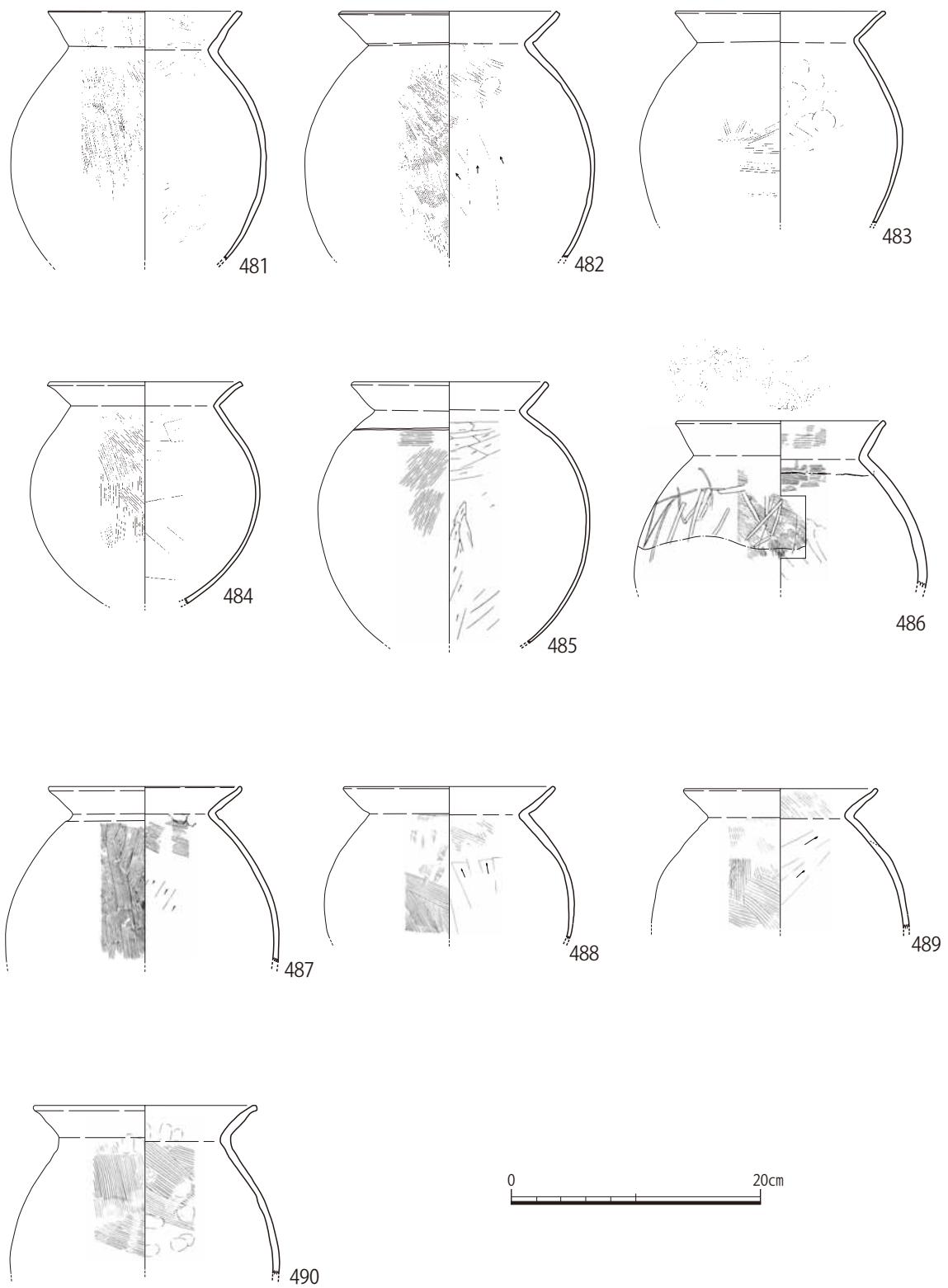
第142図 20SD001出土遺物実測図42 (1/5)



第143図 20SD001 出土遺物実測図 43 (1/5)

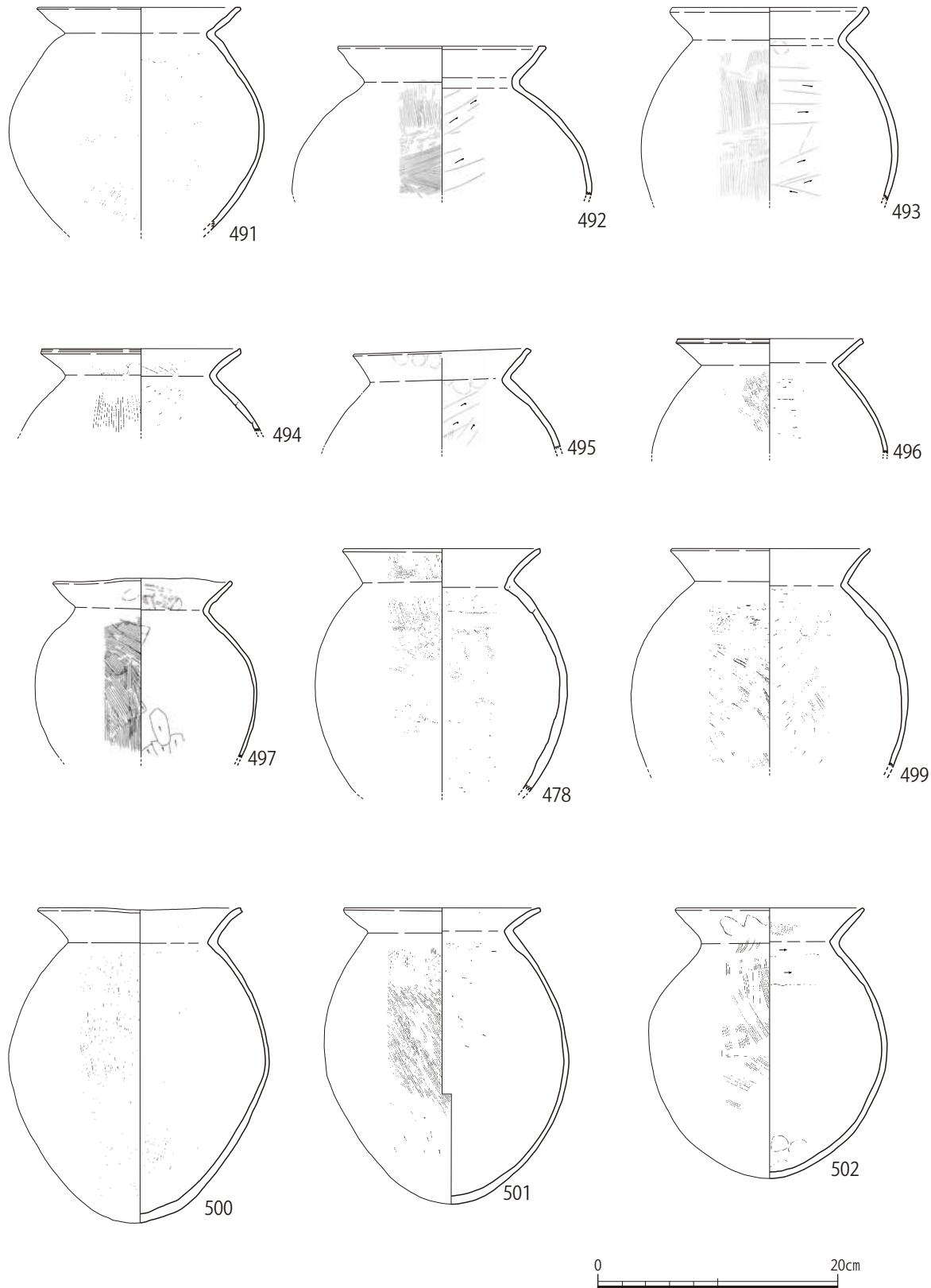


第 144 図 20SD001 出土遺物実測図 44 (1/5)

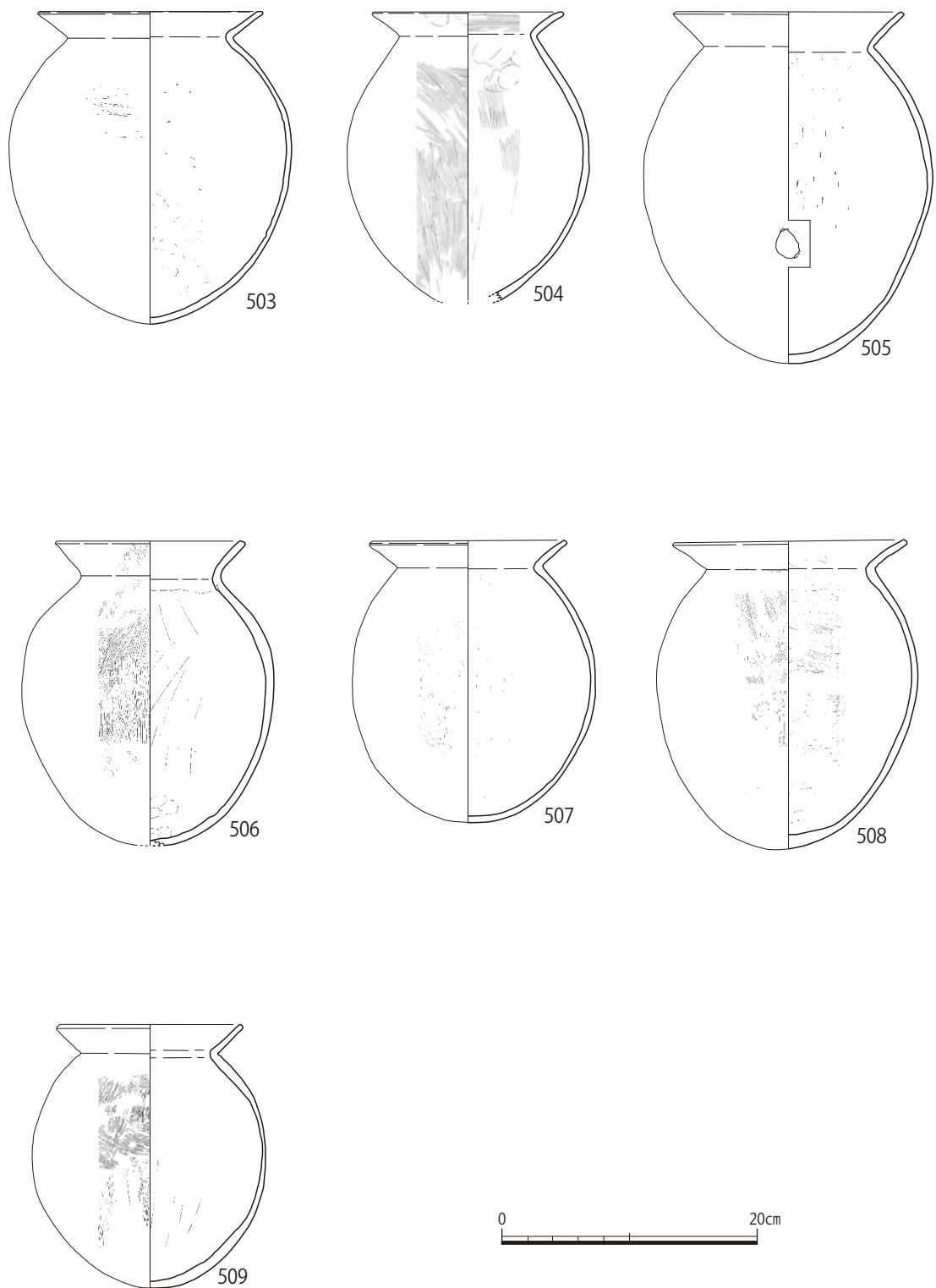


第145図 20SD001出土遺物実測図45 (1/5)

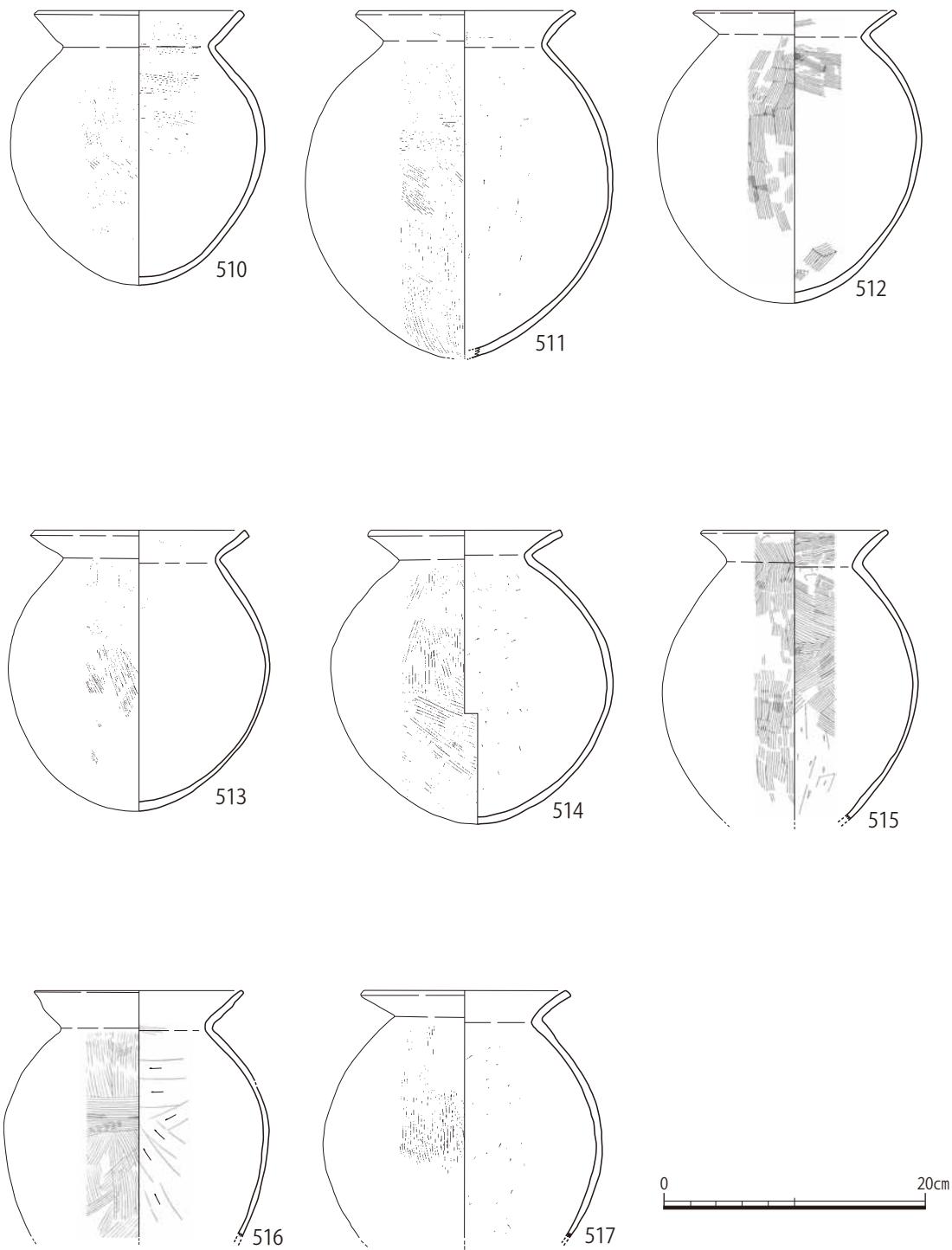
ケズリ後ナデ、外面はハケ目により調整されている。底部は尖底状を呈し、器壁は厚い。頸部は厚く、内面はナデにより稜がなく平坦に仕上げられている。388は底部が欠損する資料である。内外面ともに淡橙色を呈し、内面は胴部下半はケズリ、頸部付近は指オサエが認められる。外面はハケ目により調整される。口縁端部は面取りされ平坦に仕上げられ中央に沈線状の凹みが認められる。392は口縁部資料である。復元口径 17.1cm を測り内面はケズリ、ミガキにより、外面はハケ目により調整される。頸部の締まりはゆるく、口縁部は外反し、口縁端部は外方に面を持って沈線状に凹んでいる。北部九州型布留系甕にこのような口縁部の特徴を持つものが見られる。393は口径 17.0cm、器高 26.3cm、最大胴部径 19.2cm を測る。内面はハケ目後ミガキ、外面はハケ目により調整され、黒変が認められる。器壁は厚く底部は尖底状をなす。口縁部は外反する。中甕 A1-bi に相当する。074～077は中甕 A1-bii に属する甕である。395は口径 15.3cm、器高 24.9cm、最大胴部径 19.6cm を測る資料である。内面・黒褐色、外面・橙色を呈し、内面はケズリ、外面はハケ目により調整される。長胴タイプではあるが球形化の進んだものであり、口縁部は上方に直線的に立ち上がり、端部付近で外方へ屈曲し丸く納める。底部は丸底を呈する。396は中甕の中でも小ぶりのタイプであり、口径 18.3cm、器高 21.7cm、最大胴部径 17.0cm を測る。内面はケズリ、外面はハケ目により調整される。口縁部は外反し、端部はツマミ上げ状に肥厚する。403～405は口縁部が直線的に立ち上がって外傾し、頸部の締まりは緩く、底部は丸底状をなす中甕 A2-a ii に相当する資料である。405は復元口径 16.1cm、器高 26.2cm、最大胴部径 20.4cm を測る。内外面ともに、にぶい橙色を呈し、ハケ目により調整される。口縁端部は外方にツマミ上げて肥厚する。407は底部を欠損する資料である。口径は 18.6cm 測る。内面は胴下半にケズリ、上半部はハケ目により、外面はタテハケ目の後、斜め横方向のハケ目により調整される。ナデ肩状を呈し、布留式系甕を模倣する資料である。416～523は中甕 B タイプに属する資料である。このタイプは第 20 次出土の土師器甕の中でも半数以上を占めるものである。416・417は中甕 B1-ai である。418～424は中甕 B1-a ii に相当する資料である。418は口径 17.7cm、器高 26.7cm、最大胴部径 21.6cm を測る。内外面はにぶい褐色を呈し、内面はケズリ後ミガキ、外面はハケ目により調整される。口縁部は中位において外方へ屈曲し外反する。421は復元口径 18.6cm、器高 27.3cm、最大胴部径 23.0cm を測る。内外面ともに淡白茶色を呈し、内面は底部から頸部付近までケズリが認められ、外面はハケ目が実施される。口縁部は外反し、内外面にススが付着する。422は口径 14.1cm、器高 22.4cm、最大胴部径 18.4cm を測る。内面はケズリにより、外面はハケ目により調整される。頸部は肥厚し、口縁部は外反し、底部は丸底を呈する。いずれも外来の技術を取り入れた在地系の甕資料である。436～440は中甕 B1-bii に属する資料である。436は復元口径 13.9cm、器高 25.3cm、最大胴部径 20.4cm を測る。内外面ともに赤褐色を呈する。頸部は締り、口縁部は外反し、端部は先細る。内面はケズリ後ナデ、指頭圧痕が認められる。441は底部を欠損する資料である。復元口径 16.0cm を測る。胴部はケズリにより薄く作られており、頸部付近で肥厚する。外面はハケ目により調整される。443～448は中甕 B2-ai に属する資料である。444は復元口径 14.8cm、器高 24.1cm、復元最大胴部径 20.4cm を測る。内面胴部下半から底部にかけては指頭圧痕が顕著に認められ、外面はハケ目が実施される。底部は尖底状をなし、口縁部は直線的に立ち上がり、中位において肥厚する。布留式系甕の影響を強く受けている甕である。448は口径 16.4cm、復元最大胴部径 22.4cm を測る甕資料である。内面は底部付近にケズリ調整、外面は縦方向の後横方向のハケ目が実施される。口縁部は中位付近において肥厚し端部は面取りされる。底部をわずかに欠損するが、446や447と同様の布留式系甕の様相を呈しており、底部は尖底状と推測される。449～464は中甕 B2-a ii に相当する甕資料である。中甕 B タイプに属する資料のうち数が一番多いタイプである。451は内外面ともに最終調整にミガキが施されており、成形が粗雑化していくこの時期の甕にしては珍しく丁寧に作られている。459は口径 16.8cm、器高 25.3cm、最大胴部径 22.3cm を測る。内面はケズリ、指頭圧痕、外面はハケ目が認められる。なで肩を呈し、口縁は直線的に立ち上がり、端部は面取りされ平坦に仕上げられる。460は口径 17.1cm、復元最大胴部径は 22.2cm を測る。459と同様に内面はケズリと指頭圧痕、外面はハケ目により調整される。461も 459 および 460 の甕と同種の布留式系甕である。口縁端部の処理は面取りした後、外方につままれる。485は中甕 B2-a タイプに相当し、底部形態は欠損のため不明



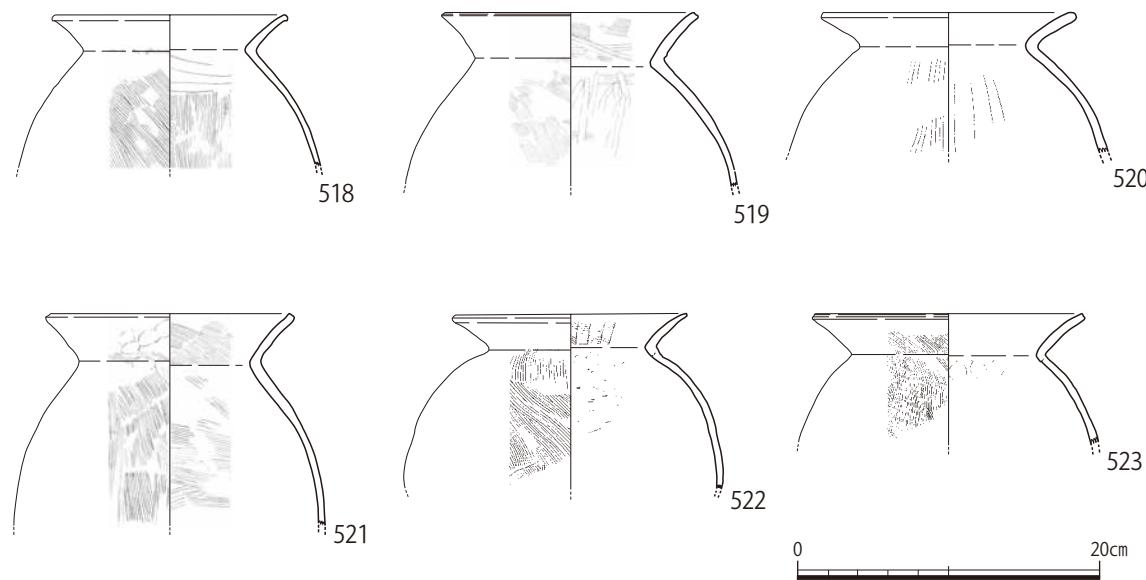
第146図 20SD001出土遺物実測図46 (1/5)



第147図 20SD001出土遺物実測図47 (1/5)

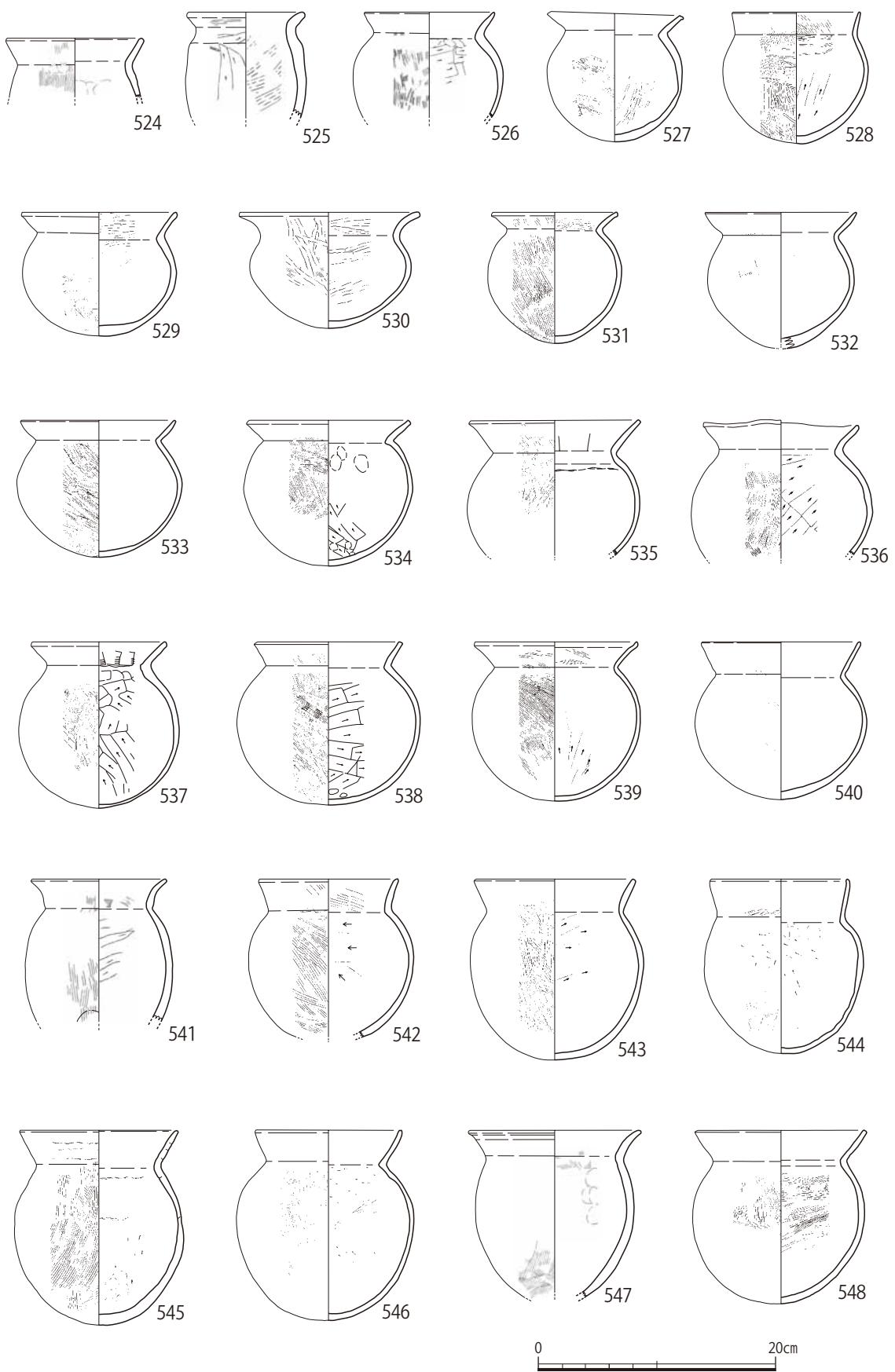


第148図 20SD001 出土遺物実測図 48 (1/5)

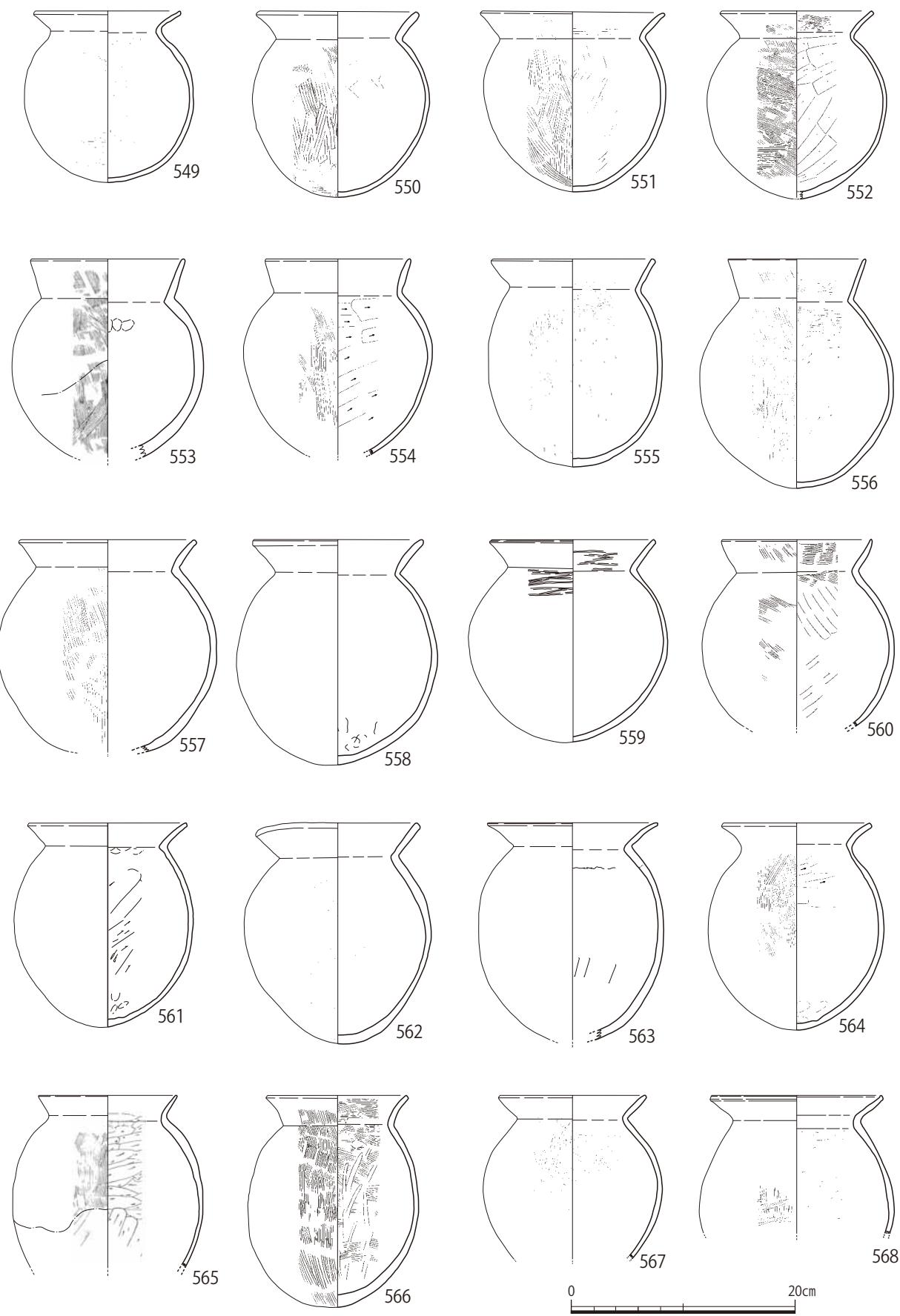


第149図 20SD001出土遺物実測図49 (1/5)

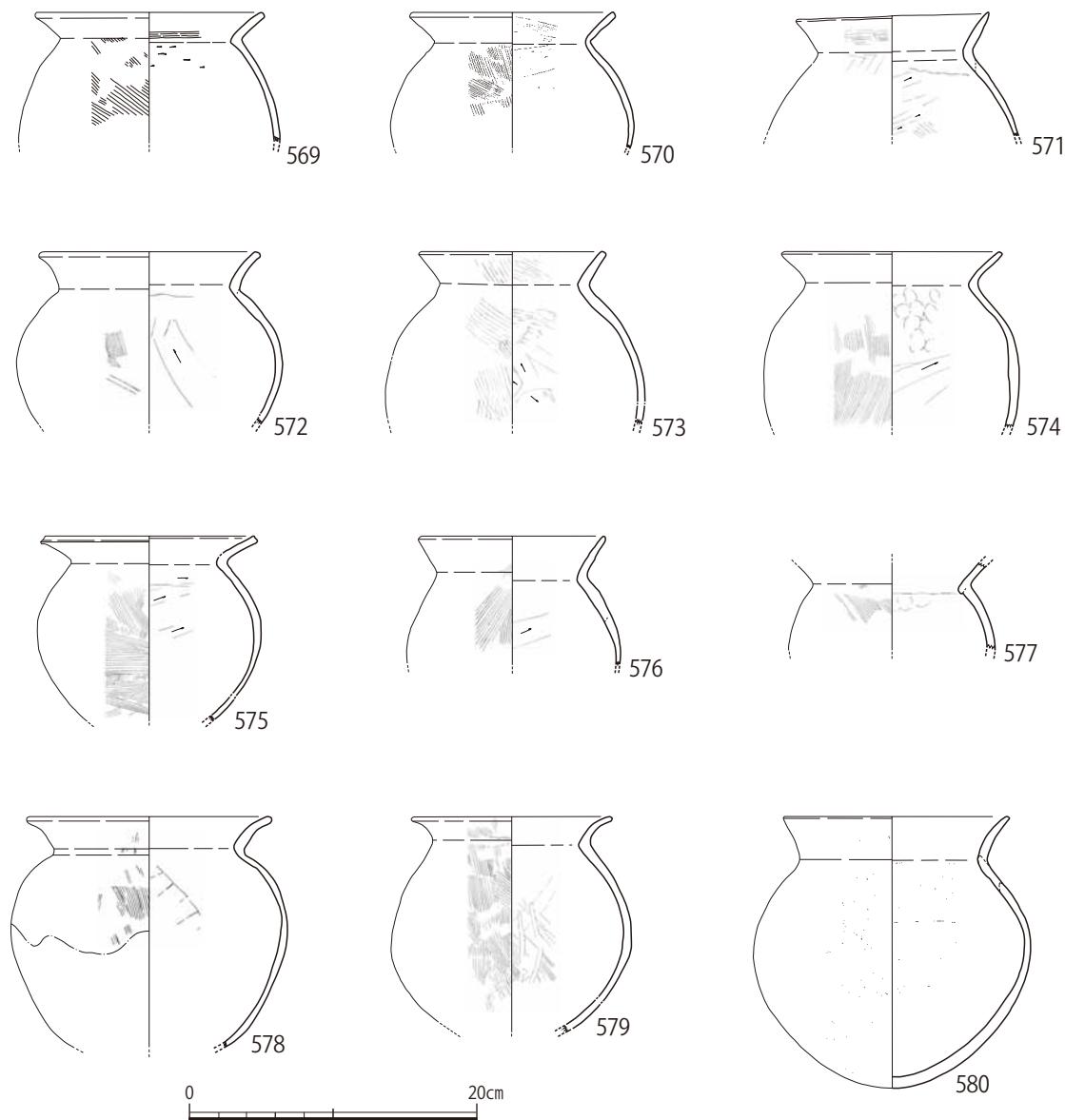
であるが、類似の甕資料から丸底と推測される。内面はケズリにより、外面はハケ目により調整される。また、外面肩部には沈線がめぐっている。486は胴部下半を欠損する資料である。復元口径16.9cmを測り、内面はハケ目、指頭圧痕が認められ、外面はハケ目が実施される。ナデ肩状の肩部には連続する三角様の線刻が認められる。何かを意識して彫られたものと考えられるが、その内容は現段階では不明である。大分平野における、線刻による絵画土器の類例はあまりなく、大道遺跡群の東に位置する東田室遺跡から1点「龍」をモチーフとした甕が出土している。500～504は中甕B2-biに分類される資料である。503は復元口径17.2cm、器高24.5cm、復元最大胴部径22.1cmを測る。内外面ともにぶい黄橙色を呈し、内面は底部下半に指頭圧痕が顕著に認められ、外面は横方向のハケ目により調整される。底部は尖底状を呈し口縁端部は平坦に面取りされる。505～514は中甕B2-biiに相当する甕資料である。507は口径15.0cm、器高22.1cm、最大胴部径19.0cmを測る。内外面ともに橙色を呈し、内面はケズリ後ナデにより、外面はハケ目により調整される。頸部は肥厚し、底部形状は丸底である。514は口径14.2cm、器高22.5cm、最大胴部径21.5cmを測る。内面はケズリにより、外面はハケ目により調整される。頸部は締りが強く、胴部の張りは中位からわずかに下位付近にみられる資料である。524～580は小形の甕資料である。529は口径12.9cm、器高10.5cmを測る。内外面ともに橙色を呈し、ハケ目により調整される。534は復元口径11.4cm、器高14.7cmを測る。内面はケズリと指オサエにより、外面はハケ目により調整される。外来の要素を取り入れた小形の甕と考えられる。しかしながら、529・534とともに、口縁部がわずかながら内湾しながら立ち上がる点や、頸部の締り具合等をみると小型丸底鉢を模倣した資料とも推測され、どちらともとれる資料である。544・546もまた、小形甕とした資料ではあるが、小型丸底壺の変形とも考えられる資料である。552は底部をわずかに欠損した資料であり、復元口径13.7cmを測る。内面はケズリにより、外面は密なハケ目により調整される。565は内面にヘラケズリ、外面にハケ目が実施され、口縁部は体部をそのまま外方に引っ張りあげたような短い口縁がつく。566は口径12.4cm、器高18.9cmを測る小形甕である。内面はハケ目後ミガキ、外面はハケ目により調整される。外面にススが付着する。574は胴下半部を欠損する資料である。口縁部は直線的に立ち上がり外傾する。内面はケズリ、指オサエが頸部付近に認められる。頸部から口縁端部にかけて、器壁の厚さがかなり薄くなる資料である。580は口径15.7cm、器高18.9cmを測る甕資料である。内面はハケ目、指オサエにより、外面はハケ目、タタキにより調整される。底部形状は尖底状を呈する。581～590は台付き甕の底部である。587・588は台付き鉢の可能性も考えられる。591～601は



第150図 20SD001出土遺物実測図 50 (1/5)



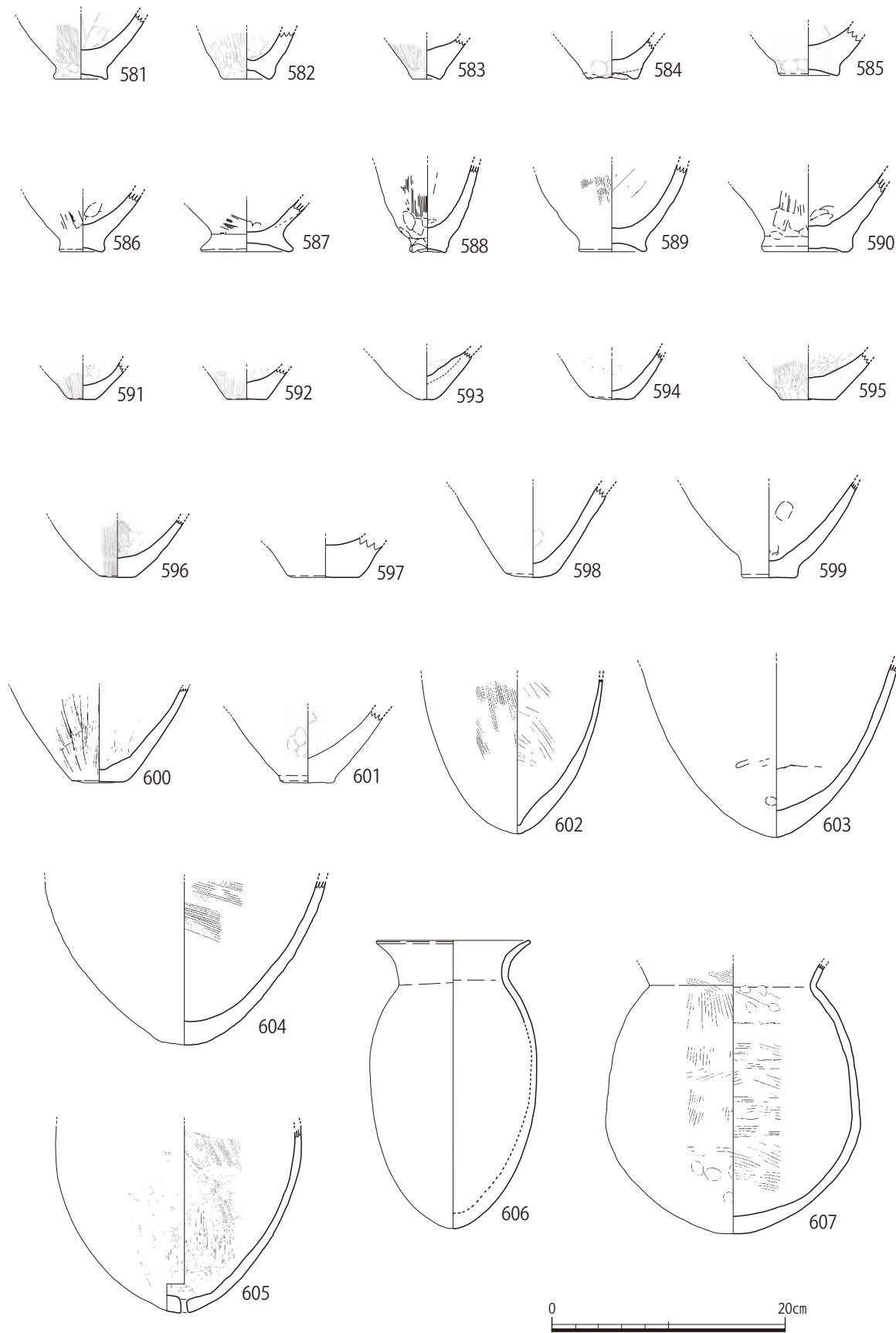
第 151 図 20SD001 出土遺物実測図 51 (1/5)



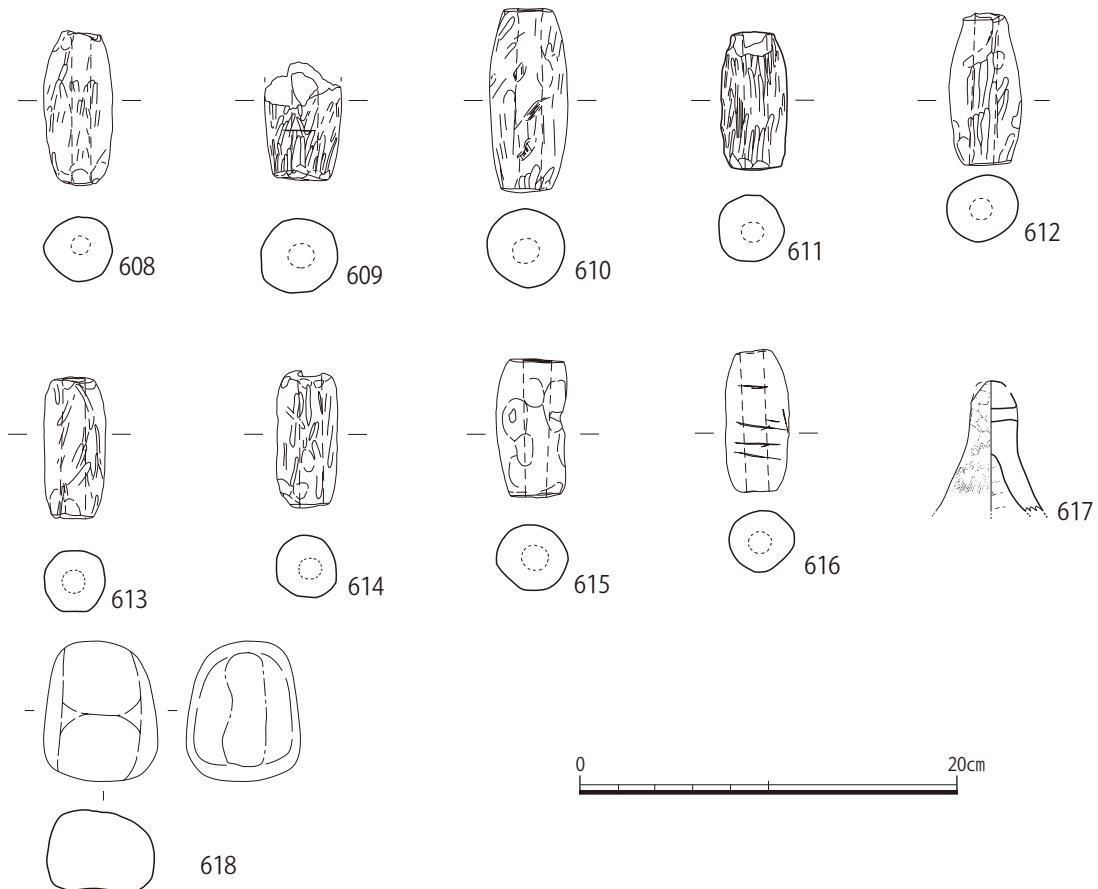
第152図 20SD001 出土遺物実測図 52 (1/5)

平底状を呈する弥生土器甕の底部である。弥生時代後葉から終末に比定されるものである。602・603は底部が尖底を呈する弥生土器甕の底部であり、604は凹レンズ状を呈する資料である。605は甕の底部から胴部の資料と考えられるが、底部に径6cmほどの穿孔が認められ、あるいは甑とも考えられるものである。606は弥生土器甕である。復元口径12.9cm、器高24.6cmを測る資料である。底部は尖底状を呈し、口縁部は外反する。器壁は厚い。607は口縁部が欠損する器種不明の資料である。

以上が20SD001出土の甕資料についての報告である。ここで、20SD001出土の甕について分類結果を踏まえて時間的位置付けを検討する。20SD001出土の甕は小甕から大甕まであわせて250点である。そのうち大甕とする資料は全体の18%に過ぎない。小甕は23%である。残りの半数以上にのぼる147個体(59%)は中甕とした資料である。これらをさらに胴部形態別に分別すると、大甕は長胴タイプの占める割合が63%と高い。しかしながら、出土点数が一番多い中甕は、73%が球形タイプのものである。さらにこの球形タイプの甕の底部状況は、ii類とした丸底が8割強を占める。次に、口縁部を形態別に見ると、1類とした外反するタイプの甕は1割ほどしかなく、残りの9割は直線的に立ち上がるタイプ、および布留式系甕に見られるようなバリエ



第 153 図 20SD001 出土遺物実測図 53 (1/5)

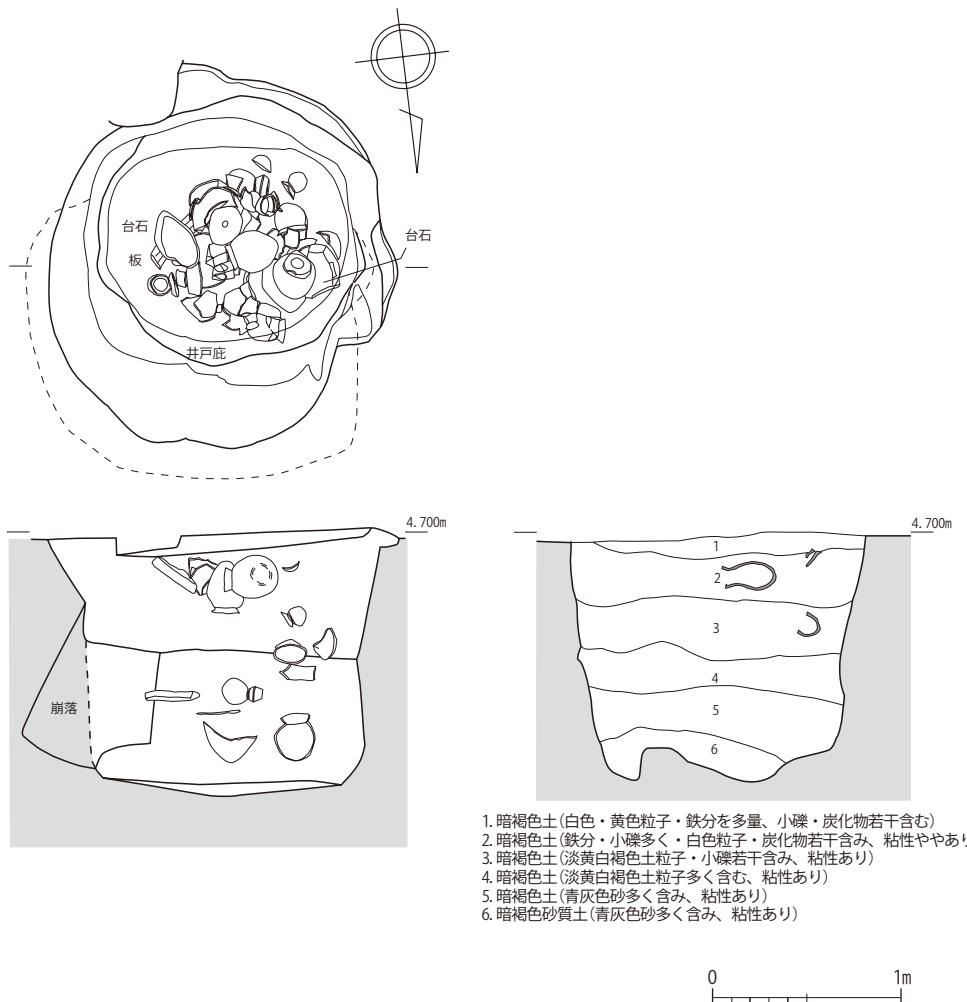


第154図 20SD001出土遺物実測図54(1/4)

ーションに富む口縁を持つものである。具体的に示せば、324・325・333・344は口縁部が外反し、長胴をなす。調整はハケ目、ミガキが主体であり、底部形態は丸底に近い尖底状のものである。このような形態を示す資料は下郡遺跡群第90次調査SH020出土の甕にもみられる要素であり、古墳時代前期前葉でも古相を示すものと考えられる。また、361・459・460などは、胴部形態は球形であり、直線的に立ち上がる口縁部をもち、口縁端部は平坦に仕上げられる。ケズリ調整および指頭圧痕が顕著にみられる布留式系甕の要素を具備した資料である。下郡遺跡群第92次調査SH343出土の甕に類似資料が求められる。以上のことから、20SD001出土の甕は、長胴タイプの甕が球形タイプの甕に凌駕されつつある、古墳時代前期前葉から前期中葉頃の所産となるものと考えられる。

#### 土錘・石器(第154図)

608～616は土錘である。609は一部欠損。617は用途不明土器だが、飯蛸壺の一部である可能性が考えられる。618は安山岩製のすり石である。長さ7.4cm、幅6.1cm、厚さ4.3cm、重さ281.0gを測る。全面に使用痕が認められる。



第 155 図 20SE001 遺構実測図 (1/40)

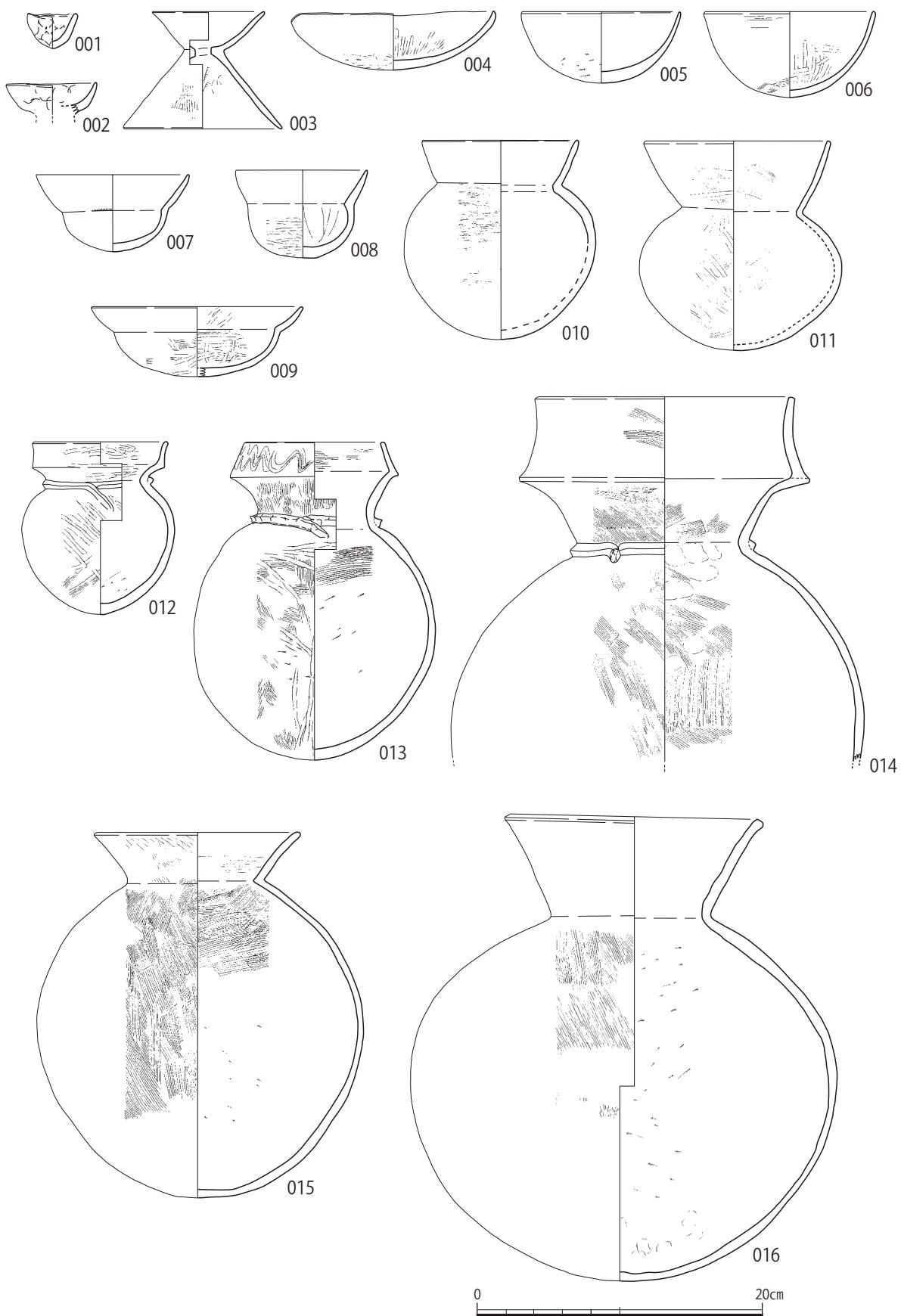
### 20SE001 (第 155 図)

調査区南東隅で検出し、南東を他遺構に切られている井戸状遺構である。平面プランは不整円形を呈し、中位部分に崩落してかなり拡がっている部位がある。遺構の規模は長径約 2.0m、短径約 1.8m、深度約 1.3m を測る素掘りの井戸跡である。埋土は暗褐色土を基調とし、最下層のみ暗褐色砂質土である。完形ないし完形に近い土師器と台石 2 点が出土している。また、中層から樹皮が付いたままの板状の材が出土したほか、炭化材も検出している。

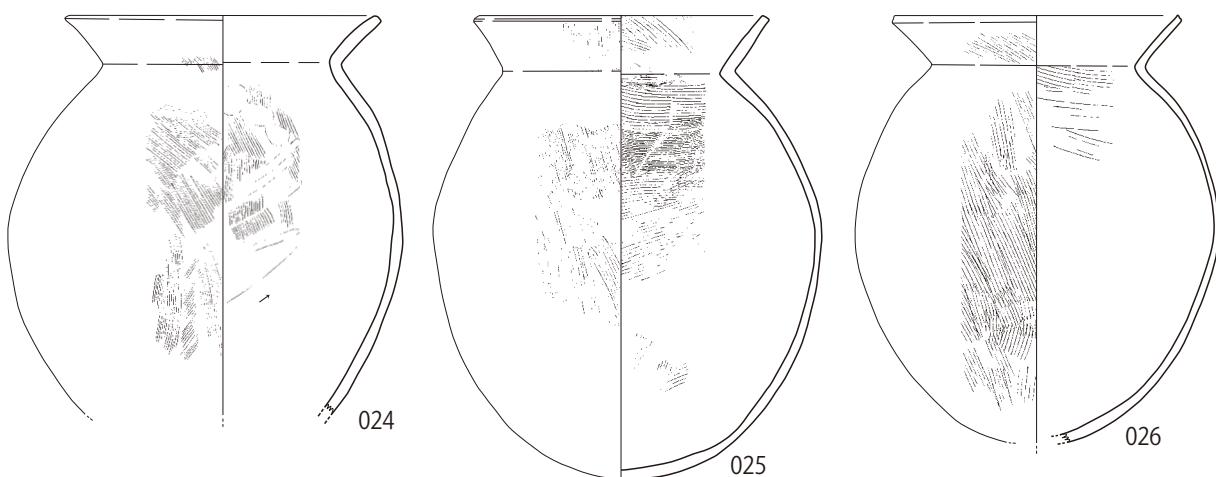
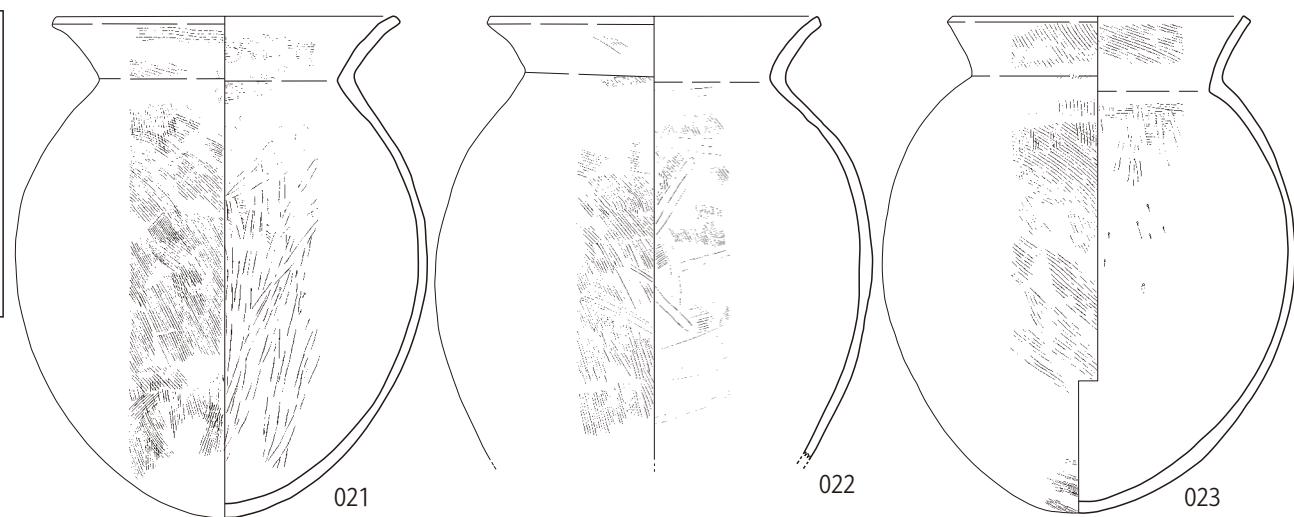
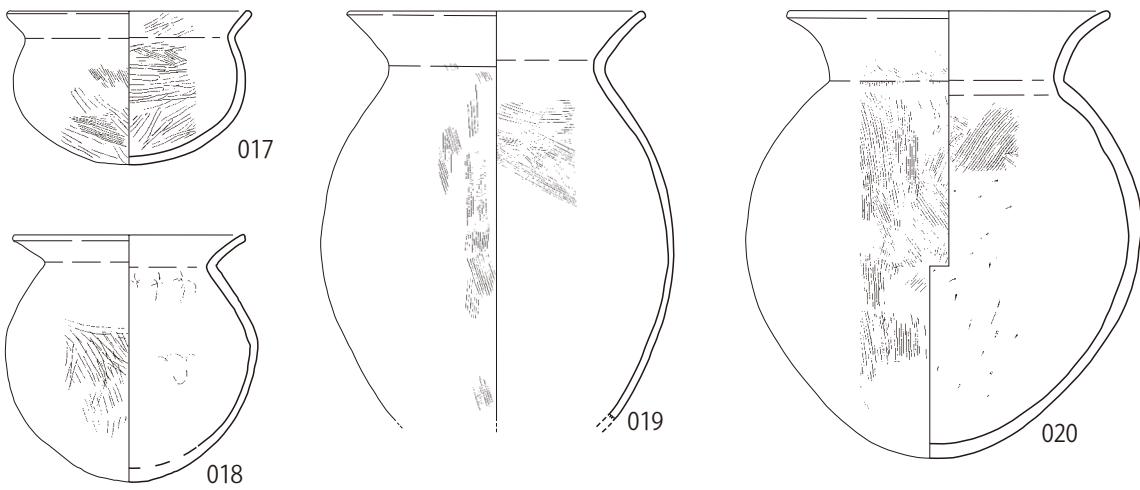
出土遺物の状況から、古墳時代前期中葉の新相前後の遺構と考えられる。

### 20SE001 出土遺物 (第 156 図～第 158 図)

出土土器は、ミニチュア土器、土師器器台、鉢形土器、壺形土器、甕形土器がある。001・002 は共にミニチュア土器で、001 は鉢、002 は高環部片である。003 は受部と脚部が同様に直線状に広がる形状を有する布留式系の小形器台 (X 形) である。004～006 は壺・皿形状の鉢で、004・005 は鉢 A1、006 は鉢 A2 に分類される。007～009 は小型丸底壺で、007・008 は壺 A-a、009 は壺 A-c に分類される。007 は体部高と口縁部高が等しい。008 は外面にミガキ、内面に縦方向のケズリを施す。009 は内外面ともにミガキを施す。010・011 は直口壺で壺 B-a に分類される。012 は頸部に突帯を有する小形の複合口縁壺で、壺 D-d に分類される。外面にミガキ、内面にケズリ・ミガキを施す。山陰系か。013・014 は頸部に突帯を有する複合口縁壺で、壺 D-b に分類される。013 は口縁部に波状文を有し、内面下部にケズリを施す。014 は直線的に立ち上がる口縁部を有

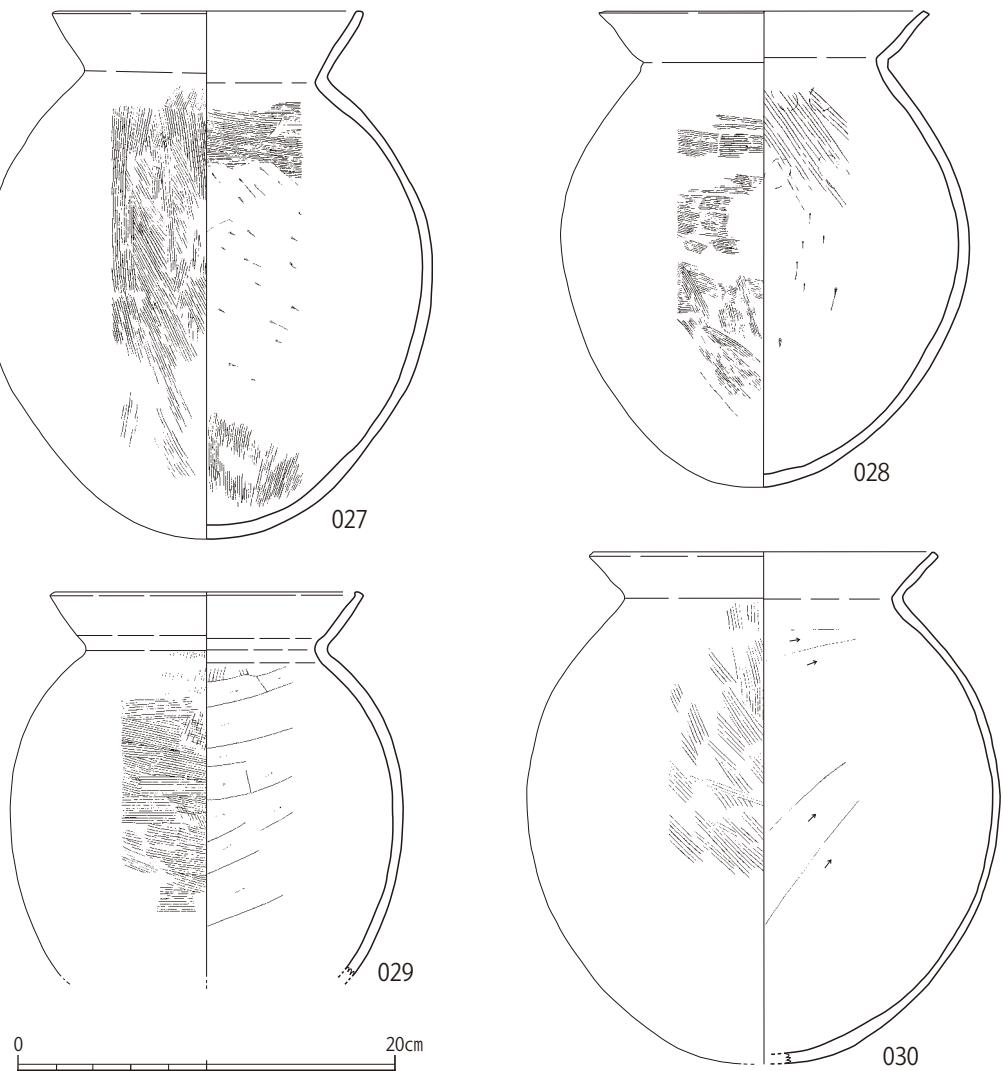


第156図 20SE001出土遺物実測図1 (1/4)



0 20cm

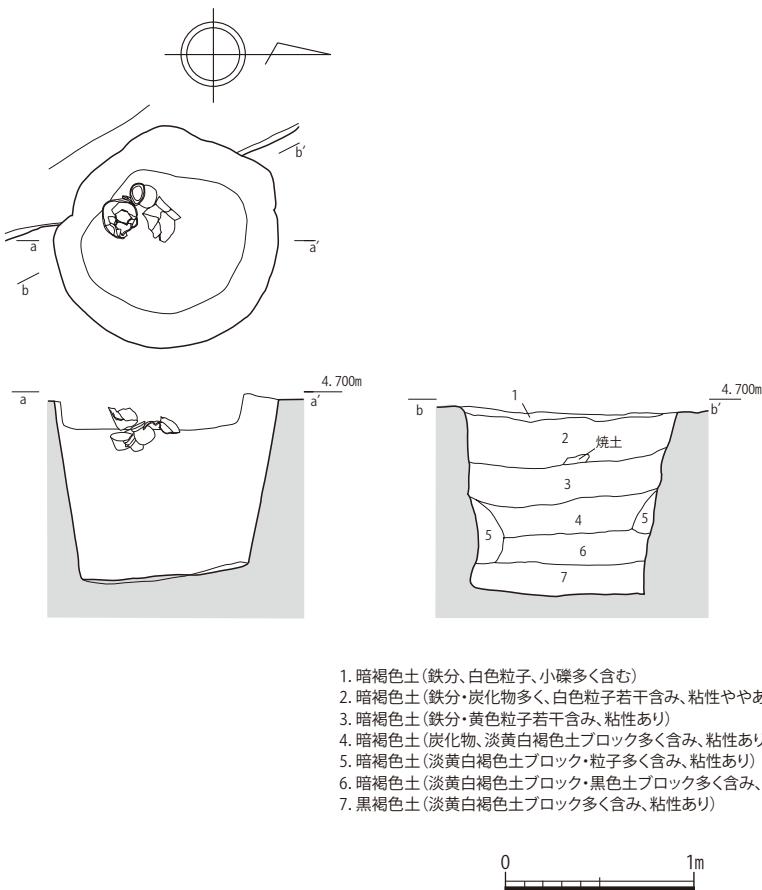
第157図 20SE001出土遺物実測図2 (1/4)



第 158 図 20SE001 出土遺物実測図 3 (1/4)

し、波状文を省略する。015・016は単口縁壺で、共に壺C-cに分類される。015は内面下部にケズリが見られる。016は玉縁状の口縁部を有し、胴部は球形化しており、内面にケズリを施す。017・018は小形の球形の甕である。017は内外面ともにミガキを施す。018は内面に指頭圧痕が認められる。019は中形の長胴の甕で、中甕A1-bに分類される。胴部にスヌ付着。020～022は中形の球形の甕で、中甕B1-aiiに分類される。020は最下層から出土した遺物で、胴部中位の器壁が厚い。内面下部にケズリを施す。021は「く」の字状に外反し肥厚した口縁部を有し、内面にミガキがみられる。022は「く」の字状に外反する口縁部を有する。胴部にスヌ付着。023～030は中形の甕で、中甕B2-aiiに分類される。023は内面にケズリを施す。028は内面にケズリを施し、口縁部外面下方が肥厚している。布留式系甕の影響か。029は「く」の字状に開く直線的な口縁部で、端部が内側へ若干はね上げられている。外面調整にタテハケ目のちヨコハケ目、内面にミガキを施す。030は「く」の字状に開く直線的な口縁部を有し、口縁部外面下方が若干肥厚している。布留式系だが球形化が進み、作りが粗い。

尚、20SE001には011、016、019、022、030の5点が20SD001との遺構間接合遺物として含まれている。20SE001は、壺・甕共に胴部の球形化が進んでいる点や、内部にケズリを施したもの、布留式系の流れを汲みながらも作りが粗雑なものを含んでいることから、古墳時代前期中葉の新相前後の時期の遺構と考えられる。



第159図 20SE018 遺構実測図 (1/40)

**20SE018 (第159図)**

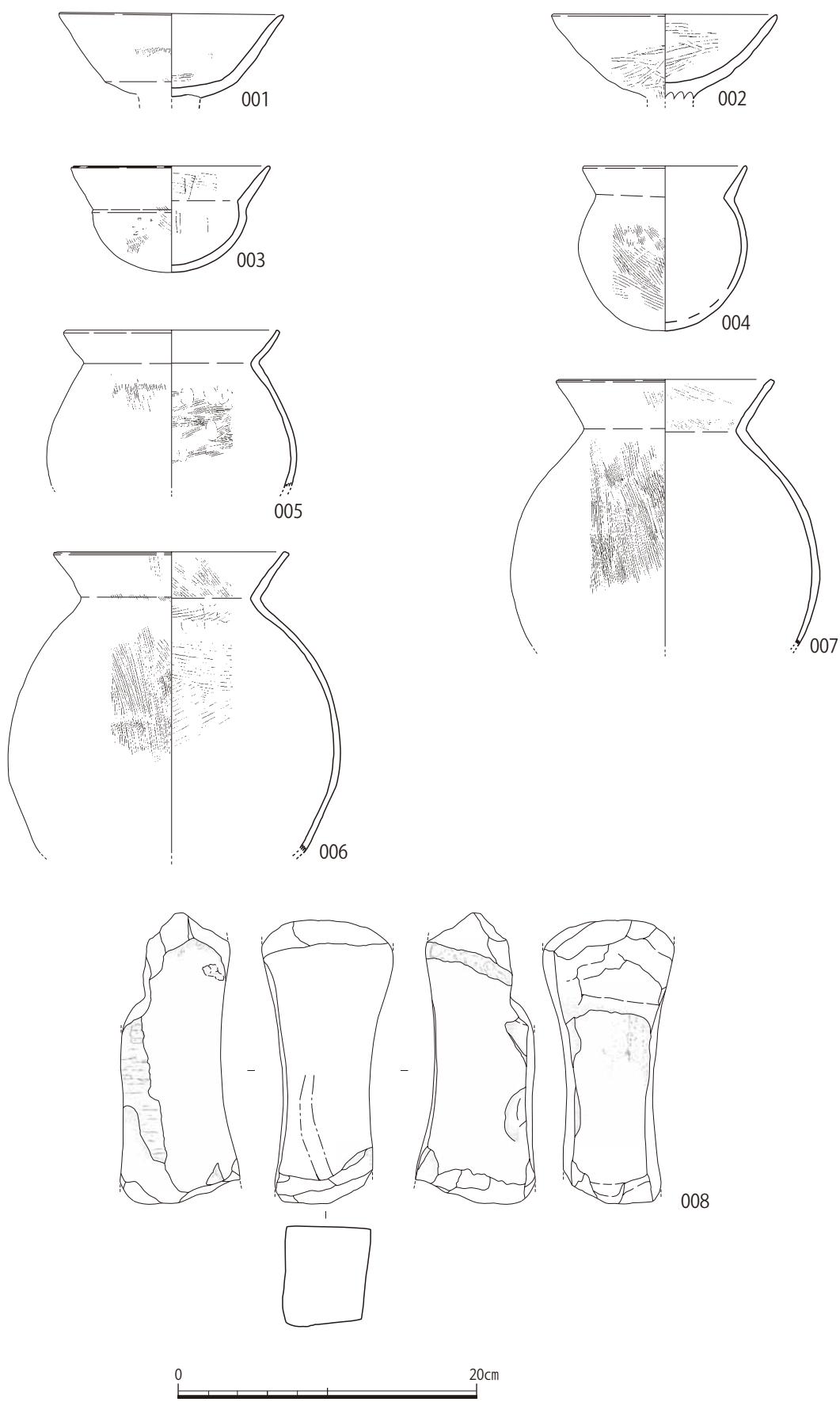
調査区南端で検出し、南西隅を他遺構に切られている井戸状遺構である。平面プランは円形を呈し、検出径約1.15m、最大深度約1.0mを測る素掘りの井戸跡である。井戸枠などの痕跡は認められず、中層付近に地山の崩れた跡が見られる。埋土は暗褐色土を基調とし、最下層のみ黒褐色土である。埋土上層(2層)から土師器が出土し、その下位には焼土塊も認められた。

出土遺物の状況から、古墳時代前期中葉頃の遺構と考えられる。

**20SE018 出土遺物 (第160図)**

001・002は稜をもって直線的に外傾する口縁部をもつ高壺の壺部片である。共に、高壺Cに分類される。口径約15.0cmを測る小さめの壺部をもつタイプである。002は内外面にミガキがみられる。003は壺A-aに分類される小型丸底壺である。体部高と口縁部高がほぼ等しい。004は小形の球形の甕である。005～007はいずれも底部が欠損した中形の球形の甕で、中甕B2-aに分類される。005は「く」の字を開く口縁部で、肥厚し、やや内湾する端部を有する。内面にはハケ目・指頭圧痕が見られる。006は「く」の字状の直線的な口縁部を有し、口縁部外面下方が若干肥厚している。調整は外面にハケ目、内面にハケ目・指頭圧痕が見られる。008は石器で、砂岩製の砥石である。現存長19.0cm、幅8.7cm、厚さ7.7cm、重さ1267.0gを測る。

20SE018は、出土遺物量が少なく、完形品も乏しい。しかし、003の小型丸底壺に見られる体部高と口縁部高がほぼ等しいという形状や、布留式系の流れを汲みながらも粗い作りの甕が存在する点から、古墳時代前期中葉前後の遺構であろうと考えられる。



第 160 図 20SE018 出土遺物実測図 (1/4)

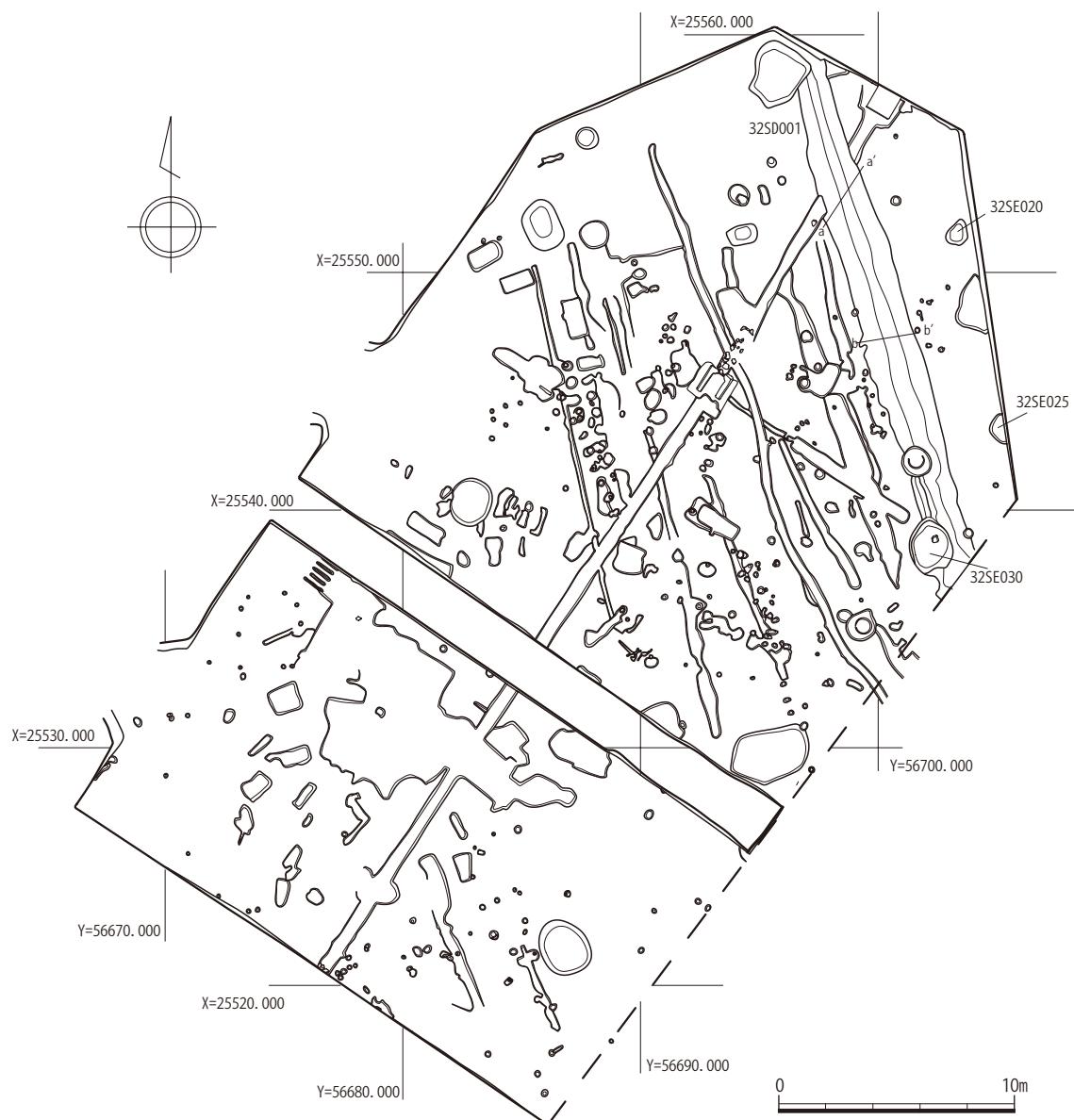
## 第4節 大道遺跡群第32次調査

### 概要

第32次調査区は、今回報告する3地点中最も西側に位置する調査区で、古墳時代前期の遺構群、中世～近代の溝跡・土坑が検出された。

古墳時代前期の遺構は、環濠遺構(32SD001)及び井戸跡(32SE020・025・030)がある。遺構の分布は、南東部が20SD001に繋がる位置づけとなる環濠遺構32SD001が調査区北東辺に沿う形で検出され、井戸跡がこの環濠遺構に一部切り合いをもちながら(32SE030)北東部を中心に井戸跡が存在する。中世～近代の溝跡・土坑については、32SD001の南側、北と南に分かれた調査区のうちでも北側調査区一帯に分布している。溝跡については、その他の調査区同様に古墳時代の環濠と同じかやや西に主軸をもつ方向性を有しており、環濠周辺で密に分布し、南に離れた部分には分布しない。近代の土坑の性格は廃棄土坑と考えられる。

以下、弥生時代・古墳時代環濠関連遺構及び出土遺物についてその詳細を記す。



第161図 大道遺跡群第32次調査区全体図 (1/300)

**32SD001 (第 162 図)**

調査区北東において検出した南北方向に伸びる溝状遺構である。遺構の北端は調査区外に展開し、南端は隣接する 20SD001 と接続する。検出幅約 1.5m ~ 2.3m、検出長約 22.0m、最大深度約 0.9m を測る。断面形状は概ね逆台形を呈する。埋土は暗褐色土～灰褐色土を基調とし、遺構北側の底部は黒色粘質土で、滯水していたことが考えられる。土層堆積は不整合がみられ、少なくとも 1 回の掘り返しがあると考えられる。出土遺物は土師器甕・壺・高坏・鉢・ミニチュア土器とともに製塙土器・土製模造鏡などが出土している。主に 1 ~ 3 層に多く、ある程度埋まった時点で土器が廃棄されたと考えられる。遺構の南側は 32SE030 によって遺構が切られることから、それ以前に埋没した遺構と考えられる。古墳時代前期中葉を中心とした資料であり、溝の埋没時期もこの時期と推定できる。

**32SD001 出土遺物 (第 163 図～第 176 図)**

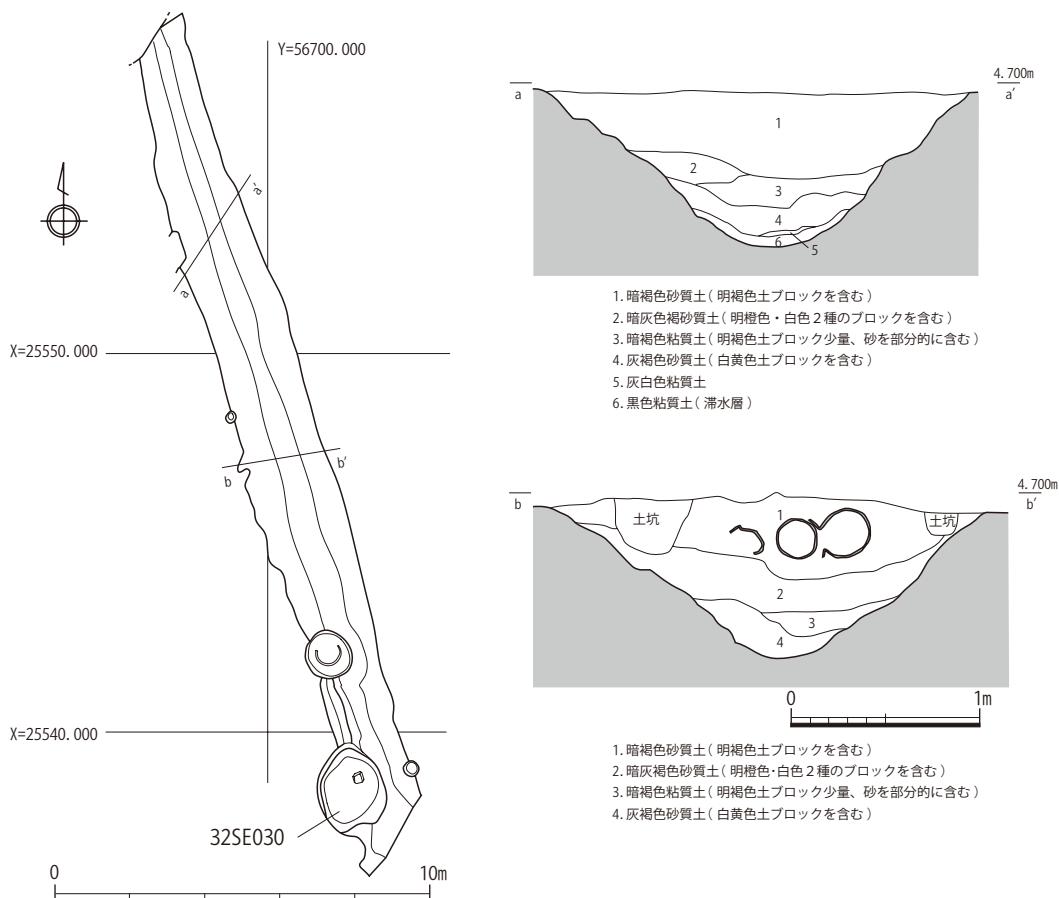
出土遺物には、ミニチュア土器、器台形土器、高坏形土器、鉢形土器、壺形土器、甕形土器、土錘、石器などがある。

**ミニチュア土器・器台形土器 (第 163 図 001 ~ 005)**

001・002 はミニチュア土器鉢である。いずれも内外面に指頭圧痕が明瞭に残る。003 は小形器台である。円孔を中位に 4 箇所施す。004 は小形器台の脚部。005 は高坏もしくは器台脚部。脚柱部の中位に円孔を施す。

**高坏形土器 (第 163 図 006 ~ 014)**

006 ~ 009 は坏部が稜をもって直線的に外傾する口縁部をもち、脚柱部に稜をもって屈曲する脚部をもつ高坏 Ca 類。器高の 1/2 前後の深い坏部をもつタイプ。006・009 は円孔が脚裾部に施す。内外面ともにミガキ調整。



第 162 図 32SD001 遺構実測図 (1/200・1/40)

007・008 は脚柱部中位に円孔を施す。010・011 は高坏 C 類の坏部。012 は脚 a 類で、円孔を屈曲部分に施す。013 は西瀬戸内式の高坏脚部と考えられる。014 は土師器高坏の一部。

32SD001 では実測図化に至った資料が極端に少ない。弥生土器が混じるが、分類する上では高坏 Ca 類のものにとどまった。主体は古墳時代前期前葉頃と考えられる。また、013 のような岡山県百間川原尾島遺跡出土の高坏と形状が酷似しているものが出土している。近年、同遺跡で大分平野の安国寺式壺形土器が出土していることからも、西瀬戸内地域との交流があったことがうかがえる。出土高坏の様相は、弥生時代後期後葉から古墳時代前期中葉頃の内容を備えている。

#### 鉢形土器（第 163 図～第 164 図）

015～018 は鉢 A1 で、皿・坏に近い形状の小形の浅い鉢である。015 は器壁が厚く、口縁端部はヘラ切りのような平坦を呈する。内外面共に調整は粗い。019～023 は鉢 A2 で、椀型の小形の鉢である。024 は鉢 G1 で、小形の平底鉢である。025～030 は鉢 E で、台付鉢である。025・026 は底部の器壁が厚い。028 は在地系に見られない白色の胎土から、外来系と考えられる。031 は鉢 C1 で、口縁部に屈曲を有する浅鉢である。内外面共に、ミガキを施す。032 は鉢 D1 で、口縁部に屈曲を有する深鉢である。屈曲部の僅かに上部に突帯を有し、外面にタテ後ヨコハケ目、内面にケズリを施す。033 は鉢 D3 で、山陰系折衷型の二重口縁鉢である。034 は底部が平底を呈する深鉢。外面ハケ目、内面ケズリを施す。035 はほぼ直角に伸びる口縁部を有する深鉢である。内外面共にハケ目を施し、外面にスス付着。036・037 は弥生時代に比定される平底鉢である。036 は口縁部に指頭痕が見られる。

32SD001 出土の鉢の様相は、台付鉢の脚部形状などから主として古墳時代前期前葉の所産であると考えられる。

#### 壺形土器（第 165 図～第 171 図）

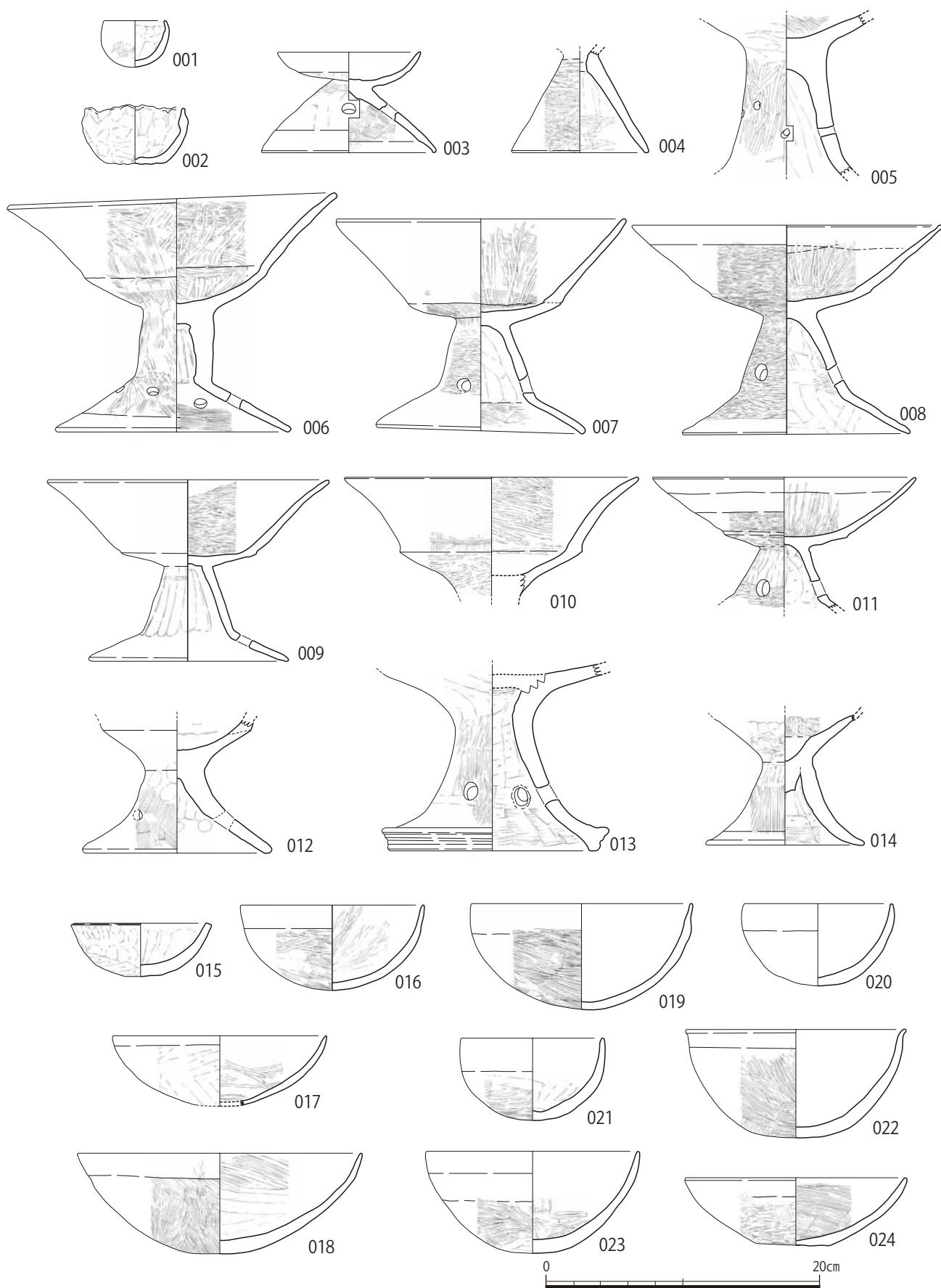
32SD001 から出土した壺形土器は、壺 A 類：小形の丸底壺・鉢、壺 B 類：直口壺、壺 C 類：単口縁壺、壺 D 類：複合口縁壺、壺 E 類：二重口縁壺がある。038～077 は土師器、078～082 は弥生土器である。

038～043 は、小形の丸底壺・鉢である。038～040 は、口縁部が大きく開き、高さが器高の 1/2 程度を占める壺 A-a 類である。038・039 は外面に赤色塗彩か。内外面ともにミガキを施すような精製品は無く、ハケ目・ケズリで仕上げている。041～043 は壺 A-d 類。043 は法量がやや大きい資料である。

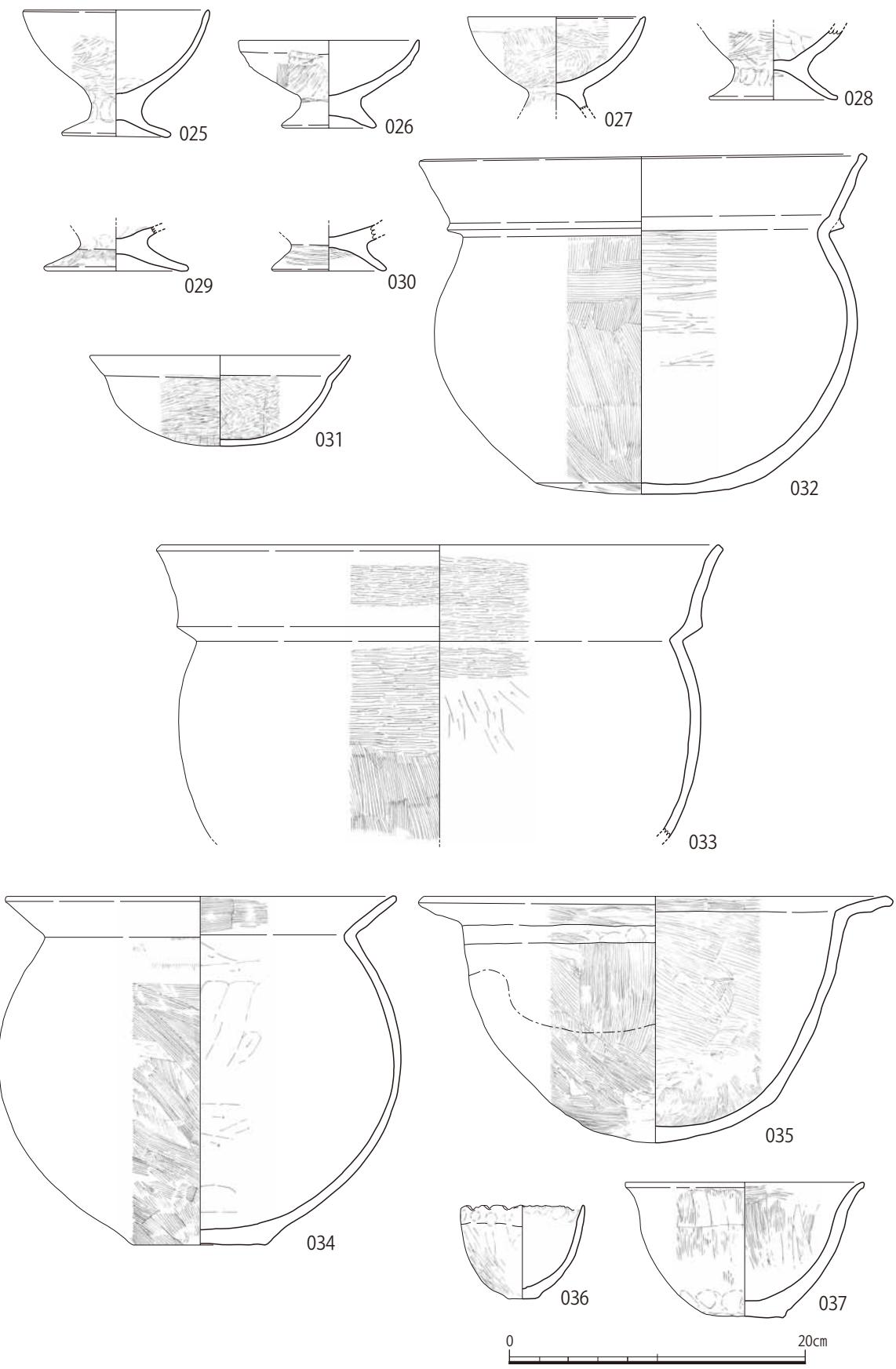
044 は直口壺。口縁端部は内湾し、外面にはススが付着している。045・046 は、直口壺もしくは、小形壺の体部片と考えられる資料である。045 は、内外面ともにミガキが施され、赤色塗彩されるなど丁寧な作りである。

047～053 は、単口縁壺である。047～049 は、器高 15cm 程度の小形。049 は、内外面ともにヘラケズリ。外面にはススが付着している。050～052 は壺 C-a 類で、長胴形の胴部に短く外反する口縁がつく。050 は、内面ヘラケズリ。052 は胴部から底部を欠損する。053 は壺 C-c 類で、球形化が進んだ胴部に大きく開く口縁部を持つ。

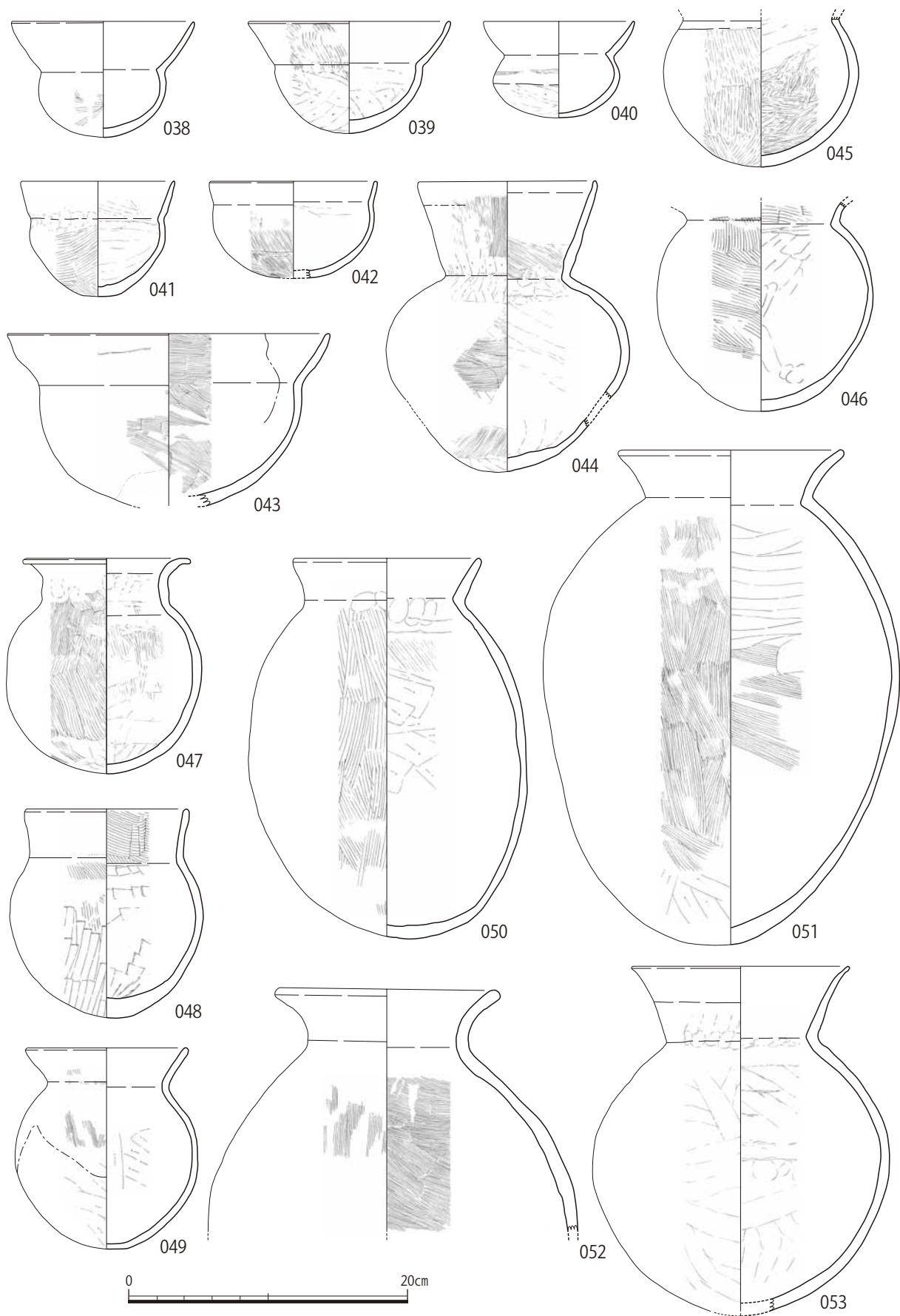
054 は完形で、安国寺式の複合口縁壺と考えられる資料である。複合口縁部には、安国寺式複合口縁壺に特徴的な櫛描波状文を施文せず、斜め方向の沈線を施す。外面は胴部から頸部にかけてハケ目調整を施す。胴部は長胴形で底部は厚く、平底の名残があることなどから、古相を示していると考えられる。古墳時代初頭の所産か。055～058 は壺 D-a 類で、安国寺式タイプの複合口縁壺。胴部及び頸部に突帯を持つ。055 は、複合口縁部を欠損するが、同タイプの壺であると考えられる資料である。056 は底部を欠損するが、器高が 60cm を超える大形の資料である。複合口縁部に文様は施文されない。頸部のしまりが弱く、他資料に比べ広口である。055・056 は胎土が類似する。057 は、やや胴部が球形化している。複合口縁部の立ち上がりも直線的である。058 は複合口縁部を欠損する。057 に比べ長胴化が目立つ。059～061 は壺 D-b 類で、胴部の突帯を省略する。複合口縁部の櫛描波状文は、2 段から 3 段にわたって施文されているが、精緻ではなく、だれた印象となっている。



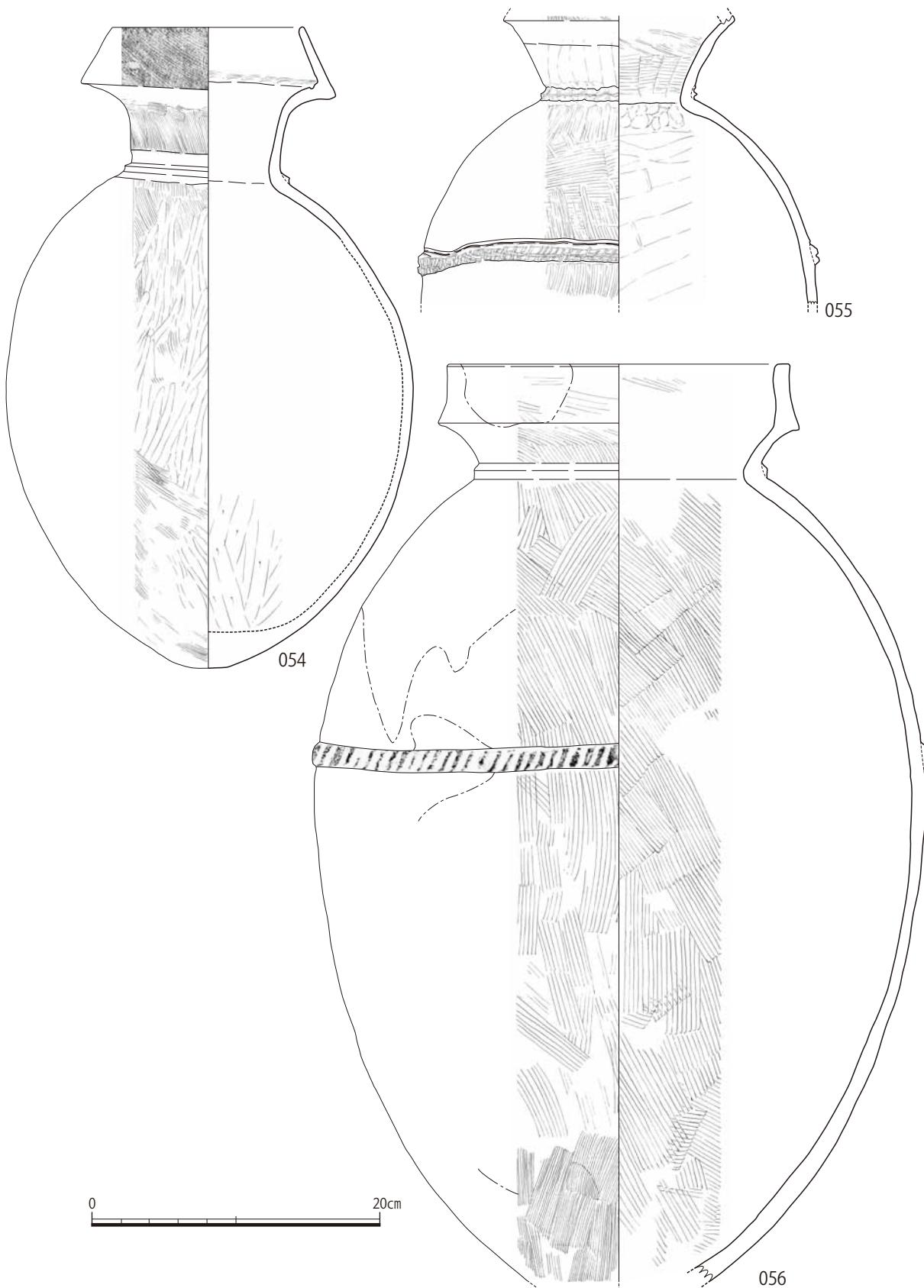
第163図 32SD001出土遺物実測図1 (1/4)



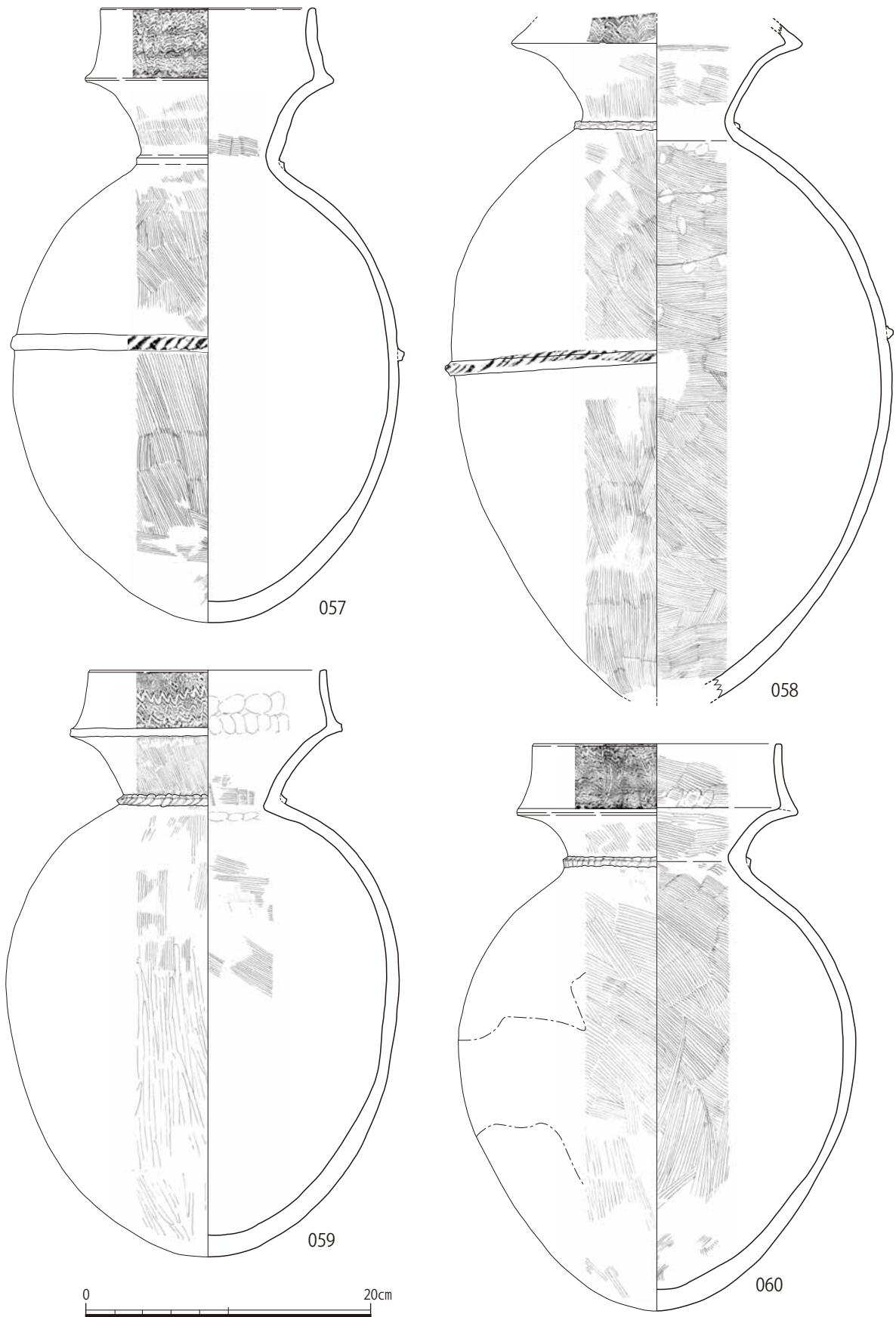
第 164 図 32SD001 出土遺物実測図 2 (1/4)



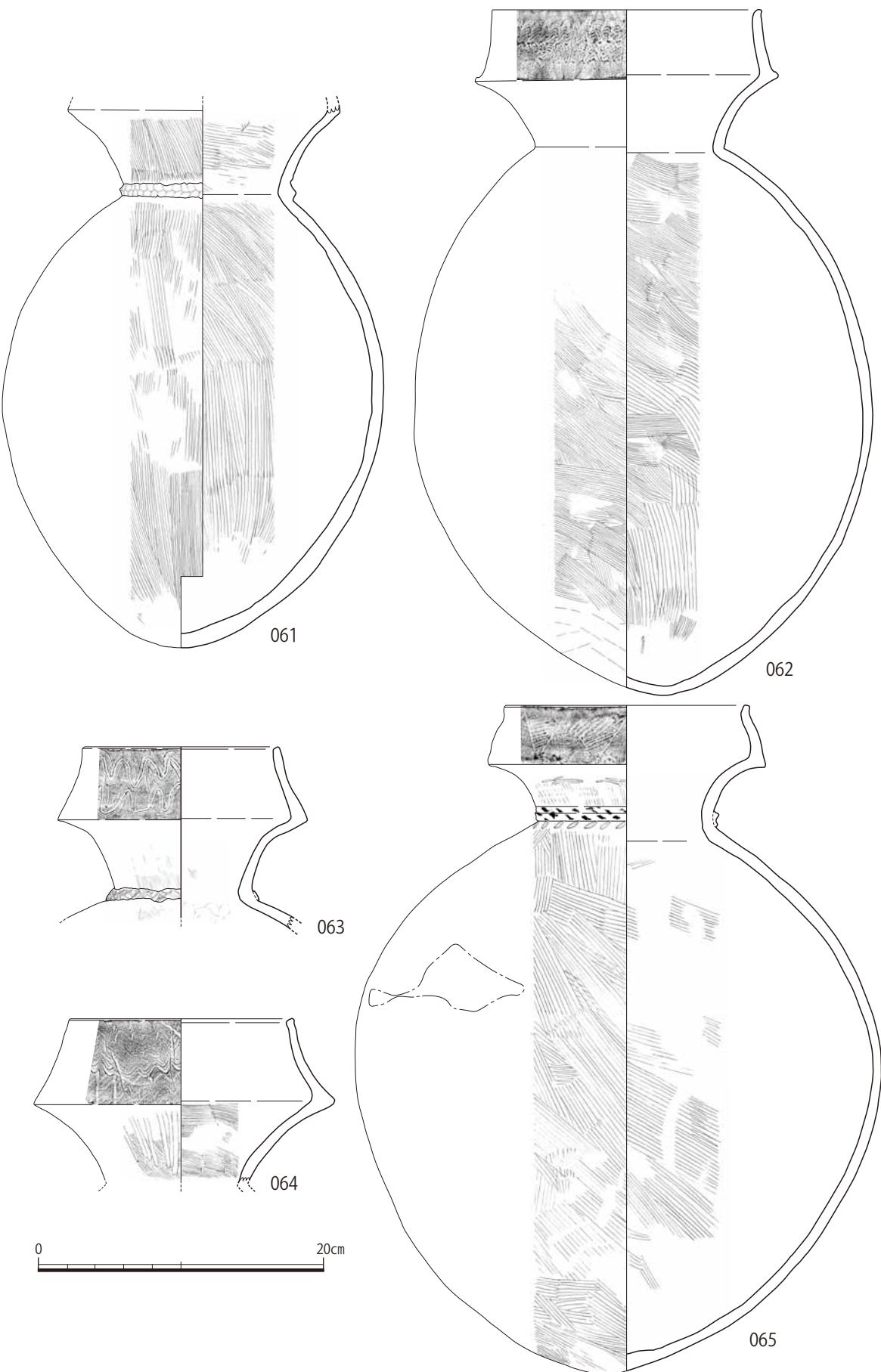
第165図 32SD001出土遺物実測図3 (1/4)



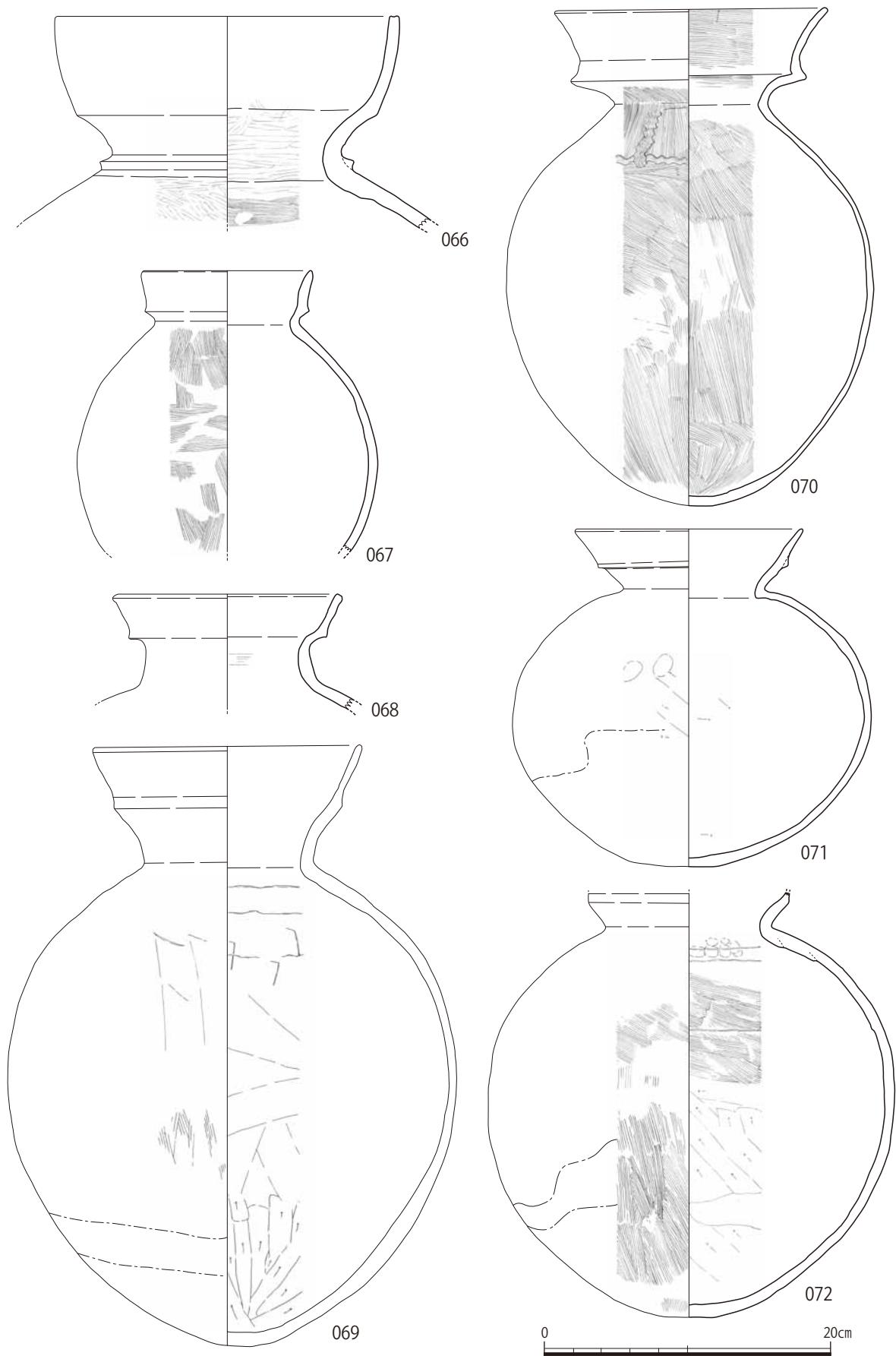
第166図 32SD001出土遺物実測図4 (1/4)



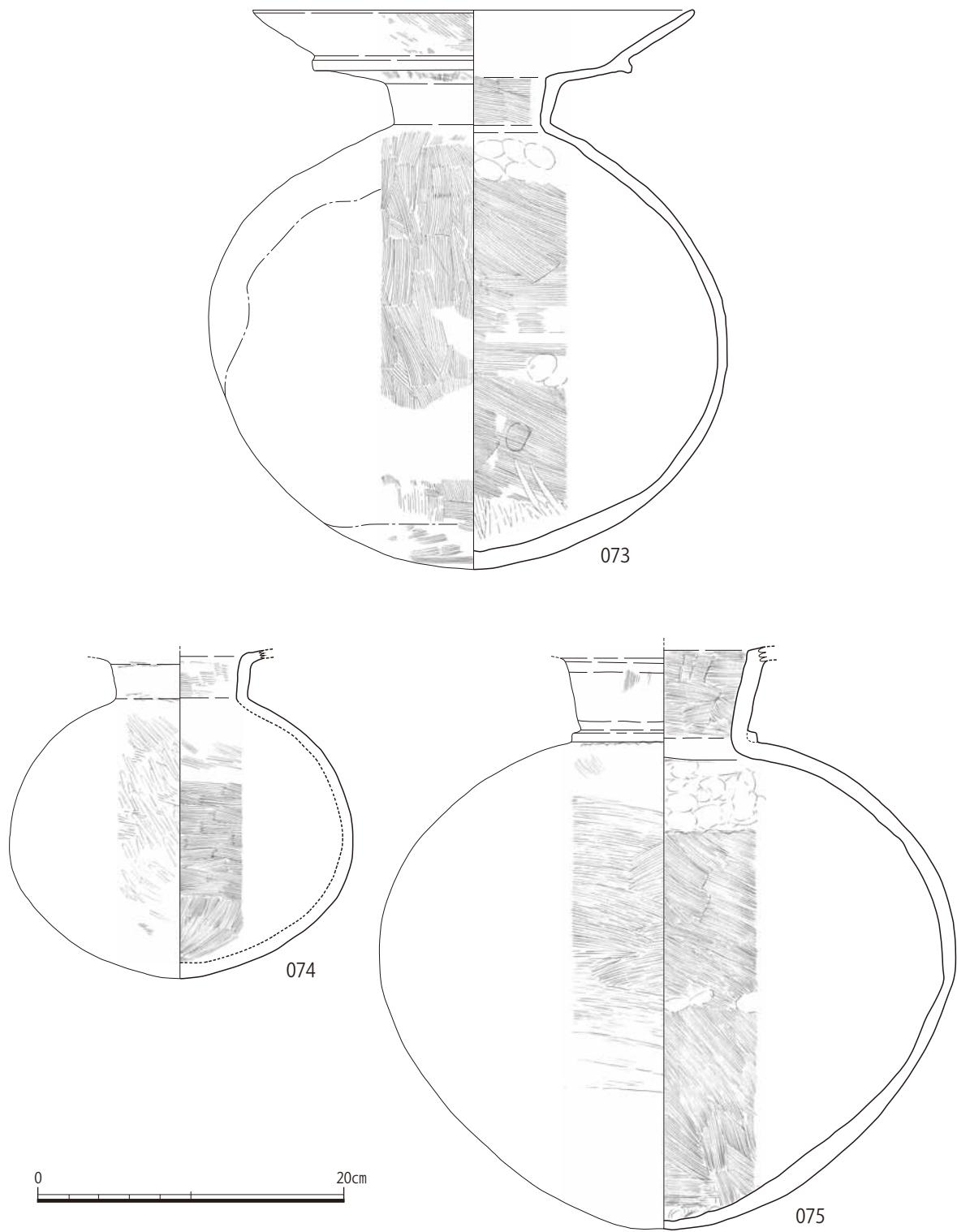
第167図 32SD001 出土遺物実測図5 (1/4)



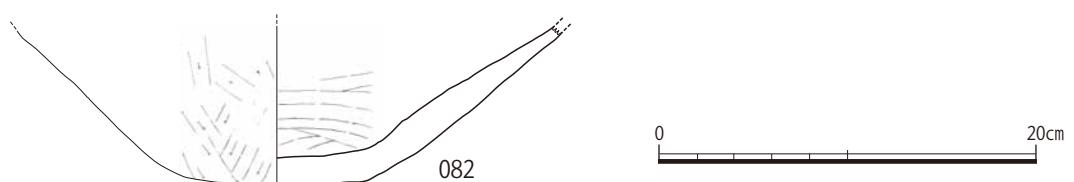
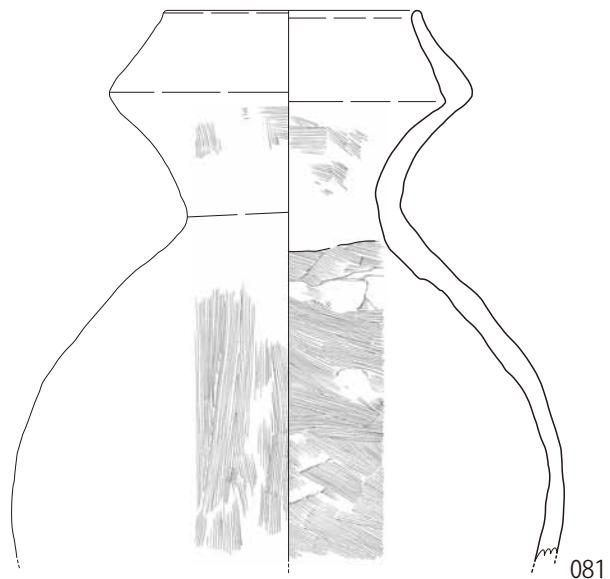
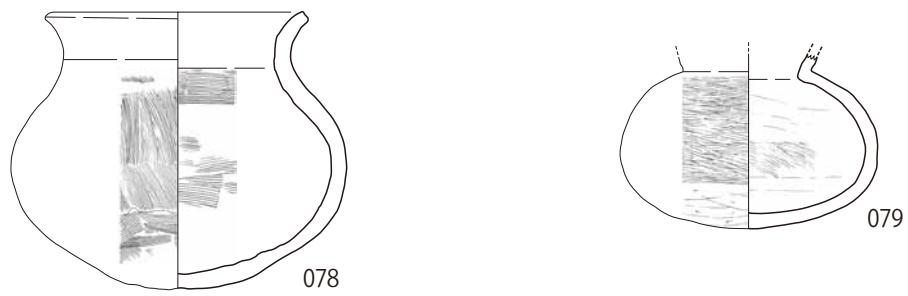
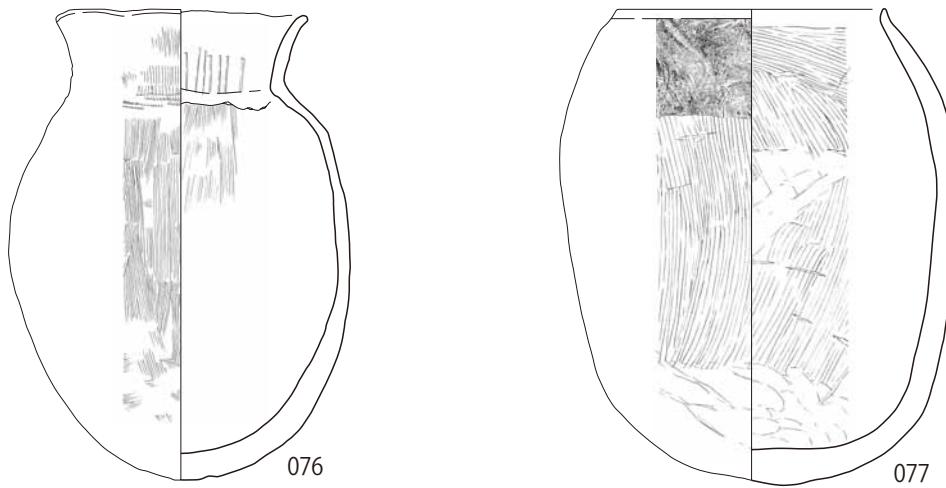
第168図 32SD001出土遺物実測図6 (1/4)



第169図 32SD001出土遺物実測図7 (1/4)



第170図 32SD001出土遺物実測図8 (1/4)



第171図 32SD001 出土遺物実測図9 (1/4)

061は複合口縁部を欠損する。062は壺D-c類で、頸部・胴部の突帯を省略する。複合口縁部の櫛描波状文は粗い。063は、壺D類の複合口縁部片。2条の単位の粗い櫛描波状文が施文される。064は壺D類の複合口縁部片。頸部の突帯を省略する。065は複合口縁部の形状が、壺D-d類に分類した複合口縁壺と類似する壺である。山陰系の影響か。また、かなり球形化がすすんだ胴部形態にも、外来系の影響が考えられる。しかしながら、胴部内面の調整が横方向のケズリではなく、ヨコナデとハケ目であることや、複合口縁部に連続三角文（鋸歯文）が施文されることなど、在地系の壺の特徴を有している。066～067は壺D-d類か。066は口縁部から頸部片。067は、中形で底部を欠損する。外面にはススが付着している。

068～072は壺E-a類で、二次口縁部が大きく開く二重口縁壺である。068は頸部から口縁部資料。069～070は、胴部が比較的長胴の壺である。069は内面にケズリが施される。071～072は、胴部がかなり球形化している。内面にはヘラケズリ、外面にススが付着している。070は、安国寺式タイプの複合口縁壺より明らかに口縁部が外反している。073～075は壺E-b類で、頸部が直立し、1次口縁との境が明瞭なものである。

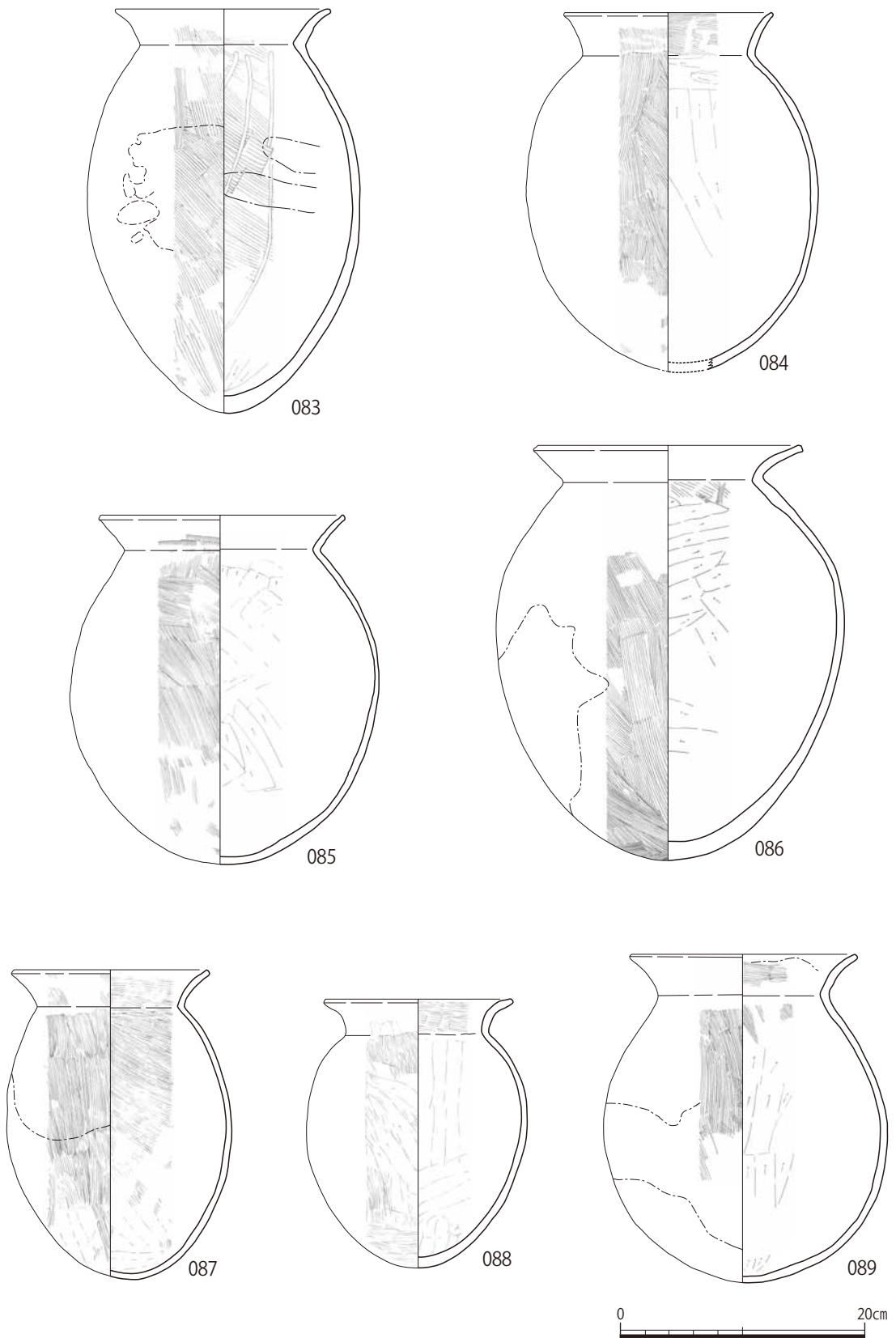
076・077は、土師器壺と考えられる資料である。今回分類していないタイプである。039は底部がかなり厚く、頸部は器壁が薄くなっているが、全体的に粗い作りである。077は、内外面にはハケ目が施される。外面にはタタキか。壺もしくは甕の頸部から上を切り取ったような形状をしている。器壁はかなり厚い。

078～082は、弥生土器壺と考えられる。078は小形壺。079は長頸壺。外面はミガキ調整が施される。080は、安国寺式タイプの複合口縁壺で、小形のものである。複合口縁部の伸びは短く、外面はハケ目調整。弥生時代後期終末の所産か。081は複合口縁壺で、器壁が厚く、外面にはススが付着している。弥生時代後期の所産か。082は、弥生土器壺の底部資料である。しっかりした平底を呈す。

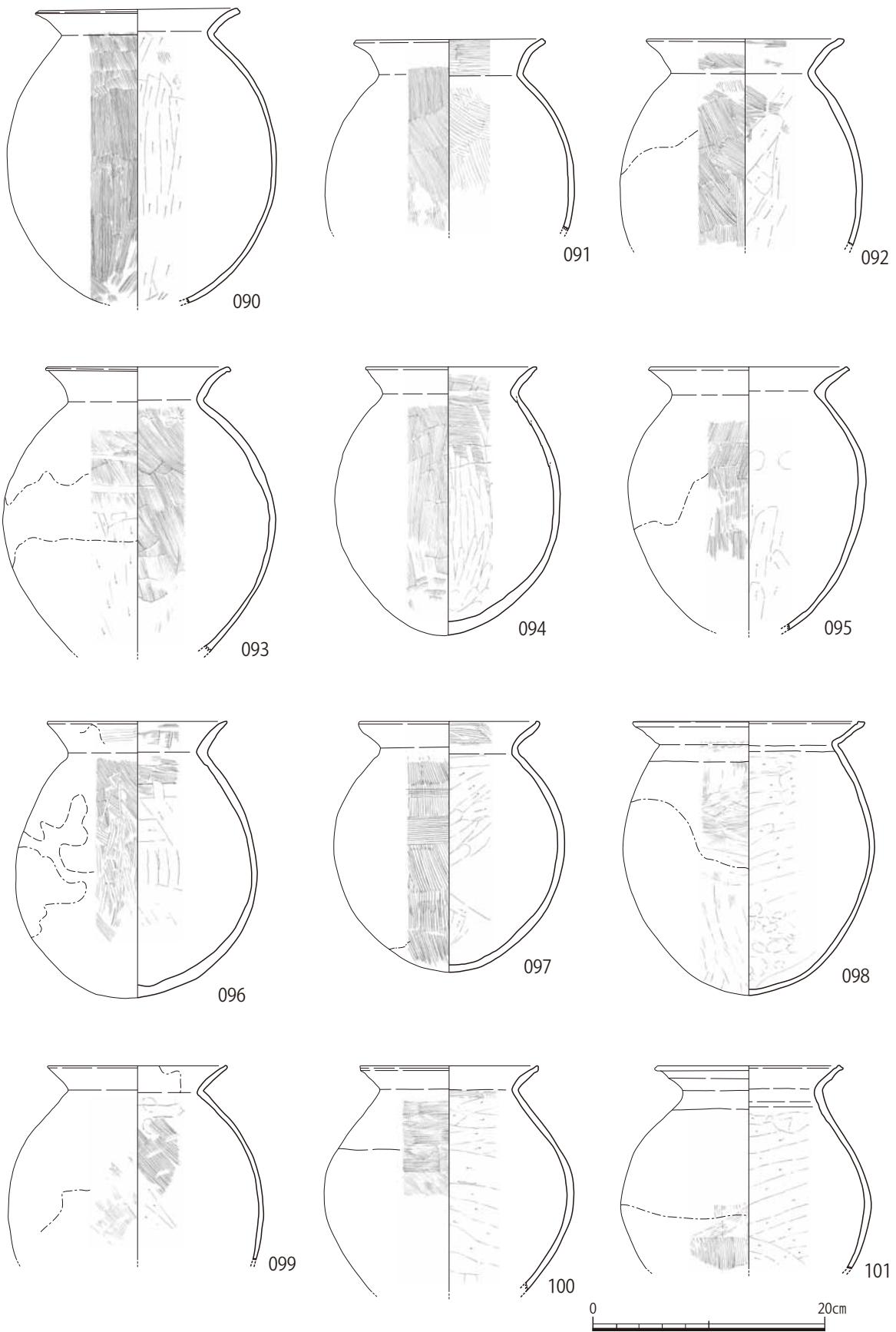
全体の様相として、小型丸底壺は口縁部が伸長する壺A-b類がみられない。また、単口縁壺や複合口縁壺は長胴形が残り、底部はやや尖底気味の資料が混じる。また外来系と思われる壺E類の遺物が比較的多く出土している。23SD001や20SD001と比べ古相を示している。大分市守岡遺跡19号住居跡出土資料と比較すると、やや球胴化がすすんでいる様相がみられ、主体は古墳時代前期前葉でも新相を示していると考えられる。

### 甕形土器（第172図～第175図）

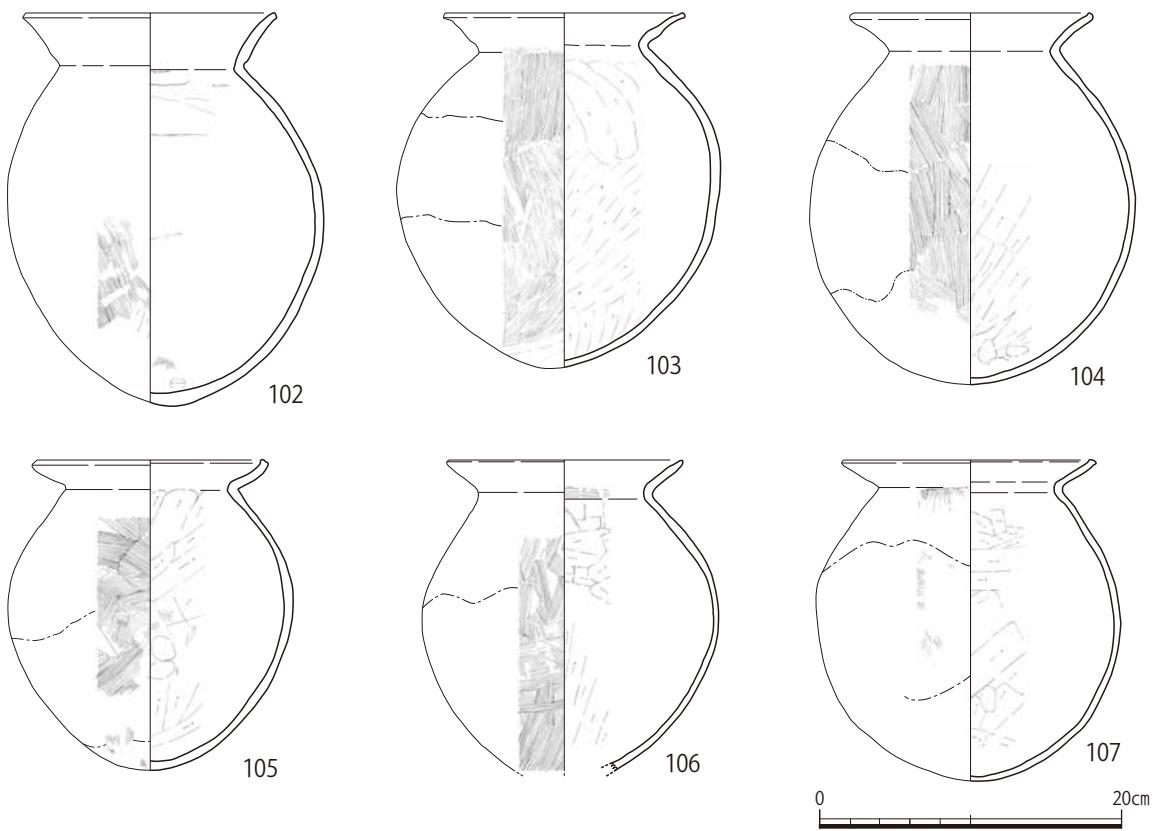
32SD001出土の土師器甕資料は、遺構検出長が他の次数に比して短い事もあり、35点と数が少ない。分類については、他次数と同様に本稿における分類基準に沿って分類する（第190図参照）。大甕の資料のうち甕Aに属する資料は2点のみであり、残りは甕Bに属する資料である。083は復元口径17.6cm、器高33.0cm、最大胴部径22.3cmを測る資料である。内外面ともに橙色を基調とする色調であり、胴部中位付近にはススが付着している。内面底部にケズリが認められるが、器壁は厚く内外面ともにハケ目により調整される。大甕A1-aiに相当する。084～086は大甕Bタイプである。特に086は大きく、口径22.0cm、器高33.9cm、最大胴部径28.3cmを測る。内面はケズリ、外面はハケ目により調整される。底部形状は丸底を呈し、大甕B2-aiiに相当する。087は中甕A1-biiに分類される長胴タイプの甕資料である。内外面ともにハケ目により調整される。088～107は中甕Bタイプに属する資料である。089は口径18.6cm、器高26.8cm、最大胴部径23.2cmを測る。胎土中には角閃石粒・雲母粒等を内包する。内面はケズリ後ナデ、外面はハケ目により調整される。頸部付近は肥厚する。胴部最大径は中位より下がり、下膨れしたフォルムを呈す。090は中甕B1-aiiタイプである。内面はケズリ、外面は綿密なハケ目により調整される。口縁部は外反し、口縁端部は平坦に仕上げられ中ほどに沈線状の窪みを持つ。球形化の進んだタイプである。096は089と同様に下膨れ様を呈する資料であり、中甕B2-aiiに分類される。口径15.5cm、器高23.8cm、最大胴部径は20.7cmを測る。内面ケズリ、外面ハケ目により調整され、頸部の締りはゆるい。器壁は頸部付近から肥厚し口縁端部に向かって先細る。098は復元口径20.0cm、器高23.6cm、最大胴部径21.6cmを測る中甕B2-aiiの資料である。内面底部から胴部上位にかけて指頭圧痕が顕著に見られ、胴部中位ほどから頸部付近までケズリにより調整され器壁は薄い。外面は縦方向の横方向のハケ目が実施されている。また、口縁端部は平坦に仕上げられ、布留式系甕の影響を強く受けた資料



第172図 32SD001 出土遺物実測図 10 (1/5)



第 173 図 32SD001 出土遺物実測図 11 (1/5)

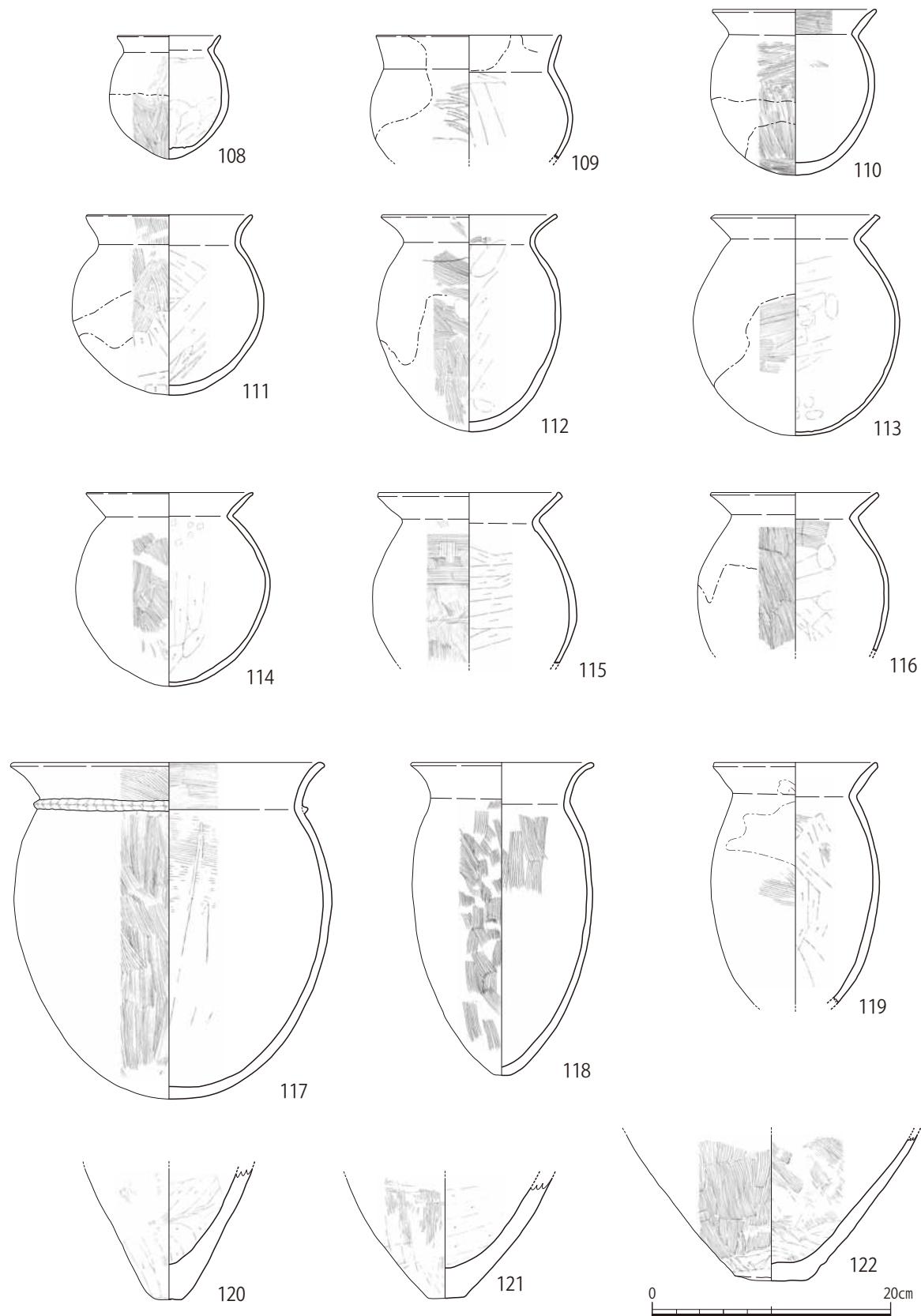


第 174 図 32SD001 出土遺物実測図 12 (1/5)

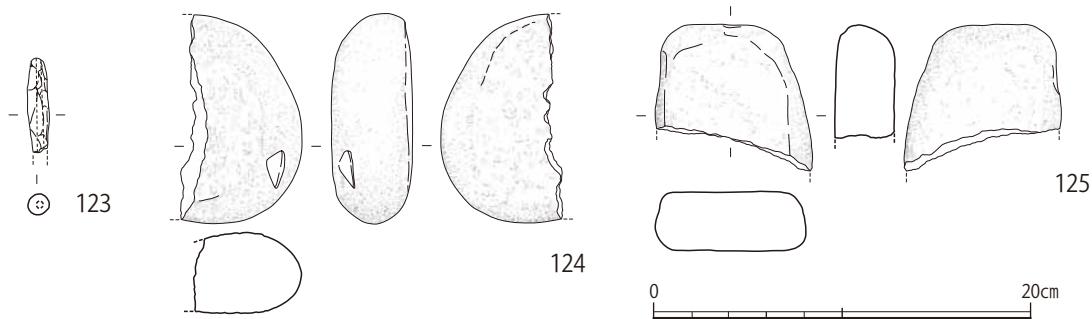
である。104 は復元口径 16.0cm、器高 24.6cm、最大胴部径 21.4cm を測る甕資料である。内面底部に指頭圧痕、ケズリが実施されており、外面はハケ目により仕上げられる。胴部中位にスヌの付着が認められる。頸部の締りは強く、口縁端部は若干のツマミ上げ様の強調が認められる。107 の資料もまた、布留式系甕の属性を具备したものであり、内面のケズリにより器壁の薄壁化は顕著である。108～116 は小甕資料である。109 は底部を欠損する資料であり小形の壺もしくは鉢資料とも考えられるが、本稿では小形の甕資料として分類している。112 は復元口径 14.8cm、器高 18.2cm を測り、内外面ともに明赤褐色を呈する資料である。内面は指頭圧痕およびヘラケズリが認められ、外面はハケ目により仕上げられた小甕である。外来の手法を取り入れた在地系の甕と考えられる。114 は口径 14.0cm、器高 16.2cm を測る。内面は頸部付近に指頭圧痕、底部から胴部はケズリにより調整され、外面はハケ目が実施される。117 は頸部に突帯をもつ広口甕である。口径 26.1cm、器高 28.2cm を測り、内面・灰褐色、外面・ぶい橙色を呈する。内面は工具によるナデ、横方向のハケ目、外面は綿密なハケ目により調整される。118～122 は弥生時代後葉～終末の範疇におさまると考えられる資料である。118 は口径 15.4cm、器高 26.2cm を測り、内外面ともにハケ目により調整される。底部形状はわずかに平底を残す。120～122 は底部資料である。いずれの資料も底部は明瞭な平底を呈していることから弥生時代後葉後葉から終末の所産と判断される。

ここで、32SD001 出土甕の時間的位置づけを分類結果を踏まえ検討する。

32SD001 出土の甕資料は 35 点と少ないが、そのうち球形タイプの甕 B に属するものは 9 割を占め、残る長胴タイプの甕 A は僅少である。また、口縁部形態別に見ると 2 類にあたる直線的に立ち上がるタイプのものが 7 割を占めている。底部形態別では、8 割強が ii 類にあたる丸底タイプである。以上の事から 32SD001 出土の甕は球形タイプのものが主流であり、口縁形態も直線的なタイプのものであり、底部は丸底である。この結果から 32SD001 出土の甕は古墳時代前期中葉から前期後葉の様相を示すと推定される。具体的に示せば、089・096・104 などは新來の技術が定着し球形タイプの甕が主流を占める中で製作されたものと考えられ、調整



第 175 図 32SD001 出土遺物実測図 13 (1/5)



第176図 32SD001出土遺物実測図14(1/4)

の粗雑化や口縁端部の処理に伴い、胴部形態などは球形から下膨れの形状に移行しているものである。類似の資料が植田市遺跡E区溝資料に求められ、古墳時代前期中葉から前期後葉の時期に相応すると考えられる。しかしながら、083・087のような長胴タイプのものや117にみられる突帯が貼付された、底部丸底の広口甕など古墳時代前期中葉に属する資料も認められることから、32SD001出土の甕は古墳時代前期中葉から後葉に位置付けられ、その主体は古墳時代前期中葉と考えられる。

#### 土錘・石器(第176図)

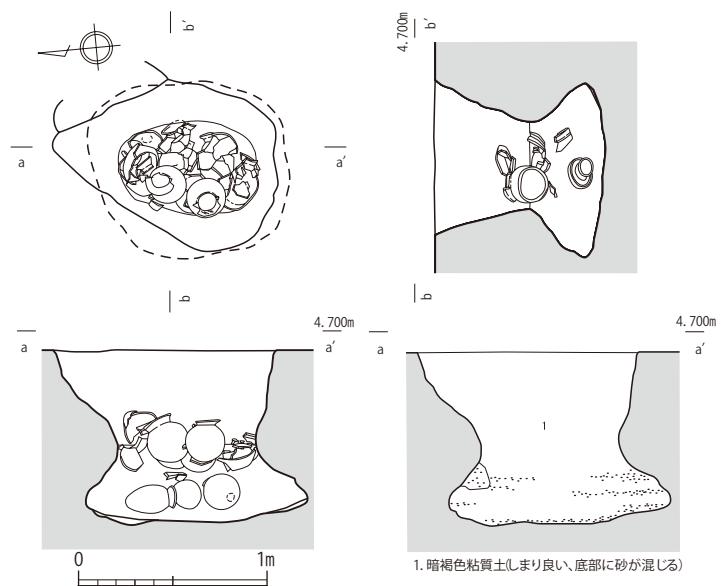
123は土錘である。124は角閃石安山岩製のすり石である。すり面に敲き成形の痕跡がみられる。長さ11.1cm、幅6.4cm、厚さ4.3cm、重さ419.8gを測る。125は角閃石安山岩製の敲き石か。色調は灰黄色で、残存長7.7cm、幅8.3cm、厚さ3.1cm、重さは335.0gを測る。調整は不明である。

#### 32SE020(第177図)

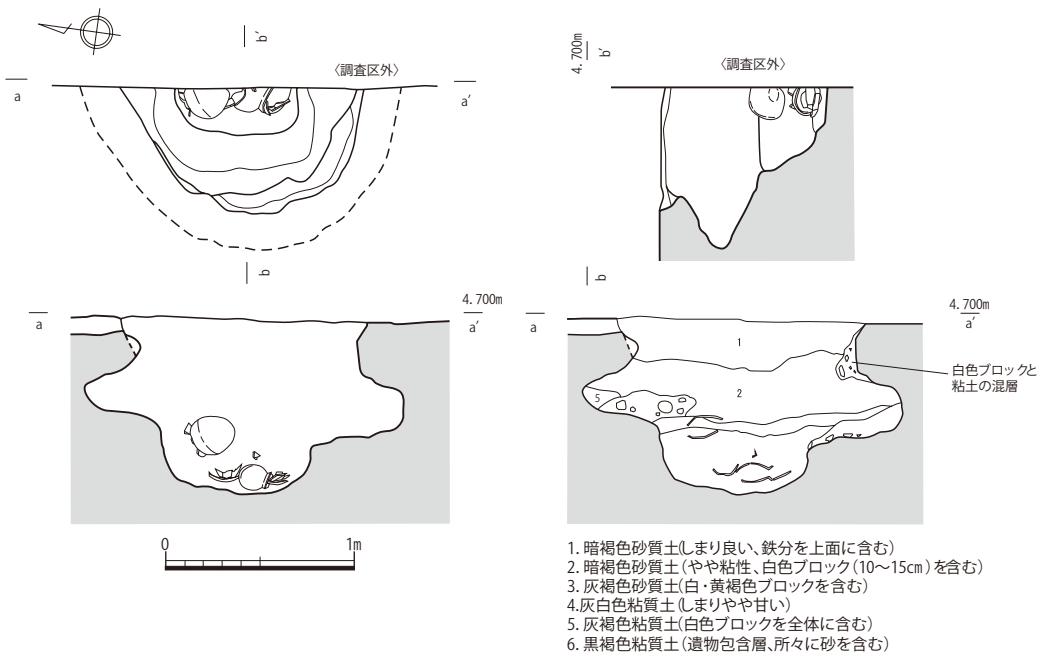
調査区北東において検出された遺構で、平面プランは橢円形状を呈する井戸状遺構と考えられる。長径1.1m、短径0.9m、最大深度0.9mを測る。断面形状はフラスコ状を呈する。井筒の痕跡は認められず、素掘りの井戸であったと考えられる。検出面から0.8m付近は滯水時の浸食により、壁面がオーバーハンプグしている。埋土は暗褐色粘質土を基調とし、底部に近づくにつれ粘性を増し、砂が混じる。出土遺物はほぼ完形の土師器甕・壺がまとまって出土している。一括廃棄されたものと考えられる。上層の遺物は32SE025の下層の出土遺物と接合関係にあるため、同時期に廃絶されたことが推測できる。出土遺物から古墳時代前期前葉から前期中葉頃と考えられる。

#### 32SE025(第178図)

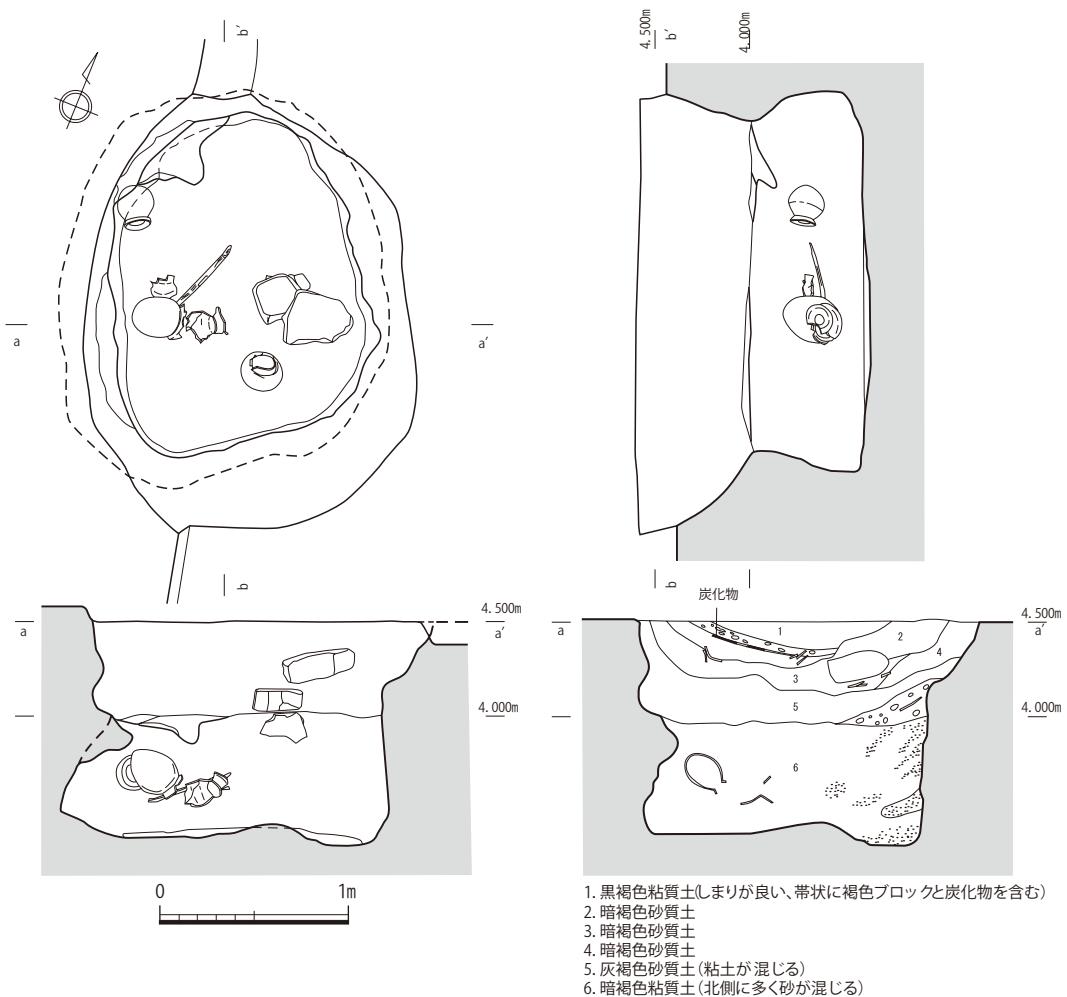
調査区中央からやや東において検出され、平面プランが不整円形状を呈する井戸状遺構と考えられる。東側半分は調査区外に展開しており、全容は不明である。検出南北径約1.3m、東西径0.6m+α、最大深度約0.9mを測る。井筒の痕跡は確認されず、素掘りの井戸であったと考えられる。壁面の中央付近は滯水時の浸食によって大きくオーバーハンプグしている。出土遺物は6層下位付近から完形の土師器甕が出土している。接合関係が32SE020上層とあることから同時期の廃絶が推測される。出土遺物から古墳時代前期前葉から前期中葉頃と考えられる。



第177図 32SE020遺構実測図(1/40)



第178図 32SE025 遺構実測図 (1/40)



第179図 32SE030 遺構実測図 (1/40)

**32SE030(第179図)**

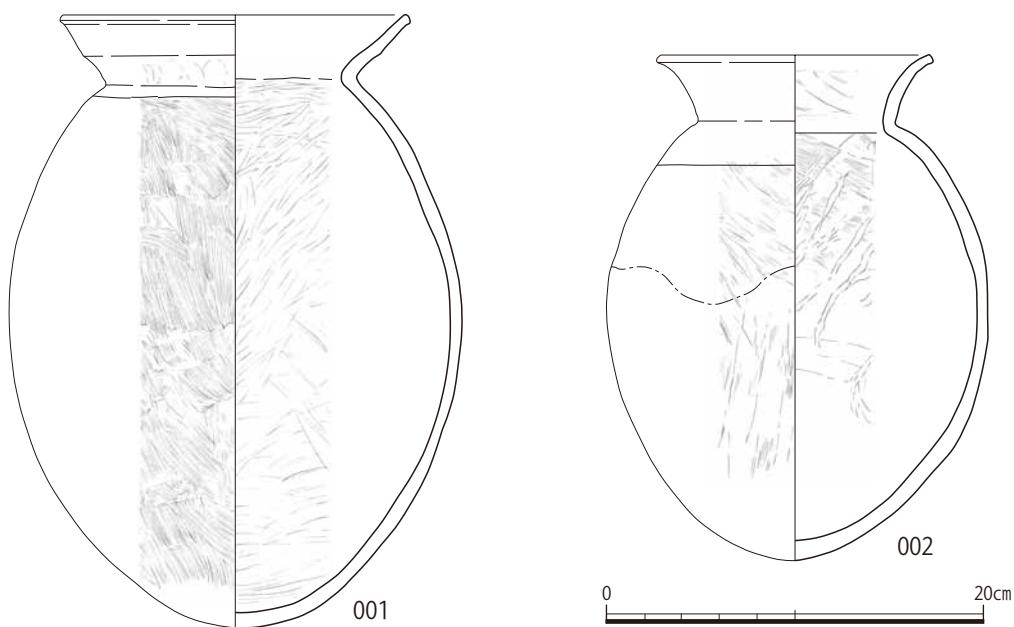
調査区東において検出され、32SD001の南端を切る井戸状遺構である。平面プランは橢円形状を呈し、長径約2.3m、短径約1.8m、最大深度約1.2mを測る。井筒の痕跡は確認されず、素掘りの井戸と考えられる。井戸の下半の西壁では壁面がオーバーハングしている。滞水時の浸食によるものか。1層は褐色土ブロックと炭化物を含む。2～4層では完形の土師器高环、小型丸底壺、単口縁壺、甕、砥石片などが出土している。砥石片は、砂岩製で面取り(5面)をしている。長さ3.2cm、幅3.7cm、重さ51.6gを量る。6層では完形の土師器甕、壺、ミニチュア土器などが出土している。32SD001との遺構間接合が認められる。また、井戸の基底部では桃の種子が出土している。遺構の廃絶時期は、出土遺物から古墳時代前期後葉頃と考えられる。

**32SE020・SE025 出土遺物(第180図～第182図)**

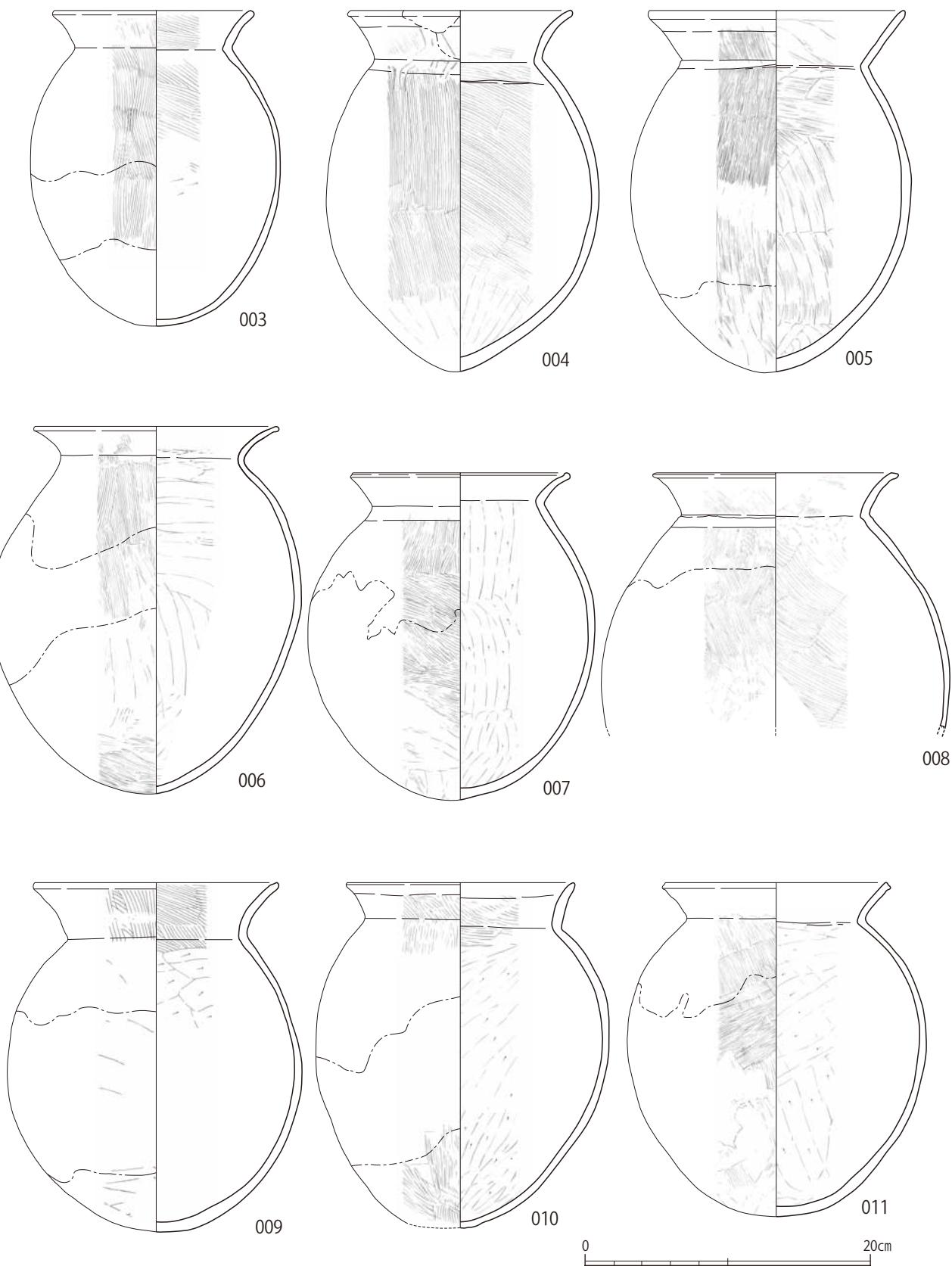
32SE020・32SE025では遺構間接合がみられるため、出土遺物を一括掲載する。出土遺物は土師器壺・甕で、完形品が6点出土している。32SE020上層と32SE025下層の土器片が接合することが整理段階で確認され、それによりほぼ完形に復元できたものも複数点あげられる。ほぼ全個体の外面にスヌ付着が認められる。

001・002は壺である。長胴卵形の胴部に短く外傾する口縁部を有する壺C-a類で、001は底部が丸底を呈する。口縁部の中位に稜が認められ、二重口縁形状化への意識が感じられる。32SE020 暗褐色粘質土下層から完形で出土。002は口縁部が短くやや外反し、底部は丸底を呈する。

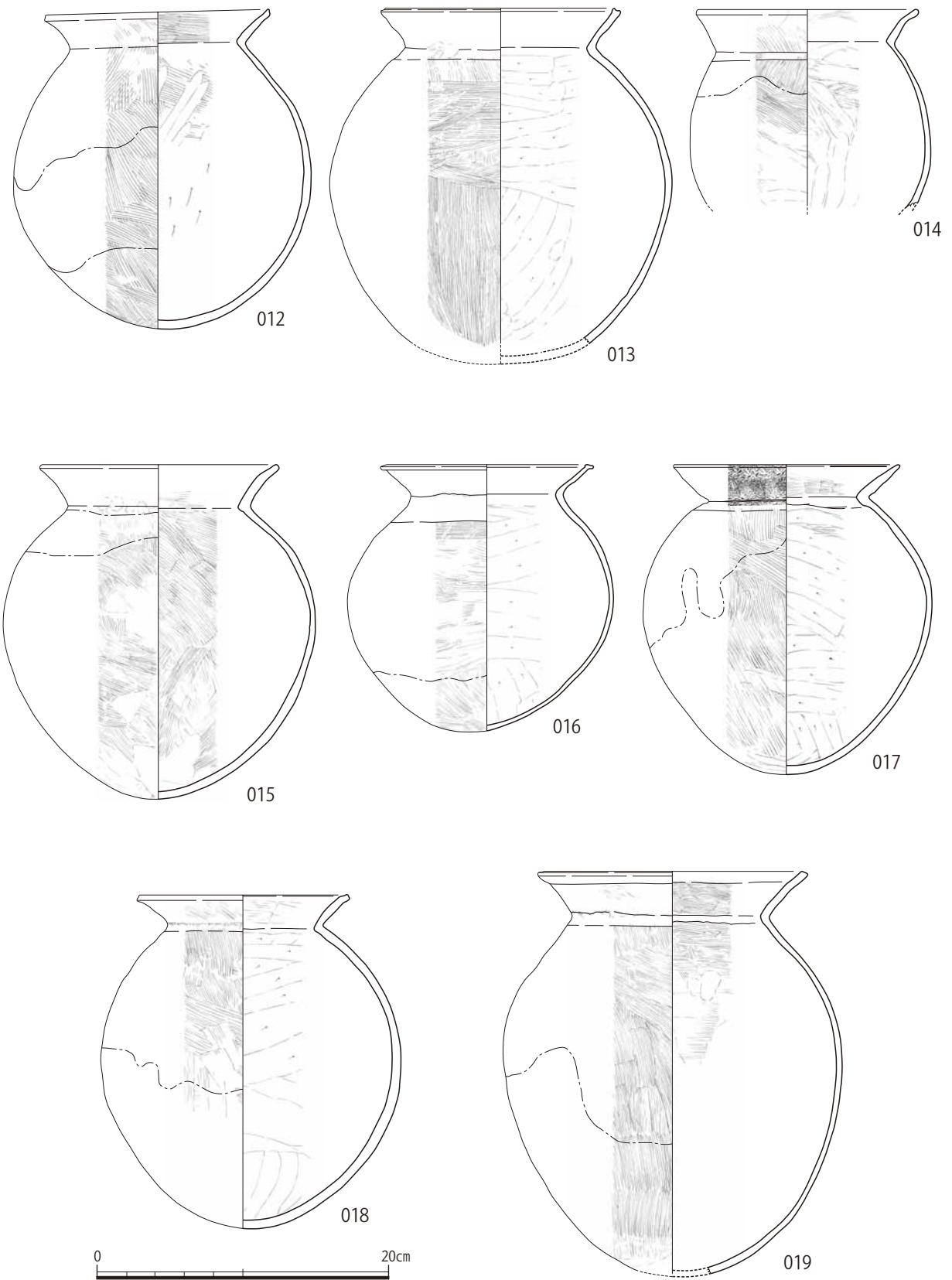
003～019は甕である。003～005は胴部が長胴形状を呈するもの(中甕A)である。003は口縁部が外反し、丸底を呈する。法量は、口径14.1cm、器高22.1cm、最大胴部径17.5cmを測る。004は口縁部が外反し、尖底を呈する。005は口縁部が直線的に外傾し、尖底を呈する。法量は、口径15.8cm、器高25.2cm、最大胴部径19.7cmを測る。004・005は32SE020 暗褐色粘質土下層から完形で出土。006～019は胴部が球胴形状を呈するもの(中甕B)である。006～009は口縁部がやや外反し、底部は丸底を呈する。006は口縁端部が肥厚する。法量は、口径19.2cm、器高25.7cm、最大胴部径21.8cmを測る。内面はヘラケズリ。32SE025 黒褐色粘質土から出土。007は口縁端部をつまみ上げ、内側に丸くおさめる。法量は、口径15.4cm、器高22.9cm、最大胴部径20.1cmを測る。調整は、外面は縦方向のハケ目から横方向のハケ目、内面はヘラケズリ。008は底部が欠損する資料。調整は、外面は縦方向のハケ目、内面は頸部に指オサエ以下斜め方向のハケ目を施す。009は、内面上半部にヘラケズリ。法量は、口径17.2cm、器高24.4cm、最大胴部径20.6cmを測る。内外面にスヌが



第180図 32SE020・025 出土遺物実測図1 (1/4)



第181図 32SE020・025出土遺物実測図2 (1/4)



第182図 32SE020・025出土遺物実測図3 (1/4)

付着。007・009は32SE020暗褐粘質土下層から完形で出土。010～019は、口縁部が直線的に外傾し、底部は丸底を呈する。010は口縁部が肥厚気味。法量は、口径16.0cm、器高24.1cm、最大胴部径20.6cmを測る。調整は、外面は上部と底部は縦方向のハケ目、内面はハケ目・ケズリを施す。011は口縁端部を平坦にし、沈線状の凹みがみられる。調整は、外面は縦方向のハケ目から横方向のハケ目、内面は頸部に指オサエ、以下はケズリを施す。32SE020下層の出土。012は最大胴部径が中位で、球形化の進んだタイプである。法量は口径15.4cm、器高21.9cm、最大胴部径20.2cmを測る。調整は、外面は縦方向のハケ目から斜め・横方向のハケ目、内面は横方向のハケ目・ケズリを施す。013・018・019口縁端部を平坦にし、沈線状の凹みがみられる。外面の調整は、縦方向のハケ目・横方向のハケ目が施される。内面の調整は、013・018はケズリ、019はハケ目・指オサエが施される。014は口縁端部が肥厚する。底部を欠損する資料である。017は口縁部が肥厚する。法量は、口径15.5cm、器高21.2cm、最大胴部径19.9cmを測る。調整は、内面に横方向のハケ目後ケズリ、外面は体部の上位は縦方向のハケ目から横方向のハケ目を施す。015・017は32SE025暗褐粘質土出土。016は口縁端部の上面を平坦に仕上げる。法量は、口径14.6cm、器高18.3cm、最大胴部径18.2cmを測る。調整は、外面は横方向のハケ目、内面はヘラケズリ。018は32SE020上層出土。

出土遺物から、001のような口縁部が二重口縁を意識した形状の壺は、下郡遺跡群90SH020が示すような古墳時代前期中葉頃の壺と同様の形状をなす。内面の調整はヘラケズリで仕上げられる。壺は長胴のものや尖底を呈する古い様相がみられるが、球形化が進み丸底を呈する新しい様相のものが大半を占める。調整も、内面の調整にケズリを施すことや017の壺のように外面の調整が頸部から肩部付近は縦方向のハケ目、それ以下は横方向のハケ目に転じるなど外来系技術の影響を受けている。全体の様相は古墳時代前期前葉から前期中葉頃と考えられる。

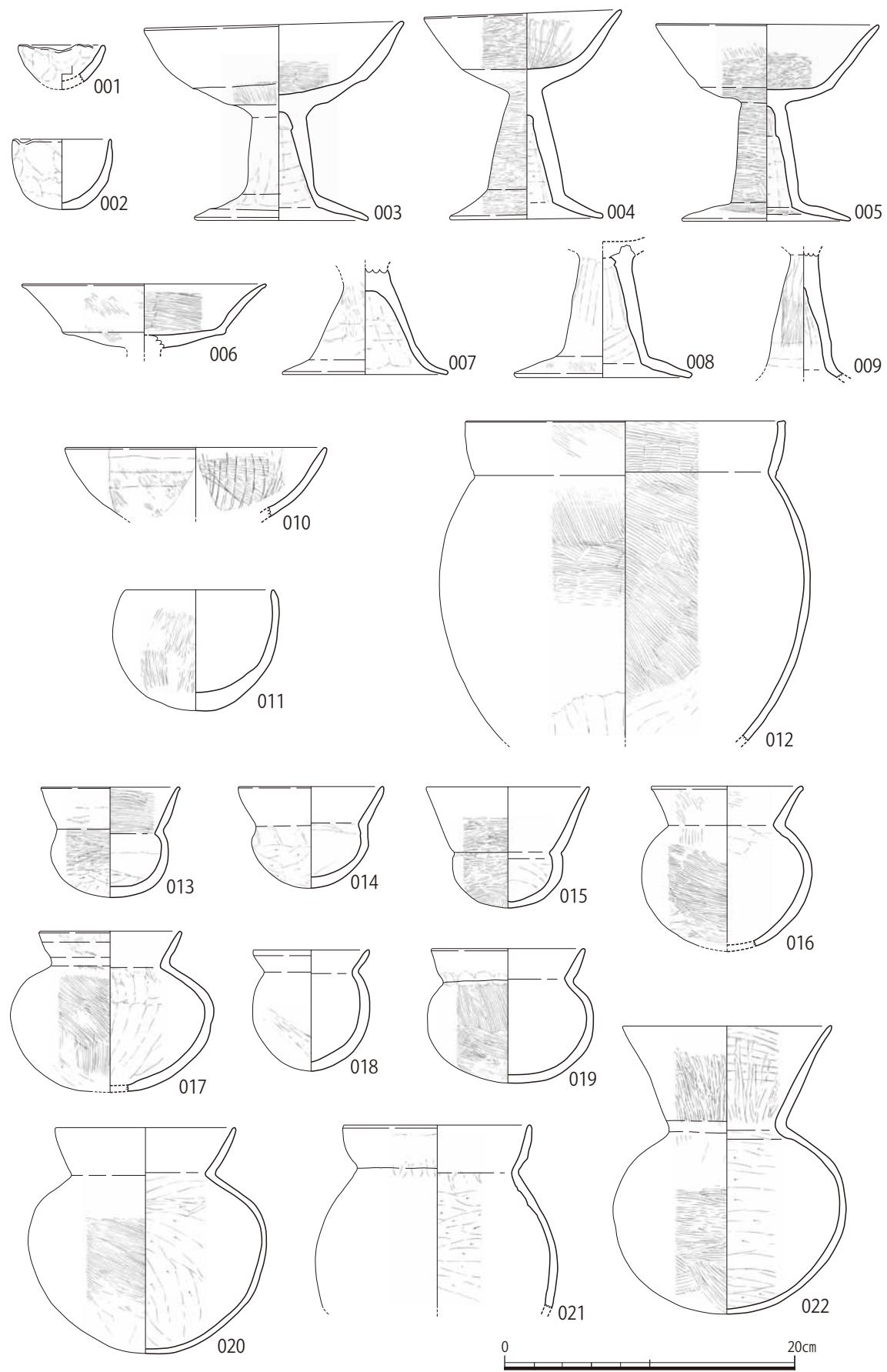
### 32SE030 出土遺物（第183図～第186図）

出土遺物は、ミニチュア土器、土師器高坏、鉢、壺、甕がある。

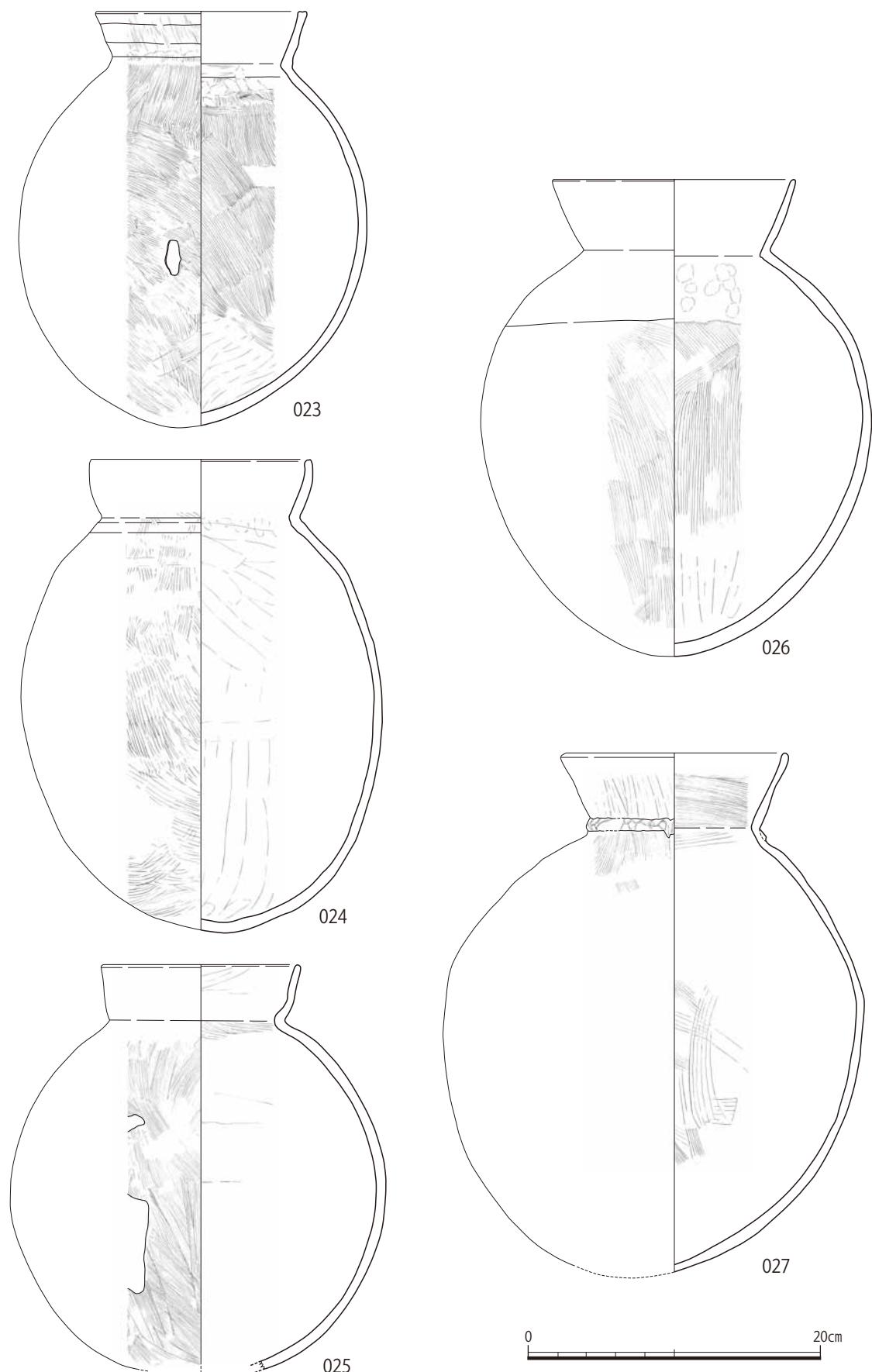
001・002はミニチュア土器鉢である。003～009は高坏である。003～005は稜をもって直線的に外傾する坏部に、脚柱部から稜をもって低平に屈曲する脚をもつ高坏C類。003は、坏の深さが器高の1/3前後の浅い坏部をもつ高坏Cd類。口径は17.8cmを測る。004・005で、小さめの坏部に脚部が細長く稜をもって低平に屈曲する高坏Ce類。いずれも完形で出土した。004は外面が丁寧なミガキで、坏内面には放射状のミガキを施す。脚柱部はエンタシス状を呈する。口径13.6cmを測る。005は004に比べ器壁が薄く、坏底部の平坦化が進んでいる。内外面ともに丁寧なミガキがみられる。口径15.4cmを測る。006は坏部C類の資料。口縁端部を外側に丸くおさめる。007～009は坏部C類と組合せられる脚部の資料である。007はラッパ状で直線的に広がる脚部（脚c類）で、内面はヘラケズリ。008は脚柱部から稜をもって低平に屈曲する脚部（脚e類）である。009は脚柱部のみ残存する資料。004と同様の高坏Ce類と考えられる。外面はハケで004に比べ雑な仕上がりである。

010～012は鉢である。010は底部が欠損しているが、坏・皿状に近い形状の鉢（鉢A）と考えられる。内面は放射状のミガキを施す。011は010より深く、口縁部が内湾する椀状を呈する鉢（鉢B）である。口縁端部は細く先細るのに対し、底部は肉厚である。012は口縁部が屈曲し深いタイプの鉢（鉢D）である。口縁部は内湾して立ち上がり、端部は平坦に仕上げる。底部は欠損している。

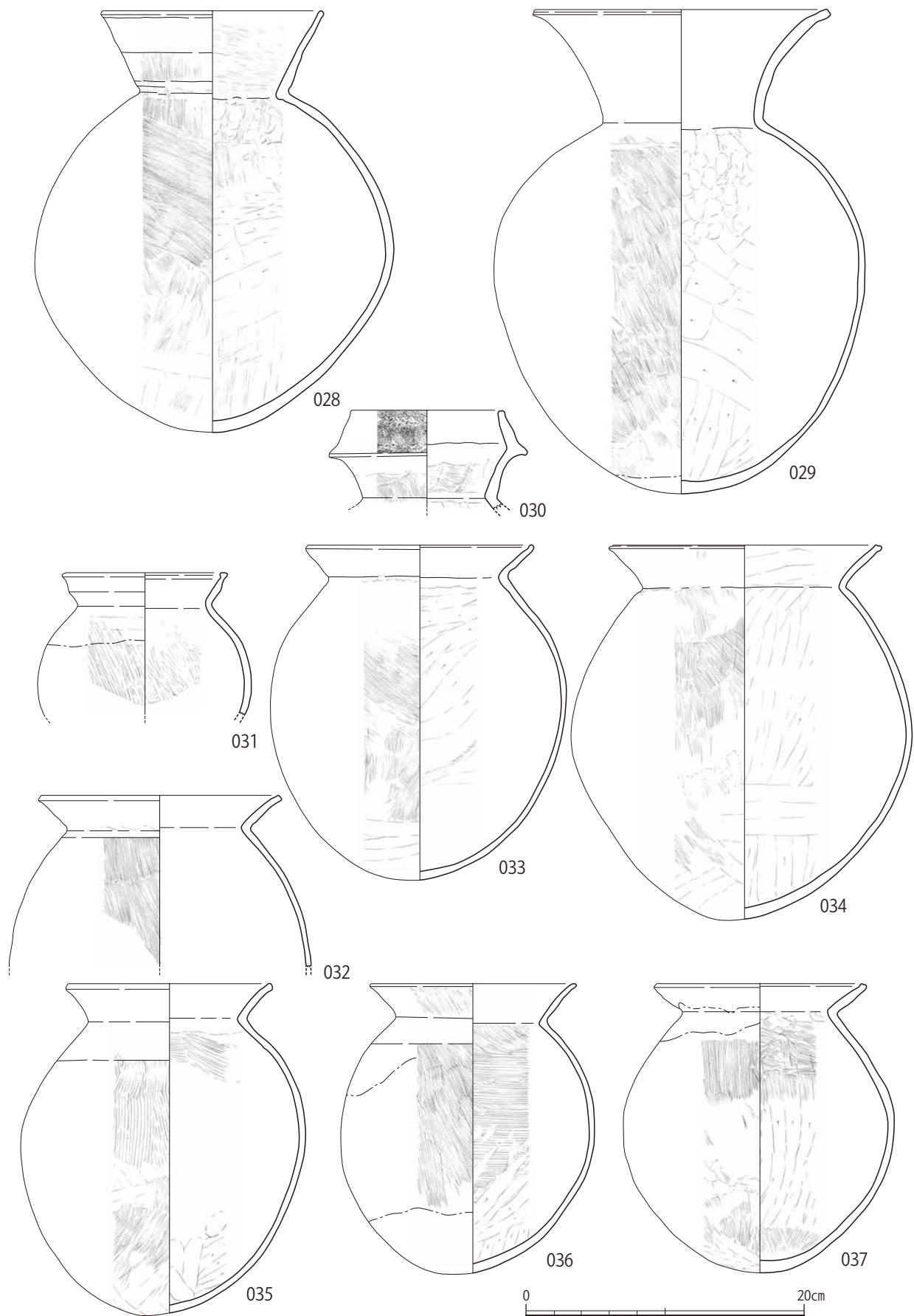
013～030は壺である。013～020は小形の丸底壺である。013・014は壺A-a類で口径を器高が上回り、偏球形の体部に器高の1/3程度の口縁部が内湾気味に広がる。013は口縁部が肥厚気味で端部を外方に丸くおさめる。外面は丁寧なミガキで、底部はヘラケズリ。014は体部外面の大半がヘラケズリ。014は完形で出土。015は壺A-b類で、口径が器高を上回り、口縁部高が器高の1/2以上のものである。外面はヨコナデ後ミガキで、底部はハケ目調整。色調は内面黄灰色、外面にぶい黄橙色。016～017は壺A-f類で、口縁部高が概ね器高の1/4以下で最大胴部径が体部にあるものである。016は口縁端部がやや外方に丸くおさめられる。017は



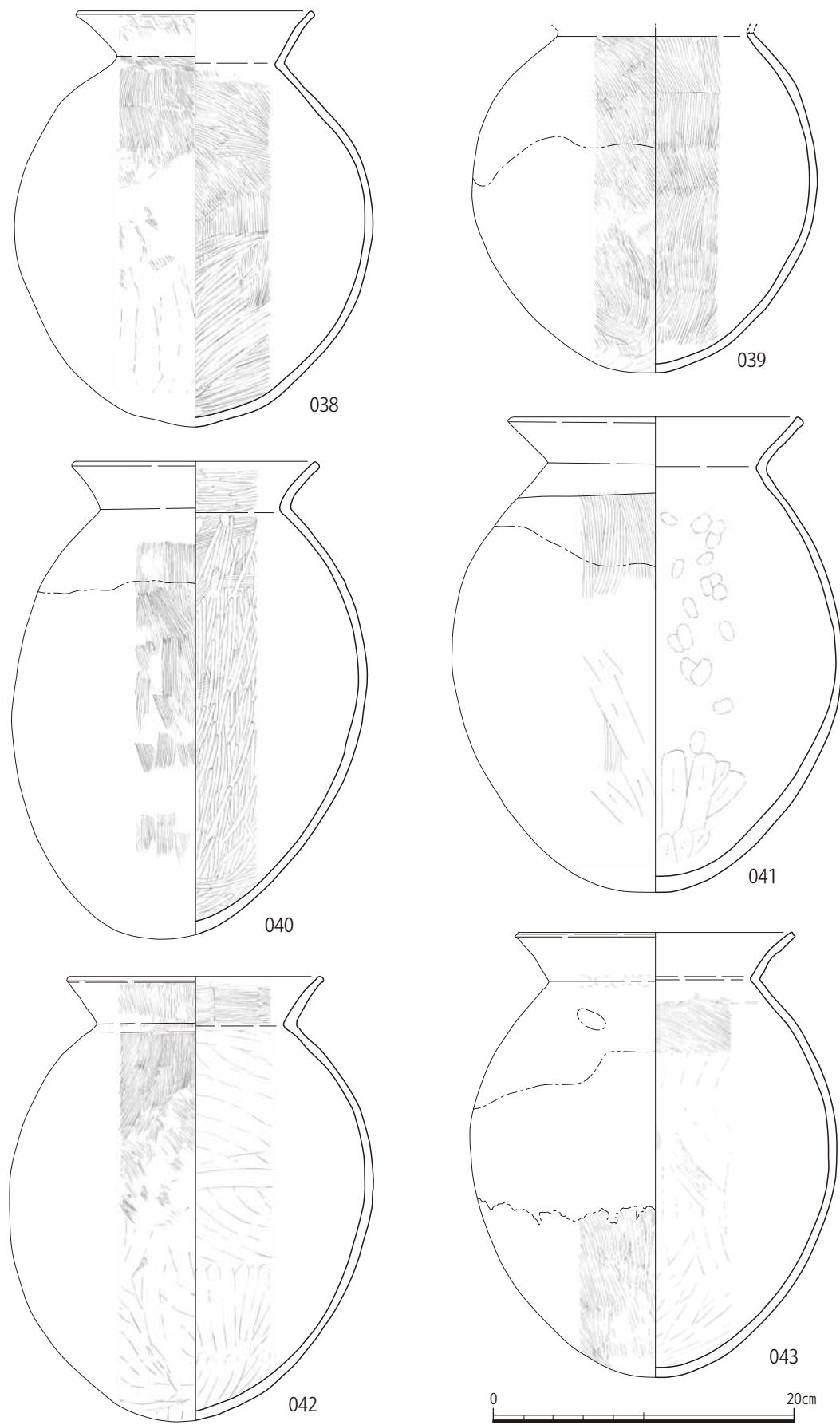
第183図 32SE030出土遺物実測図1 (1/4)



第184図 32SE030出土遺物実測図2 (1/4)



第185図 32SE030出土遺物実測図3 (1/4)



第186図 32SE030出土遺物実測図4 (1/4)

口縁部が肥厚気味。018・019は壺A-g類で、鉢状の体部に短い口縁部がつくものである。口縁部は肥厚している。暗褐色砂質土から完形で出土した。

020・022は直口壺である。020は壺B-a類で、口縁部は内湾気味に広がり、体部は内面のヘラケズリにより器壁は薄い。022は壺B-b類で口縁部の高さが器高の1/3以上のものである。口縁部は内外面ともにミガキを施す。暗褐色砂質土(上層)から005の完形の高环とともに出土している。021・023～029は単口縁壺である。021・023～027は長胴卵形の胴部に外方に短く開く口縁部をもつ壺C-a類。021は底部が欠損し、口縁部は内湾して立ち上がり肥厚している。023は口縁部が肥厚し、口縁端部は上面に沈線状の凹みが認められる。体部側面には穿孔が1箇所認められる。024は口縁部が内湾して立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。025は底部が欠損している。体部の球胴化が進み、023・024より新しい様相である。026・027は壺C-b類で、口縁部が壺C-a類より長いものである。026は口縁端部に向かって細くなり、口縁端部は丸くおさめる。027は頸部に突帶を貼り付ける。028・029は壺C-c類で、体部は球形胴化が進み、外方へ大きく開く口縁部をもつものである。028は最大胴部径が体部の中位で、底部は丸底を呈する。内面はケズリで、器壁も薄い。029は口縁部が外反し、口縁端部は沈線状の凹みがみられる。体部の内面はケズリで器壁は薄い。底部は丸底を呈する。

030は小形の複合口壺の口縁部である。安国寺式タイプの複合口縁で頸部に突帶は認められないため、壺D-c類と考えられる。複合口縁部は内傾し、2段のやや粗雑な櫛描波状文が施文される。

031～042は甕である。031は小形の甕の口縁部である。口縁部は肥厚し、口縁端部は平坦に仕上げ、内側に丸くおさめる。底部は欠損しているが球形タイプのものと考えられる。

032～039は中形の甕で球形タイプ(中甕B類)のものである。口縁部は直線的に広がり、底部は丸底を呈する。032は底部が欠損。033は口縁端部が肥厚し内側に丸くおさめている。法量は口径16.4cm、器高24.0cm、最大胴部径21.1cmを測る。調整は、外面横方向のハケ目から縦方向のハケ目へと移行する。内面はヘラケズリ。034は口縁端部に沈線状の凹みがみられる。内面調整はヘラケズリ。外面にススが付着。035は口縁端部を内側に丸くおさめる。調整は外面縦方向のハケ目、内面は上部はハケ目・底部はケズリ・指オサエを施す。036は完形の資料。口縁端部を外側に丸くおさめる。法量は口径14.8cm、器高20.8cm、最大胴部径18.0cmを測る。調整は外面縦方向のハケ目、内面は横方向のハケ目・底部ヘラケズリを施す。037は口縁部が肥厚し、口縁端部は平坦に仕上げ内側におさめる。法量は、口径15.2cm、器高20.7cm、最大胴部径19.4cmを測る。調整は、外面縦方向のハケ目・ナデ、内面横方向のハケ目から縦方向のハケ目・胴部はヘラケズリを施す。外面にススが付着。038は口縁端部を丸くおさめる。法量は、復元口径15.8cm、器高27.6cm、最大胴部径23.9cmを測る。039は胴部のみが残存する資料で、歪みが大きい。調整は、内外面縦方向のハケ目を施す。

040～043は大形の甕である。040は長胴タイプの甕(大甕A)で、ほぼ完形の資料である。口縁部は直線的に広がり、底部は丸底を呈する。法量は、口径16.4cm、器高31.7cm、最大胴部径23.4cmを測る。調整は、外面縦方向のハケ目、内面はミガキを施す。外面にはススが付着。041～043は球胴タイプの甕(甕B)である。口縁部は直線的に外傾し、底部は丸底を呈する。口縁端部は肥厚している。041はほぼ完形の資料である。口縁端部は平坦に仕上げる。法量は、口径19.6cm、器高31.5cm、最大胴部径25.5cmを測る。調整は、外面には縦方向のハケ目・ヘラケズリを施す。内面は頸部から胴部に指オサエ、底部にはヘラケズリを施す。外面にはススが付着。042は完形の資料。口縁端部は外側に丸くおさめる。法量は、口径18.5cm、器高29.5cm、最大胴部径24.2cmを測る。043はほぼ完形の資料である。口縁端部が沈線状の凹みがみられる。法量は、口径18.5cm、29.5cm、最大胴部径24.3cmを測る。調整は、外面は指オサエ・縦方向のハケ目、内面は斜め方向のハケ目・ケズリを施す。

004・005は植田市遺跡E区溝Iを標識とする古墳時代前期中葉から前期後葉の布留式系高环と同様のものである。それ以外の器種においても、015の小型丸底壺は口縁部高が器高の1/2以上を測る口縁部が伸長したもの、鉢・壺・甕では内面の調整にヘラケズリを施す。甕では040のように内面の調整が下部にヘラケズリが施され、上部に指オサエが施されるものなど、古墳時代前期中葉でも新相を示すものもみられる。全体の遺物の様相は、古墳時代前期中葉(新相)から前期後葉の頃と考えられる。

## 大道遺跡第20・23・32次出土の土師器高坏の分類について

高坏の分類は、坏部と脚部で二分されることから下記のように行つた。

高坏C類は脚部にバリエーションがあるため、さらに細分した。

高坏A類 坏部が稜をもって大きく外反する口縁部をもち、

脚部は脚柱部が円柱状で稜をもって屈曲する脚裾部を有するもの

高坏B類 坏下半部が有段を呈し、概ね直線的に外傾する口縁部をもち、

脚柱部の下部に広がりをもち稜をもって屈曲する脚裾部を有するもの

高坏C類 坏部が稜をもって概ね直線的に外傾する口縁部をもつもの

脚a類 脚柱部の下部に広がりをもち稜をもって屈曲するもの

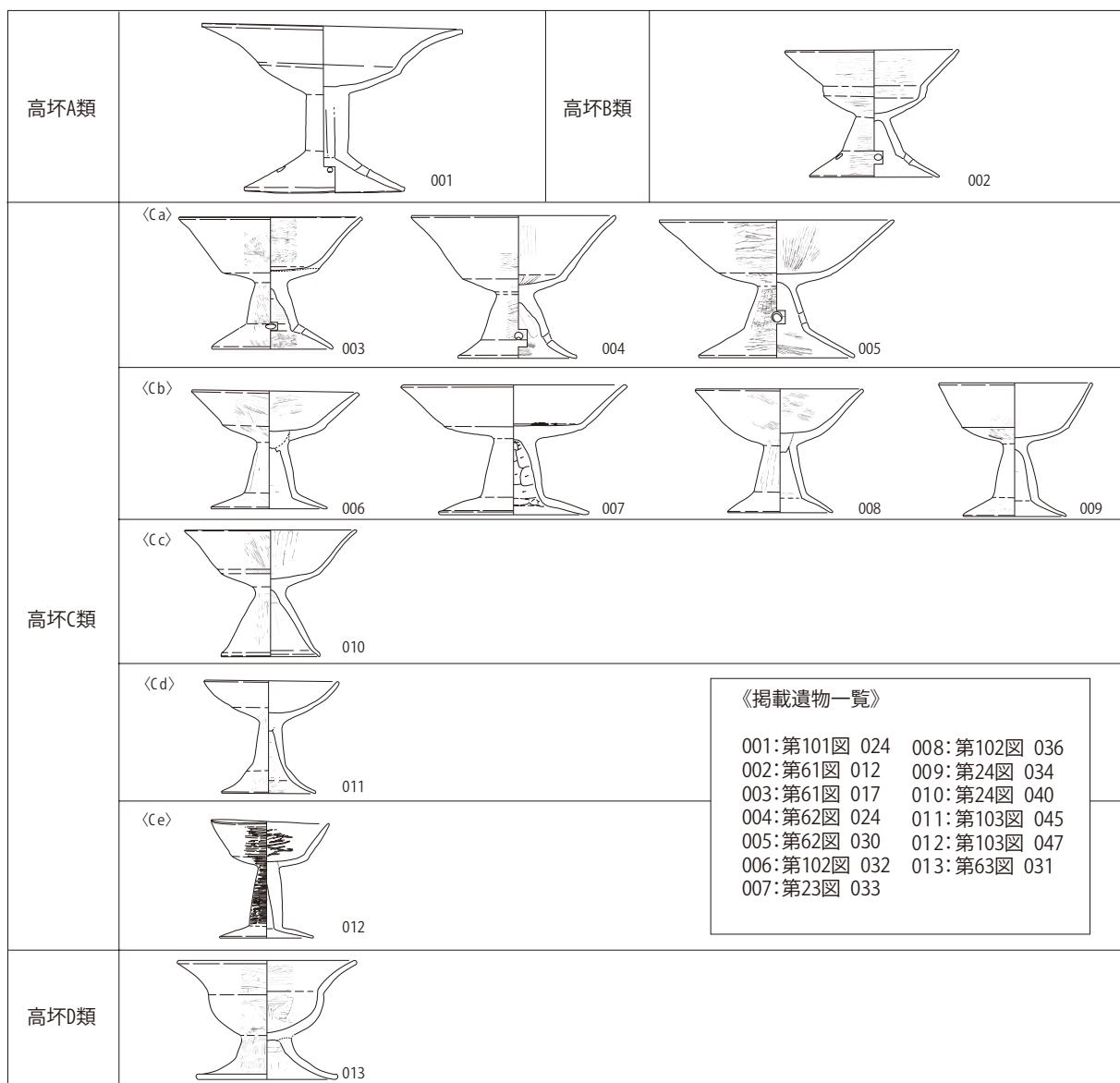
脚b類 脚柱部から稜をもって低平に屈曲する脚裾部を有するもの

脚c類 ラッパ状で稜をもたずに直線的に広がるもの

脚d類 長脚で稜をもって緩やかに広がる脚裾部を有するもの

脚e類 脚柱部が細長く、稜をもって低平に屈曲する脚裾部を有するもの

高坏D類 坏部が深く緩やかに外反する口縁部をもち、低脚でラッパ状に広がるもの



第187図 第20・23・32次調査出土土師器（高坏）分類図（1/8）

## 大道遺跡 20・23・32 次出土土師器の分類について

鉢形土器に関しては、以下の通りに分類した。

・A類 坯・皿に近い形状をしたもの

A 1 浅いもの(口縁部/器高の数値が2.5を超えるもの)

A 2 深いもの(口縁部/器高の数値が1.5から2.5のもの)

・B類 A類よりも深い形状のもの

B 1 浅いもの(口縁部/器高の数値が1.0から1.5のもの)

B 2 深いもの(口縁部/器高の数値が1.0に満たないもの)

・C類 口縁部が屈曲した浅い鉢

C 1 浅いもの(口縁部/器高の数値が2.5を超えるもの)

C 2 深いもの(口縁部/器高の数値が2.5に満たないもの)

・D類 口縁部が屈曲した深い鉢

D 1 小～中形のもの(口縁部径35cm未満のもの)

D 2 大形のもの(口縁部径35cm以上のもの)

D 3 山陰系折衷とされるもの

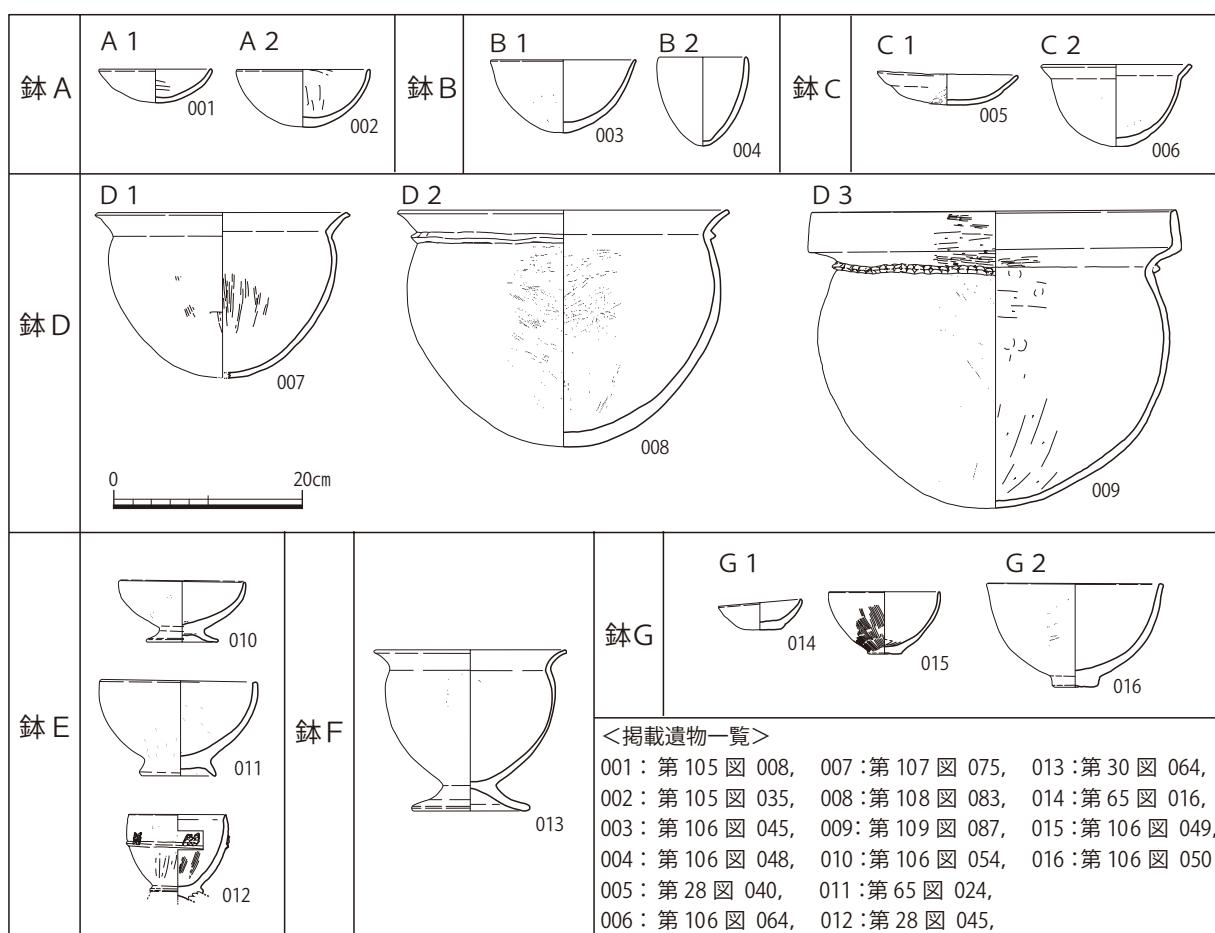
・E類 坯・椀の形状を持つ台付鉢

・F類 口縁部が屈曲した台付鉢

・G類 平底の鉢

G 1 小形のもの(18cm未満のもの)

G 2 G 1よりも大きいもの(18cm以上のもの)



第188図 第20・23・32次調査出土土師器(鉢)分類図(1/8)

#### 壺 A 類：小形の丸底壺・鉢

- A-a：体部が偏球形で、口径が器高より大きく、さらに口縁部が内湾気味に大きく広がり、口縁部高が体部高と同じかやや小さいもの。
- A-b：a 類より口縁部が伸長したもので、口縁部高が器高の 1/2 を超えるもの。
- A-c：器高が口径の 1/2 より小さく、浅い鉢状の体部に、おおむね体部高より小さい口縁部がつくもの。
- A-d：内湾しつつ開きながら立ち上がる体部に、短い口縁部がつくもの。
- A-e：体部が偏球形で、器高の 1/3 程度の口縁部が直線的に立ち上がり、口縁部径が体部最大径に近いもの。
- A-f：体部が球形ないし偏球形で、口縁部高がおおむね器高の 1/4 以下で、最大径が体部にあるもの。
- A-g：内湾しつつすばまる鉢状の体部に短い口縁部がつくもの。
- A-h：口径が器高あるいは、胴部最大径より小さいもの。

#### 壺 B 類：直口壺

- B-a：口縁部が器高の 1/3 以上のもの。
- B-b：口縁部が器高の 1/3 未満のもの。

#### 壺 C 類：単口縁壺

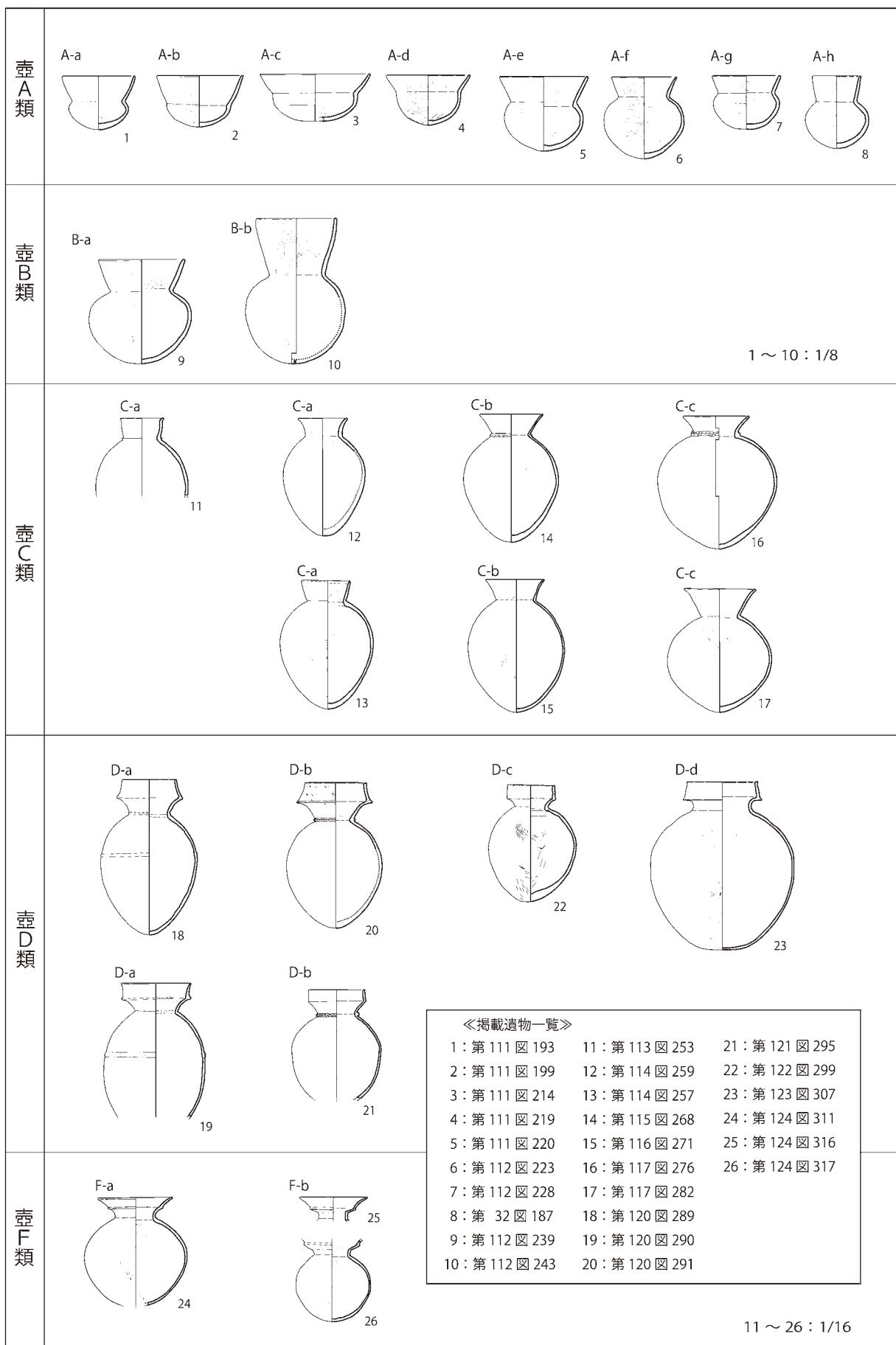
- C-a：長胴形の胴部に、外反ないし内湾気味に外方へ開く、短い口縁部を有するもの。
- C-b：長胴形の胴部に、a 類より長い外方へ開く口縁部を有するもの。
- C-c：球形胴化のすすんだ胴部に直線的に外方へ大きく開く口縁部を有するもの。

#### 壺 D 類：複合口縁壺

- D-a：安国寺式タイプの複合口縁壺で胴部に突帯があるもの。
- D-b：安国寺式タイプの複合口縁壺で胴部に突帯がないもの。
- D-c：安国寺式タイプの複合口縁壺で胴部、頸部に突帯がないもの。
- D-d：外来系（山陰系）と考えられる複合口縁壺で、複合口縁部が発達し、内傾もしくは、直立するもの。

#### 壺 E 類：二重口縁壺

- E-a：一次口縁との境がスムーズで、二次口縁部が大きく外反するもの。
- E-b：頸部が筒状を呈し、一次口縁との境が明瞭なもの。



第189図 第20・23・32次調査出土土師器(壺)分類図(1/8・1/16)

## 大道遺跡群第20・23・32次出土の土師器甕の分類について

古墳時代初頭～中頃にかけての土師器甕の様相は先学の指摘するように、弥生時代後期からの在地の系譜を引く甕、他地域から流入した外来系甕、さらにその外来系甕の製作技法を在地の甕に取り入れた甕、外来系甕と在地の甕との折衷系等多種多様である。それらを以下の属性で分類し掲載している。

大甕 … 口径 19cm 以上、器高 29cm 以上

中甕 … 口径 15～18cm 未満、器高 概ね 18～28cm 前後

小甕 … 口径 14cm 以下、器高 概ね 18cm 未満

甕 A … 長胴タイプ (球形率 0.8 以下)

甕 B … 球形タイプ (球形率 0.81 以上)

1 … 口縁部が外半する

2 … 口縁部が外方に直線的に立ち上がる

a … 頸部のしまりゆるい (頸部 / 口径の値が 0.75 以上)

b … 頸部のしまり強い (頸部 / 口径の値が 0.75 未満)

i … 底部尖底

ii … 底部丸底

(例)

大甕 A1 - a i … 長胴、頸部のしまりゆるく口縁部は外反し底部尖底

大甕 A1 - a ii … 長胴、頸部のしまりゆるく口縁部は外反し底部丸底

大甕 A1 - b i … 長胴、頸部のしまり強く口縁部は外反し底部尖底

大甕 A1 - b ii … 長胴、頸部のしまり強く口縁部は外反し底部丸底

大甕 A2 - a i … 長胴、頸部のしまりゆるく口縁部は直立気味、底部尖底

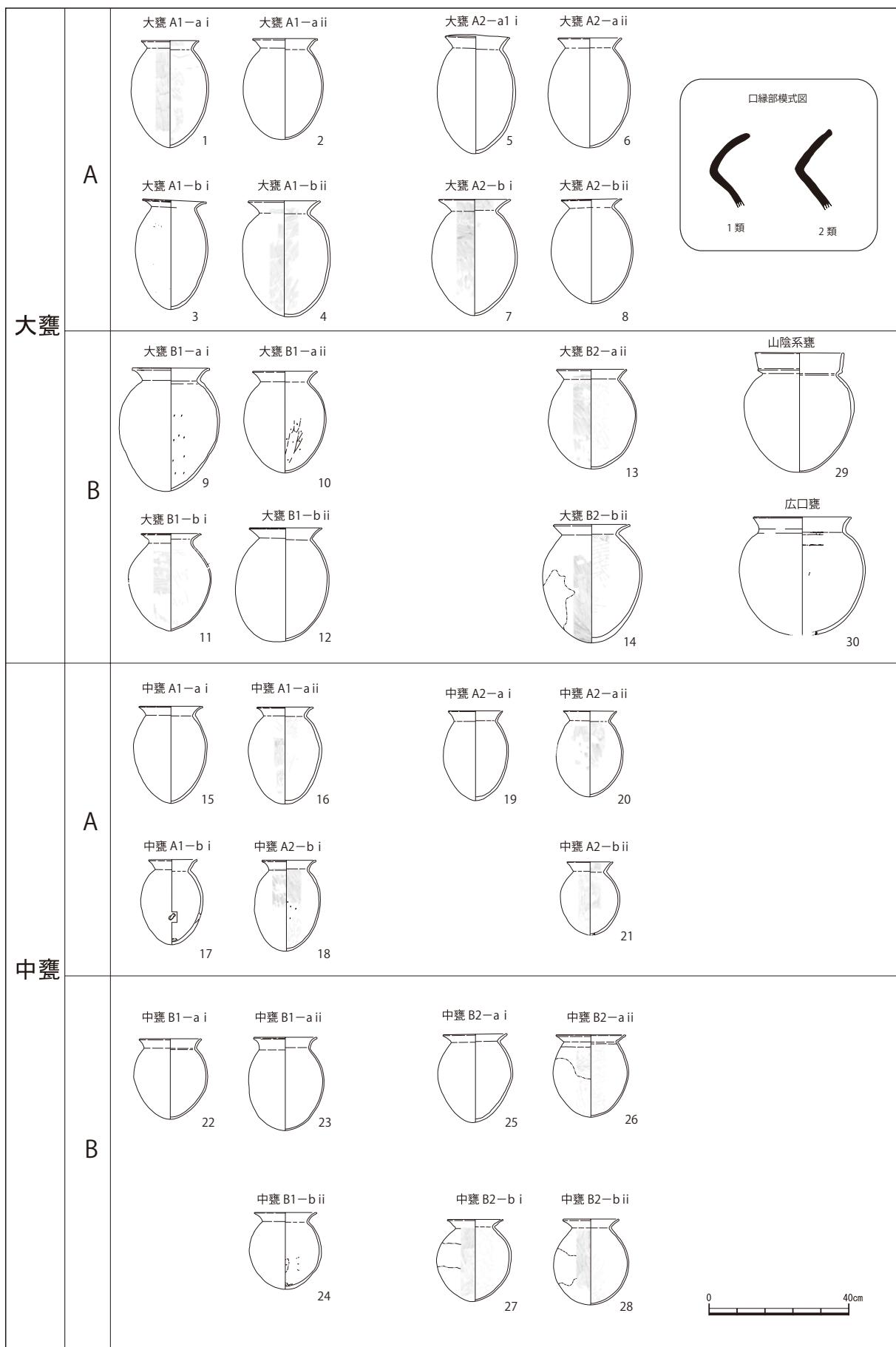
大甕 A2 - a ii … 長胴、頸部のしまりゆるく口縁部は直立気味、底部丸底

大甕 A2 - b i … 長胴、頸部のしまり強く口縁部は直立気味、底部尖底

大甕 A2 - b ii … 長胴、頸部のしまり強く口縁部は直立気味、底部丸底

### 《掲載遺物一覧》

1 : 第 76 図 152	2 : 第 127 図 327	3 : 第 128 図 333	4 : 第 77 図 164	5 : 第 43 図 256
6 : 第 129 図 343	7 : 第 78 図 168	8 : 第 43 図 260	9 : 第 44 図 261	10 : 第 131 図 350
11 : 第 79 図 179	12 : 第 131 図 351	13 : 第 172 図 085	14 : 第 172 図 086	15 : 第 135 図 378
16 : 第 81 図 197	17 : 第 46 図 280	18 : 第 81 図 202	19 : 第 47 図 288	20 : 第 82 図 214
21 : 第 82 図 215	22 : 第 138 図 417	23 : 第 138 図 418	24 : 第 49 図 310	25 : 第 140 図 445
26 : 第 173 図 098	27 : 第 174 図 103	28 : 第 174 図 104	29 : 第 134 図 376	30 : 第 45 図 270



第190図 第20・23・32次調査出土土師器(甕)分類図(1/16)

## 参考文献

- 玉永光洋 1989「第3章考察 1節 大溝出土土器群の時期幅について」『安国寺遺跡』大分県・国東町文化財調査報告書第4集 国東町教育委員会
- 高橋 徹 2001「大分の弥生・古墳時代土器編年」『大分県立歴史博物館研究紀要』2 大分県立歴史博物館
- 坪根伸也 2002「09OSH020 出土土器の時間的位置づけについて」『下郡遺跡群I』一大分市下郡地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1－ 大分市教育委員会
- 久住 猛 1999「庄内式併行期の土器生産とその動き」『庄内式土器研究』XIX 庄内式土器研究会
- 大分市教育委員会 1979『守岡遺跡』昭和50・51年度発掘調査概報
- 大分市教育委員会 1982『多武尾遺跡調査概報』
- 柳田康雄 1991「土師器の編年2 九州」『古墳時代の研究』6 雄山閣出版
- 大分市教育委員会 1992『賀来中学校遺跡』大分市賀来中学校プール移設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- 大分市教育委員会 1993『羽田遺跡』一大分市営羽田住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－
- 大分県教育委員会 1994『植田市遺跡』－七瀬川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－
- 大分市教育委員会 2005『東田室遺跡2』都市計画道路田室町春日線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- 坪根伸也 2005『下郡遺跡群III』一大分市下郡地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2－ 大分市教育委員会
- 大分県教育委員会 2008『東田室遺跡』大分駅付近連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(7) 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第27集
- 大分市教育委員会 2008『大道遺跡群1』一大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4－
- 大分市教育委員会 2009『大道遺跡群2』一大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5－
- 大分市教育委員会 2010『大道遺跡群3』一大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6－
- 渡邊 誠 2009「古墳時代開始前後における土器編年研究～山陰地域を素材として～」『島根考古学会誌』第26集
- 重藤輝行 2010「北部九州における古墳時代中期の土師器編年」『古文化談叢』第63集 九州古文化研究会
- 久住町教育委員会・大分県教育委員会 2001『都野原田遺跡』県営扱い手育成基盤整備事業久住町都野東部地区に伴う埋蔵文化財調査報告書V
- 大分市教育委員会 2005『玉沢地区条里跡』第3次発掘調査報告－植田新都心西部土地区画整理事業及び大規模店舗建設に伴う発掘調査報告書
- 中西武尚・服部真和 2002「古墳時代中・後期の土師器－大分県－」『第5回九州前方後円墳研究会発表要旨資料 古墳時代中・後期の土師器－その編年と地域性』九州前方後円墳研究会
- 寺沢 黒 1986「古式土師器の形式分類」『矢部遺跡』－国道24号線樋原バイパス建設に伴う遺跡調査報告(II)－奈良県立樋原考古学研究所
- 岡山県教育委員会・国土交通省岡山河川事務所 2008『百間川原尾島遺跡7 百間川二の荒手遺跡』旭川放水路(百間川)改修工事に伴う発掘調査XVII

## 第5節 特殊遺物について

今次の調査での出土遺物の中で特徴的なものに製塙土器、猿形土製品、土製模造鏡がある。

### 製塙土器（第191図）

第191図には、大道遺跡群第20・23・32次調査において出土した製塙土器を示している。その数は16点におよび、いずれも脚台付タイプであり、古墳時代前期の遺構から出土している。

001は、32SD001出土の製塙土器。底部から胴部に伸びる破片。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面淡橙褐色・外面暗橙茶褐色を呈し、内面ナデ、外面タタキ調整がみられる。

002は、32SD001出土の製塙土器。底部から胴部に伸びる破片。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面淡黄茶褐色・外面橙褐色を呈し、内外面ともにナデ調整がみられる。

003は、20SD001出土の製塙土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。

004は、20SD001出土の製塙土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面淡橙褐色・外面暗橙茶褐色を呈する。

005は、20SD001出土の製塙土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面淡橙褐色・外面淡黒褐色を呈する。調整は内面ナデ、外面タタキ痕が認められ、底径4.6cmを測る。

006は、20SD001出土の製塙土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面淡橙褐色・外面淡黒褐色を呈する。調整は内面ナデ、外面タタキ痕が認められ、底径4.6cmを測る。

007は、20SD001出土の製塙土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内外面淡黄褐色を呈する。調整は内面ナデ、外面タタキ痕が認められ、底径5.6cmを測る。

008は、20SD001出土の製塙土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石・赤色粒子を含み色調は内面淡黄褐色・外面淡橙褐色を呈する。調整は内面ナデ、外面タタキ痕が認められ、底径5.6cmを測る。

009は、20SD001出土の製塙土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石・褐色粒子を含み色調は内面淡橙褐色・外面淡黒褐色を呈する。調整は内面ナデ、外面タタキ痕が認められ、底径6.0cmを測る。

010は、20SD001出土の製塙土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面淡橙褐色・外面淡黒褐色を呈する。調整は内面ナデ、外面タタキ痕が認められ、底径5.3cmを測る。

011は、20SD001出土の製塙土器。内面ナデ、外面に指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面灰黒色・外面淡黄褐色を呈する。調整は内面ナデ、指押さえ痕とナデが認められ、底径5.6cmを測る。

012は、23SD001出土の製塙土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面淡黄茶褐色・外面淡黄白色～橙褐色を呈する。調整は内外面ナデが認められ、底径4.0cmを測る。

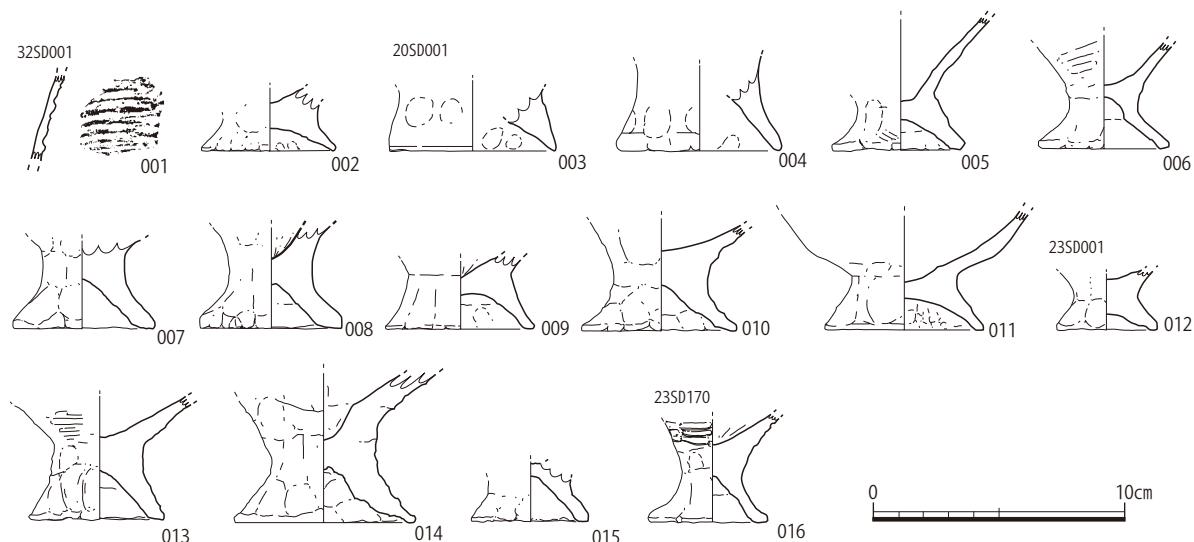
013は、20SD001出土の製塙土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面淡橙褐色・外面淡黒褐色を呈する。調整は内面ナデ、外面タタキ痕が認められ、底径4.6～5.4cmを測る。

014は、23SD001出土の製塙土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内外面明橙褐色～淡黄褐色を呈する。調整は内面ナデ、外面指押さえと粗いナデが認められ、底径6.3cmを測る。

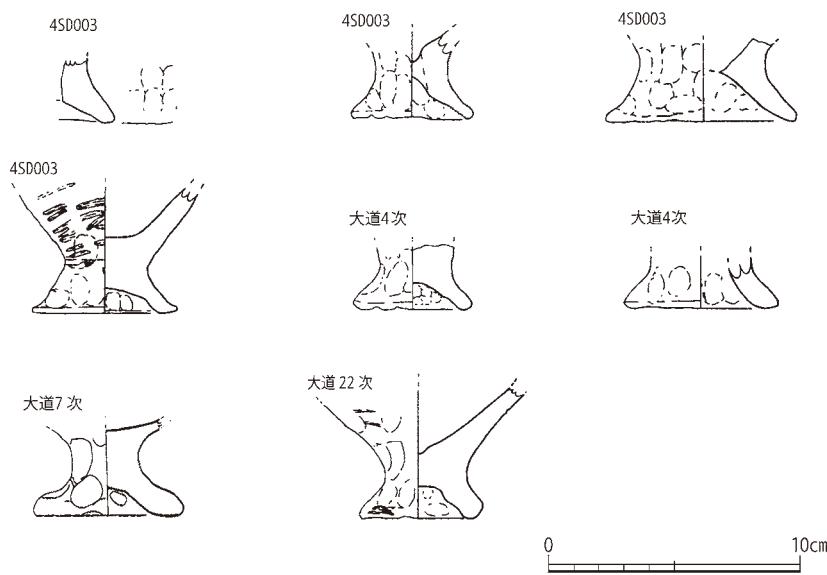
015は、23SD001出土の製塙土器。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面黄茶褐色・外面淡橙色を呈する。調整は内外面ともにナデ、底径ともに指頭圧痕が認められる。

016は、23SD170出土の製塙土器。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面淡黄灰褐色・外面橙褐色を呈する。調整は内面ナデ、外面タタキ痕が認められ、底径4.8cmを測る。

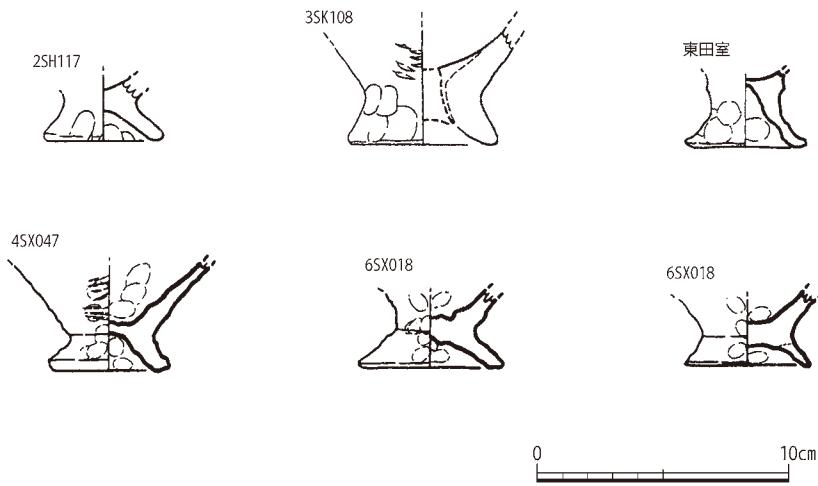
大道遺跡群や隣接する東室田遺跡では、すでに報告済みの調査地点でも同種の製塙土器の出土が確認されており、第192・193図に示している。大分平野に脚台付製塙土器の出土が認められるのは、古墳時代前期（布留I式）の段階であり、大野川中流域、大分川上流域等に出土が認められるようになるのもほぼ同じ時期である。しかし



第191図 大道遺跡群第 20次・23次・32次出土製塙土器実測図 (1/3)



第192図 大道遺跡群第 4次・7次・22次出土製塙土器実測図 (1/3)

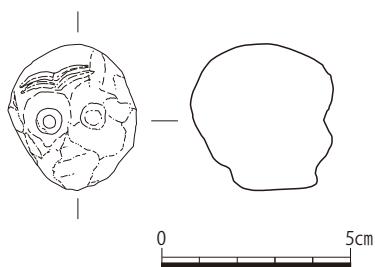


第193図 東田室遺跡出土製塙土器実測図 (1/3)

ながら、各遺跡から出土する製塙土器の数は1点、あるいは数点とごく僅かであり、水系を介した遺跡間のネットワークによって別府湾沿岸地域から持ち込まれたものと考えられる。

こうした状況とは対照的に、大道遺跡群や近接する東田室遺跡からは比較的まとまった出土が認められる。このような様相は大分川の対岸に位置する下郡遺跡群で製塙土器の出土数が数点であるという点と大きく異なっており、大分川河口付近の左岸一帯の特殊性を示している。

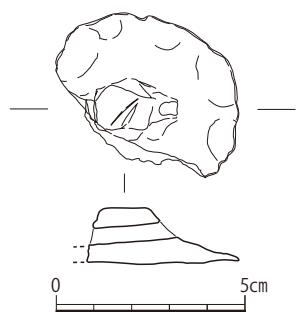
また、製塙土器の胎土を観察すると、大野川流域で出土する資料には、比較的大きめの石英や角閃石を含む資料が多い。それに対し、大道遺跡群をはじめとする大分川河口付近の遺跡で出土する製塙土器の胎土には、粒子の小さい石英粒を含む資料が大多数（8割以上）認められるという差異がある。こうした事実は、両者の生産地が異なる可能性を強くするものである。つまり、大分市東部に位置する大野川河口付近の旧海部群域とは別に、旧大分郡域でも製塙遺跡が営まれていた可能性が示唆されるのである。これまでの調査で製塙遺跡の検出はなされていないが、近隣にその存在を想定した上で、今後の調査を進めていく必要がある。



第194図 23SD001 出土猿形土製品実測図(1/2)

### 猿型土製品（第194図）

23SD001（環濠）から出土。胎土中には、石英・雲母・角閃石・赤色粒子を含み色調は橙色、成形は手づくねで、額の皺はヘラ調整、眼は竹管による刺突で表現されている。胎土の状況は環濠出土の土師器と変わりがない。この時期の動物形土製品の出土は極めて珍しく、管見する限り、徳島県の足代東原遺跡出土資料のみである。集落廃棄の際の祭祀に使用され、環濠に廃棄されたものと考えられる。



第195図 32SD001 出土土製模造鏡実測図 (1/2) 内では最も古い段階の模造鏡といえる。

### 土製模造鏡（第195図）

32SD001（環濠）から出土。胎土中には石英・角閃石・雲母粒を含み、色調は明茶褐色。手づくね成形により作られている。紐は粘土をつまみ上げて成形され、穿孔がなされている。鏡面は、やや凹面を呈する。径5.3cm、器高1.5cmを測り、上部を欠く。今回注目されるのは、古墳時代前期と考えられる環濠から出土した点である。こうした単純な形の模造鏡は古墳時代中期の遺構からの出土事例が多く、大分県

### 参考文献

- 田中裕介 1993「大分県沿岸部採集の製塙土器2例—東九州古墳時代前期の製塙土器の年代と系譜—」『おおいた考古』第6集 大分県考古学会
- 大分市教育委員会 2005『東田室遺跡2』都市計画道路田室町春日線建設に伴う発掘調査報告書
- 大分県教育委員会 2008『東田室遺跡』大分駅付近連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(7)
- 大分市教育委員会 2008『大道遺跡群1』大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4
- 大分市教育委員会 2009『大道遺跡群2』大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5
- 大分市教育委員会 2008『大道遺跡群3』大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6
- 大分県教育委員会 2002『毛井遺跡B地区』国道197号線大分南バイパス工事に伴う発掘調査報告書第135輯
- 大分市教育委員会 2006『下郡遺跡群III』- 大分市下郡地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書2 -

第2表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表1

23SE003

遺構名	插図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大腹部径/重さ	
23SE003 6層 P-1	第7図	001	弥生土器	複合口縁壺	長石・角閃石	褐灰色	にぶい黄橙色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	14.4	20.0+α	-	-	ハケメ(5本/cm) ・体部外面・黒斑・ 突堤2条
23SE003 ハンサイ	第7図	002	弥生土器	壺	石英・雲母・赤褐色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	(16.6)	7.3+α	-	-	ハケメ(4本/cm)
23SE003 ハンサイ	第7図	003	弥生土器	壺底部	長石・角閃石	にぶい橙色	灰褐色	ケズリ	ハケメ	-	7.0+α	3.9	-	ハケメ(8本/cm)・ 底部内外黒斑
23SE003 3~5層	第7図	004	弥生土器	鉢底部	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	明黄褐色	にぶい黄橙色	ケズリ	ナデ・指頭痕	-	6.3+α	(3.8)	-	
23SE003 3~5層	第7図	005	弥生土器	鉢底部	長石・雲母・角 閃石	にぶい橙色	淡橙色	ナデ	ヨコナデ	-	2.5+α	(6.6)	-	体部外面赤色塗彩 痕跡
23SE003 ハンサイ	第7図	006	弥生土器	壺底部	長石・角閃石	浅黄色	にぶい橙色	ナデ・ケズリ	ナデ	-	10.4+α	(4.0)	-	外面底面付近黒斑
23SE003 P-2	第7図	007	木製品	杓	-	-	-	-	-	22.1	7.4	-	-	

23SE011

遺構名	插図番号	遺物番号	種類	器種	胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考	
						内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大腹部径/重さ	
23SE011 P-42	第9図	001	弥生土器	高坏	白色粒子・雲母	橙色・褐灰色	橙色・にぶい 橙色・黒色	ヨコナデ・ミガ キ?	ヨコナデ・ミ ガキ?	18.0	16.0	(12.7)	-	
23SE011 P-46-P-48	第9図	002	弥生土器	高坏	雲母・白色粒子・ 赤色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色～橙 色	ヨコナデ・ミガ キ?	ヨコナデ	29.2	10.6+α	-	-	黒斑
23SE011 検出面	第9図	003	弥生土器	高坏	白色粒子・長石・ 角閃石・雲母	灰黃褐色～褐 色	灰黃褐色・褐 色・黒色	ナデ	ナデ	(28.0)	6.0+α	-	-	全体的に磨滅する
23SE011	第9図	004	弥生土器	高坏	白色粒子・雲母・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ミガキ・ナデ・ ハケメ	ナデ後ミガキ	-	9.9+α	-	-	
23SE011 P-36	第9図	005	弥生土器	高坏	白色粒子・雲母・ 赤色粒子・角 閃石	にぶい橙色	にぶい橙色	ハケメ	ハケメ	-	11.4+α	-	-	坏部欠損
23SE011 検出面	第9図	006	弥生土器	高坏	白色粒子・雲母・ 角閃石	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ	ナデ	-	12.2+α	(17.0)	-	坏部欠損
23SE011 P-8	第9図	007	弥生土器	鉢	白色粒子・角閃 石・石英	黒褐色	明黄褐色	ハケメ	ナデ	(15.0)	8.2	-	-	黒斑
23SE011 検出面	第9図	008	弥生土器	小形鉢	白色粒子・雲母・ 角閃石	にぶい褐色	にぶい褐色 にぶい褐色	ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	15.4	10.5	4.5	-	
23SE011 P-11	第9図	009	弥生土器	鉢	白色粒子・角閃 石・雲母	浅黄橙色	にぶい黄橙色、 にぶい橙色、 黒色	ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	21.0	16.2	5.2	-	黒斑
23SE011 P-27	第9図	010	弥生土器	鉢	白色粒子・雲母	橙色	橙色・明褐灰 色・黒色	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	17.7	16.7	-	-	黒斑
23SE011 P-49	第9図	011	弥生土器	鉢	白色粒子・角閃 石・雲母	にぶい黄橙色	にぶい橙路	ナデ・指オサエ ・ケズリ	ナデ・ケズリ	(15.6)	15.85	-	-	
23SE011 P-27-P-43 P43-2	第9図	012	弥生土器	鉢	白色粒子・角閃 石・雲母・赤色 粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ ・ケズリ後ナデ	20.7	16.4+α	-	-	
23SE011 P-25-P-26	第9図	013	弥生土器	鉢	白色粒子・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ナデ ・ケズリ	ヨコナデ・ナ デ・ケズリ後ナ デ	(39.0)	19.6+α	-	-	黒斑
23SE011 P-21	第10図	014	弥生土器	鉢	白色粒子・雲母・ 赤色粒子・角 閃石	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナ デ	(50.0)	20.1+α	-	-	
23SE011 P-24	第10図	015	弥生土器	長頸壺	白色粒子・黒色 粒子・角閃石・ 雲母	にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ?・ナ デ	ミガキ・ハ ケメ・ナデ	7.0	24.3	6.3	-	
23SE011 P-3	第10図	016	弥生土器	小形台付壺	白色粒子・黒色 粒子・雲母・赤 色粒子	橙色	にぶい橙色・ にぶい黄橙色	ナデ・指オサエ	ナデ?	(8.0)	11.0	6.4	-	黒斑・外面磨耗の 為調整不明
23SE011	第10図	017	弥生土器	小形壺	長石・角閃石・ 白色粒子・橙色 粒子・砂粒	浅黄橙～黄橙 色	黄橙色	ナデ・指オサエ ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ	13.8	15.0	4.8	-	黒斑・外面サビ付 着・穿孔
23SE011 P-15	第10図	018	弥生土器	壺	白色粒子・雲母・ 角閃石	褐灰色	にぶい黄橙色 にぶい褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ナデ	(16.0)	18.0	4.7	-	
23SE011	第10図	019	弥生土器	無頸壺	角閃石・白色 粒子・赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	(13.8)	7.7+α	-	-	
23SE011	第10図	020	弥生土器	小形壺	長石・角閃石・ 白色粒子・橙色 粒子	褐灰色	黄橙色	ナデ・指オサエ	ヨコナデ・ナ デ・指オサエ	(8.8)	16.3+α	-	-	
23SE011 P-44	第10図	021	弥生土器	壺	角閃石・白色 粒子・雲母・赤 色粒子	黄灰色・浅黄 橙色	橙色・浅黄 橙色	ナデ・指オサエ	ヨコナデ・ナ デ	(14.4)	29.4	4.2	-	黒斑
23SE011 P-39	第10図	022	弥生土器	壺	白色粒子・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色～ 褐灰色	ヨコナデ・工具 ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	-	26.3+α	-	-	黒斑
23SE011	第10図	023	弥生土器	壺	白色粒子・赤色 粒子・雲母・角 閃石	にぶい橙色～ 褐灰色	橙色・黒色	ナデ	ハケメ	-	26.0+α	2.9	-	黒斑
23SE011 P-10	第11図	024	弥生土器	壺	白色粒子・雲母	にぶい橙色	にぶい黄橙色・ 橙色・黒色	ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ・ナデ・施文	(15.0)	34.0	-	-	突堤
23SE011	第11図	025	弥生土器	壺	白色粒子・角閃 石・雲母	橙色	橙色	ヨコナデ・ハ ケメ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	(16.0)	34.6	4.2	-	
23SE011	第11図	026	弥生土器	壺	白色粒子・雲母・ 角閃石	橙色	橙色・灰白色	ヨコナデ・指オ サエ・ナデ	ヨコナデ・ナ デ	15.2	33.2+α	5.3	-	黒斑
23SE011	第11図	027	弥生土器	壺	角閃石・長石・ 白色粒子・橙色 粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ナデ・指オサエ ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ・ ケズリ?	14.0	39.7	6.8	-	外面スス付着
23SE011 P-43	第11図	028	弥生土器	壺	白色粒子・雲母・ 角閃石	にぶい橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	(15.0)	19.5+α	-	-	
23SE011 P-7	第11図	029	弥生土器	壺	白色粒子・角閃 石・雲母・長石	灰黄褐色～に ぶい橙色	にぶい橙色～ 灰褐色	ナデ・ケズリ	ハケメ	(15.4)	10.0+α	-	-	
23SE011	第12図	030	弥生土器	壺	白色粒子・雲母	褐灰色	橙色・褐灰色	ハケメ	ハケメ	(14.8)	16.4+α	-	-	

第3表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表2

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大脚部径/重さ	
23SE011 P-30	第12図	031	弥生土器	壺	白色粒子・赤色粒子・雲母・角閃石	にぶい橙色	にぶい橙色	ハケメ	ハケメ	(14.0)	10.7+a	-	-	
23SE011 P-23	第12図	032	弥生土器	壺底部	白色粒子・赤色粒子・雲母・角閃石	橙色	にぶい橙色～黒色	ナデ	ナデ	-	11.5+a	6.0	-	
23SE011 P-9,P-10 P-43,P-43-2	第12図	033	弥生土器	複合口縁壺	白色粒子・雲母・角閃石	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・波状文・浮文	16.5	45.1+a	-	-	安国寺式・突帯・黒斑
23SE011 P-22	第12図	034	弥生土器	複合口縁壺	白色粒子・赤色粒子・角閃石・雲母	灰褐色	にぶい橙色・橙色・褐灰色	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・波状文・ハケメ・ヨコナデ	17.5	29.5+a	-	-	安国寺式・突帯
23SE011	第12図	035	弥生土器	複合口縁壺	白色粒子・角閃石・雲母	にぶい橙色・明褐色	にぶい橙色・褐灰色	ナデ	ナデ・ハケメ・波状文	(14.0)	18.4+a	-	-	安国寺式・突帯
23SE011 P-30,P-37	第12図	036	弥生土器	複合口縁壺	白色粒子・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケメ・指オサエ	ヨコナデ・ハケメ	20.7	19.7+a	-	-	焼成や不良・安国寺式
23SE011 P-47	第12図	037	弥生土器	複合口縁壺	角閃石・赤色粒子・雲母・白色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色～にぶい橙色	ヨコナデ・指オサエ	ヨコナデ・波状文・ナデ	15.1	12.8+a	-	-	安国寺式
23SE011 P-09 検出面	第13図	038	弥生土器	複合口縁壺	白色粒子・角閃石・黒色粒子・赤色粒子	にぶい橙色・褐灰色	にぶい橙色	指オサエ・ナデ	ナデ・ヨコナデ・波状文・ナデ	12.2	14.5+a	-	-	安国寺式・突帯
23SE011	第13図	039	弥生土器	複合口縁壺	白色粒子・雲母・角閃石	にぶい橙色	にぶい橙色	ハケメ	波状文・ハケメ	(18.0)	7.1+a	-	-	安国寺式
23SE011	第13図	040	弥生土器	複合口縁壺	白色粒子・角閃石・雲母	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ	波状文・ナデ・ハケメ	12.4	5.4+a	-	-	安国寺式・黒斑
23SE011	第13図	041	弥生土器	複合口縁壺か	白色粒子・雲母・角閃石	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ	ハケメ・ヨコナデ・突帯	-	14.2+a	-	-	安国寺式か
23SE011	第13図	042	弥生土器	小形甕	白色粒子・黒色粒子・雲母	にぶい橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(15.2)	17.5	2.5	-	
23SE011 P-9	第13図	043	弥生土器	甕	白色粒子・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	浅黄橙色～にぶい橙色	ヨコナデ・ナデ・指オサエ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	(19.0)	25.5	-	-	黒斑
23SE011 P-22	第13図	044	弥生土器	甕	白色粒子・角閃石・雲母	褐灰色	褐灰色～黒色	ナデ	ナデ	(17.8)	29.2	3.0	-	黒斑・全体的に摩耗の為、調整不明瞭
23SE011 P-26 検出面	第13図	045	弥生土器	甕	白色粒子・赤色粒子・角閃石	にぶい橙色	にぶい黄橙色・橙色	ナデ?	ナデ・ハケメ・ナデ	(19.8)	35.2	4.9	-	
23SE011	第13図	046	弥生土器	甕	長石・雲母・角閃石	浅黄橙色	灰白色	ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ痕	22.4	35.2			ハケメ(6本/cm)・外面部黒斑
23SE011	第14図	047	弥生土器	甕	長石・雲母・角閃石	灰白色	灰白色	ヨコナデ・ハケメ・ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ	22.2	24.4+a			ハケメ(8本/cm)・体部外面部黒斑
23SE011 P-29	第14図	048	弥生土器	甕	白色粒子・雲母・角閃石	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色～灰黃褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	(21.2)	20.5+a	-	-	
23SE011 検出面	第14図	049	弥生土器	甕	白色粒子・角閃石・雲母	にぶい橙色	にぶい橙色～褐灰色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	(17.0)	10.5+a	-	-	
23SE011 P-49	第14図	050	弥生土器	甕	白色粒子・雲母・角閃石	褐色～にぶい黄橙色	褐色～にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	(19.0)	16.7+a	-	-	
23SE011 検出面	第14図	051	弥生土器	甕	白色粒子・雲母・角閃石	橙色	橙色・黒色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	(16.2)	18.2+a	-	-	スス付着
23SE011 P-18	第14図	052	弥生土器	甕	白色粒子・角閃石・雲母	橙色	橙色・灰褐色	ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(17.8)	12.4+a	-	-	
23SE011	第14図	053	弥生土器	甕	白色粒子・雲母・角閃石	にぶい橙色	にぶい橙色～にぶい黄橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(25.0)	13.7+a	-	-	
23SE011	第14図	054	弥生土器	甕	白色粒子・赤色粒子・雲母・角閃石	にぶい黄橙色～にぶい橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	(22.0)	10.5+a	-	-	
23SE011 P-14	第14図	055	弥生土器	甕	白色粒子・角閃石・赤色粒子	にぶい褐色	にぶい黄橙色・灰黃褐色	ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	(23.4)	12.8+a	-	-	
23SE011 検出面	第14図	056	弥生土器	甕	白色粒子・角閃石・雲母	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色・褐色・黒色	ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(24.2)	11.8+a	-	-	
23SE011	第15図	057	弥生土器	甕	白色粒子・雲母・角閃石	橙色	にぶい橙色～褐灰色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(25.0)	11.0+a	-	-	
23SE011 P-14	第15図	058	弥生土器	甕	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲母・角閃石	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ・ヨコナデ	(22.0)	8.1+a	-	-	
23SE011 P-12,P-32 P-43-2	第15図	059	弥生土器	甕	白色粒子・角閃石・雲母	にぶい橙色	にぶい橙色・橙色	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	17.7	15.4+a	-	-	
23SE011 P-40	第15図	060	弥生土器	甕	白色粒子・雲母・赤色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ミガキ	ハケメ	-	17.2+a	(6.8)	-	
23SE011 P-18	第15図	061	弥生土器	甕	白色粒子・黒色粒子・雲母	橙色	灰褐色・にぶい黄橙色	ナデ	ハケメ・ナデ	-	17.0+a	2.3	-	
23SE011	第15図	062	弥生土器	甕	白色粒子・石英・長石・雲母	にぶい黄橙色	橙色～にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	-	7.8+a	4.6	-	
23SE011 P-14	第15図	063	弥生土器	甕	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲母・角閃石	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色・黒褐色	ナデ	ハケメ・ナデ	-	9.7+a	5.3	-	
23SE011 P-12	第15図	064	弥生土器	甕	角閃石・白色粒子・赤色粒子・石英・長石	にぶい橙色	にぶい黄橙色～灰黃褐色	ナデ	ハケメ・ナデ	-	22.5+a	5.3	-	黒斑
23SE011 P-33	第15図	065	弥生土器	甕	白色粒子・黒色粒子・雲母・角閃石	にぶい黄橙色	橙色・浅黄色・黒色	ハケメ	ハケメ	-	20.5+a	4.5	-	黒斑
23SE011 P-30	第15図	066	弥生土器	甕	白色粒子・赤色粒子・角閃石・雲母	灰黃褐色	橙色～にぶい黄橙色	ハケメ後ナデ	ナデ	-	17.4+a	4.0～5.0	-	内面磨耗の為調整不明
23SE011 P-34	第15図	067	弥生土器	壺	白色粒子・雲母	にぶい黄橙色	明褐色～にぶい橙色	ハケメ	ハケメ・ナデ	-	14.4+a	5.9	-	黒斑

第4表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表3

23SX038

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚		
23SX038 1・2層	第17図	001	弥生土器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ ・指オサエ後ケ ズリ後ナデ	(15.9)	7.0	-	-	外面黒斑
23SX038 1・2層	第17図	002	弥生土器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	橙色	にぶい橙色～ 黒褐色	ヨコナデ・粗い ケズリ後ナデ	指オサエ後ヨ コナデ・粗い ハケメナデ後 ミガキ	(13.0)	8.9	-	-	内面底部黒斑・ス ズ付着
23SX038 ハンサイ	第17図	003	弥生土器	無頸壺	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	橙色	にぶい橙色	ナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・工具痕?	(15.8)	11.0+a	-	-	
23SX038 P-5	第17図	004	弥生土器	壺	石英・角閃石・ 雲母・赤色粒子 ・白色粒子	橙色～明褐灰 色	黄橙色～浅黃 橙色	ナデ・ケズリ後 ナデ・指頭痕	ナデ・縦方向 のナデ(ミガ キ)・ケズリ後 ナデ	(11.6)	30.6	4.0	-	外面黒変
23SX038 ハンサイ一 括P-3・7・22	第17図	005	弥生土器	壺	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ケズリ・ 工具オサエ	ナデ・ケズリ後 ナデ・ミガ キ	-	23.4+a	4.2	-	外面一部黒変
23SX038 ハンサイ一 括P-3・7・22	第17図	006	弥生土器	壺	角閃石・白色粒 子・黒色粒子	黒褐色	明褐色～灰褐 色～黒色	ナデ・斜めハケ メ・ケズリ・指 頭痕	ナデ・ヨコナ デ・粗いナデ (ケズリ?)・ 横方向のハケ メ・縦方向の ハケメ	-	25.7+a	-	-	ハケメ(3本/cm)・ 外面胸部黒変
23SX038 ハンサイ 1・2層	第17図	007	弥生土器	壺	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	橙色～明赤色	橙色	ナデ・工具ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ後ナデ後ミ ガキ	-	31.3+a	3.9	-	外面黒斑
23SX038 1・2層P-12	第17図	008	弥生土器	壺	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	橙色～明褐色	黄橙色	ナデ・ケズリ後 ナデ・指頭痕	ナデ・縦方向 のナデ・ミガ キ	-	31.5+a	-	-	外面胸部黒変
23SX038 ハンサイ 1・2層P-13・14	第18図	009	弥生土器	壺	石英・赤色粒子 ・白色粒子	にぶい黄橙色 ～灰褐色	にぶい黄橙色	ナデ・指頭痕	ナデ	-	35.1+a	3.8	-	外面一部黒変
23SX038 ハンサイ 1・2層一括 P-11	第18図	010	弥生土器	複合口縁壺	石英・長石・角 閃石・白色粒子	明黄褐色～に ぶい黄橙色	にぶい褐色～ にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ後ナデ ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・粗いミガ キ・指頭痕	12.3	25.9+a	-	-	外面黒変
23SX038 ハンサイ カクラン P-2	第18図	011	弥生土器	複合口縁壺	長石・角閃石・ 赤色粒子・白色 粒子	赤褐色～にぶ い黄橙色	明褐色～にぶ い黄橙色	ナデ・指頭痕	ナデ・縦方向 のハケメ・櫛 描波状文・指 頭痕・浮文貼 付	19.6	20.0+a	-	-	安国寺式・突 堤2条・012と同 一個体か
23SX038 カクラン P-6 P-9	第18図	012	弥生土器	壺	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	にぶい黄橙色	橙色	ハケメ	縦方向のハケ メ・ハケメ・ ヨコナデ	-	31.3+a	-	-	安国寺式・ハケメ 内(8本/cm)外(6 本/cm)(10本/cm) ・011と同一個体か
23SX038 ハンサイ P-1・18	第18図	013	弥生土器	壺	石英・長石・角 閃石・雲母・赤 色粒子・白色粒 子	にぶい黄橙色	橙色	ケズリ後ナデ	ハケメ後丁寧 なナデ	-	13.1+a	(5.0)	-	
23SX038 ハンサイ P-1・18	第18図	014	弥生土器	壺	角閃石・赤色粒 子・白色粒子	明褐色～灰褐 色	明褐色～にぶ い黄橙色～褐 色	ナデ・縦方向の ハケメ(ハケメ ナデ?)	ナデ・ヨコナ デ・縦方向の ハケメ	-	29.4+a	-	-	ハケメ(10本/cm)
23SX038 一括 P-4 P-21	第19図	015	弥生土器	甕	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ	ハケメ後ナデ	20.6	28.9	3.5	22.0	ハケメ(3本/cm)・ 黒斑
23SX038 ハンサイ 1・2層 P-7 P-22	第19図	016	弥生土器	甕	長石・角閃石・ 赤色粒子・白色 粒子	黄橙色	黄橙色～橙色 ～黒色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ後粗い ナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・工具ナデ ・ミガキ・工具 オサエ	(18.8)	32.3+a	3.7	-	内外面黒変
23SX038 ハンサイ 1・2層一括 P-15・16・20	第19図	017	弥生土器	甕	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	明黄褐色	明黄褐色～赤 褐色～黒褐色	ナデ・横～斜め ハケメ	ナデ・縦方向 のハケメ	22.2	33.1	3.6	-	ハケメ(4本/cm)・ スズ付着
23SX038 P-12	第19図	018	弥生土器	甕	長石・角閃石・ 白色粒子	にぶい橙色～ 橙色	橙色～黒褐色	ナデ	ナデ	24.5	33.8	4.1	-	外面黒変
23SX038 一括 P-8・19 ・20・21	第19図	019	弥生土器	甕	長石・角閃石・ 赤色粒子・白色 粒子	橙色～黒色	橙色～黒色	ナデ・横方向の ハケメ後ナデ・ ケズリ後ナデ・ 指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・縦方向の ハケメ	(19.3)	33.2+a	5.4	-	内外面黒変
23SX038 ハンサイ 一括 P-7	第19図	020	弥生土器	甕	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・横方向の ハケメ後ナデ	ナデ・縦方向 のハケメ後ヨ コナデ・縦方 向のハケメ	19.1	31.9	-	-	ハケメ(4本/cm)(4 ～8本/cm)
23SX038 ハンサイ 1・2層	第20図	021	弥生土器	甕	石英・長石・角 閃石・白色粒子	褐色～黒褐色	明褐色～灰褐 色～黒色	ナデ・横方向の ハケメ・斜めハ ケメ・ケズリ・ ミガキ	ナデ・ヨコナ デ・斜めハケ メ後ナデ・縦 ～斜めハケメ	(22.2)	38.4+a	(5.4)	-	ハケメ(4～5本/ cm)
23SX038 ハンサイ 一括	第20図	022	弥生土器	甕	長石・角閃石・ 白色粒子(2～ 3mmの砂粒)	にぶい橙色～ 黒色	黒褐色～褐色	ケズリ後ナデ・ ミガキ?・指頭 痕・ナデ	ナデ・縦方向 のハケメ後ナデ ・ケズリ後ナデ ・ヨコナデ	(24.0)	34.7+a	(5.2)	-	内面黒変
23SX038 ハンサイ 1・2層一括 P-4	第20図	023	弥生土器	甕	石英・長石・角 閃石・白色粒子	にぶい黄橙色 ～赤褐色	ナデ・ヨコナデ ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ヨコナデ	丁寧なナデ・ ヨコナデ	(23.6)	32.2+a	-	-	内外面黒変
23SX038 ハンサイ 1・2層 P-4	第20図	024	弥生土器	甕	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	黒褐色	明褐色～黒褐 色	ナデ・ハケメ後 ナデ・ケズリ後 ナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ケズリ後ナ デ・ミガキ	19.6	29.5	-	-	
23SX038 ハンサイ 1・2層 P-8 P-12	第20図	025	弥生土器	甕	長石・白色粒子	橙色	にぶい橙色	ハケメ後ヨコナ デ(指頭痕)	ナデ後ハケメ・ ヨコナデ	20.7	25.5+a	-	-	ハケメ(9本/cm)
23SX038 ハンサイ 1・2層 P-10	第20図	026	弥生土器	甕	石英・長石・角 閃石・雲母・赤 色粒子・白色粒 子	明赤褐色	明赤褐色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ後ナデ ・ミガキ	ナデ後ナデ ・ケズリ後ミガ キ・ミガキ	18.1	27.2+a	-	-	
23SX038 ハンサイ 1・2層一括 P-8	第21図	027	弥生土器	甕	石英・長石・角 閃石・白色粒子	褐色	褐色～黒褐色	ナデ・ケズリ後 丁寧なナデ・横 方向のハケメ	ヨコナデ・縦 方向のハケメ	(22.4)	24.7+a	-	-	ハケメ(5本/cm)・ 外面胸部下半黒変・ 接合痕

第5表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表4

遺構名	捕図番号	遺物番号	種類	器種	胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
						内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大脚部径 / 重さ	
23SX038 ハンサイ 1-2層	第21図	028	弥生土器	甕	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	黄橙色	明褐色	ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	26.2	18.6	-	-	赤色塗彩・一部黒 変
23SX038 ハンサイ 1-2層	第21図	029	弥生土器	甕	石英・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・工具ナデ ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナ デ	(22.0)	19.2+a	-	-	外面胴部下黒変
23SX038 P-17	第21図	030	弥生土器	甕	長石・角閃石・ 赤色粒子・白色 粒子	にぶい橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ	(20.0)	13.0+a	-	-	
23SX038 P12-23	第21図	031	弥生土器	甕	長石・角閃石・ 白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・指頭痕	ナデ	(21.0)	9.5+a	-	-	外面黒斑
23SX038 ハンサイ	第21図	032	弥生土器	甕	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	橙色	にぶい橙色	ヨコナデ	ナデ・ヨコナ デ・指頭痕	(17.0)	10.3+a	-	-	外面サビ付着
23SX038	第21図	033	弥生土器	甕	角閃石・赤色粒子 ・白色粒子	橙色	橙色	ナデ	ナデ	(24.0)	9.5+a	-	-	外面黒斑
23SX038 ハンサイ	第21図	034	弥生土器	甕	長石・角閃石・ 赤色粒子・白色 粒子	にぶい橙色	橙色	ナデ	ナデ	-	10.0+a	-	-	
23SX038	第21図	035	弥生土器	甕	長石・角閃石・ 白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	丁寧なナデ・指 頭痕	ナデ・指頭痕	-	9.0+a	-	-	
23SX038 1-2層	第21図	036	弥生土器	甕	石英・長石・角 閃石・白色粒子	褐色	褐色～黒色	ナデ・粗いナデ ・工具ナデ	ナデ・ケズリ 後粗いナデ・ミ ガキ	-	11.7+a	4.5	-	外面底部黒変
23SX038	第21図	037	石器	すり石						10.6	7.8	5.1	-	蛇紋岩

23SD001

遺構名	捕図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大脚部径 / 重さ	
23SD001	第23図	001	ミニチュア 土器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	橙色	橙色	ナデ	ナデ・指オサ 工後ナデ	3.5	2.0	-	-	
23SD001 検出時	第23図	002	ミニチュア 土器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	灰黄褐色	褐灰色	ナデ・指オサ 工	ナデ・指オサ 工	3.4	2.4	-	-	
23SD001 1層	第23図	003	ミニチュア 土器	鉢	長石・雲母・角 閃石・白色粒子	にぶい褐色	明褐色	ナデ・指頭痕	ナデ・ハケメ・ 指頭痕	3.5	2.0	-	-	
23SD001	第23図	004	ミニチュア 土器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	橙色	にぶい黄橙色	指オサ工後ナデ	ナデ・指オサ 工後ナデ	4.2	2.7	-	-	内外面黒斑
23SD001-10 下層	第23図	005	ミニチュア 土器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	橙色	橙色	ナデ	指オサ工後ナ デ	6.4	3.1	-	-	
23SD001-6 中層 P-162	第23図	006	ミニチュア 土器	鉢	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒子	橙色	橙色～にぶい 褐色	ナデ・ナデ後ヨ コナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・指頭痕	7.4	4.3	-	-	
23SD001 1層	第23図	007	ミニチュア 土器	鉢	石英・長石・角 閃石・白色粒子	橙色	にぶい橙色	ナデ・指頭痕	指頭痕	4.0	3.5	-	-	黒斑
23SD001 1層	第23図	008	ミニチュア 土器	鉢	長石・角閃石・ 赤色粒子・白色 粒子	浅黄橙色～褐 灰色	浅黄橙色～褐 灰色	指頭痕	指頭痕	4.8	3.9	-	-	
23SD001-10 中層	第23図	009	ミニチュア 土器	鉢	石英・長石・角 閃石・白色粒子	黒褐色	灰白色	指頭痕	指頭痕	5.8	5.0	-	-	外面黒斑・内面黒 変
23SD001-8 P-110	第23図	010	ミニチュア 土器	鉢	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	7.2	5.0	-	-	
23SD001 検出時	第23図	011	ミニチュア 土器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色～橙 色	粗いナデ・指 オサ工	丁寧なナデ・ 指オサ工	4.7	2.6	3.9	-	
23SD001-10 中層 P-130	第23図	012	ミニチュア 土器	壺	長石・角閃石・ 白色粒子	浅黄橙色～橙 色	浅黄橙色	ナデ・ハケメ後 ナデ	ナデ・指オサ 工	5.0	4.6	-	-	底部黒斑・外面サ ビ付着
23SD001 1層	第23図	013	ミニチュア 土器	壺	黒色粒子・褐色 粒子			ナデ・指頭痕	ナデ	-	5.5+a	2.8	-	
23SD001 1層	第23図	014	ミニチュア 土器	底部片	白色粒子・褐色 粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	指頭痕	ケズリ?	-	2.4+a	2.6	-	摩耗により不明瞭
23SD001-0 中層 P-219	第23図	015	土師器	小形器台	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	橙色	橙色～にぶい 橙色	ナデ後ミガキ・ 指オサ工	ハケメ後ナデ・ ハケメ後ミガキ	5.8	9.5	11.8	-	脚部内面黒斑
23SD001 1層	第23図	016	土師器	小形器台	長石・雲母・黑 色粒子	にぶい黄橙色 ～灰色	にぶい黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	-	1.9+a	7.6	-	ハケメ外(4本/cm) ・外内黒斑?
23SD001 P-41	第23図	017	土師器	小形器台	長石・雲母・角 閃石・赤褐色粒 子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ・ ミガキ	ミガキ	8.6	5.6+a	-	-	ハケメ(8本/cm)
23SD001-2	第23図	018	土師器	小形器台	雲母・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナ デ	ハケメ後ナデ	-	3.3+a	7.9	-	
23SD001-6 中層 P-172	第23図	019	土師器	小形器台	石英・雲母・角 閃石・赤褐色粒 子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色～赤 灰色	ナデ・絞り痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	-	5.9+a	10.2	-	ハケメ(6本/cm)・ 穿孔3箇所
23SD001-2 中層	第23図	020	土師器	小形器台	雲母・角閃石・ 砂粒	明赤褐色	明赤褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ケズ リ	ヨコナデ・ミ ガキ	-	5.9+a	(9.8)	-	ハケメ(7本/cm)
23SD001-4 中層 P-258-287	第23図	021	土師器	高坏	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒子	赤色～灰黄色	赤色～浅黄橙 色	工具後ナデ・ハ ケメ後ナデ・ナ デ後ミガキ・指 オサ工	ナデ・ハケメ ・ナデ・ミガキ・ ナデ・ヨコナ デ	21.2	13.5	13.3	-	穿孔4箇所・黒変 ・全面赤色塗彩
23SD001 南上層 P-79	第23図	022	土師器	高坏	石英・長石			ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ	(21.8)	13.5	(15.0)	-	穿孔4箇所
23SD001 P-214-525 23SD001-8	第23図	023	土師器	高坏	石英・長石・角 閃石・赤色粒子			ハケメ・ハケメ 後ミガキ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ミガキ	(19.8)	13.5	16.5	-	穿孔あり
23SD001-10 中層 P-125	第23図	024	土師器	高坏	石英・長石・雲 母・赤色粒子			ナデ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ・ 指頭痕	20.3	12.4	14.5	-	
23SD001 1層 20次 SD001 f区上層	第23図	025	土師器	高坏	石英・長石			ナデ・ハケメ	ナデ(工具痕)・ ヨコナデ・ミ ガキ	19.6	14.5	(13.8)	-	穿孔1箇所

第6表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表5

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大腹部径/重さ		
23SD001-0 中層 23SD001 1層 23SD001-6 中層	第23図	026	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色～浅黄橙色	ナデ後ミガキ・ハケメ・ハケメ後ナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ミガキ	23.3	18.9	14.9	-	穿孔(推定8力所)	
23SD001 P-40-37	第23図	027	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黒褐色～浅黄橙色	黒褐色～浅黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ミガキ	21.6	15.7	13.4	-		
23SD001 P-8-9 1層	第23図	028	土師器	高坏	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ミガキ後ナデ・ナデ・ケズリ後ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ・綫方向のミガキ	20.5	15.7	13.2	-	ハケメ(8本/cm)(8～10本/cm)・外面口縁付近黒斑	
23SD001 1層 20SD001 e区上層	第23図	029	土師器	高坏	石英・長石・赤色粒子				ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ	(19.0)	13.2	(13.4)	-		
23SD001-2 P-34	第23図	030	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色	明赤褐色	ケズリ後ナデ	ハケメ後ミガキ?・ミガキ	19.6	13.3	11.6	-	ハケメ(11本/cm)・黒斑・摩耗により調整不明瞭	
23SD001 1層・検出 P-39	第23図	031	土師器	高坏	石英・長石・赤色粒子				ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・指オサエ	(20.5)	14.6	(11.8)	-	
23SD001-4 P-73-72	第23図	032	土師器	高坏	石英・長石・雲母・赤色粒子				ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ・ミガキ・ミガキ後ヨコナデ	24.2	14.8	7.8	-	
23SD001	第23図	033	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ・指オサエ	ナデ・ヨコナデ	(25.9)	14.9	-	-	ハケメ(8～10本/cm)・黒斑	
23SD001 1層・検出 23SD001-10 P-90	第24図	034	土師器	高坏	石英・長石			ヨコナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(17.6)	15.3	11.8	-		
23SD001 P-28	第24図	035	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ	ハケメ後ナデ・ヨコナデ・ナデ	18.3	14.7	12.2	-	ハケメ(6～7本/cm)・黒斑	
23SD001 検出	第24図	036	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	赤色	赤色	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ミガキ・ケズリ後ナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ	(17.1)	14.2	(11.6)	-	内面赤色塗彩	
23SD001 1層 検出	第24図	037	土師器	高坏	石英・長石			ナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	18.2	13.7	(12.8)	-		
23SD001-4 P-47	第24図	038	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色～灰白色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ヨコナデ後ミガキ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ナデ・ミガキ・ケズリ後ナデ	17.3	13.1	(11.5)	-	ハケメ(6本/cm)・内外面黒斑	
23SD001 P-16	第24図	039	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい橙色	ナデ後ミガキ・ヨコナデ後ミガキ?・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ミガキ・指オサエ	17.6	13.0	11.0	-	ハケメ(8～9本/cm)・内外面黒斑	
23SD001-6 中層 23SD001-8 P-2群	第24図	040	土師器	高坏	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	浅黄橙色～にぶい橙色	ナデ・工具ナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ナデ後ミガキ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ハケメ後ヨコナデ・ミガキ	19.6	14.5	-	-		
23SD001-4 P-59	第24図	041	土師器	高坏	長石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ・指オサエ	ハケメ後ナデ	19.5	16.0	12.4	-	外面黒斑	
23SD001-4 P-67	第24図	042	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	赤色～暗赤灰色	赤色	ナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ・ケズリ後ナデ	ナデ・ナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ・ミガキ・ケズリ	17.9	13.9	7.0	-		
23SD001-8 1層 P-107-106	第24図	043	土師器	高坏	角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～灰黄色	橙色～灰褐色	ナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ・指オサエ	(21.0)	12.2	12.0	-		
23SD001 1層 23SD001-8 P-2群	第24図	044	土師器	高坏	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色	横方向のハケメ後ナデ・ハケメ・ミガキ・ケズリ後ナデ	ナデ・ナナメハケメ	(17.1)	13.6	14.3	-	ハケメ(7本/cm)	
23SD001-8 P96 23SD001-10 P125	第24図	045	土師器	高坏	石英・長石・赤色粒子			ナデ・ケズリ後ナデ	ナデ	(18.0)	12.7	(11.0)	-		
23SD001-4 P-48	第24図	046	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色～浅黄橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ?	11.4	10.1	8.4	-	ハケメ(10～11本/cm)・黒斑	
23SD001-4 P-29-32 1層	第24図	047	土師器	高坏 脚部	石英・長石・雲母			ナデ・ケズリ	ナデ・工具ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	-	11.5+α	12.9	-		
23SD001 1層 23SD001-8 P-2群	第24図	048	土師器	高坏	長石・角閃石・白色粒子	橙色～黄橙色	黄橙色	ナデ・ハケメ・ミガキ?・ケズリ後ナデ	ナデ・ミガキ(摩耗により不明瞭)	16.0	11.9+α	-	-	全体に磨滅顕著で調整不明瞭	
23SD001-4 中層 P-282	第24図	049	土師器	高坏	角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ	ナデ・指オサエ	14.5	11.0	-	-	スス付着	
23SD001-8 中層 P-282	第24図	050	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・白色粒子	橙色～明赤褐色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	14.5	12.3	10.6	-		
23SD001-8 P-3群	第24図	051	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子			ヨコナデ・ヨコナデ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(17.8)	15.8	12.1	-	内面裾部スス付着	

第7表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表6

遺構名	捲番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大脚部径/重さ	
23SD001-12	第24図	052	土師器	高坏	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ケズリ後ナデ・指オサエ・ハケメ	タテナデ・ヨコナデ・指オサエ	16.0	16.5	-	-	
23SD001-8	第24図	053	土師器	高坏	角閃石・白色粒子	褐色～にぶい橙色	褐色～にぶい橙色	ハケメ後ナデ・ナデ	ナデ・ケズリ・ケズリ後ナデ	(11.0)	14.0	11.5	-	
23SD001-0 中層 23SD001-2 中層	第25図	054	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ後ミガキ・ヨコナデ後ミガキ	ナデ後ミガキ・ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ	14.7	13.5	10.4	-	
					長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子			ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ?ハケメ後ミガキ?					
23SD001-P-23	第25図	056	土師器	高坏	石英・長石・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ミガキ・ケズリ	(11.9)	12.5	11.7	-	
23SD001-0 中層	第25図	057	土師器	高坏	長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ハケメ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ・ヨコナデ	15.5	14.7	14.1	-	ハケメ(10~12本/cm)
23SD001-0 上層 23SD001-0 中層	第25図	058	土師器	高坏 坏部	石英・長石・角閃石			ヨコナデ後ミガキ	ハケメ・ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	(20.7)	5.6+a	-	-	
23SD001-1層 23SD001-P-4	第25図	059	土師器	高坏 坏部	石英・長石・雲母・黒色粒子	赤色	赤色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	19.3	8.5	-	-	
23SD001-1層	第25図	060	土師器	高坏 坏部	雲母・赤褐色粒子・白色粒子	にぶい橙色～灰色	明黄褐色～灰色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ	19.8	7.0+a	-	-	脚部接合面で剥離
23SD001-6 中層 P-169	第25図	061	土師器	高坏 坏部	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色～橙色	にぶい橙色	ナデ・ナデ後ミガキ・ヨコナデ後ミガキ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ	17.5	9.5+a	-	-	
23SD001-P-45	第25図	062	土師器	高坏 坏部	石英・長石・雲母			ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	17.0	5.7+a	-	-	
23SD001-6 中層 23SD001-4 中層	第25図	063	土師器	高坏 坏部	石英・雲母・黒色粒子	浅黄橙色～にぶい橙色	浅黄橙色～にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ	16.0	5.9+a	-	-	
23SD001-P-25	第25図	064	土師器	高坏 坏部	石英・長石・雲母・赤色粒子			ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	16.9	5.7+a	-	-	
23SD001-1層 23SD001-4 1層 23SD001-4 P-66	第25図	065	土師器	高坏 坏部	白色粒子	にぶい黄橙色	明赤褐色～黒色	ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	18.6	5.4+a	-	-	ハケメ(6本/cm)・外面黒斑
23SD001-2 中層	第25図	066	土師器	高坏 坏部	白色粒子	にぶい橙色	橙色	ナデ(摩耗により不明瞭)	ナデ・ミガキ	15.9	6.0+a	-	-	
23SD001-P-8	第25図	067	土師器	高坏 坏部	石英・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	摩耗により不明瞭	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	18.2	6.2	-	-	ハケメ(6本/cm)
23SD001-8 P-105	第25図	068	土師器	高坏 坏部	角閃石・白色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ	17.2	5.8+a	-	-	ハケメ(8本/cm)
23SD001-2	第25図	069	土師器	高坏	石英・長石・雲母			ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ・絞り痕・指オサエ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ヨコナデ・指オサエ	14.8	11.6+a	-	-	
23SD001-1層 検出	第25図	070	土師器	高坏 坏部	角閃石・白色粒子	にぶい褐色	にぶい橙色	ヨコナデ	ヨコナデ・ケズリ	(14.8)	5.5+a	-	-	
23SD001-1層	第25図	071	土師器	高坏	長石・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ(摩耗により不明瞭)	ナデ	14.4	4.4+a	-	-	脚部接合面で剥離
23SD001-4 P-57	第25図	072	土師器	高坏 坏部	石英・長石・角閃石・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色～にぶい黄褐色	ヨコナデ・ナナメハケメ後ナデ・ミガキ	ナデ・ナナメハケメ・ミガキ	12.7	4.7+a	-	-	
23SD001-1 拡張	第25図	073	土師器	高坏 坏部	石英・長石・雲母・角閃石			ナデ・ヨコナデ・ミガキ	ナデ・ヨコナデ	13.8	5.1+a	-	-	
23SD001-0 下層	第25図	074	土師器	高坏 坏部	石英・長石・雲母・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ	20.0	6.3+a	-	-	
23SD001-2	第25図	075	土師器	高坏 脚部	石英・長石			ハケメ・ケズリ	ナデ・ハケメ・ヨコナデ	-	7.6+a	10.1	-	
23SD001-8 中層	第25図	076	土師器	高坏 脚部	石英・長石・雲母・角閃石	橙色～にぶい黄橙色	ハケメ・工具痕・ケズリ・ナデ	ナデ・ヨコナデ後ハケメ・ミガキ	-	9.1+a	14.6	-	ハケメ(7本/cm)・穿孔4箇所・一部黒斑	
23SD001-0 中層	第25図	077	土師器	高坏 脚部	長石・雲母・赤褐色粒子・白色粒子・黒色粒子	暗灰黄色	暗灰黄色	ヨコナデ後ハケメ・ケズリ	ヨコナデ後ハケメ・ヨコナデ	-	7.9+a	17.4	-	ハケメ(5本/cm)・穿孔4箇所
23SD001-8 中層	第25図	078	土師器	高坏 脚部	長石・雲母・角閃石	橙色～黒色	橙色～灰白色	強いナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ヨコナデ後ハケメ	-	11.4+a	(16.0)	-	ハケメ(9本/cm)・穿孔3箇所・底部黒斑
23SD001-P-9	第25図	079	土師器	高坏 脚部	石英・長石・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ後ヨコナデ	-	8.5+a	11.8	-	
23SD001-8 P-97	第25図	080	土師器	高坏 脚部	石英・長石・角閃石			ナデ・ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	-	7.8+a	13.0	-	脚部穿孔8箇所
23SD001-P-42 23SD001-2	第25図	081	土師器	高坏 脚部	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ナデ・ハケメ・指オサエ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	-	10.0+a	11.8	-	脚中央部穿孔6箇所
23SD001-P-38	第25図	082	土師器	高坏 脚部	雲母・角閃石・白色粒子	灰白色～灰褐色	灰白色～灰褐色	ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ミガキ	-	5.9+a	(11.8)	-	
23SD001-P-22	第25図	083	土師器	高坏 脚部	雲母・角閃石・白色粒子	橙色～褐灰色	橙色～にぶい黄橙色	ハケメ・ケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ	-	6.8+a	14.7	-	ハケメ(6本/cm)
23SD001-0 上層 23SD001-2 中層	第25図	084	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	赤色～浅黄橙色	赤色～浅黄橙色	ナデ・ナデ後ミガキ・ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・指オサエ後ミガキ・ミガキ・波状文	ナデ後ミガキ・ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ・ミガキ・波状文	23.3	12.3	-	-	浮文貼付・全面赤色塗装

第8表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表7

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大腹部径/重さ	
23SD001-0 下層 P-290	第26図	085	弥生土器	高环 坏部	雲母・角閃石・白色粒子	赤褐色	赤色～赤黒色	ハケメ・ミガキ	ヨコナデ・ミガキ	-	6.9+a	-	-	赤色塗彩
23SD001-8 中層	第26図	086	土師器	高环 脚部	石英・長石・角閃石			ナデ・絞り痕・ ハケメ	ヨコナデ・ハケメ後・一部ナデ	-	13.8+a	16.4	-	脚部穿孔4箇所
23SD001-2 下層 P-294	第26図	087	土師器	高环 脚部	石英・長石・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・刺突文・ 沈線	-	11.9+a	19.2	-	沈線・脚上部穿孔4箇所、脚根穿孔2箇所(推定5箇所?)
23SD001-1層 23SD001-2中層	第27図	088	土師器	鉢	石英・長石・雲母・褐色粒子			ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ? ミガキ	(11.3)	2.9	-	-	
23SD001-4 中層 P-275	第27図	089	土師器	鉢	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黄灰色	黄灰色	ナデ・ミガキ	ナデ	13.0	3.8	-	-	
23SD001-4 中層 P-261	第27図	090	土師器	鉢	石英・角閃石・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ミガキ	ハケメ後ナデ 後ミガキ・指オサエ・指才 サエ後ミガキ	15.0	4.7	-	-	
23SD001-0 中層 P-174	第27図	091	土師器	鉢	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	浅黄橙色	ナデ・指オサエ ・ハケメ	ナデ・指オサエ	13.5	4.5	-	-	ハケメ(9本/cm)
23SD001-1層 23SD001-1層	第27図	092	土師器	鉢	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい黄橙色 ～黒褐色	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	(10.5)	4.0	-	-	ハケメ(9～10本/cm)
23SD001-2中層 23SD001-4中層	第27図	093	土師器	鉢	石英・長石			ヨコナデ・ミガキ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	15.4	4.2+a	-	-	内外面スス付着
23SD001-2中層 P-245	第27図	094	土師器	鉢	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ	ナデ	13.0	3.5	-	-	黒斑被熱
23SD001-1層 23SD001-8中層	第27図	095	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石			ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(16.4)	4.6+a	-	-	
23SD001-6中層 SD001f区上層	第27図	096	土師器	鉢	石英・長石・角閃石			ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(16.3)	4.9+a	-	-	
23SD001-2中層	第27図	097	土師器	鉢	石英・長石・角閃石			ヨコナデ後ミガキ	ヨコナデ後ミガキ ・ヨコナデ	12.0	3.8+a	-	-	
23SD001-10中層	第27図	098	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ後ミガキ ・ミガキ	ケズリ後ミガキ ・ハケメ後ミガキ	14.5	4.7	-	-	ハケメ(8本/cm)・ 外面黒斑
23SD001-8中層 P-3群	第27図	099	土師器	鉢	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	14.0	5.5	-	-	外面黒斑
23SD001-0中層 P-284	第27図	100	土師器	鉢	長石・角閃石・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケメ	13.8	5.4	-	-	
23SD001-0中層 P-233	第27図	101	土師器	鉢	長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ	ハケメ後ナデ	13.5	4.5	-	-	被熱
23SD001-8中層	第27図	102	土師器	鉢	石英・長石・雲母			ヨコナデ・ナデ 後ミガキ?	ヨコナデ・ハケメ後ナデ ミガキ	(16.0)	5.5	-	-	
23SD001-4中層 P-278	第27図	103	土師器	鉢	雲母・角閃石・白色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ	ナデ	15.6	5.5	-	-	
23SD001-6中層	第27図	104	土師器	鉢	長石・角閃石・白色粒子	明褐灰色	にぶい橙色	ナデ・指オサエ 後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	15.0	5.2	-	-	全体スス付着
23SD001-2中層	第27図	105	土師器	鉢	雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ナデ	ナデ	16.0	5.8	-	-	
23SD001-1層 23SD001-6中層	第27図	106	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ ・工具痕	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	17.7	6.2+a	-	-	
23SD001-6中層 P-247	第27図	107	土師器	鉢	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・指オサエ	ナデ	14.0	5.1	-	-	
23SD001-0中層	第27図	108	土師器	鉢	長石・角閃石・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ	ナデ・ハケメ	17.0	6.7	2.0	-	ハケメ(6～7本/cm)
23SD001-4中層 P-229	第27図	109	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ミガキ・指オサエ後横方向のハ ケメ後ナフ	ハケメ後ナデ ・ハケメ後ナデ ナフミガキ・ヨ ナデ後ミガキ・指オサエ	15.0	4.5	-	-	ハケメ(11本/cm)
23SD001-2中層	第27図	110	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ	ナデ・指オサエ	14.5	4.6	-	-	
23SD001-4P-231	第27図	111	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ後ミガキ ・ミガキ	ヨコナデ・ケ スリ後ハケメ 後ナデ	16.6	6.0	-	-	ハケメ(6～7本/cm)
23SD001-4P-51	第27図	112	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色～橙色	橙色～浅黄橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ミガキ	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ナデ	17.4	6.9	-	-	ハケメ(10～11本/cm)・黒斑
23SD001-4中層 P-229	第27図	113	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	橙色～浅黄橙色	ヨコナデ後ミガキ ・ハケメ後ミガキ	ヨコナデ後ミ ガキ・ハケメ 後ナデ後ミガキ	18.1	7.2	-	-	内外面黒斑
23SD001-2中層	第27図	114	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～浅黄橙色	橙色～浅黄橙色	ナデ・ヨコナデ ・指オサエ	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ナデ ・指オサエ	14.5	6.0	-	-	ハケメ(10～11本/cm)・黒斑
23SD001-2中層	第27図	115	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・指 オサエ	14.4	6.2	-	-	黒斑

第9表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表8

遺構名	捲番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大脚部径/重さ	
23SD001-8 中層	第27図	116	土師器	鉢	長石・角閃石・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ナデ・指オサエ	ナデ・ミガキ・指オサエ	17.5	8.5	-	-	赤色塗彩
23SD001-8 P-111	第27図	117	土師器	鉢	石英・角閃石・白色粒子	明赤褐色	橙色	ナデ・指オサエ 後ヨコナデ	指オサエ後ハ ケメ後ナデ後 粗いミガキ	8.0	4.5	-	-	
23SD001 南下層 P-204	第27図	118	土師器	鉢	石英・雲母・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	赤色	赤色	ナデ	ナデ	11.5	6.6	-	-	赤色塗彩
23SD001-4 中層 P-281	第27図	119	土師器	鉢	角閃石・赤色粒子 ・白色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ナデ	ナデ	11.0	4.5	-	-	
23SD001-4 P-52	第27図	120	土師器	鉢	石英・長石・赤 色粒子	にぶい黃橙色 ・白色粒子	にぶい黃橙色 ～灰黃褐色	工具ナデ	粗いケズリ後 丁寧なナデ	12.7	5.7	-	-	外面黒斑・サビ付 着
23SD001-2 中層 23SD001-6 中層 P-186	第27図	121	土師器	鉢	石英・長石・赤 色粒子			ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ	(12.4)	6.3+α	-	-	
23SD001-10 下層	第27図	122	土師器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	淡赤橙色	にぶい橙色～ 橙色	ミガキ・横方向 のハケメ後ナデ	ミガキ	9.8	8.1	-	-	内外面赤色塗彩
23SD001-0 下層 23SD001-2 下層	第27図	123	土師器	鉢	石英・長石・赤 色粒子			ミガキ	ナデ・ヨコナ デ	(11.2)	8.7	-	-	
23SD001-4 中層	第27図	124	土師器	鉢	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒 子	橙色	浅黄橙色	ヨコナデ・ケズ リ後ハケメ後ミ ガキ・指オサエ 後ケズリ後ミガ キ・ハケメ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ・ ハケメ後ミガ キ・ケズリ後 ミガキ	(17.3)	11.9	-	-	ハケメ(5～8本/ cm)(7～8本/cm)
23SD001-2	第27図	125	土師器	鉢	角閃石・赤色粒 子・白色粒子	にぶい橙色	明赤褐色	ナデ・ミガキ ・指オサエ	ハケメ・ミガ キ	(9.8)	5.5	-	-	ハケメ(9～10本/ cm)
23SD001-10 中層	第27図	126	土師器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ ・ナデ部分的 ケズリ?	ナデ・ヨコナ デ	(12.5)	8.1	(5.2)	-	
23SD001 P-249	第28図	127	土師器	鉢	石英・雲母・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	浅黄橙色	橙色	ナデ	ナデ・ハケメ	15.0	3.5	-	-	ハケメ(8本/cm)・ 外面黒斑
23SD001-6 中層 P-200 23SD001-1 拡張	第28図	128	土師器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色～橙 色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	19.4	7.6	-	-	ハケメ(13本/cm) ・内外面黒斑
23SD001 1層	第28図	129	土師器	鉢	長石・角閃石・ 赤色粒子・白色粒 子	橙色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ ・ミガキ・指オ サエ	ナデ・ハケメ・ 指オサエ	15.0	7.5	-	-	ハケメ(6本/cm)
23SD001-2 中層 P-235	第28図	130	土師器	鉢	長石・角閃石・ 赤色粒子	明黄褐色	明黄褐色	ナデ	ハケメ後ナデ ・タテ・ハケメ・ 横方向のハケ メ	(19.5)	10.6	-	-	ハケメ(9本/cm)・ 外面一部黒変
23SD001-0	第28図	131	土師器	鉢	石英・長石・雲 母・角閃石			ヨコナデ	ヨコナデ	(13.8)	6.3+α	-	-	
23SD001-4 下層 P-292	第28図	132	土師器	台付鉢	石英・長石・角 閃石・白色粒子	にぶい橙色～ (赤色)明赤褐 色	赤色	ナデ・ヨコナデ ・縦方向のハケ メ	ナデ・ミガキ・ 櫛描波状文	10.2	9.1+α	-	-	赤色塗彩・浮文2 ×5箇所貼付・突 堤
23SD001 中層 P-154	第28図	133	土師器	鉢	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒 子	にぶい黄橙色	褐灰色	ハケメ・ケズリ 後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ・指オ サエ	9.8	9.1	-	-	ハケメ(8～11本/ cm)・黒斑
23SD001-6 中層 P-192	第28図	134	土師器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナ デ・指オサエ	12.0	7.0	-	-	
23SD001-6 中層	第28図	135	土師器	鉢	石英・長石・角 閃石・白色粒子	橙色	にぶい橙色	ミガキ・横方向 のミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ後 ミガキ	14.9	9.5+α	-	-	外面黒斑
23SD001-0 中層	第28図	136	土師器	鉢	石英・長石・雲 母・黒色粒子			ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナ デ	14.3	10.1	-	-	
23SD001-10 第28図	137	土師器	鉢	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒 子	橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ 後ミガキ・ケズ リ後ナデ・指オ サエ	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ナデ ・ケズリ後ナデ 後ミガキ?	19.4	14.5	-	-	ハケメ(9～11本/ cm)・黒変	
23SD001 P-216	第28図	138	土師器	鉢	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒 子	橙色	明褐灰色	ナデ・ハケメ ・ハケメ後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	22.4	12.6	-	-	一部黒変
23SD001-2 中層 23SD001-4 中層	第28図	139	土師器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子			ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ・ ケズリ後ミガ キ?	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ・ ケズリ後ミガ キ?	(20.8)	14.8+α	-	-	外面口縁部～体 部上位にかけ黒斑
23SD001-4 P-60 23SD001-6 中層 23SD001 1層 検出時	第28図	140	土師器	鉢	石英・長石・黒 色粒子			ナデ・ヨコナデ 後細いミガキ?	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	25.6	12.1+α	-	-	外面スス付着
23SD001-0 上層・中層	第28図	141	土師器	鉢	石英・長石・赤 色粒子			ナデ・ヨコナデ (工具痕)	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ後ヨコ ナデ	22.8	18.6	-	-	
23SD001 中層 P-224	第28図	142	土師器	鉢	長石・角閃石・ 白色粒子	灰黃褐色	灰黃褐色～褐 灰色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ・ミガ キ	ナデ・ミガキ・ ケズリ後ナデ	26.8	22.2	-	-	
23SD001-4 中層 P-263	第29図	143	土師器	鉢	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒 子	浅黄橙色	淡黄色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ナデ ・ハケメ後ミガ キ・ケズリ・指 オサエ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後ナ デ・ハケメ後ミ ガキ・ミガキ	27.3	22.1	-	-	ハケメ(6～7本/ cm)・外面黒変
23SD001-10 下層 23SD001-12 上層 23SD001 1層	第29図	144	土師器	鉢	石英・長石・雲 母			ナデ・ハケメ後 ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ後ヨコ ナデ・指オ サエ	(27.9)	15.6+α	-	-	

第10表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表9

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
23SD001-10 中層	第29図	145	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(30.4)	13.9+α	-	-	
23SD001-10 中層	第29図	146	土師器	鉢	角閃石・石英・長石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ後・ナデ	ヨコナデ・指オサエ・ハケメ?工具ナデ	(32.0)	13.0+α	-	-	
23SD001-0	第29図	147	土師器	鉢	石英・長石・赤色粒子			ヨコナデ・ケズリ後ナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・工具ナデ・ナデ	25.7	30.5	-	-	
23SD001-4 中層P-255 23SD001-2 中層 23SD001-12 上層	第29図	148	土師器	鉢	長石・角閃石・白色粒子	赤褐色	赤褐色	ナデ・横方向のハケメ・ケズリ後ハケメ・指オサエ	ナデ・ハケメ・ケズリ後ハケメ	29.5	27.0	-	-	
23SD001-1 南下層 南P-202	第29図	149	土師器	鉢	角閃石・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子	浅黄色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	(48.0)	16.4+α	-	-	突帯
23SD001-6 中層P-183 23SD001 中層・検出時 P-176-177 23SD001-8 中層	第30図	150	土師器	鉢	石英・長石・黒色粒子			ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	31.3	29.5	-	-	内面スス付着・刻み目突帯
23SD001-2 中層 P-212	第30図	151	土師器	台付鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	にぶい橙色	工具ナデ後ナデ・横方向のハケメ後ナデ・ハケメ後ナデ後ミガキ・ミガキ・指オサエ・指オサエ後ヨコナデ	ナデ・縦方向のハケメ・横方向のハケメ後ナデ後ミガキ・ハケメ後ナデ・指オサエ・指オサエ後ハケメ後ナデ	(20.4)	17.1	-	-	ハケメ(10本/cm)・底部内側黒斑
23SD001-2 中層 P-270	第30図	152	土師器	台付鉢	角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ナデ	ナデ・ハケメ・ミガキ	13.2	6.9	3.9	-	ハケメ(6本/cm)・外側黒斑
23SD001-4 下層	第30図	153	土師器	小形鉢	長石・石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄色	浅黄色～黒褐色	ミガキ?・指オサエ	ケズリ後ナデ	-	7.5+α	1.4	-	黒斑
23SD001-4 下層 P-289	第30図	154	土師器	鉢	石英・長石			ナデ(一部指オサエ)	ヨコナデ一部ケズリ	(9.7)	14.7	-	-	
23SD001-10 中層 P-119	第30図	155	土師器	鉢	長石・角閃石・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ・指オサエ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	16.0	10.5	-	-	ハケメ(5本/cm)(10~11本/cm)
23SD001-4 P-54	第30図	156	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	明赤褐色	ナデ・ケズリ・指オサエ	ナデ・指オサエ	13.5	6.5	8.7	-	黒斑
23SD001-4 中層 P-165	第31図	157	土師器	小型丸底壺	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ・ケズリ後ナデ	12.0	9.8	-	-	
23SD001-6 中層 P-165	第31図	158	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ナデ・ヨコナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	10.5	8.4	-	-	黒斑
23SD001-2 中層 P-250	第31図	159	土師器	小型丸底壺	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	浅黄橙色～橙色	ナデ・指オサエ	ハケメ後ナデ後ミガキ・ミガキ	10.1	7.3	-	-	内面サビ付着
23SD001-4 P-68 1層	第31図	160	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石			ナデ・ヨコナデ・指頭痕	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ヨコナデ	(12.3)	7.5	-	-	
23SD001-4 P-232	第31図	161	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石	橙色	にぶい橙色	ヨコナデ後ミガキ・横方向のハケメ後ナデ後ミガキ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ナデ・ミガキ	10.5	7.4	-	-	ハケメ(8本/cm)・外側黒斑
23SD001-2 中層 P-257	第31図	162	土師器	小型丸底壺	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	浅黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ	12.0	7.0	-	-	外側黒斑
23SD001 南	第31図	163	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ	11.6	6.6	-	-	内面体部～底部スス付着
23SD001-8 中層 P-135	第31図	164	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色～にぶい赤褐色	にぶい橙色～明赤褐色	ハケメ後ナデ・ハケメ後ナデ後ヨコナデ・指頭痕	ハケメ後ナデ後ミガキ	11.6	6.4	-	-	外側黒斑
23SD001-10 中層 P-128	第31図	165	土師器	小型丸底壺	石英・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ハケメ後ナデ後ヨコナデ・指オサエ	ハケメ後ナデ・ハケメ後ナデ後ヨコナデ	11.7	6.8	-	-	外側黒斑
23SD001-8 中層 P-146	第31図	166	土師器	小型丸底壺	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ・ミガキ・指頭痕	ナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	13.8	9.2	-	-	
23SD001-8 中層 P-143	第31図	167	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～浅橙色	橙色～浅橙色	ハケメ後ナデ	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	12.7	7.5	-	-	ハケメ(10~13本/cm)・黒斑
23SD001 拡張	第31図	168	土師器	丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色～浅黄橙色	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ナデ後ヨコナデ	20.2	13.7	-	-	ハケメ(12~13本/cm)
23SD001-8 中層 P-132	第31図	169	土師器	丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色	橙色～浅黄橙色	ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ミガキ・ケズリ後ナデ	ナデ・ケズリ後ヨコナデ後ミガキ・ケズリ後ナデ	16.6	13.2	-	-	ハケメ(8~10本/cm)
23SD001-6 P-103	第31図	170	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ナデ・ミガキ	ミガキ	-	6.4+α	-	-	
23SD001-0 中層	第31図	171	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色～にぶい橙色	橙色	横方向のハケメ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	14.5	6.3	-	-	ハケメ(11本/cm)
23SD001-6 中層	第31図	172	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ヨコナデ・ミガキ	(15.0)	6.3	-	-	

第11表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表10

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
23SD001 拡張	第31図	173	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ナデ・ハケメ後ヨコナデ	ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	13.3	6.4	-	-	ハケメ(8~9本/cm)・黒斑
23SD001-0 P-227	第31図	174	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ハケメ後ミガキ・ミガキ	ミガキ	14.3	6.2	-	-	外面黒斑
23SD001-6 下層・中層 P-191	第31図	175	土師器	小型丸底鉢	長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・工具ナデ	ナデ・ミガキ	13.8	6.8	-	-	外面黒斑
23SD001-2 中層	第31図	176	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ(工具痕)		(16.4)	5.9+a	-	-	
23SD001-6 P-74	第31図	177	土師器	小形の丸底鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色~橙色	にぶい黄橙色~橙色	ヨコナデ後ミガキ・ケズリ後ミガキ・ミガキ・指頭痕・指オサ工後ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ハケメ	11.0	7.7	4.2	-	ハケメ(12本/cm)
23SD001-10 中層 P-127	第31図	178	土師器	小形の丸底鉢	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	浅黄橙色	ナデ・ミガキ	ナデ	12.5	7.0	-	-	黒斑
23SD001-6 中層 P-171	第31図	179	土師器	小形の丸底鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ	9.8	6.0	-	-	黒斑
23SD001-4 中層	第31図	180	土師器	小形の丸底鉢	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	橙色	ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	12.0	7.5	-	-	
23SD001-8 P-104	第31図	181	土師器	小形の丸底壺	石英・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色~橙色	ハケメ後ナデ後ミガキ・ケズリ・指頭痕	ハケメ後ナデ後ヨコナデ・横方向のハケメ後粗いミガキ・ミガキ・指頭痕	13.1	13.5	-	-	
23SD001 P-13	第31図	182	土師器	小形の丸底壺	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色~にぶい赤褐色		ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	9.4	12.8	-	-	
23SD001-4 P-61	第31図	183	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	淡橙色	橙色~淡橙色	ナデ・ヨコナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	10.8	14.0	-	-	ハケメ(7~8本/cm)・黒斑
23SD001-8 P-12	第31図	184	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黄褐色	明黄褐色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(11.8)	15.5	-	-	黒斑
23SD001 P-10	第31図	185	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	11.9	15.4	-	-	ハケメ(6~7本/cm)
23SD001-4 P-56	第32図	186	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄褐色~褐灰色	灰黄褐色	ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	9.4	8.5	-	-	ハケメ(7本/cm)・スス付着
23SD001-4 P-62	第32図	187	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ後ナデ・指頭痕	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	7.0	10.4	-	-	ハケメ(9本/cm)
23SD001 1層 23SD001-8 P-15	第32図	188	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・角閃石・黑色粒子			ナデ	ハケメ	(7.2)	10.5	-	-	
23SD001 P-30	第32図	189	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色~褐灰色	にぶい黄橙色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	7.0	8.7	-	-	ハケメ(7本/cm)・黒斑
23SD001 1層	第32図	190	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・角閃石・褐色粒子			ナデ・ヨコナデ(指頭痕)	ナデ・ヨコナデ	(7.4)	7.8+a	-	-	
23SD001-4 P-68	第32図	191	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・角閃石			ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	7.0	7.9+a	-	-	
23SD001-8 P-100	第32図	192	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母			ナデ・ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ一部ナデ・ハケメ後ヨコナデ	(6.2)	7.4+a	-	-	
23SD001-4 P-64	第32図	193	土師器	小形の丸底壺	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ	ナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	6.2	7.0	-	-	
23SD001 1層	第32図	194	土師器	小形の丸底壺	長石・角閃石・赤色粒子			ヨコナデ・ケズリ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(9.0)	9.2+a	-	-	
23SD001-10 P-88	第32図	195	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・角閃石・白色粒子	浅黄橙色	灰白色~にぶい褐色	ハケメ後ナデ・指頭痕・指オサ工後ナデ・指オサ工後ミガキ	ハケメ後ナデ・横方向のハケメ後ミガキ・指頭痕・指オサ工後ミガキ	9.1	10.0	-	-	内外面黒斑
23SD001-10 P-83	第32図	196	土師器	直口壺	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色~褐灰色	浅黄橙色~褐灰色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	14.0	14.7	-	-	
23SD001-0 中層 P-234	第32図	197	土師器	直口壺	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色~褐灰色	浅黄橙色~明褐灰色	ナデ・指頭痕	ナデ・ナデ後ミガキ・指頭痕	13.5	16.7	-	-	
23SD001-10 中層 P-122	第32図	198	土師器	直口壺	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい橙色	ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ミガキ	15.0	17.4	-	-	ハケメ(8本/cm)
23SD001-8 中層 P-144	第32図	199	土師器	直口壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	赤色粒子・石英・長石・角閃石	橙色~淡黄橙色	ナデ・ヨコナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	(14.0)	19.0	-	-	ハケメ(11~13本/cm)・黒斑・工具による文様?
23SD001-8 中層 P-149	第32図	200	土師器	直口壺	石英・長石・赤色粒子	明赤褐色	橙色~浅黄橙色	ナデ・オサエ・ナデ	ミガキ	-	15.4+a	-	-	黒斑
23SD001-2 中層	第32図	201	土師器	直口壺	石英・長石・角閃石			ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ	10.8	14.0+a	-	-	
23SD001-4 P-63	第32図	202	土師器	直口壺	石英・長石・角閃石			ナデ・ヨコナデ(指頭痕)	ナデ・ヨコナデ	9.9	11.5+a	-	-	

第12表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表11

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大腹部径 / 重さ	
23SD001-8 P-98	第32図	203	土師器	直口壺	長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙色～橙色～黒褐色	にぶい黄橙色～明黄褐色	ナデ・ヨコナデ・斜めハケメ・ミガキ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・縦方向のハケメ・縦方向のハケメ後ナデ・縦斜めハケメ・ミガキ	20.8	34.3	-	-	ハケメ(10本/cm) (10~11本/cm)
23SD001-8 中層 P-158	第33図	204	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	橙色	ナデ・工具ナデ?・ハケメ・ハケメ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	13.7	24.3	-	-	ハケメ(6~13本/cm)・黒斑
23SD001 南 P-80	第33図	205	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ハケメ・ハケメ後ミガキ・ハケメ後指サエ・ケズリ	ナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	13.5	28.0	-	-	ハケメ(4~5本/cm)・外面黒変
23SD001-6 中層 P-198	第33図	206	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい黄橙色	ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・指頭痕	ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・指頭痕	(15.9)	31.9	-	-	黒斑
S001-10 中層	第33図	207	土師器	壺	角閃石・石英・長石・白色粒子・雲母	にぶい黄橙色～黒褐色	にぶい黄橙色～黒褐色	ヨコナデ・オサエ・ハケメ後ナデ・ミガキ	ヨコナデ・オサエ・ハケメ?	(16.8)	23.6+a	-	-	黒斑
23SD001 P-31	第33図	208	土師器	壺	赤色粒子・白色粒子・石英・角閃石	明赤褐色～にぶい橙色	明赤褐色	ハケメ後ヨコナデ・指サエ・ケズリ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	14.3	15.8+a	-	-	黒斑
23SD001 中層 P-221-224 23SD001-0 中層 P-241	第34図	209	土師器	壺	石英・長石・赤色粒子			ヨコナデ・ナデ一部ハケメ	ハケメ	15.9	34.0	-	-	外面スス付着
23SD001-4 中層 P-262 23SD001-6 P-210	第34図	210	土師器	壺	石英・赤色粒子・白色粒子	橙色～明褐色	にぶい橙色～橙色	ナデ・縦方向のハケメ・横方向のハケメ・横斜めハケメ・斜めハケメ・ケズリ・指頭痕	ナデ・縦方向のハケメ後ヨコナデ・縦斜めハケメ・ハケメ	(19.3)	37.0	-	-	ハケメ(9~10本/cm)(10本/cm)・外面スス付着
23SD001-4 中層 P-276	第34図	211	土師器	壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・黑色粒子			工具ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	17.6	36.0	-	-	突帯
23SD001-8 中層 P-163 23SD001-4-6 中層	第34図	212	土師器	壺	石英・長石			ヨコナデ・ケズリ・ハケメ後ナデ・ナデ?	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ	18.2	39.1	-	-	突帯貼付・外面スス付着
23SD001-0-2 中層	第35図	213	土師器	壺	石英・長石・赤色粒子			ハケメ・ハケメ後ナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	18.5	42.5	-	-	
23SD001-4 P-58	第35図	214	土師器	壺	石英・角閃石・白色粒子	灰褐色	橙色	ナデ・ヨコナデ・斜めハケメ	ナデ・ヨコナデ・斜めハケメ	18.0	41.4	-	-	ハケメ(5本/cm)・外面黒変・サビ付着
23SD001 P-18	第35図	215	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明黄褐色～暗灰色	にぶい赤褐色	ヨコナデ・ケズリ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	15.3	19.9	-	-	ハケメ(9~10本/cm)・黒斑
23SD001-8 P-130	第35図	216	土師器	壺	石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰褐色	橙色	ヨコナデ・ハケメ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	15.0	19.8	-	-	ハケメ(9~15本/cm)・黒斑
23SD001-0 中層	第35図	217	土師器	壺	角閃石・白色粒子・赤色粒子・長石・雲母	明赤褐色	明赤褐色～黒褐色	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後オサエ・ケズリ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(13.6)	18.7+a	-	-	黒斑
23SD001 中層 P-220	第35図	218	土師器	壺	石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ヨコナデ・ミガキ・指頭痕	ハケメ後ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ	17.8	32.2	-	-	ハケメ(5~6本/cm)・黒斑
23SD001-12 上層・中層 P-198-201 23SD001拡張	第35図	219	土師器	壺	石英・長石・角閃石			ナデ・ヨコナデ・ミガキ・工具痕	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ミガキ	17.1	27.7+a	-	-	
23SD001-6 中層 P-182	第36図	220	土師器	壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色～明赤褐色	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ・指頭痕	ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	18.1	32.6	-	-	ハケメ(3~8本/cm)・黒斑・穿孔
23SD001-2 P-225	第36図	221	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ	16.3	32.3	-	-	ハケメ(6~7本/cm)
23SD001-2 中層 P-273 23SD001-4 中層	第36図	222	土師器	壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ハケメ後ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	(17.5)	36.3	-	-	
23SD001-0 中層 P-213	第36図	223	土師器	壺	石英・長石・赤色粒子			ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	17.4	36.2+a	-	-	外面スス付着
23SD001-2-4 中層 23SD001 P-36	第36図	224	土師器	壺	石英・長石・雲母・赤色粒子			ハケメ後ナデ・ナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	20.2	26.3+a	-	-	内面スス付着
23SD001 拡張 23SD001-8 中層 23SD001-12 上層・中層	第36図	225	土師器	壺	石英・長石・雲母・赤色粒子			ハケメ・ハケメ後ヨコナデ・ナデ(指頭痕)・一部ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	16.5	15.6+a	-	-	
23SD001-8 P-1群 中層 P-176-175	第37図	226	土師器	壺	石英・長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙色～橙色	明黄褐色	ナデ後ミガキ・ハケメ・ハケメ後ミガキ・指サエ後ナデ	ナデ・ナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ	(17.2)	36.4	-	-	黒変・接合痕

# 第三章 調査の成果

第13表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表12

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胸部径 / 重さ	
23SD001-P-1	第37図	227	土師器	壺	石英・長石・赤色粒子・黒色粒子			ヨコナテ・ナデ	ヨコナテ・ハケメ後ミガキ・ミガキ	-	32.8+a	-	-	外面ス付着
23SD001-拡張	第37図	228	土師器	壺	石英・角閃石・白色粒子・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ハケメ・ナデ	ヨコナテ・ナデ	19.1	13.0+a	-	-	丁寧なナデで器壁整う
23SD001-0中層・上層・下層P-241など	第37図	229	土師器	複合口縁壺	長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙色～橙色	明赤褐色～橙色	ナデ・工具ナデ・ケズリ後ナデ・斜めハケメ後ナデ・指頭痕	総方向のハケメ後ナデ・斜めハケメ後ナデ・ミガキ・櫛描波状文	18.6	51.1	-	-	突帯(肩部・胴部)内外面部分的に黒変
23SD001-6中層	第37図	230	土師器	複合口縁壺	石英・長石			指頭痕・ハケメ・ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ・ヨコナデ・キザミ・ハケメ・ナデ	-	41.2+a	-	-	
23SD001-2中層P-211 P-237P-271	第38図	231	土師器	複合口縁壺	石英・長石・雲母・赤色粒子			ヨコナテ・ハケメ後ナデ・ナデ・ハケメ後一部ナデ	ヨコナテ・ヨコナテ後櫛描波状文・ハケメ・ヨコナテ後キサミ・ハケメ後ミガキ・ケズリ	17.8	40.1	-	-	突帯貼付
23SD001-2中層23SD001-4中層P-272	第38図	232	土師器	複合口縁壺	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	浅黄橙色～橙色	ナデ・ヨコナデ・横方向のハケメ・斜めハケメ・ミガキ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・縦方向のハケメ	15.0	37.6	-	-	ハケメ(5～6本/cm)(6～7本/cm)・外面ス付着・突帯
23SD001-4中層P-28023SD001-6中層	第38図	233	土師器	複合口縁壺	石英・長石・赤色粒子			ヨコナテ・ハケメ後ヨコナテ・ハケメ・ナデ	ヨコナテ・櫛描波状文・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ一部ミガキ・ハケメ後ナデ	15.8	36.4+a	-	-	
23SD001-2	第38図	234	土師器	複合口縁壺	角閃石・雲母・石英・白色粒子・赤色粒子	灰黄色	にぶい橙色	ヨコナテ・ナデ・指オサエ・ハケメ後ナデ	櫛描波状文・ヨコナテ・ハケメ後ナデ	17.2	20.5+a	-	-	突帯貼付
23SD001-2P-23623SD001-0上層	第38図	235	土師器	複合口縁壺	長石・角閃石・白色粒子・橙色粒子	明黄褐色～黃褐色～にぶい黄褐色	明黄褐色～黃褐色	ナデ・ヨコナデ・斜めハケメ・横方向のハケメ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・縦方向のハケメ	-	42.6+a	-	-	ハケメ内(10～11本/cm)(11～12本/cm)外(10～11本/cm)・突帯・外面黒変
23SD001-0下層P-296	第38図	236	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子・礫	灰白色	灰白色 断面灰色	ヨコナテ・ハケメ	ヨコナテ・ハケメ・櫛描波状文	15.0	11.3+a	-	-	黒斑
23SD001-4P-65	第39図	237	土師器	複合口縁壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	浅黄橙色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	5.4	8.0	-	-	ハケメ(6本/cm)(8本/cm)
23SD001-4中層20SD001-f区上層	第39図	238	土師器	複合口縁壺	石英・長石・赤色粒子			ヨコナテ・ケズリ	ヨコナテ・ハケメ後ナデ・ハケメ	14.6	32.2+a	-	-	
23SD001-4P-66	第39図	239	土師器	複合口縁壺	石英・長石・角閃石・白色粒子	橙色～黒色	明赤褐色～橙色	ナデ・横方向のハケメ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ヨコナテ・縦斜めハケメ後ナデ	19.8	33.5	-	-	ハケメ(5本/cm)(6本/cm)
23SD001-6中層P-19623SD001-8中層23SD001-12上層	第39図	240	土師器	二重口縁壺	石英・長石・雲母・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ケズリ後ナデ	ヨコナテ・ヨコナテミガキ・ハケメ(一部ミガキ?)	19.4	23.0+a	-	-	
23SD001-4中層P-63-69	第39図	241	土師器	二重口縁壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	浅黄橙色	ナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・指頭痕	ヨコナテ・ハケメ・ハケメ後丁寧なナデ・ハケメ後ヨコナテ	15.5	31.9	-	-	ハケメ(3～11本/cm)(4～6本/cm)
23SD001-8P-101P-1群	第39図	242	土師器	二重口縁壺か	白色粒子・赤色粒子・角閃石	明褐色	にぶい黄褐色～黒褐色	ヨコナテ・ケズリ	ハケメ後ヨコナテ・ハケメ	-	31.2+a	-	-	黒斑
23SD001-4-6中層	第40図	243	土師器	壺	角閃石・白色粒子	赤褐色	橙色	斜めハケメ・指頭痕	ナデ・縦方向のハケメ後ナデ・縦～斜めハケメ	-	41.6+a	-	-	ハケメ(7本/cm)(7～9本/cm)(9本/cm)・外面黒変・突帯
23SD001-4中層P-263-274	第41図	244	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ハケメ後ミガキ・ケズリ後ミガキ・指オサエ後ミガキ・ハケメ	ヨコナテ・ハケメ・ハケメ後ミガキ・ハケメ後ヨコナテ・ハケメ後ミガキ	17.8	30.6	-	21.6	ハケメ(9～12本/cm)
23SD001-0中層	第41図	245	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	黄橙色	ナデ・ヨコナデ・指頭痕	ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	20.4	31.1	-	23.6	ハケメ(8本/cm)・外面ス付着
23SD001-6中層P-242	第41図	246	土師器	甕	雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ後ヨコナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ	17.5	29.2	-	22.2	黒斑・スス付着
23SD001-4中層P-209	第41図	247	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ヨコナテ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	(17.8)	29.8	-	23.8	内面底部・外面口縁部・胴部～底部スス付着
23SD001-6中層P-210	第41図	248	土師器	甕	石英・長石・赤色粒子			ハケメ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ミガキ・ミガキ	19.4	31.6+a	-	28.0	外面胴部ス付着
23SD001-8中層P-159-146	第41図	249	土師器	甕	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナテ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	(16.8)	29.4+a	-	21.5	ハケメ(7本/cm)・外面ス付着
23SD001-4中層	第42図	250	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黄橙色	黄橙色	ナデ・ミガキ・ケズリ・ケズリ後ミガキ・指オサエ後ナデ・指オサエ後ミガキ	工具ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・指オサエ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	16.6	29.7	-	22.0	ハケメ(5～7本/cm)・外面黒変
23SD001-0中層	第42図	251	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色～赤色	ヨコナテ・ハケメ後ミガキ・ミガキ・指頭痕	ヨコナテ・ハケメ後ナデ・ミガキ・指頭痕	(18.0)	29.0	-	22.2	ハケメ(8本/cm)・胴部下半剥離顯著

第14表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表13

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
23SD001-2 中層P-254	第42図	252	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色～橙色	橙色～にぶい橙色	ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	21.6	34.5	-	23.8	ハケメ(6本/cm)・黒斑
23SD001-6 中層P-200 23SD001-8 中層 23SD001-12 上層	第42図	253	土師器	甕	石英・長石・赤色粒子			ハケメ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	20.1	31.5	-	23.2	内外面スス付着
23SD001-4 中層	第42図	254	土師器	甕	角閃石・石英・長石・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい橙色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナハケメ後ナデ	(16.2)	26.8+a	-	-	
23SD001-6 中層	第42図	255	土師器	甕	角閃石・石英・雲母・白色粒子・赤色粒子	浅黄橙色	にぶい黄橙色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(18.4)	21.5+a	-	-	
23SD001-6 中層P-246	第43図	256	土師器	甕	長石・角閃石・白色粒子	にぶい橙色～橙色	にぶい橙色～橙色	ヨコナデ・ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	18.5	34.1	-	22.6	内外面スス付着
23SD001-2 中層P-208	第43図	257	土師器	甕	石英・長石・角閃石			ナデ・ハケメ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(16.5)	29.3	-	22.7	胴部穿孔1箇所
23SD001-8 中層	第43図	258	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	浅黄橙色～橙色～黒色	浅黄橙色～橙色	ナデ・ヨコナデ・ミガキ?・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ミガキ?・指頭痕	18.4	31.7	-	24.6	ハケメ(6～7本/cm)・内面黒変
23SD001-6 中層P-170	第43図	259	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(18.5)	28.3	-	22.5	ハケメ(6本/cm)・黒斑
23SD001-4 中層P-252	第43図	260	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ハケメ後ナデ・ハケメ後ナデ・指オサエ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	16.8	30.0	-	23.4	ハケメ(5～10本/cm)・内面一部黒変
23SD001-8 中層	第44図	261	土師器	甕	長石・角閃石・白色粒子	橙色	明褐灰色	ナデ・ヨコナデ・ミガキ?・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ミガキ?・指頭痕	22.0	35.4	-	28.8	ハケメ(9本/cm)・外面スス付着
23SD001 中層 P183・190 23SD01下層	第44図	262	土師器	甕	石英・長石・角閃石			ナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	(16.4)	28.5	-	23.3	口縁～胴部下位・内面底部スス付着
23SD001 P-17	第44図	263	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	浅黄橙色	ナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ミガキ?・指頭痕	ナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ?・指頭痕	(17.6)	30.1	-	26.0	
23SD001 P-15	第44図	264	土師器	甕	長石・角閃石・白色粒子	明褐色～黒褐色	にぶい橙色～橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	(16.7)	28.4	-	24.5	ハケメ(5本/cm)・内外面黒変
23SD001-2 集中	第44図	265	土師器	甕	石英・長石・雲母			ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後一部ナデ	18.3	28.6	-	24.4	
23SD001-6 P-195	第44図	266	土師器	甕	角閃石・白色粒子・赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(16.4)	13.3+a	-	-	
23SD001	第44図	267	土師器	甕	角閃石・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・指オサエ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	(16.6)	17.2+a	-	-	
23SD001-6 中層 P-186・190	第45図	268	土師器	甕	白色粒子・角閃石・石英・赤色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ハケメ後ナデ・ナデ・ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ・ナデ	(18.4)	16.5+a	-	-	
23SD001-4 中層 P-229	第45図	269	土師器	甕	角閃石	橙色	橙色	ヨコナデ・ミガキ?・ハケメ後ミガキ?	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	(18.0)	20.3+a	-	-	
23SD001 P-12	第45図	270	土師器	広口甕	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黄橙色～橙色～赤色	橙色～黒褐色	ナデ・ナナメハケメ・ナナメハケメ後ナデ・指頭痕	ナデ・ハケメ	(27.6)	33.9+a	-	-	ハケメ(5本/cm)・赤変・スス付着
23SD001 南中層 P-116	第46図	271	土師器	甕	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～黒色	橙色～褐灰色～赤褐色	ナデ・ハケメ・ミガキ?・ケズリ?・指頭痕	ナデ・ハケメ・ミガキ?	18.8	28.3	-	21.2	ハケメ(5～6本/cm)・内面黒変・外
23SD001-6 中層 P-189・183	第46図	272	土師器	甕	長石・角閃石・白色粒子・橙色粒子	橙色～黒褐色	橙色～黒褐色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ後工藝なナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ミガキ?	(16.3)	26.6	-	20.2	ハケメ(12～13本/cm)・外面スス付着
23SD001-0 P-226	第46図	273	土師器	甕	雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色～浅黄橙色	ヨコナデ・ケズリ後ハケメ後ミガキ?	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ・ミガキ?	15.1	26.0	-	20.9	ハケメ(5～11本/cm)・黒斑・スス付着
23SD001-10 中層 P-129	第46図	274	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコハケメ後ミガキ?・指オサエ後ナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ?	(14.3)	22.0+a	-	18.1	ハケメ(8本/cm)
23SD001 中層集中	第46図	275	土師器	甕	角閃石・石英・白色粒子・赤色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(17.7)	15.6+a	-	-	
23SD001-8 中層	第46図	276	土師器	甕	赤色粒子・白色粒子・角閃石・石英・長石・雲母	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズリ後工藝ナデ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・指頭痕	(17.0)	13.5+a	-	-	黒斑
23SD001 P-26	第46図	277	土師器	甕	角閃石・長石・石英・赤色粒子	明褐色	にぶい黄橙色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後指オサエ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(14.5)	12.8+a	-	-	
23SD001-0 P-241	第46図	278	土師器	甕	角閃石・石英・赤色粒子	灰黃褐色	灰黃褐色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(15.1)	13.1+a	-	-	
23SD001-0 中層	第46図	279	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・指オサエ後ナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・指頭痕	16.2	27.4	-	19.6	黒変
23SD001-0 中層P-223	第46図	280	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	浅黄橙色～明赤褐色	ハケメ後ナデ・ヨコナデ・ミガキ?・指頭痕	ナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	13.9	23.5	-	17.8	ハケメ(7～18本/cm)・黒斑

第15表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 14

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
23SD001-6 中層 P-177-183	第46図	281	土師器	甕	石英・長石・角閃石			ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(17.8)	27.2+a	-	22.0	外面胴部・内面底部付近スス付着
23SD001-8 中層 P-140	第47図	282	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ	18.1	28.0	-	22.5	ハケメ(8~9本/cm)・黒斑・スス付着
23SD001-0 上層	第47図	283	土師器	甕	角閃石・長石・白色粒子・赤色粒子	にぶい褐色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(17.6)	25.5+a	-	-	
23SD001-2 中層	第47図	284	土師器	甕	角閃石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	橙色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(15.4)	18.1+a	-	-	
23SD001-8 中層 P-136	第47図	285	土師器	甕	石英・長石・雲母・赤色粒子・黑色粒子			ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ(一部指頭痕)・ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	(16.0)	12.6+a	-	-	外面口縁一部~胴部スス付着
23SD001-8 中層 P-164	第47図	286	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	浅黄橙色	ヨコナデ・ケズリ後ミガキ・指オサエ後ハケメ後ナデ	ヨコナデ・指オサエ後ナデ	20.3	23.0+a	-	-	ハケメ(6~8本/cm)(7~9本/cm)・黒変
23SD001-8 中層 P-213-219	第47図	287	土師器	甕	角閃石・石英・白色粒子・赤色粒子	にぶい橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	(16.8)	15.2+a	-	-	黒斑
23SD001-0 中層 P-213-219	第47図	288	土師器	甕	角閃石・白色粒子	にぶい橙色~にぶい褐色	にぶい橙色~暗赤褐色	ナデ・ハケメ後ミガキ・指頭痕	ナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ・ケズリ後ナデ	25.5	25.5	-	18.6	ハケメ(6~7本/cm)・外面黒斑
23SD001-4 中層 P-260	第47図	289	土師器	甕	石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色~灰白色	ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	17.3	27.8	-	21.3	ハケメ(9~11本/cm)・スス付着
23SD001-2 中層 P-251	第47図	290	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	橙色~灰白色	ハケメ後ヨコナデ・ミガキ・指頭痕	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	17.7	27.8	-	21.2	ハケメ(10~11本/cm)・黒斑・スス付着
23SD001-6 中層 P-181	第47図	291	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色~淡橙色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	13.9	23.9	-	19.1	ハケメ(7~14本/cm)
23SD001-10	第47図	292	土師器	甕	角閃石・石英・雲母・白色粒子・赤色粒子	明黃褐色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ケズリ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(14.6)	20.6	-	-	黒斑
23SD001-6 P-195	第47図	293	土師器	甕	角閃石・雲母・石英・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい橙色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(15.4)	15.1+a	-	-	
23SD001-8 中層 P-137	第47図	294	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色~黒褐色	浅黄橙色~明赤褐色~赤黒色	ケズリ後ナデ・ミガキ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ	15.6	20.8	-	17.7	黒変
23SD001-6 中層	第47図	295	土師器	甕	角閃石・石英・長石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	14.2	10.2+a	-	-	
23SD001-4 中層 P-283-209	第48図	296	土師器	甕	石英・長石・赤色粒子			ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	16.7	22.5+a	-	20.8	外面胴部中位~下位スス付着
23SD001 中層 P-173	第48図	297	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	浅黄橙色	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ミガキ・指オサエ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	(17.8)	26.4	-	21.5	ハケメ(6本/cm)(6~10本/cm)・外面スス付着
23SD001-2 中層 P-256	第48図	298	土師器	甕	雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	15.7	25.5	-	20.4	ハケメ(8~11本/cm)・黒斑・スス付着・赤変
23SD001-2 中層 P-268	第48図	299	土師器	甕	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	淡橙色~橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後指オサエ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	15.2	24.7	-	20.2	ハケメ(7~10本/cm)・スス付着
23SD001-8 中層 23SD001-6 中層 P-164	第48図	300	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ミガキ・指頭痕	工具ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ミガキ・指頭痕	(19.6)	27.6	-	23.1	内外面一部黒変
23SD001-6 中層 P-193	第48図	301	土師器	甕	角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ケズリ後ナデ・指頭痕・指オサエ後ヨコナデ	ケズリ後ナデ・指オサエ後ヨコナデ	15.5	24.6	-	20.8	黒斑
23SD001-8 中層 P-161	第48図	302	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ケズリ後ナデ・ケズリ後ヨコナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	15.0	20.2	-	17.5	ハケメ(4本/cm)・黒斑・スス付着・赤変
23SD001-0 中層	第48図	303	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐色	浅黄橙色	ナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ミガキ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ミガキ	16.9	24.0	-	22.0	
23SD001-6 中層 P-185	第48図	304	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色~灰白色	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ハケメ後オサエ・ケズリ	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	15.7	24.0	-	22.4	スス付着
23SD001 P-35	第49図	305	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色~橙色	ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・指頭痕	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(15.2)	20.2	-	18.6	ハケメ(5本/cm)・黒斑
23SD001 P-11	第49図	306	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ヨコナデ・ハケメ(一部指頭痕)・ハケメ一部ケズリ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ一部ナデ	(15.9)	17.7+a	-	24.2	頸部~胴部スス付着
23SD001-6 中層	第49図	307	土師器	甕	白色粒子・角閃石・赤色粒子・石英・雲母	赤褐色	赤褐色~黃褐色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ナデ	(18.1)	12.9+a	-	-	黒斑

第16表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 15

遺構名	捲番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大腹部径/重さ	
23SD001-8 P-1群 P155	第49図	308	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ヨコナデ・ハケメ後ナデ(一部指頭痕)	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	15.5	21.3+a	-	21.0	胴部上位~下位スス付着
23SD001-6 中層	第49図	309	土師器	甕	角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色~黒褐色	橙色~黒褐色	ナデ・ハケメ・指頭痕	ハケメ・ハケメ後ナデ・指頭痕	21.5	21.5+a	-	21.3	
23SD001-6 中層 P-199	第49図	310	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ハケメ後ナデ・ハケメ?後ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	(17.9)	22.0	-	15.6	ハケメ(7~8本/cm)・黒斑
23SD001-8 中層 P-133	第49図	311	土師器	甕	石英・長石・雲母・赤色粒子			ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	(15.8)	23.7+a	-	20.2	外面スス付着
23SD001-6 P-183	第49図	312	土師器	甕	角閃石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ後オサエ、ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケ	(17.7)	17.7+a	-	-	反転復元
23SD001-6 中層 P-184	第50図	313	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明黄褐色~灰	にぶい黄褐色~灰黄褐色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ・指頭痕	ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	15.5	19.9	-	17.4	ハケメ(8~10本/cm)・黒斑
23SD001 P-217	第50図	314	土師器	甕	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黄橙色	灰白色~浅黄橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ?ケズリ・指頭痕	ナデ・ハケメ・ヨコナデ	17.0	23.5	-	21.0	外面スス付着
23SD001-0 中層	第50図	315	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ハケメ後ナデ・指オサエ後ナデ・ハケメ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	15.6	25.0	-	22.4	ハケメ(6~8本/cm)(7~9本/cm)・外面一部黒変
23SD001-2 中層 P-269	第50図	316	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい赤褐色	浅黄橙色~橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	(15.2)	24.5	-	19.8	ハケメ(8~9本/cm)・黒斑・スス付着
23SD001-6 中層 P-188	第50図	317	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色~灰褐色	橙色~褐灰色	ハケメ後ナデ後ミガキ	ハケメ・ヨコナデ	14.1	21.3+a	-	19.0	ハケメ(5~6本/cm)
23SD001-4	第50図	318	土師器	甕	石英・長石・角閃石・黑色粒子			ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	(12.8)	18.9+a	-	17.8	
23SD001-6 中層 P-180・190	第50図	319	土師器	甕	石英・角閃石	にぶい橙色	にぶい橙色~橙色	ハケメ後ミガキ・ミガキ・指オサエ後ミガキ	ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・指頭痕・指オサエ後ハケメ	14.5	19.5	-	16.7	ハケメ(7~9本/cm)・内外面黒斑
23SD001-2 中層 P-264	第50図	320	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色~橙色	にぶい黄橙色~橙色	ナデ・ヨコナデ	ハケメ後ナデ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ後ミガキ・ハケメ後粗いミガキ	15.0	20.8	-	18.4	ハケメ(13本/cm)・内面部黒斑・外面スス付着
23SD001-8 中層 P-160	第50図	321	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色~浅黄橙色	ヨコナデ・ケズリ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	15.0	24.7	-	20.7	ハケメ(7~9本/cm)・黒斑・スス付着
23SD001-0	第51図	322	土師器	甕	長石・角閃石・白色粒子	明赤褐色~黒褐色	明赤褐色~黒褐色	ナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	17.3	27.2	-	22.0	ハケメ(6本/cm)(6~7本/cm)・内外面黒変・スス付着
23SD001-8 中層 P-99	第51図	323	土師器	甕	石英・長石・雲母			ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	14.4	25.2	-	21.2	外面スス付着
23SD001 P-230	第51図	324	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(17.3)	25.1	-	21.6	黒斑・スス付着
23SD001-8 中層	第51図	325	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色	浅黄色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・指オサエ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ミガキ	17.8	25.3	-	22.2	ハケメ(8~10本/cm)(9~12本/cm)・黒変
23SD001-8 P-29	第51図	326	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色~にぶい赤褐色	にぶい橙色~橙色	ハケメ後ナデ	ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(16.5)	25.5	-	22.3	ハケメ(6~7本/cm)(6本/cm)・外面黒変
23SD001-8 中層 P-184	第51図	327	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	浅黄橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ケズリ後ナデ・ケズリ後ヨコナデ	(17.5)	26.6	-	23.4	黒斑
23SD001 P-24	第51図	328	土師器	甕	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい黄橙色~橙色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ナデ	16.0	23.2	-	20.5	ハケメ(8~9本/cm)・黒斑
23SD001-4 中層	第51図	329	土師器	甕	石英・長石・黑色粒子			ナデ・ヨコナデ・ケズリ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	16.4	23.1	-	20.4	胴部下半スス付着
23SD001-2 中層 P-238	第51図	330	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・黑色粒子			ナデ・ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ヨコナデ	(15.9)	21.0	-	19.3	
23SD001 P-5	第52図	331	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤褐色粒子・黑色粒子			ナデ・ヨコナデ(一部指頭痕)	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	(14.5)	20.0	-	18.3	外面赤色化粧土施す
23SD001-8 P-94	第52図	332	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ナデ(工具痕)・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	(14.4)	22.5+a	-	21.0	
23SD001-8 P-98	第52図	333	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	黄橙色	浅黄橙色~黄橙色~明赤褐色	ハケメ後ヨコナデ・ミガキ・指頭痕	ナデ・ハケメ	15.3	22.6	-	21.0	ハケメ(5~12本/cm)
23SD001	第52図	334	土師器	甕	角閃石・雲母・石英・白色粒子・赤色粒子	にぶい橙色	灰褐色	ハケメ後ヨコナデ・指オサエ・ハケメ・ケズリ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(16.8)	25.7+a	-	24.5	黒斑
23SD001-8 拡張	第52図	335	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい赤褐色	橙色~にぶい黄橙色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ハケメ・ヨコナデ	(18.9)	24.9	-	23.2	ハケメ(9~10本/cm)・黒斑・スス付着

# 第三章 調査の成果

第17表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 16

遺構名	捲番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胸部径 / 重さ	
23SD001-4 P-68	第52図	336	土師器	甕	石英・長石・角閃石・黒色粒子			ナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(16.6)	24.3	-	22.6	
23SD001-P-19	第52図	337	土師器	甕	石英・長石・角閃石・白色粒子	黒褐色～橙色	橙色～明赤褐色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	(16.0)	22.6	-	21.2	ハケメ(5本/cm)(7本/cm)
23SD001-2	第52図	338	土師器	甕	角閃石・長石・石英・白色粒子	明赤褐色	にぶい黄色～褐灰色	ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(15.4)	20.0+a	-	19.8	黒斑
23SD001-4 中層	第52図	339	土師器	甕	石英・長石・雲母			ナデ・ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	16.4	24.3+a	-	23.0	胴部下位スス付着
23SD001	第52図	340	土師器	甕	白色粒子・長石・石英・赤色粒子	褐色	赤褐色～褐灰色	ヨコナデ・指オサエ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	(16.2)	22.4	-	22.2	黒斑
23SD001-P-14	第53図	341	土師器	甕	白色粒子・角閃石・長石・赤色粒子	にぶい黄褐色～褐灰色	暗褐色～褐灰色	ハケメ後ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	15.2	11.5+a	-	-	黒斑
23SD001-6 P-6	第53図	342	土師器	甕	角閃石・石英・長石・白色粒子・赤色粒子	浅黄橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	16.5	9.4+a	-	-	
23SD001-6 中層	第53図	343	土師器	甕	白色粒子・長石・石英・角閃石・赤色粒子	明赤褐色～褐灰色	にぶい黄橙色～褐灰色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(16.3)	11.8+a	-	-	黒斑
23SD001-0 中層	第53図	344	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・黒色粒子			ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ナデ・ヨコナデ後ハケメ?	(14.6)	11.4+a	-	-	
23SD001-4 P-44	第53図	345	土師器	甕	角閃石・白色粒子・赤色粒子	明黄褐色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	(15.6)	12.1+a	-	-	
23SD001-中層 P-176	第53図	346	土師器	甕	角閃石・石英・長石・白色粒子・赤色粒子	明赤褐色	橙色	ヨコナデ・指オサエ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	15.1	16.6+a	-	-	黒斑
23SD001-8 中層 P-108	第53図	347	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ヨコナデ・ハケメ・ケズリ(一部頭痕)	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ・ヨコナデ	13.3	19.2+a	-	-	胴部上位～下位スス付着
23SD001-P-215	第53図	348	土師器	甕	角閃石・白色粒子・赤色粒子・雲母	明赤褐色	明赤褐色～褐灰色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(16.4)	16.6+a	-	-	黒斑
23SD001-8 中層 P-2群 P-148	第53図	349	土師器	甕	角閃石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(15.2)	14.4+a	-	-	黒斑
23SD001-8 中層 P-3群	第53図	350	土師器	甕	角閃石・白色粒子・雲母	赤褐色	赤褐色	ハケメ後ナデ・ミガキ・ナデ	ハケメ後ナデ・ミガキ・ナデ	(19.2)	12.3+a	-	-	
23SD001-0 中層	第53図	351	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ヨコナデ・ハケメ後ケズリ・ケズリ後ミガキ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	(15.7)	15.4+a	-	-	外面胴部スス付着
23SD001-0 中層	第53図	352	土師器	甕	石英・長石・角閃石			ハケメ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ケズリ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	15.1	20.1+a	-	-	胴部外面スス付着
23SD001-8 中層	第53図	353	土師器	甕	長石・石英・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	明黄褐色～褐灰色	ヨコナデ・一部指オサエ・ヨコナデ・指オサエ・ケズリ・ナデ・指オサエ	ヨコナデ・一部指オサエ・ヨコナデ・指オサエ・ハケメ後ナデ	(15.8)	17.2+a	-	-	黒斑
23SD001-6 中層 23SD001-8 中層 P-159・163	第54図	354	土師器	甕	石英・長石・雲母・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(16.8)	24.2	-	20.1	外面スス付着
23SD001-8 中層 P-150	第54図	355	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・指頭痕	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	17.2	23.9	-	19.8	ハケメ(8～9本/cm)・黒斑・スス付着
23SD001-8 中層 P-130 23SD001-10 中層	第54図	356	土師器	甕	石英・長石・黑色粒子			ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	16.6	24.3	-	21.0	胴部中位～下部スス付着
23SD001-10 中層 P-123	第54図	357	土師器	甕	石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色	橙色	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後指オサエ	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	16.2	26.1	-	18.4	ハケメ(5～8本/cm)黒斑・スス付着
23SD001-4 P-53	第54図	358	土師器	甕	長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ・ミガキ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ	17.2	18.3	-	17.2	ハケメ(3～4本/cm)(6～7本/cm)(8～9本/cm)・口縁～底部にかけてスス付着
23SD001-10 中層 P-83・86	第54図	359	土師器	甕	石英・長石・角閃石・白色粒子	明赤褐色	にぶい黄橙色	ハケメ後ミガキ・ミガキ	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	14.8	18.2	-	17.4	ハケメ(6～9本/cm)(7本/cm)・黒斑
23SD001-4 中層	第54図	360	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ナデ・ハケメ	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(10.4)	25.8+a	-	22.0	
SD001-4 中層 P-252・263	第54図	361	土師器	甕	石英・長石・雲母・赤色粒子			ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	16.5	23.7	-	20.7	外面胴部上位～底部・内面部スス付着
23SD001-10 中層 P-119	第54図	362	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子			ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ・ケズリ後ヨコナデ・指頭痕・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(16.4)	23.1	-	20.7	内面部黒斑・外面部縁部下位・胴部中位～下部スス付着
23SD001-4 中層	第54図	363	土師器	甕	石英・長石・雲母			ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	16.6	23.1+a	-	20.4	
23SD001-0 上層・中層 20次 SD001 f区下層	第54図	364	土師器	甕	石英・長石・赤色粒子			ヨコナデ・ケズリ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ	18.4	19.8+a	-	-	胴部上位突文風工具痕4箇所

第18表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 17

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大腹部径 / 重さ		
23SD001-0 中層	第54図	365	土師器	甕	石英・長石・赤色粒子			ヨコナデ・ケズリ後ナデ		(15.3)	19.5+a	-	-	外面胴部スス付着	
23SD001-8 中層 P-153	第55図	366	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	橙色	ハケメ・ケズリ・指頭痕		13.6	20.7	-	17.6	ハケメ(8~14本/cm)・黒斑・スス付着	
23SD001-8 P-2群 P-3群	第55図	367	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ・ケズリ・後ナデ		16.9	22.4+a	-	22.1	外面胴部下半スス付着	
23SD001-4 中層 P-277	第55図	368	土師器	甕	石英・長石・雲母・赤色粒子			ヨコナデ・ケズリ		ヨコナデ・ハケメ後ナデ	16.2	14.3+a	-	-	外面全体所々スス付着
23SD001-6 中層 P-189	第55図	369	土師器	甕	角閃石・長石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ケズリ		ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	16.5	9.7+a	-	-	
23SD001 南 P-114-115	第56図	370	土師器	小形壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ後ミガキ・ケズリ・ケズリ後ミガキ・指オサエ後ミガキ		ヨコナデ・ケズリ後ナデ・ケズリ後ミガキ	(15.2)	15.1	-	-	内面全体にうっすらスス付着
23SD001-4 中層 P-228	第56図	371	土師器	小形壺	雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ		ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	13.6	16.3	-	-	ハケメ(9~10本/cm)・スス付着
23SD001 中層 P-179	第56図	372	土師器	小形壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色~灰褐色	浅黄褐色~赤褐色~灰褐色	ナデ・ハケメ・ケズリ後ナデ・指頭痕		ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	13.3	16.5	-	-	ハケメ(7~9本/cm)・黒斑・スス付着
23SD001-10 中層 P-121	第56図	373	土師器	小形壺	長石・雲母・赤色粒子・白色粒子	橙色	灰褐色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・指頭痕		ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ハケメ後ミガキ	14.7	17.8	-	-	ハケメ(8~13本/cm)・黒斑
23SD001-2 中層 P-267	第56図	374	土師器	小形壺	雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	浅黄褐色~黑色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕		ナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	(13.2)	15.7	-	-	ハケメ(7~8本/cm)・黒斑
23SD001-6 中層 P-248	第56図	375	土師器	小形壺	石英・長石・赤色粒子			ヨコナデ・ケズリ		ヨコナデ・ハケメ	(13.5)	15.2+a	-	-	胸部中位~下位スス付着
23SD001-8 中層	第56図	376	土師器	小形壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ		ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ミガキ・ケズリ後ナデ	15.8	16.7+a	-	-	
23SD001-8 中層 P-156	第56図	377	土師器	小形壺	石英・長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄褐色~褐灰色	にぶい黄褐色~明黄褐色	ナデ・ヨコナデ・指頭痕		ヨコナデ・ハケメ	14.7	17.4	-	-	胸部穿孔3箇所(内→外面)
23SD001-2 中層 P-265	第56図	378	土師器	小形壺	雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕		ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	13.3	15.3	-	-	ハケメ(8~9本/cm)・黒斑・スス付着
23SD001 P-7	第56図	379	土師器	小形壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	明赤褐色	ヨコナデ・ケズリ・ケズリ後ナデ・指頭痕		ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ・指頭痕	14.3	15.3	-	-	ハケメ(4~8本/cm)
23SD001-0	第56図	380	土師器	小形壺	赤色粒子・角閃石・石英	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ナデ		ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(11.9)	15.7+a	-	-	
23SD001-8 中層	第56図	381	土師器	小形壺	角閃石・赤色粒子・白色粒子・長石	橙色	褐灰色	ヨコナデ・ケズリ・ケズリ後ナデ		ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(13.6)	14.5+a	-	-	黒斑
23SD001-0 中層	第56図	382	土師器	小形壺	石英・長石・赤色粒子・黑色粒子			ナデ・ハケメ後ナデ		ヨコナデ・ハケメ	(13.1)	16.6	-	-	外面全体スス付着
23SD001-10 P-87	第56図	383	土師器	小形壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ・指頭痕		ハケメ・ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	13.2	16.7	-	-	
23SD001 P-5	第56図	384	土師器	小形壺	石英・長石			ハケメ・ケズリ後ナデ		ヨコナデ・ハケメ	(15.2)	15.2+a	-	-	
23SD001-0 中層	第56図	385	土師器	小形壺	角閃石・長石・赤色粒子・白色粒子	灰白色	浅黄褐色	ヨコナデ・ケズリ		ハケメ後ヨコナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(15.5)	15.5+a	-	-	
23SD001-0 中層	第57図	386	土師器	小形壺×小形壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色~灰褐色	橙色	横方向のミガキ・ケズリ後ナデ・指頭痕		ナデ・ハケメ	(8.6)	9.5	-	-	ハケメ(7本/cm)
23SD001-6 中層 P-197	第57図	387	土師器	小形壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色~灰白色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ		ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	11.6	10.2	-	-	
23SD001-6 中層	第57図	388	土師器	小形壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ケズリ・指オサエ後ナデ		ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	11.1	11.5	-	-	ハケメ(6本/cm)・(14本/cm)・外面黒斑
23SD001-4 中層 P-277	第57図	389	土師器	小形壺	石英・長石・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ・指頭痕		ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(12.8)	13.4	-	-	
23SD001-4 中層 P-259	第57図	390	土師器	小形壺	石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	浅黄褐色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ナデ		ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	11.9	13.0	-	-	ハケメ(10~13本/cm)・黒斑
23SD001-4 P-55	第57図	391	土師器	小形壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐灰色~浅黄褐色	橙色~褐灰色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ・指頭痕		ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	11.1	12.9	-	-	ハケメ(8~9本/cm)・黒斑
23SD001-4 P-124	第57図	392	土師器	小形壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐灰色	橙色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕		ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	13.6	13.0	-	-	ハケメ(8~9本/cm)・黒斑
23SD001 P-2	第57図	393	土師器	小形壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色~灰白色	橙色~灰白色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ・ケズリ後ミガキ		ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(13.2)	11.1	-	-	ハケメ(10~12本/cm)・黒斑

第19表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表18

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
23SD001-P-27	第57図	394	土師器	小形壺×小形甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明黄褐色	明赤褐色	ナテ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(11.9)	11.2	-	-	/ハケメ(9~11本/cm)・黒斑
23SD001-2中層	第57図	395	土師器	小形甕	石英・長石・角閃石・白色粒子	灰黄色	浅黄色～にぶい橙色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(12.5)	14.3	-	-	/ハケメ(11~13本/cm)・黒斑
23SD001-10P-1	第57図	396	土師器	小形壺×小形甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色～にぶい橙色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	9.6	12.2	-	-	/ハケメ(8~10本/cm)・黒斑
23SD001-4中層P-288	第57図	397	土師器	小形甕	長石・角閃石・白色粒子	褐灰色～にぶい黄橙色	浅黄色～黃灰色	ナテ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ハケメ・ハケメ後ナデ・ミガキ	11.3	12.9	-	-	/ハケメ(7~8本/cm)・外面黒変
23SD001-P-20	第57図	398	土師器	小形甕	角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐色	にぶい橙色	ナテ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	(12.7)	15.2	-	-	/ハケメ(7~8本/cm)
23SD001-6中層	第57図	399	土師器	小形甕	白色粒子・角閃石・石英・赤色粒子・長石	橙色	明赤褐色～褐灰色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(13.3)	9.5+a	-	-	黒斑
23SD001-61層	第57図	400	土師器	小形甕	石英・長石			ナテ・指頭痕・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	14.1	8.0+a	-	-	
23SD001-8	第57図	401	土師器	小形甕	石英・長石・角閃石			ナテ(一部指頭痕)・ヨコナデ・ハケメ	ナテ・ヨコナデ・ハケメ	(15.4)	12.7	-	-	頸部～底部スス付着
23SD001-4P-293	第57図	402	弥生土器	甕	角閃石・長石・石英・白色粒子	灰黄色	灰黄色	ナテ	ナテ	-	6.7+a	(4.0)	-	内面磨滅により調整不明
23SD001-8P-2群	第58図	403		土錐	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	赤褐色	ナテ後ミガキ・指オサエ後ナデ	-	7.4	3.4	3.1	-	
23SD001-10	第58図	404		土錐	石英・長石・雲母・角閃石・白色粒子	-	褐色～黒褐色	ナテ後ミガキ・指オサエ後ナデ後ミガキ	-	8.0	3.3	3.0	-	
23SD001-4下層	第58図	405	石器	すり石						7.0	5.3	4.3	201.0g	安山岩
23SD001-6	第58図	406	石器	不明						6.6	2.2	1.8	36.0g	砂岩
23SD001-4P-4	第58図	407	石器	すり石						10.3	15	3.4	857.0g	安山岩
23SD001-4中層	第58図	408	石器	すり石						22.0	13.4	4.9	2150.0g	安山岩
23SD001-6南下層P-78	第58図	409	石器	すり石						18.8	13.7	5.8	2,410.0g	安山岩
SD001-6中層P-194	第59図	410	石器	台石						36.4	28.0	11.4	19,800.0g	安山岩

23SD170

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
23SD170-13	第61図	001	ミニチュア土器	鉢	角閃石・石英・赤色粒子・白色粒子	褐灰色	浅黄橙色	指オサエ・ナデ	ナデ	-	3.5+a	-	-	線刻
23SD170-4上層	第61図	002	ミニチュア土器	鉢	白色粒子・角閃石・雲母	橙色・明褐灰色	橙色・明褐灰色	指頭痕	ナデ・指頭痕	5.0	3.2	-	-	
23SD170-14	第61図	003	ミニチュア土器	鉢	角閃石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色～黒褐色	ヨコナデ・ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	(6.4)	5.3	1.8	-	黒斑
23SD170-17	第61図	004	ミニチュア土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐灰色～にぶい橙色	褐灰色～にぶい橙色	ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	6.9	4.7	-	-	黒斑
23SD170-10	第61図	005	土師器	小形器台	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	橙色	ナデ	ナデ	11.0	6.8	8.4	-	
23SD170-3	第61図	006	土師器	小形器台	白色粒子・赤色粒子・雲母	にぶい橙色・橙色・褐灰色	にぶい橙色・橙色・褐灰色	ナデ	ナデ	13.4	5.1+a	-	-	
23SD170-2	第61図	007	土師器	小形器台	白色粒子・雲母・角閃石	にぶい橙色～灰褐色	にぶい橙色～灰褐色	ミガキ・ナデ・ハケメ	横方向のミガキ・ナデ・ハケメ	12.7	10.05	12.6	-	穿孔残存4箇所
23SD170-7	第61図	008	土師器	小形器台	長石・角閃石・石英・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	橙色	ミガキ・ハケメ・指オサエ	ナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ	(12.6)	12.0	12.6	-	穿孔3箇所
23SD170-6下層	第61図	009	土師器	高坏	角閃石・雲母	赤色～黒褐色	赤色	ハケメ後ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ミガキ・ミガキ	(20.2)	12.1+a	-	-	黒斑・赤色塗彩・穿孔痕2箇所
S-170-6.7下層	第61図	010	土師器	高坏	角閃石・雲母・長石・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ミガキ・ナデ・シボリ・ハケメ後ミガキ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ナデ・ミガキ	23.2	15.5	(16.9)	-	穿孔推定4箇所
23SD170トレンチ	第61図	011	土師器	高坏	角閃石・長石・砂粒・橙色粒子	橙色	橙色	ミガキ・ヨコナデ・ナデ・ケズリ後ナデ	横方向のミガキ	19.7	14.6	14.8	-	穿孔4箇所
23SD170-5	第61図	012	土師器	高坏	白色粒子・雲母・角閃石	橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ナデ・ミガキ・ヨコナデ後細かいミガキ	(21.8)	14.0	(16.0)	-	穿孔4箇所・黒斑・赤色塗彩
23SD170-11・12	第61図	013	土師器	高坏	角閃石・長石・石英・白色粒子・赤色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ・ナデ・指オサエ(摩耗により不明瞭)	ハケメ後ナデ・ヨコナデ	(23.7)	15.0	(15.4)	-	穿孔残存1箇所
23SD170-11	第61図	014	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・白色粒子	にぶい橙色	にぶい黄橙色～橙色	ハケメ後ミガキ・ナデ・ハケメ後ナデ	ハケメ一部ミガキ・ナデ・ハケメ後ミガキ	24.2	16.8	16.2	-	外面黒斑・穿孔4箇所・接合痕

第20表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 19

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚		
23SD170-17	第61図	015	土師器	高坏	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	横方向のハケメ・後ナデ・ナデ・粗いヨコナデ	縦～斜めハケメ・ナデ・ハケメ	23.2	14.9	12.7	-	穿孔4箇所
23SD170-13 23SD170-14 23SD170-15	第61図	016	土師器	高坏	角閃石・白色粒子・褐色粒子	にぶい黄橙色	橙色	ナデ・ハケメ・ハケメ後ミガキ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ・工具ナデ	(24.0)	16.1	(17.1)	-	ハケメ(8本/cm)・穿孔4箇所(推定6箇所?)
23SD170-6,7	第61図	017	土師器	高坏	角閃石・赤色粒子・白色粒子・石英	明赤褐色	明赤褐色	ハケメ・ハケメ後ミガキ・ナデ・ハケメ・工具ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ・ハケメ後ミガキ	21.0	15.1	(13.8)	-	黒斑・穿孔残存4箇所
23SD170-5,6	第61図	018	土師器	高坏	白色粒子・赤色粒子・角閃石・石英・長石・雲母	明褐色	明褐色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ハケメ後ナデ・ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ	21.7	14.1	(14.0)	-	穿孔残存2箇所
23SD170-10	第61図	019	土師器	高坏	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明黄褐色	明黄褐色～褐灰色	斜めハケメ・横方向のハケメ・ナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ	縦～斜めハケメ・ナデ・ミガキ・横方向のハケメ	25.2	16.5	(17.6)	-	ハケメ内(6~7本/cm)外(4本/cm)・穿孔4箇所
23SD170-4上層	第62図	020	土師器	高坏	白色粒子・雲母・角閃石	橙色	橙色～にぶい橙色	ミガキ・ナデ	ミガキ	20.0	12.7	12.5	-	穿孔4箇所
23SD170-14	第62図	021	土師器	高坏	角閃石・石英・長石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	(24.0)	14.9	14.9	-	穿孔残存4箇所
23SD170-7	第62図	022	土師器	高坏	角閃石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色～明褐色	ミガキ?(摩耗により不明瞭)	ヨコナデ・ミガキ	22.1	16.3+a	-	-	穿孔残存2箇所
23SD170-3	第62図	023	土師器	高坏	白色粒子・雲母・角閃石	にぶい暗色～褐灰色	橙色～褐灰色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(21.6)	15.0	(14.0)	-	穿孔残存2箇所、痕跡1箇所
23SD170-7	第62図	024	土師器	高坏	白色粒子・赤色粒子・角閃石	明赤褐色	明赤褐色	ミガキ後ナデ・ハケメ・ナデ	ミガキ後ナデ・ヨコナデ	23.4	16.3	(13.5)	-	穿孔残存1箇所、痕跡2箇所
23SD170-2	第62図	025	土師器	高坏	白色粒子・黒色粒子・雲母	橙色	橙色～灰色	ヨコナデ・放射状のミガキ・ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ミガキ・ナデ	(23.6)	15.0	(15.4)	-	黒斑・穿孔残存1箇所痕跡2箇所
23SD170-7	第62図	026	土師器	高坏	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ・ハケメ後ナデ・ケスリ	ヨコナデ・ミガキ後ナデ・ナデ	24.3	16.3	(16.2)	-	穿孔3箇所
23SD170-7	第62図	027	土師器	高坏	角閃石・赤色粒子・白色粒子・長石	浅黄色	にぶい黄橙～赤褐色	ミガキ・ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・指サエ・ナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ・ミガキ	(24.0)	15.8	(17.7)	-	穿孔残存2箇所
23SD170-16	第62図	028	土師器	高坏	白色粒子・長石・砂粒	橙色	橙色	縦方向のミガキ・ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ミガキ・ナデ	(23.9)	15.0	16.9	-	穿孔3箇所
23SD170-5,6	第62図	029	土師器	高坏	白色粒子・雲母・角閃石	橙色	明褐灰色～橙色	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ・ナデ	ヨコナデ・ミガキ	(25.0)	17.6	(18.0)	-	穿孔3箇所
23SD170-5,6	第62図	030	土師器	高坏	白色粒子・赤色粒子・雲母・角閃石	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ・ナデ	ヨコナデ・ミガキ	(26.4)	15.8	17.8	-	黒斑・穿孔3箇所
23SD170-11	第63図	031	土師器	高坏	角閃石・雲母・石英・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ミガキ・ミガキ・指サエ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ナデ・ハケメ後ナデ	20.6	13.6	16.2	-	
23SD170-13	第63図	032	土師器	高坏	角閃石・長石・赤色粒子	浅黄色	明赤褐色～浅黄色	工具痕?ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ナデ・ハケメ後ナデ	(21.0)	13.5	(14.8)	-	黒斑
23SD170-11	第63図	033	土師器	高坏 坏部	雲母・赤褐色粒子・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ミガキ	19.6	6.3+a	-	-	
23SD170-4	第63図	034	土師器	高坏 坏部	赤色粒子・角閃石・石英・雲母	明赤褐色	明赤褐色	ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ	(20.9)	7.4+a	-	-	
23SD170-11	第63図	035	土師器	高坏 坏部	長石・雲母・角閃石・赤褐色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ハケメ後ミガキ	ヨコナデ後ミガキ	23.6	8.3+a	-	-	ハケメ(5本/cm)・内外面黒斑
23SD170-5トレンチ	第63図	036	土師器	高坏	角閃石・赤色粒子・白色粒子・石英	にぶい黄橙～橙色	にぶい黄橙～橙色	ミガキ?ナデ?・工具痕?(摩耗により不明瞭)	ハケメ・ハケメ後ミガキ	27.0	15.1	-	-	黒斑・赤色塗彩・穿孔残存・脚部中央4箇所・据1箇所
23SD170-2	第63図	037	土師器	高坏 坏部	角閃石・雲母・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ミガキ・ハケメ後ミガキ	18.6	12.0+a	-	-	
23SD170-7	第63図	038	土師器	高坏 脚部	長石・雲母・角閃石・赤褐色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	-	7.5+a	13.8	-	ハケメ(5本/cm)・穿孔3箇所
23SD170-5トレンチ	第63図	039	土師器	高坏	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙色～にぶい黄橙	橙色 断面 褐灰色	ヨコナデ後ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	-	10.4+a	17.2	-	ハケメ(5本/cm)・穿孔3箇所
23SD170-4	第63図	040	土師器	高坏	角閃石・赤色粒子・石英・白色粒子	赤～明褐灰色	赤～明褐灰色	ミガキ?	ハケメ後ヨコナデ・ミガキ	(10.7)	9.1+a	-	-	赤色塗彩
23SD170-9	第63図	041	土師器	高坏	角閃石・白色粒子・黒色粒子・褐色粒子	赤～橙色	赤～橙色	ナデ・放射状のミガキ・ハケメ	浮文張付・刺突文(2条)・ヨコナデ・ミガキ・ハケメ・ナデ	21.7	15.9+a	-	-	
23SD170-2	第63図	042	弥生土器	高坏 坏部	白色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ミガキ	ミガキ	28.4	7.0+a	-	-	内外面赤色塗彩
23SD170-6	第64図	043	弥生土器	高坏	白色粒子・雲母	赤色～にぶい橙色	赤色～にぶい橙色	ミガキ・ナデ	ナデ・ハケメ	23.7	15.9	14.0	-	赤色塗彩・穿孔2箇所
23SD170-12	第64図	044	弥生土器	高坏 脚部	角閃石・赤色粒子・長石・白色粒子	橙色	明赤褐色～橙色	ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ナデ・ケズリ(摩耗により不明瞭)	-	13.3+a	13.7	-	
23SD170-5トレンチ	第64図	045	弥生土器	高坏	白色粒子・雲母・角閃石	橙色	橙色	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ	-	17.0+a	-	-	
23SD170-8	第64図	046	弥生土器	高坏 坏部	白色粒子・長石・角閃石・赤色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ナデ・ミガキ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ・指オサエ	(23.0)	11.2+a	-	-	

第21表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 20

遺構名	捲図 番号	遺物 番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
23SD170-13	第64図	047	弥生土器	高坏脚部	角閃石・白色粒子・赤色粒子	灰褐色～にぶい黄橙色～黒褐色	ミガキ・ナデ	ナデ、ミガキ・ハケメ後ナデ	-	5.4+a	11.6	-	-	黒斑
23SD170-4	第64図	048	弥生土器?	高坏坏部	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色～橙色～黒色	橙色	ヨコナデ・ミガキ・ナデ	縦方向のナデ・ミガキ	17.8	10.6+a	-	-	内面黒変
23SD170-13	第64図	049	土師器	高坏脚部	角閃石・白色粒子・赤色粒子・石英	浅黄色～黒褐色	浅黄色～黒褐色	ナデ・指オサエ	ハケメ後ナデ	-	7.4+a	16.0	-	黒斑
23SD170-7	第65図	050	土師器	鉢	角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	(13.6)	4.7	-	-	ハケメ(7本/cm)・スス付着
23SD170-9	第65図	051	土師器	鉢	角閃石・赤色粒子・長石・雲母	にぶい黄橙色～橙色	橙色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	13.3	4.5	-	-	
23SD170-5	第65図	052	土師器	鉢	角閃石・長石・石英・白色粒子・赤色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ヨコナデ・指オサエ・ミガキ・ハケメ後ミガキ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	(15.6)	5.3+a	4.0	-	
23SD170-7	第65図	053	土師器	鉢	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子	明黄褐色	にぶい黄橙色	ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	18.0	7.7	-	-	
23SD170-11	第65図	054	土師器	鉢	角閃石・石英・長石・赤色粒子・白色粒子	橙色	明褐色	ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ	10.7	4.6	-	-	
23SD170-17	第65図	055	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	7.8	3.5	-	-	黒斑
23SD170-11	第65図	056	土師器	鉢	角閃石・石英・白色粒子	橙色	橙色	ナデ	ヨコナデ・ハケメ	13.2	6.5	-	-	黒斑
23SD170-10-11	第65図	057	土師器	鉢	白色粒子・石英・角閃石	にぶい黄橙色～褐灰色	にぶい黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ・ケズリ	12.2	5.3	-	-	
23SD170-4 上層	第65図	058	土師器	鉢	白色粒子・角閃石・雲母	橙色	橙色・浅黄色・褐灰色	ナデ	ナデ	11.1	5.2	-	-	黒斑
23SD170-15	第65図	059	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐灰色	橙色	ナデ	ナデ	(11.1)	6.2	-	-	
23SD170-8	第65図	060	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ミガキ後ナデ	ヨコナデ・ミガキ	17.9	8.9	-	-	
23SD170-8	第65図	061	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	赤褐色～橙色	橙色～淡橙色	ヨコナデ・ナデ・工具ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ケズリ後ナデ・工具ナデ	15.2	8.7	-	-	黒斑
23SD170-14	第65図	062	土師器	鉢	角閃石・石英・長石・白色粒子・赤色粒子	明褐色	にぶい橙色	ハケメ後ミガキ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	14.9	8.0+a	-	-	黒斑
23SD170-8	第65図	063	土師器	鉢	石英・雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	明赤褐色	明赤褐色～にぶい橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	10.3	8.0	-	-	
23SD170-11	第65図	064	土師器	鉢	角閃石・石英・白色粒子・赤色粒子・長石	褐灰色	明赤褐色～褐灰色	ケズリ後ナデ	ハケメ	(11.0)	7.3	-	-	黒斑
23SD170-3	第65図	065	土師器	鉢	角閃石・白色粒子	明赤褐色	橙色	ナデ	ナデ	9.0	3.3	2.4	-	
23SD170-9	第65図	066	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	浅黄橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	21.8	13.4	5.8	-	ハケメ(6～8本/cm)・黒斑・沈線
23SD170-12	第65図	067	土師器	台付鉢	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	浅黄橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・工具痕	ヨコナデ・ハケメ		5.2+a	9.6	-	ハケメ(8本/cm)
23SD170-4	第65図	068	土師器	台付鉢	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子			ケズリ	ヨコナデ	13.0	7.0	6.2	-	
23SD170-3	第65図	069	土師器	台付鉢	角閃石・石英・雪母・白色粒子・赤色粒子	にぶい黄色	明黄褐色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(12.6)	7.6+a	-	-	黒斑・脚部欠損
23SD170-3	第65図	070	土師器	台付鉢	白色粒子・雲母・赤色粒子・角閃石	橙色	橙色～褐灰色	ハケメ・ミガキ・ナデ	ハケメ・ミガキ・ケズリ	14.0	14.5	10.6	-	
23SD170-14	第65図	071	土師器	台付鉢	白色粒子・角閃石・石英	明褐色	明褐色～黒褐色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(17.7)	12.3	(10.5)	-	黒斑
23SD170-4	第65図	072	土師器	台付鉢	白色粒子・赤色粒子・雲母	橙色	にぶい橙色～灰赤色	ミガキ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	(22.2)	12.5	9.9	-	スス付着
23SD170-13	第65図	073	土師器	台付鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～にぶい橙色	橙色～にぶい橙色	ナデ・ケズリ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ・ケズリ・指頭痕	16.3	10.1	8.1	-	黒斑
23SD170-14	第65図	074	土師器	鉢	角閃石・白色粒子・赤色粒子・石英	橙色～褐灰色	橙色～褐灰色	ハケメ後ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後一部ナデ	17.2	6.0+a	-	-	黒斑
23SD170-4	第65図	075	土師器	鉢	白色粒子・雲母・角閃石	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	(24.0)	15.0	-	-	
23SD170-15	第65図	076	土師器	鉢	角閃石・白色粒子・赤色粒子	黃褐色	にぶい黄褐色	ハケメ後ヨコナデ・ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ	(11.2)	7.5	2.2	-	
23SD170-7	第65図	077	土師器	鉢	角閃石・石英・長石・白色粒子・雲母	橙色	橙色	ハケメ後ヨコナデ・ナデ	ナデ・ハケメ	(11.1)	7.7	-	-	黒斑
23SD170-3	第66図	078	土師器	鉢	白色粒子・赤色粒子・雲母	浅黄橙色・暗灰色	浅黄橙色・暗灰色	ハケメ・ナデ・工具痕	ナデ・ハケメ	(17.4)	12.6+a	-	-	黒斑
23SD170-11	第66図	079	土師器	鉢	角閃石・石英・赤色粒子・白色粒子	灰黄褐色	橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ナデ	14.2	9.2+a	-	-	
23SD170-4 上層	第66図	080	土師器	鉢	角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	にぶい橙色	橙色～灰白色	ヨコナデ・ミガキ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	(10.0)	10.3+a	-	-	ハケメ(8本/cm)
23SD170-2	第66図	081	土師器	鉢	角閃石・白色粒子・赤色粒子	浅黄橙色・橙色・褐灰色	浅黄橙色・橙色・褐灰色	ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(28.6)	20.4	-	-	黒斑

第22表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表21

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
23SD170-3	第66図	082	土師器	鉢	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	橙色	ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(27.2)	23.2	-	-	
23SD170-13	第66図	083	土師器	大鉢	石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色～橙色	橙色～明赤褐色	ヨコナデ(ハケメ後ナデ?)・斜め～横方向のハケメ・ナデ	ヨコナデ・縦方向のハケメアテ	32.7	27.2	-	-	ハケメ内(7~8本/cm)外(7.5本/cm)・内外面黒変・突帯貼付
23SD170-4	第66図	084	土師器	鉢	角閃石・長石・赤色粒子・白色粒子	明黄褐色	浅黄橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(30.2)	36.0	-	-	黒斑・突帯
23SD170-14	第67図	085	土師器	鉢	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色～橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	(35.0)	29.4	-	-	
23SD170-5 下層	第67図	086	弥生土器	鉢		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ケズリ	ナデ	10.0	9.0	-	-	外面黒斑
23SD170-9	第67図	087	弥生土器	鉢	石英・角閃石・長石	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色～赤色	ナデ	ミガキ	-	12.3+a	-	-	底部穿孔・赤色塗彩
23SD170-2-3-4	第67図	088	弥生土器	鉢	白色粒子・雲母・角閃石	橙色～にぶい橙色	橙色	ナデ	ハケメ・ミガキ・ナデ	(12.2)	13.6	(1.4)	-	内外面赤色塗彩・黒斑
23SD170-17	第67図	089	弥生土器	鉢	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	橙色	ハケメ後ナデ・ナデ	ハケメ後ヨコナデ・ナデ	12.4	13.6+a	-	-	突帯
23SD170-11	第68図	090	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～にぶい褐色	橙色～にぶい褐色	ミガキ・ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ナデ・指頭痕	9.6	7.6	-	-	黒斑
23SD170-7-6	第68図	091	土師器	小型丸底壺	白色粒子・角閃石・赤色粒子・長石	橙色～褐灰色	浅黄色	ハケメ後ミガキ・ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(11.3)	7.4	-	-	黒斑
23SD170-3	第68図	092	土師器	小型丸底鉢	白色粒子・赤色粒子・雲母	橙色	橙色～にぶい橙色	ナデ	ナデ	12.5	6.8+a	-	-	
23SD170-11	第68図	093	土師器	小型丸底鉢	赤色粒子・白色粒子・角閃石・石英	明赤褐色	橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ケズリ後ナデ・ケズリ	(13.8)	6.2	-	-	
23SD170-3	第68図	094	土師器	小型丸底鉢	白色粒子・雲母・角閃石	橙色・にぶい橙色	橙色・にぶい橙色・灰褐色	ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	(13.0)	7.1	-	-	
23SD170-7-8-9	第68図	095	土師器	小型丸底鉢	角閃石・赤色粒子・石英・白色粒子	明赤褐色～暗赤灰色	明赤褐色	ヨコナデ・工具ナデ?	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	17.8	8.4+a	-	-	
23SD170-10	第68図	096	土師器	小形の丸底鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	浅黄橙色～にぶい褐色	横方向のハケメ・ヨコナデ・ミガキ	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ	11.7	6.6	-	-	ハケメ内(6本/cm)・内外口縁部黒変
23SD170-11	第68図	097	土師器	小形の丸底鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	浅黄橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	11.9	7.3	-	-	ハケメ(8~9本/cm)・黒斑
23SD170-2 上層	第68図	098	土師器	小形の丸底鉢	赤色粒子・石英・長石	明赤褐色	明赤褐色	ミガキ?	ケズリ?	(13.0)	8.4	-	-	全体的に磨滅し調整不明瞭
23SD170-6	第68図	099	土師器	小形の丸底鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	横方向のハケメ後ナデ・ナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	13.3	7.5	-	-	ハケメ外(7本/cm)
23SD170-2	第68図	100	土師器	小形の丸底壺	白色粒子・赤色粒子・雲母・角閃石	橙色	橙色・黒色	ハケメ・ナデ	ナデ・ハケメ	(16.2)	12.4	-	-	黒斑
23SD170-2	第68図	101	土師器	小形の丸底壺	角閃石・雲母・石英・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ケズリ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(13.1)	14.8+a	-	-	
23SD170-3	第68図	102	土師器	小形の丸底壺	白色粒子・赤色粒子・雲母・角閃石	橙色	橙色	ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	(13.0)	8.95	-	-	
23SD170-10	第68図	103	土師器	小形の丸底壺	角閃石・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色～褐灰色	ヨコナデ・オサ工・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(12.8)	8.7	-	-	黒斑
23SD170-5 トレンチ	第68図	104	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐灰色	橙色～浅黄橙色	ミガキ・指頭痕・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・指頭痕・ナデ	11.9	11.3	-	-	ハケメ(5~6本/cm)・口縁部穿孔2箇所
23SD170-3	第68図	105	土師器	小形の丸底壺	白色粒子・赤色粒子・雲母・角閃石	橙色	橙色・褐灰色	ハケメ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	19.6	10.6+a	-	-	黒斑
23SD170-14	第68図	106	土師器	小形の丸底壺	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	橙色	にぶい赤褐色	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	15.4	11.8+a	-	-	ハケメ(5本/cm)
23SD170-7-8	第68図	107	土師器	直口壺	角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	10.8	19.2	-	-	
23SD170-14	第68図	108	土師器	直口壺	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	橙色～浅黄橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	9.9	12.6	-	-	
23SD170-4	第68図	109	土師器	直口壺	石英・長石・白色粒子	浅黄色	明黄褐色～黃橙色	ナデ	ナデ	13.9	18.2	-	-	外面2箇所・スス付着
23SD170-2	第68図	110	土師器	直口壺	白色粒子・赤色粒子・雲母	橙色	橙色～にぶい橙色	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	(12.6)	19.5	-	-	
23SD170-11	第68図	111	土師器	直口壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰褐色	橙色～褐灰色～赤色	ヨコナデ・ナデ	ナデ・ヨコナデ・ミガキ・斜めハケメ後ナデ	11.9	22.0	-	-	外面黒変・赤変
23SD170-6	第68図	112	土師器	直口壺	石英・長石・白色粒子・赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色～橙色	ミガキ・ハケメ後ナデ	ミガキ	-	18.1+a	-	-	
23SD170-9	第68図	113	土師器	直口壺	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子・黑色粒子	明褐灰色～赤褐色	橙色～灰白色	ナデ・強いナデ・ハケメ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ	-	14.6+a	-	-	外面体部黒斑
23SD170-8-9-10	第69図	114	土師器	壺	赤色粒子・角閃石・白色粒子	褐灰色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ	16.0	41.0	-	-	突帯・黒斑・内外面部分的に摩滅

第23表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表22

遺構名	捲番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
23SD170-6-7下層	第69図	115	土師器	壺	角閃石・石英・長石・赤色粒子・白色粒子	灰黄色	橙色	ナテ・ハケメ後ナテ・ケズリ後ナテ	ハケメ後ヨコナテ・突帯・ハケメ後ナテ	15.3	42.9	-	-	突帯
23SD170-3	第69図	116	土師器	壺	赤色粒子・角閃石	明赤褐色～にぶい黄色	明赤褐色～黒褐色	ヨコナテ・ナテ・ハケメ後ナテ	ヨコナテ・ハケメ後ヨコナテ・ケズリ・工具ナテ?・ナテ	(19.0)	44.1	-	-	黒斑・スス付着
23SD170-9	第69図	117	土師器	壺	白色粒子・角閃石	橙色～黒褐色	橙色～黒褐色	ヨコナテ・ナテ・ハケメ後ナテ・ケズリ・工具ナテ?・ナテ	ナテ	15.6	19.0+a	-	-	黒斑・突帯・外面磨耗の為調整不明
23SD170-16	第70図	118	土師器	壺	角閃石・石英・長石・赤色粒子・白色粒子	橙色	明赤褐色	ハケメ後ヨコナテ・ケズリ	ヨコナテ・ハケメ後ナテ	(14.5)	33.2+a	-	-	黒斑
23SD170-9	第70図	119	土師器	壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～赤褐色	橙色～灰白色	ヨコナテ・斜めハケメ・ナテ・横方向のハケメ・ケズリ	ヨコナテ・縦方向のハケメ後ナテ・横方向のハケメ後ナテ・ナテ	13.3	31.3	-	-	ハケメ(5本/cm)・外面黒変
23SD170	第70図	120	土師器	壺	白色粒子・砂粒・角閃石・長石・雲母	橙色	橙色	ナテ・ケズリ後ナテ	ナテ・ハケメ	(15.4)	15.9+a	-	-	
23SD170-7	第70図	121	土師器	壺	角閃石・白色粒子・雲母・石英・長石・赤色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ヨコナテ・指オサエ・ハケメ後ナテ	ヨコナテ・ハケメ後ナテ・ケズリ後ナテ	(13.0)	21.4+a	-	-	
23SD170-4	第70図	122	土師器	壺	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	橙色～灰白色	橙色～灰白色	ヨコナテ・指頭	ヨコナテ・ハケメ	(15.0)	16.7+a	-	-	ハケメ(10本/cm)
23SD170-9	第71図	123	土師器	壺	長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色～黄橙色～黒褐色	明赤褐色～にぶい黄橙色～褐灰色	ヨコナテ・指頭痕・粗いヨコナテ・ナテ	ナテ・ヨコ～斜めハケメ・ミガキ?・縦方向のハケメ	14.9	27.0	-	-	外面黒変
23SD170	第71図	124	土師器	壺	角閃石・長石・白色粒子	橙色	橙色	ハケメ・指オサエ・ナテ	ハケメ・ナテ・ミガキ	-	27.9+a	-	-	
23SD170-3	第71図	125	土師器	壺	角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	橙色～褐色	明赤褐色～灰黃褐色	ハケメ後ナテ	ヨコナテ・ハケメ	(15.8)	15.2+a	-	-	ハケメ(7本/cm)・粘土継ぎ目
23SD170-1	第71図	126	土師器	壺	角閃石・赤色粒子・長石	浅黄色	にぶい黄褐色	ヨコナテ・ナテ	ハケメ後ヨコナテ・ハケメ	(14.6)	20.2+a	-	-	
23SD170	第71図	127	土師器	複合口縁壺	角閃石・長石・白色粒子	にぶい黄橙色	明黄褐色～にぶい黄橙色	ナテ・指オサエ・工具ナテ	ナテ・櫛描波状文	(16.0)	45.0+a	-	-	黒斑・突帯貼付
23SD170-5,6,9	第71図	128	土師器	複合口縁壺	角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色～にぶい黄橙色	ヨコナテ・ハケメ後ヨコナテ・ハケメ後ナテ・オサエ	ヨコナテ・ハケメ後ナテ・ハケメ・ナテ・ヨコナテ	(16.7)	39.1+a	-	-	
23SD170	第72図	129	土師器	複合口縁壺	白色粒子・角閃石・橙色粒子・砂粒	明赤褐色	明赤褐色～明黄橙色	指オサエ・ナテ・ハケメ後ナテ・ミガキ・丁寧なナテ	ナテ・ハケメ後ナテ・鋸齒文・ハケメ後ナテ・ミガキ	21.6	48.6	-	-	突帯貼付
23SD170-11	第72図	130	土師器	複合口縁壺	白色粒子・角閃石・長石・石英・赤色粒子	橙色	にぶい橙色	ヨコナテ・ハケメ後ナテ・ナテ・ケズリ	波状文・ハケメ後ナテ	13.0	40.9+a	-	-	黒斑・突帯
23SD170-6-7	第73図	131	土師器	複合口縁壺	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ヨコナテ・指オサエ・ナテ・ハケメ	ナテ・ハケメ後ナテ	(18.4)	38.7+a	-	-	黒斑・擬口縁欠損・突帯
23SD170-8	第73図	132	土師器	複合口縁壺	角閃石・白色粒子・長石・赤色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ヨコナテ・ミガキ・ヨコナテ・ナテ	波状文・ハケメ後ナテ・ナテ	16.3	18.3+a	-	-	突帯
23SD170-12下層	第73図	133	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙色	にぶい黄橙色～にぶい橙色	ヨコナテ・ハケメ・指頭痕・工具痕	ヨコナテ・ハケメ・櫛描波状文	17.0	11.6+a	-	-	ハケメ(8本/cm)・突帯
23SD170-14	第73図	134	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・白色粒子	橙色～浅黄橙色	橙色～にぶい黄橙色	ヨコナテ・ハケメ後ナテ・指頭痕	ハケメ・櫛描波状文	(18.0)	13.5+a	-	-	ハケメ(5本/cm)・突帯
23SD170-8	第73図	135	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・白色粒子	浅黄橙色～橙色	浅黄橙色～明赤褐色	ナテ・ヨコナテ・ハケメ・指頭痕	ヨコナテ・ハケメ・櫛描波状文	16.2	13.3+a	-	-	突帯
23SD170-5	第73図	136	土師器	複合口縁壺	角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	にぶい橙色	橙色	ヨコナテ・ミガキ	ヨコナテ・ハケメ後ナテ・櫛描波状文	13.4	11.0+a	-	-	ハケメ(4本/cm)・口縁部外面黒斑・突帯
23SD170-13	第73図	137	土師器	複合口縁壺	角閃石・石英・雲母・赤色粒子	橙色	にぶい橙色	ヨコナテ・指オサエ・ナテ・ハケメ後ナテ	ヨコナテ・ハケメ後ナテ	27.1	11.4+a	-	-	
23SD170-7-8	第73図	138	土師器	複合口縁壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ヨコナテ・オサエ・ハケメ後ミガキ	ヨコナテ・ハケメ後オサエ・ハケメ・櫛描波状文	-	6.9+a	-	-	口縁上部欠損
23SD170-8	第74図	139	土師器	複合口縁壺	角閃石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナテ・オサエ・ハケメ後ナテ	ヨコナテ・波状文・ヨコナテ・ハケメ	18.5	24.7+a	-	-	黒斑
23SD170-7	第74図	140	土師器	複合口縁壺	角閃石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナテ・指オサエ・ハケメ後ナテ	ヨコナテ・ナテ・ハケメ後ナテ	(16.3)	39.9	-	-	
23SD170-8	第74図	141	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・白色粒子・黒色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ヨコナテ・ハケメ	ヨコナテ・ハケメ・櫛描波状文	17.6	10.6+a	-	-	ハケメ内(7本/cm)・黒斑
23SD170-3	第74図	142	土師器	複合口縁壺	白色粒子・赤色粒子・雲母	にぶい橙色～にぶい黄橙色	にぶい橙色～にぶい黄橙色	ヨコナテ・ハケメ後ナテ	ヨコナテ・ハケメ	15.6	8.4+a	-	-	
23SD170-15 23SD170-16 23SD170-17	第74図	143	土師器	小形複合口縁壺	雲母・赤褐色粒子・白色粒子・黒色粒子	赤色	赤色	ヨコナテ・ハケメ後ナテ	ヨコナテ・ハケメ・櫛描波状文	(8.2)	3.7+a	-	-	内外面赤色塗彩
23SD170-2	第74図	144	土師器	小形脚付複合口縁壺	白色粒子・雲母・角閃石	橙色	橙色・にぶい黒色	ヨコナテ・ナテ	ヨコナテ・ナテ	(8.4)	8.0+a	-	-	
23SD170-9・14	第74図	145	土師器	複合口縁壺	長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子	橙色	褐灰色	ヨコナデ	ヨコナデ	12.4	6.4+a	-	-	

第24表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表23

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	
23SD170-12	第74図	146	土師器	二重口縁壺か	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	にぶい橙色	橙色～浅黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ	16.1	7.1+a	-	-
23SD170-10	第74図	147	土師器	壺	角閃石・白色粒子	明褐色	明黄褐色～橙色	ヨコナデ・ケズリ後ハケメ	ヨコナデ・ミガキ	7.8	6.0+a	-	-
23SD170-14	第74図	148	弥生土器	長頸壺	角閃石・長石・石英・白色粒子・赤色粒子・雲母	黒褐色	にぶい黄橙色～赤・黒褐色	ハケメ・ハケメ後ナデ・ケズリ・ミガキ	ミガキ	-	11.1+a	-	黒斑
23SD170-2,3,4 5トレンチ	第75図	149	土師器	壺	角閃石・石英・長石・赤色粒子	明黄褐色	にぶい黄橙～黒褐色	ナデ・ハケメ	ハケメ後ナデ・ナデ	-	60.4+a	-	黒斑
23SD170-14	第76図	150	土師器	甕	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子・黒色粒子	灰白色～浅黄	灰白色～浅黄	工具ナデ(ミガキ?)・ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	(18.4)	28.6	-	18.2
23SD170-9	第76図	151	土師器	甕	石英・赤色粒子・白色粒子	黄橙色～橙色	黄橙色～浅黄	ハケメ・ケズリ	ナデ・ハケメ	18.5	31.1	-	20.8
23SD170-3,4	第76図	152	土師器	甕	白色粒子・雲母・赤色粒子	橙色	橙色・にぶい	ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	16.4	30.7	-	22.0
23SD170-14	第76図	153	土師器	甕	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子・黒色粒子	灰白色～橙色	灰白色～橙色	ハケメ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	(18.0)	30.3	-	24.0
23SD170-9・10	第76図	154	土師器	甕	角閃石・白色粒子・長石・赤色粒子	にぶい黄褐色～黒褐色	明赤褐色	ハケメ	ハケメ	19.6	31.5+a	-	22.0
23SD170-11	第76図	155	土師器	甕	赤色粒子・角閃石・長石・白色粒子	明褐色	明褐色～黒褐色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	17.6	29.5	-	20.8
23SD170-13	第76図	156	土師器	甕	角閃石・赤色粒子・白色粒子・石英	にぶい橙色～	橙色～黒褐色	ヨコナデ・指才サエ・ハケメ後ナデ・ミガキ・ハケメ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ	21.4	33.4	-	24.4
23SD170-3	第76図	157	土師器	甕	白色粒子・角閃石・雲母	橙色	橙色・にぶい	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	(19.2)	31.0	-	23.0
23SD170-9	第76図	158	土師器	甕	角閃石・赤褐色粒子	淡黄橙色	淡黄橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	(18.6)	22.6+a	-	21.3
23SD170-11	第77図	159	土師器	甕	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	20.0	31.4	-	21.0
23SD170-14	第77図	160	土師器	甕	石英・長石	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	(21.0)	32.7	-	23.2
23SD170-8	第77図	161	土師器	甕	角閃石・長石・白色粒子	橙色	橙～黒色	ナデ・指才サエ・ハケメ・ケズリ後ナデ	ナデ・工具ナデ・ケズリ後ナデ	(13.9)	28.8	-	22.6
23SD170-6	第77図	162	土師器	甕	角閃石・赤色粒子・石英・長石・雲母	にぶい黄橙色～	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(17.5)	28.3+a	-	19.5
23SD170-6	第77図	163	土師器	甕	長石・角閃石・白色粒子	灰褐色	灰褐色	ミガキ・ハケメ	ナデ・ハケメ	17.4	28.4+a	-	21.3
23SD170-2	第77図	164	土師器	甕	角閃石・白色粒子・長石	明赤褐色	明黄褐色～黒褐色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ	(29.7)	33.2	-	24.7
23SD170-11	第77図	165	土師器	甕	角閃石・赤色粒子・白色粒子	赤褐色	赤褐色～にぶい	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ケズリ・ハケメ後ナデ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ナデ	(17.8)	28.7	-	21.8
23SD170-6	第77図	166	土師器	甕	角閃石・赤色粒子・白色粒子・石英	明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ・ナデ・オサエ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(17.4)	33.4	-	23.3
23SD170-9	第77図	167	土師器	甕	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい橙色～	ナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	14.8	28.7	-	19.6
23SD170-2	第78図	168	土師器	甕	角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色～	にぶい黄橙色	ハケメ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	(20.6)	33.2	-	24.3
23SD170-14	第78図	169	土師器	甕	角閃石・赤色粒子・石英・長石・雲母	明赤褐色	明赤褐色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ナデ・ナデ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	(19.7)	31.5+a	-	25.3
23SD170	第78図	170	土師器	甕	長石・白色粒子・砂粒・角閃石	橙色	橙～明赤褐色	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ・ケズリ	(18.0)	33.0+a	-	25.2
23SD170-2	第78図	171	土師器	甕	白色粒子・角閃石・長石・雲母	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ハケメ後ケズリ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	18.2	22.2+a	-	-
23SD170-4	第78図	172	土師器	甕	白色粒子・雲母・角閃石	明褐灰色～に	にぶい橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	(19.4)	21.2+a	-	スス付着
23SD170-11	第78図	173	土師器	甕	雲母・角閃石・白色粒子	橙色	にぶい橙色～	ハケメ・ハケメ後ナデ・ナデ・指頭痕	ナデ・ハケメ・工具痕	(18.6)	23.7+a	-	-
23SD170-7	第78図	174	土師器	甕	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	明赤褐色	にぶい橙色	工具ナデ・ヨコナデ	ナデ・工具ナデ・ヨコナデ	(19.2)	19.7+a	-	-
23SD170-8	第78図	175	土師器	甕	角閃石・石英・雲母・白色粒子・赤色粒子	灰黄色	にぶい黄橙色	ハケメ・指才サエ・ナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(20.0)	18.3+a	-	-
23SD170-5	第78図	176	土師器	甕	雲母・赤褐色粒子・白色粒子	橙色	にぶい黄橙色～	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	(18.8)	11.8+a	-	-
23SD170-3	第78図	177	土師器	甕	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・指才サエ後ナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ	17.6	29.1+a	-	-
23SD170-1,2	第79図	178	土師器	甕	角閃石・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子	黒褐色	黒褐色	ミガキ・ケズリ後ミガキ	ヨコナデ・指才サエ後ミガキ・ハケメ後ヨコナデ	16.5	21.7+a	-	-
23SD170-3	第79図	179	土師器	甕	角閃石・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子	明黄褐色	浅黄橙色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指才サエ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(17.1)	27.9	-	23.2

第25表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 24

遺構名	捲番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
23SD170-7,8	第79図	180	土師器	甕	角閃石・長石・雲母・黒色粒子・赤色粒子	橙色	橙～黒褐色	ハケメ後ナデ・指オサエ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ナデ	(24.0)	30.8	-	26.0	
23SD170	第79図	181	土師器	甕	長石・角閃石・白色粒子・橙色粒子・砂粒	橙～明褐色	橙色	ハケメナデ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ	(18.6)	27.0+a	-	24.4	
23SD170-9	第79図	182	土師器	甕	角閃石・白色粒子・橙色粒子・石英	橙色	橙～明褐色	ヨコナデ・指オサエ・ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	21.4	20.8+a	-	-	
23SD170-14 23SD170-15	第79図	183	土師器	甕	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	19.5	26.1+a	-	-	ハケメ(7本/cm)・外面体部スス付着
23SD170-7,8	第79図	184	土師器	甕	角閃石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(18.1)	21.5+a	-	-	スス付着
23SD170-5 トレンチ確認トレンチ	第79図	185	土師器	甕	角閃石・石英・雲母・白色粒子・赤色粒子	明褐色	橙色	ヨコナデ・指オサエ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ナデ?	(24.2)	35.5	-	29.0	黒斑
23SD170-7	第79図	186	土師器	甕	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい橙色～灰白色	灰白色	ヨコナデ・指頭痕・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	18.4	12.9+a	-	-	ハケメ(6本/cm)
23SD170-7	第79図	187	土師器	甕	角閃石・白色粒子	にぶい橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	16.2	9.7+a	-	-	ハケメ(8～10本/cm)
23SD170-17	第79図	188	土師器	甕	長石・石英・角閃石・白色粒子・赤色粒子・雲母	灰白色	浅黄色	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	18.4	12.6+a	-	-	
23SD170-16	第79図	189	土師器	甕	角閃石・雲母・長石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	(15.4)	11.4+a	-	-	黒斑
23SD170-6	第80図	190	土師器	甕	角閃石・石英・長石・雲母	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ	(23.0)	20.2+a	-	-	突帯貼付
23SD170-7,8	第80図	191	土師器	甕	角閃石・石英・白色粒子・雲母・赤色粒子	明黃褐色～黒褐色	明褐色～褐灰色	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	(22.0)	38.3+a	-	-	黒斑・突帯貼付
23SD170-2	第80図	192	土師器	甕	角閃石・白色粒子・赤色粒子・赤褐色粒子・黑色粒子	浅黃橙色・褐灰色	浅黃橙色・明赤褐色・褐灰色	ヨコナデ・ナデ・指オサエ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ	20.6	38.5	-	-	突帯貼付
23SD170-3,4,6,7,8	第80図	193	土師器	甕	赤色粒子・角閃石・雲母	橙色	にぶい黄橙～橙色	ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ケズリ・ナデ	26.4	42.0	-	-	突帯貼付・黒斑
23SD170-7	第81図	194	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色～黄橙色	橙色～黄橙色	ハケメ・ナデ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ・ナデ・ハケメ	15.6	25.7	-	18.0	ハケメ内外(5～6本/cm)・胴部外面スス付着
23SD170-11	第81図	195	土師器	甕	石英・長石・角閃石・白色粒子	明黃褐色～黒褐色	黃橙色～黒褐色	ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ナデ	(16.4)	26.0	-	18.6	内外面黒変
23SD170-3	第81図	196	土師器	甕	白色粒子・赤色粒子・雲母	にぶい黄橙色・褐灰色	黃橙色・にぶい黄橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	(16.0)	25.5	-	18.7	
23SD170-7	第81図	197	土師器	甕	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子	浅黃橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・指オサエ・ケズリ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ケズリ・ナデ	16.2	27.7	-	21.0	スス付着
23SD170-2	第81図	198	土師器	甕	白色粒子・雲母・赤色粒子・黑色粒子	橙色・褐灰色	橙色・にぶい黄橙色・灰褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	(14.2)	24.4	-	19.2	スス付着
23SD170-2	第81図	199	土師器	甕	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	20.0	26.0	-	20.0	ハケメ(6本/cm)・内面黒斑
23SD170-14	第81図	200	土師器	甕	角閃石・長石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(17.2)	26.9	-	18.3	黒斑
23SD170-12	第81図	201	土師器	甕	角閃石・長石・白色粒子・赤色粒子	黒褐色	にぶい黄橙色	ハケメ・ナデ・ナデ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	(15.1)	22.6	-	16.4	
23SD170-14	第81図	202	土師器	甕	白色粒子・石英・角閃石・黒色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ・ナデ・ケズリ後ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	15.4	26.0	-	19.1	
23SD170-3	第82図	203	土師器	甕	白色粒子・雲母	にぶい橙色～褐灰色	灰黄褐色・褐灰色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	16.2	25.6+a	-	19.3	
23SD170-4	第82図	204	土師器	甕	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ミガキ	ナデ	19.8	26.9	-	20.0	外面黒斑
23SD170-14	第82図	205	土師器	甕	角閃石・白色粒子・赤色粒子・雲母	明褐色	明褐色	ハケメ後ヨコナデ・指オサエ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・一部ミガキか?	(14.6)	21.7	-	17.3	
23SD170-7	第82図	206	土師器	甕	角閃石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙～橙色	橙色	ハケメ後ミガキ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	(17.1)	25.3+a	-	18.6	
23SD170	第82図	207	土師器	甕	角閃石・黒色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ケズリ	ナデ・ハケメ後ナデ	15.0	12.7+a	-	-	
23SD170-3	第82図	208	土師器	甕	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	13.9	12.3+a	-	-	ハケメ(5本/cm)
23SD170-14	第82図	209	土師器	甕	角閃石・白色粒子・赤色粒子・長石	褐灰色	にぶい黄橙色～褐灰色	ハケメ・ハケメ	ハケメ後ヨコナデ・ナデ・ハケメ	16.5	13.9+a	-	-	黒斑
23SD170-23,4	第82図	210	土師器	甕	赤色粒子・白色粒子・雲母	橙色・明褐灰色	橙色・灰白色	ナデ・ケズリ・ナデ	ナデ・ケズリ後ナデ・ケズリ	13.2	19.0	-	16.2	黒斑
23SD170-2	第82図	211	土師器	甕	白色粒子・赤色粒子・雲母・角閃石	橙色～にぶい橙色	橙色～褐灰色	ヨコナデ・ナデ・ナデ	ヨコナデ・指オサエ・ハケメ・ケズリ	16.3	21.5	-	17.0	スス付着
23SD170-13	第82図	212	土師器	甕	角閃石・雲母・白色粒子	浅黄橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	(18.8)	9.9+a	-	-	

第 26 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 25

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	
23SD170-3	第 82 図	213	土師器	甕	赤色粒子・角閃石・石英・白色粒子	赤褐色	赤褐色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	16.2	17.7+a	-	-
23SD170-3	第 82 図	214	土師器	甕	白色粒子・角閃石・雲母	橙色・にぶい黄橙色・褐灰色	橙色・にぶい黄橙色・にぶい褐色	ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	15.2	24.5	-	19.1 黒斑
23SD170-11	第 82 図	215	土師器	小形甕	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	灰白色～橙色	灰白色～橙色	ハケメ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	(13.1)	21.9+a	-	16.5 ハケメ(11本/cm)(9本/cm)・外面体部黒斑
23SD170-13	第 83 図	216	土師器	甕	角閃石・石英・長石・白色粒子・赤色粒子	褐灰色	橙色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(26.0)	22.6	-	19.3 黒斑
23SD170-10	第 83 図	217	土師器	甕	長石・雲母・角閃石・赤色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ヨコナデ・ナデ・ケズリ・指オサエ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	17.1	23.3	-	21.2 黒斑
23SD170-10	第 83 図	218	土師器	甕	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙色	橙色	ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	18.6	24.9+a	-	21.3 ハケメ(7～9本/cm)
23SD170-13	第 83 図	219	土師器	甕	雲母・角閃石・白色粒子・褐色粒子	にぶい黄橙色	にぶい橙色	工具ナデ・ハケメ・ミガキ・ケズリ	ナデ・ハケメ	(16.5)	14.9+a	-	- ハケメ(9本/cm)・外面スス付着
23SD170-6	第 83 図	220	土師器	甕	長石・角閃石・赤褐色粒子	淡橙色	浅黄橙色	ヨコナデ・指頭痕・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	16.3	13.6+a	-	- ハケメ(8本/cm)・外面黒斑
23SD170-10	第 83 図	221	土師器	甕	石英・赤色粒子・雲母・角閃石	黒褐色	にぶい黄色～黒褐色	ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	13.9	19.8	-	20.7
23SD170-7 23SD170-8	第 83 図	222	土師器	甕	雲母・赤褐色粒子・白色粒子	淡黄橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	16.2	13.8+a	-	- ハケメ(13本/cm)(8本/cm)・口縁部スス付着
23SD170-7	第 83 図	223	土師器	甕	角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	浅黄橙色～黃灰色	浅黄橙色～橙色	ヨコナデ・指頭痕・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	17.2	14.1+a	-	- ハケメ(5本/cm)
23SD170-7	第 83 図	224	土師器	甕	雲母・角閃石・白色粒子	橙色	橙色～褐灰色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(15.9)	13.9+a	-	- ハケメ(10本/cm)
23SD170-3	第 83 図	225	土師器	甕	赤色粒子・白色粒子・長石・雲母	明赤褐色	明赤褐色～黒褐色	ヨコナデ・指オサエ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(15.4)	17.7+a	-	- スス付着
23SD170-5・6	第 83 図	226	土師器	甕	角閃石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子	橙色	浅黄橙色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ	14.5	17.8+a	-	-
23SD170	第 83 図	227	土師器	甕	橙色粒子・砂粒	橙～にぶい橙色	橙色	ナデ・ケズリ後ハケメ	ナデ・ハケメ	(15.4)	(16.6)	-	- 外面スス付着
23SD170-11	第 83 図	228	土師器	甕	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	橙色	ヨコナデ・指オサエ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ・ナデ	(17.9)	17.1	-	18.9
23SD170-17	第 83 図	229	土師器	甕	角閃石・石英・長石・赤色粒子・白色粒子	褐灰色～浅黄橙色	浅黄橙色	ヨコナデ・ハケメ後ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(14.4)	6.7+a	-	-
23SD170-13	第 83 図	230	土師器	甕	角閃石・石英・赤色粒子・白色粒子	褐灰色～橙色	橙色	ナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(13.3)	8.3+a	-	-
23SD170-16	第 83 図	231	土師器	甕	角閃石・雲母・長石・白色粒子・赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ヨコナデ・ナデ・ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	16.1	10.9+a	-	- 黒斑
23SD170-14	第 83 図	232	土師器	甕	赤色粒子・角閃石・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(14.0)	8.9+a	-	- 黒斑
23SD170-10	第 84 図	233	土師器	小形甕	角閃石・白色粒子	にぶい黄橙色～橙色	橙色～浅黄橙色	工具ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ・指頭痕	(9.6)	10.3+a	-	-
23SD170-2・3	第 84 図	234	土師器	小形甕	白色粒子・赤色粒子・雲母・角閃石	橙色・にぶい黄橙色	橙色・灰褐色	ナデ	ナデ・ハケメ	10.5	10.9	-	- スス付着
23SD170-4	第 84 図	235	土師器	小形甕	角閃石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	11.1	7.4+a	-	-
23SD170-4	第 84 図	236	土師器	小形甕	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰白色～明赤褐色	明赤褐色～浅黄橙色～赤褐色～黒褐色	ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ヨコナデ・総～斜めハケメ・ナデ	(13.9)	12.2	-	- 外面スス付着
23SD170-2	第 84 図	237	土師器	小形甕	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ケズリもしくは強いナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	12.0	12.3	-	-
23SD170-6	第 84 図	238	土師器	小形甕	角閃石・雲母・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	(14.6)	12.4+a	-	- 黒斑
23SD170-9	第 84 図	239	土師器	小形甕	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	にぶい橙色	明黄褐色～にぶい橙色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	(14.8)	10.9+a	-	- ハケメ(12本/cm)
23SD170-2	第 84 図	240	土師器	小形甕	白色粒子・雲母・赤色粒子	橙色	橙色～灰褐色	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	13.2	17.0	-	-
23SD170-8	第 84 図	241	土師器	小形甕	角閃石・石英・雲母・白色粒子・赤色粒子	明赤褐色	にぶい赤褐色～にぶい黄橙色	指オサエ・ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	13.6	18.3	-	-
23SD170-11	第 84 図	242	土師器	小形甕	角閃石・石英・白色粒子・赤色粒子	橙色	明赤褐色～橙色	ヨコナデ・ナデ・オサエ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	13.9	13.6	-	-
23SD170	第 84 図	243	土師器	小形甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～黄橙色	橙色～黄橙色	横方向のハケメ後ナデ・指頭痕・ナデ・斜めハケメ後ナデ	横方向のハケメ後ナデ・指頭痕・ナデ・ヨコナデ・総方向のハケメ後ナデ	15.5	18.5	-	- ハケメ内(4本/cm)・外面一部黒斑
23SD170-1	第 84 図	244	土師器	小形甕	角閃石・石英・白色粒子・赤色粒子	灰白色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(14.0)	15.0	-	-
23SD170-14	第 84 図	245	土師器	甕	白色粒子・角閃石・赤色粒子・長石・石英	赤褐色	赤褐色～黒褐色	ヨコナデ・ハケメ?ケズリ?後ナデ	ヨコナデ・ナデ	-	21.7+a	-	- 黒斑
23SD170-4	第 84 図	246	土師器	小形甕	角閃石・白色粒子	にぶい橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	-	11.1+a	-	- ハケメ(6本/cm)

第27表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 26

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
23SD170-7	第84図	247	弥生土器	甕	赤色粒子・角閃石・雲母・石英	橙～明褐色	明赤褐色	ヨコナデ?・ケズリ?	ヨコナデ?・ケズリ	(17.8)	29.8	2.5	-	全体的に磨滅し調整不明瞭
23SD170-5トレンチ	第84図	248	弥生土器	小形甕	白色粒子・雲母・角閃石	橙色・にぶい橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	(13.5)	19.2+a	-	-	
23SD170-7	第84図	249	弥生土器	小形甕	角閃石・長石・石英・白色粒子・赤色粒子	明赤褐色	明赤褐色～黒褐色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(13.8)	18.2+a	-	-	黒斑
23SD170-14	第84図	250	土師器	甕	角閃石・白色粒子・赤色粒子・長石	褐灰色	にぶい黄橙色～褐灰色	ナデ	ハケメ	-	8.0+a	-	-	黒斑
23SD170-4	第84図	251	弥生土器	甕×瓶?	角閃石・白色粒子・雲母	にぶい黄色	にぶい黄色	ナデ	ハケメ	-	7.0+a	(6.2)	-	
23SD170-3	第85図	252	石器	すり石						8.1	6.5	5.5	430.0g	安山岩
23SD170-7	第85図	253	石器	不明						7.7	2.0	1.85	43.0g	チャート
23SD170	第85図	254	石器	すり石						9.5	5.7	4.6	369.0g	安山岩
23SD170-3	第85図	255		土錐	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子・砂粒	-	赤褐色～黒褐色	-	指オサ工後ナデ・指オサ工後ナデ後ミガキ	8.8	5.0	4.8	-	

23SE051

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
23SE051	第88図	001	土師器	器台	石英・角閃石・白色粒子	橙色	橙色	丁寧なナデ後ミガキ・ケズリ	ヨコナデ・指オサ工後ミガキ	-	5.4+a	9.0	-	穿孔
23SE051	第88図	002	土師器	小形二重口縁壺	角閃石・白色粒子	褐灰色～黒褐色	褐灰色～黒褐色	ナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・指頭痕	(8.0)	9.0+a	-	-	
23SE051 P-2	第88図	003	土師器	複合口縁壺	石英・長石・角閃石・白色粒子	橙色	にぶい赤褐色～にぶい橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・縱方向のハケメ後ヨコナデ・ハケメ	17.5	8.7	-	-	内面口縁部黒斑・粘土ナデ付け痕
23SE051 上層P-2-11	第88図	004	土師器	二重口縁壺	長石・角閃石・白色粒子	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色～褐灰色	粗いナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・斜めナデ・ヨコナデ	17.0	19.0	-	-	
23SE051 P-2-11-14	第88図	005	土師器	甕	長石・角閃石・白色粒子	にぶい赤褐色～灰褐色	にぶい赤褐色～黒褐色	ナデ・ケズリ後ナデ・ミガキ・指頭痕	ヨコナデ・ケズリ後ナデ・ミガキ	(16.2)	22.7	-	-	
23SE051 上層P-6	第88図	006	土師器	甕	石英・長石・角閃石・白色粒子	橙色	黄橙色～黒色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕・ケズリ・ナデ	ヨコナデ・斜めハケメ・ケズリ後ナデ・ミガキ(?)	13.8	24.6	-	-	ハケメ外(6~7本/cm)・外面スス付着・内面黒変
23SE051 P-1	第88図	007	土師器	甕	石英・長石・角閃石・白色粒子	橙色～褐色	明褐色～褐色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・斜めハケメ(ハケメナデ?)	16.0	26.3	-	-	スス付着
23SE051 P-13	第88図	008	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～にぶい赤褐色	橙色～浅黃橙色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ハケメ・ハケメ	ハケメ後ナデ・ヨコナデ・ハケメ	14.3	25.1	-	-	ハケメ(15~20本/cm)・黒斑
23SE051 P-5	第88図	009		土錐	石英・長石・角閃石・白色粒子	-	褐色～黒褐色	-	ナデ後ミガキ・指頭痕	10.7	4.6	4.5	-	黒変
23SE051	第88図	010		土錐	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	明褐色～黒色	-	ケズリ後ナデ・ハケメ	9.8	4.3	4.1	-	
23SE051 P-4	第88図	011		土錐	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	褐色～黒褐色	-	指頭痕・ナデ・かけ紐の跡	9.7	4.1	3.9	-	上下端部黒変
23SE051 P-3	第88図	012		土錐	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	赤褐色	-	指オサ工後ナデ後ミガキ?	7.6	3.2	3.1	-	中央～下端黒変
23SE051 P-10	第88図	013		土錐	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	橙色～黄橙色	-	指オサ工後ナデ	6.1	4.2	4.1	-	一部黒変
23SE051	第88図	014		土錐	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	明赤褐色	-	指オサ工後ナデ	7.5	3.1	3.1	-	
23SE051	第88図	015		土錐	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	黒褐色	-	指オサ工後ナデ	7.1	3.0	2.8	-	残存部全面黒変
23SE051 P-10	第88図	016		土錐	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	赤褐色	-	指オサ工後ナデ・指オサ工後ナデミガキ?	8.4	3.7	3.5	-	一部黒変
23SE051 P-9	第88図	017		土錐	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	明赤褐色	-	ナデ後ミガキ	8.4	3.7	3.4	-	
23SE051 P-12	第88図	018		土錐	長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	-	黑色	-	指オサ工後ナデ後ミガキ?	7.8+a	4.0	4.1	-	全面黒変
23SE051 P-7	第88図	019		土錐	石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	-	明赤褐色	-	ナデ	7.7	3.1	3.0	-	使用痕(掛け紐痕?)
23SE051 P-8	第88図	020		土錐	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	明赤褐色	-	指オサ工後ナデ後ミガキ	7.0	3.4	3.3	-	全面黒変

23SE052

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
23SE052	第87図	001	土師器	小型丸底壺	長石・角閃石・白色粒子	明赤褐色～浅黃橙色	明褐色	ヨコナデ・斜め～横方向のハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・ケズリ後丁寧なナデ	11.6	7.8	-	-	ハケメ内(8本/cm)内外面黒変
23SE052 P-1	第87図	002	土師器	鉢	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	黃橙色	黃橙色	ナデ・ヨコナデ・一部ハケメ残	ヨコナデ・ハケメ	14.9	4.7	-	-	ハケメ(7本/cm)

第28表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表27

23SE076

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
23SE076 P-3	第90図	001	土師器	丸底壺	石英・長石・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ミガキ・ケズリ後ナテ・ケズリ	ミガキ・ハケメ後ミガキ	13.3	13.3	-	-	ハケメ(12~13本/cm)・黒斑
23SE076 P-4	第90図	002	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色~浅黄褐色	にぶい橙色~明褐色	ミガキ・ハケメ後指オサエ・ハナメ・ハケメ後ナテ・ナテ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナテ・ナテ	15.9	23.2	-	19.4	ハケメ(7~8本/cm)・黒斑・スス付着
23SE076 P-2	第90図	003	土師器	甕	長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色~黒褐色	浅黄橙色~灰褐色	ミガキ後ヨコナデ・ガキハケメ後ミガキ・ナテ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナテ・ナテ	17.2	25.3	-	21.3	ハケメ(5~7本/cm)・穿孔・スス付着
23SE076 P-1	第90図	004	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	暗赤褐色	橙色~にぶい赤褐色	ハケメ・指頭痕・ケズリ・ナテ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ケズリ?・ケズリ?・ナテ	(15.6)	25.6	-	20.9	ハケメ(9~11本/cm)・スス付着

23SE087

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
23SE087 P-1	第93図	001	土師器	二重口縁壺	長石・角閃石・赤褐色粒子	褐灰色	橙色~明赤褐色	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	17.8	34.2	-	-	ハケメ(9本/cm)(11本/cm)・口縁部と体部外表面黒斑
23SE087 P-7	第93図	002	弥生土器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色~黒色	黒色	ケズリ・指頭痕・ハケメ後ナテ	ハケメ・ナテ・ハケメ後ナテ・ミガキ	19.0	23.2	-	24.8	ハケメ(8~12本/cm)・全体にスス付着
23SE087 P-3	第93図	003	弥生土器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色~暗赤褐色	明赤褐色~暗赤褐色	ハケメ・ハケメ後ナテ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナテ・ミガキ	15.3	23.3	-	20.3	ハケメ(7~10本/cm)・穿孔接合痕
23SE087 P-4	第93図	004	弥生土器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色~褐灰色~黒褐色	橙色~褐灰色	ケズリ後ナテ・ミガキ	ナテ・ハケメ後ナテ	13.0	21.5	-	17.7	穿孔・スス付着・接合痕
23SE087 P-5	第93図	005	弥生土器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐色~黒褐色	にぶい褐色	打ち欠き・ハケメ・ケズリ・指頭痕	打ち欠き・ハケメ後ナテ・ミガキ	14.8	22.4	-	19.1	ハケメ外(6~8本/cm)・接合痕

23SE099

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
23SE099 P-1	第95図	001	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明褐色~灰褐色	にぶい黄褐色~にぶい黄橙色	ナテ・ケズリ・指頭痕	ヨコナデ・ケズリ・指頭痕・ナテ	7.2	13.9	-	-	黒斑
23SE099 ハンサイ	第95図	002	土師器	小形二重口縁壺	長石・雲母・赤褐色粒子	浅黄色	浅黄色	ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	(7.6)	7.0+a	-	-	ハケメ(10本/cm)・内外面赤色塗装
23SE099 ハンサイ P-5	第95図	003	土師器	小形長頸壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・指頭痕・ケズリ後ナテ	ヨコナデ後ミガキ・ナテ後ミガキ・ハケメ後ミガキ	10.8	3.3+a	-	-	一部黒変
23SE099	第95図	004	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黄橙色~橙色~黒褐色	黄橙色~明赤褐色~黒褐色	ハケメ後ナテ・指頭痕・粗いミガキ・ケズリ後粗いミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ナテ・ミガキ	19.8	38.4	-	-	外面一部黒変・外面スス付着
23SE099 ハンサイ下層	第95図	005	土師器	壺	長石・角閃石・白色粒子	赤褐色~黒褐色	赤褐色	ヨコナデ・工具ナテ?・ナテ・指頭痕	ナテ・ハケメ後ナテ・ミガキ	18.5	31.0+a	-	-	ハケメ外(8本/cm)・外面一部黒変
23SE099 P-3	第95図	006	土師器	甕	長石・雲母・角閃石・白色粒子	明褐灰色~橙色	橙色~明褐色	ヨコナデ・ハケメ・ナテ・ナテ	ヨコナデ・ハケメ後タキナ・ハケメ・ナテ	(16.1)	24.9	-	20.2	ハケメ内(7~8本/cm)外(7本/cm)・外面スス付着
23SE099 ハンサイ下層 P-3	第95図	007	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	赤褐色~黒褐色	赤褐色~黒褐色	ヨコナデ・ハケメ後ナテ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	23.3	39.5	-	-	ハケメ(7~12本/cm)・突帯貼付

20SD001

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
20SD001 c区上層	第101図	001	ミニコア土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	指頭痕	指頭痕	4.0	2.2	-	-	
20SD001 c区上層	第101図	002	ミニコア土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	灰黃褐色	黒褐色	ナテ・指頭痕	ナテ・指頭痕	(5.9)	1.9	-	-	
20SD001 e区上層	第101図	003	ミニコア土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい褐色~明赤褐色	ナテ・指頭痕	ナテ・指オサエ後工具によるナテ	(6.2)	2.5	-	-	
20SD001 P-206	第101図	004	ミニコア土器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	橙色	指頭痕	ナテ	3.6	3.0	-	-	
20SD001 e区上層	第101図	005	ミニコア土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	指頭痕	ナテ・指頭痕	(4.4)	3.4	-	-	外面黒斑・スス付着
20SD001 d区中層	第101図	006	ミニコア土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナテ・指頭痕	指頭痕	5.4	3.7	-	-	
20SD001 e区上層	第101図	007	ミニコア土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	指頭痕	指頭痕	ナテ	4.5	3.3	-	-	
20SD001 f区上層 P-206	第101図	008	ミニコア土器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙色	橙色	指頭痕	指頭痕	5.0	3.7	2.5	-	

第29表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表28

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
20SD001e区上層	第101図	009	ミコア土器	鉢	石英・長石・角閃石	黄灰色	橙色	指頭痕	指頭痕	3.8	3.4	-	-	外面スス付着?
20SD001f区上層	第101図	010	ミコア土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	灰白色	ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	2.9	3.9	-	-	
20SD001c区下層	第101図	011	ミコア土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	にぶい黄橙色	指頭痕	指頭痕	(7.6)	4.7	-	-	
20SD001b区P-209	第101図	012	ミコア土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	灰黃褐色	灰黃褐色	ナデ・指頭痕	ヘラによるナデ・指頭痕	8.0	4.3	-	-	
20SD001c区上層	第101図	013	ミコア土器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ・指オサエ	(7.3)	3.8	3.2	-	
20SD001d区上層	第101図	014	ミコア土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	褐灰色	にぶい黄橙色	指頭痕	ナデ・指頭痕	(4.5)	4.9+a	-	-	黒斑
20SD001e区P-146	第101図	015	ミコア土器	鉢(高台付)	石英・長石・雲母・赤色粒子	黄灰色	灰黄色	指オサエ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・指オサエ	5.1	3.3	(3.0)	-	
20SD001e区上層	第101図	016	ミコア土器	壺	石英・長石・雲母・赤色粒子	黒褐色	黒褐色	ヨコナデ・指オサエ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・指オサエ	(4.0)	5.3	-	-	
20SD001d区P-75	第101図	017	ミコア土器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・指オサエ	ヨコナデ・ナデ・指オサエ	3.8	4.9	-	-	
20SD001f区上層	第101図	018	ミコア土器	脚部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・指オサエ	ナデ・ヨコナデ	-	2.9+a	(4.0)	-	内外面赤色塗彩
20SD001c区上層	第101図	019	ミコア土器	脚部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	橙色	指オサエ・しづり痕	ミガキ	-	4.1+a	-	-	
20SD001e区上層	第101図	020	土師器	高坏×小形器台・坏部	石英・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ? (摩耗により不明瞭)	ナデ・指オサエ・ケズリ	13.4	4.5+a	-	-	
20SD001a区下層	第101図	021	弥生土器	筒形器台	石英・長石・角閃石・赤色粒子	灰黃褐色	にぶい黄橙色	指オサエ	ナデ・指オサエ	-	8.7+a	(8.7)	-	
20SD001e区P-157	第101図	022	土師器	鼓形器台	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ミガキ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ハケメ後ナデ	18.5	10.2	15.5	-	
20SD001f区上層	第101図	023	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	白橙色	白橙色	ナデ?	ヨコナデ・ハケメ後ケズリ後ナデ・ケズリケズリ後ナデ	(25.8)	9.0+a	-	-	
20SD001f区上層・下層	第101図	024	土師器	高坏	長石・角閃石・白色粒子	明赤褐色～にぶい橙色	明赤褐色～にぶい橙色	ナデ	ナデ・ヨコナデ	(29.8)	19.5	18.3	-	赤色塗彩・穿孔4箇所
20SD001f区上層	第101図	025	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ後ミガキ・絞り痕・ミガキ	(17.9)	13.6	12.8	-	穿孔4箇所	
20SD001f区上層P-180	第101図	026	土師器	高坏	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色～橙色	浅黄橙色～橙色	ナデ・丁寧なナデ・粗いミガキ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ミガキ・指オサエ後粗いナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ミガキ?	22.1	15.5	15.0	-	ハケメ内(6~8本/cm)外(8~10本/cm)(8~12本/cm)
20SD001f区中層・上層	第101図	027	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ・ケズリ・指オサエ	ナデ・工具ナデ・ナデ後ミガキ・ハケメ・ミガキ・ミガキ	24.8	17.3	13.4	-	穿孔3箇所
20SD001f区上層	第101図	028	土師器	高坏	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ後ミガキ・ケズリ後粗いナデ・工具痕	ナデ後ミガキ・ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ・ナデ?	20.9	18.6	14.4	-	黒変・赤色塗彩
20SD001f区上層	第101図	029	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色～橙色	浅黄橙色～橙色	ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ナデ?	ナデ・ナデ後ミガキ・ハケメ後ナデ・ナデ?	20.0	15.1	13.4	-	一部黒変
20SD001f区上層e区P-116	第102図	030	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子	淡橙色	淡橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・細かい横方向のミガキ	ヨコナデ・細かい横方向のミガキ	19.6	13.5	(16.5)	-	穿孔4箇所
20SD001e区上層f区上層23SD0011層	第102図	031	土師器	高坏	長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色～浅黄橙色～黒褐色	橙色	ナデ・ナデ後ミガキ・ヨコナデ後ミガキ	ナデ後ミガキ・ハケメ後ナデ後ミガキ	16.8	11.5	16.4	-	穿孔4箇所・赤色塗彩・黒変
20SD001f区上層試掘2トレンチ	第102図	032	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色～浅黄橙色	ナデ・ハケメ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ	19.2	13.6	13.3	-	ハケメ(5~6本/cm)
20SD001e区上層	第102図	033	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黄橙色～黒色～明赤褐色	黄橙色～黒色	ナデ・ナデ後ミガキ・ハケメ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ナデ・ハケメ・ナデ・ミガキ	20.0	14.0	11.7	-	赤色塗彩
20SD001f区上層	第102図	034	土師器	高坏	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	明赤褐色	ヨコハケメ後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・縦方向のハケメ後ナデ・斜めハケメ後ミガキ・縦方向のケズリ後ミガキ	20.8	14.1	(13.2)	-	ハケメ内(4本/cm)外(2~3本/cm)
20SD001f区上層P-226e区上層	第102図	035	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色～橙色	橙色	ナデ後ミガキ・ヨコナデ後ミガキ・ミガキ・ケズリ	ナデ後ミガキ・ミガキ	20.8	14.7	13.1	-	
20SD001f区試掘2トレンチ	第102図	036	土師器	高坏	雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～にぶい褐色	橙色～にぶい褐色	ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ミガキ・ナデ・ケズリ後ミガキ	19.2	14.2	(12.0)	-	ハケメ(7~8本/cm)・黒斑

第30表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 29

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大腹部径 / 重さ	
20SD001 f区試掘2トレンチ	第102図	037	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色～にぶい赤褐色	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ミガキ	19.4	15.1	13.0	-	ハケメ(6～8本/cm)・黒斑
20SD001 f区試掘2トレンチ	第102図	038	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	明赤褐色～浅黃褐色	明赤褐色～浅黃褐色	ナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	17.8	13.4	11.6	-	ハケメ(7～8本/cm)・黒斑
20SD001 f区P-231	第102図	039	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ヨコナデ後ハケメ・ケズリ・しづり痕	ヨコナデ・指オサエ・ナデ	(17.2)	12.8	12.3	-	ハケメ(6本/cm)
20SD001 f区上層	第102図	040	土師器	高坏	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～にぶい橙色～明赤褐色	明赤褐色～暗赤灰色	ナデ・粗いナデ・ハケメ後ミガキ	ナデ・ヨコナデ・粗いナデ・斜めハケメ・ハケメ後ナデ	16.9	11.8	11.8	-	ハケメ外(7本/cm)(8～9本/cm)(9本/cm)
20SD001 e区上層	第102図	041	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子	明赤褐色～灰白色	橙色～灰白色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ・ハケメ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	16.7	13.6	11.8	-	ハケメ(7～8本/cm)・黒斑
20SD001 e区上層	第102図	042	土師器	高坏	石英・長石・角閃石	淡赤橙色	淡赤橙色	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ハケメ後ヨコナデ・ナデ・脚部沈線状ナデ痕	(16.4)	14.3	(13.1)	-	
20SD001 e区上層 23SD001-10 1層	第102図	043	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・赤色粒子	淡橙茶色	淡橙茶色	ヨコカキメ風ハケメ後斜めハケメ・ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ?	23.7	15.4	12.4	-	
20SD001 e区上層 f区上層 P-227	第102図	044	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色～浅黃褐色	明赤褐色～浅黃褐色	ナデ・丁寧なナデ・ナデ後ミガキ・ナデ後ミガキ・ミガキ・指オサエ	ナデ・ナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ・ハケメ後ミガキ・ミガキ	17.1	14.6	12.3	-	赤色塗彩
20SD001 f区上層	第103図	045	土師器	高坏	石英・長石・角閃石	橙色	橙色	ナデ・ミガキ・ハケメ・ケズリ	ナデ・ミガキ・ハケメ	(15.4)	13.0	10.6	-	ハケメ(9本/cm)・摩耗により不明瞭
20SD001 f区上層	第103図	046	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい赤褐色	橙色	ナデ?・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ・ミガキ	12.9	12.2	(11.3)	-	ハケメ(11本/cm)
20SD001 c区上層	第103図	047	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ハケメ後ミガキ・ヨコナデ	ミガキ・ヨコナデ	13.3	13.5	10.6	-	
20SD001 c区上層	第103図	048	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ・ミガキ	15.6	14.4	11.6	-	
20SD001 e区上層	第103図	049	土師器	高坏 坏部	石英・雲母・角閃石・白色粒子	橙色	橙色	ミガキ・ケズリ	ハケメ後ミガキ・ヘラケズリ	(21.0)	6.7+a	-	-	ハケメ(8本/cm)
20SD001 f区上層	第103図	050	土師器	高坏 坏部	石英・白色粒子	にぶい黄橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ後ヨコナデ・指オサエ・ハケメ	(22.0)	7.2+a	-	-	ハケメ内(8本/cm)外(7本/cm)
20SD001 f区上層	第103図	051	土師器	高坏 坏部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	横方向のハケメ(搔き目風)後放射状ミガキ・ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・綿密な横方向のミガキ	(22.8)	7.4+a	-	-	
20SD001 f区上層 P-202	第103図	052	土師器	高坏 坏部	雲母・微砂粒	黄褐色	にぶい黄色	ミガキ・工具ナデ	摩耗により不明瞭	21.0	7.3+a	-	-	
20SD001 a区上層	第103図	053	土師器	高坏 坏部	石英・長石・角閃石・赤色粒子	明赤褐色	橙色	縦方向のミガキ	横方向のミガキ	(18.0)	5.6+a	-	-	
20SD001 c区中層	第103図	054	土師器	高坏 坏部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ後ミガキ・ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・横方向のミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ケズリ後ミガキ?	(16.3)	5.7+a	-	-	
20SD001 e区上層	第103図	055	土師器	高坏 坏部	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙茶色	橙茶色	ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・絞り痕	17.1	6.9+a	-	-	
20SD001 d区上層	第103図	056	土師器	高坏	石英・長石・雲母・赤色粒子	淡橙色	淡橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ?	17.4	11.7+a	-	-	
20SD001 f区上層	第103図	057	土師器	高坏 坏部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	白茶色	白茶色	ヨコナデ	ヨコナデ	(15.8)	5.6+a	-	-	
20SD001 a区上層	第103図	058	土師器	高坏 坏部	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	橙色	ミガキ	摩耗により不明瞭	(17.4)	4.8+a	-	-	
20SD001 第103図	059	土師器	高坏 坏部	石英・長石・角閃石・赤色粒子	茶灰色	茶灰色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ズリ	18.1	6.3+a	-	-		
20SD001 c区P-50	第103図	060	土師器	高坏 坏部	石英・長石・赤色粒子	にぶい黄色	灰黄色	ハケメ後ナデ・ナデ	ハケメ後ナデ・ミガキ	19.0	8.7+a	-	-	
20SD001 c区上層	第103図	061	土師器	高坏 坏部	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	17.4	6.0+a	-	-	
20SD001 e区P-153	第103図	062	土師器	高坏 坏部	石英・黒色粒子・赤褐色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ハケメ後ヨコナデ	ハケメ後ヨコナデ	18.2	5.5+a	-	-	ハケメ内(6本/cm)外(5本/cm)黒斑
20SD001 e区上層	第103図	063	土師器	高坏	石英・雲母・角閃石・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ	(18.8)	11.8+a	-	-	ハケメ(11本/cm)・穿孔5箇所
20SD001 a区中層	第103図	064	土師器	高坏 脚部	石英・長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ミガキ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ	ミガキ・ハケメ後ミガキ	-	9.7+a	-	-	ハケメ(7本/cm)・穿孔3箇所
20SD001 c区中層	第103図	065	土師器	高坏 脚部	石英・長石・角閃石・赤色粒子	灰褐色	にぶい橙色	ハケメ後ナデ・指オサエ・ナデ	ミガキ・ハケメ後ミガキ・ハケメ	-	8.2+a	(14.6)	-	ハケメ(5本/cm)・穿孔3箇所

第31表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表30

遺構名	捕図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
20SD001f区上層	第103図	066	土師器	高坏 脚部	雲母・角閃石・微砂粒	灰黄褐色	明黄褐色	ハケメ・ヨコナデ	ハケメ・ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	-	9.0+a	14.4	-	ハケメ(9本/cm)・穿孔4箇所
20SD001f区上層	第103図	067	土師器	高坏 脚部	石英・長石・雲母・角閃石	橙色	橙色	ハケメ・ヨコナデ	ハケメ後ミガキ・ケズリ	-	7.0+a	14.2	-	ハケメ(8本/cm)(12本/cm)・穿孔4箇所
20SD001c区P-119	第103図	068	土師器	高坏 脚部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	橙色	ヨコナデ・ケズリ・ナデ	ハケメ後ミガキ	-	7.2+a	14.9	-	穿孔4箇所
20SD001試掘2トレーナー	第103図	069	土師器	高坏 脚部	石英・長石・角閃石・赤色粒子・黑色粒子	淡橙茶色	淡橙茶色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	-	11.4+a	-	-	坏部見込み部分は被熱のため器面剥離
20SD001e区上層	第103図	070	土師器	高坏 脚部	角閃石・白色粒子・黑色粒子	淡橙色	淡橙色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ	-	6.7+a	9.3	-	
20SD001f区上層	第103図	071	土師器	高坏 脚部	石英・白色粒子・雲母・角閃石・赤色粒子	淡茶灰色	淡茶灰色	ヨコナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ	-	6.2+a	(12.4)	-	
20SD001e区上層	第103図	072	土師器	高坏 脚部	石英・長石・雲母・角閃石	にぶい黄色	浅黄色	ケズリ・ハケメ・ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	-	7.3+a	(12.8)	-	ハケメ(7本/cm)
20SD001f区上層	第103図	073	土師器	高坏 脚部	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	淡黄色	淡黄色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ・指サエ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	-	8.3+a	12.6	-	
20SD001e区上層	第104図	074	土師器	高坏 脚部	赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズリ	ナデ後ミガキ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・横方向のミガキ	-	8.2+a	(11.2)	-	
20SD001e区上層	第104図	075	土師器	高坏 脚部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	茶白色	茶白色	ヨコナデ・ケズリ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ケズリ	-	8.0+a	(10.6)	-	
20SD001a区中層	第104図	076	土師器	高坏 脚部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ミガキ・ハケメ・ケズリ	ミガキ	-	10.1+a	-	-	
20SD001c区上層	第104図	077	土師器	高坏 脚部	角閃石・白色粒子・灰色粒子	白茶色	白茶色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ミガキ	-	11.0+a	(11.7)	-	
20SD001d区中層	第104図	078	弥生土器	高坏 口縁部片	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	赤橙色	赤橙色	ミガキ	ミガキ	(26.5)	4.7+a	-	-	外表面赤色塗彩
20SD001e区下層	第104図	079	弥生土器	高坏 口縁部片	石英・長石・角閃石・赤色粒子	白色	橙白色	ナデ?・ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	-	5.0+a	-	-	外表面赤色塗彩
20SD001f区上層	第104図	080	弥生土器	高坏	石英・長石・角閃石・赤色粒子	赤色(下地白茶色)	赤色(下地白茶色)	ナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ	ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	-	17.0+a	-	-	穿孔4箇所・外表面赤彩
20SD001d区中層	第104図	081	弥生土器	高坏 脚部	石英・長石・雲母・赤色粒子	淡白橙色	淡白橙色	ナデ・ヨコナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ヨコナデ	-	5.1+a	-	-	
20SD001b区P-28	第104図	082	弥生土器	高坏 脚部片	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ミガキ・ハケメ・しぼり痕	ナデ・ハケメ後ナデ	-	12.1+a	15.9	-	ハケメ(10本/cm)・穿孔5箇所
20SD001a区P-19	第104図	083	弥生土器	高坏 脚部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	灰白色	赤色	ハケメ後ミガキ・ナデ・しぼり痕	ハケメ後ミガキ	-	13.5+a	(14.6)	-	穿孔5箇所
20SD001f区上層	第104図	084	弥生土器	高坏 脚部	石英・長石・雲母・赤色粒子	淡茶灰色	淡茶灰色	ナデ	ナデ・ミガキ	-	12.0+a	-	-	穿孔6箇所・中位口まで充填
20SD001e区上層	第104図	085	弥生土器	高坏 口縁部片	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	茶白色	茶白色	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	-	4.7+a	-	-	内面赤色塗彩
20SD001f区上層	第104図	086	土師器	高坏 脚部	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙色	橙色	ケズリ・ナデ	ナデ	-	6.1+a	(5.9)	-	
20SD001f区上層	第105図	087	土師器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙色	白茶色	ヨコナデ・ケズリ後粗いミガキ	ヨコナデ・ハケメ後粗いナデ	(14.6)	3.3	-	-	
20SD001d区中層	第105図	088	土師器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙色	橙色	ミガキ	ナデ	15.2	4.6	-	-	
20SD001d区上層e区上層	第105図	089	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ミガキ	ナデ・ヨコナデ・工具痕	16.9	4.9	-	-	黒斑
20SD001b区c区上層	第105図	090	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ後ミガキ	ナデ・ケズリ	16.3	4.8+a	-	-	
20SD001e区上層	第105図	091	土師器	鉢	長石・雲母・角閃石・赤色粒子	灰白色～橙色	橙色	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ケズリ後ミガキ・ミガキ	(12.0)	3.6	-	-	黒斑・スス付着
20SD001e区上層	第105図	092	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	浅黄橙色～橙色	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ?	ヨコナデ・ハケメ	16.1	4.8	-	-	ハケメ(8～11本/cm)黒斑・スス付着
20SD001f区上層	第105図	093	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色～黒褐色	橙色	ナデ後ミガキ	ナデ・ケズリ後ナデ・ミガキ	14.5	4.5	-	-	
20SD001d区上層	第105図	094	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子	橙色～灰白色	橙色～明褐灰色	工具ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ	(12.0)	3.6	-	-	黒斑
20SD001f区上層	第105図	095	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・	淡橙色	淡橙色	ヨコナデ・ミガキ・丁寧なミガキ	ヨコナデ・ケズリ後手持ちナデ	(13.0)	3.9	-	-	外表面スス付着
20SD001f区上層	第105図	096	土師器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ミガキ?	ミガキ?・ケズリ	15.8	5.4	-	-	
20SD001e区上層f区上層	第105図	097	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色～にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ケズリ後ハケメ	(14.3)	4.8+a	-	-	ハケメ(7本/cm)	

第32表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表31

遺構名	捲番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大腹部径 / 重さ	
20SD001f区上層	第105図	098	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ	10.3	3.5	-	-	
20SD001f区上層	第105図	099	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	淡橙色	淡橙色	ヨコナデ・ナデ・丁寧なナデ	ヨコナデ・ケズリ後ナデ・工具痕	(13.4)	4.6	-	-	内外面スス付着
20SD001c区上層	第105図	100	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケメ後ナデ	(16.2)	5.7	-	-	ハケメ(12本/cm)
20SD001e区上層 20SE001上層	第105図	101	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子	橙色～灰白色	橙色～灰白色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ・ケズリ・指オササ	16.0	5.2+a	-	-	ハケメ(8本/cm)・黒斑・スス付着
20SD001e区P-126	第105図	102	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ケズリ	12.4	4.3	-	-	黒斑
20SD001b区P-5	第105図	103	土師器	鉢	石英・長石・角閃石	橙色	褐灰色	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケメ	15.7	5.5	-	-	ハケメ(13本/cm)
20SD001f区上層	第105図	104	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	灰茶色	灰茶色	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ・ハケメ後丁寧なナデ後ミガキ	(17.6)	6.1	-	-	
20SD001f区上層	第105図	105	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	黄灰色～黒褐色	にぶい黄橙色～明赤褐色	工具ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	(12.6)	4.9	-	-	ハケメ(9～10本/cm)・黒斑
20SD001d区上層 d区下層P-91	第105図	106	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・黒色粒子	橙色～浅黃橙色	橙色～灰白色	工具ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ・ケズリ・ケズリ後ナデ	(14.8)	5.6	-	-	黒斑・口縁部の歪み著しい
20SD001f区上層	第105図	107	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ミガキ後ナデ	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	14.8	5.8	-	-	黒斑
20SD001e区上層	第105図	108	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	12.1	4.0	-	-	
20SD001e区104上層	第105図	109	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石	橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ後ミガキ	ナデ・ハケメ	17.1	6.7	-	-	ハケメ(17本/cm)・黒斑
20SD001c区上層	第105図	110	土師器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケメ後ナデ	(13.8)	5.4	-	-	ハケメ(15本/cm)
20SD001d区上層 d区中層	第105図	111	土師器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい褐色～灰白色	橙色～灰白色	工具ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	16.4	6.3	-	-	ハケメ(10～11本/cm)・黒斑・歪み著しい
20SD001d区P-74	第105図	112	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	放射状のハケメ・ハケメ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	15.4	6.1	-	-	
20SD001b区上層	第105図	113	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石	黄灰色	黒褐色	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭	-	2.6+a	-	-	
20SD001b区上層	第105図	114	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	灰黃褐色	摩耗により不明瞭	ミガキ・ケズリ	-	3.8+a	-	-	
20SD001c区上層	第105図	115	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	灰黄色	灰黄色	ナデ	ナデ・ケズリ後ミガキ	(12.8)	5.4	-	-	
20SD001e区上層 P-243	第105図	116	土師器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙色	橙色	ナデ	ハケメ	13.4	5.3	-	-	ハケメ(8本/cm)
20SD001b区上層 P-46	第105図	117	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい赤褐色	ミガキ	ハケメ後ミガキ	(17.2)	5.6+a	-	-	
20SD001f区上層	第105図	118	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	灰黄褐色	黒褐色	ハケメ・ナデ	ナデ	15.5	7.0	-	-	ハケメ(6本/cm)
20SD001f区上層	第105図	119	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色～橙色	にぶい橙色～橙色	工具ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	10.8	4.4	-	-	ハケメ(7～8本/cm)・黒斑
20SD001e区上層 f区上層	第105図	120	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色～にぶい黄橙色	橙色～にぶい黄橙色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	14.4	6.0	-	-	ハケメ(8本/cm)
20SD001f区上層	第105図	121	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	13.8	6.1	-	-	黒斑
20SD001b区P-4	第105図	122	土師器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい褐色	ナデ後ミガキ	ナデ・ハケメ・ミガキ・ケズリ	(14.0)	6.0+a	-	-	ハケメ(10本/cm)
20SD001b区中層	第105図	123	土師器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	浅黄褐色	にぶい褐色	ナデ	ナデ	(12.0)	5.2	-	-	
20SD001e区P-113	第105図	124	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	灰白色	灰白色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	14.0	5.9	-	-	ハケメ(9本/cm)
20SD001d区P-77	第105図	125	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	13.1	6.4	-	-	ハケメ(7本/cm)・黒斑
20SD001f区上層	第105図	126	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	浅黄褐色～橙色	にぶい黄橙色	ナデ?・ヨコナデ	ナデ一部ハケメ・ヨコナデ・工具痕	11.3	5.6	-	-	黒斑
20SD001c区上層	第105図	127	土師器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ミガキ・ケズリ	ナデ・指オサエ・ケズリ後ミガキ	(12.3)	6.1	-	-	
20SD001f区P-249	第105図	128	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ミガキ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・指オサエ	13.4	6.8	-	-	
20SD001d区上層	第105図	129	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色～灰白色	工具ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	12.9	6.4	-	-	ハケメ(8～9本/cm)・スス付着?
20SD001f区試掘2トレンチ	第105図	130	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色～灰黄褐色	明赤褐色～にぶい黄橙色	ナデ・ヨコナデ・工具痕	ナデ・ヨコナデ	10.5	6.6	-	-	黒斑・スス付着
20SD001d区P-57	第106図	131	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	15.2	7.7	-	-	黒斑

第33表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表32

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
20SD001 c区P-57	第106図	132	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケメ 後ナデ	12.0	7.6	-	-	ハケメ(9本/cm)
20SD001 f区上層	第106図	133	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ミガキ	ナデ・ハケメ 後ミガキ	(11.4)	9.1	-	-	ハケメ(8本/cm)
20SD001 e区下層	第106図	134	土師器	鉢	長石・角閃石・ 赤色粒子	赤色	赤色	ミガキ・ミガキ 後ヨコナデ? 丁寧なナデ	ミガキ・ミガ キ後ヨコナ デ? 丁寧なナ デ	(9.6)	9.4	-	-	内外面赤色塗彩・ 精製品
20SD001 d区上層 d区中層	第106図	135	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・黒色粒子	橙色～浅黃橙 色	橙色～灰白色	工具ナデ・ヨコ ナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	(11.9)	6.6	3.6	-	ハケメ(7本/cm)・ 黒斑
20SD001 上層P-256	第106図	136	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ケズ リ後ミガキ	ヨオナデ・ハ ケメ後ミガキ・ 指オサワ	18.0	11.0	4.2	-	黒斑
20SD001 f区上層 f区中層	第106図	137	土師器	台付鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	にぶい橙色～ 橙色	ヨコナデ・ミガ キ	ナデ・ヨコナ デ・指オサワ	15.1	9.5	7.0	-	黒斑
20SD001 d区上層	第106図	138	土師器	台付鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰白色～橙色	橙色	ハケメ・ハケメ 後ヨコナデ	ナデ・強いナ デ・ヨコナデ	(13.6)	7.0	(7.6)	-	ハケメ(5本/cm)・ 黒斑
20SD001 c区上層	第106図	139	土師器	台付鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ミガキ	ナデ・ハケメ 後ミガキ	(12.9)	6.8	-	-	ハケメ(7本/cm)
20SD001 f区上層	第106図	140	土師器	台付鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒子	明赤褐色～赤 黒色	明赤褐色	ナデ・ミガキ	ナデ・縦～横 方向のハケメ 後ナデ	(13.4)	6.5	7.6	-	
20SD001	第106図	141	土師器	台付鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	淡橙白色	淡橙白色	ナデ・指オサ 工・ヨコナデ	ヨコナデ	-	4.6+a	(11.0)	-	
20SD001 c区中層	第106図	142	土師器	台付鉢底部	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ・ナデ	ハケメ・ヨコ ナデ	-	5.8+a	(12.7)	(13.2)	ハケメ(5本/cm)
20SD001 c区上層	第106図	143	土師器	台付鉢底部	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄橙色	橙色	摩耗により不明 瞭	ナデ・指オサ 工	-	5.9+a	(10.0)	-	
20SD001 c区下層	第106図	144	土師器	台付鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	黃灰色	にぶい橙色	摩耗により不明 瞭	ハケメ・指オ サ工後ナデ	-	4.6+a	-	-	ハケメ(6本/cm)
20SD001 d区中層	第106図	145	土師器	台付鉢	石英・長石	赤橙色	赤橙色	ナデ・ケズリ後 ナデ・ハケメ・ 丁寧な一部ミガ キ・ケズリ(周 囲上げ底)	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ 粗い縱方向の ハケメ	(19.2)	17.5	9.2	-	
20SD001 d区上層	第106図	146	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒子	橙色～暗橙色	橙色～暗橙色	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ・放 射状ハケメ風ミ ガキ・斜め～ヨ コカキメ風ハケ メ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ・ ケズリ後ナデ	(21.0)	5.5+a	-	-	
20SD001 f区上層	第106図	147	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	淡橙白色	淡橙白色	ヨコナデ・丁寧 なナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガ キ? 丁寧なナ デ	(18.4)	5.9+a	-	-	内外面黒斑
20SD001 e区上層	第106図	148	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	茶白色	ナデ後ミガキ・ ヨコナデ・ケズ リ後ミガキ・密 かな横方向のミ ガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ 斜めハケメ後 ナデ	(21.1)	5.6+a	-	-	
20SD001 f区上層	第106図	149	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(9.4)	5.0	-	-	
20SD001 c区上層	第106図	150	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ミガ キ	ヨコナデ・ハ ケメ	(15.4)	8.7	-	-	ハケメ(7～10本 /cm)・黒斑
20SD001 c区P-54	第106図	151	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	14.5	8.2	-	-	
20SD001 d区下層	第106図	152	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒子	浅黃橙色	浅黃橙色	ナデ・ナデ後粗 いミガキ・ヨコ ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ 粗いミガキ	23.7	10.5	-	-	口縁部打ち欠き・ 一部黒変
20SD001 f区上層	第106図	153	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒子	明黄褐色	にぶい黄橙色 ～橙色	ナデ後ミガキ・ ヨコナデ・ケズ リ後ミガキ・ヨ コナデ後ナデ	ナデ・ケズリ 後ミガキ・指 オサ工後ナデ	(22.8)	11.6	(5.0)	-	
20SD001 e区上層 P-109 d区上層	第106図	154	土師器	鉢	雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ・ミ ガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ? ハケメ後ヨコナ デ	(25.9)	14.5	-	-	ハケメ(8本/cm)・ 黒斑
20SD001 e区P-222	第106図	155	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ・指オサ 工・ケズリ	ナデ・ハケメ ・指オサ工	21.4	14.9	-	-	ハケメ(6本/cm)
20SD001 f区上層	第106図	156	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	明褐色	灰白色～明褐 色	ナデ後ミガキ・ ヨコナデ後ミガ キ・ハケメ後ミ ガキ	ナデ後ミガキ ・ヨコナデ後ミ ガキ・ハケメ後 ナデ	12.0	11.6	-	-	赤色塗彩
20SD001 d区上層	第106図	157	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	白茶色	白茶色	ハケメ?・ナデ	ナデ?	(12.6)	8.3+a	-	-	
20SD001 e区中層	第107図	158	土師器	鉢	角閃石・白色 粒子・石英・ 赤色粒子	明赤褐色	明赤褐色～に ぶい黄橙色	ケズリ後ナデ	ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ 後ナデ・オサ 工	(18.5)	10.5+a	-	-	
20SD001 f区上層	第107図	159	土師器	鉢	角閃石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙色	にぶい橙色	ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(12.7)	13.4+a	-	-	
20SD001 f区上層	第107図	160	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後粗いミガキ ・粗いミガキ	28.6	23.5+a	-	-	山陰系鉢に類似
20SD001 c区P-107	第107図	161	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ナ デ・ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(26.1)	17.5	-	-	ハケメ(4本/cm)・ 黒斑

第34表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表33

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大腹部径 / 重さ	
20SD001d区上層	第107図	162	土師器	大鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい黄橙色	ハケメ後ナデ・ミガキ・指オサ工	ハケメ後ナデ・後ミガキ・ケスリ後ミガキ	-	20.7+a	-	-	ハケメ(6本/cm)(8~12本/cm)・黒変・接合痕
20SD001c区P-32・33 c区上層	第107図	163	土師器	大鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	橙色	ナデ・ハケメ後ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ	(31.5)	20.3	-	(32.0)	ハケメ(7本/cm)
20SD001e区下層 f区上層	第107図	164	土師器	鉢	石英・長石・赤色粒子	淡橙色	淡橙色	ミガキ?・ミガキ	ヨコナデ・指オサ工・ハケメ・ミガキ	25.7	19.0+a	-	-	三角突帯
20SD001f区上層	第107図	165	土師器	鉢	石英・長石・赤色粒子	淡橙白色	淡橙白色	ナデ・ハケメ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ・指オサ工・タキ風の粗いハケメ後細かい縦方向のハケメ	(29.0)	26.4+a	-	-	突帯
20SD001f区上層	第108図	166	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰白色~黒褐色	にぶい黄橙色~橙色	ハケメ後ヨコナデ・ケスリ後ミガキ・指オサ工後ケスリ	ハケメ後ナデ・ヨコナデ・ハケメ	(25.2)	23.7+a	-	-	ハケメ(4~6本/cm)(6~8本/cm)・内面黒変・突帯
20SD001e区上層 P-103	第108図	167	土師器	大鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ後ミガキ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	33.7	29.5	-	-	ハケメ(9~10本/cm)・黒斑
20SD001e区上層・下層 f区上層	第108図	168	土師器	大鉢	雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ケスリ後ミガキ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ後一部ミガキ?	34.4	29.3+a	-	-	ハケメ(7~8本/cm)・黒斑
20SD001e区上層 P-135・146	第108図	169	土師器	大鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ後ミガキ	ナデ・ハケメ後ミガキ	34.6	25.1	-	-	ハケメ(9本/cm)
20SD001e区上層 P-160	第108図	170	土師器	大鉢	石英・長石・角閃石・白色粒子	橙色	明赤褐色	ヨコナデ・指オサ工・斜め~横方向のハケメ後ナデ	ヨコナデ・縦方向のハケメ後ナデ・ナデ	(35.3)	28.4	-	-	内面部分的黒変
20SD001e区上層	第108図	171	土師器	鉢	石英・長石・雲母	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ(一部粗いミガキ?)・ナデ後ミガキ風ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・丁寧なナデ	(36.5)	24.9	-	-	突帯
20SD001f区上層	第109図	172	土師器	鉢	石英・長石・赤褐色粒子	橙白色	橙白色	ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ・ハケメ後ナデ?	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ナデ一部ケズリ	(44.0)	28.3	-	-	全体的に歪み
20SD001f区上層	第109図	173	土師器	大鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	橙色~にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ・工具ナデ?(ケズリ?)	粗いナデ(ケズリ?)後ナデ(ミガキ?)・斜めハケメ・ナデ	38.5	31.4	-	-	ハケメ(6本/cm)・外面部黒変・突帯貼付
20SD001c区上層	第109図	174	土師器	大鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ハケメ	ナデ・指オサ工・ハケメ	(35.4)	14.4+a	-	-	ハケメ(9本/cm)
20SD001b区中層 20SD001b区下層	第109図	175	土師器	山陰系鉢 口縁部	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	橙色	ミガキ・ナデ	ナデ・ミガキ・ハケメ後ミガキ	(37.4)	14.3+a	-	-	ハケメ(7本/cm)
20SD001f区上層	第109図	176	土師器	鉢	角閃石・石英・長石・白色粒子	灰黃褐色~黒褐色	橙色~黒褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	-	3.3+a	4.2	-	黒斑
20SD001f区上層 P-193	第110図	177	土師器	台付鉢	石英・長石・赤色粒子	茶白色~明褐色	茶白色~明褐色	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ミガキ後ナデ(一部ケズリ風工具痕)	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	22.9	17.9+a	-	-	
20SD001f区上層 d区中層	第110図	178	土師器	台付鉢	石英・長石・黒色粒子	淡橙茶色	淡橙茶色	ハケメ・ハケメ後ナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・指オサ工	(20.2)	17.1	11.5	-	
20SD001f区上層	第110図	179	土師器	台付鉢	石英・長石・赤色粒子・雲母	橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ・工具痕・丁寧なナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ナデ(指オサ工)	-	11.8+a	(12.4)	-	
20SD001c区P-88	第110図	180	土師器	台付鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ・ハケメ後ミガキ	(16.4)	11.7+a	-	-	ハケメ(11本/cm)・赤色塗彩
20SD001d区中層	第110図	181	土師器	台付鉢	石英・長石・角閃石・白色粒子	赤色~淡橙色	淡橙色~橙色	ナデ・ヨコナデ・斜めハケメ後ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ	(24.0)	15.7+a	-	-	赤色塗彩
20SD001d区中層	第110図	182	弥生土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石	口縁部赤色~茶白色	赤色	工具ナデ・ヨコナデ・ヨコナデ後ミガキ	ヨコナデ・ミガキ・櫛書波状文	(9.5)	11.2+a	-	-	内外面赤色塗彩・外面スス付着
20SD001f区上層	第111図	183	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色~橙色	ナデ・ヨコナデ・ミガキ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	10.2	6.2	-	-	ハケメ(不明瞭)
20SD001a区中層	第111図	184	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	10.0	7.2	-	-	
20SD001e区上層 P-217	第111図	185	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	橙色~にぶい黄橙色	ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ	(10.2)	7.0	-	-	黒斑・スス付着
20SD001f区上層	第111図	186	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	明赤褐色~にぶい黄橙色	明赤褐色~浅黄橙色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ?	(10.3)	7.2	-	-	黒斑
20SD001c区P-43	第111図	187	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・赤色粒子	灰白色	橙色	ナデ・指オサ工	ナデ・指オサ工	(11.0)	7.8	-	-	
20SD001a区上層	第111図	188	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	黑褐色	にぶい橙色	ハケメ後ナデ・ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ミガキ	(10.4)	8.4	-	-	ハケメ(6本/cm)
20SD001c区P-57	第111図	189	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	摩耗により不明瞭	ナデ・ハケメ	12.8	6.9	-	-	ハケメ(9本/cm)

第35表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表34

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
20SD001e区上層	第111図	190	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ・ミガキ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	11.5	6.6	-	-	ハケメ(8本/cm)・黒斑
20SD001f区P-174	第111図	191	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	灰黄色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	12.1	8.2	-	-	ハケメ(10本/cm)
20SD001e区上層	第111図	192	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ミガキ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	(11.0)	6.6	-	-	
20SD001e区上層	第111図	193	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ヨコナデ後粗いミガキ?ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	(10.5)	7.7	-	-	ハケメ(9~11本/cm)・黒斑・スス付着
20SD001f区上層	第111図	194	土師器	小型丸底壺	石英・長石・赤色粒子	橙白色	白茶色	工具ナデ?	粗いナデ	(10.8)	7.1	-	-	全体的に壺な形状
20SD001e区上層P-244	第111図	195	土師器	小型丸底壺	石英・長石・赤色粒子	橙色	橙色	横方向のハケメ後緩方向のハケメ・ミガキ・ナデ	ヨコナデ・ミガキ・ハケメ後ナデ	12.4	8.4	-	-	ハケメ(15本/cm)
20SD001e区上層P-194	第111図	196	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	12.2	6.9	-	-	黒斑
20SD001f区上層	第111図	197	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	灰白色~橙色	橙色	工具ナデ・ヨコナデ	工具ナデ・ヨコナデ・ハケメ	12.4	7.2	-	-	ハケメ(13本/cm)・黒斑・スス付着
20SD001e区上層	第111図	198	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ	ナデ・ミガキ	12.5	7.3	-	-	
20SD001d区上層	第111図	199	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	赤褐色	にぶい橙色~明赤褐色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ケズリ後ハケメ・ミガキ	(12.4)	7.4	-	-	ハケメ(8~9本/cm)・黒斑
20SD001f区上層	第111図	200	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙茶色	淡橙茶色	(丁寧な)ナデ	(丁寧な)ナデ	(14.4)	8.2	-	-	やや精製品・外面上スス付着
20SD001f区上層	第111図	201	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	浅黃橙色~褐灰色	浅黃橙色~褐灰色	ヨコナデ・ケズリ後ハケメ後ミガキ?ケズリ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	(13.8)	7.6+a	-	-	内外面黒変
20SD001d区上層P-78・79・84 20SE001上層	第111図	202	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	明赤褐色~灰黃褐色	工具ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(12.6)	7.3	-	-	ハケメ(7~14本/cm)
20SD001f区上層	第111図	203	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	茶白色	茶白色	工具ナデ・ヨコナデ・丁寧なナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(11.6)	6.5+a	-	-	外面ケズリ顕著
20SD001f区上層	第111図	204	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石	暗褐色~にぶい褐色	橙色~灰褐色	ミガキ	ナデ・ハケメ・ハケメ後ミガキ	12.1	6.7+a	-	-	
20SD001f区上層	第111図	205	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	白茶色	白茶色	ナデ後ミガキ?ヨコナデ・ヨコナデ・ヨコナデ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(13.2)	6.8+a	-	-	全般的に丁寧なナデ(ミガキ風)
20SD001f区上層	第111図	206	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石	赤橙色	赤橙色	ナデ・工具痕・ケズリ	ケズリ後ナデ	-	7.4+a	-	-	内外面黒斑
20SD001a区上層	第111図	207	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭	(9.0)	4.8+a	-	-	
20SD001a区上層	第111図	208	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石	にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ・ハケメ	摩耗により不明瞭	(13.8)	6.5+a	-	-	
20SD001f区上層	第111図	209	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・工具ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ハケメ	(11.0)	5.5	-	-	
20SD001f区上層	第111図	210	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	淡橙色	茶灰色	ヨコナデ・ハケメ後ミガキナデ・ナデ後ミガキ(放射状)	ヨコナデ・工具ナデ(丁寧)	(14.2)	5.0+a	-	-	
20SD001f区上層	第111図	211	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ナデ・ハケメ後ミガキ?	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ?	(14.6)	5.4+a	-	-	内面ミガキ痕
20SD001f区上層	第111図	212	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	橙色~にぶい黄橙色	ナデ・指オサエ	ナデ・ヨコナデ・ケズリ後ナデ	(14.0)	5.9	-	-	
20SD001e区上層	第111図	213	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子	灰白色~にぶい黄橙色	灰白色~にぶい黄橙色	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ミガキ	(16.8)	7.9	-	-	ハケメ(8本/cm)・黒斑
20SD001c区上層	第111図	214	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ミガキ	ハケメ後ナデ・指オサエ・ハケメ	(15.7)	6.8	-	-	ハケメ(10本/cm)
20SD001f区上層	第111図	215	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色~橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	工具ナデ・ハケメ後ナデ	17.4	7.5	-	-	口縁部赤色塗彩
20SD001a区上層	第111図	216	土師器	小形の丸底鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ	ナデ・ケズリ	(12.4)	8.0	-	-	
20SD001f区P-252	第111図	217	土師器	小形の丸底鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ後ナデ	11.7	7.1	-	-	ハケメ(6本/cm)・黒斑
20SD001c区上層	第111図	218	土師器	小形の丸底鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	灰黄色	ナデ・ナデ後ミガキ	ナデ・ハケメ後ナデ	20.6	7.5+a	-	-	ハケメ(9本/cm)
20SD001e区上層	第111図	219	土師器	小形の丸底鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙色	橙色~黄灰色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・工具痕	ハケメ・ヨコナデ・ヨコナデ	(12.0)	7.2	-	-	ハケメ(8~10本/cm)
20SD001b区P-8	第111図	220	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ハケメ・ナデ・ケズリ後ナデ	ハケメ・ミガキ・ナデ	(12.5)	10.7	-	-	ハケメ(7本/cm)
20SD001e区上層	第111図	221	土師器	小形の丸底壺	白色粒子・灰赤色粒子・赤色粒子	赤橙色	赤橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	(12.8)	9.7+a	-	-	煤けて黒みを帯びる
20SD001c区P-41	第111図	222	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	灰黄色	ハケメ後ミガキ・ナデ	ナデ・ミガキ	(12.8)	10.9	-	-	ハケメ(9本/cm)

第36表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表35

遺構名	捲番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大腹部径 / 重さ	
20SD001 f区上層 P-176	第112図	223	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ハケメ・指オサエ後ナデ	ハケメ	9.1	11.7	-	11.5	ハケメ(7本/cm)
20SD001 a区上層	第112図	224	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・指オサエ	ナデ	(10.6)	11.5+a	-	(12.4)	
20SD001 f区上層 試掘2トレンド	第112図	225	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	明赤橙色	明赤橙色	ハケメ・ケズリ後丁寧なナデ	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	10.9	11.2+a	-	-	外面被熱痕著しい
20SD001 b区上層	第112図	226	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ハケメ後ナデ・ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ	(9.9)	8.0+a	-	-	ハケメ(8本/cm)
20SD001 b区上層	第112図	227	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母・赤色粒子	黄灰色	にぶい橙色	ハケメ	ハケメ	(9.6)	6.9+a	-	-	ハケメ(10本/cm)
20SD001 f区試掘2トレンド	第112図	228	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子	橙色～にぶい褐色	橙色～にぶい褐色	工具ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	(9.8)	7.7	-	-	ハケメ(8～9本/cm)
20SD001 f区上層	第112図	229	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ後ミガキ・ケズリ後ミガキ	ナデ後ミガキ・ヨコナデ	10.7	7.8	-	-	赤色塗彩
20SD001 e区上層 P-152	第112図	230	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	浅黄橙色～橙色	ナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ナデ	(13.7)	9.2	-	-	ハケメ(8～9本/cm)・黒斑・スス付着
20SD001 d区 P-71	第112図	231	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	11.4	9.8	-	12.0	黒斑
20SD001 e区 P-113	第112図	232	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	灰黄褐色	灰黄褐色	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	11.8	10.0	-	12.2	ハケメ(7本/cm)
20SD001 a区 P-9	第112図	233	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ハケメ	ハケメ後ミガキ	11.7	10.6	-	-	ハケメ(8本/cm)
20SD001 e区上層	第112図	234	土師器	小形の丸底壺	白色粒子・角閃石・長石・赤色粒子・石英	にぶい黄橙色～赤褐色	にぶい黄橙色～赤褐色	ハケメ後ナデ・ナデ	ハケメ後ナデ・ハケメ	(14.2)	11.4	-	-	
20SD001 d区上層 P-72	第112図	235	土師器	小形の丸底壺	雲母・角閃石・白色粒子・赤褐色粒子	橙色	橙色	ナデ	ハケメの上からヨコナデ	-	8.7+a	-	-	ハケメ(7本/cm)
20SD001 d区上層 f区上層	第112図	236	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・黒色粒子	橙色	にぶい黄橙色～橙色	ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ・工具痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	(5.9)	8.7+a	-	-	ハケメ(10～11本/cm)
20SD001 c区 P-56	第112図	237	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	灰黄褐色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(5.2)	6.7+a	-	-	黒斑
20SD001 e区上層	第112図	238	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	茶灰色	茶灰色	工具ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	(9.0)	9.3+a	-	-	外面黒斑・スス付着・粗い器形調整
20SD001 e区 P-148	第112図	239	土師器	直口壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	12.0	15.0	-	14.6	ハケメ(9本/cm)・黒斑
20SD001 e区上層	第112図	240	土師器	直口壺	雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ後ヨコナデ	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	12.5	16.3	-	-	ハケメ(4～13本/cm)・黒斑
20SD001 d区 P-68	第112図	241	土師器	直口壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ後ミガキ・ナデ	ナデ	13.1	18.3	-	-	
20SD001 a区 P-20	第112図	242	土師器	直口壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ナデ	ヨコナデ・ミガキ・ハケメ後ミガキ	13.5	21.7	-	16.9	ハケメ(7本/cm)
20SD001 f区 P-173	第112図	243	土師器	直口壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ	ハケメ・指オサエ	11.4	20.8	-	-	ハケメ(10本/cm)・底部穿孔
20SD001 f区上層	第112図	244	土師器	直口壺	石英・長石・赤色粒子	淡茶褐色	淡茶褐色	ハケメ・ナデ・ケズリ後ナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ナデ	19.6	32.4+a	-	-	外面部的スス付着・口縁部打ち欠き痕・内面单位不明瞭
20SD001 d区上層	第112図	245	土師器	直口壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐灰色	褐灰色～黒色	ハケメ後ナデ・ナデ・ハケメ後ナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ナデ・ハケメ後ナデ	(11.0)	17.2+a	-	-	黒変・接合痕
20SD001 f区上層	第113図	246	土師器	直口壺	長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色	明褐色～明褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	(11.2)	8.95+a	-	-	
20SD001 d区上層 P-62	第113図	247	土師器	直口壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	浅黄橙色～橙色	ナデ・ケズリ・指オサエ	ハケメ後ナデ	-	13.7+a	-	-	ハケメ(不明瞭)
20SD001 a区中層	第113図	248	土師器	直口壺	石英・長石・雲母・赤色粒子	明赤褐色	明赤褐色	指オサエ・ケズリ後ナデ	ハケメ	-	13.3+a	-	-	ハケメ(9本/cm)
20SD001 e区 P-132	第113図	249	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	灰黄色	灰黄色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	12.6	17.1	-	14.8	
20SD001 d区 P-108	第113図	250	土師器	壺	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ	ハケメ後ナデ・ハケメ・ナデ	(11.9)	18.1	-	14.6	ハケメ(6本/cm)
20SD001 e区上層	第113図	251	土師器	壺	角閃石・石英・雲母・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(13.0)	23.7	-	-	
20SD001 f-e区上層	第113図	252	土師器	壺	角閃石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子	褐色～明赤褐色	褐色	ハケメ後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(14.3)	10.9+a	-	-	
20SD001 f区上層・下層	第113図	253	土師器	壺	石英・長石・角閃石・灰色粒子	白茶色	白茶色	ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ・工具痕	(12.5)	22.2+a	-	-	突帯
20SD001 d区上層 P-79	第113図	254	土師器	壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	赤色～橙色	赤色～淡橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ミガキ・ケズリ後ミガキ・指オサエ	工具ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ハケメ後ミガキ	(15.0)	17.1+a	-	-	突帯

第37表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表36

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胸部径 / 重さ	
20SD001e区上層	第113図	255	土師器	壺	石英・長石・赤色粒子	淡橙色	淡橙色	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(12.8)	22.3+a	-	-	口縁端部打ち欠き
20SD001e区上層	第113図	256	土師器	壺	角閃石・石英・白色粒子・赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ナデ・指オサ工	(13.4)	18.0+a	-	-	外表面磨滅の為調整不明瞭
20SD001f区上層	第114図	257	土師器	壺	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～暗赤褐色	橙色～にぶい橙色	ナデ・横方向のハケメ・斜めハケメ・ケズリ後ナデ・指オサ工	ナデ・ナデミガキ?・縦方向のハケメ・縦斜めハケメ	13.6	37.0	-	-	ハケメ内(4本/cm)(6～7本/cm)外(4～5本/cm)
20SD001f区上層P-207	第114図	258	土師器	壺	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色～赤褐色	明赤褐色～橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ミガキ・ケズリ後ナデ・指オサ工	ナデ・縦方向のハケメ後ナデ・斜めハケメ	(14.5)	35.2	-	-	ハケメ外(4～5本/cm)(8本/cm)・外外面黒変
20SD001d区P-92	第114図	259	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ハケメ・ハケメ後ナデ・指オサ工	ハケメ・ハケメ後ミガキ	(13.8)	33.8	-	23.5	ハケメ(6本/cm)
20SD001c区中層P-49	第114図	260	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	橙色	ハケメ後ナデ・指オサ工・ナデ	ハケメ後ナデ・ハケメ	14.4	32.4	-	(22.0)	ハケメ(6本/cm)・スス付着
20SD001a区中層・下層	第114図	261	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい橙色	ナデ・指オサ工・ハケメ	ナデ・ハケメ	(14.2)	15.4+a	-	-	ハケメ(7本/cm)
20SD001e区P-160	第114図	262	土師器	壺	角閃石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子	灰黄色	灰黄色～灰白色	ヨコナデ・ナデ・ハケメ後ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ	(15.2)	13.2+a	-	-	
20SD001c区上層	第114図	263	土師器	壺	石英・長石・雲母	にぶい橙色	にぶい褐色	ハケメ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	(11.9)	6.3+a	-	-	ハケメ(11本/cm)
20SD001a区下層	第115図	264	土師器	壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	灰白色～明赤褐色	ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ケズリ・指オサ工	ナデ・ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ	13.0	31.0	-	-	
20SD001f区上層	第115図	265	土師器	壺	石英・長石・赤色粒子	淡橙褐色	淡橙褐色	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・指オサ工・斜めハケメ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ナデ・斜めハケメ	(15.0)	29.5	-	-	
20SD001f区上層e区P-183	第115図	266	土師器	壺	白色粒子・赤色粒子	淡黑茶白色	淡黑茶白色	ヨコナデ・ナデ・指オサ工・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ナデ	(16.9)	21.0+a	-	-	部分的スス付着
20SD001e区上層	第115図	267	土師器	甕	角閃石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子	浅黄色	にぶい橙色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	15.5	11.1+a	-	-	
20SD001a区上層・中層	第115図	268	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	灰黄色	にぶい黄橙色	ハケメ・ナデ・指オサ工・ナデ	ハケメ後ナデ・ハケメ	(17.9)	36.8	-	27.3	ハケメ(7本/cm)(8本/cm)頸部突帯
20SD001a区中層・下層	第115図	269	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	20.9	35.3	-	(26.4)	ハケメ(8本/cm)頸部突帯
20SD001e区上層P-160・166f区上層	第116図	270	土師器	壺	石英・長石	淡白茶色	淡白茶色	ナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・指オサ工	(24.0)	41.9	-	-	頸部突帯・口縁部波状文風のハケメ
20SD001d区中層	第116図	271	土師器	壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指オサ工	ナデ・ヨコナデ・ケズメ～斜めハケメ・ミガキ	16.8	38.6	-	-	
20SD001f区上層	第116図	272	土師器	壺	角閃石・長石・雲母・白色粒子・赤色粒子	橙色	にぶい橙色	ハケメ・ハケメ後ナデ	ハケメ	-	34.5+a	-	-	
20SD001f区上層e区下層	第116図	273	土師器	壺	石英・長石・角閃石・赤褐色粒子	橙白色	橙白色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ナデ・ハケメ後ナデ	16.0	34.3	-	-	口縁部3箇所打ち欠き
20SD001f区上層	第116図	274	土師器	壺	石英・雲母・白色粒子・黑色粒子	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ一部・ハケメ痕・ハケメ	(16.2)	8.7+a	-	-	ハケメ(15本/cm)
20SD001f区上層	第116図	275	土師器	壺	石英・赤褐色粒子・白色粒子・黑色粒子	黒褐色～褐色	黒褐色～褐色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	14.6	9.5+a	-	-	ハケメ(8本/cm)(10本/cm)
20SD001b区上層P-172e区	第117図	276	土師器	壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ハケメ後ナデ・ハケメ・指オサ工	ナデ・ハケメ	(18.3)	58.2	-	(34.1)	突帯・ハケメ(6本/cm)(7本/cm)
20SD001f区上層	第117図	277	土師器	甕	角閃石・白色粒子・長石・石英	明赤褐色～灰褐色	赤褐色～灰褐色	ハケメ後ナデ・ハケメ後指オサ工・ハケメ後ケズリ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(13.2)	17.6+a	-	-	
20SD001f区上層	第117図	278	土師器	壺	長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙色～褐灰色	明褐色～にぶい黄褐色	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ後ナデ	15.8	22.6+a	-	-	
20SD001e区上層	第117図	279	土師器	壺	長石・角閃石・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・斜めハケメ・指オサ工	ナデ・縦方向のハケメ・斜めハケメ・ミガキ	16.2	17.7+a	-	-	ハケメ内(4～5本/cm)(8本/cm)外(7本/cm)(8本/cm)・口縁部剥突文か(2箇所)
20SD001f区上層	第117図	280	土師器	壺	石英・長石・雲母・赤色粒子・黑色粒子	茶白色	茶白色	ナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	15.3	13.8+a	-	-	外表面赤色塗彩・同時期(やや古相)のタタキ調整を意識か
20SD001f区上層	第117図	281	土師器	壺	石英・長石・赤褐色粒子	淡橙色	淡橙色	ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・指オサ工	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ?・やや粗なナデ・ハケメ	(18.0)	37.5	-	-	
20SD001f区上層e区上層	第117図	282	土師器	壺				ヨコナデ・斜めハケメ・指オサ工・ナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・縦方向のハケメ・斜めハケメ・ミガキ?	15.6	35.5	-	-	ハケメ(5～6本/cm)(9本/cm)(9～10本/cm)・外表面ス付着
20SD001e区P-133	第118図	283	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ後ナデ・ナデ	ハケメ後ナデ・ハケメ	17.6	33.9	-	27.2	ハケメ(6本/cm)(7本/cm)

第38表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表37

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
20SD001d区中層	第118図	284	土師器	壺	石英・長石・雲母	淡橙白色	淡橙白色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ケズリ後ナデ・指オサエ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	(16.0)	33.9	-	-	外面赤色塗彩か
20SD001e区上層P-136	第118図	285	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい褐色	橙色	ナデ・指オサエ後ハケメ・ケズリ	ナデ・ハケメ	18.2	30.0+a	-	31.5	ハケメ(12本/cm)
20SD001d区中層	第118図	286	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	ハケメ	(17.6)	27.5+a	-	-	ハケメ(10本/cm)
20SD001e区P-124 e区上層 23SD001-0上層	第119図	287	土師器	複合口縁壺	角閃石・赤色粒子・石英・長石・白色粒子	にぶい橙～浅黄色	浅黄色	ヨコナデ・ナデ・ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ(磨滅)・櫛描波状文	20.2	65.7	-	-	黒斑・突帯
20SD001d区上層	第119図	288	土師器	複合口縁壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙白色	橙白色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・櫛描波状文・ハケメ後ヨコナデ	(34.6)	10.2+a	-	-	複合口縁部外面スス付着
20SD001f区上層 23SD001-0中層・上層	第120図	289	土師器	複合口縁壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色～橙色	明赤褐色～浅黃橙色	ヨコナデ・指オサエ・ハケメ・ナデ・ケズリ後ナデ・ミガキ・ケズリ	櫛描波状文・斜めハケメ・ナゼ・縦～斜めハケメ	15.2	44.7	-	-	ハケメ(6本/cm)(7本/cm)・三角突帯
20SD001f区上層	第120図	290	土師器	複合口縁壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色～橙色	ヨコナデ・指オサエ・斜めハケメ・ナデ・横方向のハケメ・ケズリ後ナデ	櫛描波状文・ナデ・縦方向のハケメ・斜めハケメ後ナデ	19.7	38.6+a	-	-	ハケメ(5本/cm)・突帯貼付
20SD001f区上層	第120図	291	土師器	複合口縁壺	石英・長石・赤色粒子	淡茶灰色	淡茶灰色	ナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・指オサエ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・波状文・ハケメ指オサエ	17.7	41.8	-	-	突帯
20SD001P-1d区中層 b区P-24	第120図	292	土師器	複合口縁壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	橙色	ハケメ後ナデ・指オサエ・ナデ・ハケメ・ナデ	ハケメ後ミガキ・ハケメ・櫛描波状文	(14.6)	39.0	-	25.7	ハケメ(7～9本/cm)・突帯
20SD001f区上層	第121図	293	土師器	複合口縁壺	長石・角閃石・赤色粒子	橙色～にぶい橙色	橙色～にぶい橙色	ナデ?・指オサエ?・ケズリ?	ナデ?・指オサエ?・ケズリ?・櫛描波状文	18.2	44.0	-	-	突帯貼付か
20SD001e区P-160	第121図	294	土師器	複合口縁壺	石英・長石・角閃石・白色粒子	橙色～にぶい橙色	黄橙色～にぶい橙色	ナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ?・指オサエ?・横方向のハケメ	櫛描波状文・斜め～縦方向のハケメナデ?・指オサエ・横方向のハケメ後ナデ	16.2	50.0	-	-	ハケメ(10本/cm)・打ち欠き・突帯
20SD001e区上層	第121図	295	土師器	複合口縁壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色～灰白色	ハケメ・ハケメ後ナデ?・指オサエ後ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ・櫛描波状文	16.2	31.2+a	-	-	ハケメ(6～8本/cm)・頸部突帯(一一条)
20SD001d区上層P-74	第121図	296	土師器	複合口縁壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～にぶい黄橙色	橙色～灰白色	ナデ・ハケメ後ヨコナデ?・指オサエ後波状文	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ?・ハケメ後波状文	18.4	21.9+a	-	-	ハケメ(6～8本/cm)・黒斑・貼付突帯
20SD001f区上層P-177	第121図	297	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・白色粒子	灰黄色	灰黄色	横方向のハケメ	ハケメ・櫛描波状文	18.6	12.9+a	-	-	ハケメ口縁部(7本/cm)体部(12本/cm)・頸部突帯貼付
20SD001e区上層	第121図	298	土師器	複合口縁壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰色	橙色	ナデ・ハケメ後ナデ?・ハケメ後ミガキ・指オサエ	ナデ・工具ナデ・ハケメ後ナデ?・ハケメ後ミガキ・指オサエ	13.7	18.5+a	-	-	ハケメ内(6～7本/cm)・突帯
20SD001f区上層	第122図	299	土師器	複合口縁壺	長石・角閃石・白色粒子・石粒子	浅黄橙色～明褐灰色	橙色	ナデ・ヨコナデ?・ミガキ?・ケズリ後ナデ?・指オサエ	ナデ?・ミガキ?・ケズリ後丁寧なナデ(ミガキ?)・櫛描波状文	13.4	33.7	-	-	黒変
20SD001f区上層P-195	第122図	300	土師器	複合口縁壺	石英・長石・赤褐色粒子	淡白茶色	淡白茶色	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後部分的にナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(18.4)	30.2+a	-	-	
20SD001e区上層	第122図	301	土師器	複合口縁壺	石英・長石・赤色粒子	白茶色	橙色	ハケメ・ナデ・ハケメ後丁寧なナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	16.8	34.8+a	-	-	
20SD001e区上層P-83 d区上層	第122図	302	土師器	複合口縁壺	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子			ヨコナデ・横方向のハケメ・ナデ・横～斜めハケメ・指オサエ	ヨコナデ・斜めハケメ・ナデ	-	52.5+a	-	-	ハケメ(4本/cm)(5本/cm)(7本/cm)(8本/cm)・外面スス付着
20SD001f区P-199	第123図	303	土師器	複合口縁壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・指オサエ?・ケズリ?	ナデ・ハケメ	12.1	25.9	-	20.5	ハケメ(6本/cm)
20SD001a区中層	第123図	304	土師器	複合口縁壺	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	橙色	ナデ・指オサエ後ナデ?・工具ナデ?・ケズリ?	ナデ・ハケメ	-	32.8+a	-	28.5	ハケメ(9本/cm)
20SD001試掘2トレンド	第123図	305	土師器	複合口縁壺	石英・長石・角閃石			ヨコナデ・横方向のケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(14.5)	16.3+a	-	-	
20SD001e区上層P-96	第123図	306	土師器	複合口縁壺	石英・長石・雲母・角閃石			ヨコナデ・横方向のケズリ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	(20.4)	48.2+a	-	-	
20SD001d区中層	第123図	307	土師器	二重口縁壺か	石英・雲母・角閃石・白色粒子	明黄褐色	明黄褐色	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・口縁上半ヨコナデ・下半ハケメ	15.1	8.1+a	-	-	ハケメ(10本/cm)(13本/cm)・黒斑
20SD001f区上層	第123図	308	土師器	二重口縁壺か	石英・雲母・角閃石・白色粒子	明赤褐色～淡赤橙色	明赤褐色～淡赤橙色	ハケメ後ヨコナデ	上半斜めハケメ・中位ヨコナデ・下半縦方向のハケメ	20.2	9.3+a	-	-	ハケメ(11本/cm)・黒斑
20SD001c区P-55	第124図	309	土師器	小形二重口縁壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	明赤褐色	ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ後ミガキ	10.0	9.8	-	-	ハケメ(8本/cm)・赤色塗彩

第39表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表38

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
20SD001 d区上層・ 中層 d区下層 P-91	第124図	310	土師器	二重口縁壺	石英・角閃石・赤色粒子	浅黄橙色～明黃褐色	明黄褐色	ナデ・ケズリ後ナデ・指オサエ	ナデ・斜めハケメ後ヨコナデ・ミガキ	(18.8)	32.8	-	-	黒変あり・突帯
20SD001 f区上層 P-182・195	第124図	311	土師器	二重口縁壺	石英・長石・黒色粒子・赤褐色粒子	淡橙茶色	淡橙茶色	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ハケメ後ケズリ?	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ・ハケメ後ナデ	(21.4)	30.9+a	-	-	畿内系か
20SD001 e区上層	第124図	312	土師器	二重口縁壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色～橙色	浅黄橙色～橙色	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ後ミガキ・ケズリ後ミガキ・指オサエ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ後ミガキ・指オサエ	16.6	21.3+a	-	-	口縁部4箇所打ち欠き
20SD001 d区中層・ 上層 P-64	第124図	313	土師器	二重口縁壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ハケメ・ハケメ後ミガキ・ミガキ・ケズリ後ミガキ・指オサエ	ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・指オサエ	-	32.7+a	-	-	ハケメ(6~8本/cm)(8~13本/cm)・黒変・打ち欠き
20SD001 d区上層 P-204	第124図	314	土師器	二重口縁壺	角閃石・長石・白色粒子・赤色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色～明赤褐色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	18.3	12.5+a	-	-	
20SD001 d区P-26	第124図	315	土師器	二重口縁壺	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・指オサエ・ハケメ	ハケメ後ナデ	(18.0)	15.9+a	-	-	ハケメ(5本/cm)
20SD001 b区上層・ 中層 P-39	第124図	316	土師器	二重口縁壺 口縁部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ミガキ	19.4	6.8+a	-	-	
20SD001 e区上層	第124図	317	土師器	二重口縁壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	浅黄橙色	ナデ後ミガキ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ナデ後ミガキ・指オサエ後ナデ	ナデ後ミガキ・ハケメ後ナデ後ミガキ・指オサエ後ナデ	-	23.4+a	-	20.6	ハケメ(6~8本/cm)・接合痕
20SD001 f区上層 P-203・204	第125図	318	弥生土器	複合口縁壺	石英・長石・赤色粒子・角閃石	淡橙茶色	淡橙茶色	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ナデ・ハケメ後ナデ	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(19.8)	27.4+a	-	-	突帯・外面赤色塗彩
20SD001 c区上層	第125図	319	弥生土器	長頸壺	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙色	赤色	ナデ	ハケメ後ミガキ	-	12.0+a	-	-	M字形貼付突帯
20SD001 c区下層	第125図	320	弥生土器	大壺底部	石英・長石・角閃石・赤色粒子	灰白色	にぶい橙色	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサエ	-	11.0+a	9.7	-	
20SD001 c区P-46・47	第126図	321	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ミガキ・ケズリ	ナデ・ハケメ後ミガキ	16.3	28.3	-	20.6	ハケメ(5本/cm)
20SD001 f区上層	第126図	322	土師器	甕	石英・長石・赤褐色粒子・角閃石			ナデ・ヨコナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ナデ後ハケメ	(21.8)	34.4	-	25.0	胸部中央スス付着
20SD001 f区上層	第126図	323	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	赤褐色～黒色	明赤褐色～にぶい褐色	指頭痕・ケズリ後粗ミガキ	ナデ・ハケメ後ミガキ	21.8	35.6	-	26.2	ハケメ(4~6本/cm)(8~10本/cm)(9~12cm)・一部黒変
20SD001 b区上層 P-10	第126図	324	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色～褐灰色	工具ナデ・ナデ後ハケメ・ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・タタキ後ハケメ・タタキ後ナデ	(18.8)	29.5+a	-	22.6	ハケメ(9~10本/cm)・スス付着
20SD001 a区上層	第126図	325	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ハケメ後ナデ・ナデ・指オサエ・ナデ	ハケメ・ナデ	(16.8)	28.3	-	21.5	ハケメ(6本/cm)
20SD001 b区中層 P-37・38・39	第126図	326	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	暗褐色	黒褐色	ナデ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ	18.6	28.5	-	21.9	ハケメ(7本/cm)・スス付着
20SD001 e区上層・ 下層	第127図	327	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	18.6	28.9	-	23.0	ハケメ(7~11本/cm)・黒斑
20SD001 e区P-241	第127図	328	土師器	甕	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ後ミガキ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ	29.8	17.8	-	23.8	ハケメ(12本/cm)
20SD001 f区上層 P-205	第127図	329	土師器	甕	石英・長石・赤色粒子	白橙色	白橙色	ヨコナデ・ナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ後ハケメ・ハケメ	21.2	28.9+a	-	26.4	内外面スス付着
20SD001 d区中層・ 下層	第127図	330	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色～明赤褐色	橙色～浅黄橙色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ナデ・ケズリ	(17.9)	28.3+a	-	20.0	黒斑
20SD001 f区下層	第127図	331	土師器	甕	石英・長石・黒色粒子	白茶色	白茶色	ヨコナデ・指頭痕・ナデ	ヨコナデ・ナデ	19.7	18.2+a	-	-	
20SD001 d区上層・ 下層	第127図	332	土師器	甕	石英・長石・赤色粒子・黒色粒子・灰色粒子	橙白色	橙白色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ	(23.9)	17.4+a	-	-	
20SD001 f区上層	第128図	333	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～灰褐色	明赤褐色～にぶい橙色	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ケズリ後ミガキ・指オサエ後ナデ	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(18.3)	30.8+a	-	20.9	ハケメ(5~7本/cm)(10~12本/cm)・内面黒変
20SD001 f区上層 P-181・189	第128図	334	土師器	甕	石英・長石・赤色粒子	白茶色	白茶色	ヨコナデ・ナデ・ハケメ後ケズリ風	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	21.2	35.8	-	24.2	内外面スス付着
20SD001 f区上層	第128図	335	土師器	甕	石英・長石・雲母・赤色粒子	白橙色	白橙色	ヨコナデ・ナデ(一部ケズリ風)・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	21.3	36.2+a	-	25.8	内外面スス付着
20SD001 e区P-238	第128図	336	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	黄橙色	橙色	ナデ・ハケメ後ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ	(19.0)	30.6	-	22.9	ハケメ(6本/cm)・スス付着
20SD001 e区上層	第128図	337	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色～明赤褐色	橙色～にぶい橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(18.0)	29.2	-	23.2	ハケメ(10~13本/cm)・スス付着・赤変

第40表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表39

遺構名	捲番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大腹部径/重さ	
20SD001 b区P-18	第128図	338	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	褐灰色	ハケメ後ナデ・指オサエ・ケズリ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	(19.5)	18.1+a	-	(21.2)	ハケメ(8本/cm)
20SD001 f区上層 P-200	第129図	339	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ後ナデ	ナデ・ハケメ	15.3	28.9+a	-	21.1	ハケメ(5本/cm)
20SD001 e区上層 P-93	第129図	340	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰黄色	にぶい橙色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ミガキ	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(15.7)	28.4	-	22.0	ハケメ(9~11本/cm)・スス付着
20SD001 a区中層	第129図	341	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい褐色	橙色	ハケメ後ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ	19.2	30.3	-	24.2	ハケメ(9本/cm)
20SD001 f区上層	第129図	342	土師器	甕	石英・長石・雲母・赤色粒子	白橙色	白橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	(15.3)	28.4+a	-	19.8	胴部中位スス付着
20SD001 e区上層 P-242	第129図	343	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色~褐灰色	にぶい橙色	ハケメ後ナデ・ハケメ後ミガキ・ハケメ後ヨコナデ	ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	18.3	31.5	-	23.6	ハケメ(6~8本/cm)・黒斑
20SD001 d区P-63	第129図	344	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・指オサエ・ハケメ後ミガキ・ハケメ後ヨコナデ	ナデ・ハケメ	15.9	28.9	-	22.1	ハケメ(6本/cm)
20SD001 f区上層	第130図	345	土師器	甕	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰白色~黒褐色	明赤褐色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ後ナデ・ミガキ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	16.8	32.6	-	21.6	ハケメ外(7本/cm)
20SD001 f区P-230	第130図	346	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ後ミガキ	ナデ・ハケメ	16.2	34.2	-	22.7	ハケメ(7本/cm)
20SD001 f区P-251	第130図	347	土師器	甕	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	橙色	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	16.0	29.7	-	20.7	ハケメ(9本/cm)・スス付着
20SD001 f区上層 P-185	第130図	348	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰白色~灰褐色	橙色~浅黃橙色	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ケズリ後ミガキ・指オサエ後ナデ	ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ	(16.4)	29.4	-	20.2	ハケメ(6~8本/cm)・黒変
20SD001 f区上層	第130図	349	土師器	甕	石英・長石・雲母・赤色粒子	白橙色	白橙色	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	18.4	28.0+a	-	24.0	胴部下半スス付着
20SD001 e区上層 P-139	第131図	350	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	淡橙色	浅黃橙色	ヨコナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	(18.7)	29.1	-	23.6	ハケメ(不明瞭)・黒斑
20SD001 f区上層	第131図	351	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	淡黄色	ハケメ・ハケメ後ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	20.9	32.6	-	26.6	ハケメ(7本/cm)(10~12本/cm)
20SD001 a区上層	第131図	352	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ハケメ後ナデ	ナデ・ハケメ	17.0	25.0+a	-	(21.5)	ハケメ(6本/cm)・スス付着
20SD001 c区上層	第131図	353	土師器	甕	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・指オサエ・ハケメ・ケズリ後ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	18.6	25.0+a	-	23.7	ハケメ(9本/cm)
20SD001 d区上層・中層	第131図	354	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ケズリ後ミガキ?	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	19.6	26.0+a	-	23.8	ハケメ(7~12本/cm)
20SD001 e区上層 P-168	第131図	355	土師器	甕	石英・長石	白茶色	白茶色	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(18.8)	24.2+a	-	25.4	外面スス付着
20SD001 e区上層	第132図	356	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・黑色粒子	明赤褐色~橙色	橙色~灰白色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(20.0)	20.8+a	-	-	ハケメ(7~12本/cm)・黒斑・スス付着
20SD001 f区上層	第132図	357	土師器	甕	角閃石・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色~橙色	にぶい黄橙色~にぶい橙色	ヨコナデ・ハケメミガキ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(16.9)	19.1+a	-	-	スス付着
20SD001 d区上層 P-78 d区中層	第132図	358	土師器	甕	長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(19.5)	29.6	-	25.2	ハケメ(9~11本/cm)・黒斑
20SD001 f区上層	第132図	359	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黃橙色	黃橙色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	19.6	28.8	-	25.7	ハケメ(9本/cm)・口縁底部黒変
20SD001 e区上層 P-96	第132図	360	土師器	甕	角閃石・白色粒子・石英・赤色粒子	赤褐色~褐灰色	にぶい黄橙色~黒色	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(19.1)	35.2+a	-	28.1	黒斑・スス付着
20SD001 f区上層 P-195・196	第132図	361	土師器	甕	石英・白色粒子・灰色粒子	橙色	浅黃橙色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ	26.0	34.5	-	29.6	ハケメ(3本/cm)(5本/cm)
20SD001 d区上層 P-88	第133図	362	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色~にぶい赤褐色	にぶい橙色	ハケメ後ヨコナデ・ミガキ	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	18.5	28.5+a	-	23.0	ハケメ(7~8本/cm)・黒斑・スス付着
20SD001 f区上層	第133図	363	土師器	甕	石英・長石・赤色粒子・角閃石	淡橙色	淡橙色	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	17.7	20.9+a	-	24.4	体部中位~下位スス付着
20SD001 f区上層	第133図	364	土師器	甕	白色粒子・角閃石・雲母・長石	橙色	橙色~黒色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(19.8)	18.4+a	-	-	黒斑
20SD001 b区P-24	第133図	365	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい褐色	ナデ・ヘラによるナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ	(15.1)	14.0+a	-	-	ハケメ(9本/cm)
20SD001 d区上層	第133図	366	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい橙色~橙色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	17.1	18.7+a	-	-	ハケメ(9~12本/cm)・黒斑
20SD001 c区中層	第134図	367	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	橙色	ヨコナデ・指オサエ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ナデ	(21.0)	11.8+a	-	-	突帶貼付

第41表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表40

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ		
20SD001d区中層	第134図	368	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～浅黃橙色	橙色～浅黃橙色	ナデ後ミガキ・ミガキ	ヨコナデ・ヨコナデ後ミガキ・ミガキ	(22.4)	18.9+a	-	-	突帯貼付	
20SD001f区上層	第134図	369	土師器	甕	石英・長石・雲母・黑色粒子	白茶色	白茶色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	22.5	27.7+a	-	-	突帯貼付	
20SD001d区上層 中層・下層 P-91	第134図	370	土師器	甕	石英・長石・角閃石・白色粒子	浅黃橙色～橙色	浅黃橙色～橙色	ナデ	ナデ?	21.2	21.3+a	-	-	突帯貼付	
20SD001f区上層	第134図	371	土師器	甕	石英・長石・赤褐色粒子・黑色粒子	白茶色	白茶色	ヨコナデ・ナデ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ・ハケメ後ナデ	24.3	36.6	-	-	突帯貼付・外面スス付着	
20SD001f区上層	第134図	372	土師器	甕	長石・角閃石・白色粒子	浅黃橙色～明褐灰色～橙色	浅黃橙色～に含む橙色	ハケメ後ナデ・ナデ・ハケメ後ミガキ・ナデ後ミガキ	ハケメ	24.6	41.9	-	-	ハケメ(5本/cm)5～6本/cm(7本/cm)(11～12本/cm)・外面スス付着・突帯貼付	
20SD001e区P-254	第134図	373	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ハケメ・ミガキ	ハケメ後ナデ・ハケメ・ナデ	24.2	37.6	-	-	ハケメ(6～9本/cm)・突帯貼付	
20SD001e区上層	第134図	374	土師器	甕	角閃石・石英・長石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄色	にぶい黄橙色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ヨコナデ	(16.2)	11.5+a	-	-	全般的に磨耗の為調整不明瞭	
20SD001c区中層 P-48-49	第134図	375	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ・指オサエ・ケズリ・ハケメ	タタキ・ハケメ	(23.6)	25.3	-	25.6	ハケメ(5～10本/cm)	
20SD001a区中層	第134図	376	土師器	山陰系甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・指オサエ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ	24.5	34.3	-	31.6	ハケメ(8本/cm)	
20SD001f区上層	第135図	377	土師器	甕	角閃石・雲母・長石・白色粒子・赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ハケメ後ナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	(16.8)	13.0+a	-	19.0		
20SD001f区上層	第135図	378	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黃橙色	灰白色～赤色	ハケメ後ナデ・ケズリ後ミガキ・指頭痕	ナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	18.3	27.8	-	21.2	ハケメ(10～12本/cm)・外面黒変	
20SD001d区P-70	第135図	379	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	褐灰色	橙色	ナデ・ハケメ後ミガキ・ケズリ後ミガキ	ナデ・ハケメ(摩耗により不明瞭)	15.4	27.8	-	21.3	ハケメ(6本/cm)	
20SD001a区上層	第135図	380	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ・ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ	(15.8)	25.1	-	19.4	ハケメ(7本/cm)	
20SD001c区P-42	第135図	381	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ	15.0	27.4	-	(19.6)	ハケメ(4本/cm)	
20SD001f区上層	第135図	382	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色～明褐灰色	ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後指オサエ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	17.8	27.6	-	21.1	ハケメ内(5～6本/cm)外(5～6本/cm)口縁部(9～10本/cm)	
20SD001e区上層	第135図	383	土師器	甕	角閃石・石英・白色粒子・赤色粒子・雲母	にぶい黄橙色	明赤褐色～褐灰色	ハケメ後ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(14.8)	21.4+a	-	-	黒斑	
20SD001f区上層	第135図	384	土師器	甕	角閃石・長石・赤色粒子・石英・白色粒子	明赤褐色	橙色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	(13.8)	18.5+a	-	-		
20SD001f区上層	第135図	385	土師器	甕	長石・角閃石・白色粒子・赤色粒子	灰黃褐色	灰黃褐色～にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	16.8	12.4+a	-	-		
20SD001e区上層	第135図	386	土師器	甕	角閃石・石英・長石・白色粒子・赤色粒子	明赤褐色	橙色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(16.4)	19.4+a	-	-		
20SD001f区上層	第135図	387	土師器	甕	角閃石・石英・赤色粒子	橙色	橙色～にぶい黄橙色	ヨコナデ・ナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(18.4)	16.7+a	-	-	黒斑	
20SD001f区上層	第135図	388	土師器	甕	石英・長石・赤色粒子	淡橙色	淡橙色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ・ハケメ後ナデ	17.0	22.6+a	-	21.9	外面スス付着	
20SD001f区上層 P-237	第136図	389	土師器	甕	石英・長石・赤色粒子	淡橙色	淡橙色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	16.8	22.0+a	-	20.9	外面スス付着	
20SD001c区上層	第136図	390	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	黃灰色	にぶい橙色	ナデ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ	(16.0)	10.0+a	-	-	ハケメ(9本/cm)	
20SD001c区中層	第136図	391	土師器	甕	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・指オサエ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ	(16.2)	10.5+a	-	-	ハケメ(4本/cm)	
20SD001b区上層	第136図	392	土師器	甕	長石・角閃石・赤色粒子	灰黃褐色	黑褐色	ナデ・ミガキ・ケズリ	ナデ・ハケメ	(17.1)	7.5+a	-	-	ハケメ(7本/cm)	
20SD001f区上層	第136図	393	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐色～褐色	にぶい褐色～褐色	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ミガキ・指オサエ後ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	17.0	26.3	-	19.3	ハケメ内(7～12本/cm)外(9～12本/cm)・黒変	
20SD001a区中層	第136図	394	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	灰黄色	灰黄色	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・指オサエ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ・ハケメ	16.7	23.2	-	18.0	ハケメ(6本/cm)	
20SD001b区P-23	第136図	395	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	黒褐色	橙色	ナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ	15.3	24.9	-	19.6	ハケメ(6本/cm)・スス付着	
20SD001f区上層	第136図	396	土師器	甕		明赤褐色～赤褐色	橙色～灰白色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(18.3)	21.7	-	-	ハケメ外(12本/cm)・外面黒変	
20SD001b区P-25	第136図	397	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	明赤褐色	ハケメ・指オサエ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ	(16.0)	25.7	-	20.2	ハケメ(6本/cm)	
20SD001f区上層	第136図	398	土師器	甕	角閃石・石英・長石・白色粒子	明赤褐色	橙色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	(17.0)	20.0+a	-	-		
20SD001e区上層	第136図	399	土師器	甕	角閃石・白色粒子・赤色粒子	角閃石・長石・石英・赤色粒子	灰黃褐色	明黄褐色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	18.3	14.5+a	-	-	

第42表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表41

遺構名	捲番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	
20SD001f区上層	第136図	400	土師器	甕	角閃石・白色粒子・赤色粒子・石英	明褐色	明褐色～明黃褐色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	16.4	11.1+a	-	-
20SD001b区中層	第136図	401	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・指オサエ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ナデ	(15.6)	14.3+a	-	(18.2)
20SD0012区上層	第136図	402	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ	ハケメ後ナデ・ハケメ	(16.1)	10.9+a	-	- ハケメ(7本/cm)
20SD001d区上層P-79-84上層・中層	第137図	403	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色～褐灰色	橙色～浅黃橙色	ヨコナデ後ハケメ後ミガキ・ハケメ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	(17.2)	26.3	-	19.5 ハケメ(8～9本/cm)・黒斑
20SD001a区上層	第137図	404	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	灰黄褐色	ハケメ後ナデ・ハケメ・指オサエ・ケズリ	ナデ・ハケメ	(14.2)	22.4+a	-	(17.9) ハケメ(8本/cm)
20SD001e区P-118	第137図	405	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	(16.1)	26.2	-	20.4 ハケメ(6～7本/cm)・黒斑・スス付着
20SD001a区中層	第137図	406	土師器	甕	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい橙色	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	(14.9)	14.8+a	-	- ハケメ(5本/cm)
20SD001f区上層	第137図	407	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	淡橙茶色	淡橙茶色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	18.6	20.1+a	-	- 外面脇部スス付着
20SD001e区上層	第137図	408	土師器	甕	角閃石・白色粒子・長石・赤色粒子	橙色～灰白色	橙色～灰白色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(17.7)	17.2+a	-	-
20SD001c区上層	第137図	409	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	褐灰色	橙色	ナデ・ハケメ後ミガキ	ナデ・ハケメ	(19.2)	8.9+a	-	- ハケメ(8本/cm)
20SD001d区上層	第137図	410	土師器	甕	角閃石・石英・長石・赤色粒子・白色粒子	明褐色	にぶい黄橙色	ハケメ・ナデ後指オサエ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	18.8	12.7+a	-	-
20SD001d区上層・中層	第137図	411	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色～橙色	浅黄橙色～橙色～明赤褐色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ後ナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ	16.6	18.1+a	-	20.0 ハケメ内(7本/cm)外(8本/cm)
20SD001d区上層P-79-88	第137図	412	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	橙色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	16.9	26.7	-	21.0 ハケメ(8～9本/cm)・黒斑
20SD001f区上層	第137図	413	土師器	甕	石英・長石・角閃石	白茶色	白茶色	ハケメ・ナデ・工具ナデ後ハケメ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	18.6	20.4+a	-	21.0 内外面スス付着
20SD001f区上層	第137図	414	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色～黒色	明赤褐色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ケズリ後ミガキ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ・指オサエ後ナデ	15.0	22.4+a	-	20.8
20SD001e区上層P-183 20SE001上層	第137図	415	土師器	甕	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色～灰白色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	19.1	18.0+a	-	- ハケメ(6～8本/cm)
20SD001	第138図	416	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ	14.4	23.8	-	(19.3) ハケメ(8本/cm)
20SD001b区上層	第138図	417	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい橙色	ナデ	ナデ・ハケメ	(17.2)	23.1+a	-	(21.2) ハケメ(8本/cm)
20SD001b区P-14	第138図	418	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ・ミガキ・ケズリ後ミガキ	ナデ・ハケメ	17.7	26.7	-	21.6 ハケメ(10本/cm)
20SD001e区上層P-110	第138図	419	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色～灰白色	ケズリ後ミガキ	ハケメ	17.2	27.3	-	- ハケメ(6～7本/cm)・黒斑・スス付着
20SD001d区P-82	第138図	420	土師器	甕	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	橙色	ナデ・ケズリ後ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	16.2	26.3	-	21.2 ハケメ(8本/cm)
20SD001f区上層	第138図	421	土師器	甕	石英・長石・赤色粒子・角閃石	淡白茶色	淡白茶色	ケズリ後ナデ・ヨコナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	(18.6)	27.3	-	23.0 内外面スス付着
20SD001e区上層P-122	第138図	422	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	明赤褐色～灰白色	橙色～明赤褐色	ヨコナデ・ハケメ後ケズリ・ケズリ後ナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ・ケズリ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	14.1	22.4	-	18.6 ハケメ(7～9本/cm)・黒斑・スス付着
20SD001d区中層	第138図	423	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	明褐灰色～淡橙色	明褐灰色～橙色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ	14.6	21.3	-	19.2 ハケメ(7～8本/cm)・黒斑
20SD001c区P-57 c区上層	第138図	424	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい褐色	にぶい橙色	ハケメ後ナデ・ハケメ	ハケメ後ナデ・ハケメ	18.6	27.2	-	(24.7) ハケメ(7本/cm)
20SD001f区上層	第139図	425	土師器	甕	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	(17.8)	22.5+a	-	20.2 ハケメ(9本/cm)・外面スス付着
20SD001f区上層P-208	第139図	426	土師器	甕	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい橙色	ハケメ後ナデ・ハケメ後指オサエ・ナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	(17.8)	19.6+a	-	-
20SD001f区上層	第139図	427	土師器	甕	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	18.6	20.8+a	-	23.5
20SD001e区上層	第139図	428	土師器	甕	角閃石・白色粒子・石英・長石	橙色	橙色	ヨコナデ・指オサエ・ハケメ後ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(19.8)	13.5+a	-	-
20SD001b区上層	第139図	429	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(17.9)	7.7+a	-	-
20SD001f区上層	第139図	430	土師器	甕	角閃石・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい橙色	ナデ・ハケメ後ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ	(18.4)	13.9+a	-	- 穿孔あり

第43表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表42

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大肩部径/重さ	
20SD001f区上層	第139図	431	土師器	甕	石英・長石・赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ヨコナデ・ナデ・ハケメ後ミガキ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ	18.9	20.2+a	-	24.1	
20SD001e区上層	第139図	432	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石	白茶色	白茶色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	19.0	16.3+a	-	-	
20SD001f区上層	第139図	433	土師器	甕	角閃石・雲母・長石・石英・白色粒子・赤色粒子	灰褐色～橙色	橙色	ハケメ後ナデ・ナデ・ハケメ後ミガキ・指オサエ・ナデ	ハケメ・ハケメ後ナデ	(16.8)	22.1+a	-	-	黒斑
20SD001a区	第139図	434	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	明褐色	橙色	ナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ミガキ・ケズリ後ミガキ	ナデ・ハケメ後ナデ	(17.8)	26.3	-	22.8	ハケメ(6本/cm)
20SD001f区P-234	第139図	435	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ・ケズリ後ナデ	15.7	24.4	-	19.8	ハケメ(7本/cm)・スス付着
20SD001b区P-2	第140図	436	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	赤褐色	赤褐色	ナデ・指オサエ後ナデ・ケズリ後ナデ	ナデ	(13.9)	25.3	-	20.4	
20SD001f区P-209	第140図	437	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケメ	17.1	27.1	-	22.3	ハケメ(8本/cm)
20SD001f区P-101	第140図	438	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ・指オサエ	ナデ・ハケメ後ナデ	(15.8)	25.0	-	29.0	ハケメ(6本/cm)
20SD001d区上層c区P-52c区上層	第140図	439	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色～橙色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ケズリ後ミガキ	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	17.8	24.9+a	-	22.3	ハケメ(8～10本/cm)・黒斑
20SD001a区中層	第140図	440	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ	18.3	27.4	-	23.3	ハケメ(6本/cm)
20SD001f区上層P-198	第140図	441	土師器	甕	石英・長石・角閃石	茶灰色	茶灰色	ナデ・ヨコナデ・ナデ・ヨコナデ・ケズリ・工具痕	ヨコナデ・ナデ後ハケメ	(16.0)	21.1+a	-	20.8	外面スス付着
20SD001e区上層P-100	第140図	442	土師器	甕	長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙色	浅黄橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	16.7	14.5+a	-	-	ハケメ内(5～6本/cm)・内外面黒変
20SD001d区P-65	第140図	443	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ・指オサエ	ナデ・ハケメ・ミガキ	(24.4)	13.8	-	19.7	ハケメ(10本/cm)
20SD001e区P-247	第140図	444	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ	ナデ・ケズリ・指オサエ	(14.8)	24.1	-	(20.4)	ハケメ(7本/cm)・スス付着
20SD001f区上層	第140図	445	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰白色～橙色	灰白色～橙色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指オサエ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	18.4	25.3	-	21.4	ハケメ外(5～7本/cm)・一部黒変
20SD001e区上層	第141図	446	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色～浅黄橙色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	16.4	23.9	-	21.2	ハケメ(5～6本/cm)・黒斑・スス付着
20SD001d区上層P-85	第141図	447	土師器	甕	雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	暗灰黄色	浅黄橙色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ?・指頭痕	ハケメ後ナデ?・ハケメ後ヨコナデ?	(17.0)	25.4	-	22.6	ハケメ(11～12本/cm)・黒斑
20SD001a区中層	第141図	448	土師器	甕	石英・長石・雲母・赤色粒子	灰白色	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ	16.4	25.4+a	-	(22.4)	ハケメ(7本/cm)・スス付着
20SD001e区上層	第141図	449	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色～にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ナデ・ヨコナデ・ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ・ケズリ	(14.2)	20.2+a	-	17.4	ハケメ(8～9本/cm)・スス付着
20SD001e区上層	第141図	450	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	14.2	22.3	-	20.8	ハケメ(6～8本/cm)スス付着
20SD001試掘2トレント	第141図	451	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色～灰褐色	にぶい黄橙色～灰褐色	ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ・ケズリ後ナデ・指オサエ後ハケメ	ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ・ケズリ後ミガキ・指オサエ後ミガキ	(14.9)	24.2	-	21.3	ハケメ内(5～7本/cm)外(4～9本/cm)・底部黒変
20SD001c区上層	第141図	452	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ハケメ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ	15.8	23.9	-	(21.4)	ハケメ(7本/cm)
20SD001試掘2トレント	第141図	453	土師器	甕	石英・長石・雲母・赤色粒子	暗白茶色	暗白茶色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ケズリ後ナデ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(17.2)	22.8	-	21.2	単位不明瞭
20SD001e区上層P-145	第142図	454	土師器	甕	雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰黄色	橙色	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ?	ハケメ後ナデ?・ハケメ後ヨコナデ	17.4	25.7+a	-	21.8	ハケメ(7～9本/cm)
20SD001d区上層・中層P-84	第142図	455	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明褐色～黒色	橙色	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ?	ハケメ後ナデ?・ハケメ後ヨコナデ	(18.5)	27.8	-	23.0	ハケメ外(6本/cm)
20SD001a区上層	第142図	456	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・指オサエ・ミガキ	ナデ・ハケメ	(17.0)	25.8+a	-	(21.6)	ハケメ(9本/cm)・底部穿孔か?
20SD001e区P-115-145	第142図	457	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ	18.6	26.1	-	22.0	ハケメ(10～12本/cm)・黒斑
20SD001a区中層	第142図	458	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ後ナデ	(15.8)	20.4	-	18.6	ハケメ(12本/cm)
20SD001d区上層	第142図	459	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ	16.8	25.3	-	22.3	ハケメ(6本/cm)・黒斑・スス付着
20SD001d区中層	第142図	460	土師器	甕	石英・長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色～褐灰色	ヨコナデ・ケズリ・指オサエ後ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	17.1	24.4+a	-	22.0	
20SD001f区上層	第142図	461	土師器	甕	白色粒子・角閃石・石英・長石・赤色粒子	にぶい黄橙～灰黃褐色	にぶい黄橙～明赤褐色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後指オサエ・ケズリ	ヨコナデ・指オサエ・ハケメ	16.9	22.9+a	-	22.0	

第44表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表43

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大腹部径/重さ	
20SD001e区P-172	第143図	462	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	灰色	浅黄橙色	ナデ・ケズリ後ナデ・ハケメ・指オサエ	ナデ・ハケメ	(14.6)	22.1	-	20.4	ハケメ(6本/cm)
20SD001d区上層P-66	第143図	463	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	橙色～浅黄橙色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ	16.8	22.3	-	21.2	ハケメ(7～8本/cm)・スス付着
20SD001f区P-197	第143図	464	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ハケメ	ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ・指オサエ	15.8	24.1	-	22.0	ハケメ(5本/cm)・スス付着
20SD001b区P-10	第143図	465	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色～橙色	黒褐色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ	(14.4)	20.4+a	-	19.0	黒斑・スス付着
20SD001b区e区上層	第143図	466	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ナデ・ナデ後ミニガキ・ハケメ後ミニガキ・ケズリ後ミニガキ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	16.9	22.8	-	20.4	一部黒変
20SD001b区上層	第143図	467	土師器	甕	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ナデ後ミニガキ・ケズリ後ミニガキ	ハケメ後ナデ・ハケメ	18.2	18.1+a	-	(24.2)	ハケメ(9本/cm)
20SD001b区P-7	第143図	468	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	灰黄褐色	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ後ナデ(摩耗により不明瞭)	(16.6)	20.3+a	-	(23.6)	ハケメ(4本/cm)
20SD001e区上層	第143図	469	土師器	甕	角閃石・白色粒子・雲母・赤色粒子	明赤褐色	橙色	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ハケメ後ヨコナデ・ナデ・ハケメ後ナデ	(20.2)	18.9+a	-	-	
20SD001a区中層	第144図	470	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	褐色	褐色	ハケメ	ナデ・ハケメ	(13.3)	6.6+a	-	-	ハケメ(9～10本/cm)
20SD001c区中層	第144図	471	土師器	甕	長石・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	橙色	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	(16.2)	8.2+a	-	-	ハケメ(5本/cm)
20SD001f区上層	第144図	472	土師器	甕	角閃石・雲母・石英・赤色粒子・白色粒子	灰白色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ後ナデ	17.1	14.1+a	-	-	
20SD001e区上層	第144図	473	土師器	甕	石英・長石・赤色粒子・角閃石	白茶色	白茶色	ヨコナデ・ナデ・ケズリ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ナデ(一部ハケメ)	(16.0)	20.7+a	-	22.0	体部下位スス付着?
20SD001e区P-136	第144図	474	土師器	甕	角閃石・白色粒子・赤色粒子・石英・長石	にぶい赤褐色	にぶい黄橙色～褐灰色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	16.6	20.2+a	-	-	黒斑
20SD001e区上層	第144図	475	土師器	甕	角閃石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ナデ・ハケメ	(14.2)	19.8+a	-	-	黒斑
20SD001f区上層	第144図	476	土師器	甕	白色粒子・赤色粒子・角閃石	赤褐色	赤褐色～褐灰色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ケズリ・ケズリ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	(15.2)	18.1+a	-	-	
20SD001a区中層	第144図	477	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ・ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ	(15.6)	21.6+a	-	-	ハケメ(9本/cm)
20SD001b区上層P-17	第144図	478	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	灰白色	にぶい橙色	指オサエ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ナデ・ハケメ	(15.6)	14.3+a	-	-	ハケメ(13本/cm)
20SD001a区上層	第144図	479	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい橙色～にぶい褐色	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ後一部ナデ・ハケメ後ナデ・ヨコナデ	(17.6)	18.0+a	-	26.7	ハケメ(4～13本/cm)黒斑・スス付着
20SD001a区上層	第144図	480	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色～黒褐色	にぶい橙色～灰黃褐色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	(16.4)	21.0+a	-	-	ハケメ(10～11本/cm)黒斑・スス付着
20SD001a区	第145図	481	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	橙色	ハケメ・指オサエ・ナデ・ケズリ後ハケメ	ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ハケメ	15.4	20.0+a	-	-	ハケメ(9本/cm)
20SD001d区上層c区P-33	第145図	482	土師器	甕	雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	17.7	19.7+a	-	-	ハケメ(5～12本/cm)
20SD001e区上層P-220	第145図	483	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙色	灰黄褐色	ヨコナデ・ケズリ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(16.8)	17.0+a	-	-	ハケメ(6～7本/cm)・黒斑
20SD001e区P-123	第145図	484	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色～明赤褐色	灰白色～橙色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	(15.6)	17.8+a	-	-	ハケメ(6～8本/cm)・黒斑
20SD001f区上層P-207	第145図	485	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	淡白橙色	淡白橙色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	15.8	20.9+a	-	-	胸部下半スス付着
20SD001f区上層	第145図	486	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ・ハケメ	(16.9)	13.4	-	-	外面スス付着・外面線刻(絵画?)
20SD001f区上層	第145図	487	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・黑色粒子	橙白色	橙白色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ	15.5	14.1+a	-	-	
20SD001e区上層	第145図	488	土師器	甕	角閃石・石英・長石・白色粒子・赤色粒子	にぶい黄橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ	(17.0)	12.2+a	-	-	スス付着
20SD001f区上層	第145図	489	土師器	甕	角閃石・石英・長石・赤色粒子・白色粒子	灰白色	にぶい黄橙色	ハケメ後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(15.6)	11.2+a	-	-	
20SD001e区上層	第145図	490	土師器	甕	角閃石・白色粒子・赤色粒子・長石・石英・赤色粒子	明褐色	明褐色～褐灰色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(18.0)	13.2+a	-	-	
20SD001e区上層	第146図	491	土師器	甕	石英・長石・角閃石・白色粒子・赤色粒子	にぶい黄橙色～褐灰色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・指オサエ後ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	11.9	18.6+a	-	-	ハケメ(5～7本/cm)・スス付着
20SD001f区上層	第146図	492	土師器	甕	長石・石英・角閃石・白色粒子・赤色粒子	浅黄色	灰黄色	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(17.3)	12.4+a	-	-	

第45表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表44

遺構名	捲図 番号	遺物 番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大肩部径 / 重さ	
20SD001 f区上層	第146図	493	土師器	甕	角閃石・石英・ 雲母・白色粒子・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・指オ サエ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(16.6)	16.1+a	-	-	黒斑
20SD001 b区上層	第146図	494	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色粒子	明赤褐色	にぶい褐色	ハケメ後ナデ・ ナデ・ケズリ	ナデ・指オサ エ・ハケメ	(16.4)	6.9+a	-	-	ハケメ(6本/cm)
20SD001 f区上層	第146図	495	土師器	甕	角閃石・長石・ 石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	橙色	ナデ・指オサエ ・ケズリ	ヨコナデ・ナ デ	14.8	8.2+a	-	-	
20SD001 c区下層	第146図	496	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰黃褐色	にぶい橙色	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ	(15.2)	9.6+a	-	-	ハケメ(9本/cm)
20SD001 f区上層 P-212	第146図	497	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石	暗橙色	暗橙色	工具ナデ・ナデ 後ケズリ・ヨコ ナデ・ハケメ後 指頭痕	ヨコナデ・指 頭痕・ハケメ ・ハケメ後ヨ コナデ	14.9	14.9+a	-	-	
20SD001 b区中層 P-36	第146図	498	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・指オサエ ・ケズリ	ハケメ後ナデ ・ナデ・ハケ メ	16.3	20.3+a	-	-	ハケメ(8~10本 /cm)・スス付着
20SD001 d区上層 P-69	第146図	499	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色粒子・ 白色粒子	浅黄橙色～褐 灰色	浅黄橙色	ナデ後ケズリ・ ハケメ後ケズリ ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ	16.6	18.2+a	-	23.2	ハケメ(5~15本 /cm)・スス付着粘 土接合痕
20SD001 f区上層	第146図	500	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ハケメ後 ナデ・ハケメ後 ミガキ・指オサ エ後ノケズ	ヨコナデ・ハ ケメ・指頭痕	17.0	26.3	-	21.6	ハケメ(8~9本/ cm)・黒変
20SD001 a区	第146図	501	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄褐色	明黄褐色	ハケメ後ナデ・ ケズリ後ナデ	ナデ・ハケ メ・ケズリ	16.2	24.6	-	20.4	ハケメ(10本/cm)
20SD001 e区上層	第146図	502	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色～浅黄橙 色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ後ナ デ・指頭痕	ハケメ後ナデ ・ハケメ後ヨ コナデ	15.7	22.5	-	19.8	ハケメ(8本/cm) 黒斑
20SD001 b区 P-12	第147図	503	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ後 ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ	(17.2)	24.5	-	(22.1)	摩耗により不明瞭
20SD001 f区上層	第147図	504	土師器	甕	角閃石・長石・ 白色粒子・赤 色粒子	にぶい褐色	にぶい橙色	ハケメ後ナデ・ ヨコナデ・ハ ケメ	(15.0)	22.6+a	-	18.8		
20SD001 e区 P-233	第147図	505	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	橙色	ナデ・指オサエ 後ナデ・ケズリ 後ナデ	ナデ	(17.5)	27.5	-	22.7	
20SD001 f区上層 P-232	第147図	506	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	灰白色～橙色	浅黄橙色～橙 色	ナデ・ヨコナデ ・ヨコナデ後 ミガキ・ケズリ・ 指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ後 ヨコナデ	14.9	23.8+a	-	19.8	ハケメ(7~10本 /cm)・黒斑・スス 付着
20SD001 c区 P-29 c区上層	第147図	507	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石	にぶい橙色	にぶい赤褐色	ナデ・指オサエ ・ケズリ・ハ ケメ	ナデ・ハケメ ・ハケメ後ナ デ	15.0	22.1	-	19.0	ハケメ(7本/cm)
20SD001 a区上層	第147図	508	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハ ケメ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ	17.9	24.1	-	20.3	ハケメ(8本/cm)(9 本/cm)
20SD001 e区 P-131	第147図	509	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ	ナデ・ハケ メ・ハケメ後ナ デ	14.0	20.6	-	18.2	ハケメ(10本/cm)
20SD001 e区 P-238	第148図	510	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ・ケズリ 後ハケメ・ナデ	ナデ・ハケメ	15.4	21.0	-	19.4	ハケメ(6~7本/ cm)
20SD001 b区上層	第148図	511	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケ メ・ケズリ	ナデ・ハケメ	16.3	26.5+a	-	(23.5)	ハケメ(6~9本/ cm)
20SD001 f区上層	第148図	512	土師器	甕	石英・長石・ 赤色粒子	白茶色	白茶色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ後 ナデ	(15.5)	22.4	-	20.3	
20SD001 e区上層	第148図	513	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ナデ・ハケ メ・ハケメ後ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ後 ナデ	16.7	21.5	-	20.0	ハケメ(8本/cm)・ スス付着
20SD001 a区中層	第148図	514	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・指オサエ ・ケズリ	ナデ・ハケメ	14.2	22.5	-	21.5	ハケメ(5本/cm)
20SD001 f区上層	第148図	515	土師器	甕	石英・長石	茶灰色	茶灰色	ハケメ・ハケ メ後ナデ・ケズ リ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ後 ナデ	14.3	22.2+a	-	19.4	外面スス付着
20SD001 f区上層	第148図	516	土師器	甕	角閃石・長石・ 石英・赤色粒子 ・白色粒子	浅黄色	浅黄色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	16.0	18.8+a	-	20.2	
20SD001 b区 P-37 b区中層	第148図	517	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい橙色	橙色	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ	15.4	18.9+a	-	21.3	ハケメ(6本/cm)
20SD001 中層	第149図	518	土師器	甕	角閃石・白色 粒子・赤色粒子	にぶい黄橙色	明赤褐色～橙 色	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	(15.6)	10.1+a	-	-	
20SD001 e区下層	第149図	519	土師器	甕	角閃石・石英・ 赤色粒子・白 色粒子	灰黃褐色	橙色	ハケメ後ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後 ミガキ	17.0	11.5+a	-	-	
20SD001 b区 P-37-39	第149図	520	土師器	甕	石英・長石・ 赤色粒子	にぶい褐色	にぶい橙色	ヨコナデ・指オ サエ・ケズリ後 ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(15.9)	9.3+a	-	-	ハケメ(4本/cm)
20SD001 f区上層	第149図	521	土師器	甕	角閃石・長石・ 雲母・赤色粒子 ・白色粒子	にぶい橙色	にぶい褐色	ハケメ・ハケ メ後ナデ	ヨコナデ・指 オサエ・ハケ メ	(16.4)	14.0+a	-	-	
20SD001 b区上層	第149図	522	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	明赤褐色	にぶい褐色	ハケメ後ナデ ・指オサエ・ケ ズリ後ナデ	ナデ・ハケメ	15.2	11.7+a	-	-	ハケメ(8本/cm)
20SD001 b区中層	第149図	523	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	明赤褐色	ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ	(17.6)	8.7+a	-	-	ハケメ(11本/cm)
20SD001 f区上層	第150図	524	土師器	小形甕	角閃石・石英・ 長石・赤色粒子 ・白色粒子	にぶい橙色	にぶい黄橙色	ナデ	ハケメ後ナデ ・ハケメ	(11.6)	4.7+a	-	-	

第 46 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 45

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	
20SD001f 区上層	第 150 図	525	土師器	小形壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	淡橙色	淡橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ケズリ後ナデ	(10.0)	8.9+a	-	-
20SD001e 区上層	第 150 図	526	土師器	小形壺	石英・長石・角閃石	橙色	橙色	ナデ・指頭痕・ナデ後ケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	11.0	8.9+a	-	-
20SD001e 区上層 P-218	第 150 図	527	土師器	小形壺×小形壺	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙色	灰褐色	ナデ・ナデ後ミガキ	ナデ・ハケメ	10.9	11.0	-	-
20SD001f 区上層	第 150 図	528	土師器	小形壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	灰白色～橙色	灰白色～橙色	ナデ後粗いミガキ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後粗いミガキ	(10.8)	11.1	-	-
20SD001d 区 P-121	第 150 図	529	土師器	小形壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ・ミガキ	ハケメ	12.9	10.5	-	-
20SD001f 区上層	第 150 図	530	土師器	小形壺		橙色	橙色	ナデ・ハケメ・ミガキ	ミガキ	(15.0)	9.8	-	-
20SD001e 区上層 P-94	第 150 図	531	土師器	小形壺×小形壺	石英・長石	橙色	橙色	ナデ・ハケメ	ハケメ後ナデ・ハケメ	(10.3)	11.0	-	-
20SD001d 区上層 P-58	第 150 図	532	土師器	小形壺×小形壺	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ後ナデ	(12.4)	11.4	-	-
20SD001e 区上層 P-95	第 150 図	533	土師器	小形壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色～にぶい橙色	灰白色～にぶい橙色	工具ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(13.1)	11.5	-	-
20SD001d 区上層・中層	第 150 図	534	土師器	小形壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	黄灰色	灰白色～にぶい橙色	工具ナデ・ヨコナデ・ケズリ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	(13.8)	12.3	-	-
20SD001e 区上層	第 150 図	535	土師器	小形壺×小形壺	石英・長石・雲母・角閃石	にぶい黄橙色～灰白色	明赤褐色～灰白色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	14.4	11.4+a	-	-
20SD001d 区中層・上層	第 150 図	536	土師器	小形壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	灰白色～橙色	橙色～灰白色	ヨコナデ・ケズリ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	13.1	11.7+a	-	-
20SD001d 区上層	第 150 図	537	土師器	小形壺×小形壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色～褐灰色	にぶい橙色～橙色	工具ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	(11.4)	14.0	-	-
20SD001d 区上層 P-60	第 150 図	538	土師器	小形壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色～橙色	灰黄色～橙色	ヨコナデ・ケズリ・ケズリ後ナデ・指オサエ	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(12.5)	13.7	-	-
20SD001e 区上層	第 150 図	539	土師器	小形壺	石英・長石・角閃石・黒色粒子	灰白色	灰白色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(13.8)	13.4	-	-
20SD001c 区 P-53	第 150 図	540	土師器	小形壺×小形壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	灰黄色	灰黄色	ヨコナデ・指オサエ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	13.2	13.3	-	-
20SD001f 区中層	第 150 図	541	土師器	小形壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	白茶色	白茶色	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(11.4)	12.0+a	-	-
20SD001e 区上層	第 150 図	542	土師器	小形壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	11.8	13.3+a	-	-
20SD001e 区上層	第 150 図	543	土師器	小形壺×小形壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	灰白色～にぶい橙色	浅黄橙色～橙色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	(13.6)	15.2	-	-
20SD001c 区 P-57	第 150 図	544	土師器	小形壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	明赤褐色	にぶい赤褐色	ナデ・指オサエ・ケズリ後ナデ	ナデ・ミガキ・ケズリ後ミガキ・ハケメ後ナデ	(11.4)	14.7	-	-
20SD001f 区 P-235	第 150 図	545	土師器	小形壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ケズリ後ナデ・指オサエ・ケズリ	ナデ・ハケメ	(13.2)	16.4	-	-
20SD001b 区中層	第 150 図	546	土師器	小形壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	灰白色	にぶい黄橙色	ナデ・ハケメ・ケズリ	ナデ・ハケメ	12.1	16.0	-	-
20SD001f 区上層	第 150 図	547	土師器	小形壺	角閃石・白色粒子・長石・赤色粒子・石英	橙色	明褐色～褐灰色	ハケメ後ナデ・ナデ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(14.6)	14.1+a	-	-
20SD001a 区上層	第 150 図	548	土師器	小形壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ後ナデ	(13.9)	14.6	-	-
20SD001c 区 P-56	第 151 図	549	土師器	小形壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ・指オサエ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	12.8	15.2	-	-
20SD001b 区 P-13	第 151 図	550	土師器	小形壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ・ハケメ・指オサエ	13.9	16.6	-	-
20SD001f 区上層	第 151 図	551	土師器	小形壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色～にぶい橙色	橙色～黑色	ヨコナデ・ケズリ後ミガキ	ナデ・ハケメ後ナデ	16.2	16.1	-	-
20SD001d 区上層	第 151 図	552	土師器	小形壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	褐灰色～灰色	にぶい黄橙色～にぶい橙色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(13.7)	16.8+a	-	-
20SD001f 区上層	第 151 図	553	土師器	小形壺×小形壺	角閃石・赤色粒子・白色粒子	白黃茶色	白黃茶色	ナデ・指頭痕	ナデ・ハケメ後一部ナデ	(13.8)	17.7+a	-	-
20SD001e 区上層	第 151 図	554	土師器	小形壺×小形壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	浅黄橙色	にぶい黄橙色～にぶい橙色	ナデ・ケズリ	ナデ・ナデ後粗いハケメ	(13.0)	17.5+a	-	-
20SD001c 区 P-40	第 151 図	555	土師器	小形壺	石英・長石・角閃石	にぶい橙色	浅黄橙色	ナデ・ハケメ・ケズリ	ハケメ後ナデ・ハケメ・ケズリ	14.0	18.6	-	-
20SD001b 区中層 P-24	第 151 図	556	土師器	小形壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ・指オサエ・ケズリ後ナデ	ハケメ後ナデ・ハケメ・ハケメ後ミガキ	12.2	20.5	-	-

第47表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表46

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
20SD001 c区P-35	第151図	557	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ(摩耗に より不明瞭)	(15.4)	18.9+a	-	-	ハケメ(5本/cm)
20SD001 a区中層	第151図	558	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ・指オ サエ	ヨコナデ・ナ デ	14.8	20.1	-	-	外面黒斑
20SD001 e区上層 P-224	第151図	559	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ミガキ・ナデ	ナデ・ナデ後 ミガキ	14.4	18.1	-	-	
20SD001 f区上層 P-224	第151図	560	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	にぶい橙色～ 橙色	明赤褐色	工具ナデ・ハケ メ後ナデ・ケズ リ後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	13.2	14.7+a	-	-	ハケメ内(6～8本 /cm)・一部黒変・ 粘土接合痕
20SD001 e区上層 P-97・118	第151図	561	土師器	小形甕	長石・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	浅黃橙色～橙 色～赤褐色	橙色～にぶい 赤褐色	ヨコナデ・ケズ リ後粗いナデ・ 指オサエ後ナ デ	丁寧なナデ?・ ヨコナデ	14.0	17.2	-	-	一部黒変・スス付 着
20SD001 a区中層	第151図	562	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ・指ナデ ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	14.0	19.7	-	-	ハケメ(6～8本/ cm)
20SD001 b区P-27	第151図	563	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	黒褐色	にぶい橙色	ナデ	ナデ	(14.6)	19.4+a	-	-	
20SD001 e区上層	第151図	564	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・黒 色粒子	にぶい橙色～ 橙色	にぶい黄橙色 ～明赤褐色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ・指頭 痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	(13.4)	18.5	-	-	ハケメ(7～8本/ cm)・スス付着
20SD001 e区下層	第151図	565	土師器	小形甕	石英・長石・ 赤色粒子・雲 母・角閃石	橙茶色	橙茶色	ヨコナデ・ナデ ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ・ ハケメ後ナデ?	(12.4)	15.4+a	-	-	内外面スス付着
20SD001 f区上層	第151図	566	土師器	小形甕	長石・雲母・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	橙色	橙色～にぶい 橙色	ハケメ後ナ デ・ハケメ後粗 いミガキ・指オ サエ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	12.4	18.9	-	-	ハケメ内(5～7本 /cm)外(6～8本/ cm)・一部黒変・ スス付着
20SD001 e区P-105	第151図	567	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 ～橙色	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ後ヨコナデ	(13.2)	14.6+a	-	-	ハケメ(10～11本 /cm)・スス付着
20SD001 a区下層	第151図	568	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ 後ナデ	(15.1)	12.3+a	-	-	ハケメ(6本/cm)
20SD001 b区上層 P-39	第152図	569	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	明赤褐色	赤褐色	ハケメ後ナ デ・ケズリ後ナ デ	ナデ・ハケメ	15.6	9.1+a	-	-	ハケメ(5本/cm)
20SD001 c区P-57	第152図	570	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	灰色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ	(14.0)	9.5+a	-	-	ハケメ(9本/cm)
20SD001 f区上層	第152図	571	土師器	小形甕	角閃石・雲母・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい黄橙色	橙色	ナデ・ケズリ	ハケメ後ナデ ・ナデ	(13.4)	8.5+a	-	-	
20SD001 e区上層	第152図	572	土師器	小形甕	角閃石・長石・ 雲母・石英・ 赤色粒子	明褐色	明褐色～にぶ い黄橙色	ヨコナデ・指オ サエ後ヨコナ デ・ハケメ後ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	15.6	11.3+a	-	-	
20SD001 e区上層 P-166	第152図	573	土師器	小形甕	角閃石・白色 粒子・雲母	灰黃褐色	赤褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ナデ・ハケ メ後ケズリ	ナデ後ヨコナ デ・ナデ・ハケ メ後ナデ	13.0	12.0+a	-	-	
20SD001 f区上層	第152図	574	土師器	小形甕	角閃石・石英・ 赤色粒子・白 色粒子	明赤褐色～橙 色	明赤褐色～橙 色	ヨコナデ・ハ ケメ後指オサエ ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ナ デ	(15.3)	12.2+a	-	-	黒斑
20SD001 e区上層	第152図	575	土師器	小形甕	角閃石・石英・ 長石・赤色粒 子・白色粒 子	にぶい褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ・ナデ ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ハ ケメ	(15.2)	12.6+a	-	-	
20SD001 f区上層	第152図	576	土師器	小形甕	角閃石・白色 粒子・石英・ 長石・赤色粒 子	明赤褐色	明赤褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ナ デ	(13.0)	9.0+a	-	-	
20SD001 f区上層	第152図	577	土師器	小形甕	角閃石・石英・ 赤色粒子	明赤褐色	赤褐色	ヨコナデ・ナデ ・指オサエ	ナデ・ハケメ 後ナデ	-	6.1+a	-	-	口縁部欠損
20SD001 d区上層	第152図	578	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石	暗橙色	暗橙色	ヨコナデ・ナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ナデ ・ハケメ後ヨ コナデ	(17.0)	16.1+a	-	-	外面スス付着
20SD001 f区上層	第152図	579	土師器	小形甕	角閃石・長石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい橙色	浅黃橙色	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ケズ リ後ナデ・ハケ メ後ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	14.0	15.0+a	-	-	スス付着
20SD001 e区上層 P-154	第152図	580	土師器	小形甕	長石・雲母・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ ・ハケメ後ナデ ・ハケメ後ヨコナ デ・指オサエ	ハケメ・ハケ メ後ナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・指頭痕	15.7	18.9	-	-	ハケメ(5～7本/ cm)・黒斑・粘土接 合痕
20SD001 d区下層	第153図	581	弥生土器	甕 底部	角閃石・白色 粒子	黑褐色	にぶい黄橙色	ケズリ?・指頭 痕	ハケメ・指頭 痕	-	5.1+a	4.6	-	ハケメ(7本/cm)
20SD001 d区下層	第153図	582	弥生土器	甕 底部	角閃石・白色 粒子・褐色粒 子	黑色	灰白色	指頭痕	ナデ・ハケメ	-	4.0+a	4.5	-	ハケメ(4～5本/ cm)
20SD001 d区中層	第153図	583	弥生土器	甕 底部	雲母・角閃石・ 赤褐色粒子・白 色粒子	にぶい橙色～ 褐灰色	明褐灰色～橙 色	ナデ	ナデ・ハケメ ・工具痕	-	3.4+a	(2.4)	-	ハケメ(8本/cm)
20SD001 f区上層	第153図	584	弥生土器	甕 底部	角閃石・白色 粒子・長石・ 石英	にぶい黄色～ 黒褐色	灰黄色	ナデ	ハケメ後ナデ ・ヨコナデ・ ハケメ後ナデ	-	2.9+a	4.5	-	黒斑・内面磨耗の 為調整不明
20SD001 d区下層	第153図	585	弥生土器	甕 底部	石英・長石・ 雲母	橙色～灰白色	灰色	ケズリ	ナデ・指頭痕	-	4.2+a	5.2	-	
20SD001 f区上層	第153図	586	弥生土器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい橙色	灰白色	指オサエ後ナ デ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後ナ デ	-	5.1+a	3.9	-	黒変
20SD001 f区上層	第153図	587	弥生土器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	浅黃橙色	にぶい黄橙色	ナデ・指オサエ 後ナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後ナ デ	-	4.5+a	7.5	-	一部黒変

第48表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表47

遺構名	捲番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
20SD001f区上層	第153図	588	弥生土器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	灰白色	ナデ・指頭痕	ハケメ後ナデ・指頭痕	-	7.5+a	3.1	-	ハケメ(8~9本/cm)
20SD001c区上層	第153図	589	土師器	甕底部	石英・長石・角閃石・赤色粒子	褐灰色	にぶい橙色	ナデ・ハケメ・ケズリ	ケズリ後ナデ・ハケメ	-	7.5+a	5.2	-	ハケメ(8本/cm)
20SD001f区上層	第153図	590	弥生土器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明褐灰色	にぶい橙色~橙色	指オサ工後ナデ	指オサ工後ハケメ後ナデ	-	6.8+a	3.6	-	一部黒変
20SD001d区中層	第153図	591	弥生土器	甕底部	雲母・黒色粒子・赤褐色粒子・白色粒子	明褐灰色	橙色~灰白色	ケズリ・指頭痕	ハケメ	-	3.4+a	2.4	-	ハケメ(5本/cm)
20SD001d区下層	第153図	592	弥生土器	甕底部	石英・雲母・黒色粒子	灰白色	灰白色~褐灰色	ケズリ	ナデ・ハケメ	-	2.6+a	(3.4)	-	ハケメ(5本/cm)・外面黒斑
20SD001f区上層	第153図	593	弥生土器	甕底部	白色粒子・角閃石・石英・長石	にぶい黄色	明赤褐色	ナデ	ナデ	-	4.2+a	2.3/1.8	-	外面磨耗の為調整不明・底部稍円形
20SD001b区下層	第153図	594	弥生土器	甕底部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	暗灰色	にぶい橙色	ナデ・指オサ工	ハケメ後ナデ・ナデ	-	4.3+a	3.7	-	ハケメ(7本/cm)
20SD001d区中層	第153図	595	弥生土器	甕底部	雲母・赤褐色粒子・白色粒子	灰白色	浅黄橙色	ケズリ	ミガキ・指頭痕	-	4.0+a	4.7	-	外面底部黒斑
20SD001f区上層	第153図	596	弥生土器	甕底部	角閃石・白色粒子・赤色粒子・石英・長石	にぶい橙色	にぶい橙色~褐灰色	ハケメ・ナデ	ハケメ	-	5.2+a	3.1	-	
20SD001d区中層	第153図	597	弥生土器	甕底部	雲母・白色粒子	灰白色	黒色	ケズリ	ナデ	-	3.4+a	6.2	-	外面底部黒斑?
20SD001f区上層	第153図	598	弥生土器	甕底部	角閃石・長石・石英・白色粒子・赤色粒子	灰黄褐色	にぶい黄橙色	ハケメ後ナデ・指オサ工	ナデ・ハケメ後ナデ	-	7.8+a	3.8	-	
20SD001d区下層	第153図	599	弥生土器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	明赤褐色~にぶい橙色	指オサ工後ナデ	ナデ	-	8.2+a	4.3	-	
20SD001a区下層	第153図	600	弥生土器	甕底部	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・指オサ工	ハケメ	-	8.1+a	4.6	-	
20SD001f区上層	第153図	601	弥生土器	甕底部	角閃石・白色粒子・赤色粒子	黄灰色	明黄褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ・ヨコナデ	-	6.2+a	(4.6)	-	黒斑
20SD001d区中層	第153図	602	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰白色	灰白色~浅黄橙色	ナデ・ハケメ後ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ	-	13.2+a	-	-	ハケメ外(7~8本/cm)・黒変
20SD001d区中層	第153図	603	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	赤褐色	赤褐色~赤色	ナデ	ミガキ・指頭痕	-	14.9+a	-	-	
20SD001d区中層・下層	第153図	604	土師器	甕		橙色	赤橙色	ハケメ後ナデ	ナデ	-	14.0+a	-	-	ハケメ(4~6本/cm)・一部黒変
20SD001c区P-47	第153図	605	弥生土器	甕×瓶	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ・指オサ工	ハケメ	-	16.1+a	-	-	ハケメ(10本/cm)・底部穿孔か?
20SD001c区P-87	第153図	606	弥生土器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	灰白色	灰白色	ナデ	ナデ・ハケメ?	(12.9)	24.6	-	-	
20SD001e区上層P-130	第153図	607	弥生土器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子・3~10mmの大・小石	明赤褐色	明赤褐色	ナデ・ケズリ後ナデ・ハケメ後ナデ・指頭痕	工具ナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後工具ナデ・指頭痕	-	23.1+a	-	-	
20SD001b区構造検出面	第154図	608		土錐	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	明赤褐色	-	指オサ工後ミガキ	8.2	3.7	3.4	-	
20SD001f区上層	第154図	609		土錐	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	黒色	-	ミガキ・指頭痕	6.3+a	4.1	3.9	-	
20SD001e区上層P-248	第154図	610		土錐	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	橙色~明赤褐色	-	ナデ後ミガキミガキ	9.8	4.2	4.2	-	
20SD001f区上層	第154図	611		土錐	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	橙色	-	ハケメ後ミガキ	7.3	3.5	3.5	-	
20SD001f区上層P-255	第154図	612		土錐	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	灰白色	-	指オサ工後ナデ後ミガキ	8.1	3.9	0.4	-	黒変・接合痕
20SD001f区上層	第154図	613		土錐	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	明褐色~黒色	-	ナデ後ミガキ・指頭痕・指オサ工後ミガキ	7.5	3.3	3.2	-	
20SD001f区上層	第154図	614		土錐	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	にぶい赤褐色	-	ナデ・ミガキ・指頭痕・指オサ工後ミガキ	7.3	3.2	3.3	-	
20SD001f区上層	第154図	615		土錐	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	橙色	-	指オサ工後ナデ	7.4	3.8	3.5	-	一部黒変
20SD001d区上層	第154図	616		土錐	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	明赤褐色	-	指オサ工後ナデ	7.5	3.4	3.2	-	一部黒変
20SD001d区上層	第154図	617		器種不明	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	工具ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ・指頭痕	-	6.9+a	-	-	ハケメ(12本/cm)
20SD001f区上層	第154図	618	石器	すり石						7.4	6.1	4.3	281.0g	安山岩

第49表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表48

20SE001

遺構名	捕図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胸部径/重さ
20SE001 南半中層	第156図	001	ミニチュ ア土器	鉢	石英・長石・ 雲母	にぶい黄橙色	灰白色	指頭痕	指頭痕	3.3	2.5	-	-
20SE001 上層	第156図	002	ミニチュ ア土器	高坏 坏部?	石英・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	指頭痕後ナデ	指頭痕後ナデ	6.2	2.1+a	-	-
20SE001 P-5	第156図	003	土師器	小形器台	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい褐色	にぶい橙色	ナデ?・ハケメ ・指オサ工	ナデ・ハケメ	7.7	8.2	11.0	-
20SE001 中層 P-19	第156図	004	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい橙色	にぶい橙色	ミガキ・ナデ	ナデ・ケズリ ・指オサ工	14.0	4.1	-	-
20SE001 P-9	第156図	005	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	明赤褐色	ナデ	ナデ・ケズリ	(11.0)	5.0	-	-
20SE001 P-6	第156図	006	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ミガキ	ハケメ・ナデ	11.8	6.0	-	-
20SE001 P-8-4 中層	第156図	007	土師器	小型丸底壺	長石・角閃石・ 赤色粒子	灰白色	灰白色	ナデ	ナデ・ハケメ	10.6	5.4	-	-
20SE001 南半下層	第156図	008	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ	ナデ・ミガキ 後ヘラによる ナデ	(9.2)	6.2	-	-
20SE001 P-2・上層	第156図	009	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄橙色	にぶい橙色	ナデ後ミガキ ・ミガキ	ナデ・ハケメ 後ミガキ	(14.5)	4.9	-	-
20SE001 P-8	第156図	010	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ・ミガキ ・ハケメ	(11.8)	14.0	-	13.4
20SE001 南半中層 20SD001 e区上層 a区上層	第156図	011	土師器	壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	橙色	橙色～にぶい 黄橙色	ハケメ後ヨコナ テ後ミガキ・ミ ガキ	ハケメ後ヨコ ナテ後ミガキ・ハ ケメ後ミガキ	(13.1)	14.6	-	ハケメ(17～19本 /cm)
20SE001 P-10	第156図	012	土師器	小形複合口 縁壺	赤色粒子	にぶい橙色	橙色	ナデ後ミガキ ・ナデ・ケズリ	ナデ・ミガキ ・ミガキ後ハ ケメ	9.3	12.1	-	-
20SE001 中層 P-12	第156図	013	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	黒褐色	橙色	ハケメ後ナデ ・ナデ・ハケメ ・ケズリ	波状文・ハ ケメ・ハケメ後 ミガキ・ハケ メ後ケズリ	9.5	22.2	-	16.9
20SE001 中層 P-15	第156図	014	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	灰黃褐色～に ぶい黃褐色	灰白色～橙色	ハケメ・ハケ メ後ヨコナテ・ 指頭痕	ヨコナテ・ハ ケメ・ハケメ後 ヨコナテ	18.1	25.5+a	-	ハケメ(9～13本 /cm)・黒斑
20SE001 P-151	第156図	015	土師器	壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	灰白色	灰白色	ナデ・ハケメ ・ケズリ後ナデ	ハケメ・ナデ・ ナデ・ハケメ	13.8	25.6	-	(22.9) ハケメ(12本/cm)
20SE001 中層 P-18 北半下層 20SD001 e区上層 P-98	第156図	016	土師器	壺	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ケズリ ・指オサ工	ナデ・ハケメ 後ナデ	17.3	32.6	-	29.8 ハケメ(8本/cm)
20SE001 中層 P-20	第157図	017	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	灰白色	淺黃橙色	ミガキ・ハケメ 後ミガキ	ナデ・ハケメ 後ミガキ	(12.4)	8.1	-	-
20SE001 P-6	第157図	018	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・指オサ工	ナデ・ハケメ	12.1	13.1	-	ハケメ(4本/cm)
20SE001 中層 P-18 北半下層 南半中層 20SD001 e区上層 P-98	第157図	019	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ハケメ・ハケ メ後ヨコナテ・ ハケメ後ミガキ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナテ	15.8	21.7+a	-	ハケメ(8～10本 /cm)・スス付着
20SE001 P-25	第157図	020	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ハケメ ・ケズリ	ナデ・ハケメ 後ナデ・ハ ケメ	16.8	23.7	-	20.9 ハケメ(9本/cm)
20SE001 中層	第157図	021	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・指オサ工 ・ハケメ後ミガ キ・ケズリ	ナデ・ハケメ	17.7	26.5	-	21.8 ハケメ(10本/cm)
20SE001 中層 P-18-21 SD001 e区上層 P-98 e区中層	第157図	022	土師器	甕	雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい黄橙色	橙色	ハケメ後ヨコナ テ・ハケメ後ミ ガキ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナテ	17.6	23.5+a	-	18.8 ハケメ(7～11本 /cm)・スス付着
20SE001 中層	第157図	023	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい橙色	橙色	ハケメ後ナデ・ ハケメ後ミガキ ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	15.4	26.3	-	21.8 ハケメ(7本/cm)
20SE001 中層 P-21 20SD001 e区上層	第157図	024	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ・ ケズリ後ミガキ ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ	16.7	21.1+a	-	21.0 ハケメ(9～11本 /cm)
20SE001 P-4	第157図	025	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	橙色	ハケメ後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	15.0	24.6	-	20.6 ハケメ(7本～10 本/cm)・スス付着
20SE001 中層 P-16-22	第157図	026	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石	にぶい黄橙色 ～橙色	橙色	工具ナデ・ヨコ ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ後 ヨコナデ	15.3	22.6+a	-	19.2 ハケメ(5～6本/ cm)・黒斑・スス 付着
20SE001 上層・中層	第158図	027	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ ・ケズリ	ナデ・ハケメ 後ナデ・ハ ケメ	15.8	28.0	-	(23.8) ハケメ(9本/cm)・ スス付着
20SE001 P-3	第158図	028	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	黒褐色	にぶい赤褐色	ナデ・指オサ工 ・ハケメ後ナデ ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	16.8	25.2	-	21.6 ハケメ(6本/cm) (12本/cm)
20SE001 北半中層	第158図	029	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰白色～橙色	灰白色～橙色	ヨコナデ・ヨコ ナデ・ハケメ 後ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ後 ヨコナデ	(16.6)	20.4+a	-	20.7 ハケメ(7～8本/ cm)・黒斑・スス 付着
20SE001 上層 20SD001 e区上層	第158図	030	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	灰黃褐色～橙 色	橙色～にぶい 黄橙色	ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ・ハ ケメ後ヨコナデ	(18.4)	27.1+a	-	25.2 ハケメ(6～7本/ cm)・黒斑

第50表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表49

20SE018

遺構名	捕図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
20SE018 P-4	第160図	001	土師器	高坏坏部	石英・長石・雲母・角閃石	浅黄橙色	浅黄橙色	ハケメ後ナテ	ナテ・ハケメ後ナテ	14.9	5.6+a	-	-	ハケメ(10本/cm)
20SE018 P-6	第160図	002	土師器	高坏坏部	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	淡橙色	ナテ後ミガキ	ナテ・ナテ後ミガキ	14.8	5.7+a	-	-	
20SE018 P-6	第160図	003	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい橙色	ハケメ後ナテ・ナテ	ナテ・ケズリ後ハケメ	13.0	7.1	-	-	ハケメ(6本/cm)
20SE018 P-1	第160図	004	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ナテ	ナテ・ハケメ	10.8	11.0	-	-	ハケメ(7本/cm)
20SE018 北半下層	第160図	005	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	灰黄褐色	ナテ・ハケメ・指オサエ	ナテ・ハケメ後ナテ	(14.0)	10.5+a	-	-	ハケメ(10本/cm)
20SE018 P-5	第160図	006	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ハケメ後ナテ・指オサエ後ハケメ・ハケメ	ナテ・ハケメ後ナテ・ハケメ	15.1	20.1+a	-	(22.2)	ハケメ(5本/cm)(8本/cm)
20SE018 P-2	第160図	007	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	にぶい黄橙色	ハケメ・ナテ	ナテ・ハケメ	(14.2)	17.9+a	-	(20.7)	ハケメ(8本/cm)
20SE018 西半下層	第160図	008	石器	砥石						19.0	8.7	7.7	1,267.0g	砂岩

32SD001

遺構名	捕図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
32SD001 J1 暗褐砂質土	第163図	001	ミニア土器	鉢	長石・赤褐色粒子	橙色	橙色	ヨコナテ・指頭痕	ナテ・ハケメ痕	4.6	3.4	-	-	ハケメ(7本/cm)・外面黒斑
32SD001 I9 暗褐砂質土	第163図	002	ミニア土器	鉢	石英・長石・赤褐色粒子	黄褐色	黒褐色	指頭痕	指頭痕	7.3	4.4	4.4	-	内外面黒斑
32SD001 I8 暗褐砂質土 暗褐粘質土	第163図	003	土師器	小型器台	石英・長石・赤褐色粒子	黄橙色	橙色	ナテ・ヨコナテ・ハケメ	ナテ・ヨコナテ・ミガキ・ケズリ	(10.4)	7.3	12.7	-	ハケメ(8本/cm)・穿孔4箇所
32SD001 I10 暗褐砂質土	第163図	004	土師器	小型器台	石英・長石・赤褐色粒子	橙色	橙色	ナテ・ミガキ	ミガキ	-	7.5+a	(10.0)	-	
32SD001 H11 暗褐粘質土	第163図	005	土師器	高坏	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ミガキ・絞り痕	ミガキ・ケズリ	-	11.6+a	-	-	穿孔10箇所
32SD001 H12 暗褐砂質土 E	第163図	006	土師器	高坏	石英・角閃石・白色粒子・茶褐色粒子	明褐灰色	にぶい黄橙色～橙色	ナテ・ハケメ後ミガキ・ケズリ	ナテ・ハケメ後ミガキ	24.1	17.3	17.2	-	ハケメ(10本/cm)・穿孔7箇所
32SD001 I9 暗褐砂質土 暗褐粘質土	第163図	007	土師器	高坏	角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナテ・ヨコナテ・ハケメ・ハケメ後ナテ	ナテ・ヨコナテ・ハケメ・ハケメ後ヨコナテ・ミガキ	21.2	15.8	(15.2)	-	ハケメ(9本/cm)・穿孔3箇所
32SD001 I10 暗褐粘質土	第163図	008	土師器	高坏	微砂粒	橙色	橙色	ナテ・ヨコナテ・ハケメ・ミガキ	ヨコナデ・ミガキ	22.6	15.2	16.6	-	内面黒斑・穿孔3箇所
32SD001 H12 暗褐砂質土 F I10 暗褐粘質土1	第163図	009	土師器	高坏	赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナテ・ミガキ	ナテ・ヨコナテ	(20.6)	13.2	14.6	-	穿孔3箇所
32SD001 I12 暗褐砂質土	第163図	010	土師器	高坏 坏部	長石・角閃石・赤褐色粒子	明黄褐色	明赤褐色	ミガキ・ケズリ	ハケメ・ケズリ・ケズリ後ミガキ	(21.4)	8.7+a	-	-	ハケメ(10本/cm)
32SD001 I9 暗褐粘質土 暗褐砂質土 I10 ベレト	第163図	011	土師器	高坏	角閃石・赤褐色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナテ・ケズリ・ミガキ	ヨコナデ・ミガキ	(19.2)	9.6+a	-	-	内外面黒斑・穿孔3箇所
32SD001 H11・H 12 暗褐砂質土	第163図	012	土師器	高坏 脚部	白色粒子・褐色粒子	橙色～灰白色	橙色～灰白色	ナテ・ヨコナテ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・指オサエ	-	9.7+a	13.8	-	ハケメ(11本/cm)・穿孔3箇所
32SD001 I11 トレンチ	第163図	013	弥生土器	高坏 脚部	角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ミガキ・ケズリ	ヨコナテ・ハケメ・ミガキ	-	13.6+a	15.2	-	ハケメ(5本/cm)・内外面赤色塗彩・穿孔6箇所
32SD001 I9 暗褐粘質土 暗褐砂質土	第163図	014	土師器	高坏	石英・雲母・赤褐色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナテ・ハケメ・ミガキ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ後ミガキ	-	9.5+a	(11.6)	-	ハケメ(8本/cm)
32SD001 I10 暗褐砂質土	第163図	015	土師器	鉢	雲母・赤褐色粒子・白色粒子	浅黄色	明黄褐色	ヨコナテ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	(13.4)	6.2	-	-	ハケメ(10本/cm)・外面黒斑
32SD001 I10 暗褐粘質土	第163図	016	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤褐色粒子	にぶい橙色	橙色	ケズリ・ケズリ後ナテ	ナテ・ケズリ・指頭痕	10.2	3.9	-	-	
32SD001 I8 暗褐砂質土 暗褐粘質土	第163図	017	土師器	鉢	角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナテ・ナテ後ミガキ・ケズリ	ヨコナデ・ケズリ後ナテ	(15.6)	5.1+a	-	-	内外面黒斑
32SD001 I11 暗褐砂質土 暗褐粘質土	第163図	018	土師器	鉢	石英・長石・赤褐色粒子	明黄褐色	黄褐色	ナテ・ヨコナテ・ハケメ	ヨコナテ・ハケメ	20.8	7.3	-	-	ハケメ(5本/cm)(12本/cm)
32SD001 I9 暗褐砂質土	第163図	019	土師器	鉢	長石・角閃石・赤褐色粒子	黄橙色	明黄褐色	ナテ・ヨコナテ	ヨコナテ・ハケメ	16.2	7.7	-	-	ハケメ(8本/cm)外面黒斑
32SD001 I9 暗褐砂質土 暗褐粘質土	第163図	020	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤褐色粒子	淡黄色	にぶい黄色	ナテ	ヨコナテ	10.8	6.0	-	-	外面黒斑
32SD001 I8 暗褐砂質土	第163図	021	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤褐色粒子	橙色	橙色	ヨコナテ・工具痕?	ヨコナテ・ハケメ	(10.4)	6.0	-	-	ハケメ(8本/cm)

第51表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表50

遺構名	捲図 番号	遺物 番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考	
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器幅 / 底径	最大胴部径 / 厚		
32SD001 I11 暗褐色粘質土 L	第163図	022	土師器	鉢	石英・角閃石・赤褐色粒子	浅黄色	にぶい黄色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	16.0	7.9	-	-	ハケメ(9本/cm)外 面黒斑
32SD001 I18 暗褐色粘質土 カクラン	第163図	023	土師器	鉢	長石・雲母・角閃石	橙色	橙色	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	(15.6)	7.4	-	-	ハケメ(11本/cm)
32SD001 I12 暗褐色粘質土 F	第163図	024	土師器	鉢	石英・赤褐色 粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケ メ後ミガキ・ ケズリ	16.2	5.0	5.3	-	ハケメ(8本/cm)外 面黒斑
32SD001 H10 暗褐色粘質土 A	第164図	025	土師器	台付鉢	角閃石・白色 粒子	灰黄褐色	にぶい褐色	ナデ?	ナデ?・ミガキ ・絞り痕	12.6	8.6	7.4	-	全体の歪み・摩滅著 しく調整不明瞭
32SD001 I19 暗褐色粘質土	第164図	026	土師器	台付鉢	雲母・角閃石・ 赤褐色粒子・ 白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケ メ	(12.2)	5.9	6.4	-	ハケメ(10本/cm)
32SD001 I18 暗褐色粘質土	第164図	027	土師器	台付鉢	石英・長石・ 角閃石・赤褐 色粒子	灰褐色	橙色	ヨコナデ・ミガ キ	ナデ・ヨコナ デ・ミガキ・ 指頭痕	(12.0)	6.3+a	-	-	
32SD001 I10 暗褐色粘質土	第164図	028	土師器	台付鉢脚部	長石・赤褐色 粒子	淡黄色	灰白色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ヨコナデ・ハケ メ・指頭痕	-	4.7+a	8.6	-	ハケメ(8本/cm)
32SD001 I10 暗褐色粘質土	第164図	029	土師器	台付鉢脚部	石英・長石・ 雲母・赤褐色 粒子・白色粒子	にぶい橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ	ヨコナデ・ハ ケメ・指頭痕	9.6	3.0+a	9.9	-	ハケメ(12本/cm)
32SD001 H12 暗褐色粘質土	第164図	030	土師器	台付鉢	角閃石・赤褐 色粒子・白色 粒子	橙色	明赤褐色	ナデ・ケズリ後 ヨコナデ	ハケメ or ヨコ ナデ?・ケズリ	-	3.1+a	7.8	-	ハケメ(8本/cm)
32SD001 I10 暗褐色粘質土 J	第164図	031	土師器	鉢	石英・長石・ 赤褐色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ミガ キ	ヨコナデ・ミ ガキ	17.6	6.1	-	-	
32SD001 I10 暗褐色粘質土 I	第164図	032	土師器	鉢	雲母・赤褐色 粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ミガ キ・ケズリ・ ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	30.2	22.8	14.5	-	ハケメ(8本/cm)・ 外外面黒斑
32SD001 I10 暗褐色粘質土 I I11 暗褐色砂質 土	第164図	033	土師器	鉢	石英・長石・ 赤褐色粒子	浅黄橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ・ミガ キ	ヨコナデ・ハ ケメ・ミガキ	(38.2)	19.8+a	-	-	ハケメ(8本/cm)
32SD001 H12 暗褐色粘質土 F	第164図	034	土師器	鉢	白色粒子・黒 褐色粒子	橙色	橙色～灰黄色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	(26.3)	23.5	8.9	-	ハケメ(9本/cm)・ 外外面黒斑
32SD001 I10 暗褐色粘質土 I 暗褐色砂質土 G	第164図	035	土師器	鉢	長石・赤褐色 粒子	淡橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ	ヨコナデ・ハ ケメ	32.0	16.6	-	-	ハケメ(5本/cm)(10 本/cm)内外面黒化 ・スス付着
32SD001 I10 暗褐色粘質土 I 暗褐色砂質土 G	第164図	036	弥生土器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤褐色 粒子	橙色	橙色	ナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ 指頭痕	(8.4)	6.3	1.9	-	ハケメ(8本/cm)
32SD001 I10 暗褐色粘質土 I 暗褐色砂質土 G	第164図	037	弥生土器	鉢	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	灰白色	浅黄橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・指頭痕	16.1	9.1	5.5	-	ハケメ(10～12本 /cm)・外外面黒斑・ 内面赤色塗彩?
32SD001 H10 暗褐色粘質土 A	第165図	038	土師器	小型丸底壺	角閃石・赤色 粒子・白色粒子	にぶい橙色	灰白色～橙色	ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	13.1	8.3	-	-	ハケメ(5本以上/cm)・ 外外面黒斑・ 外側赤色塗彩
32SD001 I10 暗褐色粘質土 B	第165図	039	土師器	小型丸底壺	角閃石・赤褐色 粒子・白色粒子	褐色	橙色	ヨコナデ・ケズ リ	ハケメ後ヨコ ナデ・ケズリ 後ナデ・指頭 痕・ケズリ	(14.5)	8.0	-	-	ハケメ(8本/cm)・ 外側赤色塗彩?・ 内面黒化
32SD001 H10-I10 暗褐色粘質土 A	第165図	040	土師器	小型丸底壺	石英・雲母・ 赤褐色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ	ヨコナデ・ミ ガキ・ケズリ ・ケズリ後ナデ	(10.8)	6.9	-	-	
32SD001 I12 暗褐色粘質土 F	第165図	041	土師器	小形の丸底 鉢	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	にぶい黄色	浅黄色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ・指頭痕	(11.0)	8.3	-	-	ハケメ(5本/cm)・ 外外面黒斑
32SD001 I11 暗褐色粘質土 F	第165図	042	土師器	小形の丸底 鉢	長石・角閃石	橙色	黄灰色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	(12.0)	6.9+a	-	-	ハケメ(9本/cm)
32SD001 I10 暗褐色粘質土 暗褐色粘質土 F	第165図	043	土師器	丸底鉢	雲母・角閃石・ 白色粒子・黑色 粒子	にぶい黄橙色	橙色～にぶい 黄橙色	ナデ・ハケメ ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	23.1	12.3+a	-	-	ハケメ(11本/cm)・ 内スス付着・口縁部 内面橙色に変色
32SD001 I10-I11 暗褐色粘質土 暗褐色粘質土 F	第165図	044	土師器	直口壺	白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ 指頭痕	(12.8)	19.6+a	-	-	ハケメ(11本/cm)・ スス付着
32SD001 I10-I10 暗褐色粘質土 暗褐色粘質土 F	第165図	045	土師器	直口壺	石英・角閃石・ 白色粒子	赤橙色	明赤褐色	ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ミ ガキ	-	10.7+a	-	-	外外面赤色塗彩・ 外外面黒斑
32SD001 I10 暗褐色粘質土 暗褐色粘質土 I	第165図	046	土師器	直口壺	雲母・角閃石・ 白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ・ケ ズリ後ナデ・ 指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ 指頭痕	-	15.0+a	-	-	ハケメ(6本/cm)
32SD001 I10 暗褐色粘質土 暗褐色粘質土 J	第165図	047	土師器	小形壺	石英・長石・ 赤褐色粒子	にぶい橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ・ケ ズリ後ナデ・ 指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ・指頭痕	(12.0)	15.4	-	-	ハケメ(6本/cm)(8 本/cm)(10本/cm)
32SD001 I10 暗褐色粘質土 暗褐色粘質土 I	第165図	048	土師器	小形壺	雲母・赤色粒 子・白色粒子	明赤褐色	橙色～褐灰色	工具ナデ・ハ ケメ	工具ナデ・ヨ コナデ・ハケ メ	(11.8)	15.0	-	-	ハケメ(6本/cm)・ 外外面黒斑
32SD001 I11 暗褐色粘質土 暗褐色粘質土 ヘルト	第165図	049	土師器	小形壺	角閃石・白色 粒子・黑色粒子	橙色	灰黄色～橙色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ケズリ・ ケズリ後ナデ・ 指頭痕	11.7	14.4	-	-	ハケメ(10本/cm)・ スス付着

第52表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表51

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
32SD001 I9 暗褐砂質土 暗褐粘質土	第165図	050	土師器	壺	赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ケズ リ・ケズリ後ナ デ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ・指頭痕	(13.4)	27.2	-	-	ハケメ(5本/cm)・ 内面黒斑・スス付着
32SD001 I10-I11 暗褐粘質土	第165図	051	土師器	壺	長石・赤褐色 粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ナデ・工具ナ デ・ヨコナデ・ハ ケメ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ケズ リ	(16.2)	35.4	-	-	ハケメ(7本/cm)・ 外面黒斑
32SD001 I8 暗褐砂質土 暗褐粘質土	第165図	052	土師器	壺	雲母・赤色粒 子・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ハケメ・ 指頭痕	ハケメ	(16.1)	17.5+a	-	-	ハケメ(10本/cm)
32SD001 I11 暗褐砂質土 H	第165図	053	土師器	壺	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナ デ・指頭痕	工具ナデ・ヨ コナデ・指頭 痕	15.6	24.7+a	-	-	口縁部黒斑・粘土継 ぎ目
32SD001 I11 暗褐粘質土 K	第166図	054	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 角閃石	橙色	橙色	ナデ・ヨコナ デ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ミガキ	13.4	44.4	-	-	ハケメ(8本/cm)・ 外面赤色塗彩か・外 面黒斑・突帯
32SD001 I12 暗褐砂質土 F	第166図	055	土師器	複合口縁壺	長石・赤褐色 粒子	黄橙色	黄橙色	工具ナデ・ヨコ ナデ・ハケメ・ 指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ 口縁部刻み目	-	20.0+a	-	-	頸部・胸部突帯
32SD001 I9 暗褐砂質土 暗褐粘質土 I11 暗褐砂質 土トレンチ I12 暗褐砂 質土 F G11	第166図	056	土師器	複合口縁壺	雲母・白色粒 子・褐色粒子	褐灰色～にぶ い橙色	黄橙色～明赤 褐色	ヨコナデ・ハ ケメ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	23.8	63.6+a	-	-	ハケメ(5本/cm)(8 本/cm)外面黒斑・ 突帯
32SD001 I10 暗褐粘質土 I 暗褐砂質土 I	第167図	057	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・ 白色粒子・褐 色粒子	浅黄橙色	橙色	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・工 具痕	ナデ・ヨコナ デ・ヨコナデ 後櫛描波状文 ・ハケメ後ヨ コナデ	15.0	43.0	-	-	ハケメ内(4本/cm) 外(6本/cm)(8本 cm)・外面黒斑突 帯
32SD001 I8-H12 暗褐砂質土 I9 暗褐砂質 土 暗褐粘質土	第167図	058	土師器	複合口縁壺	長石	橙色	橙色	ナデ・ヨコナ デ・指頭痕	ナデ・ハケメ ・櫛描波状文	-	47.7+a	-	-	ハケメ(7~9本/cm)・ 外面黒斑
32SD001 I10 暗褐粘質土 J	第167図	059	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・ 白色粒子・褐 色粒子	橙色～にぶい 黃褐色	橙色～にぶい 黄橙色	ヨコナデ・ナ デ後ハケメ・指 頭痕	ナデ・工具ナ デ・ヨコナデ ・ハケメ・櫛 描波状文	16.7	41.1	-	-	ハケメ(9本/cm)・ 外面黒斑・突帯
32SD001 I11 暗褐砂質土 D	第167図	060	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・ 白色粒子・黑 色粒子・褐 色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ・ 指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ・櫛描波 状文	17.4	39.7	-	-	ハケメ(6本/cm)・ スス付着・突帯
32SD001 I10 暗褐砂質土 J	第168図	061	土師器	複合口縁壺	雲母・赤色粒 子・白色粒子	にぶい橙色	橙色	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ・ツマミ	-	38.0+a	-	-	ハケメ(5本/cm)(8 本/cm)・外面黒斑・ 頸部突帯
32SD001 I11 暗褐砂質土 D I12 暗褐砂 質土 H11 暗褐砂 質土 H12 暗褐砂 質土 F	第168図	062	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 赤褐色粒子	淡橙色	橙色	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ 櫛描波状文	18.8	48.0	-	-	ハケメ(4本/cm)(6 ~8本/cm)・外面 黒斑
32SD001 I10 暗褐粘質土 I	第168図	063	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・ 白色粒子	橙色～褐灰色	橙色～浅黄橙 色	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後ヨ コナデ・指頭痕	ハケメ・櫛 描波状文・工 具痕	13.8	12.0+a	-	-	ハケメ(5本/cm)(13 本/cm)・スス付着・ 突帯
32SD001 I10 暗褐砂質土 I	第168図	064	土師器	複合口縁壺	白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハ ケメ	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ ・櫛描波状文・ ケズリ	15.7	11.5+a	-	-	ハケメ(12本/cm)
32SD001 H11 暗褐砂質土 ベルト I11 暗褐粘質 土	第168図	065	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・ 白色粒子	灰褐色	橙色～明赤褐 色	ヨコナデ・ハ ケメ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ・キザミ 目・工具痕・ 線刻	17.0	46.8	-	-	ハケメ(6本/cm)・ 外面黒斑・突帯
32SD001 J7-I8 暗褐砂質土	第169図	066	土師器	複合口縁壺	角閃石・白色 粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ミ ガキ	ヨコナデ・ミ ガキ	(24.0)	14.7+a	-	-	ハケメ(10本/cm)・ 突帯
32SD001 I12 暗褐砂質土	第169図	067	土師器	複合口縁壺	長石・角閃石・ 赤色粒子	淡橙色	淡橙色～橙色	ナデ・ヨコナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(11.6)	19.7+a	-	-	ハケメ(8~10本/cm)・ スス付着
32SD001 I10 暗褐砂質土 G	第169図	068	土師器	二重口縁壺	石英・雲母・ 白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	ヨコナデ	16.0	8.0+a	-	-	
32SD001 H12 暗褐砂質土 E	第169図	069	土師器	二重口縁壺	雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	灰赤色～橙 色	橙色～にぶい 橙色	工具ナデ・ヨ コナデ・ケズリ ・粘土紐痕	ナデ・工具ナ デ・ヨコナデ ・ハケメ	(18.7)	41.9	-	-	ハケメ(8本/cm)・ スス付着・黒斑
32SD001 I9 暗褐砂質土 C	第169図	070	土師器	二重口縁壺	雲母・角閃石・ 白色粒子	明赤褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ・ハ ケメ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ	(19.0)	34.6	-	-	ハケメ(9本/cm)・ 外面黒斑
32SD001 I11 暗褐粘質土	第169図	071	土師器	二重口縁壺	白色砂礫	明赤褐色	明赤褐色	ケズリ	ナデ・ケズリ ・指頭痕	15.8	23.5	-	-	スス付着・全体の磨 滅著しい
32SD001 I9 暗褐砂質土	第169図	072	土師器	二重口縁壺	石英・角閃石・ 白色粒子・茶 色粒子	黄灰色	灰白色	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ケズ リ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	14.0	29.6	-	-	ハケメ(8本/cm)(11 本/cm)・外面黒斑・ 内面黑色化・スス付 着
32SD001 I10 暗褐砂質土 暗褐砂質土 I 暗褐粘質土	第170図	073	土師器	二重口縁壺	雲母・角閃石・ 白色粒子・褐 色粒子	明褐灰色～橙 色	明褐灰色～橙 色	工具ナデ・ヨ コナデ・ハケメ ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ	28.8	36.5	-	-	ハケメ(8本/cm)・ 外面黒斑

第53表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表52

遺構名	捲番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
32SD001 I10 暗褐砂質土	第170図	074	土師器	二重口縁壺	雲母・白色粒子	黒褐色	にぶい黄橙色～橙色	ナデ・ハケメ	ハケメ後ミガキ	-	21.3+a	-	-	ハケメ(10本/cm)・内外面頸部赤色塗彩・外面黒斑・内面黒色化
32SD001 I11 暗褐砂質土	第170図	075	土師器	二重口縁壺	角閃石・赤褐色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ハケメ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ	-	38.0+a	-	-	ハケメ(9本/cm)(10本/cm)磨滅著しい
32SD001 H12 暗褐砂質土	第171図	076	土師器	壺	雲母・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色～褐灰色～黒色	赤褐色～褐灰色	ナデ・工具ナデ・ハケメ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ	13.3	24.9	-	-	ハケメ(10本/cm)
32SD001 I10 暗褐粘質土	第171図	077	土師器	壺	石英・赤褐色粒子	にぶい橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・タタキ	14.2	25.2	-	-	ハケメ(5本/cm)
32SD001 I10 暗褐砂質土	第171図	078	弥生土器	壺	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	橙色	橙色～にぶい褐色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	13.9	14.7	-	-	ハケメ(11本/cm)・内外面黒斑
32SD001 I10 暗褐粘質土	第171図	079	弥生土器	長頸壺	長石・雲母・赤褐色粒子	にぶい橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ	ミガキ・ケズリ	-	9.3+a	-	-	ハケメ(10本/cm)
32SD001 I10 暗褐粘質土	第171図	080	弥生土器	複合口縁壺	石英・長石・角閃石・赤褐色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ナデ・ハケメ	ハケメ・櫛描波状文	13.4	25.1	-	-	ハケメ(6本/cm)(9本/cm)・外面黒斑・安国寺系
32SD001 I10 暗褐粘質土	第171図	081	弥生土器	複合口縁壺	雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色～橙色	浅黄橙色～橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・指頭痕	ハケメ	13.6	29.1+a	-	-	ハケメ(11本/cm)・スス付着
32SD001 H11 暗褐砂質土	第171図	082	弥生土器	壺底部	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	にぶい褐色	ナデ	ケズリ・ケズリ後ナデ	-	8.4+a	9.7	-	外面黒斑
32SD001 H11 暗褐砂質土	第172図	083	土師器	甕	角閃石・白色粒子・褐色粒子	にぶい橙色	橙色～赤褐色	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	(17.6)	33.0	-	22.2	内面スス付着
32SD001 I10 暗褐砂質土	第172図	084	土師器	甕	赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	17.1	29.2+a	-	23.8	ハケメ(8本/cm)・スス付着
32SD001 I10 暗褐砂質土	第172図	085	土師器	甕	雲母・白色粒子	にぶい橙色	にぶい黄橙色～黒褐色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	20.1	28.5	-	25.2	ハケメ(9～11本/cm)
32SD001 I10-I11 暗褐砂質土	第172図	086	土師器	甕	雲母・赤色粒子・白色粒子・黑色粒子	橙色～褐灰色	橙色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	22.0	33.9	-	28.4	ハケメ(4本/cm)(8本/cm)・スス付着
32SD001 I10 暗褐粘質土	第172図	087	土師器	甕	石英・長石	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	16.2	25.3	-	18.3	ハケメ(8本/cm)・スス付着
32SD001 I11 暗褐砂質土	第172図	088	土師器	甕	角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	明黄褐色	橙色	ナデ・ハケメ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ・指頭痕	(15.4)	21.9	-	18.0	外面黒斑
32SD001 I10 暗褐粘質土	第172図	089	土師器	甕	雲母・角閃石・白色粒子	赤褐色	赤褐色	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	18.6	26.8	-	23.2	ハケメ(8本/cm)・内面黒色化・スス付着
32SD001 I10 暗褐砂質土	第173図	090	土師器	甕	雲母・角閃石・白色粒子	にぶい橙色	橙色～にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	17.6	25.4+a	-	23.2	ハケメ(9本/cm)・内面黒斑・スス付着・二次焼成
32SD001 I10 暗褐砂質土	第173図	091	土師器	甕	雲母・白色粒子	橙色	橙色	ハケメ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	16.5	16.5+a	-	21.2	ハケメ内(4本/cm)・外(11本/cm)・スス付着
32SD001 I10 暗褐粘質土	第173図	092	土師器	甕	雲母・角閃石・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ケズリ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	(17.0)	17.9+a	-	20.7	ハケメ(9本/cm)・スス付着
32SD001 I10 暗褐粘質土	第173図	093	土師器	甕	雲母・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	15.9	24.6+a	-	23.0	ハケメ(12本/cm)・スス付着
32SD001 I10 暗褐砂質土	第173図	094	土師器	甕	雲母・赤褐色粒子・白色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	(14.7)	23.1	-	19.3	ハケメ(9本/cm)・内面黒斑・スス付着・二次被熱による赤変
32SD001 I10 暗褐砂質土	第173図	095	土師器	甕	雲母・白色粒子・茶色粒子	灰黄褐色～橙色	にぶい黄橙色～橙色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	17.3	22.7+a	-	20.2	ハケメ(10本/cm)・スス付着
32SD001 I10 暗褐粘質土	第173図	096	土師器	甕	雲母・角閃石・白色粒子	明赤褐色	にぶい黄橙色～明赤褐色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ・ケズリ?	15.5	23.8	-	20.6	ハケメ(11本/cm)・スス付着
32SD001 I10 暗褐砂質土	第173図	097	土師器	甕	角閃石・白色粒子・茶褐色粒子	橙色～褐灰色	橙色～褐灰色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(15.6)	21.6	-	19.7	ハケメ(7本/cm)・スス付着
32SD001 I11 暗褐粘質土	第173図	098	土師器	甕	石英・角閃石	浅黄色	にぶい黄色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	20.0	23.6	-	21.7	ハケメ(12本/cm)・スス付着
32SD001 I10 暗褐粘質土	第173図	099	土師器	甕	角閃石・赤色粒子・白色粒子	黄灰色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	15.5	16.8+a	-	22.0	ハケメ(9本/cm)・内面黒斑・スス付着
32SD001 I11 ハレンチ	第173図	100	土師器	甕	角閃石・赤褐色粒子	橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	(15.4)	19.5+a	-	21.5	ハケメ(10本/cm)・スス付着
32SD001 I10 暗褐粘質土	第173図	101	土師器	甕	石英・長石	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	16.2	17.5+a	-	21.5	ハケメ(10本/cm)・スス付着

第54表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表53

遺構名	捲番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大腹部径/重さ	
32SD001 I9 暗褐色砂質土 暗褐色粘質土	第174図	102	土師器	甕	石英・雲母・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・指頭痕・工具痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ・ケズリ後ナデ	16.8	26.0	-	20.9	ハケメ(10本/cm)・外面黒斑・内面黒色化
32SD001 I11 暗褐色砂質土 H	第174図	103	土師器	甕	長石・角閃石・赤褐色粒子	黄褐色	明黄褐色	ヨコナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	16.0	23.5	-	21.5	ハケメ(10本/cm)・内外面黒斑・スヌ付着
32SD001 H11 暗褐色砂質土 ペルト	第174図	104	土師器	甕	角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙色	橙色～明褐灰色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	(16.0)	24.6	-	21.4	ハケメ(8本/cm)・スヌ付着
32SD001 I10 暗褐色砂質土 暗褐色粘質土	第174図	105	土師器	甕	角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ヨコナデ・ハケメ後ケズリ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	15.6	20.5	-	18.6	ハケメ(8本/cm)(10本/cm)・スヌ付着
32SD001 I8 暗褐色砂質土 暗褐色粘質土	第174図	106	土師器	甕	角閃石・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ・工具痕	ヨコナデ・ハケメ	15.6	20.6+a	-	19.6	ハケメ(9本/cm)・スヌ付着
32SD001 I10 暗褐色砂質土	第174図	107	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石	灰黄色～黄灰色	灰黄色～黄灰色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・工具痕	16.7	21.2	-	20.0	ハケメ(10～11本/cm)・スヌ付着
32SD001 J7 暗褐色砂質土	第175図	108	土師器	小形甕	角閃石・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ	(8.6)	10.3	-	-	ハケメ(9本/cm)・スヌ付着
32SD001 I8 暗褐色砂質土	第175図	109	土師器	小形甕	長石・雲母	淡橙色	浅黄橙色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	15.5	10.4+a	-	-	ハケメ(6本/cm)・内面スヌ付着
32SD001 I9 暗褐色砂質土	第175図	110	土師器	小形甕	雲母・赤褐色粒子・白色粒子	灰色～橙色	灰色～橙色	ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	13.7	13.9	-	-	ハケメ(11本/cm)・内面黒斑・スヌ付着
32SD001 I8 暗褐色砂質土	第175図	111	土師器	小形甕	雲母・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズリ後工具ナデ	ヨコナデ・ハケメ	13.9	15.1	-	-	ハケメ(6本/cm)・スヌ付着
32SD001 I11 暗褐色砂質土 D	第175図	112	土師器	小形甕	角閃石・白色粒子・黒色粒子	明赤褐色	明赤褐色	工具ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ・指頭痕・工具痕	ヨコナデ・ハケメ・指頭痕	(14.8)	18.2	-	-	ハケメ(8本/cm)・スヌ付着
32SD001 H10 暗褐色砂質土	第175図	113	土師器	小形甕	石英・角閃石・白色粒子	灰黄色	灰黄褐色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・指頭痕	(14.2)	18.5	-	-	ハケメ(9本/cm)・スヌ付着
32SD001 I8 暗褐色砂質土	第175図	114	土師器	小形甕	雲母・白色粒子	にぶい黄橙色	灰黄褐色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	14.0	16.2	-	-	ハケメ(9本/cm)・外側黒斑
32SD001 I11 暗褐色砂質土 D	第175図	115	土師器	小形甕	雲母・赤褐色粒子・白色粒子	橙色	橙色～にぶい橙色	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ	15.5	14.3+a	-	-	ハケメ(8本/cm)・スヌ付着・体部歪みあり
32SD001 H12 暗灰砂質土 F	第175図	116	土師器	小形甕	角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	強いナデ・ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	14.1	13.3+a	-	-	ハケメ(13本/cm)・スヌ付着
32SD001 I10 暗褐色粘質土 I	第175図	117	土師器	広口甕	雲母・赤褐色粒子・白色粒子	灰褐色	にぶい橙色	ナデ・工具ナデ?・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	26.1	28.2	-	-	ハケメ(5本/cm)(10本/cm)・外側黒斑・突帯貼付
32SD001 I11 暗褐色粘質土 L	第175図	118	弥生土器	甕	石英・長石・角閃石	灰白色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	15.4	26.2	-	-	ハケメ(7～9本/cm)
32SD001 H11 暗褐色砂質土	第175図	119	弥生土器	甕	角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～褐灰色	橙色～灰白色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(13.8)	20.3+a	-	-	ハケメ(8本/cm)・スヌ付着
32SD001 I8 暗褐色粘質土	第175図	120	弥生土器	甕底部	長石・角閃石	にぶい橙色	明褐灰色	ケズリ	ハケメ後ナデ・ケズリ	-	11.0+a	2.1	-	ハケメ(6本/cm)
32SD001 I8 暗褐色砂質土	第175図	121	弥生土器	甕底部	石英・雲母・角閃石・白色粒子	にぶい黄褐色	明黄褐色	ケズリ	ナデ・ヘラケズリ後ハケメ	-	10.1+a	2.9	-	ハケメ(9本/cm)
32SD001 I8 暗褐色砂質土	第175図	122	弥生土器	甕底部	石英・長石・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ケズリ後ハケメ	ナデ・ハケメ	-	12.3+a	6.1	-	ハケメ(10本/cm)・外側黒斑
32SD001 H11 暗褐色砂質土	第176図	123		土錐	角閃石・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	-	ナデ	5.0+a	1.1	-	-	孔径0.4cm
32SD001 H12 暗褐色粘質土	第176図	124	石器	すり石	-	-	灰黄色	-	-	11.1	6.4	4.3	419.8g	角閃石安山岩 敲き痕
32SD001 I9 暗褐色砂質土	第176図	125	石器	敲き石か	-	-	灰黄色	-	-	7.7	8.3	3.1	335.0g	角閃石安山岩 調整不明

32SE020-025

遺構名	捲番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大腹部径/重さ	
32SE020 J10 暗褐色粘質土 P-6	第180図	001	土師器	壺	雲母・赤褐色粒子	橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・指オサ工	18.6	32.4	-	-	ハケメ(12本/cm)・外側黒斑
32SE020 J10 暗褐色粘質土 P-4 J11暗褐色 質土 32SE025 J11 黒褐色粘質土	第180図	002	土師器	壺	石英・長石	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ・ミガキ・ハケメ後ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	(14.6)	26.7	-	-	ハケメ(12本/cm)・外側黒斑化・外側スヌ付着
32SE020 J10-J11 暗褐色粘質土 32SE025 J11 黒褐色粘質土	第181図	003	土師器	甕	雲母・白色粒子	明赤褐色～灰白色	明赤褐色～灰白色	ハケメ・ケズリ・ケズリ後ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	14.1	22.1	-	17.5	ハケメ(6本/cm)・外側スヌ付着

第55表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表54

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大脇部径/重さ	
32SE020 J10 暗褐色質土 P-8	第181図	004	土師器	甕	角閃石・白色 粒子	にぶい橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ	ヨコナデ・ハ ケメ	15.8	25.2	-	19.7	ハケメ(6~8本/cm) 内面黒斑・外面スス付着
32SE020 J10 暗褐色質土	第181図	005	土師器	甕	角閃石・白色 粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ	18.0	25.3	-	19.7	ハケメ(12本/cm) 内面黒斑・外面スス付着
32SE025 J9 暗褐色質土 最下層	第181図	006	土師器	甕	長石・赤褐色 粒子	にぶい橙色	橙色	ハケメ・ハケメ 後ヨコナデ・ケ ズリ・ハケメ後 ケズリ	ヨコナデ・縦 方向のハケメ ケズリ	17.2	25.7	-	21.8	ハケメ(8本/cm) 外面スス付着
32SE020 J11 黒褐色質土 P-2	第181図	007	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	橙色	浅黄橙色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ	15.4	22.9	-	20.1	ハケメ(7本/cm) 内面黒化・外面 スス付着
32SE025 J9 暗褐色質土 最下層	第181図	008	土師器	甕	赤褐色粒子・ 白色粒子	明黄褐色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケ メ・指オサエ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ	(17.2)	17.9+a	-	24.4	ハケメ(5~8本/cm) 外面スス付着
32SE020 J11 黒褐色質土	第181図	009	土師器	甕	雲母・白色粒 子	灰白色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ・摩 耗により不明瞭	ヨコナデ・ハ ケメ・ケズリ?	17.2	24.4	-	20.6	ハケメ(5本/cm) 内外面スス付着
32SE020 J10 暗褐色質土 32SE025 J11 黒褐色質土	第181図	010	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	淡黄色	淡黄色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ハ ケメ後ナデ	16.0	24.1	-	20.6	ハケメ(5本/cm) 外面スス付着
32SE020 J10 暗褐色質土 P-9	第181図	011	土師器	甕	長石・赤褐色 粒子	浅黄色	明黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ	(16.0)	23.3	-	20.9	ハケメ(8本/cm) 外面スス付着
32SE020 J11 暗褐色質土 P-3	第182図	012	土師器	甕	雲母・白色粒 子	灰黄褐色	にぶい黄橙色	ハケメ・ハケメ 後ナデ・ケズリ・ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ	15.4	21.9	-	20.2	ハケメ(6本/cm) 外表面スス付着・二次 焼成による赤変
32SE020 J10 暗褐色質土 32SE025 J11 黒褐色質土	第182図	013	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	黃灰色	浅黄色	ヨコナデ・ケズ リ・指オサエ	ヨコナデ・横 方向~縦方向 ハケメ	(16.4)	22.9+a	-	23.5	ハケメ(7~11本/cm)
32SE020 J10 暗褐色質土 P-10	第182図	014	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ・ハ ケメ後ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ後 ヨコナデ	15.2	13.6	-	16.4	ハケメ(7本/cm) 外表面スス付着
32SE025 J9 暗褐色質土 最下層	第182図	015	土師器	甕	石英・長石・ 赤褐色粒子	淡橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ナデ	(16.4)	22.9	-	21.4	ハケメ(6~7本/cm) 外表面スス付着
32SE020 J10 暗褐色質土 32SE025 J11 黒褐色質土	第182図	016	土師器	甕	石英・赤褐色 粒子	にぶい橙色	橙色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ	14.6	18.3	-	18.2	ハケメ(12本/cm) 外表面スス付着
32SE025 J8 暗褐色質土	第182図	017	土師器	甕	石英・赤褐色 粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ	15.5	21.2	-	19.9	ハケメ(8本/cm) 内面黒化・外表面 スス付着
32SE020 J10 暗褐色質土 32SE025 J11 黒褐色質土	第182図	018	土師器	甕	赤褐色粒子・ 白色粒子	黃橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ヨコナ デ・ケズリ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	14.6	22.8	-	20.5	ハケメ(10本/cm) 外表面スス付着・二次 焼成による赤変?
32SE020 J10 暗褐色質土 32SE025 J11 黒褐色質土	第182図	019	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	にぶい橙色	浅黄橙色	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・指オ サエ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ後 ヨコナデ	18.4	27.5+a	-	23.2	ハケメ(10本/cm) 外表面スス付着

32SE030

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大脇部径/重さ	
32SE030 J7 暗褐色質土 上層	第183図	001	ミナガ土器	鉢	石英・赤褐色 粒子・白色粒 子	にぶい赤褐色	褐灰色	指頭痕	指頭痕	(6.0)	2.6+a	-	-	
32SE030 J7 黒褐色質土	第183図	002	ミナガ土器	鉢	角閃石・赤褐色 粒子	浅黄色	明黄褐色	ナデ	ナデ・指頭痕	6.8	4.8	-	-	外面黒斑
32SE030 J7 黒褐色質土 暗褐色質土 上層	第183図	003	土師器	高坏	長石・赤褐色 粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ケズリ・ナ デ	17.8	13.6	11.9	-	ハケメ(6本/cm)
32SE030 J7	第183図	004	土師器	高坏	石英・長石	橙色	橙色	放射状のミガ キ・ケズリ・ヨ コナデ	ヨコナデ・ミ ガキ・ケズリ	13.6	14.3	10.5	-	
32SE030 J7 暗褐色質土 上層	第183図	005	土師器	高坏	白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズ リ・ハケメ・ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ	15.4	13.6	11.6	-	
32SE030 J7 暗褐色質土 上層	第183図	006	土師器	高坏 壁部	長石・雲母・ 赤褐色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	(16.8)	4.9+a	-	-	ハケメ(9~10本/cm)
32SE030 J7 暗褐色質土 上層	第183図	007	土師器	高坏 脚部	石英・長石・ 雲母・赤褐色 粒子	橙色	にぶい褐色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ後 ヨコナデ	-	7.2+a	(11.4)	-	ハケメ(7本/cm)
32SE030 J7 暗褐色質土 上層	第183図	008	土師器	高坏 脚部	石英・長石	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ケズリ・ヨコナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ケズリ	-	9.1+a	(12.2)	-	ハケメ(8本/cm) 外面黒斑
32SE030 J7 暗褐色質土 上層	第183図	009	土師器	高坏 脚部	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	黑色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・しほ り痕	ヨコナデ・ハ ケメ	-	8.6+a	-	-	ハケメ(10本/cm)
32SE030 J7 暗褐色質土 上層	第183図	010	土師器	鉢	石英・角閃石・ 赤褐色粒子	橙色	にぶい赤褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ミ ガキ	ハケメ後ヨコ ナデ	(18.0)	4.8+a	-	-	ハケメ(9~10本/cm)

第56表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表55

遺構名	捲図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
32SE030 J7 暗褐色粘質土 上層	第183図	011	土師器	鉢	石英・角閃石・赤褐色粒子	橙色	にぶい橙色	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭	10.3	8.3	-	-	ハケメ(10本/cm) 外面黒斑
32SE030 J7 黒褐色粘質土 J8 暗褐色粘質土 最下層	第183図	012	土師器	鉢	角閃石・白色粒子	橙色	黒褐色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	(22.0)	22.0+a	-	-	ハケメ(6本/cm) 外面スス付着
32SE030 J7 暗褐色粘質土 上層	第183図	013	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・赤褐色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ミガキ・ケズリ	9.6	7.6	-	-	ハケメ(10本/cm) 外面黒斑
32SE030 J7 暗褐色粘質土 上層	第183図	014	土師器	小型丸底壺	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ	ヨコナデ・ケズリ	10.0	7.0	-	-	
32SE030 J7 暗褐色粘質土 上層	第183図	015	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石・赤褐色粒子	黄灰色	にぶい黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ後ミガキ・ハケメ	(11.2)	8.3	-	-	ハケメ(7本/cm) 外面黒斑
32SE030 J7 暗褐色粘質土 上層 32SE030 J7 暗褐色粘質土 上層	第183図	016	土師器	小型丸底壺	石英・雲母・赤褐色粒子	橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ヨコナデ後ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	(10.4)	11.0+a	-	-	ハケメ(10本/cm) 外面黒斑
32SE030 J7 暗褐色粘質土 上層 暗褐色粘質土 上層	第183図	017	土師器	小型丸底壺	長石・角閃石・赤褐色粒子	にぶい黄橙色	明黄褐色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	(9.8)	11.1+a	-	-	ハケメ(7~9本/cm) 外面黒斑
32SE030 J7 暗褐色粘質土 上層 J7 暗褐色 質土	第183図	018	土師器	小型丸底壺	石英・角閃石・赤褐色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ	(8.0)	8.3	-	-	外面黒斑
32SE030 J7 暗褐色粘質土 上層	第183図	019	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石	橙色	橙色	ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・指オサエ	10.6	9.2	-	-	ハケメ(9本/cm) 外面黒斑
32SE030 J7 暗褐色粘質土 上層	第183図	020	土師器	壺	石英・長石	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	12.4	15.5	-	-	ハケメ(10本/cm)
32SE030 J7 黒褐色粘質土 暗褐色粘質土 暗褐色粘質土 上層	第183図	021	土師器	壺	赤褐色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ケズリ・指オサエ	ナデ・ヨコナデ・指オサエ	(13.0)	12.7+a	-	-	
32SE030 J7 黒褐色粘質土 暗褐色粘質土 暗褐色粘質土 上層	第183図	022	土師器	直口壺	長石・雲母	橙色	橙色	ハケメ後ミガキ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ミガキハケメ後ヨコナデ	14.4	19.8	-	-	ハケメ(3本/cm)(7本/cm)
32SE030 J7 黒褐色粘質土 暗褐色粘質土 暗褐色粘質土 下層	第184図	023	土師器	壺	長石・赤褐色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	14.4	28.4	-	-	ハケメ(8本/cm) 外面黒斑・穿孔1箇所
32SE030 J7 暗褐色粘質土 暗褐色粘質土 上層 黒褐色粘質土	第184図	024	土師器	壺	赤褐色粒子・白色粒子	橙色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ・指オサエ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	(15.0)	32.3	-	-	ハケメ(6本/cm) 外面黒斑
32SE030 J7 暗褐色粘質土 上層 暗褐色粘質土 上層	第184図	025	土師器	壺	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい橙色	灰白色	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	13.6	27.8+a	-	-	ハケメ(5本/cm) 外面黒斑
32SD001 J7 暗褐色粘質土 32SE030 J7 黒褐色粘質土 暗褐色粘質土 暗褐色粘質土 上層 暗褐色粘質土	第184図	026	土師器	壺	角閃石・長石・赤褐色粒子	淡橙色	淡橙色	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ケズリ・ケズリ・指オサエ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	16.6	32.5	-	-	ハケメ(8本/cm)外 面黒斑・粘土継ぎ目
32SE030 J7 黒褐色粘質土 暗褐色粘質土 暗褐色粘質土 上層	第184図	027	土師器	壺	長石・雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子・黒色粒子	灰白色～灰色	にぶい橙色～灰白色	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	15.6	35.4+a	-	-	ハケメ(4本/cm)(8本/cm)外面黒斑
32SE030 J7 黒褐色粘質土 暗褐色粘質土 黑褐色粘質土	第185図	028	土師器	壺	角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ・指オサエ後ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・指オサエ後ヨコナデ	16.0	30.2	-	-	ハケメ(10~12本/cm) 外面赤彩
32SE030 J7 黒褐色粘質土 暗褐色粘質土 暗褐色粘質土 最下層 上層～下層	第185図	029	土師器	壺	石英・長石	橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ケズリ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	21.4	34.7	-	-	ハケメ(12本/cm) 外面スス付着
32SE030 J7 暗褐色粘質土	第185図	030	土師器	複合口縁壺	石英・長石・雲母・赤褐色粒子	にぶい橙色	にぶい褐色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・描畫波状文(2案)	11.1	7.3+a	-	-	ハケメ(10~12本/cm)
32SE030 J7 黒褐色粘質土	第185図	031	土師器	甕	石英・長石・赤褐色粒子	灰黄色	にぶい黄色	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(11.8)	10.3+a	-	15.3	ハケメ(3~4本/cm) 外面スス付着
32SE030 J7 黒褐色粘質土 暗褐色粘質土 上層	第185図	032	土師器	甕	角閃石・白色粒子	黄橙色	浅黄橙色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	17.4	12.3+a	-	-	ハケメ(14本/cm)

第57表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表 56

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	
32SE030 J7 黒褐色質土	第185図	033	土師器	甕	角閃石・赤褐色粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ・ハケメ後ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・指オサエ	16.4	24.0	-	21.1 ハケメ(10本/cm)
32SE030 J7 黒褐色質土 J8 暗褐色質土最下層	第185図	034	土師器	甕	石英・赤褐色粒子	灰褐色	黑褐色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	(19.6)	26.9	-	24.0 ハケメ(10本/cm)外面スス付着
32SE030 J7 暗褐色質土上層 黒褐色質土 J7 暗褐色質土	第185図	035	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤褐色粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ・指オサエ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	(14.8)	23.8	-	20.5 ハケメ(6~10本/cm)外面黒斑
32SE030 J7 暗褐色質土上層	第185図	036	土師器	甕	石英・長石	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ・ハケメ後ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	14.8	20.8	-	18.0 ハケメ(8~10本/cm)外面スス付着
32SE030 J7 砂層	第185図	037	土師器	甕	石英・角閃石・赤褐色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	15.2	20.7	-	19.4 ハケメ(12本/cm)外面スス付着
32SE030 J7 暗褐色質土上層	第186図	038	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤褐色粒子	浅黄橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(15.8)	27.6	-	23.9 ハケメ(4本/cm)(8本/cm)・外面黒斑・内面黑色化
32SE030 J7 砂層	第186図	039	土師器	甕	角閃石・赤褐色粒子	灰黄色	浅黄色	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ		22.6+a	-	ハケメ(6本/cm)外面スス付着
32SE030 J7 黒褐色質土 J8 暗褐色質土最下層	第186図	040	土師器	甕	長石	灰白色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケメ後ミカキ・ミカキ・指オサエ	ヨコナデ・ハケメ	16.4	31.7	-	23.4 ハケメ(9~11本/cm)内底面黒斑・外面スス付着
32SE030 J7 黒褐色質土 暗褐色質土上層 暗褐色質土最下層	第186図	041	土師器	甕	長石・角閃石・赤褐色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ・指オサエ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	19.6	31.5	-	25.5 ハケメ(6本/cm)外面スス付着
32SE030 J7 黒褐色質土下層	第186図	042	土師器	甕	長石・赤褐色粒子	褐灰色	にぶい橙色	ハケメ後ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	17.0	29.5	-	24.2 ハケメ(12本/cm)外面黒斑
32SE030 J7 暗褐色質土最下層	第186図	043	土師器	甕	長石・角閃石	にぶい橙色	浅黄橙色	ハケメ・ヨコナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	18.5	29.5	-	24.3 ハケメ(6本/cm)外面スス付着

特殊遺物観察表

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量(cm)			備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	
32SD001 I10 暗褐色質土	第191図	001		製塩土器	石英・砂粒	淡橙褐色	暗橙茶褐色	ナデ		-	3.2+a	0.4	-
32SD001 I9-I10 暗褐色質土	第191図	002		製塩土器	石英・褐色粒子	淡灰茶褐色	橙褐色	ナデ	指オサエ・ナデ	-	2.0+a	5.3	- 底部完存・端部に多数のナデ
20SD001 f区上層	第191図	003		製塩土器	石英	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサエ	-	2.5+a	(6.6)	-
20SD001 f区上層	第191図	004		製塩土器	石英・赤色粒子	灰褐色~明赤褐色	明赤褐色	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサエ	-	4.7v	(6.3)	-
20SD001 f区上層	第191図	005		製塩土器	石英・Φ 1mm程度の白色粒子	淡黒色	暗橙褐色~淡黒色	ナデ	タタキ後ナデ	-	4.6+a	4.6	- 底部完存・全面に二次被熱の痕跡あり
20SD001 c区上層	第191図	006		製塩土器	石英・角閃石	淡灰黒色	淡黄褐色	ナデ	タタキ後ナデ・指オサエ後ナデ	-	3.8+a	(4.6~5.4)	- 二次被熱
20SD001 d区上層	第191図	007		製塩土器	石英・褐色粒子を多量に含む	淡橙褐色~淡灰黒色	淡橙褐色~淡灰黒色	ナデ	ナデ・指オサエ	-	3.5+a	(5.6)	- 二次被熱
20SD001 d区上層	第191図	008		製塩土器	石英・褐色粒子を多量に含む	淡褐黒色	淡橙褐色	ナデ	指オサエ・ナデ	-	4.0+a	5.6	- 二次被熱・端部に多数のナデ
20SD001 f区上層	第191図	009		製塩土器	石英・褐色粒子	淡橙褐色~淡灰黒色	淡橙褐色~淡灰黒色	ナデ	ナデ	-	2.7+a	(6.0)	-
20SD001 f区上層	第191図	010		製塩土器	石英・砂粒	明橙色~淡灰黒色土	明橙色~淡灰黒色土	指オサエ・ナデ	指オサエ・ナデ	-	3.8+a	5.3	- 底部完存・端部ヒビ多数・全面二次被熱
20SD001 f区上層	第191図	011		製塩土器	砂粒・赤色粒子・石英	淡灰黒色	淡黄橙色	ナデ	ナデ・指オサエ	-	4.2+a	(5.6)	- 脚内部無数のヒビが入る・二次被熱
23SD001-6 下層	第191図	012		製塩土器	石英・角閃石	淡黄茶褐色	淡黃白色~橙褐色	ナデ	指オサエ・ナデ	-	2.3+a	4.0	- 二次被熱
23SD001-6	第191図	013		製塩土器	石英・褐色粒子	淡黄褐色	橙白褐色~淡灰黒色	ナデ	タタキ後ナデ・横方向の連続指オサエ	-	4.9+a	5.4	- 底部完存
23SD001-10	第191図	014		製塩土器	角閃石粒・石英	明橙色~淡黄褐色	明橙色~淡黄褐色	ナデ	指オサエ・粗いナデ	-	5.2+a	6.3	- 粘土輪痕跡・二次被熱
23SD001-6 中層	第191図	015		製塩土器	石英粒	黄茶褐色~黒色	淡橙色~黃褐色	ナデ	指オサエ・ナデ	-	2.4+a	4.7	- 底部完存・二次被熱が顕著
23SD170-6	第191図	016		製塩土器	石英粒・結晶片岩片	淡黄灰褐色	橙褐色	ナデ・絞り痕	タタキ痕・指オサエ・ナデ	-	4.1+a	4.8	- 底部完存・端部ヒビ多数・全面二次被熱
23SD001	第194図	001	土製品	猿形土製品	石英・雲母・赤色粒子		橙色			3.8	3.4	3.8	- 手づくね
32SD001 H12 暗褐色質土	第195図	001	土製品	土製模造鏡	長石・石英・角閃石・雲母・白色粒子・赤色粒子・橙色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ナデ?	ナデ・指頭痕	5.3	3.6	1.5	- 端部に指オサエ痕あり

## 第IV章 自然科学分析

### 第1節 大道遺跡群における樹種同定

株式会社 古環境研究所

#### 1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

#### 2. 試料

試料は、井戸から出土した木製品の木材1点である。試料の詳細を表1に示す。

#### 3. 方法

カミソリを用いて新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目）、接線断面（板目）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40～1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

#### 4. 結果

表1に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

サカキ *Cleyera japonica* Thunb. ツバキ科 図版6

横断面：小型の道管が、単独ないし2個複合して密に散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は多く40を越える。放射組織は平伏細胞、方形細胞、直立細胞からなる異性である。接線断面：放射組織は、異性放射組織型で單列である。

以上の形質よりサカキに同定される。サカキは関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布する。常緑高木で、通常高さ8～10m、径20～30cmである。材は強靭、堅硬で、建築、器具などに用いられる。

#### 5. 所見

樹種同定の結果、サカキが同定された。サカキは強靭、堅硬な材である。サカキは照葉樹林の構成要素で、暖温帯に分布する樹木である。当時の遺跡周辺もしくは近隣の地域で採取可能な樹種であったと考えられる。

#### 文献

島地謙・佐伯浩・原田浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司（1985）木材の構造。文永堂出版、290p.

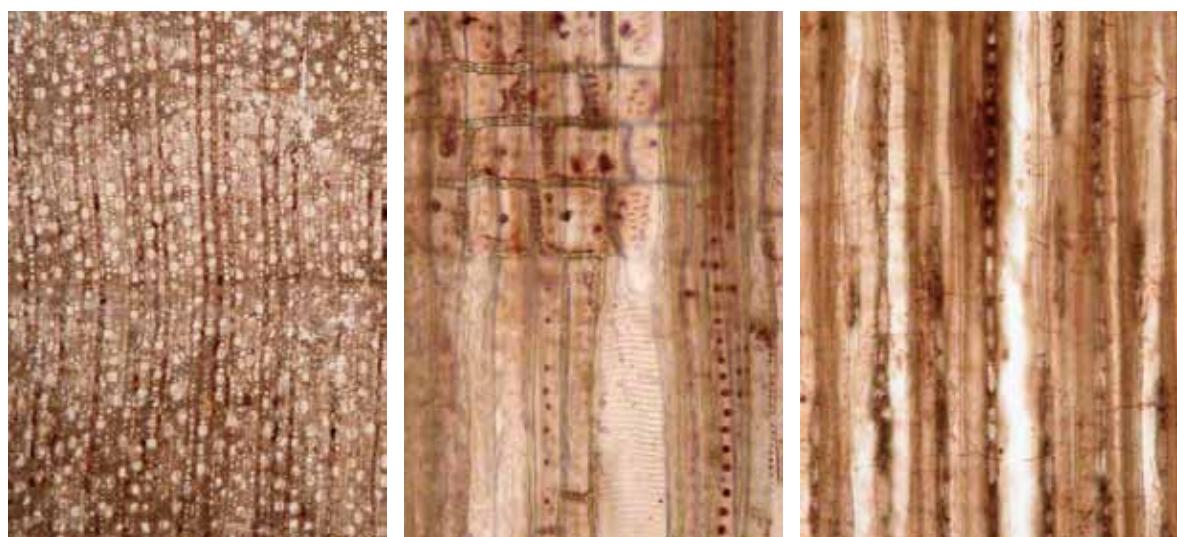
島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧。雄山閣、296p.

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史。植生史研究特別1号。植生史研究会、242p.

表1 大道遺跡群における樹種同定結果

No.	調査区	遺構No.	種類	結果 (学名／和名)
1	23次	S003 P-3		<i>Cleyera japonica</i> Thunb. サカキ

大道遺跡群の木材



横断面 放射断面 接線断面  
6. 1 23次 S003 P-3 サカキ

第196図 大道遺跡群の木材

## 第V章　まとめ

### 第1節　総括

今回の調査区では、弥生時代後期の土坑、古墳時代前期前葉と考えられる大溝（環濠）、井戸跡、古代の国衙関連と考えられる掘立柱建物跡が発見されている。検出遺構の中心は古墳時代の大溝（環濠）と井戸跡である。出土土師器は完存品、完形復元をした資料を含め2000点を超える膨大なものである。土師器の種類は、椀、器台、鼓形器台、高坏、壺、長頸壺、在地系甕、布留式系甕、大形土錘、製塩土器など多種多様である。井戸跡の遺物と環濠の遺物は接合関係が見られることからほぼ同時期の廃棄と考えられる。廃棄された時期の主体は、古墳時代前期の時期に集中している。また第24次調査SE008出土の土器群の時期と共に通している。中心時期は、布留I式中頃と考えられる。今回の出土遺物の中で特筆すべきものは、大形管状土錘と備讚瀬戸系の脚台付製塩土器であり、出土量が多量であることも注目される。製塩土器の胎土中には、やや大きめの石英や角閃石を含むことから豊後水道沿岸に位置する海部郡からの持ち込みであろうと推察されていた。しかしながら製塩土器の胎土を精査してみると、大分市域で出土した製塩土器の胎土中には石英の小さいものが多数認められることから、大分市中心部の海岸部でも作っていた可能性が想定される。大形土錘は、川ではなく海での漁で利用するものである。両者の存在は、大道遺跡群が海との関わりを強く持つという性格を示している。

古墳時代の集落の時期的な変遷は下郡遺跡群→大道遺跡群→東田室遺跡と確認され、拠点的な集落の移転として捉えられる可能性が示唆される。

### 第2節　大道遺跡群第20・23・32次溝状遺構について

今回報告した第20次・23次・32次調査区で検出した溝状遺構は、断面が逆台形状を呈し、幅約3mで、出土土器の様相から、古墳時代前期に廃絶した一連の環濠と考えられる。環濠の端部は検出しておらず、現在の大分駅を囲むような形で弧状を呈している。その範囲からは後世の削平によるためか、住居跡は検出されなかったものの、環濠と同時期に廃絶したと考えられる井戸跡を数基検出した。特に第20次調査区では、溝状遺構（20SD001）と井戸跡（20SE001）の出土土器が遺構間接合しており、遺構の同時代性がうかがえる。

また、環濠の南側に位置する大道遺跡群第4次・5次調査からも、廃絶時期が環濠と同じく、概ね古墳時代前期前葉から中葉までの遺構を検出している。井戸跡を中心とするが、特に第4次調査では古墳時代前期の竪穴遺構を検出している。今次報告の環濠の機能時期に、環濠の南北に集落のひろがりがあったことが推測される。<sup>(註1)</sup>

今次報告の環濠からは、製塩土器・土錘・猿形土製品をはじめ古墳時代前期を中心とする土器が大量に出土した。遺物の大半は、埋土中層から上層にかけて出土しており、溝状遺構が環濠として機能を停止した後、埋没する段階に廃棄されたものと考えられる。出土遺物は点数も多く、器種も多岐にわたっていたため、器種ごとに分類を行い、当該期の編年における位置付けについて検討した。それぞれの溝状遺構出土土器の所産年代については、各次数の調査の成果を参照されたい。環濠出土遺物は少なくとも、古相は古墳時代初頭から、新相は古墳時代前期後葉までの時期幅を持っていると考えられる。遺物の時期幅から、廃棄の開始と最終廃棄段階には、一定程度の時間幅が認められる。特に23SD170出土遺物は、比較的古相を示している。また、23SD170付近には、井戸跡の検出事例が少ないなど、環濠の東端部分は早い段階から機能を停止した可能性が想定できる。

環濠の廃絶時期は古墳時代前期と推定できるが、掘削時期および、それに伴う集落の開始時期については不明である。しかしながら、出土遺物の中には弥生時代後期終末期の遺物が散見される。また第23次調査区では、弥生時代後期の遺構として、環濠の南側から井戸跡（23SE011）、東側から廃棄土坑（23SX038）を検出した。これらのことから、環濠の掘削年代が弥生時代後期まで遡り、環濠に伴う集落も同時期にはすでに存在していた可能性を想定できる。

### 第3節 大道遺跡群 20・23・32 次井戸状遺構の変遷について

今回の調査では各次数ともそれぞれの地点において古墳時代前期に比定される井戸状遺構を検出している。ここでは、その中でも一括資料として良好な遺物が出土した3基（23SE051・23SE099・32SE030）の井戸跡を選出し、その出土遺物から時間的な位置付けを行い、遺構の変遷並びに該期の様相を検討する。なお、各井戸状遺構の概要は紙面の都合上割愛しているため、第Ⅲ章を参照していただきたい。

大分平野における古墳時代前期の井戸状遺構検出事例は、本遺跡群の他、大分川を挟んで東側に位置する下郡遺跡群と本遺跡群の西側に所在する東田室遺跡の3遺跡である。いずれの遺跡群の井戸状遺構も平面プランは円形を基調とした素掘りの井戸であり、形態的な時期毎の変遷は認められない。<sup>(註2)</sup> その規模や状況等は今次報告の遺構と3遺跡の遺構群とも類似している。次に出土遺物からみると、23SE099出土の資料は、底部の丸底化や壺の球形化等新しい様相が認められるが、土師器Ⅱb期に比定される下郡遺跡群第92次SH343出土資料のような新しい様相は見受けられず、土師器Ⅱa期（古墳時代前期前葉）の範疇におさまるものと考えられる。さらに、その中でも球形化の進んだ新しい要素を含む直口縁壺が認められることから、土師器Ⅱa期の中でも新相に位置付けられるものとして理解しておきたい。23SE051出土の甕資料は在地の甕に外来の成形技法が導入されており、細密なハケ目調整とともにケズリが顕著に見られる。底部は丸底であり、胴部形態は球形胴化が進展しながらも、長胴の名残を残している。土師器Ⅱb期でも古相と考えられる遺物群である。32SE030出土の004・005は植田市遺跡E区溝<sup>(註4)</sup>出土の布留式系高坏と同様のものであり、脚部がスラリと伸び、裾部が底面で開くタイプである。古墳時代前期中葉から後葉の所産と考えられる。以上のことから、井戸の新旧関係は23SE099（古墳時代前期前葉の新相）→23SE051（古墳時代前期中葉の古相）→32SE030（古墳時代前期中葉の新相～後葉）<sup>(註5)</sup>と推定される。この他、20SE001、32SE020・025等の井戸状遺構を検出しており、いずれも出土遺物から古墳時代前期前葉から後葉の所産と推定される。

上記の様相を踏まえ、大道遺跡群内の該期の様相を整理すると、井戸状遺構群は第198図に示されるように、各次数を貫く環濠の東側にそのほとんどが位置し、遺跡の南東側から北西に向いながら変遷したと考えられる。また、第4・5次調査ではこの環濠の南側に竪穴遺構2基を伴う井戸状遺構を6基確認している。さらに第23次調査地点から南へ300mほどの、第16次・24次調査地点周辺を中心とするエリアでも、素掘りの井戸状遺構群が検出されており、特に24SE008では、井戸廃棄時に木臼を遺棄した状況が確認されている。年代測定分析により井戸廃棄年代は古墳時代前期前葉に比定されている。大道遺跡群内の集落は環濠を挟んでその両側に同時期あるいはわずかな時期差をもちながら複数展開していた可能性が考えられる。また、集落形成の始まりは確認できないが、第32次調査において、井戸状遺構と環濠の廃絶時期がほぼ同時であることが出土遺物から確認できており、古墳時代前期後葉には集落自体の衰退あるいは移動が行われたことを示唆している。

#### 註

註1 大分市教育委員会 2009『大道遺跡群2』-大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5-

註2 坪根伸也 2008「東九州（大分県）における弥生時代～古墳時代前期の井戸跡検出事例」『第57回埋蔵文化財研究集会 井戸再考－弥生時代～古墳時代前期を対象にして－』埋蔵文化財研究所

註3 大分市教育委員会 2002『下郡遺跡群I』-大分市下郡地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1-

註4 大分県教育委員会 1994『植田市遺跡』-七瀬川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-

註5 第20次調査においては、20SD001出土の資料と20SE001・20SE018出土の資料が複数点、遺構間接合しており同時期に廃絶したものと考えられる。両遺構出土の遺物の様相から古墳時代前期中葉から後葉と考えられる。

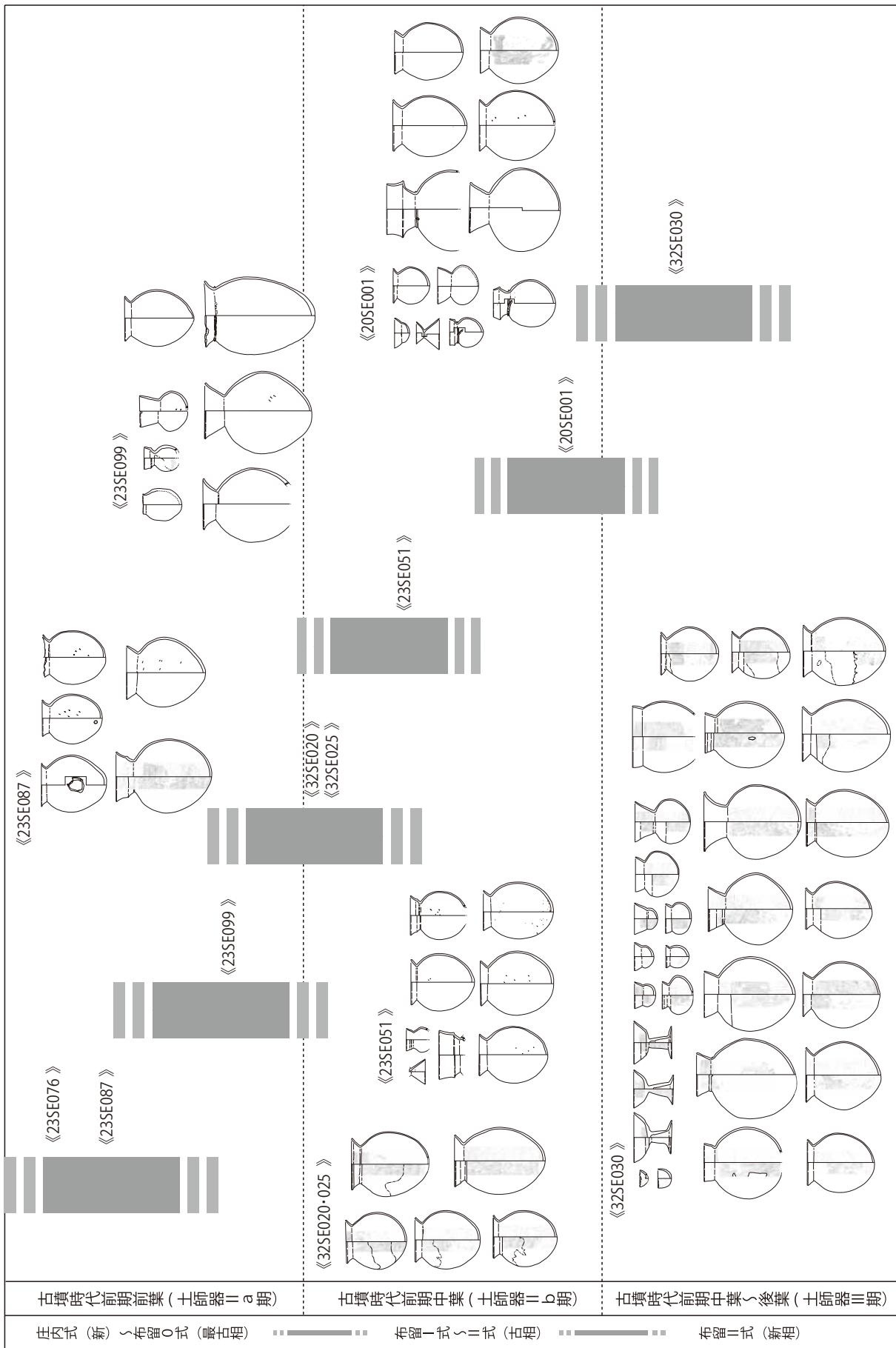
#### 参考文献

大分市教育委員会 2008『大道遺跡群1』-大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4-

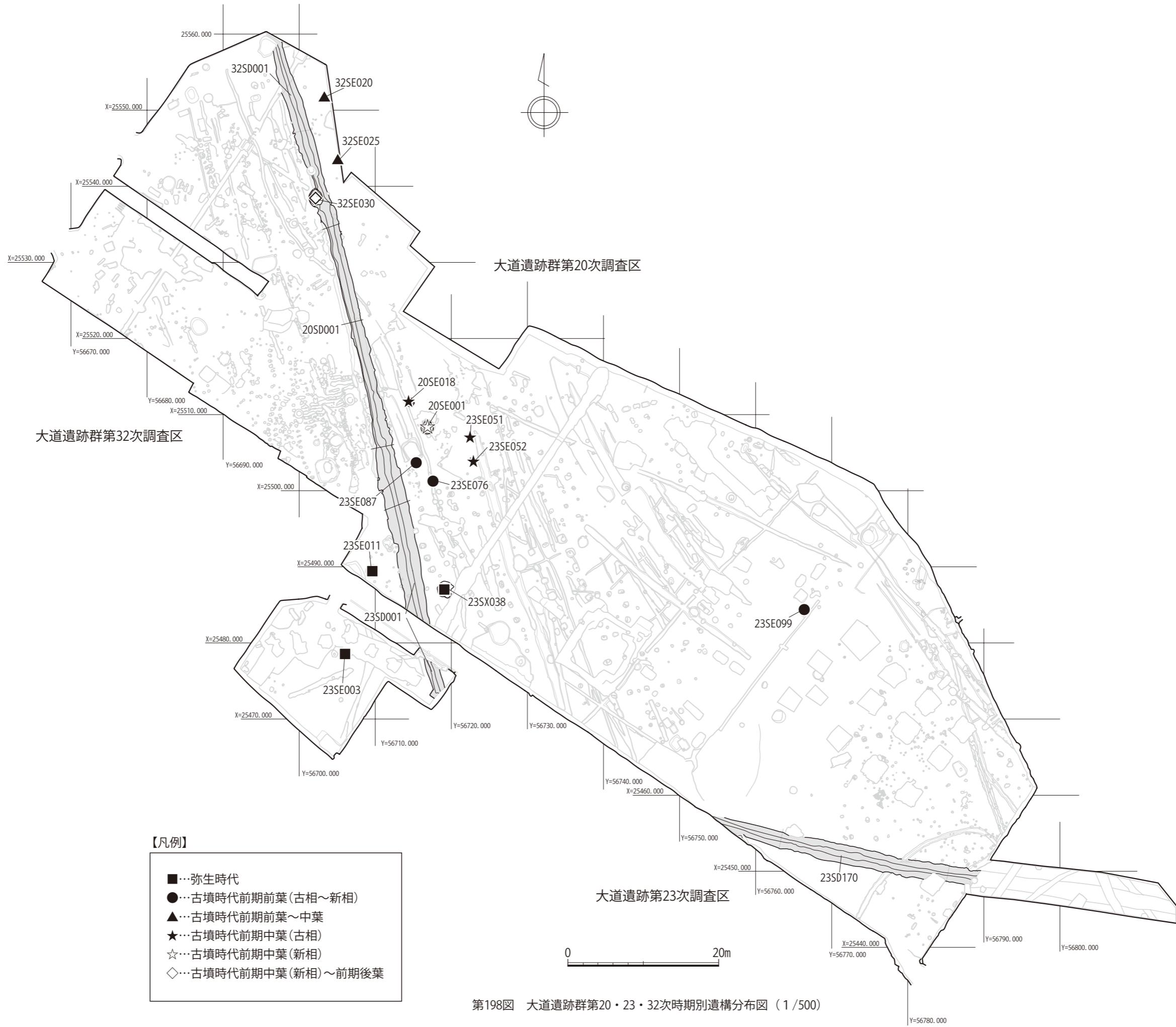
大分市教育委員会 2010『大道遺跡群3』-大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6-

大分市教育委員会 2008『下郡遺跡群VI』-大分市下郡地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6-

大分市教育委員会 2010『下郡遺跡群VII』-大分市下郡地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書8-



第197図 大道遺跡群第20・23・32次井戸状遺構時期変遷模式図



# 写真図版

写真図版 1



1. 23SE011 土層断面(南から)



2. 23SE011 遺物出土状況1(南から)



3. 23SE011 遺物出土状況2(南から)



4. 23SX038 完掘状況(南から)



5. 23SX038 遺物出土状況(南東から)



6. 23SX038 土層断面(南から)



7. 23SE003 土層断面(北から)



8. 23SE003 遺物出土状況1(北から)



1. 23SE003 遺物出土状況 2(木器近景)



2. 23SD001 検出状況(北西から)



3. 23SD001 検出作業状況 1(北西から)



4. 23SD001 検出作業状況 2(南から)



5. 23SD001 遺物出土状況 1(北から)



6. 23SD001 遺物出土状況 2(南東から)



7. 23SD001 検出作業状況 3(北西から)



8. 23SD001 完掘状況(南東から)

写真図版 3



1. 23SD001 土層断面(北西から)



2. 23SD001 遺物出土状況3(近景)



3. 23SD001 遺物出土状況4(近景)



4. 23SD001 遺物出土状況5(近景)



5. 23SD001 遺物出土状況6(猿形土製品)



6. 23SD170 拡張部検出状況(北東から)



7. 23SD170 遺物出土状況(東から)



8. 23SD170 土層断面1(北西から)



1. 23SD170 土層断面 2( 東から )



2. 23SD170 完掘状況 ( 西から )



3. 23SE052 土層断面 ( 南西から )



4. 23SE052 完掘状況 ( 西から )



5. 23SE051 土層断面 ( 南から )



6. 23SE051 完掘状況 ( 東から )



7. 23SE051 遺物出土状況 1( 南から )



8. 23SE051 遺物出土状況 2( 近景 )

写真図版 5



1. 23SE085 完掘状況(西から)



2. 23SE076 土層断面(南西から)



3. 23SE076 遺物出土状況(南西から)



4. 23SE076 完掘状況(南から)



5. 23SE087 土層断面(西から)



6. 23SE087 遺物出土状況(南東から)



7. 23SE099 遺物出土状況(北から)



8. 23SE099 土層断面(北東から)



1. 23SE183 完掘状況(西から)



2. 23SE209 完掘状況(南東から)



3. 23SE209 土層断面(南東から)



4. 20SD001 遺物出土状況1(北から)



5. 20SD001 遺物出土状況2(近景)



6. 20SD001 遺物出土状況3(東から)



7. 20SD001 遺物出土状況4(東から)



8. 20SD001 遺物出土状況5(近景)

写真図版 7



1. 20SD001 遺物出土状況 6(近景)



2. 20SD001 遺物出土状況 7(南から)



3. 20SD001 遺物出土状況 8(近景)



4. 20SD001 遺物出土状況 9(南から)



5. 20SD001 遺物出土状況 10(近景)



6. 20SD001 遺物出土状況 11(近景)



7. 20SD001 遺物出土状況 12(南から)



8. 20SD001 遺物出土状況 13(近景)



1. 20SD001 遺物出土状況 14( 近景 )



2. 20SD001 土層断面 1( 南から )



3. 20SD001 土層断面 2( 南から )



4. 20SD001 土層断面 3( 南から )



5. 20SD001 土層断面 4( 南から )



6. 20SD001 完掘状況( 東から )



7. 20SE001 土層断面( 南から )



8. 20SE001 遺物出土状況 1( 近景 )

写真図版9



1. 20SE001 遺物出土状況2(近景)



2. 20SE001 完掘状況(南から)



3. 20SE0018 土層断面(北から)



4. 20SE0018 遺物出土状況1(近景)



5. 20SE0018 遺物出土状況2(近景)



6. 20SE0018 完掘状況(西から)



7. 32SD001 遺構掘り下げ作業状況(近景)



8. 32SD001 遺構検出状況1(東から)



1. 32SD001 遺構検出状況 2( 東から )



2. 32SD001 遺構検出状況 3( 東から )



3. 32SD001 遺物出土状況( 近景 )



4. 32SD001 土層断面( 東から )



5. 32SD001 完掘状況( 西から )



6. 32SE020 遺物出土状況 1( 南から )



7. 32SE020 遺物出土状況 2( 南から )



8. 32SE020 遺物出土状況 3( 南から )

写真図版 11



1. 32SE020 完掘状況 (西から)



2. 32SE025 土層断面 (南から)



3. 32SE025 完掘状況 (北から)



4. 32SE030 検出状況 (南から)



5. 32SE030 遺物出土状況 (近景)



6. 32SE030 調査状況 (東から)



7. 32SE030 土層断面 (東から)



8. 32SE030 完掘状況 (南から)

写真図版 12 第 23 次調査出土遺物



第7図 001



第7図 002



第7図 003



第7図 004



第7図 005



第7図 006



第7図 007



第7図 008



第9図 001



第9図 002



第9図 009



第9図 010



第10図 015



第10図 016



第10図 017



第10図 018



第11図 024



第11図 026

写真図版 13 第 23 次調査出土遺物



第 12 図 033



第 13 図 043



第 13 図 045



第 13 図 046



第 14 図 047



第 17 図 001



第 17 図 002



第 18 図 010



第 18 図 011



第 19 図 015



第 19 国 016



第 19 国 017



第 19 国 018



第 19 国 019



第 19 国 020



第 23 国 005



第 23 国 006



第 23 国 008

写真図版 14 第 23 次調査出土遺物



第 23 図 010



第 23 図 011



第 23 図 012



第 23 図 015



第 23 国 016



第 23 国 017



第 23 国 021



第 23 国 022



第 23 国 023



第 23 国 024



第 23 国 026



第 23 国 027



第 23 国 028



第 23 国 032



第 23 国 033



第 24 国 034



第 24 国 035



第 24 国 039

写真図版 15 第 23 次調査出土遺物



第 24 図 040



第 24 図 041



第 24 図 042



第 24 図 043



第 24 図 046



第 24 図 049



第 24 図 050



第 25 図 054



第 25 図 055



第 25 図 057



第 25 図 084



第 27 図 100



第 27 図 101



第 27 図 103



第 27 図 110



第 27 図 112



第 27 図 114



第 27 図 115

写真図版 16 第 23 次調査出土遺物



第 27 図 116



第 27 図 118



第 27 図 119



第 27 図 120



第 27 図 124



第 28 図 127



第 28 図 128



第 28 国 132



第 28 国 133



第 28 国 135



第 28 国 138



第 28 国 142



第 29 国 143



第 29 国 148



第 30 国 151



第 30 国 152



第 30 国 155



第 31 国 157

写真図版 17 第 23 次調査出土遺物



第31図 159



第31図 161



第31図 162



第31図 164



第31図 165



第31図 166



第31図 168



第31図 169



第31図 171



第31図 174



第31図 175



第31図 177



第31図 178



第31図 179



第31図 181



第31図 182



第31図 183



第31図 184

写真図版 18 第 23 次調査出土遺物



第32図 187



第32図 189



第32図 195



第32図 196



第32図 197



第32図 198



第32図 199



第32図 203



第33図 204



第33図 206



第34図 211



第34図 212



第35図 214



第35図 215



第35図 216



第35図 218



第36図 220



第36図 221

写真図版 19 第 23 次調査出土遺物



第37図 229



第38図 231



第38図 232



第38図 236



第39図 237



第39図 239



第39図 240



第39図 241



第41図 244



第41図 245



第41図 246



第41図 247



第42図 250



第42図 252



第43図 256



第43図 258



第46図 271



第46図 273

写真図版 20 第 23 次調査出土遺物



第 46 図 279



第 47 図 282



第 47 図 289



第 47 図 291



第 48 図 296



第 48 図 298



第 48 図 299



第 48 国 302



第 49 国 305



第 49 国 310



第 50 国 313



第 50 国 315



第 50 国 320



第 50 国 321



第 51 国 324



第 51 国 328



第 51 国 329



第 52 国 333

写真図版 21 第 23 次調査出土遺物



第 54 図 355



第 54 図 357



第 54 図 359



第 54 図 361



第 54 図 362



第 56 図 371



第 56 国 372



第 56 国 373



第 56 国 374



第 56 国 377



第 57 国 387



第 57 国 390



第 57 国 391



第 57 国 393



第 61 国 001



第 61 国 005



第 61 国 007



第 61 国 008



写真図版 23 第 23 次調査出土遺物



第 65 図 068



第 65 図 070



第 65 図 072



第 65 図 073



第 66 図 081



第 67 図 086



第 67 図 088



第 68 国 090



第 68 国 097



第 68 国 099



第 68 国 104



第 68 国 105



第 68 国 107



第 68 国 108



第 68 国 111



第 69 国 114



第 69 国 115



第 70 国 119

写真図版 24 第 23 次調査出土遺物



第 71 図 123



第 72 図 130



第 73 図 133



第 73 図 134



第 73 図 135



第 73 図 136



第 74 図 140



第 74 図 141



第 74 図 143



第 74 図 146



第 76 図 150



第 76 図 151



第 76 図 152



第 76 図 156



第 76 図 153



第 77 図 167



第 79 図 180



第 80 図 192

写真図版 25 第 23 次調査出土遺物



第 80 図 193



第 81 図 194



第 81 図 198



第 81 図 199



第 81 図 201



第 82 図 204



第 82 図 214



第 83 図 217



第 83 図 220



第 83 図 221



第 83 図 222



第 83 図 223



第 84 図 233



第 84 図 248



第 88 図 003



第 88 図 004



第 88 図 005



第 88 図 006

写真図版 26 第 23 次調査出土遺物



第 88 図 007



第 88 図 008



第 87 図 001



第 87 図 002



第 90 図 001



第 90 図 002



第 90 図 003



第 90 図 004



第 93 図 001



第 93 図 002



第 93 図 003



第 93 図 004



第 93 図 005



第 95 図 001



第 95 図 002



第 95 図 003



第 95 図 004



第 95 図 006

写真図版 27 第 23・20 次調査出土遺物



第 95 図 007



第 101 図 001



第 101 図 004



第 101 図 006



第 101 図 007



第 101 図 008



第 101 図 015



第 101 国 016



第 101 国 017



第 101 国 022



第 101 国 024



第 101 国 026



第 101 国 027



第 102 国 030



第 102 国 031



第 102 国 032



第 102 国 034



第 102 国 037

写真図版 28 第 20 次調査出土遺物



第 102 図 038



第 102 図 039



第 102 図 041



第 102 図 043



第 102 図 044



第 103 図 045



第 103 国 046



第 103 国 047



第 103 国 048



第 105 国 088



第 105 国 111



第 105 国 112



第 105 国 116



第 105 国 120



第 105 国 125



第 105 国 130



第 106 国 131



第 106 国 136

写真図版 29 第 20 次調査出土遺物



第 106 図 137



第 106 図 138



第 106 図 151



第 106 図 153



第 108 図 168



第 108 図 169



第 109 図 173



第 111 図 190



第 111 図 192



第 111 図 196



第 111 国 197



第 111 国 215



第 111 国 222



第 112 国 223



第 112 国 231



第 112 国 232



第 112 国 239



第 112 国 241

写真図版 30 第 20 次調査出土遺物



第 112 図 243



第 113 図 249



第 114 図 259



第 114 図 260



第 115 図 268



第 115 図 269



第 116 図 271



第 117 国 276



第 117 国 282



第 118 国 283



第 120 国 289



第 120 国 291



第 122 国 299



第 123 国 303



第 124 国 309



第 124 国 310



第 124 国 311



第 128 国 336

写真図版 31 第 20 次調査出土遺物



第 129 図 344



第 130 図 346



第 130 図 347



第 134 図 373



第 134 図 375



第 134 図 376



第 135 図 381



第 136 図 394



第 137 図 403



第 138 図 420



第 139 図 434



第 139 図 435



第 140 図 437



第 140 国 440



第 142 国 459



第 143 国 464



第 145 国 486



第 146 国 501

写真図版 32 第 20 次調査出土遺物



第 147 図 509



第 148 図 510



第 150 図 528



第 150 図 529



第 151 図 549



第 151 図 550



第 151 図 555



第 151 図 559



第 153 図 606



第 156 図 003



第 156 図 004



第 156 図 006



第 156 図 007



第 156 図 009



第 156 図 010



第 156 図 011



第 156 図 012



第 156 図 013

写真図版 33 第 20・32 調査出土遺物



第 157 図 017



第 157 図 018



第 157 図 020



第 157 図 021



第 157 図 025



第 158 図 028



第 160 図 001



第 160 国 002



第 160 国 003



第 160 国 004



第 163 国 001



第 163 国 002



第 163 国 003



第 163 国 005



第 163 国 006



第 163 国 007



第 163 国 008



第 163 国 009

写真図版 34 第 32 次調査出土遺物



第 163 図 013



第 163 図 015



第 163 図 017



第 163 図 018



第 163 国 019



第 163 国 020



第 163 国 022



第 163 国 024



第 164 国 025



第 164 国 028



第 164 国 031



第 164 国 032



第 164 国 033



第 164 国 034



第 164 国 035



第 164 国 036



第 164 国 037



第 165 国 038

写真図版 35 第 32 次調査出土遺物



第 165 図 039



第 165 図 040



第 165 図 041



第 165 図 042



第 165 図 043



第 165 図 046



第 165 図 047



第 165 図 048



第 165 図 049



第 165 図 053



第 166 図 054



第 166 図 055



第 166 図 056



第 167 図 057



第 167 図 059



第 167 図 060



第 168 図 061



第 168 図 062

写真図版 36 第 32 次調査出土遺物



第 168 図 063



第 168 図 065



第 169 図 066



第 169 図 068



第 169 図 069



第 169 図 070



第 169 図 071



第 169 図 072



第 170 図 073



第 170 図 074



第 170 図 075



第 171 図 076



第 171 図 077



第 171 図 078



第 171 図 080



第 171 図 081



第 172 図 083



第 172 図 084

写真図版 37 第 32 次調査出土遺物



第 172 図 085



第 172 図 086



第 172 図 087



第 172 図 088



第 172 図 089



第 173 図 090



第 173 図 094



第 173 国 096



第 173 国 097



第 174 国 102



第 174 国 103



第 174 国 104



第 174 国 105



第 174 国 106



第 174 国 107



第 175 国 108



第 175 国 110



第 175 国 111

写真図版 38 第 32 次調査出土遺物



第 175 図 112



第 175 図 114



第 175 図 117



第 175 図 118



第 176 図 123



第 176 図 124



第 176 図 125



第 180 図 001



第 180 図 002



第 181 図 003



第 181 図 004



第 181 図 005



第 181 図 006



第 181 図 007



第 181 図 009



第 181 図 010



第 182 図 012



第 182 図 014

写真図版 39 第 32 次調査出土遺物



第 182 図 016



第 182 図 017



第 182 図 018



第 182 図 019



第 183 図 001



第 183 図 002



第 183 図 003



第 183 国 004



第 183 国 005



第 183 国 011



第 183 国 013



第 183 国 014



第 183 国 015



第 183 国 016



第 183 国 018



第 183 国 019



第 183 国 020



第 183 国 022

写真図版 40 第 32 次調査出土遺物



第 184 図 023



第 184 図 024



第 184 図 025



第 184 図 026



第 184 図 027



第 185 図 028



第 185 図 029



第 185 図 033



第 185 図 034



第 185 図 035



第 185 図 036



第 185 図 037



第 186 図 038



第 186 図 040



第 186 図 041



第 186 図 042



第 186 図 043



第 191 図 002

写真図版 41 第 20・23・32 次調査出土遺物



第 191 図 005



第 191 図 006



第 191 図 007



第 191 図 008



第 191 国 009



第 191 国 010



第 191 国 011



第 191 国 012



第 191 国 013



第 191 国 014



第 191 国 015



第 191 国 016



第 194 国 001



第 194 国 001



第 195 国 001



未掲載 (23SD001-R940)



未掲載 (23SD001-R941)



未掲載 (23SD170-R939)

## 報告書抄録

ふりがな	おおみちいせきぐん
書名	大道遺跡群 4
副書名	大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 7
巻次	
シリーズ名	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第 106 集
執筆者名	井口あけみ 河野史郎 木村藍子 倉増美智代 佐藤孝則 佐藤良子 稔田智美
編集機関	大分市教育委員会
所在地	〒 870-8504 大分市荷揚町 2 番 31 号 TEL097 (534)6111
発行年月日	西暦 2011 年 3 月 15 日

ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″	m <sup>2</sup>		
おおみちいせきぐん 大道遺跡群第 20 次調査	おおいたしひがしおおみち 大分市東大道 1 丁目 2512-1 他	44201	201325	33° 13' 43"	131° 36' 30"	20071209 ～ 20080328	1389	区画整理事業
大道遺跡群第 23 次調査	おおいたしかないけみなみ 大分市金池南 1 丁目 2511-4 他	44201	201325	33° 13' 41"	131° 36' 32"	20080724 ～ 20081201	4152	区画整理事業
大道遺跡群第 32 次調査	おおいたしひがしおおみち 大分市東大道 1 丁目 2512-1 他	44201	201325	33° 13' 43"	131° 36' 29"	20101013 ～ 20101203	954	区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大道遺跡群第 20 次調査	集落跡	古墳時代	環濠遺構 井戸跡	土師器	環濠遺構と井戸跡の検出
大道遺跡群第 23 次調査	集落跡	古墳時代・古代	環濠遺構 井戸跡 掘立柱建物跡	土師器	環濠遺構と井戸跡の検出 古代の掘立柱建物跡群の検出
大道遺跡群第 32 次調査	集落跡	古墳時代	環濠遺構 井戸跡	土師器	環濠遺構と切り合い関係のある井戸跡の存在

### 要約

東から第 23 次、20 次、32 次とそれぞれ隣接する位置関係にある全ての調査区にまたがる形で検出された古墳時代前期の環濠遺構が、JR 大分駅構内を中心とする環濠集落を想定した一連の環濠遺構 (23SD001・23SD170・20SD001・32SD001) として捉えられる。環濠内からは多量の土器が出土し、これらはこれまで大分平野において検出事例の少なかった古墳時代前期中頃を中心とするものであり、当該期の土器様相把握に際し、良好な資料を提供した。また猿形土製品や土製模造鏡、製塩土器の出土等も注目される。

## 大道遺跡群 4

大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 7

平成 23 年 3 月 15 日

発行 大分市教育委員会  
〒 870-8504 大分市荷揚町 2 番 31 号